

関根細ヶ沢遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

— 第 1 分冊 —

2015.3

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

関根細ヶ沢遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

第1分冊 二〇一五・三

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



関根細ヶ沢遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

— 第 1 分冊 —

2015.3

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上武道路は、一般国道17号が一級国道17号線と呼ばれた昭和30年代初めにバイパス線として計画され、昭和45年に着工されました。その上武道路建設工事も平成28年度的全線開通に向けて、いよいよ佳境を迎えております。そして本報告書に報告する関根細ヶ沢遺跡は、上武道路第8工区のうち終点側未開通区間の一画を占めております。

関根細ヶ沢遺跡は赤城山南麓に発する細ヶ沢川が、利根川沿いの沖積地を通過する、その左岸に位置しています。平成24年8月から翌25年3月にかけて実施された発掘調査では、6世紀の水田、平安時代の集落、中世以降の畑地など、多くの遺構を確認し、出土遺物を取り上げました。特に10世紀中・後葉の時期を中心とした集落は西側に隣接する関根赤城遺跡、田口下田尻遺跡、田口上田尻遺跡と一体となる拠点集落になるもので、そこでは製鉄や鉄製品の加工まで行われていることが確認されました。しかしその集落も11世紀に入って衰退、消滅し、亡弊の国と呼ばれた当時の関東の姿を現しております。

此の度、発掘調査成果をまとめ、埋蔵文化財発掘調査報告書として上梓することとなりました。発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力を賜りました国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課、地元関係者各位に感謝申し上げます。そして本報告書が今後地域の歴史をひもとくうえで広く活用されますことを願い、序とします。

平成27年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 吉 野 勉

例 言

- 1 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財調査(その3)に伴い発掘調査された関根細ヶ沢(せきねこまがさわ)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 関根細ヶ沢遺跡は、群馬県前橋市関根町108-1・109・110・141-1・141-2・143・144-1・144-3・145-2・145-4・146・147-1・147-3・148-1・153-1番地に所在する。
- 3 事業主体は国土交通省関東地方整備局である。
- 4 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 5 発掘調査の期間と体制は次の通りである。
調査期間 平成24年8月1日～平成25年3月31日(調査履行期間;平成24年4月1日～平成25年3月31日)
発掘調査担当者 久保 学(主任調査研究員)、相京建史(専門調査役)
遺跡掘削請負工事 技研測量設計株式会社
委託 地上測量・航空写真撮影:技研測量設計株式会社
土器洗浄・注記作業:株式会社歴史の杜・スナガ環境測設株式会社
- 6 整理事業の期間と体制は次の通りである。
整理期間 平成25年4月1日～平成26年7月31日(整理履行期間;平成25年4月1日～平成27年3月31日)
整理担当 関 晴彦(専門調査役、平成25年度)、石守 晃(上席専門員、平成26年度)
- 7 本書作成の担当者は次の通りである。
編 集 関 晴彦、石守 晃
本文執筆 第1章第1～3節は小島敦子が執筆し、第1節と第3節は石守晃が加筆した。第4章第2・3・4・6節と第5節の一部を関晴彦、第5章第1節はパリノ・サーヴェイ株式会社(高橋敦)、第2節は宮崎重雄、第3節は日鉄住金テクノロジー株式会社(大澤正己・鈴木瑞穂)が執筆し、その他本文は石守が主に執筆した。
デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
遺物観察 石器・石製品:岩崎泰一(資料統括)・石田典子(主任調査研究員) 土師器・須恵器:徳江秀夫(資料統括、資料2課長) 中近世陶磁器・土器:大西雅広(上席専門員) 金属製品・製鉄遺物・炭化物:関邦一(補佐(総括))
遺物写真撮影 岩崎泰一・大西雅広・関 邦一・石田典子・関 晴彦・石守 晃
保存処理 関 邦一
- 8 石材鑑定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
- 9 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 10 発掘調査及び本書作成に当たり諸氏、機関よりご協力、ご指導を得た。記して感謝の意を表します。(五十音順・敬称略)
国土交通省関東地方整備局、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会文化財保護課、前橋市関根町自治会、笹澤泰史

凡 例

- 1 関根細ヶ沢遺跡の遺構平面図は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向は $+0^{\circ}27'42.55''$ である。
- 2 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示している。
- 3 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。
- 4 遺構平面図の縮尺はそれぞれの図に記した他は、以下の通りである。
竪穴住居 1:60、カマド 1:30、溝 1:100、墓坑 1:20、土坑・ピット・畚 1:80
遺構断面図の縮尺は、竪穴住居・炉・カマド、土坑、ピットは平面図に同じ。
- 5 遺物図の縮尺は以下の通りである。
土器 1:4、石器・石製品 1:1 1:2 1:3 1:4 1:6、鉄製品 1:2、土製品 1:2 1:3
- 6 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
- 7 図中で使用したスクリーンパターンやマークは、以下のことを表す。

	焼土		緑釉		須恵器・灰釉陶器・その他付着物
	炭化物		鉄滓(ガラス質)		硯(平滑面)
	灰		鉄滓(磁着)		硯(墨痕)
	黒色土器		羽口(ガラス質)		礫(鉄錆)
	灰釉		羽口(磁着)		
- 8 本書では必要に応じて、浅間山C軽石(As-C)、榛名二ツ岳渋川火山灰(Hr-FA)、榛名二ツ岳渋川軽石(Hr-FP)などの主要テフラを表記した。
- 9 遺構の面積は、デジタルプランメーターで計測した。
- 10 土層や土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 11 本書で使用した各地図は、以下のとおりである。
第1図 国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」平成18年発行
第2図 「首都圏整備」(1958)に加筆転載
第3図 国土地理院5万分の1地勢図「前橋」平成10年発行
第5図 2万分の1陸軍迅速図明治18年「金子驛」「前橋」に加筆
第6・8図 国土地理院2万5千分の1地勢図「前橋」平成22年発行「渋川」平成14年発行
- 12 下記の遺物名称の表記を、本書に於いては以下のように統一する。
①「ツキ」は、「坏」を使用せず「杯」に統一する。
②「ワン」は、白磁と中世以降の陶磁器は「碗」に統一し、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器等は、「碗」、「埴」を使用せず、「椀」に統一する。

目 次

序
例言
凡例

第1章 調査に至る経過	1
第1節 上武道路について	1
第2節 上武道路と埋蔵文化財	2
第3節 調査に至る経過	4
第2章 立地と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8
第3章 調査の方法と経過	11
第1節 調査の方法	11
第2節 基本土層	12
第3節 調査の経過	15
第4章 検出された遺構と遺物	17
第1節 調査の概要	17
第2節 1区の遺構と遺物	21
第3節 2区の遺構と遺物	60
第4節 3区の遺構と遺物	107
第5節 4区の遺構と遺物	119
第6節 5区の遺構と遺物	404
第7節 縄文時代の遺物	436
第5章 自然科学分析	529
第1節 出土炭化材の樹種同定	529
第2節 獣歯骨鑑定	533
第3節 出土製鉄・鍛冶関連遺物の分析調査	536
第6章 終章	543
報告書抄録	
(第2分冊)	
遺構計測表	569
遺物観察表	562
写真図版	

挿図目次

第1図	上武道路と道跡の位置	1	第63図	2区2面3～5整穴	92
第2図	一般国道17号線バイパス計画路線概要図	2	第64図	2区2面溝分布図、2・10溝	93
第3図	上武道路8区1区の道跡	3	第65図	2区2面3溝	94
第4図	試掘調査	5	第66図	2区2面土坑・ビット1	95
第5図	隈根細々沢道跡周辺の地形と地質	6	第67図	2区2面土坑・ビット2	96
第6図	隈根細々沢道跡周辺の道跡分布図	6	第68図	2区2面土坑・ビット3	97
第7図	調査区配置図	12	第69図	2区2面土坑4	98
第8図	上武道路調査測量グリッド設定図	13	第70図	2区下層確認トレンチ	99
第9図	各区の標準的土層群	14	第71図	2区2面1～4住居出土遺物	100
第10図	1～3面の遺構分布図	18	第72図	2区2面5～7住居出土遺物	101
第11図	1区1面全体図、21溝	32	第73図	2区2面8・9住居出土遺物	102
第12図	1区1面群具痕	33	第74図	2区2面10・13・14住居出土遺物	103
第13図	1区1面土坑	33	第75図	2区2面15住居、1・3・4整穴出土遺物	104
第14図	1区2面全体図	34	第76図	2区1面1溝、2面2・3溝	105
第15図	1区2面17～19住居重複状況、17住居	35	第77図	2区2面土坑・ビット、道溝外出土遺物	106
第16図	1区2面18住居	36	第78図	3区2面全体図	111
第17図	1区2面19住居	37	第79図	3区2面11住居	112
第18図	1区2面20住居	38	第80図	3区2面12住居	113
第19図	1区2面22・23住居	39	第81図	3区2面溝分布図、4・5溝	114
第20図	1区2面24住居	40	第82図	3区2面6～9溝	115
第21図	1区2面25住居	41	第83図	3区2面土坑・ビット分布図、土坑・ビット	116
第22図	1区2面98住居	42	第84図	3区2面東壁・南壁土層	117
第23図	1区2面99住居	42	第85図	3区2面11・12住居、4・5・8溝、土坑・ビット出土遺物	118
第24図	1区2面100住居	43	第86図	4区1面全体図	183
第25図	1区2面6整穴	44	第87図	4区1面1・4河道、1列石、分布図	184
第26図	1区2面1墓坑	45	第88図	4区1面1列石	185
第27図	1区2面溝分布図、26溝	46	第89図	4区1面溝分布図、11・12溝	186
第28図	1区2面27溝	47	第90図	4区1面13～15溝	187
第29図	1区2面30・35・40溝	48	第91図	4区1面17～20・21・22・27溝	188
第30図	1区2面41溝	49	第92図	4区1面高分布図、2～4サク	189
第31図	1区2面製鉄関連遺構(1線上、47・208土坑)	50	第93図	4区1面1・5・7・12分穴	190
第32図	1区2面土坑・ビット分布図、土坑・ビット1	51	第94図	4区1面群具痕分布図	191
第33図	1区2面土坑・ビット2	52	第95図	4区1面1～3群具痕、部分図1	192
第34図	1区下層確認トレンチ	53	第96図	4区1面部分図2	193
第35図	1区2面17～20住居出土遺物	54	第97図	4区1面部分図3	194
第36図	1区2面22～25住居出土遺物	55	第98図	4区1面部分図4・5	195
第37図	1区2面98～100住居、6整穴、1墓坑、26溝出土遺物	56	第99図	4区1面部分図6	196
第38図	1区2面27・40溝、1線上、47土坑出土遺物	57	第100図	4区1面部分図7	197
第39図	1区2面土坑出土遺物	58	第101図	4区1面部分図8	198
第40図	1区遺構外出土遺物	59	第102図	4区1面部分図9	199
第41図	2区1面全体図、2河道	73	第103図	4区1面部分図10・11	200
第42図	2区1面1溝、群具痕	74	第104図	4区1面土坑5・ビット分布図	201
第43図	2区2面全体図	75	第105図	4区1面土坑・ビット1	202
第44図	2区2面1住居	76	第106図	4区1面土坑・ビット2	203
第45図	2区2面2住居	77	第107図	4区1面土坑3	204
第46図	2区2面3住居1	78	第108図	4区1面土坑4、ビット3	205
第47図	2区2面3住居2	79	第109図	4区1面土坑5	206
第48図	2区2面4住居	80	第110図	4区1面ビット4	207
第49図	2区2面5住居	81	第111図	4区1面ビット5	208
第50図	2区2面6住居	82	第112図	4区2面全体図	209
第51図	2区2面7住居	83	第113図	4区2面21住居	210
第52図	2区2面8住居1	84	第114図	4区2面26住居	211
第53図	2区2面8住居2	85	第115図	4区2面27住居1	212
第54図	2区2面9住居1	85	第116図	4区2面27住居2	213
第55図	2区2面9住居2	86	第117図	4区2面28住居1	214
第56図	2区2面10住居1	87	第118図	4区2面28住居2	215
第57図	2区2面10住居2	88	第119図	4区2面29住居1	216
第58図	2区2面13住居	88	第120図	4区2面29住居2	217
第59図	2区2面14住居1	89	第121図	4区2面30住居	218
第60図	2区2面14住居2	90	第122図	4区2面31住居	219
第61図	2区2面15住居	90	第123図	4区2面32住居	220
第62図	2区2面整穴分布図、1・2整穴	91	第124図	4区2面33住居1	221

第125席	4区2面33住居2	222	第191席	4区2面85住居1	280
第126席	4区2面34住居	223	第192席	4区2面85住居2	281
第127席	4区2面35住居	224	第193席	4区2面87住居1	282
第128席	4区2面36住居	225	第194席	4区2面87住居2	283
第129席	4区2面37住居	226	第195席	4区2面89住居	284
第130席	4区2面38・39住居	227	第196席	4区2面90住居	285
第131席	4区2面38住居	228	第197席	4区2面91住居	286
第132席	4区2面40住居1	228	第198席	4区2面139住居1	287
第133席	4区2面40住居2	229	第199席	4区2面139住居2	288
第134席	4区2面41住居	230	第200席	4区2面140住居	289
第135席	4区2面42住居1	231	第201席	4区2面141住居	290
第136席	4区2面42住居2	232	第202席	4区2面142住居	291
第137席	4区2面43住居1	232	第203席	4区2面143住居1	292
第138席	4区2面43住居2	233	第204席	4区2面143住居2	293
第139席	4区2面44住居1	234	第205席	4区2面143住居3	294
第140席	4区2面44住居2	235	第206席	4区2面153住居	294
第141席	4区2面45住居1	235	第207席	4区2面144住居1	295
第142席	4区2面45住居2	236	第208席	4区2面144住居2	296
第143席	4区2面46住居	237	第209席	4区2面145住居	297
第144席	4区2面47住居	238	第210席	4区2面147住居	297
第145席	4区2面48・49住居	239	第211席	4区2面146住居	298
第146席	4区2面50住居1	240	第212席	4区2面148住居	299
第147席	4区2面50住居2	241	第213席	4区2面149住居	300
第148席	4区2面156住居	241	第214席	4区2面150住居1	301
第149席	4区2面51住居	242	第215席	4区2面150住居2	302
第150席	4区2面52住居1	243	第216席	4区2面151住居1	302
第151席	4区2面52住居2	244	第217席	4区2面151住居2	303
第152席	4区2面53住居	244	第218席	4区2面152住居	304
第153席	4区2面54住居1	245	第219席	4区2面154住居	305
第154席	4区2面54住居2	246	第220席	4区2面155住居	306
第155席	4区2面55住居	247	第221席	4区2面56穴分佈図	307
第156席	4区2面56住居	248	第222席	4区2面7・9等穴	308
第157席	4区2面57住居	249	第223席	4区2面10・11等穴	309
第158席	4区2面58住居1	250	第224席	4区2面12・13等穴	310
第159席	4区2面58住居2	251	第225席	4区2面溝分佈図、16溝	311
第160席	4区2面59・68～70住居1	252	第226席	4区2面26・27溝	312
第161席	4区2面59・68～70住居2	253	第227席	4区2面25・42溝	313
第162席	4区2面59住居	254	第228席	4区2面30・43・44溝	314
第163席	4区2面60住居	254	第229席	4区2面23・29溝	315
第164席	4区2面68住居	255	第230席	4区2面45溝	316
第165席	4区2面69住居	256	第231席	4区2面21・38溝・b	317
第166席	4区2面61住居	257	第232席	4区2面28溝	318
第167席	4区2面64住居	257	第233席	4区2面36溝	319
第168席	4区2面62住居	258	第234席	4区2面製鉄関連遺構分佈図	320
第169席	4区2面63住居	259	第235席	4区2面1～3製鉄炉と重構する遺構	321
第170席	4区2面65住居	260	第236席	4区2面1製鉄炉1	322
第171席	4区2面66住居	261	第237席	4区2面1製鉄炉2	323
第172席	4区2面67住居	262	第238席	4区2面1製鉄炉3	324
第173席	4区2面71住居	263	第239席	4区2面1製鉄炉4出土遺物重量分佈図1	325
第174席	4区2面72住居	264	第240席	4区2面1製鉄炉4出土遺物重量分佈図2	326
第175席	4区2面73住居1	265	第241席	4区2面2製鉄炉1	327
第176席	4区2面73住居2	266	第242席	4区2面2製鉄炉2	328
第177席	4区2面74住居	267	第243席	4区2面2製鉄炉3	329
第178席	4区2面75住居	268	第244席	4区2面2製鉄炉4出土遺物重量分佈図	330
第179席	4区2面76住居	269	第245席	4区2面3製鉄炉1	331
第180席	4区2面77住居1	270	第246席	4区2面3製鉄炉2	332
第181席	4区2面77住居2	271	第247席	4区2面3製鉄炉4出土遺物重量分佈図	333
第182席	4区2面77住居3	272	第248席	4区2面1鍛冶工房1	334
第183席	4区2面78住居1	273	第249席	4区2面1鍛冶工房2	335
第184席	4区2面78住居2	274	第250席	4区2面1鍛冶工房出土遺物重量分佈図(粒状の滓)1	336
第185席	4区2面80住居	274	第251席	4区2面1鍛冶工房出土遺物重量分佈図(粒状の滓)2	337
第186席	4区2面79住居	275	第252席	4区2面1鍛冶工房出土遺物重量分佈図(鍛造割片)1	338
第187席	4区2面81住居	276	第253席	4区2面1鍛冶工房出土遺物重量分佈図(鍛造割片)2	339
第188席	4区2面82住居	277	第254席	4区2面製鉄関連遺構(383土坑)	340
第189席	4区2面83住居	278	第255席	4区2面製鉄関連遺物出土遺構一覽、分佈図	341
第190席	4区2面84住居	279	第256席	4区2面製鉄関連遺構構成図1	342

第257図	4区2面製鉄関連道構成員図2、分布図	343
第258図	4区2面高分布図、18區	344
第259図	4区2面上土・ビッド分布図	345
第260図	4区2面上土・ビッド1	346
第261図	4区2面上土2	347
第262図	4区2面上土3	348
第263図	4区2面上土4、ビッド2	349
第264図	4区2面上土5	350
第265図	4区2面上土6	351
第266図	4区2面上土7	352
第267図	4区3面全体図	353
第268図	4区3面46~48溝・水田1	354
第269図	4区3面46~48溝・水田2、地割れ	355
第270図	4区3面1集石1	357
第271図	4区3面1集石2	358
第272図	4区3面443・444上土	358
第273図	4区2面21・26住居出土遺物	359
第274図	4区2面27・28住居出土遺物	360
第275図	4区2面29・30・32~34住居出土遺物	361
第276図	4区2面31・35・36住居出土遺物	362
第277図	4区2面37・40住居出土遺物	363
第278図	4区2面38住居出土遺物	364
第279図	4区2面41~44住居出土遺物	365
第280図	4区2面45~47住居出土遺物	366
第281図	4区2面48~50住居出土遺物	367
第282図	4区2面51~53・56住居出土遺物	368
第283図	4区2面54・55住居出土遺物	369
第284図	4区2面57~59・68~70住居出土遺物	370
第285図	4区2面60住居出土遺物	371
第286図	4区2面61・63住居出土遺物	372
第287図	4区2面62・64・65住居出土遺物	373
第288図	4区2面66・67・71住居出土遺物	374
第289図	4区2面72・75住居出土遺物	375
第290図	4区2面73・74・76住居出土遺物	376
第291図	4区2面77・78住居出土遺物	377
第292図	4区2面79・81~83住居出土遺物	378
第293図	4区2面84・85住居出土遺物	379
第294図	4区2面87住居出土遺物1	380
第295図	4区2面87住居出土遺物2	381
第296図	4区2面89~91住居出土遺物	382
第297図	4区2面139・140住居出土遺物	383
第298図	4区2面141・142住居出土遺物	384
第299図	4区2面143住居出土遺物1	385
第300図	4区2面143住居出土遺物2、144住居出土遺物	386
第301図	4区2面145・146・148・149住居出土遺物	387
第302図	4区2面150~153住居出土遺物	388
第303図	4区2面154・155住居、7型穴出土遺物	389
第304図	4区2面10・11型穴出土遺物、12型穴出土遺物1	390
第305図	4区2面12型穴出土遺物2、13型穴出土遺物	391
第306図	4区1面14・21溝a、2面16・23・26溝出土遺物	392
第307図	4区2面27・29・39・42・45溝出土遺物	393
第308図	4区2面1製鉄炉出土遺物1	394
第309図	4区2面1製鉄炉出土遺物2	395
第310図	4区2面2製鉄炉出土遺物1	396
第311図	4区2面2製鉄炉出土遺物2、3製鉄炉出土遺物	397
第312図	4区2面1鍛冶工房出土遺物、 鍛冶関連道構(383上土)出土遺物	398
第313図	4区1・2面上土・ビッド出土遺物1	399
第314図	4区2面上土出土遺物2	400
第315図	4区2面上土出土遺物3	401
第316図	4区3面444上土・水田・1河道、道構外出土遺物1	402
第317図	4区道構外出土遺物2	403
第318図	5区1面全体図	407
第319図	5区1面溝分布図、31溝	438
第320図	5区1面32・33溝	439
第321図	5区1面高分布図	440

第322図	5区1面8溝	441
第323図	5区1面9~11溝	442
第324図	5区1面耕具痕分布図	443
第325図	5区1面耕具痕	444
第326図	5区1面上土・ビッド1	445
第327図	5区1面上土・ビッド2	446
第328図	5区1面3河道	446
第329図	5区2面全体図	447
第330図	5区2面住居分布図	448
第331図	5区2面93住居	449
第332図	5区2面94住居	450
第333図	5区2面95住居	450
第334図	5区2面97住居	451
第335図	5区2面101住居	452
第336図	5区2面102住居	452
第337図	5区2面103住居	453
第338図	5区2面104住居	454
第339図	5区2面105住居	455
第340図	5区2面106住居1	455
第341図	5区2面106住居2	456
第342図	5区2面107住居1	457
第343図	5区2面107住居2	458
第344図	5区2面109住居1	459
第345図	5区2面109住居2	460
第346図	5区2面110住居	461
第347図	5区2面111住居1	461
第348図	5区2面111住居2	462
第349図	5区2面112住居1	463
第350図	5区2面112住居2	464
第351図	5区2面113住居1	465
第352図	5区2面113住居2	466
第353図	5区2面114住居	467
第354図	5区2面115住居	468
第355図	5区2面116住居	468
第356図	5区2面117住居	468
第357図	5区2面118住居1	469
第358図	5区2面118住居2	470
第359図	5区2面119住居	471
第360図	5区2面120住居	472
第361図	5区2面121住居1	473
第362図	5区2面121住居2	474
第363図	5区2面121住居3	475
第364図	5区2面122住居1	476
第365図	5区2面122住居2	477
第366図	5区2面124住居1	478
第367図	5区2面124住居2	479
第368図	5区2面125住居	480
第369図	5区2面126住居	481
第370図	5区2面127住居	482
第371図	5区2面128住居1	483
第372図	5区2面128住居2	484
第373図	5区2面129住居	485
第374図	5区2面130住居	486
第375図	5区2面131住居	487
第376図	5区2面132住居	488
第377図	5区2面133住居	489
第378図	5区2面134住居	490
第379図	5区2面135住居1	491
第380図	5区2面135住居2	492
第381図	5区2面136住居1	493
第382図	5区2面136住居2	494
第383図	5区2面137住居	495
第384図	5区2面138住居	496
第385図	5区2面8型穴	497
第386図	5区2面34溝、36溝a・b	498
第387図	5区2面13~17區	499

第388図	5区2面土坑・ビット分布図	500
第389図	5区2面土坑1	501
第390図	5区2面土坑2、ビット1	502
第391図	5区2面土坑3、ビット2	503
第392図	5区2面土坑4、ビット3	504
第393図	5区2面土坑5	505
第394図	5区2面土坑6、ビット4	506
第395図	5区2面土坑7、ビット5	507
第396図	5区2面土坑8、ビット6	508
第397図	5区2面土坑9、ビット7	509
第398図	5区3面全体図	510
第399図	5区3面溝、南西部谷地、北部落ち込み	511
第400図	5区3面水田1	512
第401図	5区3面水田2	513
第402図	5区3面水田3	514

第403図	5区3面基本土層	515
第404図	5区2面93・95・97・101～103・105・106住居出土遺物	516
第405図	5区2面104・107・110住居出土遺物	517
第406図	5区2面109・111住居出土遺物	518
第407図	5区2面112～114・116住居出土遺物	519
第408図	5区2面118～120住居出土遺物	520
第409図	5区2面121住居出土遺物1	521
第410図	5区2面121住居出土遺物2、134住居出土遺物	522
第411図	5区2面122・127住居出土遺物	523
第412図	5区2面124～126・128・135住居出土遺物	524
第413図	5区2面129～133住居出土遺物	525
第414図	5区2面136～138住居、8型穴出土遺物	526
第415図	5区1面8番・3河道、2面土坑、遺構外出土遺物	527
第416図	遺構外出土遺物(縄文時代)	528
第417図	関根畑ヶ沢遺跡・関根赤城遺跡大型調査配置図	544

表目次

表1	上武道路8工区道路一覧	3
表2	周辺道路一覧	10
表3	出土遺構数量表	20
表4	埋藏遺物数量表	20
表5	非埋藏遺物数量表	20
表6	4区製鉄関連遺構出土遺物一覧	321
表7	炭化材測定表(同定委託以外)	531
表8	1区土坑計測値表	549
表9	2区土坑計測値表	549
表10	3区土坑計測値表	549
表11	4区土坑計測値表	549
表12	5区1面土坑計測値表	551

表13	3区2面土坑計測値表	551
表14	1区ビット計測値表	552
表15	2区ビット計測値表	552
表16	3区ビット計測値表	552
表17	4区ビット計測値表	552
表18	5区1面ビット計測値表	553
表19	5区2面ビット計測値表	553
表20	4区3面水田区画計測表	553
表21	5区3面水田区画計測表	556
表22	非埋藏遺物一覧	557
表23	出土遺物観察表	562

写真図版目次

PL. 1	1 1区As-B軽石下面遺構の検出 西から	
	2 1区1面耕具痕 南から	
PL. 2	1 1区1面耕具痕A-A' 東から	
	2 1区1面耕具痕B-B' 東から	
	3 1区1面耕具痕C-C' 南東から	
	4 1区1面21溝全景 西から	
	5 1区1面202土坑全景 南から	
	6 1区1面203土坑全景 南西から	
	7 1区1面274土坑全景 北西から	
	8 1区1面282土坑全景 北西から	
PL. 3	1 1区1面283土坑全景 西から	
	2 1区2面全景 北から	
	3 1区2面17～19住居全景 北東から	
	4 1区2面17～19住居全景 西から	
PL. 4	1 1区2面17住居カマド遺物出土状態 西から	
	2 1区2面17住居掘り方 北西から	
	3 1区2面18住居全景 北西から	
	4 1区2面18住居掘り方 西から	
	5 1区2面19住居全景 西から	
	6 1区2面19住居掘り方 北西から	
	7 1区2面20住居上層断面A-A' 南から	
	8 1区2面20住居全景 西から	
PL. 5	1 1区2面20住居鉄製品刀子(25)遺物出土状態 西から	
	2 1区2面20住居掘り方 西から	
	3 1区2面22住居全景 西から	
	4 1区2面22住居掘り方 西から	
	5 1区2面23住居全景 西から	
	6 1区2面23住居鉄製品遺物出土状態 南から	
	7 1区2面23住居須恵器杯(29・30)出土状態 南から	
	8 1区2面23住居掘り方 南から	
PL. 6	1 1区2面24住居全景 西から	
	2 1区2面24住居掘り方 西から	

	3 1区2面25住居全景 西から	
	4 1区2面25住居カマド 西から	
	5 1区2面25住居遺物出土状態 南西から	
	6 1区2面25住居掘り方 西から	
	7 1区2面98住居全景 西から	
	8 1区2面98住居掘り方 西から	
PL. 7	1 1区2面99住居全景 西から	
	2 1区2面99住居掘り方 西から	
	3 1区2面100住居全景 西から	
	4 1区2面100住居カマド 西から	
	5 1区2面100住居土製品器口(54)出土状態 南から	
	6 1区2面100住居掘り方 西から	
	7 1区2面6型穴全景 北西から	
	8 1区2面6型穴掘り方 北西から	
PL. 8	1 1区2面1焼土須恵器杯(87)・(88)出土状態 北から	
	2 1区2面1焼土上層断面A-A' 南から	
	3 1区2面1焼土上層断面B-B' 西から	
	4 1区2面1焼土掘り方 北から	
	5 1区2面1焼土周辺調査状況 北西から	
PL. 9	1 1区2面1墓坑全景 西から	
	2 1区2面1墓坑骨片出土状態 南から	
	3 1区2面1墓坑須恵器杯(58)出土状態 南から	
	4 1区2面26溝全景 西から	
	5 1区2面26溝砂鉄出土状態 西から	
PL. 10	1 1区2面27溝上層断面A-A' 南から	
	2 1区2面27溝全景 西から	
	3 1区2面27溝西面(1488)出土状態 西から	
	4 1区2面27溝東部 西から	
	5 1区2面30溝全景 南東から	
	6 1区2面35溝上層断面 西から	
	7 1区2面35溝全景 西から	
	8 1区2面40溝全景 西から	

PL.11	1	1区2面40溝道器具(85)・機(86)出土状態	西から
	2	1区2面41溝全景	西から
	3	1区2面47上坑土層断面D-D'	北西から
	4	1区2面47上坑全景	南西から
	5	1区2面47上坑遺物出土状態	北東から
PL.12	1	1区2面48上坑全景	南西から
	2	1区2面49上坑全景	南東から
	3	1区2面50上坑全景	南東から
	4	1区2面201上坑土層断面	南から
	5	1区2面204上坑全景	南から
	6	1区2面205上坑全景	東から
	7	1区2面206上坑全景	南から
PL.13	1	1区2面207上坑全景	南東から
	2	1区2面209上坑全景	南西から
	3	1区2面210上坑全景	北東から
	4	1区2面271上坑全景	北東から
	5	1区2面273上坑全景	南から
	6	1区2面273上坑土層断面	南西から
	7	1区2面276上坑全景	東から
	8	1区2面277上坑全景	南東から
PL.14	1	1区2面278上坑全景	南西から
	2	1区2面279上坑全景	南から
	3	1区2面280上坑全景	西から
	4	1区2面281上坑全景	北西から
	5	1区2面284上坑全景	北西から
	6	1区2面285上坑全景	東から
	7	1区2面8ピット全景	南東から
	8	1区2面9ピット土層断面	南から
PL.15	1	1区2面10ピット全景	南東から
	2	1区2面71ピット全景	南から
	3	1区2面下層調査 As-C軽石混土層検出	南から
PL.16	1	1区2区下層調査 As-C軽石混土層断面A-A'	東から
	2	2区1面1溝全景1	東から
	3	2区1面1溝全景2	東から
	4	2区1面1溝器具痕1	東から
	5	2区1面1溝器具痕2	東から
PL.17	1	2区1面1溝器具痕全景	南から
	2	2区1面2河道土層断面	西から
	3	2区1面2河道全景	西から
PL.18	1	2区2面南側全景	南から
	2	2区2面北側全景	南から
PL.19	1	2区2面1住居全景	西から
	2	2区2面1住居掘り方	西から
	3	2区2面2住居全景	東から
	4	2区2面2住居掘り方	東から
	5	2区2面3住居全景1	西から
	6	2区2面3住居全景2	西から
PL.20	7	2区2面3住居カマド遺物出土状態	北西から
	8	2区2面3住居掘り方	西から
	1	2区2面3住居カマド掘り方	北西から
	2	2区2面4住居全景	西から
	3	2区2面4住居カマド	西から
	4	2区2面4住居掘り方	西から
	5	2区2面5住居全景	西から
	6	2区2面5住居カマド	西から
PL.21	7	2区2面5住居掘り方	西から
	8	2区2面6住居全景	西から
	1	2区2面6住居鉄滓集中部	北から
	2	2区2面6住居緑輪軸(170)出土状態	西から
	3	2区2面6住居掘り方	西から
	4	2区2面7住居全景	西から
	5	2区2面7住居掘り方	西から
	6	2区2面8住居全景	西から
PL.22	7	2区2面8住居カマド	西から
	8	2区2面8住居貯蔵穴	西から

PL.22	1	2区2面8住居掘り方	西から
	2	2区2面8住居カマド掘り方	西から
	3	2区2面9住居掘り方	西から
	4	2区2面9住居カマド	北西から
	5	2区2面9住居掘り方	西から
	6	2区2面10住居土層断面A-A'	南から
	7	2区2面10住居土層断面B-B'	東から
	8	2区2面10住居全景	西から
PL.23	1	2区2面10住居カマド土層断面	南西から
	2	2区2面10住居カマド	北西から
	3	2区2面10住居掘り方	西から
	4	2区2面10住居カマド掘り方	西から
	5	2区2面13住居全景	東から
	6	2区2面13住居掘り方	東から
	7	2区2面14住居全景	西から
	8	2区2面14住居カマド遺物出土状態	西から
PL.24	1	2区2面14住居カマド遺物出土状態	西から
	2	2区2面14住居カマド	西から
	3	2区2面14住居掘り方	西から
	4	2区2面14住居カマド掘り方	西から
	5	2区2面15住居遺物出土状態	西から
	6	2区2面15住居掘り方	西から
	7	2区2面15住居掘り方土層断面	北から
	8	2区2面15住居掘り方	西から
PL.25	1	2区2面1型穴遺物出土状態	南から
	2	2区2面1型穴全景	西から
	3	2区2面2型穴全景	南西から
	4	2区2面3型穴全景	南から
	5	2区2面3型穴掘り方	南から
PL.26	6	2区2面4型穴全景	南から
	7	2区2面4型穴掘り方	南から
	8	2区2面5型穴全景	南から
	1	2区2面2溝全景	南から
	2	2区2面3溝全景1	南から
PL.27	3	2区2面3溝全景2	南から
	4	2区2面3溝土層断面	南から
	5	2区2面3溝遺物出土状態	南から
	6	2区2面10溝全景	南東から
	7	2区2面1土坑全景	南から
PL.28	8	2区2面2土坑全景	北から
	1	2区2面3土坑全景	北西から
	2	2区2面4土坑全景	南から
	3	2区2面5土坑全景	北から
	4	2区2面6土坑全景	南から
	5	2区2面7土坑全景	西から
	6	2区2面8・9土坑土層断面	北から
	7	2区2面10土坑全景	南東から
PL.29	8	2区2面15土坑全景	東から
	1	2区2面16土坑全景	北西から
	2	2区2面17土坑全景	北東から
	3	2区2面18土坑土層断面	北から
	4	2区2面19土坑全景	南から
	5	2区2面20土坑全景	南西から
	6	2区2面21土坑全景	南西から
	7	2区2面22土坑全景	北西から
PL.30	8	2区2面23土坑全景	南西から
	1	2区2面24土坑全景	南西から
	2	2区2面25土坑全景	北から
	3	2区2面26土坑全景	南西から
	4	2区2面27土坑全景	南から
	5	2区2面28土坑全景	東から
	6	2区2面29土坑全景	西から
	7	2区2面30土坑全景	東から
PL.31	8	2区2面31土坑全景	東から
	1	2区2面32土坑全景	南から
	2	2区2面33土坑全景	南から
PL.32	3	2区2面34土坑全景	南から

PL.31	4	2区2面35土坑全景	南から	PL.41	10	4区1面56(左)・57土坑全景	南西から
	5	2区2面36土坑全景	南西から		1	4区1面58土坑全景	西から
	6	2区2面37土坑全景	北西から		2	4区1面59土坑全景	西から
	7	2区2面38・39土坑上層断面	西から		3	4区1面60土坑全景	西から
	8	2区2面40土坑全景	南東から		4	4区1面61土坑全景	西から
	1	2区2面41土坑全景	西から		5	4区1面62土坑全景	西から
	2	2区2面42土坑全景	南から		6	4区1面63土坑全景	南西から
	3	2区2面43土坑遺物出土状態	南西から		7	4区1面64土坑全景	西から
	4	2区2面43土坑全景	南から		8	4区1面65土坑全景	北から
	5	2区2面44土坑全景	南西から		9	4区1面66土坑全景	南東から
PL.32	6	2区2面1ピット全景	南から	10	4区1面67土坑全景	南西から	
	7	2区2面2ピット全景	南から	11	4区1面68土坑全景	南西から	
	8	2区2面3ピット全景	南から	12	4区1面69土坑全景	南西から	
	9	2区2面4ピット全景	南から	13	4区1面70土坑全景	西から	
	1	2区2面5ピット全景	南から	14	4区1面71土坑全景	南から	
	2	2区2面6ピット全景	南から	15	4区1面72土坑全景	南西から	
	3	2区2面7ピット全景	東から	PL.42	1	4区1面73土坑全景	南西から
	4	2区2面下層確認トレンチ1	南西から	2	4区1面74土坑全景	南西から	
	5	2区2面下層確認トレンチ2	南から	3	4区1面75土坑全景	南から	
	PL.33	1	3区1面遺構確認	北西から	4	4区1面76土坑全景	北西から
2		3区1面復旧済確認トレンチ	北から	5	4区1面77土坑全景	東から	
3		3区2面全景	北から	6	4区1面78(左)・79土坑全景	南西から	
PL.34	1	3区2面11住居全景	南から	7	4区1面80土坑全景	南東から	
	2	3区2面11住居カマド	南西から	8	4区1面81土坑全景	南西から	
	3	3区2面11住居灰化物出土状態	南から	9	4区1面82土坑全景	東から	
	4	3区2面11住居南東隅集石	西から	10	4区1面83土坑全景	南西から	
	5	3区2面11・12住居廻り方	南から	11	4区1面84(右)・85土坑全景	北東から	
	6	3区2面11住居カマド廻り方	南西から	12	4区1面86土坑全景	西から	
	7	3区2面4・5溝全景1	南から	13	4区1面87土坑全景	北から	
PL.35	1	3区2面4・5溝全景2	南から	14	4区1面88土坑全景	北から	
	2	3区2面6溝全景	南東から	15	4区1面89土坑全景	南西から	
	3	3区2面7溝全景	南東から	PL.43	1	4区1面90土坑全景	西から
	4	3区2面8溝全景	南から	2	4区1面91土坑全景	北から	
	5	3区2面8溝遺物出土状態	南から	3	4区1面92土坑全景	西から	
	6	3区2面9溝全景	北から	4	4区1面93土坑全景	西から	
	7	3区2面11・12土坑全景	北から	5	4区1面94土坑全景	西から	
PL.36	1	3区2面12土坑全景	北から	6	4区1面95土坑全景	南西から	
	2	3区2面14土坑全景	南から	7	4区1面96(左)・97(中)・98土坑全景	南から	
	3	3区2面11ピット全景	北から	8	4区1面99土坑全景	北から	
	4	3区東壁土層断面南半部	西から	9	4区1面100土坑全景	南西から	
	5	3区東壁土層断面北半部	南西から	10	4区1面101土坑全景	南から	
PL.37	1	4区1面全景	北から	11	4区1面102(右)・103土坑全景	東から	
	2	4区1面1河道全景	南東から	12	4区1面104土坑全景	東から	
	3	4区1面1河道北壁土層断面	南東から	13	4区1面105土坑全景	東から	
	4	4区1面1列石全景	北から	14	4区1面106土坑全景	東から	
	5	4区1面11溝全景	南東から	15	4区1面107土坑全景	北東から	
PL.38	1	4区1面12溝全景	南から	PL.44	1	4区1面108(左)・71土坑全景	西から
	2	4区1面14溝全景	南から	2	4区1面110土坑上層断面	北から	
	3	4区1面13・17・20溝全景	南から	3	4区1面110土坑全景	北西から	
	4	4区1面15溝全景	南東から	4	4区1面111(右)・112土坑全景	南東から	
	5	4区1面21溝a・b全景	西から	5	4区1面113土坑全景	南東から	
PL.39	1	4区1面22溝全景	西から	6	4区1面114土坑全景	南から	
	2	4区1面37溝全景	南東から	7	4区1面115土坑全景	南から	
	3	4区1面1サクケ全景	北から	8	4区1面116土坑全景	西から	
	4	4区1面2サクケ全景	南から	9	4区1面117土坑全景	西から	
	5	4区1面3サクケ全景	北から	10	4区1面118土坑全景	南から	
PL.40	6	4区1面3・4サクケ全景	南から	11	4区1面119土坑全景	西から	
	7	4区1面5サクケ全景	南から	12	4区1面120土坑全景	南から	
	1	4区1面6サクケ全景	南から	13	4区1面121土坑全景	西から	
	2	4区1面7サクケ全景	南西から	14	4区1面122土坑全景	西から	
	3	4区1面12サクケ全景	南から	15	4区1面123土坑全景	西から	
	4	4区1面耕具痕(1サクケ付近)	北西から	PL.45	1	4区1面124土坑全景	西から
	5	4区1面51土坑全景	西から	2	4区1面125土坑全景	西から	
	6	4区1面52土坑全景	西から	3	4区1面126(右)・137土坑全景	南から	
	7	4区1面53土坑全景	南西から	4	4区1面127土坑全景	東から	
	8	4区1面54土坑全景	南西から	5	4区1面128(右)・129土坑全景	南東から	
9	4区1面55土坑全景	南西から	6	4区1面130土坑(左)・66ピット	東から		

	7	4区1画131土坑全景	東から		14	4区1画51ビッド全景	南から
	8	4区1画132(手前)・138土坑全景	西から		15	4区1画52(左)・53(中)・54ビッド	南から
	9	4区1画133土坑全景	南から	PL.50	1	4区1画55ビッド全景	南東から
	10	4区1画134土坑全景	南から		2	4区1画56ビッド全景	東から
	11	4区1画135土坑全景	南から		3	4区1画57ビッド全景	東から
	12	4区1画136土坑全景	北東から		4	4区1画58ビッド全景	南から
	13	4区1画139土坑全景	東から		5	4区1画59ビッド全景	南から
	14	4区1画140土坑全景	西から		6	4区1画60ビッド全景	南から
	15	4区1画141土坑(左)・67ビッド	西から		7	4区1画61ビッド全景	北東から
PL.46	1	4区1画142土坑全景	南から		8	4区1画62ビッド全景	南から
	2	4区1画143土坑全景	南から		9	4区1画63ビッド全景	南から
	3	4区1画144土坑全景	南から		10	4区1画64ビッド全景	南西から
	4	4区1画145(右)・146土坑全景	南から		11	4区1画66ビッド全景	北西から
	5	4区1画147土坑全景	西から		12	4区1画67ビッド全景	南西から
	6	4区1画148土坑全景	南西から	PL.51	1	4区2画空欄 北上空から	
	7	4区1画150土坑全景	西から		2	4区2画空欄 西上空から	
	8	4区1画151土坑全景	東から	PL.52	1	4区2画空欄 南上空から	
	9	4区1画152土坑全景	南東から		2	4区2画空欄 垂直方向から	
	10	4区1画153土坑全景	西から	PL.53	1	4区2画21住居全景	西から
	11	4区1画154土坑全景	南から		2	4区2画21住居カマド	北西から
	12	4区1画155土坑全景	東から		3	4区2画21住居カマド下廻り方	北西から
	13	4区1画156土坑全景	東から		4	4区2画21住居廻り方	西から
	14	4区1画157土坑全景	東から		5	4区2画26住居全景	西から
	15	4区1画158土坑全景	東から		6	4区2画26住居カマド	西から
PL.47	1	4区1画159土坑全景	南から		7	4区2画27住居全景	西から
	2	4区1画160土坑全景	南東から		8	4区2画27住居カマド	西から
	3	4区1画161土坑全景	東から	PL.54	1	4区2画27住居カマド下廻り方	西から
	4	4区1画162土坑全景	南東から		2	4区2画27住居廻り方	西から
	5	4区1画12ビッド全景	東から		3	4区2画28住居全景	西から
	6	4区1画13ビッド全景	南から		4	4区2画28住居カマド	西から
	7	4区1画14ビッド全景	南から		5	4区2画28住居廻り方	西から
	8	4区1画15ビッド全景	西から		6	4区2画29住居全景	西から
	9	4区1画16ビッド全景	西から		7	4区2画29住居カマド	西から
	10	4区1画17ビッド全景	南から		8	4区2画29住居カマド下廻り方	西から
	11	4区1画18ビッド全景	南から	PL.55	1	4区2画29住居廻り方	西から
	12	4区1画19ビッド全景	南西から		2	4区2画30住居全景	西から
	13	4区1画20ビッド全景	北西から		3	4区2画30住居カマド	北から
	14	4区1画21ビッド全景	北東から		4	4区2画31住居全景	西から
	15	4区1画22ビッド全景	南西から		5	4区2画31住居カマド	西から
PL.48	1	4区1画23ビッド全景	北東から		6	4区2画31住居カマド下廻り方	西から
	2	4区1画24ビッド全景	東から		7	4区2画31住居金属製品(370)出土状態	西から
	3	4区1画25ビッド全景	西から		8	4区2画31住居廻り方	西から
	4	4区1画26ビッド全景	南西から	PL.56	1	4区2画32住居全景	西から
	5	4区1画27ビッド全景	北東から		2	4区2画32住居カマド下廻り方	北西から
	6	4区1画28ビッド全景	北東から		3	4区2画32住居廻り方	西から
	7	4区1画29ビッド全景	南西から		4	4区2画33住居全景	西から
	8	4区1画30ビッド全景	南西から		5	4区2画33住居カマド	北西から
	9	4区1画31ビッド全景	南から		6	4区2画33住居カマド下廻り方	西から
	10	4区1画32ビッド全景	南東から		7	4区2画33住居遺物出土状態	南から
	11	4区1画33ビッド全景	東から		8	4区2画33住居廻り方	西から
	12	4区1画34ビッド全景	南から	PL.57	1	4区2画34住居全景	南西から
	13	4区1画35ビッド全景	南東から		2	4区2画34住居カマド	西から
	14	4区1画36ビッド全景	北東から		3	4区2画34住居カマド下廻り方	西から
	15	4区1画37ビッド全景	南東から		4	4区2画34住居廻り方	南西から
PL.49	1	4区1画38ビッド全景	南東から		5	4区2画35住居全景	西から
	2	4区1画39ビッド全景	南から		6	4区2画35住居カマド	北西から
	3	4区1画40ビッド全景	南東から		7	4区2画35住居カマド下廻り方	北西から
	4	4区1画41ビッド全景	南東から		8	4区2画35住居廻り方	西から
	5	4区1画42ビッド全景	西から	PL.58	1	4区2画36住居全景	西から
	6	4区1画43ビッド全景	南から		2	4区2画36住居カマド	西から
	7	4区1画44ビッド全景	南から		3	4区2画36住居カマド下廻り方	西から
	8	4区1画45ビッド全景	南から		4	4区2画36住居廻り方	西から
	9	4区1画46ビッド全景	南から		5	4区2画37住居全景	西から
	10	4区1画47ビッド全景	南から		6	4区2画37住居カマド	北西から
	11	4区1画48ビッド全景	南から		7	4区2画37住居遺物出土状態	北から
	12	4区1画49ビッド全景	南から		8	4区2画37住居廻り方	西から
	13	4区1画50ビッド全景	西から	PL.59	1	4区2画38住居全景	西から

	2	4区2面38住居遺物出土状態	西から		5	4区2面57住居2カマド	西から	
	3	4区2面38住居カマド振り方	西から		6	4区2面57住居2カマド振り方	西から	
	4	4区2面38住居振り方	西から		7	4区2面57住居1カマド	西から	
	5	4区2面39住居全景	西から		8	4区2面57住居振り方	西から	
	6	4区2面39住居振り方	西から		PL-68	1	4区2面58住居全景	西から
	7	4区2面40住居全景	西から		2	4区2面58住居カマド	西から	
	8	4区2面40住居カマド	西から		3	4区2面58住居振り方	西から	
PL-60	1	4区2面40住居金属製品類像(392)出土状態	北東から		4	4区2面59住居全景	西から	
	2	4区2面40住居振り方	西から		5	4区2面59住居カマド振り方	西から	
	3	4区2面41住居全景	西から		6	4区2面59住居振り方	西から	
	4	4区2面41住居カマド遺物出土状態	北西から		7	4区2面60住居全景	西から	
	5	4区2面41住居カマド振り方	北西から		8	4区2面60住居須置器類(535・539・542)出土状態	南東から	
	6	4区2面41住居振り方	西から		PL-69	1	4区2面60住居カマド	西から
	7	4区2面42住居全景	西から		2	4区2面60住居須置器類(538)・石製品紡錘車(551)出土状態	東から	
	8	4区2面42住居カマド	西から					
PL-61	1	4区2面42住居カマド振り方	西から		3	4区2面60住居カマド振り方	西から	
	2	4区2面42住居振り方	西から		4	4区2面60住居振り方	西から	
	3	4区2面43住居全景	西から		5	4区2面61住居全景	西から	
	4	4区2面43住居カマド	西から		6	4区2面61住居須置器類(555)出土状態	北東から	
	5	4区2面43住居カマド振り方	西から		7	4区2面61住居炭化物出土状態	南東から	
	6	4区2面43住居振り方	西から		8	4区2面61住居振り方	西から	
	7	4区2面44住居全景	西から		PL-70	1	4区2面62住居全景	西から
	8	4区2面44住居カマド	北西から		2	4区2面62住居カマド	西から	
PL-62	1	4区2面44住居振り方	西から		3	4区2面62住居カマド振り方	西から	
	2	4区2面45住居全景	北西から		4	4区2面62住居振り方	北西から	
	3	4区2面45住居カマド	北西から		5	4区2面63住居全景	西から	
	4	4区2面45住居振り方	北西から		6	4区2面63住居カマド	西から	
	5	4区2面46住居全景	西から		7	4区2面63住居カマド振り方	西から	
	6	4区2面46住居カマド	西から		8	4区2面63住居振り方	西から	
	7	4区2面46住居カマド振り方	西から		PL-71	1	4区2面64住居全景	南西から
	8	4区2面46住居振り方	西から		2	4区2面64住居振り方	北から	
PL-63	1	4区2面47住居全景	西から		3	4区2面65住居全景	北西から	
	2	4区2面47住居カマド	西から		4	4区2面65住居カマド	北西から	
	3	4区2面47住居遺物出土状態	北から		5	4区2面65住居カマド振り方	北西から	
	4	4区2面47住居振り方	西から		6	4区2面65住居振り方	北西から	
	5	4区2面48住居全景	西から		7	4区2面66住居全景	西から	
	6	4区2面48住居振り方	西から		8	4区2面66住居カマド	西から	
	7	4区2面49住居全景	西から		PL-72	1	4区2面66住居振り方	西から
	8	4区2面49住居振り方	西から		2	4区2面67住居全景	西から	
PL-64	1	4区2面50・156住居全景	西から		3	4区2面67住居カマド	西から	
	2	4区2面50住居カマド	西から		4	4区2面67住居カマド振り方	西から	
	3	4区2面50住居カマド振り方	西から		5	4区2面67住居振り方	西から	
	4	4区2面50・156住居振り方	西から		6	4区2面68住居全景	北西から	
	5	4区2面51住居全景	西から		7	4区2面68住居1カマド	北西から	
	6	4区2面51住居形象埴輪(476・477)出土状態	東から		8	4区2面68住居1カマド振り方	北西から	
	7	4区2面51住居振り方	西から		PL-73	1	4区2面68住居2カマド	北西から
	8	4区2面52住居全景	西から		2	4区2面68住居振り方	北西から	
PL-65	1	4区2面52住居カマド	西から		3	4区2面69住居全景	西から	
	2	4区2面52住居振り方	西から		4	4区2面69住居カマド	西から	
	3	4区2面53住居全景	南東から		5	4区2面69住居カマド振り方	西から	
	4	4区2面53住居振り方	北から		6	4区2面69住居振り方	西から	
	5	4区2面54住居全景	西から		7	4区2面70住居全景	西から	
	6	4区2面54住居カマド	西から		8	4区2面70住居振り方	西から	
	7	4区2面54住居カマド石皿	北西から		PL-74	1	4区2面71・77・78住居全景	北西から
	8	4区2面54住居カマド振り方	西から		2	4区2面71・77・78住居振り方	南西から	
PL-66	1	4区2面54住居振り方	西から		PL-75	1	4区2面71住居カマド	西から
	2	4区2面55住居全景	西から		2	4区2面77住居2カマド遺物出土状態	西から	
	3	4区2面55住居カマド	西から		3	4区2面77住居2カマド振り方	北西から	
	4	4区2面55住居貯蔵穴	西から		4	4区2面77住居1カマド	北西から	
	5	4区2面55住居カマド振り方	西から		5	4区2面77住居1カマド振り方	北西から	
	6	4区2面55住居振り方	西から		6	4区2面78住居カマド	西から	
	7	4区2面56住居全景	西から		7	4区2面78住居カマド振り方	西から	
	8	4区2面56住居カマド	北西から		8	4区2面78住居炭化材出土状態	西から	
PL-67	1	4区2面56住居カマド振り方	北西から		PL-76	1	4区2面72住居振り方	北から
	2	4区2面56住居振り方	西から		2	4区2面72住居カマド振り方	西から	
	3	4区2面57住居全景	西から		3	4区2面73住居全景	西から	
	4	4区2面57住居カマド上層断面	西から		4	4区2面73住居カマド	西から	

	5	4区2面73住居振り方	西から			8	4区2面144住居振り方	北西から
	6	4区2面74住居全景	西から	PL.85	1	4区2面145住居全景	北西から	
	7	4区2面74住居カマド	北西から		2	4区2面145住居振り方	北西から	
	8	4区2面74住居振り方	西から		3	4区2面146住居振り方	西から	
PL.77	1	4区2面75住居全景	西から		4	4区2面146住居貯蔵穴	北から	
	2	4区2面75住居カマド	西から		5	4区2面147住居全景	西から	
	3	4区2面75住居カマド振り方	西から		6	4区2面147住居振り方	西から	
	4	4区2面75住居振り方	西から		7	4区2面148住居全景	西から	
	5	4区2面76住居全景	西から		8	4区2面148住居カマド	西から	
	6	4区2面76住居カマド	西から	PL.86	1	4区2面148住居カマド振り方	西から	
	7	4区2面76住居振り方	北西から		2	4区2面148住居振り方	西から	
	8	4区2面79住居全景	北西から		3	4区2面149住居全景	北西から	
PL.78	1	4区2面80住居全景	南西から		4	4区2面149住居カマド	北西から	
	2	4区2面81住居振り方	西から		5	4区2面149住居カマド振り方	南西から	
	3	4区2面81住居カマド	南東から		6	4区2面149住居振り方	北西から	
	4	4区2面81住居カマド振り方	北西から		7	4区2面150住居全景	西から	
	5	4区2面82住居全景	東から		8	4区2面150住居カマド	西から	
	6	4区2面82住居振り方	東から	PL.87	1	4区2面150住居カマド振り方	西から	
	7	4区2面83住居カマド遺物出土状態	北東から		2	4区2面150住居振り方	西から	
	8	4区2面83住居カマド	北東から		3	4区2面151住居全景	北から	
PL.79	1	4区2面84住居全景	北西から		4	4区2面151住居カマド	北東から	
	2	4区2面84住居カマド付近遺物出土状態	北西から		5	4区2面151住居カマド振り方	北東から	
	3	4区2面84住居カマド	北西から		6	4区2面151住居振り方	北から	
	4	4区2面84住居カマド振り方	北西から		7	4区2面152住居全景	北西から	
	5	4区2面84住居振り方	西から		8	4区2面152住居カマド	北西から	
	6	4区2面85住居全景	北西から	PL.88	1	4区2面152住居カマド振り方	北西から	
	7	4区2面85住居遺物出土状態	東から		2	4区2面152住居振り方	北西から	
	8	4区2面85住居、1製鉄炉(左)から続く出土遺物	南西から		3	4区2面153住居全景	北東から	
PL.80	1	4区2面87住居炭化材出土状態	東から		4	4区2面153住居カマド	北から	
	2	4区2面87住居炭化材出土状態	南から		5	4区2面153住居カマド振り方	北から	
	3	4区2面87住居全景	東から		6	4区2面153住居振り方	北東から	
	4	4区2面87住居振り方	西から		7	4区2面154住居全景	西から	
	5	4区2面89住居全景	西から		8	4区2面154住居カマド	西から	
	6	4区2面89住居カマド	西から	PL.89	1	4区2面154住居カマド振り方	西から	
	7	4区2面89住居カマド振り方	西から		2	4区2面154住居振り方	西から	
	8	4区2面89住居振り方	西から		3	4区2面155住居全景	西から	
PL.81	1	4区2面90住居全景	西から		4	4区2面155住居カマド	西から	
	2	4区2面90住居カマド	北西から		5	4区2面155住居カマド振り方	西から	
	3	4区2面90住居カマド振り方	南西から		6	4区2面155住居振り方	西から	
	4	4区2面90住居振り方	北西から		7	4区2面157型穴全景	西から	
	5	4区2面91住居全景	西から		8	4区2面157型穴振り方	西から	
	6	4区2面91住居カマド	西から	PL.90	1	4区2面9型穴全景	南西から	
	7	4区2面91住居カマド振り方	西から		2	4区2面10型穴全景	西から	
	8	4区2面91住居振り方	西から		3	4区2面10型穴振り方	西から	
PL.82	1	4区2面139住居全景	西から		4	4区2面11型穴全景	西から	
	2	4区2面139住居カマド	西から		5	4区2面11型穴振り方	西から	
	3	4区2面139住居カマド振り方	西から		6	4区2面12型穴全景(手前46住居、奥43住居)	西から	
	4	4区2面139住居振り方	西から		7	4区2面12型穴須恵器杯(944・946)、羽釜(955)出土状態	北西から	
	5	4区2面140住居全景	西から		8	4区2面12型穴振り方	西から	
	6	4区2面140住居カマド	西から	PL.91	1	4区2面13型穴全景(手前11型穴、奥10型穴)	西から	
	7	4区2面140住居カマド振り方	西から		2	4区2面13型穴振り方	西から	
	8	4区2面140住居振り方	西から		3	4区2面16溝	南西から	
PL.83	1	4区2面141住居(左奥140住居)全景	西から		4	4区2面23溝土解断面	南から	
	2	4区2面141住居カマド	西から		5	4区2面16・24溝全景	北西から	
	3	4区2面141住居カマド振り方	西から	PL.92	1	4区2面25溝西部	東から	
	4	4区2面141住居振り方	西から		2	4区2面26溝西部馬歯出土状態	東から	
	5	4区2面142住居全景	北西から		3	4区2面27溝全景	西から	
	6	4区2面142住居カマド	北西から		4	4区2面27溝須恵器輪(987)出土状態	東から	
	7	4区2面142住居カマド振り方	北西から		5	4区2面27溝須恵器(982・983・989)出土状態	東から	
	8	4区2面142住居振り方	北西から		6	4区2面28溝全景	北西から	
PL.84	1	4区2面143住居遺物出土状態	西から		7	4区2面36溝全景	南東から	
	2	4区2面143住居炭化材出土状態	西から	PL.93	1	4区2面29溝全景	南東から	
	3	4区2面143住居カマド	西から		2	4区2面38溝全景	南東から	
	4	4区2面143住居カマド振り方	西から		3	4区2面39溝全景	西から	
	5	4区2面143住居振り方	西から		4	4区2面42溝全景	東から	
	6	4区2面144住居全景	北西から		5	4区2面43(左)・44溝全景	南から	
	7	4区2面144住居カマド振り方	北西から					

	6	4区2面45溝全景	南から		10	4区2面390土坑土層断面	北から
PL_94	1	4区2面1製鉄炉遺物出土状態	東から		11	4区2面391土坑全景	南から
	2	4区2面1製鉄炉全景	東から		12	4区2面392土坑全景	南から
	3	4区2面1製鉄炉近景	東から		13	4区2面393土坑土層断面	南から
	4	4区2面1製鉄炉土層断面	北から		14	4区2面395土坑土層断面	東から
	5	4区2面1製鉄炉遺物出土状態	東から		15	4区2面397土坑全景	南から
	6	4区2面1製鉄炉中成土層断面	北から	PL_101	1	4区2面398土坑全景	北東から
	7	4区2面1製鉄炉遺物出土状態	北から		2	4区2面400土坑全景	北西から
	8	4区2面1製鉄炉掘り方	東から		3	4区2面401土坑全景	西から
PL_95	1	4区2面2製鉄炉上位面遺物出土状態	東から		4	4区2面402土坑全景	南東から
	2	4区2面2製鉄炉前底部遺物出土状態	南東から		5	4区2面403土坑全景	南から
	3	4区2面2製鉄炉前底部遺物出土状態	東から		6	4区2面404土坑全景	南東から
	4	4区2面2製鉄炉近景	東から		7	4区2面405土坑全景	北西から
	5	4区2面2製鉄炉全景	北東から		8	4区2面406土坑全景	南東から
	6	4区2面2製鉄炉断ち割り	東から	9	4区2面407土坑全景	東から	
	7	4区2面2製鉄炉断面	南東から	10	4区2面408土坑全景	南から	
	11	4区2面2製鉄炉土層断面	北東から	11	4区2面409土坑全景	南西から	
PL_96	1	4区2面3製鉄炉遺物出土状態	西から	12	4区2面410土坑全景	南から	
	2	4区2面3製鉄炉遺物出土状態	北東から	13	4区2面411土坑全景	東から	
	3	4区2面3製鉄炉遺物出土状態	北から	14	4区2面412土坑全景	東から	
	4	4区2面3製鉄炉遺物出土状態	北東から	15	4区2面413土坑全景	南から	
	5	4区2面3製鉄炉確認面、底面	西から	PL_102	1	4区2面414土坑全景	東から
	6	4区2面3製鉄炉土層断面	北東から		2	4区2面415土坑全景	南西から
	7	4区2面3製鉄炉全景	東から		3	4区2面416土坑全景	南西から
	PL_97	1	4区2面1鍛冶工房遺物出土状態		東から	4	4区2面417土坑全景
2		4区2面1鍛冶工房土層断面中央	南から		5	4区2面418土坑全景	北東から
3		4区2面1鍛冶工房全景	東から		6	4区2面419土坑全景	南西から
4		4区2面1鍛冶工房地下坑粘土出土状態	西から		7	4区2面420土坑全景	南から
5		4区2面1鍛冶工房掘り方	東から		8	4区2面421土坑遺物出土状態	西から
PL_98		1	4区2面149土坑全景	南から	9	4区2面421土坑遺物出土状態	東から
		2	4区2面163土坑土層断面	南から	10	4区2面421土坑全景	西から
		3	4区2面164土坑全景	北から	11	4区2面422土坑全景	北西から
	4	4区2面166土坑全景	東から	12	4区2面422土坑鉄製品跡出土状態	東から	
	5	4区2面168(左)・169土坑全景	北から	13	4区2面423土坑全景	南から	
	6	4区2面170土坑全景	東から	14	4区2面424土坑全景	南から	
	7	4区2面171(右)・172土坑全景	東から	15	4区2面425土坑全景	南東から	
	8	4区2面286土坑全景	南東から	PL_103	1	4区2面426土坑全景	南東から
	9	4区2面287土坑全景	西から		2	4区2面430土坑全景	南から
	10	4区2面288土坑全景	西から		3	4区2面429土坑全景	南から
	11	4区2面289土坑全景	北東から		4	4区2面427土坑全景	南から
	12	4区2面290土坑全景	東から		5	4区2面427土坑遺物出土状態	南から
	13	4区2面291土坑全景	南から		6	4区2面431土坑全景	東から
	14	4区2面292土坑全景	南から		7	4区2面432土坑全景	北東から
	15	4区2面293土坑全景	北東から		8	4区2面433土坑全景	東から
PL_99	1	4区2面294土坑全景	東から		9	4区2面434土坑全景	東から
	2	4区2面295土坑全景	東から		10	4区2面435土坑全景	北東から
	3	4区2面296土坑全景	南から		11	4区2面436土坑全景	西から
	4	4区2面297土坑土層断面	南東から		12	4区2面437土坑全景	西から
	5	4区2面298土坑全景	北から		13	4区2面438土坑全景	西から
	6	4区2面299土坑全景	西から		14	4区2面440土坑全景	北から
	7	4区2面299土坑遺物出土状態	西から		PL_104	1	4区2面442土坑全景
	8	4区2面300土坑全景	東から	2		4区2面445土坑全景	北から
	9	4区2面355土坑全景	東から	3		4区2面446土坑全景	北から
	10	4区2面356土坑全景	東から	4		4区2面447土坑全景	西から
	11	4区2面357土坑全景	東から	5		4区2面450土坑全景	北から
	12	4区2面360土坑全景	南西から	6		4区2面451土坑全景	南から
	13	4区2面361土坑全景	東から	7		4区2面452土坑全景	南から
	14	4区2面362土坑全景	北東から	8		4区2面453土坑全景	南から
	15	4区2面363土坑全景	南西から	9		4区2面772ビット全景	北から
PL_100	1	4区2面365土坑全景	南から	10		4区2面773ビット全景	南から
	2	4区2面381土坑全景	東から	11		4区2面74ビット全景	南から
	3	4区2面382土坑全景	北から	12		4区2面75ビット全景	南から
	4	4区2面384土坑全景	南東から	13		4区2面121ビット全景	東から
	5	4区2面385土坑全景	南東から	14		4区2面121ビット灰輪痕(1139)	東上から
	6	4区2面386土坑全景	北から	15		4区2面121ビット灰輪痕(1139)	東から
	7	4区2面387土坑全景	南東から	PL_105	1	4区3面空欄(北側)	垂直方向から
	8	4区2面388土坑全景	南東から		2	4区3面空欄(南側)	垂直方向から
	9	4区2面389土坑土層断面	西から				

PL.106	1	4区3面空堀(北側)	南東から	PL.117	1	5区2面103住居ビッド	南から
	2	4区3面空堀(南側)	北西から		2	5区2面104住居全景	西から
PL.107	1	4区3面47溝全景	南東から	3	5区2面104住居カマド遺物出土状態	西から	
	2	4区3面48溝全景	南西から	4	5区2面104住居カマド	西から	
PL.108	3	4区3面48溝全景	南から	5	5区2面104住居貯蔵穴	北西から	
	4	4区3面46溝全景	北東から	6	5区2面104住居掘り方	西から	
	5	4区3面46溝全景	南から	7	5区2面104住居カマド掘り方	西から	
	6	4区3面48溝上層断面	南東から	8	5区2面105住居上層面B-B'	西から	
	7	4区3面水田近景	南東から	PL.118	1	5区2面105住居掘り方	西から
	8	4区3面水田近景	西から		2	5区2面106住居カマド煙突部	西から
	PL.109	1	4区3面水田近景	南から	3	5区2面106住居全景	西から
		2	4区3面水田近景	南から	4	5区2面106住居掘り方	西から
		3	4区3面水田近景	北西から	5	5区2面107住居全景	東から
		4	4区3面1集石、周辺遺物出土状態	南から	6	5区2面107住居カマド	北東から
5		4区3面1集石全景	北から	PL.119	1	5区2面107住居掘り方	東から
6		4区3面石列全景	南から		2	5区2面107住居2カマド掘り方	北東から
PL.110	1	5区1面Aa-8土上全景	南から	3	5区2面107住居土坑1	西から	
	2	5区1面31溝全景	北から	4	5区2面107住居土坑3	東から	
	3	5区1面32溝全景	北から	5	5区2面107住居1カマド	西から	
	4	5区1面33溝全景	南から	6	5区2面107住居1カマド掘り方	西から	
	2	5区1面8島全景	西から	7	5区2面109住居全景	西から	
	3	5区1面9島全景	西から	8	5区2面109住居遺物出土状態	西から	
PL.111	4	5区1面10島全景	北西から	PL.120	1	5区2面109住居2カマド	西から
	5	5区1面10島全景、耕具痕	南から		2	5区2面109住居1カマド	北西から
	6	5区1面11島全景	南東から	3	5区2面109住居掘り方	西から	
	7	5区1面耕具痕全景、10畝	南から	4	5区2面110住居全景	北から	
	1	5区1面耕具痕	南から	5	5区2面110住居遺物出土状態	西から	
	2	5区1面耕具痕中央	南から	6	5区2面110住居掘り方	北から	
	3	5区1面181土坑全景	南から	7	5区2面111住居全景	西から	
	4	5区1面182土坑上層断面	南から	8	5区2面111住居カマド	北西から	
	5	5区1面183土坑全景	南西から	PL.121	1	5区2面111住居掘り方	西から
	6	5区1面184土坑全景	南から		2	5区2面111住居カマド掘り方	西から
7	5区1面185土坑全景	西から	3	5区2面111住居土師器ミニチュア(1296)出土状態	南から		
8	5区1面186土坑全景	西から	4	5区2面112住居全景	西から		
9	5区1面187土坑全景	東から	5	5区2面112住居カマド	西から		
10	5区1面188土坑全景	東から	6	5区2面112住居須恵器杯(1305)出土状態	西から		
PL.112	11	5区1面189土坑全景	東から	7	5区2面112住居掘り方	西から	
	12	5区1面190土坑全景	南東から	8	5区2面112住居カマド掘り方	西から	
	13	5区1面191土坑全景	北東から	PL.122	1	5区2面112住居土坑1	西から
	14	5区1面192土坑全景	東から		2	5区2面113住居全景	西から
	1	5区1面193土坑全景	東から	3	5区2面113住居遺物出土状態	西から	
	2	5区1面194土坑全景	東から	4	5区2面113住居カマド	西から	
	3	5区1面195土坑全景	東から	5	5区2面113住居掘り方	西から	
	4	5区1面196土坑全景	東から	6	5区2面113住居カマド掘り方	西から	
	5	5区1面101ビッド全景	南から	7	5区2面114住居全景	西から	
	6	5区1面102ビッド全景	東から	8	5区2面114住居カマド	西から	
	7	5区1面3河道全景	南から	PL.123	1	5区2面114住居掘り方	西から
	1	5区2面空堀	北上空から		2	5区2面115住居掘り方	西から
	2	5区2面空堀	南上空から	3	5区2面116住居全景	南東から	
	PL.114	1	5区2面空堀	東上空から	4	5区2面117住居全景	北から
2		5区2面空堀	西上空から	5	5区2面118住居全景	西から	
PL.115	1	5区2面93住居全景	西から	6	5区2面118住居カマド	西から	
	2	5区2面93住居カマド	西から	7	5区2面118住居掘り方	西から	
PL.116	3	5区2面93住居掘り方	西から	8	5区2面118住居カマド掘り方	西から	
	4	5区2面94住居全景	西から	PL.124	1	5区2面119住居全景	西から
	5	5区2面94住居掘り方	西から		2	5区2面119住居カマド	西から
	6	5区2面94・95住居掘り方	西から	3	5区2面119住居掘り方	西から	
	7	5区2面95住居全景	西から	4	5区2面120住居全景	西から	
	8	5区2面97住居全景	西から	5	5区2面120住居カマド	北西から	
	1	5区2面97住居掘り方	西から	6	5区2面120住居掘り方	西から	
	2	5区2面101住居全景	南から	7	5区2面120住居カマド掘り方	北西から	
	3	5区2面101住居掘り方	西から	8	5区2面121住居全景	西から	
	4	5区2面102住居全景	東から	PL.125	1	5区2面121住居カマド煙突部	西から
5	5区2面102住居須恵器椀(1237)出土状態	北東から	2		5区2面121住居カマド煙突部遺物出土状態	北から	
6	5区2面103住居全景	西から	3	5区2面121住居カマド煙突部	北西から		
7	5区2面103住居カマド	西から	4	5区2面121住居南半部	西から		
8	5区2面103住居掘り方	西から	5	5区2面121住居貯蔵穴掘り方	西から		

	6	5区2面121住居廻り方	西から	PL-134	1	5区2面136住居須忠郎杯(1437)出土状態	南東から
	7	5区2面121住居カマド燻煙部廻り方	西から	2	5区2面136住居遺物出土状態	西から	
	8	5区2面121住居カマド燻煙部廻り方	西から	3	5区2面136住居カマド	北西から	
PL-126	1	5区2面122住居全景	西から	4	5区2面136住居カマド廻り方	北西から	
	2	5区2面122住居遺物出土状態1	西から	5	5区2面136住居カマド上層断面E-E'	北西から	
	3	5区2面122住居遺物出土状態2	西から	6	5区2面136住居廻り方	北から	
	4	5区2面122住居遺物出土状態3	西から	PL-135	1	5区2面137住居上層断面B-B'	南から
	5	5区2面122住居2カマド1	北西から	2	5区2面137住居全景	北から	
	6	5区2面122住居2カマド2	北西から	3	5区2面137住居鉄製臼(1440)出土状態	北西から	
	7	5区2面122住居2カマド3	西から	4	5区2面137住居須忠郎杯(1444)出土状態	西から	
	8	5区2面122住居2カマド4	北西から	5	5区2面137住居廻り方	北から	
PL-127	1	5区2面122住居2カマド5	北西から	6	5区2面137住居カマド廻り方	北西から	
	2	5区2面122住居廻り方	西から	7	5区2面138住居全景	西から	
	3	5区2面122住居2カマド廻り方	北西から	8	5区2面138住居遺物出土状態	東から	
	4	5区2面122住居1カマド廻り方	西から	PL-136	1	5区2面138住居カマド	北西から
	5	5区2面124住居全景	西から	2	5区2面138住居廻り方	西から	
	6	5区2面124住居カマド	北西から	3	5区2面138住居カマド廻り方	北西から	
	7	5区2面124住居廻り方	西から	4	5区2面8型穴全景	南から	
	8	5区2面124住居カマド廻り方	北西から	5	5区2面8型穴遺物出土状態	南東から	
PL-128	1	5区2面124住居貯蔵穴	南から	6	5区2面34溝全景	南西から	
	2	5区2面125住居全景(石124住居)	西から	7	5区2面36溝a上層断面	南から	
	3	5区2面125住居カマド	西から	PL-137	1	5区2面34溝・36溝a全景	北東から
	4	5区2面125住居廻り方	西から	2	5区2面36溝a全景	北西から	
	5	5区2面125住居カマド廻り方	西から	3	5区2面36溝b全景	西から	
	6	5区2面126住居上層断面A-A'	南から	4	5区2面13息全景	西から	
	7	5区2面126住居全景	西から	5	5区2面14息全景	南西から	
	8	5区2面126住居カマド	西から	6	5区2面15息全景	西から	
PL-129	1	5区2面126住居廻り方	西から	7	5区2面16息全景	西から	
	2	5区2面126住居カマド廻り方	西から	8	5区2面17息全景	南から	
	3	5区2面126住居貯蔵穴遺物出土状態	東から	PL-138	1	5区2面174土坑全景	北から
	4	5区2面127住居全景	北西から	2	5区2面174土坑遺物出土状態	北から	
	5	5区2面127住居カマド	北西から	3	5区2面175土坑全景	北から	
	6	5区2面127住居遺物出土状態	南西から	4	5区2面177土坑全景	東から	
	7	5区2面127住居廻り方	北西から	5	5区2面177土坑上層断面	東から	
	8	5区2面127住居カマド廻り方上層断面C-C'	南から	6	5区2面178土坑全景	南から	
PL-130	1	5区2面127住居カマド廻り方	北西から	7	5区2面179土坑全景	西から	
	2	5区2面128住居全景	西から	8	5区2面197土坑全景	東から	
	3	5区2面128住居カマド	北西から	9	5区2面198土坑全景	西から	
	4	5区2面128住居廻り方	北から	10	5区2面199土坑全景	北東から	
	5	5区2面129住居全景	西から	11	5区2面200土坑全景	東から	
	6	5区2面129住居遺物出土状態	南から	12	5区2面211土坑全景	東から	
	7	5区2面129住居カマド燻煙部	西から	13	5区2面212土坑全景	東から	
	8	5区2面129住居廻り方	北から	14	5区2面213土坑全景	西から	
PL-131	1	5区2面129住居土坑1	西から	15	5区2面214土坑全景	北東から	
	2	5区2面130住居全景	西から	PL-139	1	5区2面215土坑全景	北東から
	3	5区2面130住居遺物出土状態1	西から	2	5区2面216土坑全景	北から	
	4	5区2面130住居遺物出土状態2	西から	3	5区2面217土坑全景	東から	
	5	5区2面130住居カマド	西から	4	5区2面218土坑全景	南から	
	6	5区2面130住居廻り方	北から	5	5区2面219土坑全景	南から	
	7	5区2面131住居廻り方	北から	6	5区2面220土坑全景	東から	
	8	5区2面131住居土坑1	北から	7	5区2面221土坑全景	南から	
PL-132	1	5区2面132住居全景	西から	8	5区2面222土坑全景	南から	
	2	5区2面132住居カマド	西から	9	5区2面223土坑全景	西から	
	3	5区2面132住居廻り方	北から	10	5区2面224土坑全景	西から	
	4	5区2面133住居全景	西から	11	5区2面225土坑全景	東から	
	5	5区2面133住居遺物出土状態	北から	12	5区2面226土坑全景	東から	
	6	5区2面133住居廻り方	西から	13	5区2面227土坑全景	南から	
	7	5区2面133住居廻り方西壁前溝	北から	14	5区2面228土坑全景	南東から	
	8	5区2面133住居土坑1	北西から	15	5区2面229土坑全景	南から	
PL-133	1	5区2面134住居全景(右奥133住居)	北西から	PL-140	1	5区2面230土坑全景	南から
	2	5区2面134住居カマド炭化物出土状態	西から	2	5区2面231土坑全景	東から	
	3	5区2面134住居廻り方	北西から	3	5区2面232土坑全景	東から	
	4	5区2面135住居全景	西から	4	5区2面233土坑全景	南東から	
	5	5区2面135住居カマド	西から	5	5区2面234土坑全景	南から	
	6	5区2面135住居廻り方	北から	6	5区2面235土坑全景	西から	
	7	5区2面136・137住居上層断面A-A'	北東から	7	5区2面236土坑全景	西から	
	8	5区2面136住居全景	北から	8	5区2面237土坑全景	北から	

	9	5区2画238土坑全築	南から	2	5区2画335土坑全築	東から		
	10	5区2画239土坑全築	南西から	3	5区2画336土坑全築	北西から		
	11	5区2画240土坑全築	南西から	4	5区2画337土坑全築	東から		
	12	5区2画241土坑全築	南西から	5	5区2画338土坑全築	南東から		
	13	5区2画242土坑全築	南西から	6	5区2画339土坑全築	南から		
	14	5区2画243土坑全築	東から	7	5区2画340土坑全築	南から		
	15	5区2画244土坑全築	南東から	8	5区2画341土坑全築	南から		
PL.141	1	5区2画245土坑全築	南から	9	5区2画342土坑全築	南東から		
	2	5区2画246(右)・317土坑全築	西から	10	5区2画343土坑全築	南から		
	3	5区2画247土坑全築	南西から	11	5区2画344土坑全築	南西から		
	4	5区2画248土坑全築	北東から	12	5区2画345土坑全築	西から		
	5	5区2画249土坑全築	東から	13	5区2画346(右)・347土坑全築	西から		
	6	5区2画250土坑全築	東から	14	5区2画348土坑全築	東から		
	7	5区2画251土坑全築	東から	15	5区2画349土坑全築	西から		
	8	5区2画252土坑全築	南から	PL.146	1	5区2画350土坑全築	北西から	
	9	5区2画253土坑全築	南から		2	5区2画103ビット全築	南から	
	10	5区2画254土坑全築	南から		3	5区2画104ビット土断新築	南東から	
	11	5区2画255土坑全築	南から	4	5区2画105ビット全築	西から		
	12	5区2画256土坑全築	東から	5	5区3画空堀	ほぼ垂直方向から		
	13	5区2画257土坑全築	南から	PL.147	1	5区3画北部落ち込み土断新築A-A'	南から	
	14	5区2画258土坑全築	南東から		2	5区3画46溝北部	北から	
PL.142	15	5区2画259土坑全築	南から	PL.148	1	5区3画47溝a北部	北から	
	1	5区2画260土坑全築	北東から		2	5区3画47溝a北部	南から	
	2	5区2画261土坑全築	東から	PL.149	1	5区3画南西部谷地南東部空堀	東上空から	
	3	5区2画262土坑全築	南から		2	5区3画水田空堀	北上空から	
	4	5区2画263土坑全築	南東から	PL.150	1	5区3画水田空堀	南上空から	
	5	5区2画264土坑全築	北から		2	5区3画水田空堀	東上空から	
	6	5区2画265土坑全築	東から	PL.151	1	5区3画水田空堀	西上空から	
	7	5区2画266土坑全築	南から		2	5区3画北部落ち込み空堀	ほぼ垂直方向	
	8	5区2画267土坑全築	東から	PL.152	1	5区3画水田空堀	北上空から	
	9	5区2画268(右)・270(左)土坑全築	西から		2	5区3画水田空堀	南上空から	
	10	5区2画269土坑全築	北から	PL.153	1	5区3画水田空堀	西上空から	
	11	5区2画270土坑全築	西から		2	5区3画水田空堀	東上空から	
	12	5区2画301土坑全築	南東から	PL.154	1	区17・20・22・23・25住居出土遺物		
	13	5区2画302土坑全築	東から		PL.155	1	区98~100住居、1墓坑、26・27・40溝、1埴土出土遺物	
	14	5区2画303土坑全築	南西から		PL.156	1	区47・207・278土坑、遺構外、2区1~3住居出土遺物	
PL.143	15	5区2画304土坑全築	北東から		PL.157	2	区3・4・6・8住居出土遺物	
	1	5区2画305土坑全築	東から		PL.158	2	区8・10・13~15住居、1・3・4貯穴出土遺物	
	2	5区2画306土坑全築	北から		PL.159	2	区3溝、7・16・19・36・43・44土坑、7ビット、遺構外、3区11・12住居、8溝、11・14土坑、11ビット、遺構外出土遺物	
	3	5区2画307土坑全築	南東から		PL.160	4	区21・26・28・30・34住居出土遺物	
	4	5区2画308土坑全築	南から		PL.161	4	区29・31・36・37住居出土遺物	
	5	5区2画309土坑全築	西から		PL.162	4	区38・40住居出土遺物	
	6	5区2画310土坑全築	西から		PL.163	4	区41・42・44~51住居出土遺物	
	7	5区2画311土坑全築	南から	PL.164	4	区52~59・61住居出土遺物		
	8	5区2画312土坑全築	南から	PL.165	4	区60・62・63住居出土遺物		
		9	5区2画313土坑遺物出土状態	南東から	PL.166	4	区64~67・71住居出土遺物	
	10	5区2画313土坑全築	南東から	PL.167	4	区72~76住居出土遺物		
	11	5区2画314土坑全築	南から	PL.168	4	区77~79・81・83・85住居出土遺物		
	12	5区2画315土坑全築	東から	PL.169	4	区84・87住居出土遺物		
	13	5区2画316土坑全築	南東から	PL.170	4	区87・91住居出土遺物		
	14	5区2画317土坑全築	西から	PL.171	4	区89・139~141住居出土遺物		
PL.144	15	5区2画318土坑全築	北から	PL.172	4	区142・143住居出土遺物		
	1	5区2画319土坑全築	東から	PL.173	4	区143・146・148~152住居出土遺物		
	2	5区2画320土坑全築	東から	PL.174	4	区152~155住居、7・10・12・13貯穴出土遺物		
	3	5区2画321土坑全築	南から	PL.175	4	区14・16・21a・27・42・45溝、1製鉄炉出土遺物		
	4	5区2画322土坑全築	東から	PL.176	4	区1・2製鉄炉出土遺物		
	5	5区2画323土坑全築	東から	PL.177	4	区2・3製鉄炉、1鍛冶工房出土遺物		
	6	5区2画324土坑全築	南西から	PL.178	4	区1鍛冶工房、77・105・139・165・170・299・383・394・395・400・429土坑出土遺物		
	7	5区2画325土坑全築	東から	PL.179	4	区421・422・427・444土坑、121ビット、水田、遺構外出土遺物		
	8	5区2画326土坑全築	東から		PL.180	5	区93・97・102・104・107・109住居出土遺物	
	9	5区2画327土坑全築	西から		PL.181	5	区110~114・116・118~120住居出土遺物	
10	5区2画328土坑全築	南東から	PL.182		5	区121住居出土遺物		
11	5区2画329土坑全築	西から	PL.183		5	区122・125・126・128~130・133・136住居出土遺物		
12	5区2画330土坑全築	南から	PL.184		5	区135・137・138住居、174・175・197・211・239・263・269・345土坑、8貯穴、3河道、遺構外出土遺物		
13	5区2画331土坑全築	南から						
14	5区2画332土坑全築	北西から						
15	5区2画333土坑全築	南から						
PL.145	1	5区2画334土坑全築	北から					

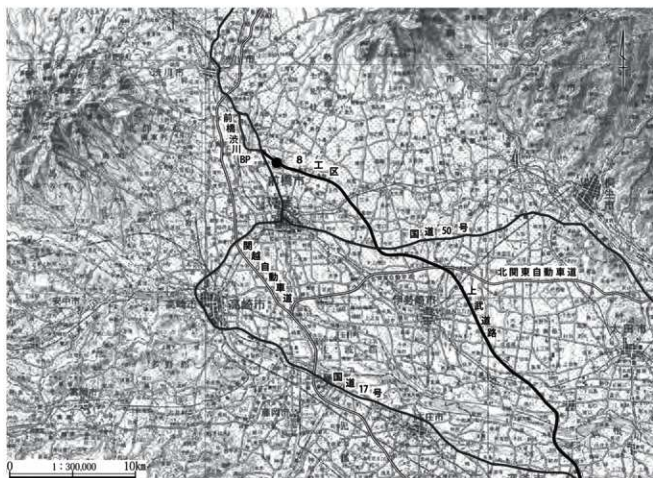
第1章 調査に至る経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑の緩和と地域活性化を目的として計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市西別府で深谷バイパスから分岐する地点から、群馬県前橋市田口町で一般国道17号線と交差し且つ上武道路と同じ一般国道17号のバイパス線である前橋洗川バイパスに接続する地点までの、延長約40.5kmの大規模バイパス道路である。また上武道路は、国に於いては平成10年に計画路線の指定を受けた地域高規格道路「熊谷洗川連絡道路」の一部区間であり、一方、群馬県に於いては「幹線交通乗り入れ30分構想」の中で主要幹線のひとつに位置付けられている。

そもそも上武道路建設の企画は、首都圏整備法(昭和

31年法律第83号)に基づいて設置された首都圏整備委員会での昭和31・32年度(1956.4-1958.3)の検討の点まで遡る。同委員会では既存の道路に対するバイパス線に関する検討も行っていたが、一般的な市街地をバイパスする路線とは別に「大きく幾つかのバイパス線を考えて」おり、このうち首都から放射線に延びるバイパスとして、東京から横浜方面に抜ける第3京浜線と共に「1級国道17号線について前橋、本庄間のバイパス」が取り上げられている(首都圏整備委員会1958)。この時点で「上武道路」という呼称があったか否かを確認することはできていないが、前橋市街地から(伊勢崎を經由し)本庄市街地を結ぶ東に張り出す弧状の想定路線が「首都圏連絡幹線道路網図」に示されている(第2図)。その後、昭和37年までの間に特段の動きはなかったが、昭和39年3月27日付の「首都圏整備委員会告示第1号」でその整備が告示



第1図 上武道路と道跡の位置 (国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)



第2図 一般国道17号線バイパス計画路線概要図

(首都圏整備委員会「首都圏整備」(1958)に加筆)

され、昭和44年1月の『首都圏整備』(首都圏整備委員会1969)に附された「首都圏整備の長期展望」に「上武国道」の呼称と整備が明記されるに至った。

上武道路の建設は昭和45年度に着手され、平成4年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km区間が供用が開始された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20年6月に暫定2車線で供用開始された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17年度に事業が着手され、平成24年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間が暫定開通し、全線開通までの最終3.5km区間の発掘調査と工事が進められている。

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地が多く分布する地域である。群馬県は昭和48年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められて

きた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3区間に分けることができる。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行され、平成7年には冊子総集編「地域をつなぐ 未来へつなぐー上武道路埋蔵文化財22年の軌跡ー」が刊行された。この総集編では平野部での発掘調査や「芳郷」の黒書土器出土で話題となった古代勢多部の芳賀郷、中世「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

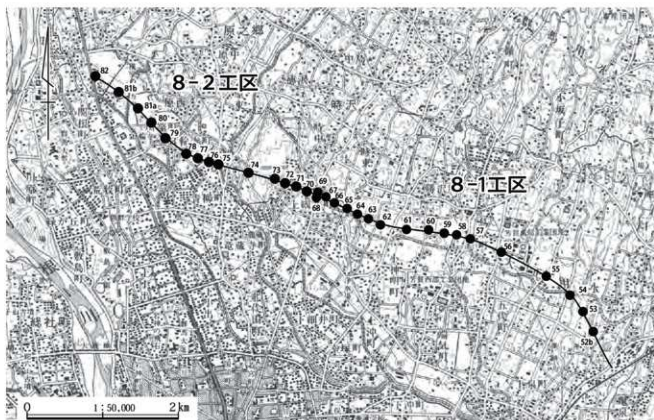
国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で検出された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、31箇所の遺跡、約40万㎡が埋蔵文化財の調査対象となっている。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8-1工区、西が8-2工区と呼ばれている。調査は、平成18年度に8-1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23年度からは8-2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8-1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8-2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が明らかになった。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器までの遺物が確認された。また広瀬桃木低地帯では最西端の田口下田尻遺跡で大集落が調査され、従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

表1 上武道路8工区道跡一覧

JKNa	道跡名	所在地	市町村 道跡番号	調査年度	報告書 発行年度
52b	上泉唐ノ屋道跡	前橋市 上泉町	00774	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚道跡群	前橋市 上泉町	00775	平成18・19・20年度	平成23年度
54	上泉武田道跡	前橋市 上泉町	00773	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留道跡群	前橋市 五代町	00772	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部市地道跡	前橋市 五代町・鳥取町	00357	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下道跡	前橋市 鳥取町	00776	平成20年度	平成23年度
58	御城道跡	前橋市 鳥取町	00041	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田道跡	前橋市 勝沢町		調査除外	
60	堤道跡	前橋市 勝沢町	00034	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢城道跡	前橋市 小神明町	00778	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚道跡	前橋市 小神明町・上堀井町	00403	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口道跡	前橋市 上堀井町	00125	平成20年度	平成23年度
64	荘子道跡	前橋市 上堀井町	00134	平成20年度	平成24年度
65	上堀井五十嵐道跡	前橋市 上堀井町	00777	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東照屋谷戸道跡	前橋市 上堀井町	00131	平成20・21年度	平成25年度
67		前橋市 富士見町	90094	平成20・21年度	平成25年度
68	上町・時沢西組屋谷戸道跡	前橋市 上堀井町	00798	平成21年度	平成24年度
69		前橋市 富士見町	90097	平成21年度	平成24年度
70	王久保道跡	前橋市 上堀井町・富士見町	00794	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上道跡	前橋市 上堀井町	00128	平成24年度	平成26年度予定
72	上堀井中島道跡	前橋市 上堀井町	00787	平成21・24年度	平成25年度
73	上堀井柳山道跡	前橋市 上堀井町	00786	平成21・24年度	平成24年度
74	山王・楽道跡群	前橋市 青柳町	00795	平成21・22・23・24年度	平成27年度予定
75	引切塚道跡	前橋市 青柳町	00434	平成24年度	平成26年度予定
76	青柳筋上道跡	前橋市 青柳町	00325	平成24年度	平成26年度予定
77	日輪寺裏筋道跡	前橋市 日輪寺町		調査除外	
78	薬坊道跡	前橋市 日輪寺町	00144	調査除外	
79	川端稲岸道跡	前橋市 川端町	00807	平成24年度	
80	川端山下(道東)道跡	前橋市 川端町	00808	平成24年度	
81a	関根堀ヶ沢道跡	前橋市 関根町	00802	平成24年度	平成26年度予定
81b	関根赤城道跡	前橋市 関根町	00803	平成24年度	平成25年度
82	田口下田尻道跡	前橋市 田口町	00804	平成23年度	平成27年度予定



第3図 上武道路8工区の道跡 (国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用)

第1章 調査に至る経過

これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、「Jが上武、Kが国道を指す」Kを冠した遺跡略号が南側の起点から順次算用数字で付されている。8工区も、7工区の最終番号「J K52」に続けてこの略号を付したが、工区を跨ぐ「J K52（上京唐ノ堀遺跡）」は7工区分に「J K52 a」、8工区分には「J K52 b」を付けて区別した。また「J K59（鳥塚塚田遺跡）」は試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番としなかった（第1表）。また関根遺跡群は関根細ヶ沢遺跡、関根赤城遺跡、田口下田尻遺跡に分割されたが、田口下田尻遺跡を先行して「J K82」としたことから、関根細ヶ沢遺跡に81 a、関根赤城遺跡に81 bと遺跡略号を付した。

第3節 調査に至る経過

上武道路7工区の発掘調査は16年度末で終了した。その後平成16年度には国道17号の現道から西の前橋渋川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まっていた。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況から埋蔵文化財の用地内での包蔵は明確であったため、埋蔵文化財の発掘調査実施のための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18年(2006)2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18年10月1日～平成29年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお「協定書」は、平成18年6月20日付で、調査期間開始を3箇

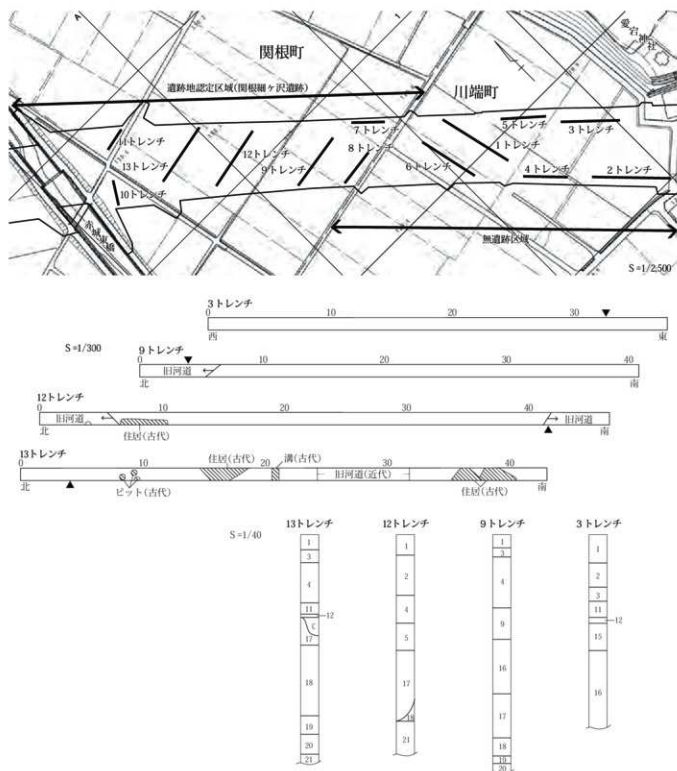
月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。

また各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18年4・5月、同年8月、同年12月、平成19年8月、同年12月、平成21年1月、同年4月～5月、同年9月、平成22年12月、平成23年、同年8月、同年10月の13回(23年度末現在)に亘って、8工区の試掘調査が実施された。

このうち、本遺跡を含む前橋市田口町・関根町・川端町を対象とした試掘調査は、平成22年(2010)12月6日～20日に実施されているが、延長1.3kmほどの対象地内に、約1m幅の試掘トレンチ50箇所を掘削して、遺構と出土遺物の有無の確認と、遺構が確認された場合は、遺構検出面の認定が行われた。

この試掘調査の中で、本遺跡を含む細ヶ沢川以東の地域では、路線に含まれる前橋市川端町136-2・137-1～2・138・139・140-1～3・141・180・181・182-1～2・183番地の区域に対して1～6トレンチの6本、同市関根町108-1～2・109・110・141-2、143・144-1、144-3、145-1～2、145-4、153-1～2146、147-1番地の区域に対して7～13トレンチの7本のトレンチを設定し、試掘調査が行われている。その結果「事業地のうち、細ヶ沢以東(1～13トレンチ)では洪水起源と見られる砂礫層を複数枚確認し、頻繁に洪水に見舞われていることが判明」した。そして、東半の1～6トレンチの範囲(川端町分)には遺構が確認されず、遺跡ではないという判定がなされ、一方、西半の7～13トレンチの範囲(関根町分)では中位の12・13トレンチで古代の竪穴住居が確認されるなどしたため、遺跡として認定され、発掘調査が必要との判断がなされた。

この平成22年12月6日～20日の前橋市田口町・関根町・川端町に対する試掘結果は国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所長に通知され、平成18年2月16日付で国土交通省関東地方整備局長、群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の三者で締結した「協定書」の定めるところにより、平成24年度(2012年4月～2013年3月)に本調査が実施されることとなり、平成24年2月26日付けで群馬県教育委員会教育長(文化財保護課)から当事業団へ関根遺跡群(関根細ヶ沢遺跡、



第4図 試掘調査(上:トレンチ設定図 中:トレンチ平面平面概略図 下:土層図 平面図は前橋市都市計画図に加筆)

関根赤城遺跡)遺跡ほか9遺跡の発掘調査の依頼が出された。

これを受けて、平成24年2月13日付で、国土交通省関東地方整備局長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月1日より「公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査

事業団)理事長との間に発掘調査の委託契約が締結され、当事業団が本遺跡を含む11遺跡の本調査を実施することとなったのである。当初契約では調査・履行期間は平成24年4月1日～平成25年3月31日であった。

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

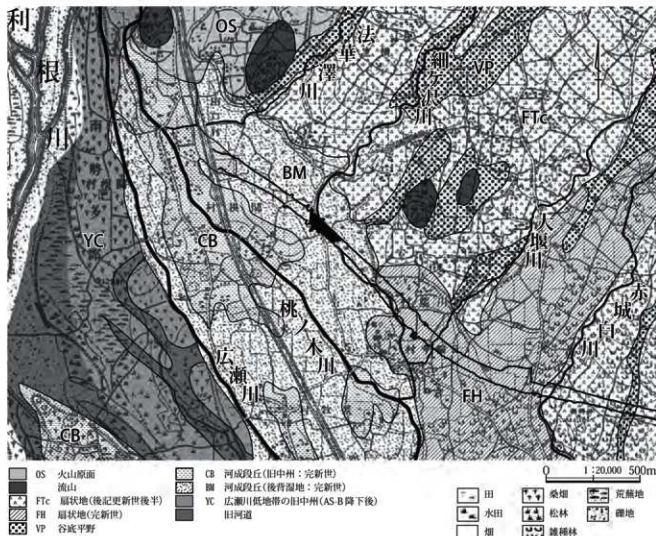
1 地理的環境

関根細ヶ沢遺跡は、群馬県中南部に位置し、そこは関東平野の北西最奥近くに当たる。

本遺跡は群馬県庁及び前橋市役所の北方5km程に位置する。近隣は水田地帯であり、本遺跡はその一角に在る。この水田地帯の南西には前橋市関根町の元々の集落、南東には同市川端町の集落が近接している。本遺跡付近は、戦後しばらくまでは典型的な農村地帯であったが、その後、本遺跡の西南西方向に群馬大学荒牧キャンパスが、

西方には群馬県総合スポーツセンターが建設され、同センター以南の区域を中心に住宅団地が造成されている。また近年の一般国道17号の拡幅に伴って、関根町交差点以南の国道17号沿いには商業施設も展開するなど、市街化が進んできている。

さて東京と新潟を結ぶ一般国道17号(旧道)は、本遺跡の西側450mを北北西-南南東方向に走行する。旧道は群馬県内にあって、路線バスの運行本数も多い主要道路である。また国道17号は本遺跡の西北西の前橋市田口町の田口町南交差点からは国道17号のバイパス線である前橋渋川バイパスが西に分岐し、同バイパスは西進して利根川を渡り、走行を北に転じて北方の渋川市に向けて



第5図 関根細ヶ沢遺跡周辺の地形と地質(1/2万縮尺陸軍迅速図明治18年「金子驛」「前橋」に加筆)

走行している。また、本稿執筆現在(平成26年)には未だ完成していないが、上武道路も田口町南交差点で前橋渋川バイパスに接続する計画で建設が進められており、その完成によって本遺跡付近は一般国道17号(旧道)と、同国道のバイパスである上武道路、前渋バイパスの交差する交通の要衝となる。この他、南北の交通路として、利根川の対岸、本遺跡の西方2.4kmにはJR上越線、3.6kmには関越自動車道が凡そ南北方向に走行している。

一方、本遺跡の西方1.8kmには「坂東太郎」とも称される利根川が南流している。利根川は大水上山を水源とし、現在は太平洋に注ぐ全長322kmの関東随一の河川であるが、本遺跡付近は上流部に当たる。この利根川の旧流路の辺りを流れているとされるのが、広瀬川と桃ノ木川である。このうち広瀬川は本遺跡の西側1650mを南流するが、本遺跡の北方、渋川市北橋町の坂東合口で取水し、利根川沿いの自然堤防に沿って南流している。また現在では広瀬川から分水される桃ノ木川は、本遺跡の南東850m地点通過して後述する河成段丘を縦断するように南南東に向かって流下している。一方、赤城山に源を発する法華沢川、細ヶ沢川、大堰川や赤城白川等の中小河川は、山麓を開析しながら沖積地へ下っているが、第5図に示した大堰川以北の河川では直線的に短く桃ノ木川に流入し、赤城白川(以南)は屈曲して、一旦は桃ノ木川に並走するように流れてから桃ノ木川に合流している。また細ヶ沢川は現在では本遺跡に西接して南流しているが、河川改修が行われる以前の細ヶ沢川は、本遺跡の東側を流下していたのである。従って本遺跡は田口下田尻遺跡や関根赤城遺跡と共に細ヶ沢川右岸部に在ったことが、明治年間の地図からは窺われるのである。尚、広瀬川、桃ノ木川、細ヶ沢川等は農業用水としても利用されているが、農業用水路としては、昭和27年に開通し坂東合口を取水口とした大正用水が、本遺跡の東方250mに開削され、東南流している。

沖積地における近代の集落は、明治18年測図の陸軍迅速図(第5図)に示したように、赤城山麓地帯にも営まれているが、沖積地に於ける集落は、沖積地の微高地等に営まれている。また耕地は畑地と水田に分かれるが、これらの水田耕作は近世中期の前橋藩主酒井忠孝による用水の整備を伴う新田開削によるものであり、従前は桃ノ木川や小河川沿いに細々と営まれていたに過ぎない。

2 地質的環境

本遺跡は、北東側の更新世の火山である赤城山と、西方の南流する利根川に挟まれた平坦部に在るが、赤城山麓まで300m程、利根川までは1.8km程と山側に寄った位置に在る。また利根川の対岸には、更新世から完新世にかけての火山である榛名山が在り、その山麓は利根川近くまで迫っている。

第5図に示した範囲に見られる地質形成は、何れも新生代第4紀の更新世中期或いは後期から完新世にかけてのものである。図の右上半部に示される赤城山麓の基盤層を形成した赤城山の造山活動は、40~50万年前に始まり、4万5千年前までに完了するものであった。この造山活動のうち新期造山活動(13万年-4.5万年)期には火砕流によって、第5図右上の区域は火山原面(OS)であるが、当該区域付近は溶結凝灰岩等から成る棚下火砕流堆積物によって覆われ、流れ山も形成される。また、山頂部の解析で生じた土砂が流下した山麓堆積物(礫、砂、ローム)によって、第5図右下の付近で白河扇状地(FC)が形成されているが、白河扇状地には新旧があり、新しい時期の扇状地は、完新世に新たに形成された扇状地(FH)であり、扇状地には浸食によって谷底平野(VP)が形成されている。

一方、赤城山と利根川に挟まれた低地部は、完新世の利根川の流れによって形成された沖積地であり、河成段丘が見られる。この河成段丘は旧中洲(CB)と後背湿地(BM)に分けられ、本遺跡は後者の上に立地している。また利根川沿いには広瀬川低地帯の旧中洲(C)の広がりが見られるが、この旧中洲は利根川の自然堤防を形成している。この自然堤防の形成時期は、As-B降下(A.D.1108)以降とされているが、田口上田尻遺跡の古墳時代の集落の遺存状況に鑑みれば、その形成は古墳時代前期までが遡る可能性が考慮されるのである。また広瀬川低地帯の旧中洲(C)の利根川寄りには旧河道の痕跡も見られ、往時の利根川に複雑な流路の変更の様子が窺われるのである。

以上のように本遺跡は、完新世に形成された河成段丘の後背湿地(BM)上に立地している。しかしながら、利根川に対しては自然堤防の存在によって、直接その影響を受けることは無く、洪水等の自然災害時を除いて、比較的安定した環境にあったものと認識されるのである。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺遺跡の遺跡分布は、第6図に示したが、右上半の赤城山麓地域と、左下半の低地部地域とで、遺構の分布に明らかな違いがある。

1 旧石器時代

また第6図に示した範囲で旧石器時代の遺跡として確認されるのは赤城山麓地域に限られ、沖積地は更新世には利根川の流路であった可能性がある。そのため、旧石器時代の遺物の包蔵されている遺跡では青柳宿上遺跡(43)、山王・柴遺跡(47)、上細井蛭山遺跡(48)を確認できずに過ぎなかった。

2 縄文時代

本遺跡周辺地域の縄文時代の遺跡(遺構)も、その分布は赤城山麓に限定され、平野部での分布は見られない。また第6図に示した範囲では草創期、早期、晩期の遺構

は確認されていない。

第5図に図示した範囲では早期の遺物包含層が青柳宿上遺跡、引切塚遺跡(46)で確認されている。また前期の遺跡では田中田遺跡(14)、陣馬遺跡(9)の二遺跡で集落遺跡が確認されている。中期の遺跡としては、久久保遺跡(38)で集落が確認されている。後期の遺跡では陣馬遺跡で後期の住居2軒が確認され、引切塚遺跡からは晩期の遺物の出土も見られている。

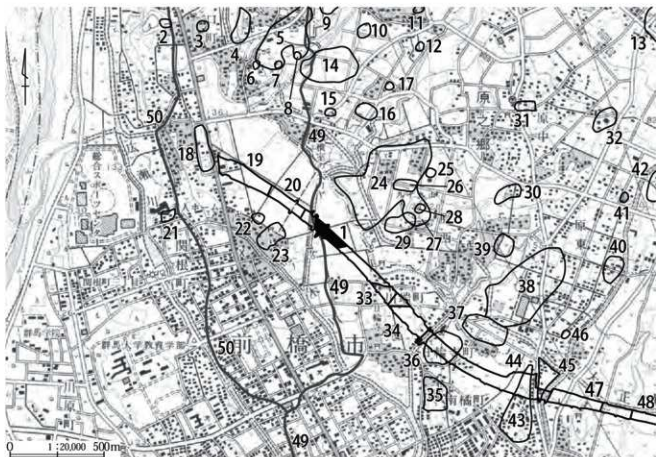
3 弥生時代

第6図に示した範囲の弥生時代の遺跡の分布は、赤城山麓(赤城白川扇状地)に限られ、遺跡数も少ない。

上記の範囲で確認された遺跡には田中田遺跡、原之郷山ノ後遺跡(25)、川端根岸遺跡(34)、久久保遺跡、引切塚遺跡がある。

4 古墳時代

古墳時代に入ると遺跡の分布域が広がり、平野部にもその分布が及んでいる。本遺跡付近はもともと沖積地で



第6図 関根細ヶ沢遺跡周辺の分布図(国土地理院1/25,000地形図「前橋」(湧川)を使用し加筆)

あることから、古い時代の遺跡は遺残していないものと認識されていたが、平成18年からの田口下田尻の発掘調査により、平野部に於いても古墳時代前期の集落遺構が確認されるに至り、従来の認識が覆されている。

さて古墳は低地部、山麓部の双方からの出土が見られるが、第6図に示した範囲では田口冠木遺跡(2)、塩原塚古墳(3)、田口八幡Ⅰ遺跡(7)、荒井古墳(17)、横室古墳(11)、が知られる。また近隣地区では唯一の前方後円墳とされる九十九山古墳(28)や、終末期古墳では陣馬遺跡が調査されている。

一方集落では、前期のものとして田中田遺跡があるが、田口上田尻遺跡(18)・田口下田尻遺跡(19)では70軒の住居が確認され、拠点集落であったことが窺われる。古墳時代中期は田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡で25軒の住居址が確認されている。また後期の集落は田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡で13軒、田中田遺跡で住居24軒が確認されているものの、他は小規模なもので下庄司東原遺跡、東篠遺跡が確認できているに過ぎない。

また、関根細ヶ沢遺跡(1)、田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡では畠の跡も確認されている。

5 古代

第6図示範囲の古代(飛鳥・奈良・平安時代)に於ける行政区分は、東山道下野国勢多郡(評)時沢郷(里)であると想定されている。そして、古代の遺跡は赤城山麓、低地部に分けられることなく、広く分布している。

このうち平野部(低地部)に於いて田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡では7世紀と10世紀を中心とする時期の集落が営まれ、関根赤城遺跡(20)でも10世紀後半から11世紀初頭にかけての集落が営まれている。この他、田口八幡Ⅰ遺跡・田口八幡Ⅱ遺跡(8)などに集落が確認され、赤城山麓部に於いては陣馬遺跡で集落が確認されている。

また田口下田尻遺跡では8世紀と10世紀、関根赤城遺跡では10世紀後半から11世紀の所産と見られる穀遺構が確認あるいは想定されている。

以上のように本遺跡及び関根赤城遺跡、田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡は東西に連なっており、10世紀中心の集落が営まれ、共に当該期の製鉄関連遺構が確認され、

或いは製鉄関連遺物が出土していることから、同一集落と見做すことができ、後述する沼田往還の古道の存在を想定すれば、10世紀から11世紀に製鉄を生業とする集落の存在が想定されるのである。

6 中世

第6図に示した範囲で、中世の遺跡は少なく、田口上田尻遺跡で15～16世紀の屋敷遺構と見られる遺構群などが確認されている程度である。

この他、城館址としては本遺跡の北東に近接して寄居としての機能も考えられている金山城址(24)があり、その南東隅部に張り出した九十九山はのろし台と考えられる九十九山砦(27)がある。また、本遺跡の南西方に、桃ノ木川に南を託す単郭方形の関根の寄居遺跡(22)がある。「寄居」は室町時代において関東管領上杉氏家宰の長尾氏と関連があるとされるものであるが、関根の寄居に拠った武士集団は南東の荒牧を領していたと考えられる荒時氏の配下にあったものと推定される。

また厩橋(前橋)と利根の沼田は共に戦略拠点であり、近世の沼田往還(49)の元となる道路があったと想定されており、本遺跡はその経路の直ぐ東に位置していたのである。

7 近世以降

近世において、本遺跡付近は前橋藩領であった。本遺跡周辺は一貫して農村地帯を形成し、現在のそれぞれの大字(町)が1箇村を形成していた。

本遺跡周辺の近世以降の遺跡として特筆されるものには、天明3年(1783)の浅間山の大噴火、所謂「浅間焼け」のとき発生した泥流被災地の遺跡がある。桃ノ木川の東側の田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡で屋敷跡、耕地復旧の天地返し痕跡である復旧溝群などが検出されているが、浅間焼けの泥流は自然堤防を越えることがなかったことが上武道路建設予定地の試掘調査等で確認されている。

一方、本遺跡に西接して南の厩橋(前橋)と北方の沼田地方とを結ぶ沼田往還が整備されていた。また沼田往還からは、明治期に清水越国道として整備される、清水新道(50)が分岐して北走していたが、現国道17号は鉄道馬車の路線として整備されたものである。

第2章 立地と環境

表2 周辺道跡一覧

No.	市町村道跡 番号	道跡名	旧石碓	構文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考	文献
1	802	関根堀ヶ沢道跡					○	○				
2	16811	田口冠木道跡				○					円墳4	21
3	149	塩原塚古墳				○					円墳1	13・24
4	150	千手堂道跡		○								
5	0004			○	○	○	○					
6	159	南橋35号墳				○						
7	1021(1186)	田口八幡1道跡				○	○	○			円墳1、平安住居14	24
8	1021(1187)	田口八幡2道跡				○	○	○			平安住居24	25
9	90019	陣場道跡		○		○	○	○			縄文前期住居7・中期住居15・後期住居2・土坑50以上、終末期円墳2、平安住居73	12
10	90122	横室中道跡		○		○					不明土坑	14
11	90013	横室古墳				○					円墳10	11・24
12	36	寄居道跡		○					○	○	中・近世溝4	11・24
13	90134	原之郷愛阿弥道跡		○		○						
14	90025	田中田道跡		○	○	○		○			縄文前期住居1・中期住居1、古墳前期住居37・後期住居24・溝1、他	10
15	90028	横室東沢1道跡				○						
16	90088	岩之下道跡		○		○	○	○			縄文土坑3、古墳住居9、奈良～平安住居15・掘立2、他	11
17	90020	荒井古墳				○					円墳1	11・24
18	755	田口上田尻道跡				○	○	○	○	○		
19	804	田口下田尻道跡				○	○	○	○	○		
20	803	関根赤城道跡										
21	771	関根内山道跡								○	江戸燧9・溝1	22
22	145	関根の寄居道跡							○		室明時代寄居か	3・26
23	146	関根寄居道跡				○						
24	90035	金山城址							○			3・26
25	90033	原之郷山ノ後道跡			○							
26		九十九古墳				○						22
27	90037	九十九山脊						○				3・26
28	90037	九十九山古墳				○					前方後円墳1	11・23
29	90032	原之郷善養寺道跡				○						
30	90140	原之郷後原道跡		○		○	○	○				
31	90141	原之郷中子道跡				○						
32	90115	原之郷御沢道跡		○				○				16
33	808	川端道東道跡					○	○				
34	807	川端根岸道跡			○		○	○				
35	767	南橋東原道跡					○	○				
36	144	鎌訪道跡				○						
37	90107	旭久保道跡		○		○		○				13
38	90031	旭久保道跡		○	○	○	○	○	○	○	中近世溝	13・15・17
39	90116	原之郷東原道跡		○		○	○	○				
41	90030	原之郷白川道跡				○						17
42	90073	時沢中島道跡				○						
43	325	青柳宿上道跡	○	○		○	○	○			昭和27年郡大史研調査	18
44	122	宿上道跡				○						
45	123	引切塚古墳				○						19
46	434	引切塚道跡		○	○	○	○	○				19・20
47	795	山王・柴道跡	○	○	○	○	○	○		○	上武道路調査 近世土坑墓・水田	6・7
48	786	上廻井神山道跡	○	○	○	○	○	○			上武道路調査	6
49		沼田往還							○	○		
50		清水新道										

※ 文献は巻末に記載

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

1 調査区の設定

関根細ヶ沢遺跡の埋蔵文化財調査対象区域は、前橋市川端町・関根町境の市道04-151号線から、西の一級河川細ヶ沢川の堤防に挟まれた東西約242m、幅約50mの区域である。尚、上記公道道路沿いは細ヶ沢川の旧河道であるため、東西の実質調査範囲は197mであった。

この調査区は、調査の効率に鑑みて、グリッドに依拠するのではなく、調査区内を走行する調査区の西寄りを北北西-南南東方向に横切る市道115号線、及びこれに直交する南側の市道04-148号線と北側の無番号の道路によって区画される5つの調査区を設定した(第7図)。即ち、市道115号線と細ヶ沢川の堤防に挟まれた区画のうち無番号の道路の南側の区画を1区、北側の区画を2区、市道115号線と市道04-148号線間の区画のうち、無番号の道路の北側を3区、南側を4区とし、市道04-148号線と市道04-151号線間の区域を5区とした。

2 グリッドの設定

グリッドは、8工区の起点である国家座標第IX系(世界測地系)X=45,000、Y=63,000を基準に設定した。上武道路調査区域の統一仕様では、1km四方が地区、その中の100m四方を区とし、さらに区の南東隅を基点に5mごとにX軸が南から1~20、Y軸が東からA~Tをつけて小区画に細分した。この表記は遺構の位置を示したり、遺物の取上げ、遺物注記などの作業で使われている。本遺跡は11地区に当たり、67・77・68~88区に所属する(第8図)。

また本遺跡も上武道路8工区までの仕様に従い、上武道路の略称「JK」を使用した略号を用いている。本遺跡は当初、関根遺跡群としてJK81を附していたが、関根遺跡群は本遺跡と関根赤城遺跡に分割したため、本遺跡はJK81aと遺跡略称が附けられている。

3 座標値

先述のように、本遺跡のX-Y座標は世界測地系の第IX系を利用し、グリッド設定の基準としている。後日、隣接地の発掘調査に利用する場合を考慮して、第8図左に天王遺跡を代表するX-Y座標値を掲載した。遺構名称では、天王B区15住居南隅のP5中央の座標値である。この地点の緯度・経度は、北緯36度25分27秒、東経139度05分07秒である。測量上必要な詳細値は、表に示した。なお、ここに示した座標値は平成20年度当時の値である。平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(3.11東日本大震災を引き起こした地震)の後で列島が動いて座標値が変動したとの情報があり、この座標値は地震前の値であることを付記する。

4 発掘調査の記録

現地調査では図面・写真及び調査所見を記録した。

図面は各遺構の平面図と断面図を作成した。平面図は電子平板によるデジタル測量を委託し、個別遺構は1/20の個別平面図の紙出力を作成した。断面図は平面図に対応する縮尺で発掘作業員が実測し、土層断面については調査担当者が注記を記入した。断面図は後日、デジタルトレースを委託した。

土層断面図の土層注記は調査担当者の観察に委ねたため、色名や硬さの記述について、不統一な部分が存在する。埋没土層には軽石粒を含む場合があるが、土層注記では確定できる場合を除き、「白色軽石」といった記述にとどめた。

遺構の記録写真はAPS-C版デジタルカメラ(800万画素)とモノクロフィルムを用いて撮影した。デジタル写真はRAWデータを記録したほか、JPG画像を同時記録し、後日の利用に備えた。モノクロフィルムは120タイプを利用し、6×7サイズで記録した。各区の全景写真は高所作業車から撮影した。

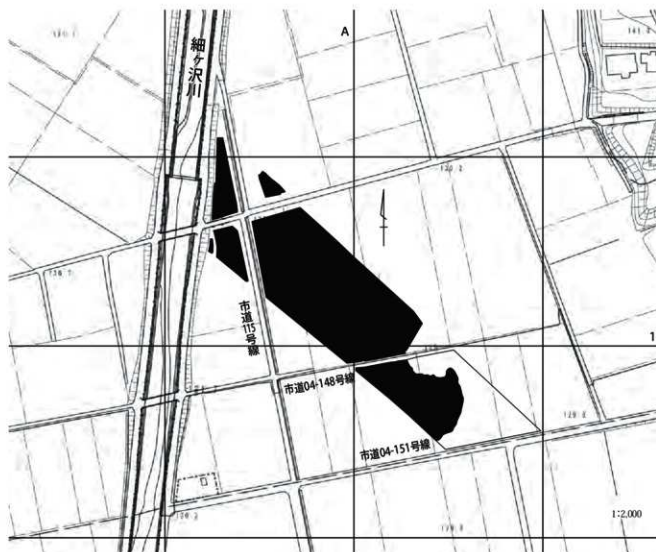
第2節 基本土層

本遺跡の土層は位置により堆積状況に違いがあるため、基本土層の設定は難しいが、凡そ以下ようになる。

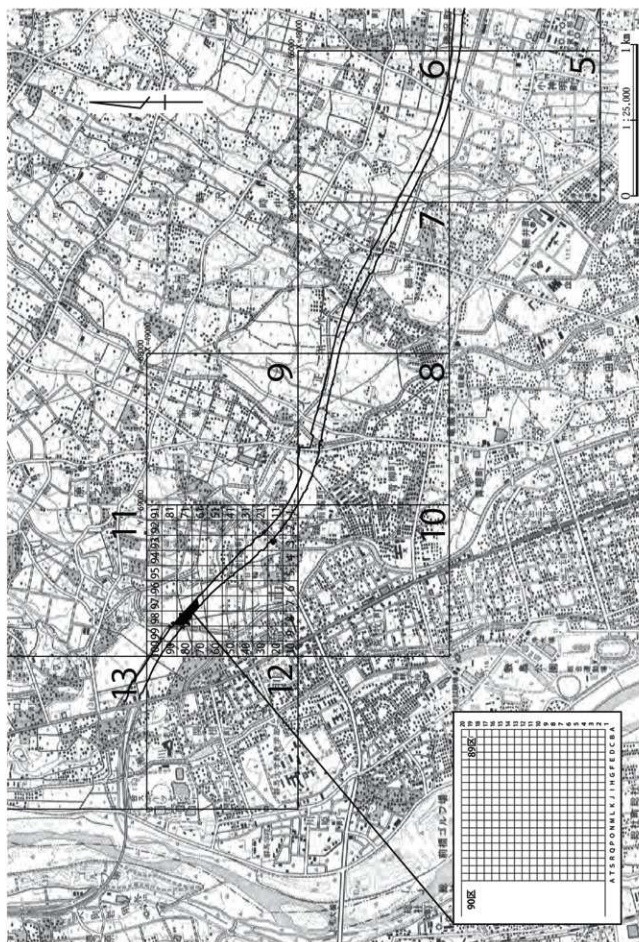
- 1 表土(現耕作土)
- 2 中・近世の水田耕作土層群(シルト質)
- 3 As-B混土層群
- 4 As-B層
- 5 Hr-FP泥流層群(シルト質)
- 6 Hr-FA泥流層群(シルト質)
- 7 Hr-FA層
- 8 As-C混土層群
- 9 砂礫層

本遺跡の基盤層は完新世を中心とする時期のものと思われる、利根川の河床礫から成る層(上述9層)である。その上にはAs-Cを含まないこともあるが、黒色土(8層)が乗り、更にHr-FA(7層)が堆積し、複数層に分層可能なHr-FA泥流層(6層)、Hr-FP泥流層(5層)が乗る。As-Bは一部に堆積が見られ(4層)、As-B混土層(3層)、更に中近世の耕作土(2層)が乗る。

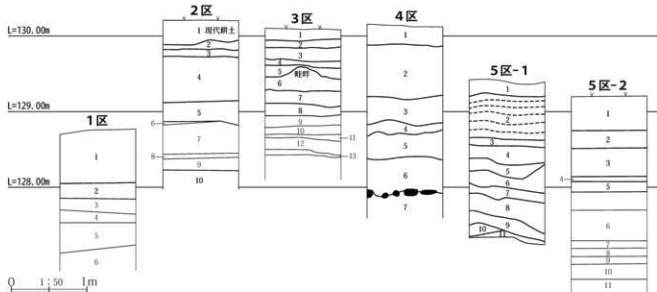
確認面は、全体としては3面あるが、1面はAs-B混土またはAs-B層下で、古代末から中世の遺構を対象とし、2面はHr-FA・Hr-FP泥流層中で、古墳時代後期から平安時代の遺構、3面はHr-FA下で、西暦500年前後の時期の遺構を対象としている。



第7図 調査区配置図



第8図 上武道路調査測量グリッド設定図(国土院開設1/25,000地形図「前橋」平成22年発行/深川平成14年発行を使用)



- | | | |
|--|--|--|
| <p>1K</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 黄褐色土(10YR5/6) シルト, 白色の軽石をわずかに含む。 2 に近い黄褐色土(10YR7/4) 粘り強いシルト質土, 軽石を少量含む混入物なし。1層と似ているが, ねばりが強い。 3 黄褐色土(7.5YR3/1) 粘土, As-Bを非常に多く含む。 4 暗褐色土(7.5YR3/3) 粘土, ねばり非常に強い, 褐色または白色軽石をわずかに含む。上層は3層に近く, 下層は5層に似ている。3層と5層の漸移層。 5 黄褐色土(7.5YR5/7) ややシルト質, ねばり弱。2層によく似た土質, 目立つ混入物なし, 下部に砂が盛っている。 6 微細 砂粒。 <p>2K</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代耕作土 2 灰褐色土(7.5YR4/2) ややシルト質, やや粘りあり。白色・褐色軽石, 砂などを含む。水による酸化が見られる。 3 暗灰色土(7.5YR4/1) ややシルト質, やや粘り有り。白色・褐色軽石とAs-Bを少量含む。 4 黄褐色土(7.5YR6/4) シルト質土, 締まりなし。 5 黒色土(7.5YR2/1) 粘性強い, As-C軽石を特に多く含むAs-C段土。 6 黒色土(7.5YR2/1) As-C軽石主体, 火山灰なし。 7 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘土質。 8 黒褐色土(7.5YR3/2) 粘り強い。4層と下層の6層が収収に似合った段土, 漸移層か。 9 黄褐色土(7.5YR6/4) シルト質土, 締まりなし。1層に似る。礫を含む。 10 微細 礫が主体, すべて円礫である。砂を含む。 | <p>3K</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代耕作土, 水田層。 2 表土, 水田床上下, 酸化鉄分を含んだシルト質土, 水田耕作土。 3 に近い黄褐色土(10YR5/3) シルト質土, 赤・軽石がわずかに混じる。水田耕作土。 4 に近い黄褐色土(10YR5/3) シルト質土, 酸化鉄分がわずかに混じる。水田耕作土。 5 に近い黄褐色土(10YR5/4) 白色鉱物を多く含む。 6 暗褐色土(10YR3/3) 粘性あり, 白色鉱物粒を多数含む。炭化物粒をわずかに含む。 7 暗赤褐色土(5YR5/6) シルト質土, 酸化鉄分を多く含む, 水田耕作土。 8 に近い赤褐色土(5YR4/4) 細砂粒土, 白色鉱物粒を含む。上層は細砂粒, 下層は中砂粒が堆積する。 9 暗褐色土(7.5YR3/3) 土壌は粘性あり, 中位~下位に白色鉱物粒と褐色粒を含む。水田耕作土。 10 赤褐色土(2.5YR4/6) 細砂粒土, 白色鉱物粒と褐色粒を多く含む。酸化鉄分が多い。 11 黒色土(7.5YR3/1) 白色鉱物粒を少量含む, 白色鉱物粒を多く含む。わずかに炭化物粒を含む。 12 黒褐色土(7.5YR3/1) 赤・軽石と中砂粒を, 褐色土ブロックを含むオミダシに堆積した河川堆積層。 13 褐色土(7.5YR6/0) シルト質土, 赤・FAの二次堆積物。 <p>4K</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表土 2 褐色泥水層(10YR4/6) 赤・珪を多量含む, 砂質。 3 褐色泥水層(10YR4/6) 赤・珪を少量含む, 砂質。 4 褐色泥水層(10YR4/6) As-Cを多量含む, 砂質, As-C段土, 土層に堆積したAs-Cの二次堆積, 洪水層。 5 黄褐色土(10YR5/4) 砂質, As-Cを微量含む, As-C段土, 土層に堆積したAs-Cの二次堆積, 洪水層。 6 黒色土(10YR2/1) As-Cを多量に含む, 砂質。 <p>※7層との間に非相対的に黄褐色土(10YR5/1)砂質土(Ae-B層)の下底層(8層)が所々で確認される。</p> <p>7 河川礫層</p> | <p>5K-1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表土 2 酸化鉄分を含んだ暗褐色土と灰褐色土の互層, 水田の単位。 3 灰褐色土, As-B軽石粒を含む。一部に赤褐色土(酸化鉄分を含む)が見える。 4 褐色土(7.5YR4/3) シルト質土, 赤・軽石粒を含む。 5 褐色土(7.5YR4/3) シルト質土, 赤・軽石粒を含む, 黄褐色火山灰(赤・FA成分)ブロックを含む。 6 に近い黄褐色土(10YR4/3) シルト, 赤・軽石粒を多量に含む。締まっている。 7 暗褐色土(10YR3/4) シルト, 赤・軽石粒を含む。締まっている。 8 褐色土(10YR4/6) 微砂層, 赤・FA軽石粒を少量含む。 9 暗褐色土(10YR3/4) 微砂~シルト, 赤・FA軽石粒を多量に含む。 10 に近い黄褐色土(10YR4/3) 微砂層, 赤・FA軽石粒を微量含む。 11 灰褐色土(10YR4/2) シルト質土, 黒色土ブロックを多量に含む。 <p>5K-2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表土 2 灰褐色土(7.5YR4/2) 3 暗灰色土(7.5YR4/1) シルト質土, 鉄分礫らを含む。 4 暗褐色土(7.5YR3/2) シルト質土, 鉄分多く含む。 5 黄褐色土(7.5YR5/1) 赤・珪を含む。 6 赤・珪泥流, 黄褐色, 黄白色シルト質土ブロック多く含む, 赤・珪を多量に含む。 7 灰褐色土(7.5YR4/1) シルト質土, 赤・珪を含む。 8 黄褐色土(7.5YR7/8) シルト質土, 赤・FA泥流, 赤・珪を多量に含む。 9 暗褐色土(7.5YR4/1) 中砂粒土, 礫から珪を含む。 10 暗褐色土(7.5YR5/6) 中砂粒土, 酸化鉄分を含む。 11 黄褐色土(7.5YR6/1) 細砂粒土 |
|--|--|--|

第9図 各区の標準的土層群(平面図 S=1/1,500 断面図 S=1/50)

第3節 調査の経過

本遺跡の発掘調査は、関根赤城遺跡調査チームが、同遺跡の終了に伴って転入、担当して実施した。本遺跡の調査準備は、関根赤城遺跡の発掘調査の末期に当たる平成24年7月2日に着手しているが、実質的な作業は同月31日の隣地境の除草作業より始められ平成25年3月29日の事務所撤去により完了している。

このうち本格的な発掘調査は同年8月3日の2区の表土掘削より始まるのであるが、後述のように調査区が細かく分断され、排土置き場の設定に苦労したことから、土砂を入れ替えながら、細かく分割しながらの調査となった。その経過は下に述べるが、全体としては1・2・3区の調査は1面調査で、1区の調査は平成24年10月に着手し、同年11月30日に終了、2区の調査は同年8月3日に着手し、翌平成25年1月29日に終了、3区の調査は平成24年8月4日に着手し、同月29日に終了している。4区と5区は3面調査で、このうち4区の調査は同8月10日より着手し、1面の調査は同月31日に終了し、2面の調査は同年9月4日の確認調査より着手し、平成25年2月14日に完了した後、同月25日より3面の調査に着手し、同年3月14日に終了している。5区の調査は平成24年10月18日に着手し、同年11月2日に1面の調査を終え、翌3日より2面の調査に着手し、平成25年1月31日に同面の調査を終了し、翌2月4日より3面の調査に着手して、同月22日に同面の調査を終えている。

以下、調査の概要を示す。

平成24年(2012)

【7月】

- 2日 発掘調査準備着手。
- 30日 境界付近除草。(～8月2日)。
- 31日 境界に柵設置。

【8月】

- 1日 県教区委員会文化財保護課石田指導主事来跡。
- 3日 2区表土掘削、遺構確認開始(～7日)。
- 6日 3区表土掘削(～10日)。
- 7日 2区遺構写真撮影・実測開始。3区遺構確認開始(～10日)。昭和期と思しき復旧溝確認。

- 8日 2区にて遺構調査(住居等)開始。
- 10日 2区遺構写真撮影・実測開始。4区表土掘削開始(～30日)。
- 17日 3区にて遺構調査(溝)開始。
- 20日 関係者による4区所在水田排水路(3本)の切り回しの件協議。調査終了までの切り直し決定(切り直し工事は21・22日に実施)。
- 21日 3区遺構写真撮影・実測開始。
- 22日 県教育委員会文化財保護課石田指導主事来跡。
- 23日 4区1面遺構確認開始(～26日)。
- 27日 4区1面遺構調査(礎石建物)開始。
- 29日 3区調査終了。埋戻し(～30日)。
- 31日 4区1面遺構写真撮影・実測。1面調査終了

【9月】

- 3日 4区下位面への確認調査開始(～6日)。
- 5日 4区2面への機械掘削開始(～19日)。
- 7日 4区2面遺構確認作業着手。
- 12日 県教育委員会文化財保護課石田指導主事来跡。
- 20日 4区2面遺構写真撮影・実測開始。

【10月】

- 1日 県教育委員会文化財保護課石田指導主事来跡。
- 2日 2区南半分の調査を終了し、北半分の機械掘削開始(～3日)。
- 4日 2区北半分遺構確認。
- 5日 2区北半分遺構調査開始。
- 9日 2区北半分遺構写真撮影・実測開始。
- 18日 5区機械掘削開始(～19日)。
- 19日 5区遺構確認(～30日)・掘削開始。
- 22日 5区写真撮影開始。
- 24日 5区As-B、粕川テフラ面遺構確認。
- 25日 2区遺構 調査終了。
- 29日 2区下位面確認、埋戻し開始。
- 30日 1区機械掘削開始(～11月1日)。
- 31日 1区遺構確認・掘削・写真撮影・実測開始。

【11月】

- 2日 5区1面完了。2面目への機械掘削開始(～6日)。
- 3日 5区2面遺構確認開始(～7日)。
- 5日 県教育委員会文化財保護課石田指導主事来跡。
- 8日 5区2面遺構掘削開始。前橋市立南橋中学校生徒職場体験で見学。

第3章 調査の方法と経過

- 9日 5区2面遺構写真撮影・空中測量。
20日 事業団特別顧問視察。
21日 地元住民見学で来跡。
30日 1区調査完了、下位面確認作業、埋戻し開始。

【12月】

- 5日 群馬読売写真クラブ金井副会長来跡。
28日 年末年始につき調査中断。

平成25年(2013)

【1月】

- 4日 作業再開準備。
7日 作業再開。
8日 県教育委員会文化財保護課洞口補佐来跡。
11日 県教育委員会文化財保護課石田指導主事来跡。
31日 5区2面調査完了。

【2月】

- 4日 5区3面に対する機械掘削開始(～5日)。
5日 5区3面遺構確認・掘削作業開始。
7日 前橋市川端町自治会品川生涯学習推進委員来跡。

- 12日 5区3面空中写真撮影。遺構写真撮影・実測開始。
14日 4区2面空中写真撮影。5区2面下位層確認調査、北側水田調査開始。遺構検出されず。

19日 5区3面検出。

21日 5区3面北側、空中写真撮影、空中測量。

22日 5区3面(北側)調査終了。

25日 4区3面への機械掘削開始(～28日)、遺構検出作業開始。

【3月】

4日 放送大学学生8名見学のため来跡。

6日 4区3面空中写真撮影、空中測量。

7日 4区3面下位面確認調査。

8日 4区西部3面水田面検出作業。

13日 4区西部3面空中撮影、空中測量。

14日 4区調査終了、埋戻し開始。

15日 発掘調査現場撤収作業開始。

22日 4区埋戻し終了。

27日 鍛冶工房出土遺物選別(～29日)。

29日 調査事務所退去。調査完了。



4区2面調査風景

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

1 各区の概要(第10図)

本遺跡は細ヶ沢川左岸の沖積地に位置しているが、後世の圃場整備も加わって、調査前には平坦な地形を呈していた。調査区は、細ヶ沢川と前橋市関根町と同川端町との境界を走る市道04-151号線との間に在って、前章に記したように、各種の道水路で区切られており、これによって区を設定し、呼称を付しているが、改めてその配置を述べると、本遺跡の中央には4区が在り、その西側に1区、北西側に2区、(西寄り)北側に3区、南東側に5区が位置している。

また調査区内では2区南東部に1河道、3区の西寄りに5溝、東寄りに8溝、4区を北西から入って南に抜ける2河道、4区北東部と5区の北側から東側を巻くように抜ける3河道といった河川・流路跡が確認された。このうち1河道は略東西方向、5・8溝と1河道の北半と、蛇行するものの3河道の北部は略北西-北東方向、1河道の南半とやはり蛇行は見られるものの3河道の東部は凡そ南方向に流路を取っている。

1区

1区は細ヶ沢川沿いに在り、西壁11.5m、東壁31.2m、高さ17.1mを測る、南に尖端を向ける靴形のプランを呈するが、西端部には水路が入って20m程帯状に途切れている。遺構は2面で調査した。

1面では凡そ中世以降の遺構を調査したが、北端と西部中央、南東部に遺構が確認された。確認された遺構には耕具痕1面、北端部に溝1条、土坑5基を検出した。

2面は全域で平安時代の遺構を調査したが、竪穴住居11軒のほか、竪穴1基、製鉄関連遺構1箇所、溝6条、墓坑1基等を調査した。

2区

2区は1区の北に在って、細ヶ沢川沿いにある。南北

に長く、北壁3m、南壁14m、高さ41.5mを測る、縦長の三角形に近い台形プランを呈する。2区も2面の調査面で調査を行った。

1面の遺構は北端部付近と南端部付近に確認された。確認遺構は耕具痕1面、河道1条、溝1条を調査した。1面の遺構は中世以降の所産である。

2面では、北端部を除く全域で平安時代の遺構を調査した。住居13軒、竪穴5基、溝3条、土坑40基、ビット7基が確認されている。また土坑のうち19土坑は製鉄関連遺構として把握された。

3区

3区は2区の東、4区の北に在る狭い区である。調査区は鳥帽子形のプランを呈するもので、北壁3m、西壁12.5m、南壁11m、東壁16.5mを測る。高、表土直下が幅2m程で掘削されているため、実質調査面は他区の2面に相当する1面のみであった。

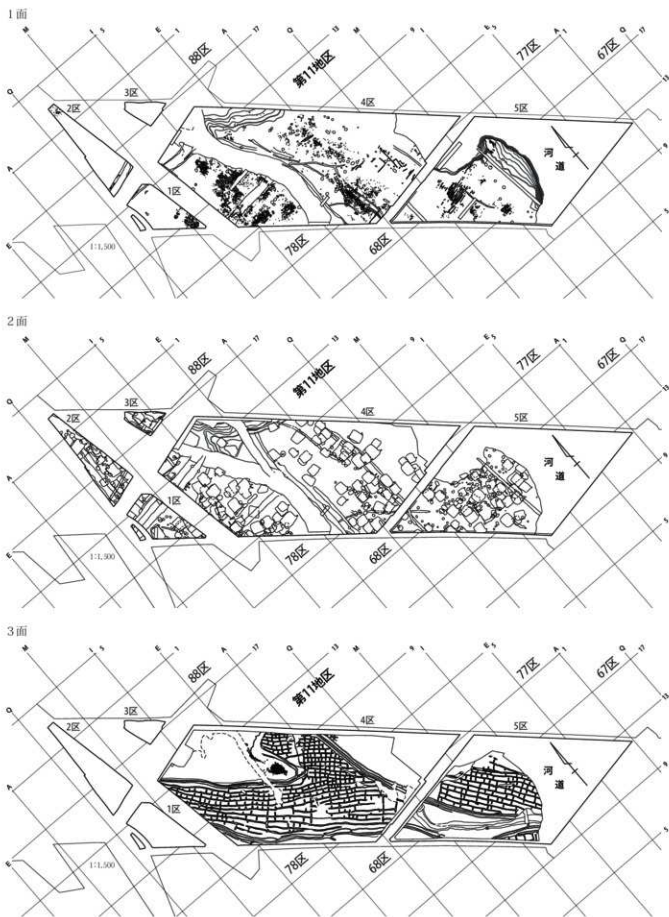
他区の1面に相当する層位での遺構は確認できず、調査区壁面の記録を以て代替した。この壁面観察によって、平安時代末期から近代にかけての5枚の水田面を確認している。またこの面で確認された掘削痕は昭和22年(1947)9月のカスリーン台風の被災によることが確認されている。

2面では、区の全面で遺構を確認し、住居2軒、溝6条、土坑4基、ビット1基を調査した。このうち2住居からは『祥符通宝』(初鑄1009年)が出土している。

4区

4区は本遺跡の中心に位置する調査区で、略北西-南東方向に主軸を持つ調査区である。北東隅部が調査対象外となったため、実質的な調査範囲は扁平な六角形のプランを呈し、北東壁86m、南東壁55m、長軸方向の最大幅107.5m、高さ46m程を測る。4区は1河道によって東西に分けられるが、1河道そのものは中世以降の所産であるが、古墳時代以前に於いても、その前身となる河道の存在が想定されている。

第4章 検出された遺構と遺物



第10図 1～3面の遺構分布図

1面では広く遺構の分布が見られた。1河道の他、溝17条、列石1列、サク群8面、土坑111基、ピット55基を調査した。1面の遺構は中世以降の所産である。

2面でも区の全面で遺構の分布が見られた。2面で確認した遺構には住居83軒、竪穴6棟、溝18条、土坑100基、ピット7基の他、製鉄炉3基、鍛冶工房1基などがあつた。また、これらの遺構に伴って、多くの土器類や製鉄関連遺物の出土を見た。2面の遺構は、10世紀から11世紀初頭を中心とする平安時代の所産のものと推定する。尚、40住居からは金属製品観音像が出土している。

3面では、北西部、北東部、調査区南西壁際を除いて遺構が確認された。確認された遺構は、水田面1面とその一部として取り込まれている溝3条、集石1箇所、土坑2基を調査した。3面の遺構のうち水田面と溝、集石は7世紀頃の所産、土坑2基は7～9世紀の所産と判断される。

5区

5区は4区の東に在って、4区と同じく略北西-南東方向に主軸を持つ、北東-南西壁約65m、北西-南東壁約52mを測る、平行四辺形プランを呈する調査区である。しかし、上述のように北壁側と東側が3河道によって壊されているため、西半部に遺構が確認され、調査された。その実質的調査区は、調査区北端隅付近10mの範囲を除く、西端隅部を中心に半径約58mで描かれた弧に囲まれた区域である。

5区1面では調査区(調査範囲)東部の略南北走行の31溝以西の区域で遺構の分布が見られた。1面では溝3条、畠4箇所、土坑16基、ピット2基、耕具痕、3河道を調査した。これらの遺構はAs-B降下(1108)以降、概ね中世以降の時期の所産である。

2面では調査範囲の全域で遺構の分布が見られた。2面で調査した遺構には住居40軒、竪穴1基、溝3条、畠5箇所、土坑120基、ピット18基があつた。2面の遺構のうち3条の溝は中世に下る可能性があるものの、殆どは10世紀から11世紀初頭を中心とした平安時代の所産として把握される。

3面では4区から続く溝4条と、谷地1箇所、谷地を挟んで東西に分布する水田1面、不明落込み1箇所を調査した。これらは7世紀を中心とする時期の所産と推定

される。

2 時代別概要

各区を通して、以下時代別概要を記す。

旧石器時代

確認されなかった。

縄文時代

2～5区で僅かな数の石器、石製品が出土しただけで、遺構は確認されなかった。

弥生時代

遺構、遺物共に確認されなかった。

古墳時代(含飛鳥時代)

4区から5区にかけて7世紀に入ると思われる水田址とこれに伴う溝、耕作されない谷地などが確認された。

平安時代

全区に於いて、10世紀～11世紀初頭にかけての集落の広がりが確認された。竪穴住居の分布には多少の濃淡があり、2区北部と4区北西隅、北東隅付近の分布は薄い。この他、1区東部から4区西部にかけて製鉄関連遺構の分布が見られた。このうち製鉄炉には竪穴住居の埋没途中を利用したものも見られた。また溝には河道や自然の流路に起因するものもあつたが、2～5区で略東西、南北に走行する溝の掘削も認められた。この他、土坑、ピットなど分布が見られ、4区では竪穴状遺構も確認された。

中世以降

中世以降の遺構の分布は3区以外の各区に見られたが、1区と2区では一部が確認されたに過ぎなかった。また何箇所かでAs-Bの堆積が確認されたが、4・5区で当該期頃の畠が確認されている。2・4・5区では鋤先痕の分布が面的に確認されている。この他、溝は略東西走行をするものも見られるが、多くは自然地形に沿って掘削されるものであり、1河道に沿って設置された石列なども見られ、土坑、ピットの分布も見られた。

第4章 検出された遺構と遺物

表3 出土遺構数量表

区	遺構種	時代				古墳 (含7世紀)	奈良・ 平安	中世 以降	小計	備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳					
1区	住居					11		11		
	竪穴					1		1		
	溝					6	1	7		
	河道							0		
	製鉄炉							0		
	鍛冶工房							0		
	竪坑					1		1		
	水田							0		
	品							0		
	耕具痕						1	1		
	土坑					22	5	27		
	ピット					4	4			
	その他					1		1	製鉄関連遺構	
	2区	住居					13		13	
竪穴						5		5		
溝						3	1	4		
河道								1		
製鉄炉								0		
鍛冶工房								0		
竪坑								0		
水田								0		
品								0		
耕具痕							1	1		
土坑						40		40	鍛造銅片出土の土坑有	
ピット						7		7		
その他								0		
3区		住居					2		2	
	竪穴							0		
	溝					6		6		
	河道							0		
	製鉄炉							0		
	鍛冶工房							0		
	竪坑							0		
	水田						(5)	0		
	品							0		
	耕具痕							0		
	土坑					4		4		
	ピット					1		1		
	その他							0		

区	遺構種	時代				古墳 (含7世紀)	奈良・ 平安	中世 以降	小計	備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳					
4区	住居						83		83	
	竪穴						6		6	
	溝					3	18	17	38	
	河道								2	
	製鉄炉							3	3	
	鍛冶工房							1	1	
	竪坑								0	
	水田					1			1	
	品								1	
	耕具痕								1	
	土坑					2	100	111	213	
	ピット						7	55	62	
	その他					2		1	3	河石、礫石
	5区	住居						40		40
竪穴							1		1	
溝						4	3	3	10	
河道									1	
製鉄炉									0	
鍛冶工房									0	
竪坑									0	
水田						1			1	
品							5	4	9	
耕具痕									1	
土坑							120	16	136	
ピット							18	2	20	
その他						2			2	河石、礫石

区	遺構種	時代				古墳 (含7世紀)	奈良・ 平安	中世 以降	小計	備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳					
6区	住居						153		153	
	竪穴						17		17	
	溝					5	33	18	56	
	河道								3	
	製鉄炉							3	3	
	鍛冶工房							1	1	
	竪坑							1	1	
	水田					3		(5)	3	
	品						5	12	17	
	耕具痕								4	
	土坑					2	302	132	436	
	ピット						39	57	96	
	その他					1	1	1	3	

表4 掲載遺物数量表

区	縄文		古墳～平安										中世以降			
	土器	石器	土器・土製品	土器・土製品	緑釉・灰釉	陶磁器	埴輪	石製品	金属製品	羽目	鉄滓	土器・土製品	陶磁器	石製品	金属製品	
1区	0	0	0	76	11	3	1	4	18	11	1	0	0	0	0	
2区	0	1	0	113	20	2	0	0	15	10	0	0	0	0	0	
3区	0	1	0	8	3	0	0	1	7	1	0	0	0	0	0	
4区	0	1	0	542	64	10	14	36	108	46	93	0	2	2	4	
5区	0	0	2	189	20	0	3	6	24	3	0	0	0	1	0	
小計	0	3	2	928	118	15	18	47	172	71	94	0	2	3	4	

表5 非掲載遺物数量表

区	土師器		須恵器		灰釉陶器		埴輪		和埴		和內洋		流動洋		粒状洋		鍛造薄片	
	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g
1区	11,410	13,160		290	280		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2区	9,135	21,172		480	170		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3区	2,580	3,450		30	50	6,860	23,630	18,799	105	687								
4区	79,497	93,502	1,712	3,590			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5区	45,620	39,348		996	2,200		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	148,242	170,632	3,508	6,290	6,860	23,630	18,799	105	687									

第2節 1区の遺構と遺物

1 1区の概要(第11・14・34図、PL.1・3・15)

1区では1面・2面を検出した。1面に属するのは耕具痕、21溝、202・203・274・282・283土坑である。耕具痕は南半部に集中して検出された。21溝は中世以降の所産とみられる。274土坑は隅丸長方形の掘り込みの内部に円形の土坑をさらに掘り下げたような形状で、22住居よりも新しい。283土坑は99住居を切っている。202・203土坑は覆土にAs-B軽石を多く含み、26溝埋没土の上から掘り込まれていた。

2面では11軒の住居のほか、6竪穴、1焼土(製鉄関連遺構)と周辺の土坑、ほぼ平行する41・27・26溝、住居の床下で確認した35・40溝等を検出した。35溝の断面は209土坑の壁では確認できなかった。1竪坑は30溝・20住居を切っており、平安時代以降の所産である。

2面の17住居は、現地での推定復元案では平行四辺形を呈する形状であったが、土層断面記録等から第15図のように復元した。下層で検出した19住居掘り方の形状を勘案すると、19住居を改築または造り直して17住居にしたという順序が想定できる。6竪穴は火処がなく、掘り込みの形状も不整形で、「住居」と認定できなかった。南端で検出した1焼土は、固結した焼土・炭化物を検出し、やや上位の周辺に鉄滓が分布していたこと、47土坑から鉄滓塊とともにフイゴ羽口が出土したこと等から、製鉄関連遺構と推定される。この遺構は4区で検出された製鉄関連遺構の一部とみられ、4区との間の現道下に同様の遺構が埋没していると推定される。

2面の調査終了後下面の遺構の有無を確認するための確認調査を行ったが、遺構は確認されなかった。

2 1面の遺構と遺物

21溝(第11図、PL.2)

検出位置 M13～O13で検出した。1区の北端付近を略東西に走行する。

重複関係 1面の確認写真により、2面の100住居より新しい。

覆土 粘性のある明褐色土で埋没する。堆積状態から自

然埋没と推定する。

壁 斜めに立ち上がる。壁際に上面幅10cm・深さ3～7cmの浅い溝がある。長さ8.96m・幅47～66cm・深さ22～39cmである。

底面 下に凸で丸味がある。東端と西端との標高差は8cmで西側が高い。西寄りに底面長さ1.1mほどのやや深い部分がある。

その他 壁際に浅い溝を伴う特殊な形状を呈する。

遺物 少量の土師器片が出土しただけで、図化掲載に取り上げるべき遺物は無かった。

時代・時期 1面相当で壁に立ち上がりが認められることから、中世以降の所産と推定する。

耕具痕(第12図、PL.1・2)

検出位置 1区では南半部に集中して検出された。

覆土 As-Bテフラを非常に多く含む黒褐色土の下部の土がベースである。As-B黒色土とともにブロック状に堆積している。全ての耕具痕覆土は同じである。

壁 平面形は半月形である。一方向に耕具を打ち込み、そのまま手前に直線的に引き出したような断面形状を示す。打ち込んだ面は平坦で直線的である。

その他 打ち込んだ方向は一定ではない。

遺物 なし。

時代・時期 As-Bテフラ混土層から掘り下げられており、As-Bテフラ降下後に、復旧や開墾などが行われたと考えられることから、12世紀以降の所産と推定する。

202土坑(第13図、PL.2)

検出位置 O11グリッドで検出した。1区の中西部付近、203号土坑の南に近接して位置する。

重複関係 他遺構との重複は見られない。

覆土 As-Bを含む。

壁 径75×74cmの円形を呈し、楕円形に深さ22cmに掘削する。

底面 丸底気味である。

遺物 なし。

時代・時期 覆土から中世の所産と推定される。

203土坑(第13図、PL.2)

検出位置 O11グリッドで検出した。1区の中西部付近、

202土坑の北側に近接する。

重複関係 他遺構との重複は見られない。

覆土 As-Bを含む。

壁 径48×46cmを測る円形を呈し、深さ9cmに掘削する。

底面 平底気味である。

遺物 なし。

底面 下に凸の丸味をもつ。

時代・時期 覆土から中世の所産と推定される。

274土坑(第13図、PL. 2)

検出位置 L 8 グリッドで検出した。1区の略三角形を呈する南端付近に位置する。

重複関係 22住居と重複し、22住居→274土坑の順に新しい。

覆土 最上位にHr-FP軽石粒を含む黒褐色系の土が堆積する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 隅丸長方形の掘り込みで、円形の土坑をさらに掘り下げたような形状で、中に段を二つもつ。細長い形状の掘り込みは長さ144cm・深さ62cm、中央の円形部は77×70・深さ98cmである。

底面 下に凸の丸味をもつ。

その他 22住居覆土の上から掘り下げていることから、1面相当としたが、覆土底面にAs-Cテフラを含む土が認められ、平安時代における前後関係の可能性もある。

遺物 なし。

時代・時期 中近世か。

282土坑(第13図、PL. 2)

検出位置 N13グリッドで検出した。1区の北壁中央部で、調査区壁にかかっている。

重複関係 100住居・21溝と重複し、南端が21溝の北壁にかかっていることから、100住居→282土坑→21溝の順に新しいと推定する。

覆土 Hr-FP軽石粒・炭化物粒を含む褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と考えられる。

壁 検出範囲では斜めに立ち上がる。61×57以上・深さ19cmである。

底面 重複する100住居の掘り方底面よりも下位にある。

その他 100住居覆土を切って南壁が立ち上がることから、1面相当としたが、平安時代に遡る可能性がある。

遺物 土師器片の出土が見られた。

時代・時期 21溝よりも古く、100住居より新しいことから、平安時代～中世の所産と推定する。

283土坑(第13図、PL. 3)

検出位置 N13グリッドで検出した。1区の北東部寄り、41溝の北壁にかかる。

重複関係 41溝・99住居と重複し、南側が41溝に破壊されていることから、99住居→283土坑→41溝の順に新しいと推定する。

覆土 Hr-FP軽石粒・炭化物粒を含む褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と考えられる。

壁 検出範囲では浅く斜めに立ち上がる。99×58以上・深さ27cmである。

底面 緩い傾斜で41溝北壁に至る。

その他 99住居より新しく、41溝より古いことから、2面相当の遺構の可能性が高い。ここでは1面所屬としておく。

遺物 なし。

時代・時期 41溝よりも古く、99住居より新しいことから、平安時代～中世の所産と推定する。

3 2面の遺構と遺物

17・18・19住居(第15～17・35図、PL. 3・4・154)

検出位置 N・O10～11グリッドで検出した。17・18・19住居として認定された重複する3軒の住居で、平面形が異質である。土層断面と平面形とを検討した結果、17住居は南北方向に細長い住居、18住居は北西壁のみを検出した住居、19住居は17住居にかが北壁が17住居の北側1mほどに位置する住居と推定された。

重複関係 土層断面の観察では18住居→17住居、19住居→17住居の順に新しい。18住居と19住居では、18住居北東壁が19住居覆土に認められないことから、18住居→19住居の順に新しい可能性がある。住居の新旧関係に注目すると、18住居→19住居→17住居の順に新しいと推定される。

覆土 17住居は黒～暗褐色系の土で、18住居は暗褐色系土で、19住居は黒～暗褐色系の土で埋没する。3軒とも堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 17住居は斜めに立ち上がり、南北5.78m・東西

30.30mの長方形と推定される。長軸方位はN4°Eである。東壁では深さ24~44cmで、長さ4.7m(推定5.3m)を検出した。18住居では北西壁の長さ4.3mを検出し、北隅相当も認められた。北西壁では深さ32~44cmである。19住居では北東隅を確認し、北壁2.6m・東壁3.6mを検出した。貯蔵穴とみられる掘り込みを南東隅とすると、南北4.3m×東西3.6mほどの南北にやや長い長方形を推定できる。北東隅付近の深さは35cmである。

床面 床面を形成する土はいずれも褐色系の土でやや締まり、地山の土をブロック状に含んでいる。3軒の床面と認定された高さがほぼ同じ水準であり、違和感がある。

柱穴 柱穴と想定される掘り込みはみられなかった。

カマド 最新の17住居では、南東隅付近の床面に炭化物が分布していた。調査区壁にかかって207土坑が17住居に重複していたことから、17住居のカマドは207土坑によって破壊されたと考えられる。18住居ではカマド痕跡が認められなかった。火処のないことから、17・19住居で破壊されたと考えられ、18住居が古いと推定する。19住居では貯蔵穴覆土の上面に灰・焼土粒が認められ、この付近にカマドが存在したことを窺わせる。

貯蔵穴 19住居南東隅相当で70×60・深さ15cmの不整形の掘り込みを検出した。中から土師器(18)等の土器片が出土した。

掘り方 17住居の掘り方の形状は、北東部を除き19住居の掘り方形状に重なるような状態である。ただし、19住居の方が10cm前後深い。18住居では北西壁沿いのわずかな部分の検出に止まった。掘り込み自体が浅かったと考えられる。

その他 3軒の住居の土層断面・重複関係・掘り方形状等から勘案して、次のように推定する。18住居が最初に造られたが、17・19住居によって破壊され、その大半を失った。次に19住居が造られ、やや深く掘り下げた掘り方に床面を形成した。カマドは南東隅付近に設置した。19住居の南側に拡張するように17住居が造られ、19住居のカマドは撤去・移転して17住居の南東隅にカマドが設置された。このカマドは遅くとも207土坑の掘り下げに伴って破壊された。

遺物 17~19号住居では土師器、須恵器片や若干の灰釉陶器片が出土したが、17住居では中央部から南半部にかけて須恵器杯(1・2)、羽釜(5)、白磁碗(3)、青磁碗

(4)、砥石(6)、不明鉄製品(7・8)が出土し、18住居では北隅相当の壁際から須恵器杯(11)が出土した。19住居では、須恵器杯(12~15)、土師器(18)・羽釜(17)・甕(19)、灰釉壺(16)、砥石(20)が出土した。また、17・19住居の何れに属するかは分からなかったが、灰釉碗(9・10)の出土も見られた。

時代・時期 出土した遺物の特徴から、3軒はいずれも平安時代に属するとみられ、17・19住居は10世紀後半、18住居は10世紀半ば頃の所産と推定する。

20住居(第18・35図、PL.4・5・154)

検出位置 M9~10グリッドで検出した。1区の中央部やや南東寄りに位置する。

重複関係 24住居・1墓坑と重複し、280土坑・281土坑と接する。24住居は20住居南東隅付近で重複し、カマド痕跡が認められることから、20住居のカマドを破壊しており、20住居→24住居の順に新しい。1墓坑は30溝とも重複し、30溝・20住居→1墓坑の順に新しい。土層断面の観察から、35溝・40溝を切って20住居が形成されており、35溝・40溝は20住居より古い。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりのある土で、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南西隅・北西隅を検出した。各壁の長さは南壁2.62m以上、西壁4.57m、北壁3.82m、東壁2.34m以上で平行四辺形のようなやや歪んだ形状を呈し、南北方向が4.83m・東西3.90m・深さ19~30cmである。南東隅を欠く。長軸方位はN10°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。南東部に硬化面があり、さらに南東隅に近い範囲で炭化物・焼土が分布することから、東壁南寄りまたは南東隅にカマドが設置されていたと推定される。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

壁溝 なし。

カマド カマドは南東隅付近に設置されたと推定されるが、重複する24住居によって破壊されたと考えられ、20cm大の礫2個が遺存したほか、炭化物・焼土が南東隅付近に分布するのみであった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 中央部付近に径5~15cm前後の小穴による細か

第4章 検出された遺構と遺物

い凹凸がある。中央やや南寄りに110×95・深さ5cm、東壁沿いに116×51以上・深さ7cmの掘り込みがある。いずれも浅く、柱穴や貯蔵穴とするには難がある。

その他 カマドの詳細は不明だが、重複の著しい本遺跡の住居のなかでは、規模・形状の判明する例である。

遺物 南半部で土師器、須恵器片が比較的多く出土した。この中には須恵器杯(21)、灰軸段皿(22)、土師器羽釜(23)、磨石(24)が見られ、北東隅で鉄製品小刀(25)の出土があった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

22・23住居(第19・36図、PL.5・154)

検出位置 L8～9グリッドで検出した。1区の南東隅付近に位置する。

重複関係 23住居・274土坑のほか、20・24・23住居・35溝などと重複する。22住居は23住居を切り、1面274土坑に切られていた。これらの遺構は土層断面の観察から、35溝→20住居→24住居→23住居→22住居→274土坑の順に新しいと整理できる。また、1墓坑は20住居・30溝よりも新しい。20・24・23・22住居は北から南へ向かって順次新しく、複数の住居が同時に存在することは困難である。

覆土 22住居は黒～暗褐色系の土で埋没し、23住居は暗褐色～褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりのある土で、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 22住居では南西隅・北西隅を検出したが、東半部は調査区外にある。南壁3.00m以上、西壁2.81m、北壁2.61m以上を確認し、南北3.21m・東西3.09m以上・深さ26～42cmで、南壁が深い。北壁・南壁はほぼ平行するが、西壁中央が凸になり、斜めに南北壁とつながるため、平行四辺形を呈する。長軸は不明だが、東西軸の方位はN88°Eである。23住居は北西隅を検出したのみである。西壁2.42m、北壁1.82mを検出した。南側は22住居によって破壊され、東側は調査区外である。

床面 22住居東半部は比較的平坦である。西半部は274土坑の周囲が掘りすぎとなってしまった。南東部の壁際床面に炭化物・焼土が分布することから、東壁にカマドが設置されたと推定される。23住居の床面は22住居床面

よりやや浅いことから、22住居の建設によって破壊されたと推定される。遺存していた床面は平坦である。

柱穴 22住居では、柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

壁溝 なし。

カマド 22住居カマドは南東隅付近に設置されたと推定されるが、調査区外に相当するため、確認できなかった。調査区壁際に30cm大の礫が2個出土した。カマド構築材の可能性がある。23住居は調査範囲が狭く、痕跡も検出できなかった。

貯蔵穴 いずれも不明。

掘り方 22住居西半部は掘りすぎの影響を受けているようである。南壁東寄りに内側に向かって凸の高まりがあり、出入口施設が存在した可能性があるが、床面水準では顕著に遺構が認められなかった。23住居では掘り方床面でP1～P3の掘り込みを検出した。それらの周囲は浅く掘り込まれていた。P1:49×42・深さ21cm、P2:65×65・深さ22cm、P3:88×58・深さ7cmである。

その他 22住居南東部にカマド位置を想定すると、東西方向にやや長い平行四辺形状を呈する住居が推定される。23住居掘り方調査で検出したP2は柱穴の可能性がある。

遺物 22住居からは須恵器杯(26・27)、不明鉄製品(28)が出土した。23住居では西壁南端の壁際に略完形の須恵器杯(29・30)が出土し、この他にも須恵器椀(31)や、北寄りの床面で30cm大の礫2個、中央部で金属片が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、22住居は10世紀後半、23住居も同じ頃と推定する。

24住居(第20・36図、PL.6)

検出位置 L9グリッドで検出した。1区の南東隅付近に位置する。

重複関係 20・23住居と重複する。遺構は土層断面の観察から、35溝→20住居→24住居→23住居→22住居→274土坑の順に新しいと整理できる。20・24・23・22住居は北から南へ向かって順次新しく、複数の住居が同時に存在することは困難である。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりのある土で、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自

然埋没と推定する。

壁 北西隅を検出したが、南壁は23住居によって破壊され、東半部は調査区外にある。北壁0.85m、西壁4.45mを確認した。西壁南端は南西隅になる可能性がある。東西2.5m以上で、深さは20～30cmであり、南に向かって浅くなる。長軸は不明だが、西壁の方位はN10°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面は比較的平坦である。

柱穴 24住居では、柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

壁溝 なし。

カマド 住居の大半が調査区外にあり、カマド痕跡も検出できなかった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 径10cm未満の細かい凹凸がある。床面精査の段階で下位に35溝が存在することが判明した。

遺物 須恵器杯(33)が出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴と重複する住居から、10世紀後半頃と推定する。

25住居(第21・36図、PL. 6・154)

検出位置 O13グリッドで検出した。1区の北西隅付近に位置する。

重複関係 100住居・278土坑と重複する。100住居は25住居に切られており、6竪穴を切っていた。27溝は25住居を切っていた。これらの遺構の遺存状態から、6竪穴→100住居→25住居→278土坑→27溝の順に新しく整理できる。25住居と41溝との新旧関係は25住居→41溝が推定できるが、断定できない。27溝は98・99住居よりも新しい。これらの遺構の位置と新旧関係を、第25図周辺の遺構に示した。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりのある土で、地山の土をブロック状に含む。堆積の状態から自然埋没と推定する。

壁 東壁と西壁を検出したが、南壁は27溝によって破壊され、北壁は調査区外にある。東西3.50m、南北は調査した範囲で長さ4.16mあり、南北に長い長方形を呈する。南東隅付近を27溝・278土坑の掘り込みによって失っていたが、掘り方調査で南西隅とみられる部分を検出した。深さ5～37cmで東壁が深く、西壁は5～11cmで浅い。壁

の長さから南北方向に長軸を持つと推定でき、方位はN10°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面は比較的平坦である。

柱穴 25住居では、柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

壁溝 なし。

カマド 東壁南寄りに設置する。住居の東壁付近に礎を据えて袖部とし、略三角形の煙出しを住居外に30cmほど延ばす。燃焼部は住居の壁外の位置にある。カマド前から出土した焼けた礎はカマド構築材の一部とみられ、これらの礎を石垣状に積み上げて粘土で固め、カマドを構築したと考えられる。カマド前の床面には炭化物が分布し、右袖部前で硬い床面を検出した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 カマド前がハの字状に掘り込まれていたほか、西壁寄りには不整形に掘り込まれていた。カマドより北側の東壁沿いは比較的平坦な面をもつ。

遺物 主としてカマド前から土器片等が出土したが、床面からやや浮いた状態であった。これらの遺物には須恵器椀(35・36)・杯(34)、灰軸壺(37)、土師器裏(38～41)、形象埴輪片(42)、砥石(43)の出土が見られた。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半頃と推定する。

98住居(第22・37図、PL. 6・155)

検出位置 M12グリッドで検出した。1区の北半部東側に位置する。

重複関係 北側で27溝、南側で26溝と重複し、いずれも溝の方が新しい。第25図周辺の遺構の遺存状態等から、27溝は98住居よりも新しく、26溝は98住居を切っている。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。床面は地山の土をブロック状に含む、炭化物や焼土粒も含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 西壁と南西隅に近い部分を検出したのみで、東半部は調査区外にある。北壁は27溝により、南壁は26溝により破壊されていた。西壁は長さ2.25m(推定2.6m)を検出した。深さは25～30cmである。長軸方位は不明だが、西壁の方位はN1°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面は比較的

第4章 検出された遺構と遺物

平坦である。床面には炭化物が散布し、一部は塊となって検出された。西壁南端の壁際で長さ50・幅15cm前後の棒状の炭化物が出土した。上屋の一部の可能性もある。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 不明。東側の調査区外にあると推定される。

貯蔵穴 南西部の略円形の掘り込みと考えられる。規模は109×99・深さ43cmである。

掘り方 底面は細かい凹凸が著しい。

その他 床面に炭化物が散布することから、火災に遭った可能性がある。

遺物 土師器を中心に須恵器、灰釉陶器等の出土もあったが、西壁際から黒色土器の略完形椀(44)が、貯蔵穴から須恵器碗(45)、覆土から灰釉碗(46)がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半頃の所産と推定する。

99住居(第23・37図、PL. 7・155)

検出位置 M13グリッドで検出した。1区の北半部に位置する。

重複関係 西壁に283土坑が重複し、99住居→283土坑の順に新しい。また、住居南側は41溝・27溝によって切られていた。第25図周辺の遺構の遺存状態等から、99住居→41溝→283土坑の順に新しいと整理できる。

覆土 暗褐色～灰褐色系の土で埋没する。上位ではやや粘りのある土で埋没し、床面直上は砂ブロックを含む粒子のやや粗い土で埋没する。埋没初期に周辺の小河川の氾濫の影響を受けたか、近くの溝の濁流が流れ込んだ可能性があり、自然埋没と推定する。

壁 北壁3.02mと北西隅、西壁0.60mを確認したが、南側は41溝・27溝で破壊され、東側は調査外にある。掘り込みの深さは29～32cmである。長軸は不明だが、北壁の方位はN85°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面は比較的平坦である。南北約1mの帯状に検出した。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 不明。東側の調査区外にあると推定される。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面は細かい凹凸がある。

その他 27溝の南岸に本住居の南壁が検出されないこと

から、南北長は3.5mを超えないと考えられる。

遺物 埴輪片と少量の土師器、須恵器が出土したが、これらに取り上げるべきものはなく、釘(47・48)の出土が見られた。

時代・時期 周辺遺構との新旧関係とわずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半頃の所産と推定する。

100住居(第24・37図、PL. 7・155)

検出位置 N13グリッドで検出した。1区の北東隅付近に位置する。

重複関係 25住居・282土坑と重複する。100住居は25住居に切られており、6竪穴を切っていた。27溝は25住居を切っていた。これらの遺構の遺存状態から、6竪穴→100住居→25住居→278土坑→27溝、100住居→282土坑の順に新しいと整理できる(第25図周辺の遺構)。

覆土 褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりのある土で、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東壁3.20mを検出したが、各隅を欠く。北半部は調査区外にあり、西半部は25住居によって破壊されていた。東西2.10m分を検出した。全体の形状は不明である。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面は比較的平坦である。

柱穴 床面水準では柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

壁溝 なし。

カマド 東壁に設置する。住居の東壁付近に礫を据えて袖部とし、略円形の扁平な礫を住居外の掘り込みの壁に立てた状態で並べ、上からやはり扁平な礫を蓋のように並べる構造である。燃焼部は壁の外にあり、焚口は住居の壁ラインにある。カマド前にいくつかの扁平な礫が出土しており、カマド構築材の一部であったと推定される。カマドに遺存していた蓋石の手に手に菱形の土器を据えたと考えられる。カマド底面近くから、高台椀が伏せた状態で出土した。最終底面には灰層が数cmの厚さで堆積していた。カマド前の床面にも炭化物が散布する。

貯蔵穴 不明。

掘り方 カマド掘り方は略楕円形を呈し、奥壁には段を有する。掘り方調査で浅いピットを3個検出した。カマド前のP1内から土器片、P2から鉄滓、P3は本住居

に属するかどうか断定できないが、内部から土器片が出土した。各ピットの規模はP1:53×47・深さ6cm、P2:74×68・深さ8cm、P3:55×54・深さ16cmである。掘り方底面は凹凸が著しい。

その他 P2出土の鉄滓とフイゴ羽口の出土を併せて考えると、本住居は小規模な鍛冶遺構の可能性もある。

遺物 主としてカマド前の床面からやや浮いた状態で土師器、須恵器片等比較的多くの出土遺物を得た。これらの中には須恵器碗(53)・杯(49～52)、羽口(54・55)も見られた。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半頃と推定する。

6 竪穴(第25・37図、PL.7)

検出位置 N13グリッドで検出した。1区の北東隅付近に位置する。

重複関係 100住居・21溝と重複する。100住居は25住居に切られており、6 竪穴を切っていた。これらの遺構の遺存状態から、6 竪穴→100住居→25住居→278土坑→27溝、100住居→282土坑の順に新しいと整理できる(第25図周辺の遺構)。

覆土 褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりのある土で、灰を多く含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 不整形な掘り込みで、南端部を南隅とすれば、南西壁1.12m、南東壁2.43mを検出した。底面に炭化物・焼土が分布するが明確な火処がなく、全体の形状も不明なため、「竪穴」とした。深さ18～30cmで、北端部には段がある。

底面 遺存していた底面は比較的平坦で、西に向かって低くなる。

掘り方 階段状に北西へ向かって低くなる。南西部で64×60・深さ50cmの掘り込みを検出した。

その他 遺構の大半は北側の調査区外にあると推定され、全体形状は不明である。カマドを持つ住居の南東部か、製鉄関連遺構の可能性もある。

遺物 土師器、須恵器片を出土したが、黒色土器碗(56)、須恵器碗(57)の出土が見られた。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴と遺構の新旧関係から、10世紀後半頃と推定する。

1 墓坑(第26・37図、PL.9・155)

検出位置 78区M9グリッドで検出した。1区中央部の20住居西側に位置する。

重複関係 20住居・30溝と重複し、本墓坑のほうが新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。下位の覆土は炭化物・灰を多く含み、焼土粒もわずかに含む。骨片が出土したことから、墓とした。炭化物・灰を多く含むので、火葬した後にそのまま埋葬した可能性があるが、掘り込みの壁が焼けていないことや、火葬跡に比べて炭化物(燃え残り)が少なく、底面近くに炭化物層が認められないことから、内部で木材が燃焼したとしても火葬には至らず、そのまま埋葬したと推定する。

壁 東西に細長い掘り込みで、東西189cm・南北62cm・深さ40～50cmである。南側に長さ140・幅20cmほどの突出部があり、内側の掘り込みとの間に30cmほどの段がある。この段は確認面からの深さが16cmである。

底面 底面は中央部が深く、両端は数cm浅い。

その他 骨片が出土し、出土土器を副葬品とすれば、墓と考えて良いであろう。掘り込みの規模と形状から、ヒトを埋葬した墓の可能性が高い。推定を重ねれば、頭部を東におく伸展葬か。

遺物 骨片のほか、東端から礫が3個出土し、須恵器杯(58)が北壁際の浅い位置から、須恵器杯(59)が覆土中から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半頃と推定する。

26溝(第27・37図、PL.9・155)

検出位置 78区M11～P11で検出した。1区のほぼ中央部を東西に横切る。

重複関係 98住居の南壁を破壊し、埋没土の上から1面202・203土坑が掘り込まれていた。したがって98住居→26溝→202・203土坑の順に新しい。

覆土 上位にAs-B軽石を多量に含む土がほぼ水平に堆積し、その直下の暗褐色系の土の下面から掘り込まれていた。埋没土は暗褐色系の土で、底面から30cmほど上位の溝中央部に砂鉄がブロック状に堆積していた。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 斜めに立ち上がる。1区では長さ16.4mを検出し、

第4章 検出された遺構と遺物

上面幅1.7～3.1m、深さは確認面から46～79cmである。走行方位はN82°Eである。

底面 やや平坦な面がある。底面標高が東に向かって低くなることから、水流は東側の4区に向かっていたと考えられる。西寄りに底面長さ1mほどのやや深い部分がある。

その他 北側にほぼ平行する27溝があり、切り込み面は26溝と同じである。B・C断面の2・3層中には全体的に砂鉄が含まれていた。

遺物 比較的多くの土師器、須恵器片や若干の灰軸陶器片が出土したが、この中には須恵器杯(60～62)・椀(63～68)・壺(72)・鉢(71)、灰軸椀(69・70)・鉄製品紡錘車(73)が見られた。

時代・時期 As-B軽石を含む土の下位で掘り込まれていることと出土遺物の特徴から、10世紀後半～11世紀の所産と推定する。

27溝(第28・38図、PL.10・155)

検出位置 78区M12～P12で検出した。1区の北寄りを東西に横切る。

重複関係 98住居の北壁を破壊し、99住居の南半部・25住居の南壁を破壊する。41溝の南壁を破壊してほぼ平行する。25住居と41溝との新旧関係は断定できないが、付近の遺構の前後関係を整理すると、6竅穴→100住居→25住居→278土坑→27溝→205土坑、99住居→41溝→283土坑の順に新しい。

覆土 上位にAs-B軽石を多量に含む土がほぼ水平に堆積し、その直下の暗赤褐色土の下面から掘り込まれていた。暗褐色系の土で埋没する。205土坑の埋没土には炭化物・焼土ブロックが含まれていた。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北壁がやや急で、南壁は比較的緩やかで斜めに立ち上がる。1区では長さ12.2mを検出し、上面幅1.5～2.0m、深さは確認面から52～77cmである。走行方位はN81°Eである。

底面 平坦な面があり、幅64～115cmである。底面標高が東に向かってわずかに低くなることから、水流は東側の4区に向かっていただ可能性がある。

その他 南側にほぼ平行する26溝があり、切り込み面は27溝と同じである。

遺物 須恵器杯(75～77)・椀(78～81)、黒色土器椀(74)を含む多くの土師器、須恵器片や若干の灰軸陶器片が出土したほか、不明土器(82・83)、不明鉄製品(84)や15cm大の礫が出土した。また、C断面の北岸近くで獣骨が出土した。獣骨の鑑定は別途、第5章第1節で報告する。

時代・時期 As-B軽石を含む土の下位で掘り込まれていることと出土遺物の特徴から、10世紀後半～11世紀の所産と推定する。

30溝(第29図、PL.10)

検出位置 78区M9～N10で検出した。1区の南寄りを北西～南東方向に走行する。

重複関係 南東寄りで1墓坑に切られ、北西部には擾乱がある。30溝→1墓坑の順に新しい。南東端は35溝・209土坑・272土坑によって切られ、280土坑の南東側には延びない。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、溝が浅いため不確実である。

壁 半円形の断面で、比較的緩やかに立ち上がる。1区では長さ6.4mを検出し、上面幅38～46cm、深さは確認面から9～14cmである。走行方位はN36°Wである。

底面 丸味がある。幅14～20cmである。水流を推定させる堆積がない。

その他 1区検出の溝では、唯一方向が異なる。幅がほぼ一定で浅いことから、何らかの区画を示す溝の可能性がある。

遺物 なし。

時代・時期 1墓坑や南東端の土坑群に切られていることから、平安時代以前とみられるが、時期限定できない。

35溝(第29図、PL.10)

検出位置 78区L9～M9で検出した。1区の南寄りを略東西方向に走行する。

重複関係 20住居・24住居と重複し、本溝の方が古い。20住居・24住居の床面を形成する土の下位で検出した。西端は209土坑で止まるが、209土坑の壁で溝断面を確認できなかったことから、209土坑の直前で止まっていたと推定される。

覆土 暗褐色系の土で埋没し、軽石粒や炭化物を含む。20住居・24住居の床面を形成する土の下位で溝状掘り込

みを検出した。堆積の状態から自然埋没と推定する。

壁 箱形の断面で、北岸は緩やかに、南岸は斜めに立ち上がる。1区では長さ6.0mを検出し、上面幅80～132cmで北岸に凹凸がある。深さは西端部で48cm、中央部付近で38cm、東端部で49cmである。走行方位はN88°Wである。

底面 やや平坦な面をもつ。幅29～55cmである。水流は不明である。

その他 北側に位置する40溝と平行し、いずれも20住居床面よりも下位で検出され、ほぼ同じ位置で止まるように見える。35溝は北岸に凹凸があり、40溝と様相が異なる。

遺物 若干の須恵器片が出土したのみである。

時代・時期 20住居の下位にあることやわずかな出土遺物の特徴から、10世紀の所産と推定する。

40溝(第29・38図、PL.10・11・155)

検出位置 78区L10～M9で検出した。1区の南寄りを略東西方向に走行する。

重複関係 20住居・1墓坑と重複し、40溝→20住居→1墓坑の順に新しい。西端は30溝に接する位置で止まる。

覆土 暗褐色系の土で埋没し、炭化物を含む。上位に20住居の床面を形成する土があり、その下位で溝状掘り込みを検出した。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 箱形の断面で、斜めに立ち上がる。1区では長さ5.8mを検出し、上面幅34～72cmで西に向かって細くなる。深さは西端部で13cm、中央部付近で25cm、東端部で46cmである。走行方位はN84°Wである。

底面 やや平坦な面をもつ。幅20～28cmである。水流を推定させる堆積がない。

その他 南側に位置する35溝と平行し、いずれも20住居床面よりも下位で検出された。西端では1墓坑の底面とほぼ同じ高さとなり、区別は困難である。

遺物 若干の土師器、須恵器片が出土したが、東端の壁際で完形に近い須恵器杯(85)が底面から浮いた状態で出土し、須恵器椀(86)の出土も見られた。

時代・時期 20住居の下位にあることや出土遺物の特徴から、10世紀の所産と推定する。

41溝(第30図、PL.11)

検出位置 78区M12～P12で検出した。1区の北寄りを略東西方向に走行する。

重複関係 25・99・100住居、27溝と重複し、99・100住居→41溝→27溝の順に新しい。土坑との関係では、41溝→278土坑・283土坑の順に新しい。25住居との関係は、278土坑が25住居よりも新しいが、41溝との直接的な新旧関係を決定する手がかりに欠ける。41溝の底面標高が128.30m前後であるのに対し、25住居の床面が128.50m前後、カマド煙道部付近が128.80mほどなので、重複範囲では溝底面は25住居を破壊していることになり、従って25住居→41溝→27溝の順に新しいと考えられる。

覆土 暗褐色系の土で埋没し、軽石粒・炭化物を含む。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 南岸は27溝によって破壊され、わずかに25住居西壁の西側で検出したのみである。北岸は25住居のカマド付近よりも西側の範囲でも検出していない。北壁は斜めに立ち上がり、長さ12.2m分を検出した。西端付近の幅は62～77cm、北岸からの深さは43～56cmである。走行はN81°Eである。

底面 検出した範囲では丸味をもつ。検出範囲の西端底面の標高は128.38m、東端では128.25mで、西側がやや高いことから、水流があれば東に向かって流れた可能性がある。ただし、水流を推定させる堆積が見当たらない。

その他 41溝南岸を破壊して平行する27溝があり、一度埋没した41溝の規模を大きくして、27溝を開削した可能性がある。

遺物 若干の須恵器片の出土を見たが、図化掲載に取り上げるべき遺物は見られなかった。

時代・時期 100住居よりも新しく27溝よりも古いこと、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

製鉄関連遺構 1 焼土、47・208土坑(第31図)

検出位置 L7～8グリッドで検出した。1区の南端に位置する。

重複関係 22住居、208・47・276土坑と重複する。土層断面、遺構の確認状態等から、276土坑・208土坑→47土坑、208土坑→1 焼土の順に新しいと整理される。22住居は1 焼土に切られているので、22住居→1 焼土の順に新しい。

[1 焼土](第31・38図、PL. 8・155)

覆土 上位は黒褐色系の土で埋没し、下位は暗赤褐色系の土と褐色系の土に鉄滓・焼土粒・炭化物粒を多く含む。鉄滓と焼土ブロックが多い。使用を停止したのち、自然に埋没したと推定される。

壁 62×37・深さ12cmの掘り込みで、楕円形を呈する。壁は斜めに立ち上がり、壁際に鉄滓が多い。壁外の土は熱を受けて焼けていた。

底面 丸味を帯びた洗面器状を呈する。

その他 中央部付近に粘土が還元された灰白色土が混じる。

遺物 須恵器椀(88)・杯(87)は直立に近い状態で出土した。その他、鉄製品刀子破片(89)。土層1の高さで周辺から鉄滓が多数出土した。

[47土坑](第31・38図、PL.11・156)

覆土 調査区壁の断面では黒褐色系の土のみられる。土坑の形状を認定できた範囲では暗褐色系の土で埋没し、炭化物粒・焼土粒・灰色粘土粒を主体とした土である。鉄滓・フイゴ羽口・10cm大の礫を含んでいた。

壁 78×63・深さ13cmの浅い掘り込みであるが、調査区壁の断面では確認面から55cmの深さがある。

底面 平坦な面をもつ。

その他 鉄滓・フイゴ羽口・土器が出土したが、焼土粒・炭化物粒は動いているとみられ、208土坑と同様に、廃材を投棄した土坑と考えられる。底面近くは人為的に埋められたが、上位は堆積状態から自然埋没と推定する。

遺物 灰軸椀(90)と羽口片(91～99)の他、礫が出土した。

[208土坑](第31図)

覆土 上位は黒褐色系の土で埋没するが、下位は赤褐色

系の土で埋没する。下位の土には鉄滓・炭化物粒・焼土粒を多く含むが、焼土はブロック状を呈し動いていると見られることから、本土坑は鍛冶遺構から掻き出された廃材を投棄した土坑と考えられる。したがって土坑内部の埋没土は人為的な所産と推定する。

壁 北側を1 焼土に、南側を47土坑によって破壊されていた。65×63・深さ11cmの浅い掘り込みである。

底面 平坦な面がある。

その他 当初2 焼土としたが、焼土はブロック状であったため、廃材を埋めた土坑と推定した。1 焼土の一部の可能性はある。

遺物 少量の須恵器片が出土した他、鉄滓が出土した。

2 面土坑(第32・33・39図、PL.12～14・156)

1区では北寄り、中央部、南西寄りの区域で土坑・ピットを検出した。

北寄りの278土坑は25住居を破壊し、27溝に切られていた。底面の北側で出土した土器は、25住居カマド付近の遺物と推定される。284・285土坑は重複しており、285土坑→284土坑の順に新しい。6 竅穴は284土坑を切っている可能性が残る。205土坑は27溝西端で重複し、27溝→205土坑の順に新しい。いずれも堆積状態から自然埋没と推定する。205土坑からは杯(100)等若干の須恵器片、278土坑から杯(109)などの須恵器、土師器甕(110)、285土坑からは若干の須恵器と土師器の出土が見られた。

中央部付近では、単独の土坑がやや多い。206土坑は49土坑と重複し、206土坑→49土坑の順に新しい。206土坑は隅丸長方形を呈し、深さは50cmで、分層できない単一の土層で埋没していた。275土坑は19住居と重複している。中から細長い礫が出土し、19住居のカマドと推定された。275土坑は欠番とする。204土坑からは僅かな土師器・須恵器片、206土坑からも杯(101)等の僅かな須恵器が出土したが、207号土坑からは杯(102・103)等の須恵器片と甕(104・105)・羽釜(106)を含む多くの土師器片の出土が見られた。

南西部の土坑は重複が著しい。207土坑は17住居のカマド付近で重複し、中から礫・土器が出土した。これらは17住居カマドの構築材や土器と考えられる。209土坑は35溝とつながり、新旧関係が判定できなかった。277土坑・280土坑と重複し、いずれも209土坑が新しい。

280土坑は281土坑と重複し、281土坑→280土坑の順に新しい。273土坑は279土坑と重複し、279土坑→273土坑の順に新しい。280土坑はやや不自然な堆積を示し、人為的に埋められた可能性がある。その他の土坑は自然埋没と推定する。209土坑の最深部は35溝底面よりも40cmほど深く、南側が浅く崩壊していた。用途不明の掘り込みである。209土坑はやや多くの土師・須恵器、210土坑は少量の土師器と裏片(107)を含む須恵器、271・273・281土坑からは少量の土師器が出土したが、273土坑からは須恵器杯(108)の出土を見た。南端の276土坑は大半が調査区外にあり、自然埋没と推定する。

2面ピット(第32・33図、PL.14・15)

1区では2面で8・9・10・71ピットを4基検出した。71ピットを除き、中央部に位置する。掘立柱建物の存在を推定させる配置は見られなかった。

また8・9ピットからは僅かな土師器片の出土が見られた。

4 遺構外の出土遺物(第40図、PL.156)

1区に於いては、遺構外の出土遺物として土師器1.9kg、須恵器3.3kg、灰釉陶器0.2kg、埴輪0.13kg程の破片を含む出土遺物が得られた。

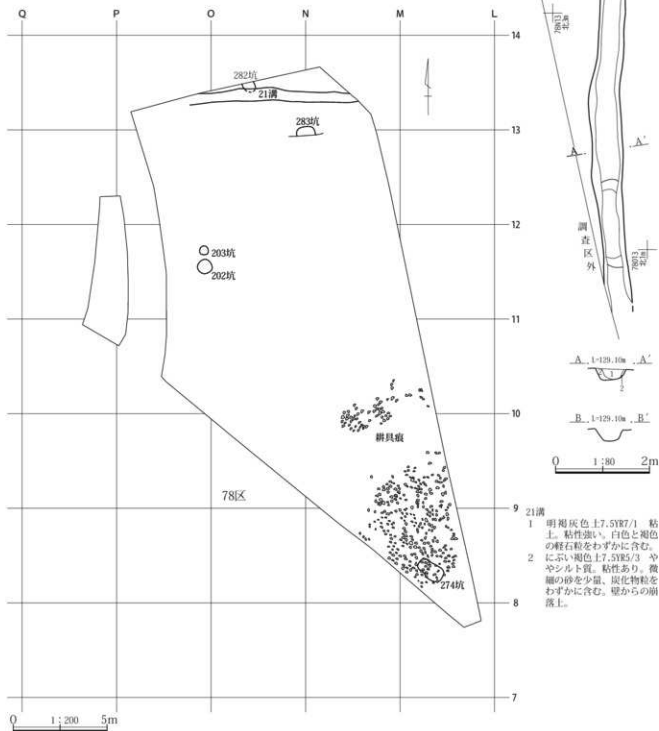
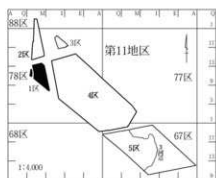
この中には白磁碗(111)、須恵器杯(112)、緑釉陶器壺(113)、壺と見られる灰釉陶器(114)、須恵器椀(115・116)、鉄鎌(117)、不明鉄製品(118・120～122・124)、鉄釘(119)、刀と見られる鉄製品(123)、鉄製鎌(125)の出土が見られた。

5 確認調査

1区トレンチ(第34図、PL.15)

1区2面の調査終了後、下層の状態を確認するため、トレンチを設定して掘り下げた。50～70cmほどの厚さで黄褐色のシルトが堆積し、粘性の強いにぶい黄褐色土20～25cmを挟んだ下位に、白色軽石を多量に含む黒褐色土を確認した。この白色軽石は堆積の順序から、As-C軽石(浅間山Cテフラ、4世紀初頭頃降下)と推定される。黄褐色シルトの下位1.5mほどで砂礫層に達する。

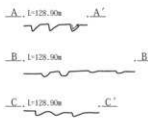
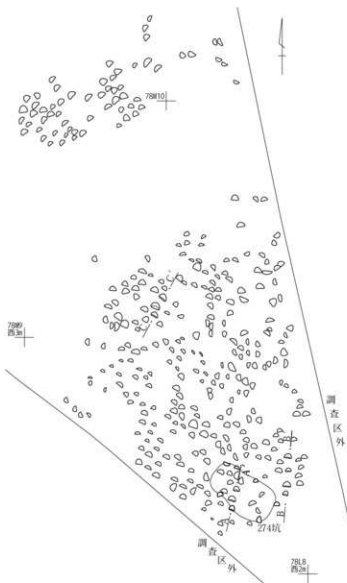
第4章 検出された遺構と遺物



- 21溝
- 1 明褐色灰土7.5YR7/1 粘土。粘性強い。白色と褐色の軽石粒をわずかに含む。
 - 2 にぶい褐色土7.5YR5/3 ややシルト質。粘性あり。微細の砂を少量、炭化物粒をわずかに含む。壁からの崩落土。

第11図 1区1面全体図、21溝

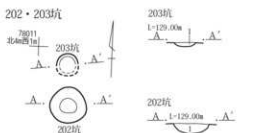
耕具痕



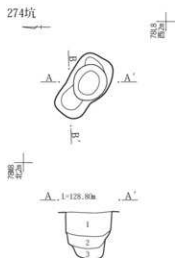
耕具痕覆土
赤褐色土5YR3/6 シルト質土と砂質土の混土。
As-Bテフラを多く含む。全ての
の耕具痕覆土は同様。

第12図 1区1面耕具痕

第2節 1区の遺構と遺物



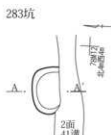
- 202上坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 As-B軽石を非常に多く、Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 203上坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 As-B軽石を非常に多く含む。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。



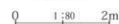
- 274上坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。やや粘りあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を含む混土。
3 褐色土7.5YR4/1 シルト質土。粘性強い。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。As-C混黒色土ブロックをわずかに含む。



- 282上坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
3 濃い褐色土7.5YR5/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

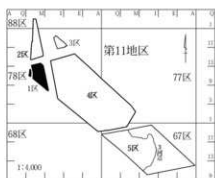


- 283上坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

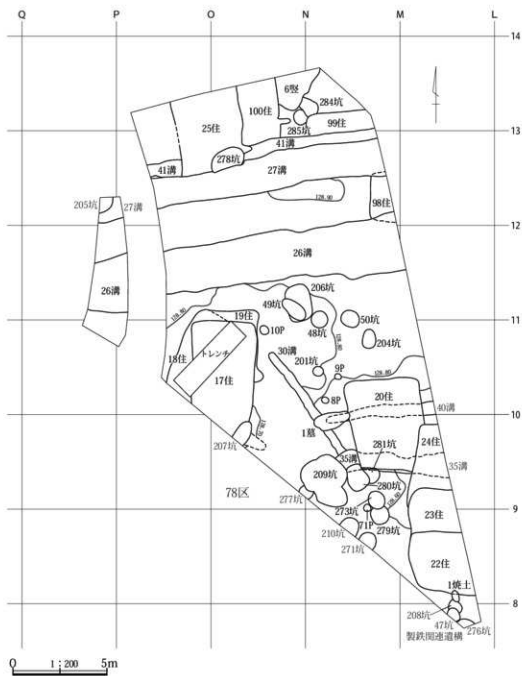


第13図 1区1面土坑

第4章 検出された遺構と遺物

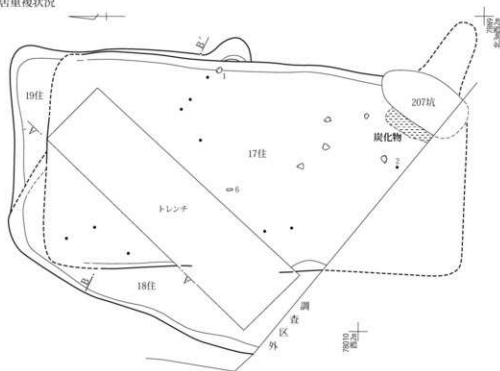


▲ 1区2面製鉄関連遺構(1焼土付近)調査風景 北西から

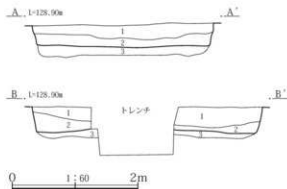
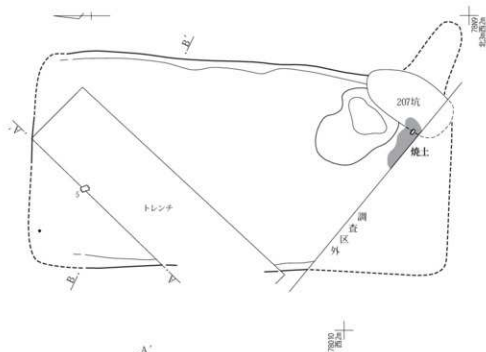


第14図 1区2面全体図

17・18・19住居重複状況



17住居掘り方



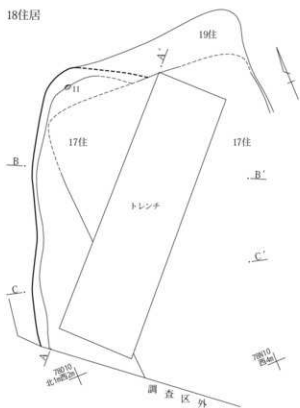
17住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、黄褐色シルト土ブロックを含む混土。1層との境界付近に部分的に灰がうすく堆積している。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土をブロック状に含む混土。床面を形成する上。

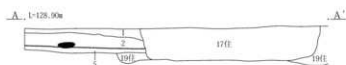
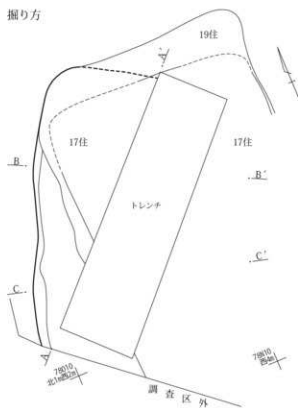
第15図 1区2面17～19住居重複状況、17住居

第4章 検出された遺構と遺物

18住居



掘り方

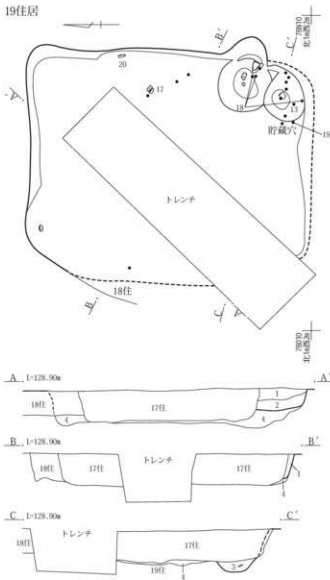


18住居

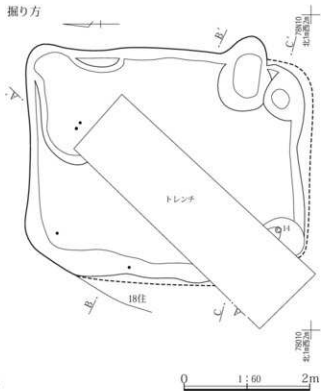
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、地山の黄褐色シルト質土を含む混土。
- 4 浅黄棕色土7.5YR8/6 シルト質土。地山が崩落して堆積した土。
- 5 褐色土1.7.5YR4/6 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、地山の黄褐色シルト土を多く含んだ混土。床面を形成する土。

第16図 1区2面18住居

19住居



掘り方



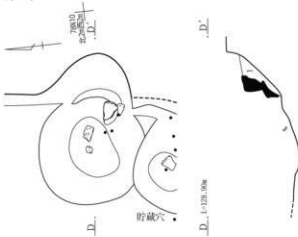
19住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-F輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。1層と同じものを含むほか、地山を含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-F輝石粒わずかに。炭化物粒と黒色の灰を多く含む。上面には焼土粒も少量分布する。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-F輝石粒をわずかに。炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を含む混土。床面を形成する上。

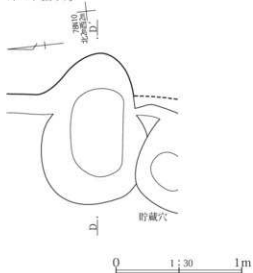
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト質土。Hr-F輝石粒、炭化物粒をわずかに。黄褐色シルト土を少量含む混土。

カマド



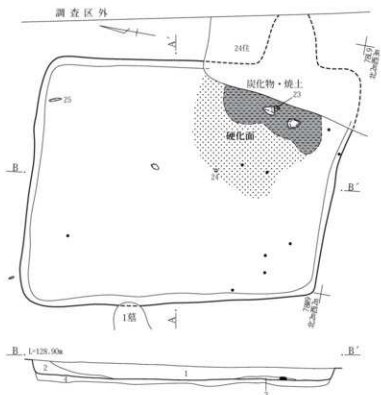
カマド掘り方



第17図 1区2面19住居

第4章 検出された遺構と遺物

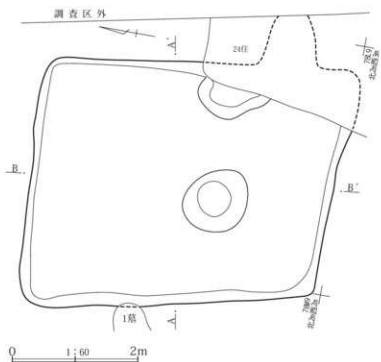
20住居



20住居

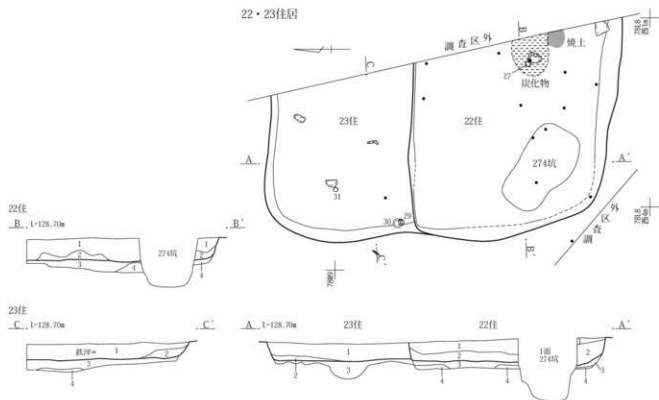
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、黄褐色シルト土を少量含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。2層に似ているが黒色の灰を少量含む。床面は焼けていない。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土をブロック状に含む混土。床面を形成する上。

掘り方



第18図 1区2面20住居

22・23住居



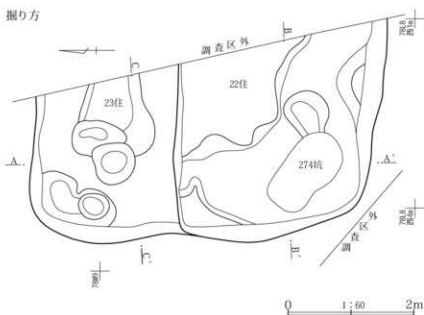
22住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト質上。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルト土を少量、炭化物粒をわずかに含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。締まりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を非常に多く含む混土。床面を形成する上。
- 4 褐色土7.5YR6/8 シルト質上。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

23住居

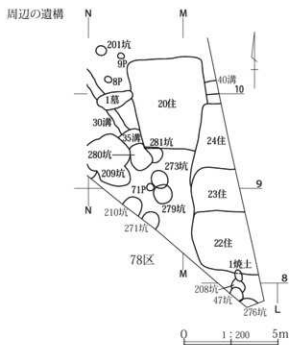
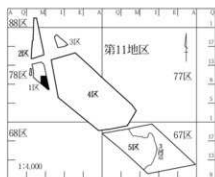
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒をわずかに、地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を含む混土。床面を形成する上。にふい褐色土7.5YR6/4 シルト質上。炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土主体の混土。
- 4

掘り方

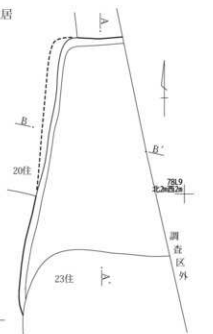


第19図 1区2面22・23住居

第4章 検出された遺構と遺物



24住居



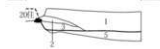
掘り方



A-A', L=128.80m



B-B', L=128.80m

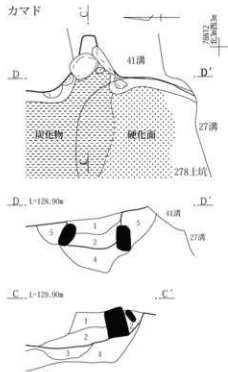
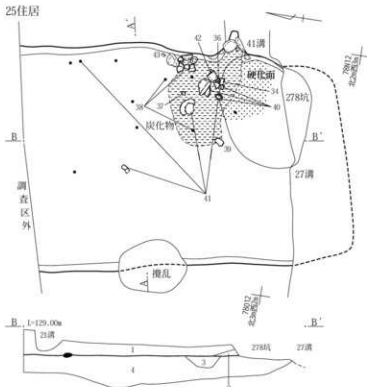


0 1:60 2m

24住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Br-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。1層に似るが炭化物粒が多く埴土粒・埴土ブロックを少量含む。黒色の灰をわずかに含む。20住居カマド周辺の上が覆れ込んだ。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。1層に似るが地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト。やや締まりあり。Br-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を含む混土。床面を形成する上。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Br-FP軽石粒を少量、炭化物粒や埴土粒・黒色の灰を多く含む混土。20住居カマド覆上。

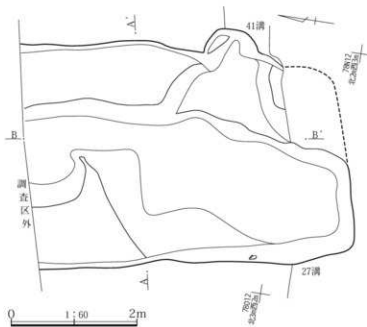
第20図 1区2面24住居



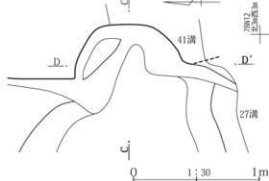
25住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・焼土粒を少量含む。一部ブロック状に炭化物・焼土が埋積。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒・黒色の灰を含む混土。床面を補修した土か。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。上面はやや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土をブロック状に含む混土。床面を形成する土。
- 5 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む。床面を形成する土。

掘り方



カマド掘り方



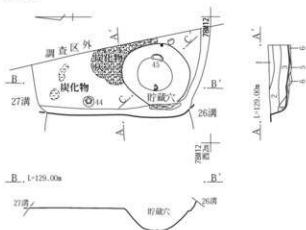
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・焼土粒を少量、炭化物粒を含む。被熱により硬化・変色した粘土を多く含む。最終使用面。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。締まりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物・黒色の灰・焼土粒・ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや粘りあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。粘土が混じり全体的に被熱。

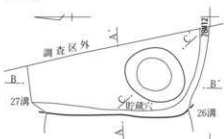
第21図 1区2面25住居

第4章 検出された遺構と遺物

98住居



掘り方



貯蔵穴

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒をわずかに含む。焼土粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。黒色の灰が胎状に堆積。
- 2 黄褐色土7.5YR8/8 シルト質土。地山の壁が崩落して堆積。暗褐色土・炭化物粒を少量含む。



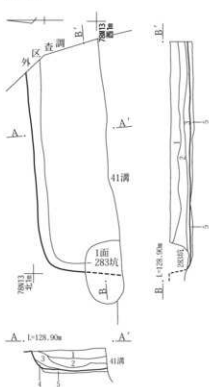
▲98住居貯蔵穴遺物出土状態 南西から

98住居

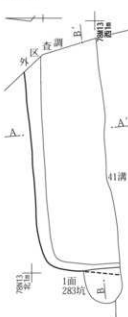
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量、焼土粒をわずかに含む。黄褐色シルト土を少量含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒、焼土粒を少量含む。黒色の灰が厚さ3~5mmで部分的に胎状に堆積。
- 4 黄褐色土7.5YR7/8 シルト質土。地山の壁の崩落して暗褐色土をブロック状に少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 5 にぶい褐色土7.5YR6/4 シルト質土。あまり編っていない。炭化物粒を含む。焼土粒をわずかに、黒色の灰を含む。床面を形成する上。
- 6 黄褐色土7.5YR8/8 シルト質土。地山がベース。炭化物をわずかに含む。

第22図 1区2面98住居

99住居



掘り方



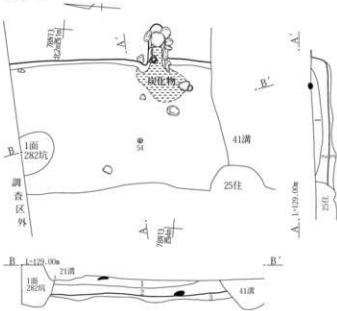
99住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや粘りあり。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。やや粘りあり。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR6/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量含む。砂のブロックや暗褐色の粘土ブロックを少量含む。シルト土が主体だが全体にやや粘りが強い。
- 4 にぶい褐色土7.5YR7/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。壁の崩落土。
- 5 褐色土10YR4/4 シルト質土。やや粘りあり。Hr-PP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山上を一部ブロック状に含む混土。床面を形成する上。

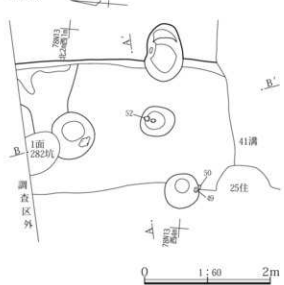
0 1:60 2m

第23図 1区2面99住居

100住居



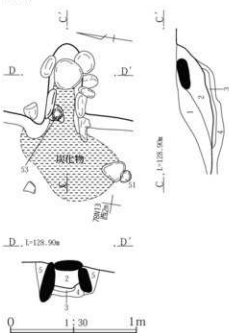
掘り方



100住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む壁付近はやや多い。
- 3 に近い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。床面を形成する上。

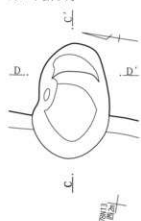
カマド



カマド

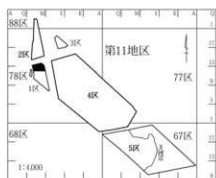
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。浅黄褐色の焼土ブロック(カマドの崩落土を含む混土)・炭化物粒を少量含む。
- 3 灰層 Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。焼土粒を少量含む。黒色の灰を薄いブロック状に多く含む灰層。
- 4 に近い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土が主体で掘り出し土を使用し覆込めとしている。カマド内側では焼熱による赤化のみられるが焼土として焼け締まっていない。

カマド掘り方



第24図 1区2面100住居

第4章 検出された遺構と遺物



周辺の遺構

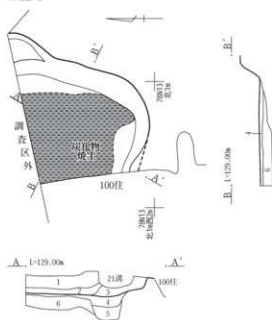


▲ 1区2面6 竖穴A土層 北西から



▲ 1区2面6 竖穴掘り方土層 北西から

6 竖穴



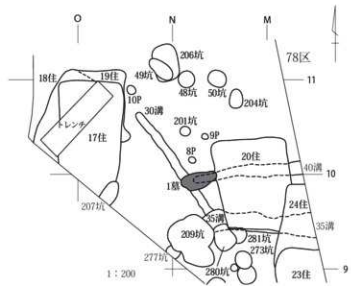
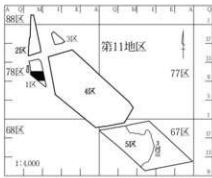
掘り方



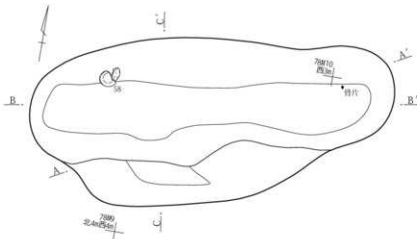
6 竖穴

- 1 褐色土10YR4/6 シルト。Hr-FP 軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。黒色の灰を小ブロック状に少量含む。
- 3 黄褐色土10YR5/8 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を多く含む。炭土を少量、灰色と黒色の灰を多く含む。底面を形成する上。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。
- 6 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。炭化物粒をわずかに含む。褐色シルトと黄褐色シルトがブロック状に混じった混土。

第25図 1区2面6 竖穴

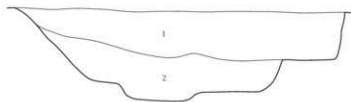


1 墓坑



A., 1=128.90m

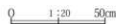
A'



B., 1=128.90m

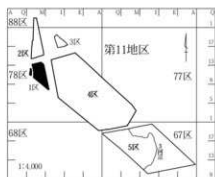
B'

- 1 墓坑
 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。1層をベースに炭化物と灰を多く含む。焼土粒をわずかに含む。

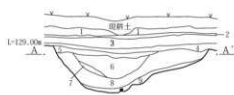
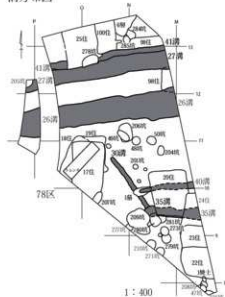


第26図 1区2面1墓坑

第4章 検出された遺構と遺物



溝分布図



26溝A

[中世～近代]

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・As-B軽石を含む混土。
 - 2 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒・As-B軽石を含む混土。中世～近代の水田床土が変色したものか。
 - 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルトと砂の混土。As-B軽石を多く、Hr-FP軽石粒を少量含む。
 - 4 暗赤褐色土5YR6/3 シルトと砂の混土。3層と包含物は同じ。水の影響で変色したものか。
- [26溝]
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに、As-B軽石を少量含む。
 - 6 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
 - 7 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。6層と似るが粘上粒や黒色の灰・炭化物粒を非常に多く含む。
 - 8 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
 - 9 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。崩落による堆積。

26溝



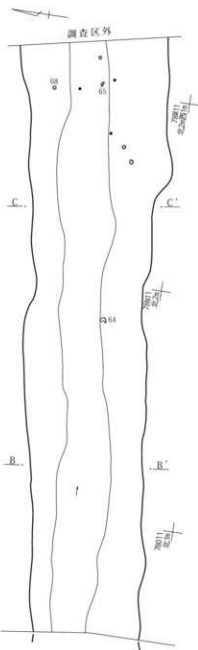
26溝C

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 黒ボク土。Hr-FP軽石粒との粘上粒を少量、炭化物粒を含み、黒色の灰を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト質土を含む混土。
- 4 黄褐色土7.5YR7/8 シルト質土。地山シルト土主体で3層の上が入った混土。
- 5 砂鉄の堆積。
- 6 土質は3層に似るが砂鉄を特に多く含む。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 粘性あり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。全体にわずかながら砂鉄の混入。
- 8 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。
- 9 に近い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。地山の黄褐色シルト土を非常に多く含む。6層との混土。壁の崩落土。



26溝B

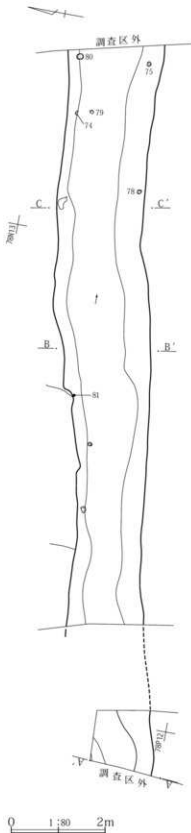
- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 粘性あり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。



0 1:80 2m

第27図 1区2面溝分布図、26溝

27溝



78012

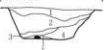
C. 1-129.10m C.1



27溝 C

- 1 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物を少量含む。黒色の灰が部分的に堆積。黄褐色シルト土粒・ブロック状を少量含む混土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量、焼土粒・黄褐色シルト土粒・ブロック状をわずかに含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや粘りあり。Hr-PP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。

B. 1-129.10m B.1

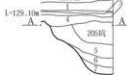


27溝 B

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量含む。粘土粒や黒色の灰を少量含む。この層から土器・灰層が多く出土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。2層と似るが地山の黄褐色シルト土がブロック状に多く入った混土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。2層と似る。
- 5 明黄褐色土10YR7/6 シルト質土。地山の黄褐色シルト土が主体。4層を少量含む混土。

78012

1-129.10m A.1



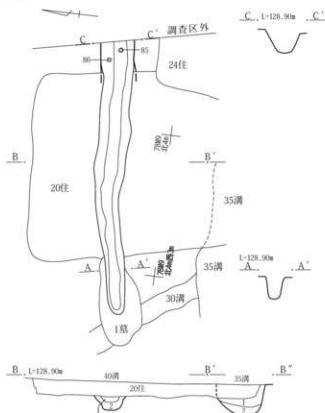
27溝 A

- 1 褐色土7.5YR4/4 ややシルト質土。Hr-PP軽石粒・As-Bを含む混土。
- 2 褐色土7.5YR6/6 ややシルト。Hr-PP軽石粒・As-Bを含む混土。中～近代の水田床土で変色したものか。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルトと砂の混土。As-Bを非常に多く、Hr-PP軽石粒を少量含む。
- 4 暗赤褐色土5YR6/6 シルトと砂の混土。3層と内容は同じ。水の影響で変色したものか。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。
- 6 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。5層と似た土質だが、Hr-PP軽石粒・炭化物粒をほとんど含まない。地山の黄褐色シルト質土が少量入った混土。
- 7 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。地山の黄褐色シルト質土を含む。

第28図 1区2面27溝

第4章 検出された遺構と遺物

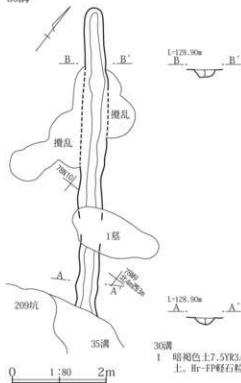
40溝



40溝

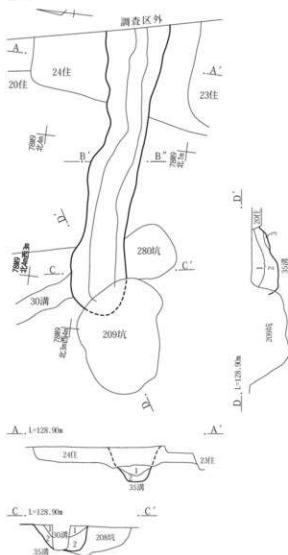
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR6/4 シルト質土。地山上が主体。1層が粒状・ブロック状に堆積。

30溝



- 30溝
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

35溝



35溝 B

- 1 にぶい黄褐色土10YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに、地山の黄褐色シルト土をブロック状に多く含む混土。崩れて流れ込んだか埋め戻したか。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。壁の崩落土。

35溝 A

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒や黒色の灰を多く、焼上粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや粘りあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

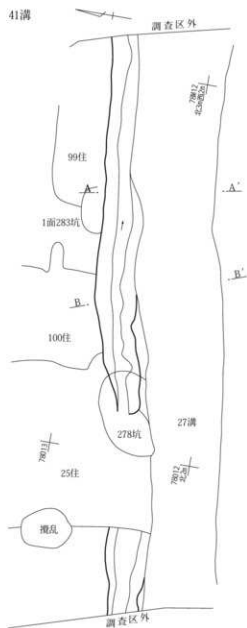
35溝 C

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。地山の黄褐色シルト土が粒状・ブロック状に入った混土。

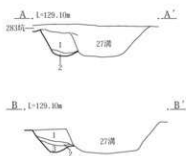
35溝 D

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト質土を少量含む。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。

第29図 1区2面30・35・40溝



0 1:80 2m



41溝B

- 1 灰褐色土10YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや粘りあり。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。
- 3 濃い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。地山の黄褐色シルト土が主体で暗褐色土を含む混土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。

41溝A

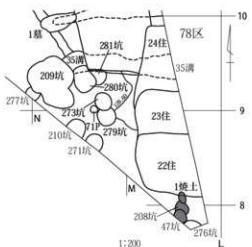
- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。壁の崩落で地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。



▲1区21溝、100住居・41溝・27溝

第4章 検出された遺構と遺物

製鉄関連遺構



208土坑B

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 赤褐色土5.5YR4/4 シルト質土。鉄滓・炭化物粒・焼土粒を多く含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・焼土粒を少量含む。

1焼土A・B

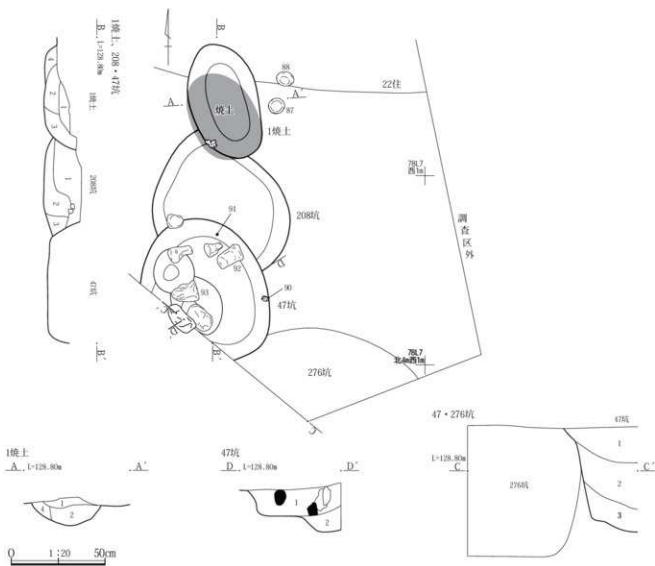
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 炭化物粒と焼き締まった焼土粒と鉄滓が主体。
- 2 褐灰色土7.5YR4/1 1層に似るが鉄滓・黒色の灰が主体。還元した粘土とみられる灰白色土が多く混じる。
- 3 暗赤褐色土2.5YR3/2 粘質土。強く焼けた状態。層としての焼土化は見られないが全体的に焼けており、焼土のブロックが散在。
- 4 暗赤褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。As-B下の暗褐色土上であるが焼熱による焼土化。

47土坑C

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。As-B層を非常に多く含む。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。2層と似るが炭化物・黒色の灰・鉄滓を非常に多く含む。

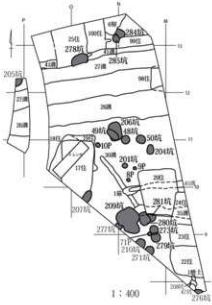
47土坑D

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。炭化物粒・焼土粒・灰色粘土粒が主体。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。1層と似るが炭化物・黒色の灰・鉄滓を非常に多く含む。

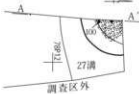


第31図 1区2面製鉄関連遺構(1焼土・47・208土坑)

土坑・ピット分布図



205坑



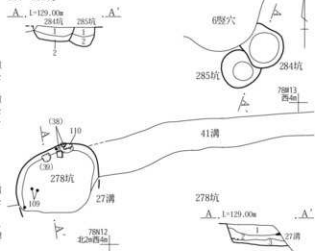
284土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

285土坑

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒をわずかに含む。黄褐色シルト土を少量含む混土。

284・285坑



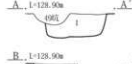
278土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。やや粘性あり。珪-Fe輝石粒をわずかに含む。炭化物粒と黒色の灰を含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒をわずかに含む。

206坑



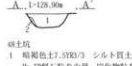
206坑



206土坑

- 1 暗褐色土7.5YR4/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。

48坑



48土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.7YR4/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒をわずかに含む。

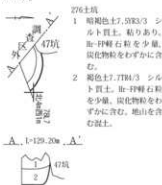
205土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒を少量含む。2期に近い地点は灰を小ブロック状に含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。灰白色の灰を主成分とした。炭化物粒と投入されたものと考えられる塊土ブロックを少量含む。

49土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量含む。

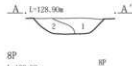
276坑



276土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。粘りあり。珪-Fe輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.7YR4/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。地山を含む混土。

49土坑



8P



9P

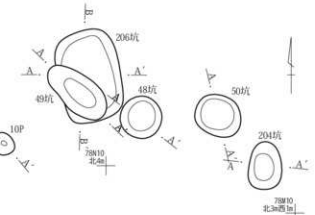


10P



10P

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒を少量。地山を含む混土。



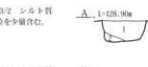
201坑



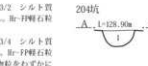
8P



9P



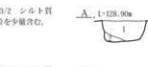
10P



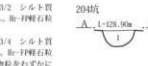
10P

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量含む。

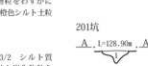
50坑



204坑



201坑



10P

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量含む。炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

50土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。珪-Fe輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量。地山の黄褐色シルト土を含む混土。崩壊土。

204土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土ブロックを少量含む混土。

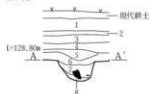
201土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。珪-Fe輝石粒を少量含む。

第32図 1区2面土坑・ピット分布図、土坑・ピット 1

第4章 検出された遺構と遺物

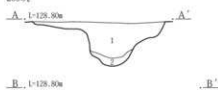
207坑



207土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや粘性あり。黒・輝石粒とAs・8輝石を少量含む。近代表の前面土。
- 2 近現代耕作土の下面土。
- 3 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。やや粘性あり。As・8輝石を多く、黒・輝石粒を少量含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。As・8輝石を非常に多く含む。As・8輝石を主体とした混土。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。As・8輝石を多く含む。部分的にブロック状の埋積が見られる。
- 6 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒・輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。黒・輝石粒をわずかに。炭化物粒を少量含む。
- 8 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。黒・輝石粒をわずかに。炭化物粒を含み黒色の灰も少量含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。

209坑



209土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。黒・輝石粒を含む。炭化物粒を少量含む。黒色の灰がブロック状に埋積している。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 粘質土。粘性強い。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。

210坑



210土坑

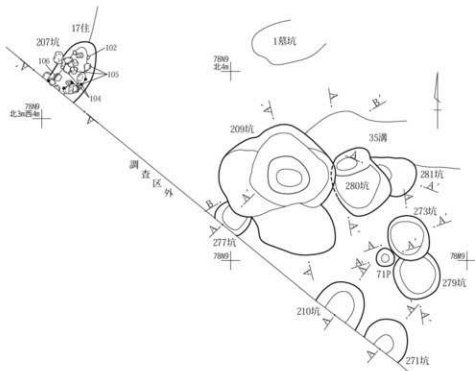
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒・輝石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに。黄褐色シルト土を含む混土。

71P



71P

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。黒・輝石粒と炭化物粒をわずかに含む。



271坑



271土坑

- 1 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。

273坑



273土坑

- 1 暗褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。黒・輝石粒をわずかに。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。

277坑



277土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。黒・輝石粒をわずかに。地山の黄褐色シルト土を非常に多く含む混土。

279坑



279土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒・輝石粒を多く。炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。黒・輝石粒・炭化物粒・地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

280坑



280土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。下面に一部黒色灰が5mm埋積。
- 3 暗褐色土7.5YR3/2 ややシルト質土。ややねばりあり。黒・輝石粒・炭化物粒を少量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。粘性あり。黒・輝石粒をわずかに含む。他に比べてねばりあり。
- 5 に近い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。地山の黄褐色シルト土が主体で、4層を含む混土。

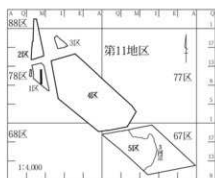
281坑



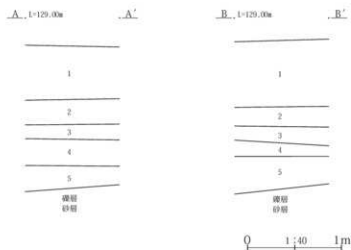
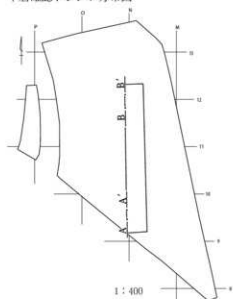
281土坑

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。黒・輝石粒・炭化物粒・粘土粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒・輝石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/6 シルト質土。黒・輝石粒をわずかに。地山の黄褐色シルト土を非常に多く含む。黒色または灰色の灰が部分的に埋積。炭化物粒をわずかに含む。

第33図 1区2面土坑・ピット2



下層確認トレンチ分布図



1区柱状図

- 1 黄褐色土10YR8/6 シルト上。白色の軽石粒をわずかに含む。注記中の地山シルト上。
- 2 にぶい黄褐色土10YR7/4 粘りの強いシルト質土。1層に似るが粘りが強い。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 粘質土。As-C軽石を非常に多く含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 粘質土。粘性とくに強い。褐色または白色軽石粒をわずかに含む。上位は3層に近く、下位は5層に似ている。3層と5層の漸移層。
- 5 黄褐色土7.5YR7/5 シルト質土。粘性あり。2層に似た土質。目立つ混入物なし。下部に砂が混ざっている。



▲1区下層確認トレンチ掘削状況

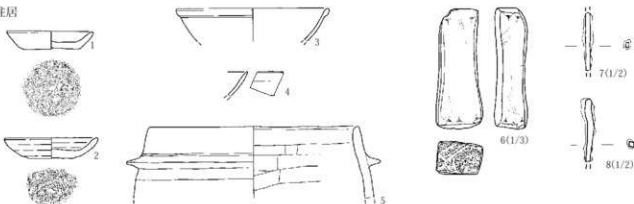


▲1区下層確認トレンチ土層

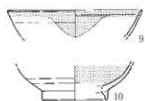
第34図 1区下層確認トレンチ

第4章 検出された遺構と遺物

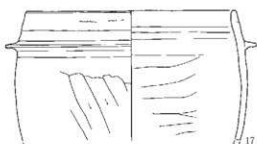
17住居



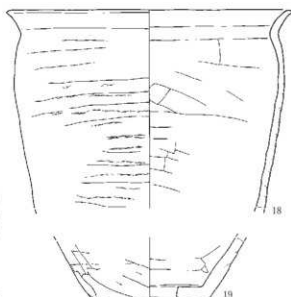
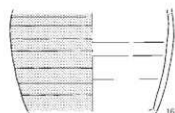
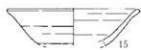
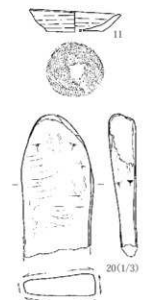
17・19住居



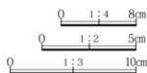
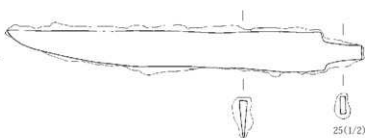
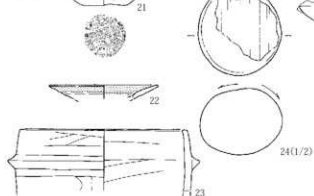
19住居



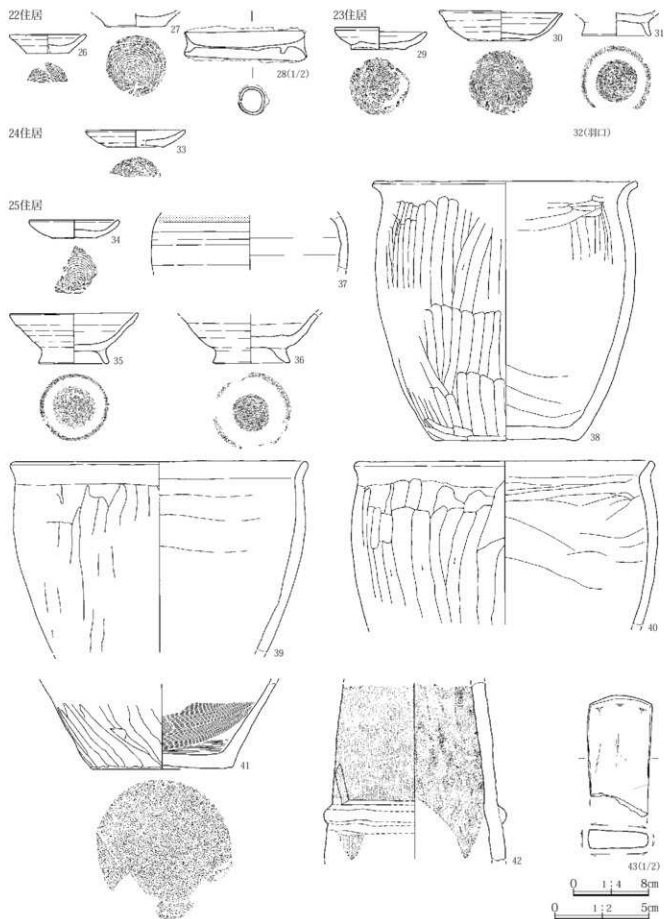
18住居



20住居

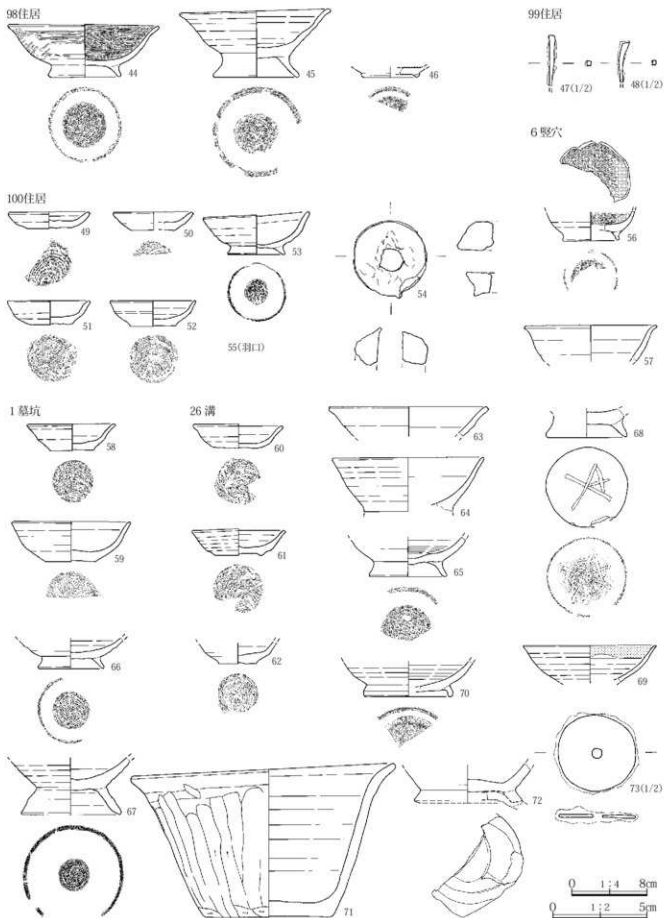


第35図 1区2面17~20住居出土遺物



第36図 1区2面22~25住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物



第37图 1区2面98~100住居、6竪穴、1墓坑、26溝出土遺物

27溝



84(1/2)



40溝



86



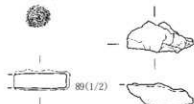
1焼土



88



47土坑



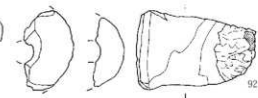
89(1/2)



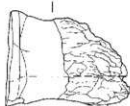
94



91

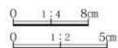


92



93

95~99(頸口)



第38図 1区2面27・40溝、1焼土、47土坑出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

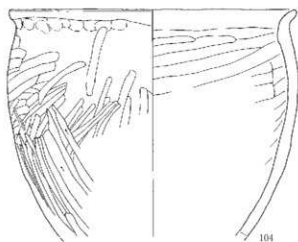
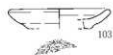
205土坑



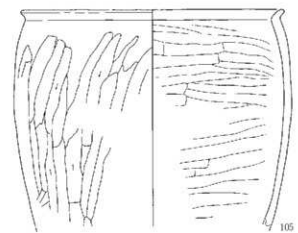
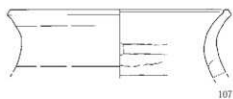
207土坑



206土坑



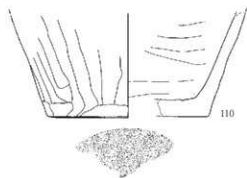
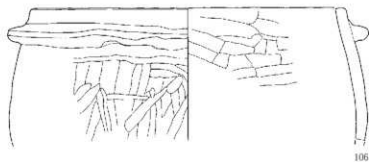
210土坑



273土坑



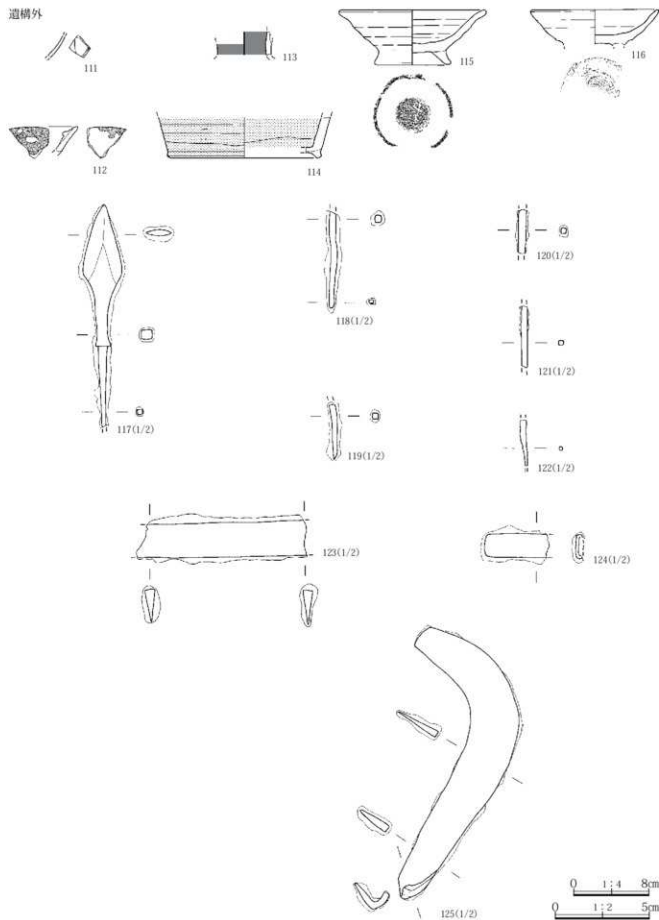
278土坑



0 1:4 8cm

第39図 1区2面土坑出土遺物

遺構外



第40図 1区遺構外出土遺物

第3節 2区の遺構と遺物

1 2区の概要(第41・43・70図、PL.16・18・32)

2区では1面・2面を検出した。1面に属するのは耕具痕、2河道、1溝である。耕具痕は北端部付近で検出されたほか、1溝底面にも検出された。1溝は調査区南寄りの区域で、南壁と平行に走行する溝で、従って現道とも平行する。1溝は近世以降の所産とみられる。2河道は調査区南東部で検出したが、調査区の壁際であったため、概ね東西方向に走行するという程度しか判らなかつた。As-B軽石粒を多く含む層の下位から切り込まれていたことから、およそ中世以前の河道と推定する。

2面では13軒(16住居は15住居を含む)の住居のほか、竪穴5基、2・3・10溝、土坑40基、ピット7基を調査した。3溝は調査区を略南北に走行する溝で、多数の住居・竪穴・土坑と重複しており、北端で突然掘り込まれていた。3溝底面は概ね南へ向かって低くなっており、通水があれば南流していたと推定する。5住居のように3溝に切られた遺構と、10住居のように掘り方底面で3溝の痕跡が認められた遺構とがあり、3溝は平安時代の所産と考えられる。

15・(16)住居はほぼ重なった状態の輪郭を示し、外側の16住居が浅く、内側の15住居が深いことから、両者は1軒の住居で、16住居相当の掘り込みは、屋根の葺き降りしの内側に相当する遺構と推定した。

4住居は北壁の東側が台形をなして突出する特殊な形状を示す。3住居のカマドは天井石が残り、良く構造を遺存していた。10住居のカマドは、燃焼部の遺存は不良だったが、煙道部の天井が残り、トンネル状を呈していた。埋没土上位に浅間As-B軽石が堆積していたことから、降下時期までに半分ほどが埋没した状態であったと考えられる。

2区では製鉄遺構を検出しなかったが、19土坑には灰層が土と混じって厚く堆積し、中から焼けた礫と「鍛造剥片」が出土した記録がある。直接製鉄した遺構ではないが、廃棄坑の可能性はある。

2 1面の遺構と遺物

耕具痕(第42図、PL.16・17)

検出位置 2区では北端部の限られた範囲で検出した。

壁 1区と同じく、平面形は半月形である。その他打ち込んだ方向は一定ではない。1溝底面にも認められるが、1溝の土層を検証する必要がある。

遺物 なし。

時代・時期 As-Bテフラ混土層から掘り下げられており、As-Bテフラ降下後に、復旧や開墾などが行われたと推定され、12世紀以降の所産と推定する。

1 溝(第42図、PL.16)

検出位置 78区M16～O14で検出した。2区の南端近くをほぼ調査区南壁と平行して走行する。

重複関係 2面1・3・6・7住居、2竪穴、2・3溝と重複する。2竪穴では北壁と接する位置に在る。すべて1溝が新しい。

覆土 調査区西壁の記録写真を見ると、標準的土層の4層から切り込んでおり、1面の遺構であると判断された。暗褐色系の土で埋没し、南東部に位置する2河道に似た様相を示す。底面に耕具痕を残していることも1面の遺構とした要素である。堆積状態から、河川の洪水層などの流入による自然埋没と推定する。

壁 遺存部分では浅く斜めに立ち上がる。長さ13.7mを検出し、上面幅68～100cm、深さは確認面から9～30cmである。走行方位はN72°Eである。

底面 やや平坦な面がある。底面標高は東西両端で数cmの差であり、検出範囲では水流の方向は判定できない。中央部と西寄りの底面に耕具痕が検出された。溝を掘り込んだ段階のものか、断定できないが、耕具痕は溝の走行方位にほぼ直交している。

その他 溝下位の埋没土の記録があり、2面3住居の上から掘り込まれていた。

遺物 須恵器椀(244)の出土が見られた。

時代・時期 底面に耕具痕が遺存することから、中世以降の所産と推定する。

3 2面の遺構と遺物

1住居(第44・71図, PL.19・156)

検出位置 78区N14~15・014グリッドで検出した。2区の南端中央部に位置する。

重複関係 1面1溝と、2竪穴、2・7住居、8・9土坑と重複する。それぞれ1住居→1溝、1住居→2竪穴、2住居→1住居、7住居→1住居、8土坑→1住居、9土坑→1住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。A・B断面では、床面は硬く締まった土で、地山の土をブロック状に含む。C断面では、1層の下面が床面とみられるが、判然としない。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東壁と西壁の一部を検出した。北西隅とみられる部分を検出し、これを根拠とした形状は、南北に長い長方形が復元できる。南壁は調査区外にある。西壁2.2m以上(推定4.5m以上)、北壁推定2.45m、東壁2.9m以上で、南北4.25m以上・東西2.86m、長軸方位はN17°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。調査範囲の南半部床面に炭化物が散布する。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出なかった。

カマド 調査区外の南東部に設置されたと推定される。

貯蔵穴 不明。

掘り方 北東部に69×52・深さ9cmの不整形の掘り込みが認められた。また、西壁沿いの壁際は浅い掘り込みがあり、中から土器No.8・9・10が出土した。南壁下のP2は床面下で検出したもので、径66・深さ10cmである。全体に凹凸が著しい。

その他 全体に細長い形状に推定される特異な住居である。1区17住居に似る。

遺物 北寄りの床面近くで土器片が、西壁沿いの南よりで黒色土器碗(127)、掘り方で須恵器碗(128)、須恵器杯(126)や羽口(129)が出土し、不明鉄製品(130・131)の出土があった。なお、掘り方出土土器は2住居所属の可能性がある。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

2住居(第45・71図, PL.19・156)

検出位置 78区O14グリッドで検出した。2区の南西端付近に位置する。

重複関係 1面1溝と、2竪穴、1住居と重複する。2住居→1住居→2竪穴、2住居→1溝の順に新しい。2住居→3溝の順に新しいと推定されるが、判然としない。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。A断面では、床面を形成する土に地山の土がブロック状に入っている。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 西壁の一部を約2.6m検出し、この間にカマドを含む。掘り込み深さは5~8cmでごく浅い。その他の壁・隅は他の遺構によって破壊されたか、2住居は1住居の一部になると考えられる。A断面では1住居と2住居の床面水準がほぼ同じであるが、カマド前付近で約10cm程の差がみられ、2住居の硬い床面を検出した。

床面 確実に2住居に所属する床面は、カマド前のわずかな範囲である。最大幅で1.5mほどを検出した。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出なかった。

カマド 西壁に設置される珍しい検出例である。カマド付近から十数cm大の礫と土器片が出土し、燃焼部相当の底面に炭化物が分布する。左側の突出部分は袖部の残りか。奥壁近くから土器片が出土したほか、丸い礫や15cm大の礫が出土した。カマドの中軸線の方位は、N75°Eである。

貯蔵穴 不明。

掘り方 カマド焚口相当の位置で、82×65・深さ13cmほどの掘り込みを検出した。

その他 2住居とする範囲が狭いので、全体の様相は不明である。1住居の一部だったとすれば、約4m四方の規模となる。

遺物 カマドから出土した甕(132)等比較的多くの土師器と少量の須恵器が出土し、羽口(133)の出土も見られた。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

3住居(第46・47・71図, PL.19・20・156・157)

検出位置 78区M15~N15グリッドで検出した。2区の南端やや東寄りに位置する。

重複関係 1面1溝と、6・7住居と重複する。それぞれ3住居→1溝、6・7住居→3住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。4層は、床面は地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 全体の形状が判明する数少ない例である。東西2.89m、南北3.30mで東壁南寄りか幅広くなり、やや歪みをもつが、全体として長方形を呈する。深さは35～42cmで、遺存状態が良い。カマドを南東隅付近に設置する。カマドを除く各壁の長さは南壁1.77m、西壁2.87m、北壁2.19m、東壁2.65mで、長軸方位はN0°である。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。南東部のカマド前に炭化物が分布する。中央部で出土した30～40cm大の礫は、床面直上である。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 1カマドは南壁東端付近にあり、おそらく南壁に直交する方位で設置されたと推定される。床面とはほぼ同じ水準に灰層が認められ、西側の壁際では焼土ブロックを含む層がある。2カマドは東壁南端部で斜めに煙道が延びる。燃焼部は住居南東隅相当の位置にあり、床面側に左右の袖石が遺存し、燃焼部中央の左寄り(北寄り)に長さ25×幅10cmほどの細長い礫を据えて支脚としていた。奥壁の両側には長さ20cm大の礫を立て、その上に長さ40cm大の礫(二つに割れて出土)を載せて門状とし、煙道部との境界としていた。煙道は約60×30cmの範囲を検出した。2カマドの方位はN66°Wである。2カマド右袖部の遺存状態から、1カマド→2カマドの順に造り替えられたと考えられる。カマド付近から礫のほか、土器片が出土した。

貯蔵穴 不明。

掘り方 「床下土坑」と呼ばれるピットを3個検出した。P1は不整形な掘り込みで、長軸176cm・深さ12cmである。P2・3はいずれも楕円形を呈する。P2:128×117・深さ28cm、P3:77×70・深さ33cmである。底面全体に凹凸がある。2カマド燃焼部から焚口にかけて小ピット5個を検出した。2カマド燃焼部の掘り方は略長方形を呈し、奥壁から一段上がついて長さ45cmの煙道部につながる。

その他 中央部付近から出土した大小の礫は、カマド構築材の一部とみられる。大きめの礫二つは自然埋没する

段階では移動しにくいと考えられ、2カマド燃焼部の礫は意図的に破壊された可能性がある。

遺物 須恵器片など西壁寄りからの出土が多く、須恵器の杯(136・137)・椀(138～140)、黒色土器椀(134・135)、灰釉椀(141)、土師器羽釜(142)、不明鉄製品(144)、鉄鏝(143)がみられた。なお、138・140は床面出土、134は壁際、141はカマド左袖脇から出土した。また136・142は破片で復元されている。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

4住居(第48・71図、PL.20・157)

検出位置 78区N17～18グリッドで検出した。2区の中央部に位置する。

重複関係 10溝、5住居、3竪穴、19・23土坑と重複する。それぞれ10溝→4住居、5住居→4住居、3竪穴→4住居、4住居→19・23土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。A・B断面では、床面はやや締まりがあり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 全体の形状が判明する数少ない例である。東西3.19m、南北は突出部を含む部分で2.73mとなる。北壁の東半部が台形を呈して突出しており(または北西隅が内側に凹み)、特異な形状を示す。深さは43～48cmが遺存する。カマドは東壁南寄りに設置し、東壁に直交する方向に燃焼部が広がる。各壁の長さは南壁2.90m、西壁2.17m、北壁は延べ2.91m(直線的には2.75m)、東壁2.47mで、長軸方位はN89°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。カマド前に炭化物が分布し、左袖部相当の位置に15cm大の角張った礫が出土した。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 東壁中央部やや南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの外側にあり、やや角張った形状となる。奥壁から煙道へは一段高まり、煙道部先端はやや南に曲る。煙道部はトンネル状で、幅10cm・高さ15～20cmが遺存していた。左袖相当の位置から15cm大の礫が出土したが、元の位置から動いている可能性が高い。燃焼部から土器片が出土した。カマドの方位はN89°Wである。

貯蔵穴 南東隅のピット:47×35・深さ32cmである。

掘り方 ビットを2個検出した。P1は略円形を呈し、P2は不整形である。P1:46×46・深さ11cm、P2:36×31・深さ11cm。底面全体に細かい凹凸があるが、概ね平坦である。カマド掘り方では、右袖石の抜き跡とみられる細長い凹みを検出した。奥壁からは土器片が出土した。

その他 住居の長軸方位が略東西方向で、短辺に設置するカマドの中軸方位も略東西方向である。

遺物 土師器・須恵器片がカマド内や西壁寄り中央・南壁寄り中央で出土した他、後者からは小礫が出土したが、いずれも床面からやや浮いた状態であった。この中には灰軸碗(145)や瓶か(146)、須恵器羽釜(147)、不明鉄製品(148)や鉄釘(149)がみられた。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

5住居(第49・72図、PL.20)

検出位置 78区N17~18・O17~18グリッドで検出した。2区の中央部に位置する。

重複関係 3溝、4住居、35・38土坑と重複する。それぞれ5住居→3溝、5住居→4住居、38土坑→5住居、35土坑→5住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。床面はやや締まりがあり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 中央部を南北に3溝が走行し、南西隅は不明、南東隅は4住居によって破壊されている。南壁はわずかに0.6m分を検出したのみであるが、全体の形状は概ね判明した。東西はカマドの北側で3.50m、南北は5.33mである。深さは35~39cmが遺存する。カマドは東壁南寄りに設置し、東壁に直交する方向に燃焼部が楕円形に広がる。各壁の長さは南壁0.6m(推定3.3m)、西壁3.42m(推定4.9m)、北壁3.11m、東壁4.31m(推定5.2m)で南北に長く、長軸方位はN89°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。カマド前に炭化物が分布し、燃焼部底面近くから土器片が出土した。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 東壁中央部やや南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの外側にあり、半截された楕円形を呈する。

奥壁から煙道へは一段高まり、煙道部先端はやや北に曲る。煙道部は長さ21cmが遺存していた。燃焼部から出土した土器片は、いずれも破片である。カマドの方位はN89°Eで、住居の長軸方位と直交する。

貯蔵穴 不明。掘り方調査で検出したビットは浅い。P1:45×32・深さ11cmである。

掘り方 カマド掘り方で検出した4個の小ビットは、カマド構築材の礫の抜き跡か。住居底面は細かい凹凸がある。

その他 住居の長軸方位が略南北方向で、長辺に設置するカマドの中軸方位は略東西方向である。

遺物 土師器、須恵器や少量の灰軸陶器片等が出土したが、この中には須恵器碗(150)、灰軸壺(151)があり、羽釜には酸化焰焼成のもの(154・155)と還元焰焼成のもの(152・153)があった。なお、出土遺物はカマド内から出土したほか、カマド前から(150)が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

6住居(第50・72図、PL.20・21・157)

検出位置 78区M15グリッドで検出した。2区の南東隅に位置する。

重複関係 1面1溝と、3住居、26土坑、2河道と重複する。それぞれ6住居→1溝、6住居→3住居、6住居→26土坑、6住居→2河道の順に新しい。

覆土 上位は黒褐色系、下位は暗褐色系の土で埋没する。床面は硬く締まった土で、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北寄りを1溝が走行し、西壁には3住居が重複するため北西隅を確認できなかった。住居内に3住居のカマドが遺存しているため、3住居との新旧関係は明らかである。南西隅、北壁の一部を確認し、東壁・南壁・南東隅は調査区外にある。南壁はわずかに0.51m、東壁は0.85mを検出したのみである。北壁は長さ2.86mを検出し、中央に突出部がある。西壁寄りで南北4.59mあるが、東西の規模は不明である。深さは26~38cmが遺存する。長軸方位は不明であるが、南北軸方位はN5°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。焼土が北壁沿いの壁直下に散布し、炭化物の分布範囲が中央部東寄りに認められた。硬化した面が南東寄りにあること

第4章 検出された遺構と遺物

から、カマドは東壁に設置されていたと推定する。土器片は中央部から北東寄りの床面で出土した。

柱穴 南壁寄りでP1・2、北西隅寄りでP3を検出したが、北東部の該当する位置では確認できなかった。各ピットの規模はP1:26×25・深さ19cm、P2:29×29・深さ22cm、P3:30×27・深さ31cmで、柱穴間の距離はP1-P2:137cm、P2-P3:250cmである。

カマド 硬く締まった面が南東寄りに分布すること、炭化物が南東部の2河道近くに分布することから、東壁に設置されたと考えられるが、調査区外に位置するため、形状・規模は不明である。

貯蔵穴 不明。掘り方調査で検出したP4は、東側に浅い斜面があり、61×76・深さ23cmで、貯蔵穴の可能性がある。

掘り方 北壁の突出部でP5を検出した。P5:121×80・深さ8cmである。底面は細かい凹凸がある。

その他 北東部床面で検出した焼土分布は、カマドから掻き出した焼土の可能性が高い。

遺物 須恵器を中心に比較的古土器が多かったが、この中には須恵器の杯(159~161)や碗(162~165)、黒色土器碗(156~158)、灰釉碗(167~169)や皿(166)、緑釉の碗(171)や皿(170)、そして羽口(172)が見られた。また(160)は掘り方から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中頃と推定する。

7住居(第51・72図、PL.21)

検出位置 78区N15グリッドで検出した。2区の南端近くに位置する。

重複関係 1面1溝と、3溝、1・3住居、7・16・21土坑と重複する。いずれも本住居の方が古い。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。床面は硬く締まった土で、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北壁の一部と南東隅を検出したのみである。東壁は3住居により、南壁は1住居・7土坑により、西壁は3溝によって破壊され、さらに中央部を1面1溝に切られている。北壁は長さ1.63mを検出し、深さ10cmが遺存していた。南東隅は深さ3cmが遺存し、東壁0.33m・南壁0.35mを検出したのみである。北壁と南東隅相当を滑ら

かにつないでも、東半部形状は台形を呈する。

床面 遺存していた床面は平坦である。北壁近くでは床面を形成する締まった土を確認している。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

その他 検出範囲が狭く、詳細は不明である。

遺物 北寄りの床面水準で礫が出土した。土師器片の他、須恵器碗(173・174)などわずかであった。

時代・時期 周囲の遺構との新旧関係及びわずかな出土遺物の特徴から、平安時代の所産と推定する。

8住居(第52・53・73図、PL.21・22・157・158)

検出位置 78区M16~N16グリッドで検出した。2区の南寄りに位置する。

重複関係 9住居、4・5・25・26土坑と重複する。それぞれ9住居→8住居、8住居→4土坑、8住居→5土坑、26土坑→8住居→25土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。A・B断面では、床面は締まりがあり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 全体の形状が不明。東西3.73m、南北4.90mで南北に長い長方形だが、やや歪んでおり、平行四辺形を呈する。深さは22~34cmが遺存する。カマドは東壁南寄りに設置し、東壁に直交する方向に燃焼部が広がる。各壁の長さは南壁3.76m、西壁4.28m(推定4.4m)、北壁3.32m(推定3.7m)、東壁4.33mで、長軸方位はN89°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。カマド前・東壁中央壁際・中央部北寄りの三箇所に炭化物が分布し、カマド前の分布が最も広い。右袖部相当の位置から24cm大の礫、燃焼部中央から細長い礫が立てた状態で出土した。

柱穴 床面で柱穴とみられる掘り込み、ピットを3個検出した。各ピットの規模はP1:25×25・深さ21cm、P2:29×29・深さ30cm、P3:33×29・深さ17cmで、ピット間の距離はP1-P2:262cm、P2-P3:212cmである。P4はP1~3よりも大きく、柱穴とは考えにくい。計測値をあげておく。P4:68×66・深さ31cm、P3-P4:185cm、P4-P1:311cmである。

カマド 東壁中央部や南寄り設置する。燃焼部は住居壁ラインの外側にある。奥壁は斜めに立ち上がる。燃焼部中央に細長い礫を立てた状態に据え、支脚としていた。これにほぼ平行した南壁際の位置に、やはり立てた状態の長さ30cm・幅10cmほどの礫を据えていた。二つ懸けのカマド、またはカマド南壁の石材を積む下段の礫になると考えられる。右袖部相当の位置には長さ23cmの大きめの礫を据えていた。左袖石は検出していない。燃焼部から須恵器椀(186)や須恵器鉢(196)が出土した。カマドの方位はN90°で、東西方向である。

貯蔵穴 南東隅にあり、カマド右脇の位置に相当する。89×67・深さ11cmである。中から須恵器杯(181・182)・椀(187・190)が出土した。

掘り方 西壁中央部の壁際から須恵器杯(184)が出土した。北東隅から北壁にかけて、不整形の浅い掘り込みが認められた。

その他 住居の長軸方位が略北方向で、長辺に設置するカマドの中軸方位は東西方向である。

遺物 本住居からは土師器と多くの須恵器及び少量の灰軸陶器が出土したが、この中には須恵器の杯(176～185)・椀(186～192)・鉢(196)、灰軸皿(193)・椀(194)、緑釉の椀か(195)、土錘(197)、羽子(198)が見られた。これらの遺物は上述のようにカマド内・貯蔵穴から出土したほか、カマド左前から(183)、西壁沿いの壁際から(176・180・193)が出土し、住居掘り方から(184・189)が出土している。また、9住居と帰属が分けられなかった遺物には須恵器杯(8・9住-199・200)がある。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前半の所産と推定する。

9住居(第54・55・73図、PL.22)

検出位置 78区M16グリッドで検出した。2区の南寄り調査区壁際に位置する。

重複関係 8住居、20土坑と重複する。それぞれ9住居→8住居、9住居→20土坑の順に新しい。

覆土 黒～暗褐色系の土で埋没する。床面は締まりがあり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 西側を8住居によって破壊され、東側は調査区外にあり、北壁の一部と南東隅、及びカマド2基分を検出し

た。南北3.51mを確認できたが、全体の形状は不明である。北壁で深さ32～34cm、南東隅付近では深さ28cmが遺存する。2カマドは東壁南寄りで、1カマドは南東隅の掘り方調査で検出した。

床面 細かい凹凸はあるが、概ね平坦である。2カマド前に炭化物が分布し、礫が3個並んで出土した。

柱穴 ビット3個を検出した。柱穴かどうかが、判断としない。各ビットの規模はP1:二段・54×41・深さ36cm、P2:25×20・深さ15cm、P3:63×30・深さ18cm、掘り方からP4:二段・65×52・深さ28cm、P5:153×144・深さ26cmである。

カマド 東壁南端の2カマドと、1カマドがある。2カマドは調査区壁際で炭化物が散布していた範囲で、3個の礫が並んで出土し、壁際底面から焼土が出土した。燃焼部の大半が調査区外にあるため、構造の詳細は不明である。南隅付近の炭化物範囲から土器片が出土している。1カマドは南東隅で焼土・炭化物が遺存していたことから検出し、南東に向かって細長く延びる溝状の煙道を確認した。煙道の住居側壁面には一部で灰層が認められ、埋没土に焼土粒や炭化物を含む。1カマドの煙道の方位はN47°Wである。2カマドで礫が出土したことと、1カマドの焼土・炭化物分布の検出状態から、1カマド→2カマドの順に新しいと推定する。

貯蔵穴 不明。

掘り方 掘り込みをP4・5の2個検出した。P5は柱穴と呼ぶにはふさわしくない大きさで、153×144・深さ26cmの規模である。

その他 1カマドの煙道は住居の対角線の方向に延び、2カマドは東壁に直交する方向に設置されたと推定される。

遺物 本住居からは土師器が比較的多く出土したが、この中には須恵器の椀(201)と杯(202・203)が出土した。また、2カマド内から土器片が出土し、8住居と帰属が分けられなかった遺物には須恵器杯(8・9住-199・200)がある。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前半の所産と推定する。

10住居(第56・57・74図、PL.22・23・158)

検出位置 78区N19～20・O19～20グリッドで検出した。

2区の北寄りに位置する。

重複関係 13・14住居、4竅穴、33・44土坑、3溝と重複する。それぞれ13・14住居→10住居、4竅穴→10住居、33土坑→10住居、44土坑→10住居、3溝→10住居の順に新しい。

覆土 黒～暗褐色系の土で埋没する。埋没土上位に浅間山As-B軽石を含む土があり、2層はAs-B軽石純層に近い。床面は硬く締まり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 西壁を除き、ほぼ全体の形状が判明する。南壁の西端は南西隅に近い位置と推定する。東西4.85m以上、南北4.21mで東西に長い長方形だが、やや歪んでいる。深さは40～57cmが遺存する。カマドは東壁南寄りに設置し、煙道の方位は東壁に直交しない。各壁の長さは南壁4.55m以上(推定4.6m)、北壁4.40m以上(推定5.3m)、東壁4.15mで、長軸方位はN81°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。カマド前・中央部西寄りに炭化物が分布し、中央西寄りの分布範囲が広い。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 東壁の南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの外側に略三角形を呈して広がり、燃焼部左右の壁際に長さ24～37・深さ1～13cmの細長い掘り込みが認められた。カマド構築材の礫を据えた掘り方とみられ、抜き取られた可能性がある。カマド燃焼部の遺存が不良であるのに対し、煙道は硬く焼けた天井部が遺存し、長さ50cmのトンネル状を呈して、径35cmの煙出しに至る範囲が良好に残る。奥壁の位置から長さ約20・幅15cm大の礫が出土した。燃焼部から土器片が出土した。カマドの方位はN74°Wである。

貯蔵穴 南壁西端が南西隅に近いと推定され、カマド右脇の南東隅に貯蔵穴を設置する空間が不足していたためと考えられる。82×74・深さ54cmである。

掘り方 不整形の掘り込みが多く認められ、底面の凹凸が著しい。住居中央部に60×180cmほどの平坦な面が残っていた。カマド前には150cmほどの不整形の掘り込みがある。

その他 カマド燃焼部の礫が殆ど残っていないにもかかわらず、煙道部の遺存が良好なことは、石材を拔出した可能性を示唆する。

遺物 埴輪片や灰釉陶器片の他、比較的多くの土師器・須恵器片の出土を見たが、須恵器の杯(204～206)・椀(207)・羽釜(210)、灰釉椀(208・209)、土師器の釜(211)があった。このうち(208)はカマドから、(204～206)は掘り方から出土している。

時代・時期 上位にAs-B純層に近い堆積があることと、出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

13住居(第58・74図、PL.23・158)

検出位置 78区N20～O20グリッドで検出した。2区の北寄りにあり、10住居の北側に位置する。

重複関係 34土坑、10住居、3溝と重複する。それぞれ34土坑→13住居、13住居→10住居、3溝→13住居の順に新しい。

覆土 黒～暗褐色系の土で埋没する。10住居と異なり、埋没土上位に浅間山As-B軽石を含む土がないことから、As-B軽石降下以前に埋没したと推定されるが、幅50cmほどの広さなので、決定的とはいええない。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北壁3.02mと北東隅を検出したのみである。東壁は0.40mで、深さ17～24cmが遺存していた。北壁の方位はN75°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、検出範囲では平坦である。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 未検出。

貯蔵穴 未検出。

掘り方 底面に細かい凹凸がある。

その他 大半を失っており、詳細は不明である。

遺物 須恵器の出土があったが、取り上げたものはいずれも須恵器杯で北東隅の床面から(213)、西寄りの床面から(212)、覆土中より(214)が出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前半の所産と推定する。

14住居(第59・60・74図、PL.23・24・158)

検出位置 78区N19～20グリッドで検出した。2区の北寄りにあり、10住居の東側に位置する。

重複関係 10住居、37・40・44土坑、3溝と重複する。それぞれ14住居→10住居、44土坑→14住居→37土坑、14住居→3溝の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。床面は硬く締まり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 西半部を10住居によって破壊され失っている。南壁には37・40土坑が接するように重複し、一部を破壊している。東西2.57m以上、南北3.86mだが、長軸は不明である。深さは28～47cmが遺存する。カマドは東壁南寄りに設置し、カマドの方位は東壁にほぼ直交している。各壁の長さは南壁2.44m以上、北壁1.76m以上、東壁3.88mである。東壁はほぼ南北方向を示す。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存範囲は平坦である。カマド前に炭化物が分布し、土器が出土した。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは、P1のみである。P1：36×33・深さ10cmで浅い。

カマド 東壁の南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインの外側に略三角形を呈して広がる。焚口左右の袖部に細長い礫を立てて据え、その上に40×25cm大の扁平な礫を据えて天井石としている。燃焼部中央に長さ15・径10cmほどのフイゴ羽口を、先端部(空気吹出し口)を上にして据えていた。製鉄関連の遺構の一部とするよりも、カマド支脚に転用したと考えた方が解りやすい。燃焼部左右の壁際から10cm大の小礫や土器片が出土しており、カマド構築材の一部と考えられる。奥壁からも25cm大の礫と土器片が出土した。カマドの方位はN80°Wで、東壁に対してやや傾いている。

貯蔵穴 南壁に接して掘り込まれ、規模は123×91以上・深さ9cmで、中から須恵器碗(219・220)が出土した。

掘り方 掘り方底面には細かい凹凸が著しい。カマド前が不整形に掘り込まれ、その内部に大小の穴が認められた。カマド燃焼部の掘り方は、底面40cm程度の角張った掘り込みとなる。住居中央部相当の位置でP2を検出し、底面近くから礫が出土した。南北に大きく広がるP3は、住居の北東隅と東壁に接する状態であった。P2：49×49・深さ27cm、P3：180×85・深さ12cmで、P2の東側は浅い掘り込みを呈する。

その他 カマド焚口に左右の袖石が残り、天井石が「鳥居状」に架けられたまま出土したが、燃焼部左右の壁は崩壊または破壊された状態であった。

遺物 土師器・須恵器片と若干の灰陶陶器片が出土しているが、この中には須恵器の碗(215～220)・甕(225)、

酸化焰焼成(222・223)や還元焰焼成(221)の羽釜、土師器甕(224)、羽口(226)の出土があった。これらのうち(222)はカマドから、(216)はP1の南側から出土が見られた。

時代・時期 遺構の新旧関係と出土遺物の特徴から、10世紀前半の所産と推定する。

15住居(第61・75図、PL.24・158)

検出位置 78区N18～19グリッドで検出した。2区の北寄りにあり、14住居の南東側に位置する。

重複関係 3竪穴、36・40・41・43土坑と重複し、もと16住居は15住居のひと回り外側に相当する。40・41土坑は15住居よりも新しいが、36土坑は15住居の上から掘り込まれており、15住居→36土坑の順に新しい。43土坑は15住居西壁に切られている記録があり、床面下の土坑の可能性もある。3竪穴は15住居を切っており、15住居→3竪穴の順に新しい。

覆土 黒～暗褐色系の土で埋没する。15住居の床面はやや締まり、地山の土をブロック状に含む。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 15住居の東半部は調査区外にある。調査区内では南北3.95m、東西2.37m以上で、方形ないし長方形を呈し、45～47cmの深さが遺存する。南壁1.70m以上、西壁3.43m、北壁1.23m以上の規模で、西壁の方位はN4°Eである。16住居は15住居の外側に掘り込みが認められたもので、南壁2.01m以上、西壁3.11m(推定3.6m)、北壁1.36m以上の規模をもち、深さ16～28cmの深さが遺存し、西壁沿いでは22～28cmとほぼ同じ深さをもつ。また、掘り込みから15住居の輪郭までの幅は、南壁が9～19cm、西壁28～31cm、北壁西寄り24cmを測る。

床面 15住居の床面は、細かい凹凸はあるが、遺存範囲は平坦である。もと16住居床面は、壁際のみなので、わずかな傾斜で15住居の壁に至る。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 東側の調査区外に設置されたとみられ、検出していない。

貯蔵穴 南西隅の掘り込みが貯蔵穴と考えられる。規模は59×54・深さ20cmである。

掘り方 掘り方底面には細かい凹凸がある。北西部で43土坑に破壊されたピットを確認した。検出範囲では南北

72cm以上で、深さ10cmと浅い。

その他 前述のような検出状況から、16住居は15住居に破壊された別の住居ではなく、15住居の一部であると考えられる。もと16住居の遺構検出状況は、15住居壁の外側に付設される浅い「棚」状または物置場所で、屋根の葺き下しの内側に設置された遺構と推定する。

遺物 15住居からは土師器、須恵器、備かな灰軸陶器片等が出土したが、これらの中には須恵器椀(228・229)・杯(227)、灰軸壺(230)、土師器甕(231)、酸化焰焼成の羽釜か(232)があった。このうち貯蔵穴北側の床面から(232)が、南壁の壁際床面から(228)が、調査区壁際で(229・231)が出土した。

時代・時期 遺構の新旧関係と出土遺物の特徴から、10世紀前半の所産と推定する。

1 竪穴(第62・75図、PL.25・158)

検出位置 78区O16グリッドで検出した。2区の南西部に位置する。

重複関係 3溝と重複する。3溝→1 竪穴の順に新しい。

覆土 黒～暗褐色系の土で埋没する。底面近くに灰を多く含む。覆土が薄いので、判然としなが、堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 略長方形を呈する掘り込みで、各隅に丸味がある。北壁よりも南壁がやや長く、南北2.85m、東西2.59mで台形に近い。南壁2.30m、西壁2.46m、北壁2.06m、東壁2.65mで、深さは5～17cmと浅い。底面近くから礫や土器、鉄製品が出土した。

底面 比較的平坦である。底面中央部に58×46cmの略長方形を呈する焼土化した範囲があり、その北東側に炭化物が散布し、南側底面は硬く締まっていた。

掘り方 不明。

その他 全体の形状が判明する。中央部底面が焼土化し、炭化物が周囲に散布していることから、内部で焚き火のような火処が存在したことは確実である。出土遺物からは竪穴の機能を限定するような特徴を読み取れない。作業小屋のような遺構か。人が二人程度は寝られる広さがある。

遺物 須恵器杯(235・236)と鉄製品釘(237)が出土している。底面近くから15cm大の礫が出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半

頃と推定する。

2 竪穴(第62図、PL.25)

検出位置 78区N14～15グリッドで検出した。2区の南端部に位置する。

重複関係 1面1溝、3溝、1住居、22土坑と重複する。それぞれ2竪穴→1溝、3溝→2竪穴、1住居→2竪穴、22土坑→2竪穴の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。B土層断面では、底面に接する1層に多量のAs-B軽石を含んでいる。覆土が薄いので、判然としなが、堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 略方形を呈する掘り込みで、各隅に丸味がある。北壁は1溝に切れられ、その大半を失っているが、各隅を確認できた。北壁よりも南壁がやや長く、南北2.24m以上(推定2.35m)、東西2.14mで台形に近い。南壁2.00m、西壁1.98m、北壁1.78m、東壁2.08mで、深さ8～14cmが遺存する。長軸の方位はN15°Wである。西壁中央部壁際、北東隅付近から土器片が出土した。

底面 比較的平坦である。底面の南西隅付近に炭化物が分布する。

掘り方 不明。

その他 全体の形状がほぼ判明する。1竪穴とは異なり、焼土化した底面はみられないが、一部に炭化物が分布し、1竪穴と似たような利用が想定される。

遺物 備かな須恵器片が出土したが、図化掲載に取り上げるべき遺物はなかった。

時代・時期 埋没土にAs-B軽石を多く含むことと、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半頃と推定する。

3 竪穴(第63・75図、PL.25・158)

検出位置 78区M17～N15グリッドで検出した。2区の中央部東壁にかかっている。

重複関係 4住居、15住居と重複する。4住居によって切れられ、15住居を切っていることから、15住居→3竪穴→4住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。調査区東壁の土層断面では、住居のように底面を形成する土が認められた。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東半部は調査区外にあり、全体の形状は不明である。

南北3.31m、東西1.71m以上で、台形と推定される。西壁の中央部は内側に凹む。南壁1.80m以上、西壁2.92m、北壁0.84m以上で、深さ23~27cmが遺存する。南寄りの範囲から土器片が出土した。

底面 比較的平坦である。中央部の底面からやや浮いた状態で、十数cm大の礫が3個並んで出土した。南西隅でP1を検出した。不整形な形状で、中位から30cm大の丸味のある扁平な礫が出土した。規模は92×75・深さ43cmである。

掘り方 南半部でP2を検出し、その周囲は不整形な浅い掘り込みとなっていた。P2:60×44以上・深さ28cmである。底面を形成する土は地山の土を多く含んでいた。

その他 東半部を調査していないが、1・2竪穴よりもひと回り大きな規模と推定される。

遺物 いずれも底面から浮いた状態で杯(238)等の須恵器と僅かな土師器・灰釉陶器片を出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀前半頃の所産と推定する。

4 竪穴(第63・75図、PL.25・158)

検出位置 78区O18~19グリッドで検出した。2区の調査区中央部西壁に位置する。

重複関係 10住居、33土坑と重複する。10住居によって切られ、33土坑を切っていることから、33土坑→4竪穴→10住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。調査区西壁の土層断面では、住居のように底面を形成する土が認められた。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南東隅を検出したのみで、北部は10住居によって破壊され、西半部は調査区外にあり、全体の形状は不明である。南北2.09m、東西1.62mが遺存する。南壁1.65m以上、東壁2.06m以上で、深さは15~32cmである。東壁の壁際から20cm大の礫が出土した。

底面 細かい凹凸があり、やや締まった底面を形成する。底面水準では須恵器片(242)等が出土した。

掘り方 著しい細かい凹凸があり、土器片や鉄製品が出土した。底面を形成する土は地山の土をブロック状に多く含んでいた。

その他 西側を調査していないが、2区の住居の多くが東壁の南寄りにカマドを設置していることから、住居で

はなく、竪穴とした。

遺物 甕(240・241)等の土師器片と椀(239)・甕(242)等の須恵器片、灰釉陶器1片、そしてノコギリ(243)が出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀前半頃の所産と推定する。

5 竪穴(第63図、PL.25)

検出位置 78区N20グリッドで検出した。2区の北寄りに位置し、調査区東壁際に位置する。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南北3.40m、東西0.63mの範囲を検出したのみで、大半は東側の調査区外にあり、全体の形状は不明である。深さ13cmほどが遺存する。

底面 比較的平坦な底面である。南西隅で二段に掘り込まれたP1を検出した。規模はP1:32×28・深さ25cmである。

掘り方 不明。

その他 遺構の大半は東側の調査区外にあり、詳細は不明である。

遺物 土師器、須恵器の小片を出土したのみであり、図化掲載に取り上げるべき遺物は無かった。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀代の所産と推定する。

2 溝(第64・76図、PL.26)

検出位置 78区O16~18グリッドで検出した。2区南半部の西端に沿って略南北に走行する。

重複関係 1面1溝と重複し、2溝→1溝の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。土層断面4層では、底面に黄褐色の軽石を多く含むシルト質土が堆積しており、いわゆるHr-FA泥流の可能性が指摘されている。上位には凹みを灰褐色の砂質土が埋めていることから、河川の洪水層などの流入による自然埋没と推定する。

壁 溝の東岸を検出したが、底面から西岸に至る範囲は調査区外にあり、確実な底面とするのは困難である。東岸の形状は凹凸があり、南端付近と、13mほど北上した位置に長さ1.5~2m・幅0.5mほどの突出部がある。壁

第4章 検出された遺構と遺物

は斜めに立ち上がり、長さ19.5mを検出した。深さは確認面から45～67cmである。北半部の底面が判然としないので、走行方位は略南北としておく。

底面 南半部で底面とみられる範囲を検出したが、確実ではない。検出範囲での西端標高は10cm未満の差であり、水流の方向は判定できない。

その他 東側2mの位置に3溝があり、調査区内ではこれとほぼ平行している。底面付近を埋めた黄褐色シルト質土がHr-FA泥流ならば、古墳時代に遡る可能性がある。

遺物 椀(247)・杯(246)等の須恵器片と僅かな土師器片、黒色土器椀(245)が出土している。

時代・時期 わずかな出土土器と埋没土の状況から、古墳時代～平安時代の所産と推定する。より狭い時期の限定は困難である。

3溝(第65・76図、PL.26・159)

検出位置 78区O14～N1グリッドで検出した。2区中央部をほぼ南北に走行する。

重複関係 多くの遺構と重複する。1面1溝とは南端近くで交差し、3溝→1溝の順に新しい。土坑は南から8・18・17・15・6・10・29・31土坑と重複し、概ね土坑が新しい。17土坑は3溝より古い。竪穴は南から2・1竪穴と重複し、いずれも竪穴が新しい。住居は南から2・1・7・5・14・10・13住居と重複し、2・1・7・5・14住居→3溝の順に新しく、10・13住居は3溝より新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 深い部分では略半円形の断面をもつ。東岸で約33.9mを検出し、幅119～203cm、深さは北端で11cm、南端近くで43cmである。1竪穴の北東部では30cm前後、5住居付近で50cm前後、10住居の掘り方下位で41cm、29土坑の南側で25cmである。5箇所に深い地点があり、2住居東側、1竪穴南東側、5住居重複部、10住居南側、10住居北側の地点は円形～楕円形を呈する深みとなっている。ポットホールか。10住居の完掘後の写真では、3溝の痕跡とみられる変色区内在認められた。走行方位はN2°Eである。

底面 一部の深い地点を除外すると、底面標高は29土坑付近で128.85m前後、5住居重複部付近で128.40mから128.50m、南端付近で128.40m未満、北寄りの底面標高

が高く、南寄りで低いことから、水流は南へ向かって流れていたと推定する。ただし、北端から突然3溝が出現し、水源となる遺構が見当たらない。

その他 直線的な溝であることから、土地を区画する溝であった可能性も残る。

遺物 土師器と、椀(261)・段皿(262)等の灰釉陶器。椀(253～260)・内外面磨きの椀(248)・杯(249～252)・壺か(263)・羽釜(264)・櫃(265)などの須恵器。釘(266)や刀子(267)といった鉄製品が出土している。1溝と交差する地点の北側から248・265～267が、5住居と重複する地点の南側から258・261・264が出土した。

時代・時期 出土土器の特徴と埋没土の状況、重複する遺構出土遺物から、10世紀後半の所産と推定する。

10溝(第64図、PL.26)

検出位置 78区N17グリッドで検出した。2区の中央部に位置する。

重複関係 4住居、5土坑と重複する。10溝→4住居→5土坑の順に新しい。

覆土 炭化物・焼土粒僅かに、Hr-FPを多く含む極暗褐色土で埋没する。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 遺存が悪く、底面は底面付近を確認したに過ぎないが、開き気味である。東岸で約2.7mを検出し、幅40～49cm、深さは北端で5cm、南端近くで9cmである。走行方位はN34°Wである。

底面 底面標高は4住居付近で128.83m、5土坑付近で128.82mを測る。明確ではないが水流の方向は南へ向かって流れていたと推定する。

その他 緩やかに蛇行する溝であることから、水路であった可能性も残る。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 埋没土の状況、重複する遺構出土遺物から、重複関係から10世紀後半以前と推定する。

2区2面土坑(第66～69・77図、Pl.26～31・159)

1土坑は単独で在り、掘り込みの壁面は若干斜めに立ち上がり、底面は平坦である。出土遺物はなかった。

2土坑と3土坑は重複し、3土坑→2土坑の順に新しい。2土坑の壁面は若干斜めに立ち、底面は丸底状を呈する。3土坑の壁面は垂直に立ち上がり、底面はやはり丸底になると想定される。2土坑からは少量の土師器・須恵器片、3土坑からは少量の土師器片が出土した。

4土坑は単独で在る。壁面は開き気味で、底面は若干丸底気味である。出土遺物はなかった。

5土坑は掘り込み上位の壁は斜めに立ち上がるが、下位の壁は直に近く、底面に平坦な面をもつ特異な土坑である。少量の須恵器・土師器片が出土した。

6土坑と10土坑は10土坑→6土坑の順に新しく、いずれも3溝の上から掘り込まれている。6土坑からは椀(268)等の須恵器片と僅かな灰釉陶器片が出土し、10土坑からは少量の須恵器片が出土している。

7土坑は1住居に切られ、7住居を切っている。従って、7住居→7土坑→1住居の順に新しい。7土坑からは少量の須恵器片と羽口(269)が出土した。

8・9・22土坑は調査区南壁にかかった土坑で、全体の形状は不明である。8土坑からは土師器、須恵器片が出土し、9土坑は40cm大の扁平な礫と15cm大が出土し、22土坑からは21土坑との分別ができなかった遺物として須恵器と僅かな土師器が出土した。1住居または2住居に関連する可能性がある。8・9土坑とも3溝より新しい。

15土坑は3溝よりも新しく、中から須恵器片と緑釉陶器片1片が出土した。17土坑は少量の須恵器片が出土し、3溝に切られているが、17土坑→3溝→15土坑の順に新しい。

16土坑からは須恵器片と若干の土師器片、羽口(271)と不明鉄製品(270)が出土した。

17土坑からは若干の須恵器片の出土が見られた。

18土坑は鉄製品や少量の須恵器のほか、礫2個が出土し、2住居カマドと認定された位置の直下で検出された。2住居カマド前の掘り込みの可能性は残るが、2住居カマドの掘り方よりも10cmほど下位で輪郭が認められたことから、2住居とは別の遺構と考えられる。

19土坑は底面に小ピットがあり、脇から30cm大の焼け

た痕跡のある割れた礫が出土した。埋没土は炭化物・灰が主体で、褐色土のブロックを含み、鍛造剥片をわずかに含んでいたことから、製鉄関連遺構の廃棄物が投棄された可能性が高い。しかし、周囲には製鉄関連遺構が見当たらない。また少量の須恵器片を出土した他、台石(272)が出土している。

20土坑からは少量の土師器・須恵器・灰釉陶器片が出土した。

21土坑は杯(273)等少量の須恵器片が出土し、また16土坑と分別ができなかった須恵器と僅かな土師器が出土している。本土坑は16土坑に切られている。

23土坑からは須恵器片、24土坑からは土師器・須恵器片が少量出土した。

25土坑は土層断面を精査した結果、8住居よりも新しいことが判明した。僅かな須恵器片が出土した。

26土坑は8住居南東側と6住居北壁にかかり、いずれも26土坑が新しい。出土遺物はなかった。

27・28土坑からは須恵器片が出土した。

29土坑と31土坑は、いずれも3溝埋没土を切り込んで掘り込まれた土坑で、29土坑からは灰釉陶器片と土師器片が、須恵器杯(274)・椀(275)が出土した。31土坑底面の標高は128.89mで、3溝の底面標高に近い。29土坑底面の標高は128.50m前後の標高で、内部の小ピット底面の標高は128.44m・128.32mである。この標高は29土坑南側の3溝底面の標高128.83mよりも40～50cmほど低くなる。

30土坑からは須恵器片が出土した。

35土坑は北東隅を検出した長方形の掘り込みの一部で、5住居に切られていた。竪穴または住居の一部であった可能性がある。本土坑からは僅かに須恵器・灰釉陶器片が出土している。

36土坑からは土師器片と杯(277)等の須恵器片、黒色土器椀(276)、緑釉陶器片1片が出土した。

38・39・37・40・41土坑は略東西に並ぶ土坑で、38土坑は5住居に切られている。37・40土坑は14住居よりも新しい。出土遺物はなかった。

43土坑は15住居内側の壁に切られた記録があるが、15住居底面を掘り込んでおり、15住居床面下の土坑であった可能性がある。南西部から完形に近い須恵器椀(278)が出土した。同じく15住居の輪郭内で検出された36土坑は、明確に15住居埋没土を切り込んでおり、黒色土器椀

第4章 検出された遺構と遺物

(276)、須恵器片や礫が出土した。

44土坑は西側を10住居に切られ、14住居の下位から東壁を検出したもので、深さ80cmほどの深い土坑である。須恵器片や灰軸皿(279)、釘(280)の出土が見られた。

なお、32・33・34・42土坑からの遺物の出土はなかった。

2区2面ピット(第66～68・77図、PL.31・32・159)

4ピットは23土坑の南側に位置し、二段に掘り込まれていた。7ピットは5住居埋没土を掘り込んでおり、中から灰軸碗(281)などの土器片が出土した。他のピットからの遺物の出土はなかった。

4 遺構外の出土遺物(第77図、PL.159)

2区に於いては、遺構外の出土遺物として土師器1.9kg、須恵器4.4kg、灰軸陶器90gの破片を含む出土遺物が得られた。

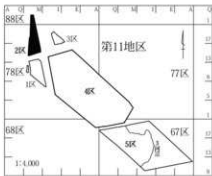
この中には白磁碗(282)、黒色土器碗(283・284)といった土器、陶磁器類の他、羽口(285～287)といった製鉄関連遺物の出土も見られた。

5 確認調査

2区トレンチ(第70図、PL.32)

2区2面の調査終了後、下層の状態を確認するため、トレンチを設定して掘り下げた。北端をB地点、南端をA地点とする。40～55cmほどの厚さで黄橙色のシルトが堆積し、粘性の強い黒～黒褐色土で白色軽石を多く含む土が堆積する。B地点では純層に近い白色軽石が認められた。この白色軽石は堆積の層序から、As-C軽石(浅間山Cテフラ、4世紀初頭頃降下)と推定される。その直下は軽石粒を含まない粘性の強い黒～黒褐色土である。さらに黄橙色シルトの層を挟んで、礫層に達する。

A地点の礫層の標高は127.30m前後、B地点では127.70mほどで、北寄りのB地点の方が0.4mほど高い。

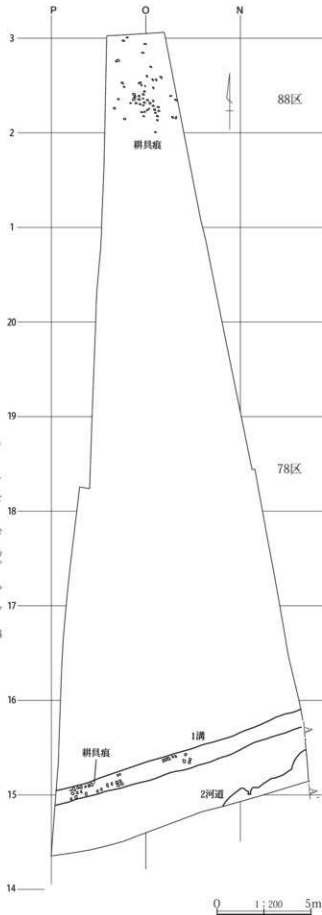
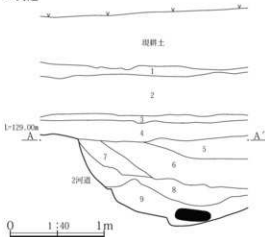


▲ 2区1面2河道土層 西から

中世～近世の堆積

- 1 に近い褐色土7.5YR5/3 やや粘性あり。シルト質上。白灰色軽石粒を含む。As-B軽石を含む混土。
 - 2 灰褐色土7.5YR4/2 砂質上。白灰色軽石粒を多く含む。As-B混土。
 - 3 灰褐色土7.5YR4/2 やや粘性あり。白灰色軽石粒を含む。As-Bを少量含む。シルトと軽石と砂の混土。
 - 4 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質上。粘性あり。Hr-FP軽石粒とAs-B軽石粒を多く含む混土。浅黄褐色シルト上で縮状に、下位は砂が堆積する。
- 2河道
- 5 黒褐色土7.5YR2/2 やや粘性あり。Hr-FP軽石粒とAs-B軽石粒を少量含む混土。砂を少量含む。
 - 6 灰褐色土7.5YR5/2 やや粘性あり。灰褐色土主体で浅黄褐色シルト土・砂が縮状に堆積。上位にシルトが多く下位に砂が多い。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
 - 7 暗褐色土7.5YR2/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒・石粒をわずかに、砂を少量含む。浅黄褐色シルト土・灰褐色シルト土の混土。
 - 8 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒と焼土ブロックをわずかに含む。
 - 9 灰褐色土7.5YR4/2 シルト土と砂の混土。砂とシルト土がブロック状・縮状に堆積。大きな石も含む。洪水等により底面が倒れた可能性あり。

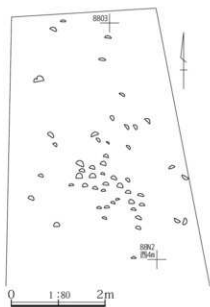
2河道



第41図 2区1面全体図、2河道

第4章 検出された遺構と遺物

北端部耕具痕

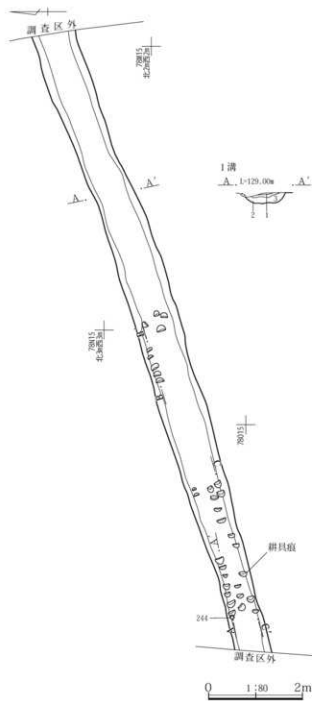


▲2区1面1溝の調査区西壁土層 東から

1溝

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 1層と似るが浅黄褐色シルト土が部分的に層状に堆積している。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 砂質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。

1溝、南西端耕具痕



南西端耕具痕

A, L=129.80m

A'

B, L=129.80m

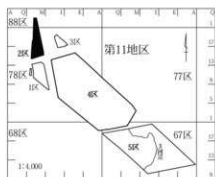
B'

C, L=129.80m

C'



第42図 2区1面1溝、耕具痕



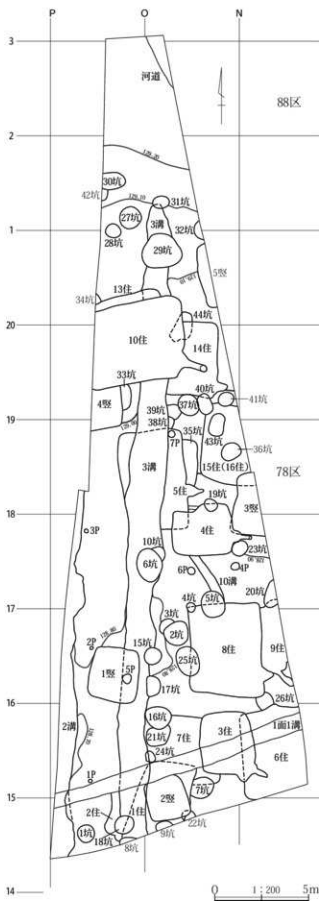
▲2区2面調査風景1 南東から



▲2区2面調査風景2 南西から

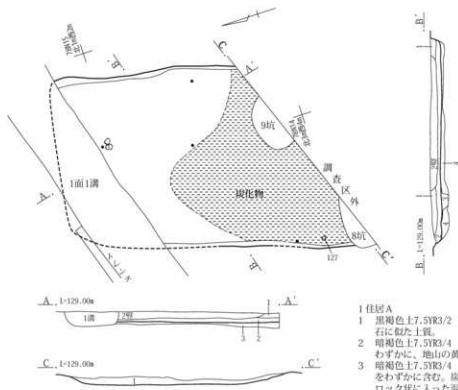


▲2区2面5住居調査風景 西から



第43図 2区2面全体図

1住居



1住居A

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。As-B軽石に似た土質。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに、地山の黄褐色シルト質土粒を含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。硬く締まっている。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒と、地山の黄褐色シルト土に似た土がブロック状に入った混土。床面を形成する土。

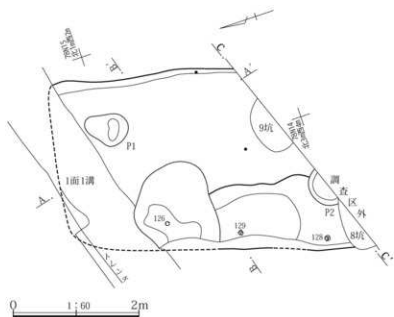
1住居B

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。As-B軽石混土に似た土質。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物や灰を含む。焼土粒をごくわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。硬く締まっている。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒と黄褐色シルト土がブロック状に入った混土。床面を形成する土。

1住居C

- 1 灰褐色土7.5YR6/2 シルト土。Hr-FP軽石粒を少量含む。シルト土と砂が薄い層を形成して堆積。流水による水性堆積。

掘り方



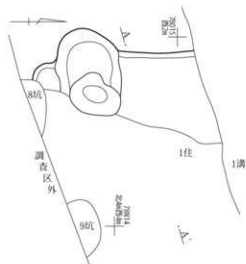
第44図 2区2面1住居

2住居



0 1:60 2m

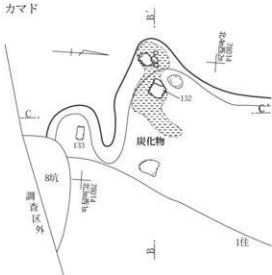
掘り方



2住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。1層が基本の層で黄褐色シルト土粒が入った混土。炭化物粒と焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 硬く締まっている。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒。地山の黄褐色シルト土がブロック状に入った混土。床面を形成する上。

カマド



0 1:30 1m

カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒、炭化物と灰が混ざったブロックを多く、焼土粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土粒を少量含む混土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土粒が入った混土。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。全体に灰の粒子を多く含む。
- 6 にぶい褐色土7.5YR7/4 やや粘性あり。カマド袖に似た土が入る。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 7 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、焼土粒と炭化物粒を少量含む。全体に灰粒子が多い。

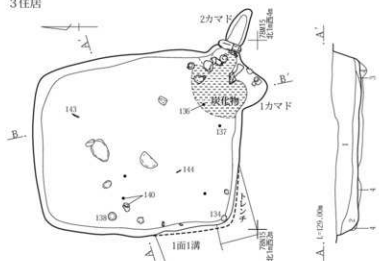


▲2区2面2住居カマドC断面 北から

第45図 2区2面2住居

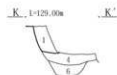
第4章 検出された遺構と遺物

3住居

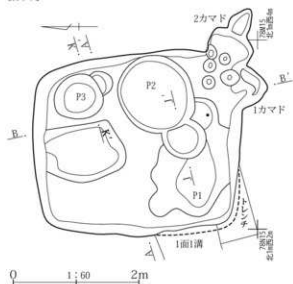


3住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Br-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Br-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。2層に地山の崩落土が多く入った混土。地山土主体。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Br-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土粒を多く含む混土。床面を形成する上。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Br-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物・黄褐色シルト土ブロックを少量含む。
- 6 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。白と灰褐色軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。



掘り方



▲2区2面3住居カマド 北西から



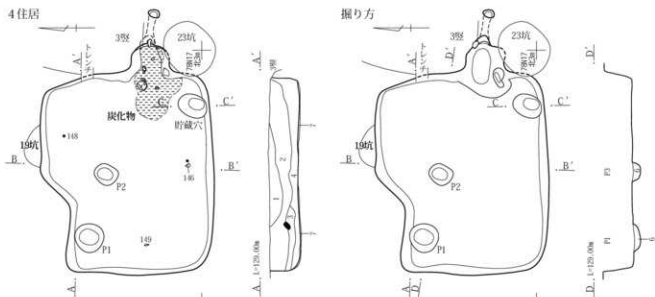
▲2区2面3住居A土層 西から



▲2区2面3住居カマド遺物出土状態 北西から

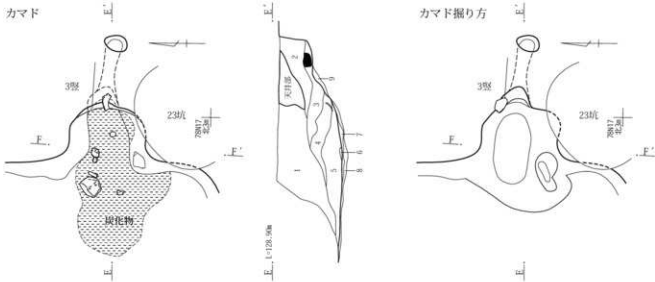
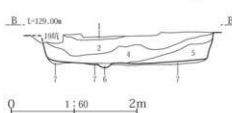
第46図 2区2面3住居1

第4章 検出された遺構と遺物

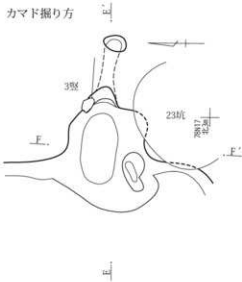


4住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。やや締まっている。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。黄褐色シルト上ブロック状の混入。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒を少量含む。黄褐色シルト上の混入。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。黄褐色シルト上が多い混入。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒と炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。地山が多い混入。
- 6 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。上位に床面を形成する土。
- 7 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物をわずかに含む。床面を形成する土。



カマド

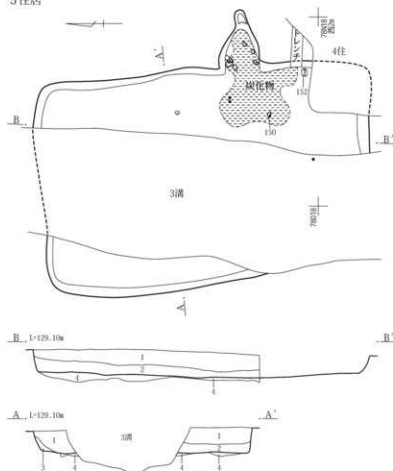


カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト土と粘土の混入。Hr-FP軽石粒と炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。灰褐色粘土を含む混入。
- 4 棕色土5YR7/8 焼土ブロック。
- 5 黒褐色土7.5YR3/1 灰層。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。やや締まりあり。硬い底面。
- 7 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。下部に被熱によって弱く焼土化した土。天井の崩落上。
- 8 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。焼土粒・焼土ブロックを含む混入。崩落土を主体とした混入。焼土化は弱い。
- 9 に近い褐色土7.5YR6/4 シルト質上。地山の黄褐色シルト土の混入。

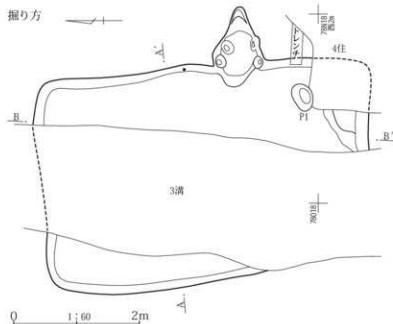
第48図 2区2面4住居

5住居



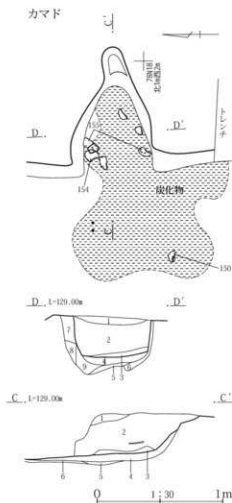
5住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。黄褐色シルト土と混上。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混上。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。地山シルト土と暗褐色土の混上。床面を形成する上。



第49図 2区2面5住居

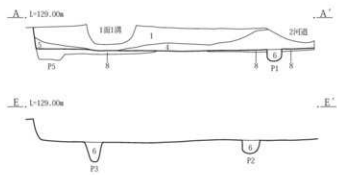
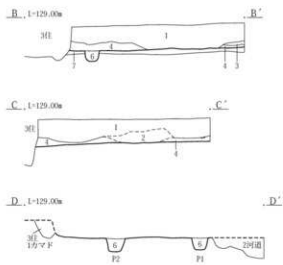
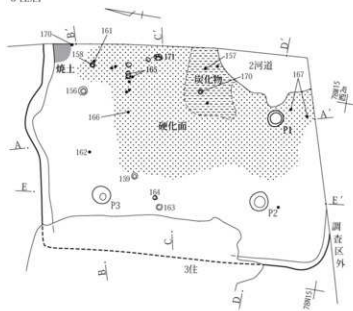
カマド



カマド

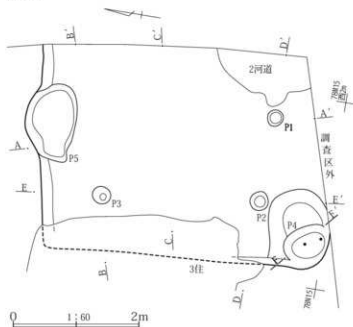
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・焼土ブロックを含む。炭化物粒や黒色の灰を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 やや粘性あり。焼土ブロックを多く含む。黒色の灰が少量混じる。
- 4 暗灰色土N 3/ 灰層。焼土ブロックを少量含む。
- 5 明赤褐色土2.5YR5/8 シルト。地山が焼土化した部分。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒を少量含む。地山シルト土と暗褐色土の混上。
- 7 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。微細な焼土や炭化物・灰を少量含む。
- 9 にぶい褐色土7.5YR6/4 シルト質土。焼土ブロックを多く含む。一部焼土化。

6住居



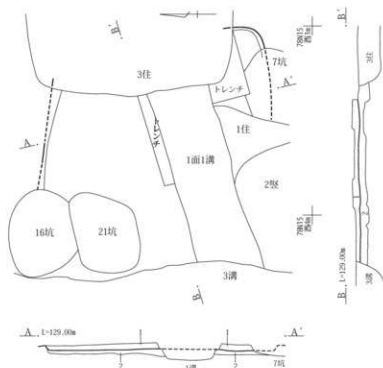
- 6住居
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒・ブロックを少量含む。焼土粒をわずかに含む。
 - 2 鉄滓が集中する部分。投棄されたか。
 - 3 黒色土7.5YR2/1 灰層。灰が主体で暗褐色土を含む混土。
 - 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。1層に似る。黄褐色シルト粒・ブロックを多く含む。
 - 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。粘性強い。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山土を含む混土。
 - 6 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや粘性あり。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。
 - 7 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。床面を形成する土に似る。
 - 8 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。非常に硬く締まっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土をブロック状に含む混土。床面を形成する土。

掘り方



第50図 2区2面6住居

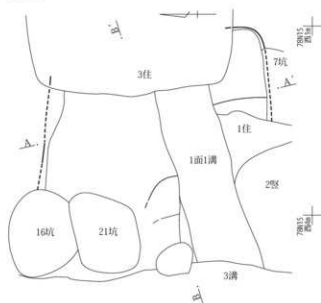
7住居



7住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まっている。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。地山のシルト上ブロックを多く含む混土。

掘り方

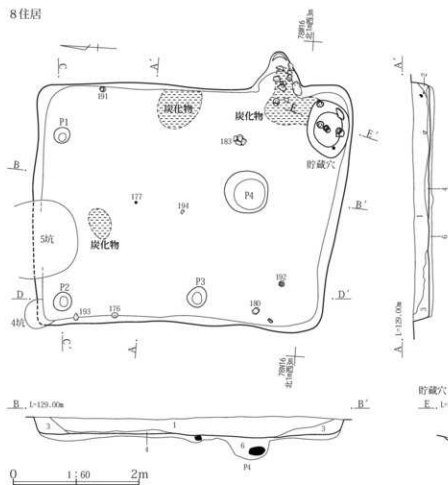


▲2区2面7住居C土層 南から

0 1:60 2m

第51図 2区2面7住居

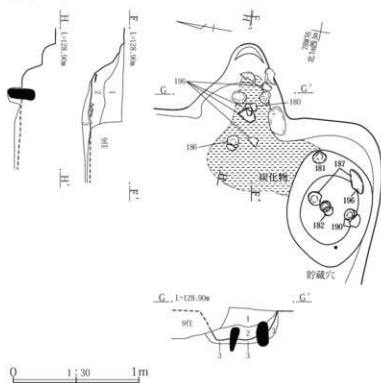
8住居



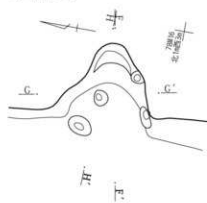
8住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒を少量、焼土粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 1層に似るがHr-FP軽石粒は少ない。黒色の炭を粒状に含む。9住居層上の流入か。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒とも少量含まれる。地山の黄褐色シルト土を含む混土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山のシルト土粒を少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。底部に灰層が部分的に堆積。
- 6 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。締まりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土ブロックを混土。床面を形成する上。

カマド



カマド掘り方

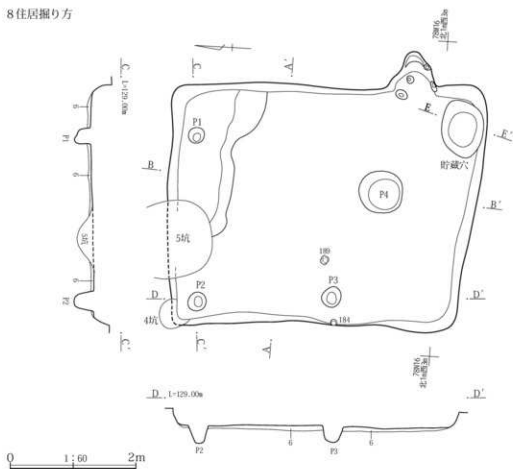


カマド

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。やや粘性あり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。灰層部に部分的に灰が堆積。

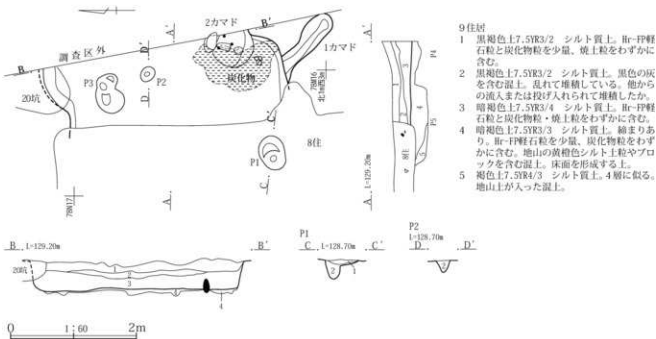
第52図 2区2面8住居1

8住居掘り方



第53図 2区2面8住居2

9住居



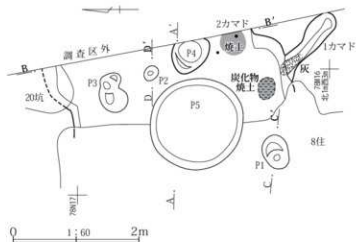
9住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量。焼土粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黒色の灰を含む混土。乱れて堆積している。他からの流入または投げ入れられて堆積したか。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。締まりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土粒やブロックを含む混土。床面を形成する上。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。4層に似る。地山が入った混土。

第54図 2区2面9住居1

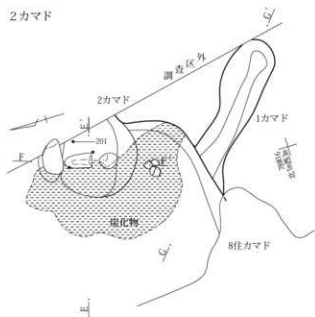
第4章 検出された遺構と遺物

9住居掘り方

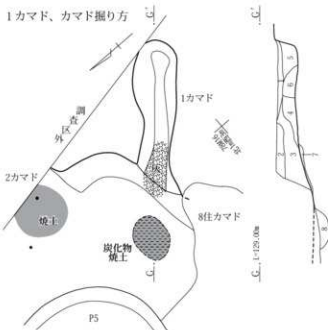


- P1・P2
 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルトを含む混土。

2カマド



1カマド、カマド掘り方



E., I=128.80m



E., I=128.80m



0 1; 30 1m

2カマド

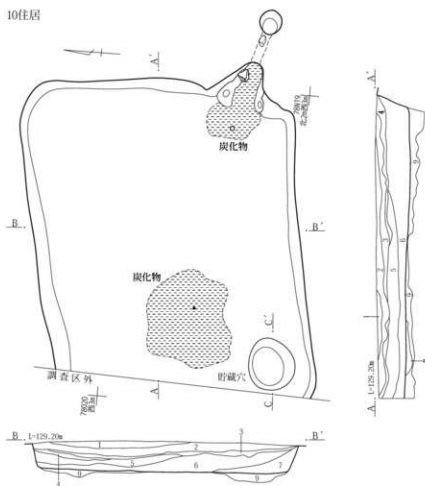
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。締まっている。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山を含む混土。
- 2 黒色土7.5YR2/1 灰層。部分的に焼土ブロックが入る混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。混入物なし。

1カマド

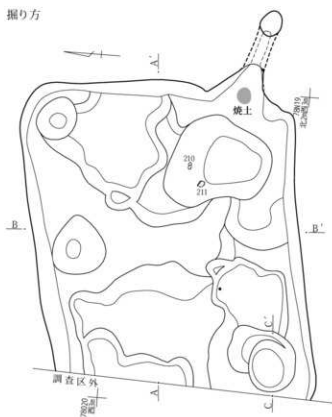
- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と焼土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。焼土を含む混土。天井崩落か。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と焼土粒をわずかに含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。焼土粒をごくわずかに含む。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 6 暗褐色土7.5YR3/3 黒と灰色の灰を50%含む焼土粒を含む。崩落か。
- 7 灰層
- 8 焼土・炭化物層

第55図 2区2面9住居2

10住居



掘り方



10住居

- 1 暗赤褐色土5YR3/4 粒子が粗い。暗赤褐色シルトとAs-砂軽石が主体。
- 2 褐色土7.5YR5/1 粒子が粗い。As-砂軽石層。ほぼ全てAs-砂軽石で部分的に暗赤褐色シルト土が混入している。部分的に青灰色の炭層が塊状に堆積。
- 3 暗赤褐色土5YR3/4 シルト質土。As-砂軽石を非常に多く含む。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 4 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。黒色の灰を多く、炭化物を少量含む。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物をわずかに含む。
- 6 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒を少量含む。
- 7 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。6層と地山の崩落土の混土。6層と同じ混入物のほか焼土粒をわずかに含む。
- 8 黒褐色土7.5YR3/2 9層と灰の混土。灰(黒)を多く含む。焼土粒をわずかに含む。
- 9 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。硬く締まっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山土粒を少量含む混土。床面を形成する上。

貯蔵穴



貯蔵穴

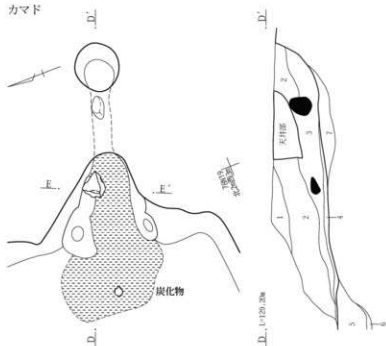
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。やや粘性あり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。

0 1:60 2m

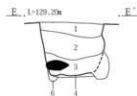
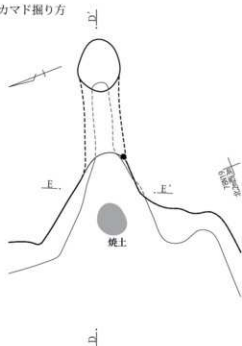
第56図 2区2面10住居1

第4章 検出された遺構と遺物

カマド



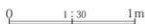
カマド掘り方



カマド

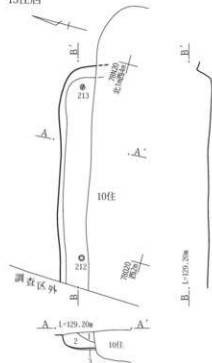
- 1 赤褐色土7.5YR3/3 シルト質土。As-B軽石粒と、Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。地山のふい黄褐色シルト土粒を含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/3 Hr-FP軽石粒を少量、炭化物のほか、焼土ブロックを多く含む。下面に炭層。天井の崩落か。

- 4 黒色土7.5YR2/1 灰層。焼土粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。均一に堆積。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。床面を形成する土。にふい褐色土7.5YR5/3 シルト質土。地山の黄褐色シルト質土を含む混土。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。焼土粒と焼土ブロック・灰ブロックを少量含む。

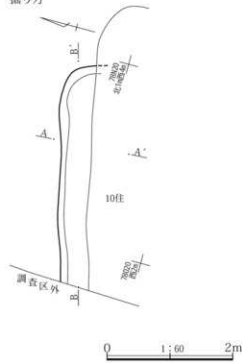


第57図 2区2面10住居2

13住居



掘り方



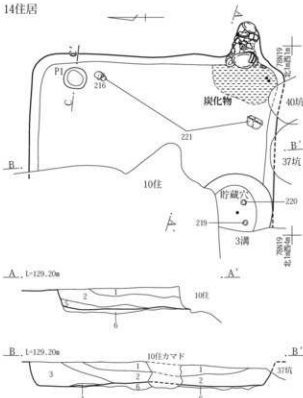
13住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒と黒色の灰を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。地山上を少量含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/5 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山上との混土。床面を形成する土。

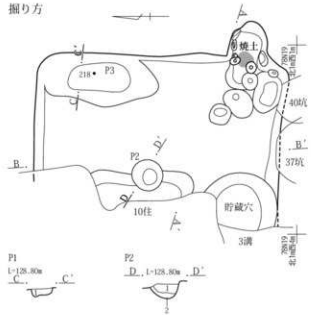


第58図 2区2面13住居

14住居



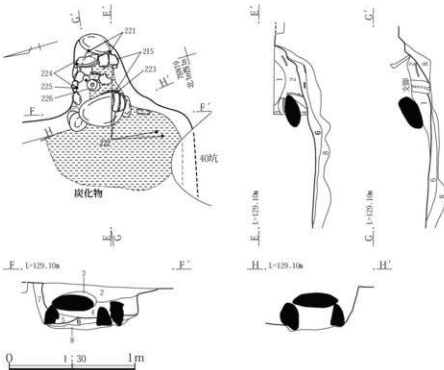
掘り方



14住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-Fe軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-Fe軽石粒・炭化物粒・黄褐色シルト土を少量含む混土。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-Fe軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-Fe軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-Fe軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 6 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。やや締まっている。Hr-Fe軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。床面を形成する土。

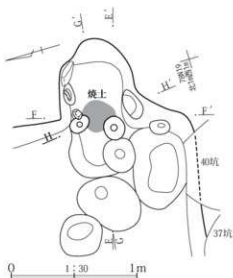
カマド



第59図 2区2面14住居1

第4章 検出された遺構と遺物

14住居カマド掘り方

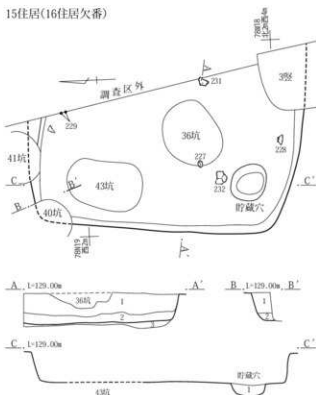


カマド

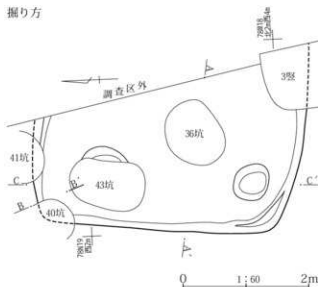
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。
- 2 に近い褐色土7.5YR7/4 焼土ブロック。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒を含む。黒色の灰が多く混入。
- 4 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 5 黒色土7.5YR2/1 灰層。全体に黒色の灰が堆積し焚口部には灰白色の灰。
- 6 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。やや締まりあり。炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。焼土粒や炭化物粒・灰ブロックを含む。上面にも厚さ1mm以下で灰が広がる。
- 8 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒・焼土粒を少量含む。

第60図 2区2面14住居2

15住居(16住居欠番)



掘り方



15住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。床面を形成する上。

貯蔵穴

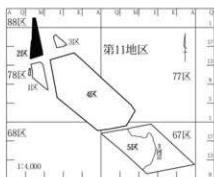
- 1 に近い褐色土7.5YR5/3 シルト質土。炭化物粒を少量含む。



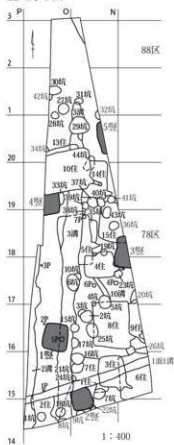
▲2区2面15住居A土層 北から

第61図 2区2面15住居

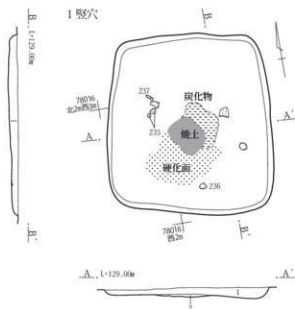
第3節 2区の遺構と遺物



竪穴分布図



▲2区2面1竪穴全景 南から



1竪穴

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒を少量、焼土粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 炭化物粒・灰を多く含む。下面は地山ではほぼ全面焼土化。

2竪穴



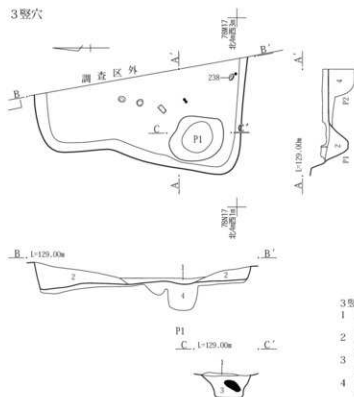
2竪穴

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 As-B軽石を含む。Hr-PP軽石粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。

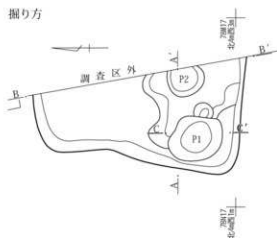


第62図 2区2面竪穴分布図、1・2竪穴

3 竪穴



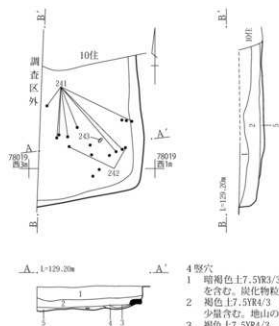
掘り方



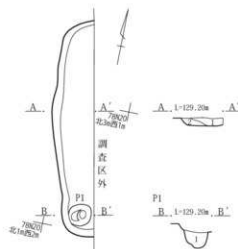
3 竪穴

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色土を混上。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。1に似る。地山の黄褐色シルト土を含む混上。
- 4 にふい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色土ブロックを含む。底面を形成する土。

4 竪穴



5 竪穴



5 竪穴

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。やや粘性あり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山土を非常に多く含む混上。

4 竪穴

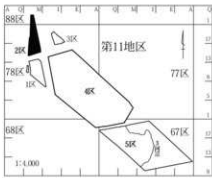
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を含む混上。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山土に似る。
- 4 黒色土7.5YR2/1 灰層。炭化物粒をわずかに含む。灰が主体で暗褐色土を含む混上。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。やや締まりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色土がブロック状に入る混上。底面を形成する土。

P1

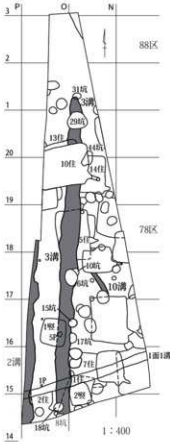
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土が粒状・ブロック状に混じる。



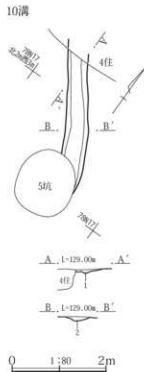
第63図 2区2面3～5竪穴



溝分布図



▲ 2区2面2溝A土層 北から

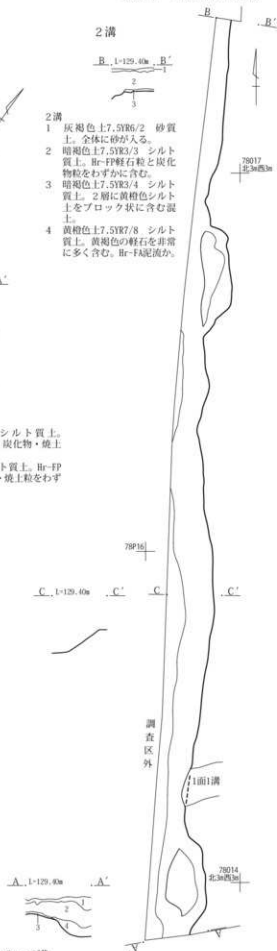


10溝

- 1 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒を多く含む。炭化物・焼土粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量、炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

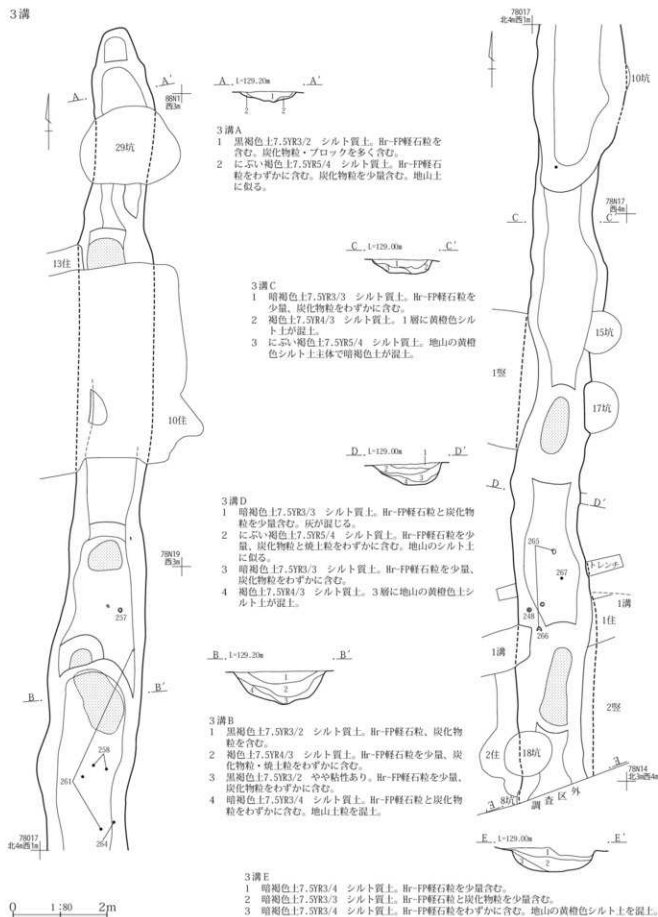
2溝

- 1 灰褐色土7.5YR6/2 砂質土。全体に砂が入る。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。2層に黄褐色シルト土をブロック状に含む混土。
- 4 黄褐色土7.5YR7/8 シルト質土。黄褐色の軽石を非常に多く含む。Hr-F混流か。



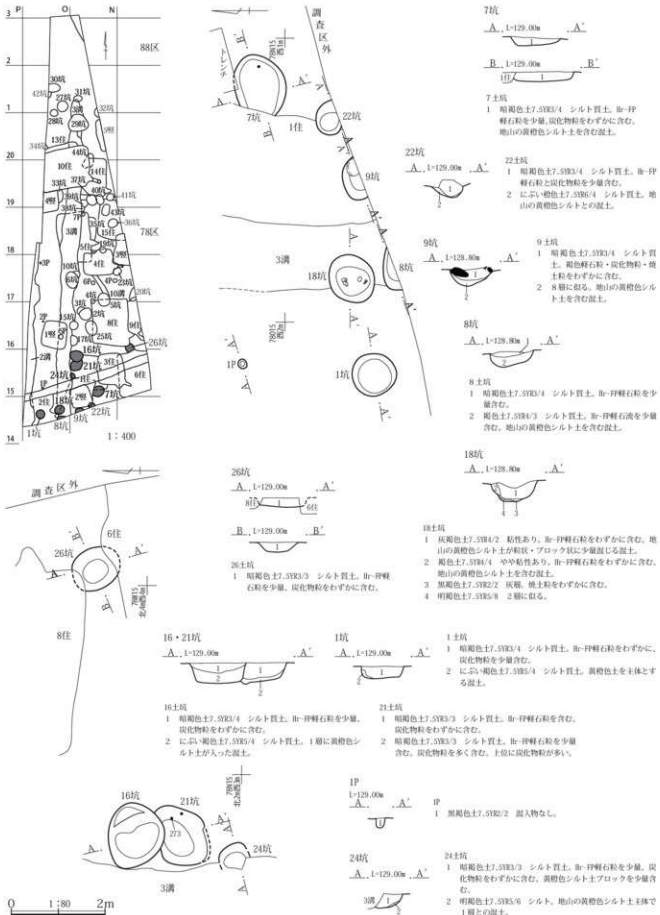
第64図 2区2面溝分布図、2・10溝

3溝



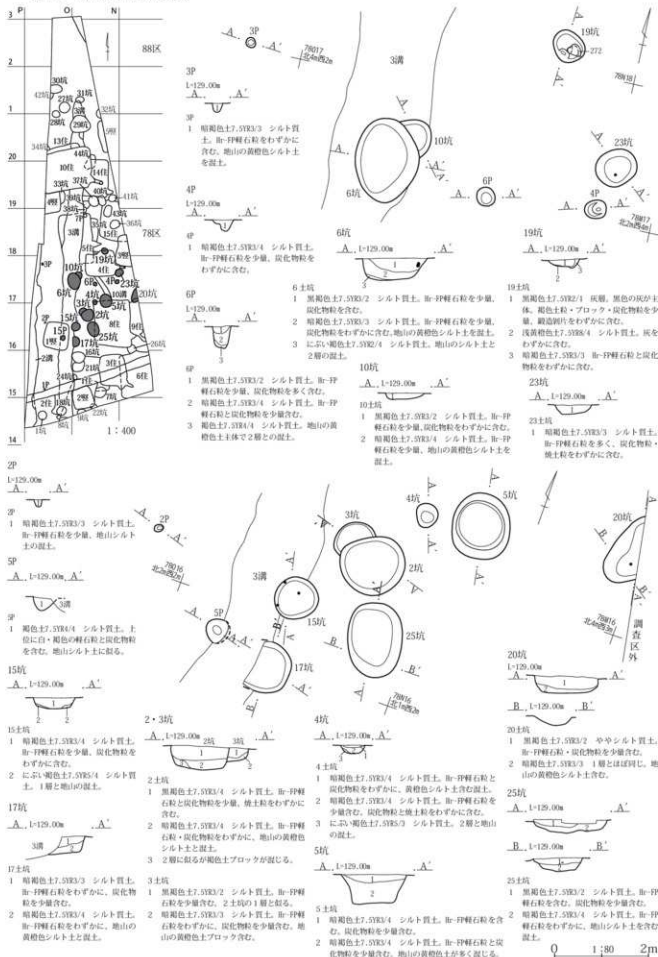
第65図 2区2面3溝

第3節 2区の遺構と遺物



第66図 2区2面土坑・ピット1

第4章 検出された遺構と遺物



第67図 2区2面土坑・ピット2

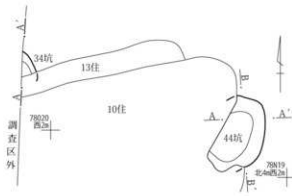


7P
L=129.50m
A' A'

7P
1 暗褐色土7.5VR7/8 シルト質土。軽石・炭化物を少量含む。

33坑
A' L=129.20m A'

33土坑
1 暗褐色土7.5VR3/3 シルト質土。中-PP軽石を少量含む。地山のシルト土を含む混土。



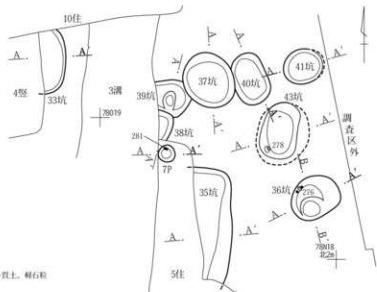
34坑
A' L=129.20m A'

44坑
A' L=129.20m A'

B' L=129.20m B'

34土坑
1 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。
2 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。

44土坑
1 暗褐色土7.5VR3/3 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。
2 暗褐色土7.5VR3/3 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。
3 暗褐色土7.5VR3/3 シルト質土。中-PP軽石と炭化物をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。



35坑
A' L=129.20m A'

36坑
A' L=129.20m A'

B' L=129.20m B'

37坑
A' L=129.20m A'

38・39坑
A' L=129.20m A'

40坑
A' L=129.20m A'

41坑
A' L=129.20m A'

43坑
A' L=129.20m A'

35土坑
1 黒褐色土7.5VR3/2 シルト質土。中-PP軽石をわずかに含む。
2 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石と炭化物・焼土をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

36土坑
1 黒褐色土7.5VR2/2 粘性あり。中-PP軽石をわずかに。炭化物と焼土を多く含む混土。

37土坑
1 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石と炭化物を少量含む。

38・39土坑
1 暗褐色土7.5VR3/3 シルト質土。中-PP軽石と炭化物を少量含む。
2 暗褐色土7.5VR3/2 シルト質土。中-PP軽石と炭化物をわずかに含む。

40土坑
1 黒褐色土7.5VR3/2 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。
2 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

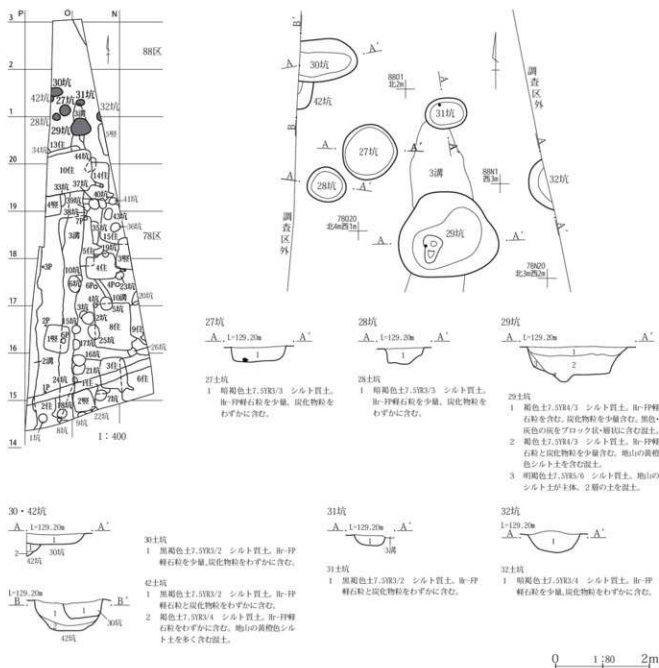
41土坑
1 黒褐色土7.5VR3/2 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。
2 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。

43土坑
1 暗褐色土7.5VR3/2 シルト質土。中-PP軽石を少量。炭化物をわずかに含む。
2 暗褐色土7.5VR3/4 シルト質土。中-PP軽石をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を少量含む混土。

0 1:80 2m

第68図 2区2面土坑・ピット3

第4章 検出された遺構と遺物

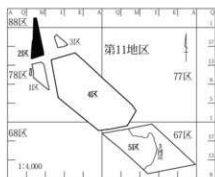


▲2区2面32土坑土層 西から

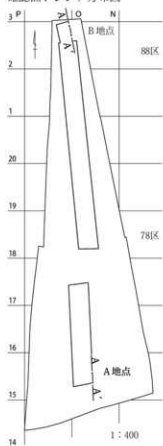


▲2区2面36土坑黒色土器(276) 南西から

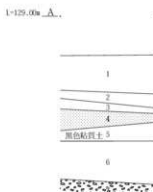
第69図 2区2面土坑4



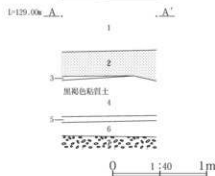
確認面トレンチ分布図



A地点



B地点



- A地点**
- 1 にぶい橙色土7.5YR6/4 シルト質土。締まりなし。Hr-PP軽石粒をごくわずかに含む。2区2面の地山に相当。
 - 2 にぶい橙色土7.5YR6/4 シルト質土。1層よりも粘性あり。
 - 3 にぶい橙色土7.5YR6/4 シルト質土。似た色の砂を混土。
 - 4 黒色土7.5YR2/1 粘性強い。As-C軽石粒を混土。
 - 5 黒色土7.5YR2/1 粘性強い。粘質土。
 - 6 にぶい橙色土7.5YR6/4 シルト質土。締まりなし。1層に近い。砂、礫層との境界が明確。
 - 7 礫層。
- B地点**
- 1 黄橙色土7.5YR6/4 シルト質土。締まりなし。
 - 2 黒色土7.5YR2/1 粘性強い。As-C軽石粒を特に多く含む混土。
 - 3 黒色土7.5YR2/1 As-C軽石主体。
 - 4 黒褐色土7.5YR3/2 粘質土。
 - 5 黒褐色土7.5YR3/2 粘性強い。4層に下位の6層が波状に混じった混土。漸移層か。
 - 6 黄褐色土7.5YR6/4 シルト質土。締まりなし。1層に似る。礫を含む。
 - 7 礫層。すべて円礫。砂を含む。



▲2区2面下位の土層 A地点 西から

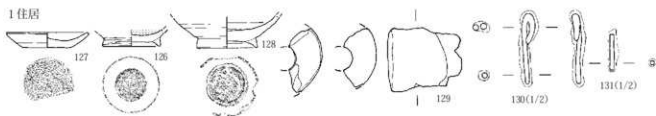


▲2区2面下位の土層 B地点 西から

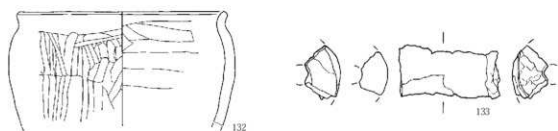
第70図 2区下層確認トレンチ

第4章 検出された遺構と遺物

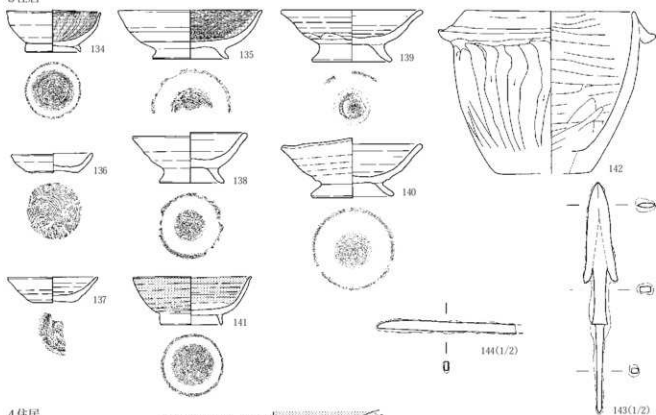
1住居



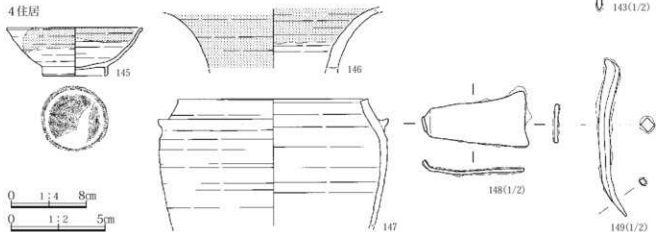
2住居



3住居

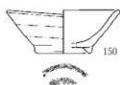


4住居

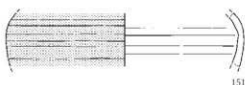


第71図 2区2面1~4住居出土遺物

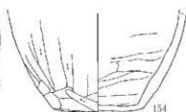
5住居



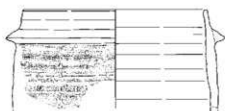
150



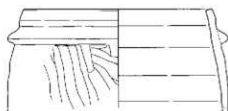
151



154



152



153



155

6住居



156



157



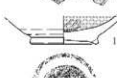
158



166



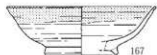
159



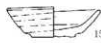
162



163



167



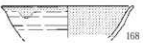
160



164



165



168



161



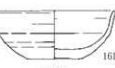
162



163



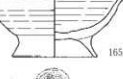
169



161



164



165



171



161



164



165



171

7住居



173



174



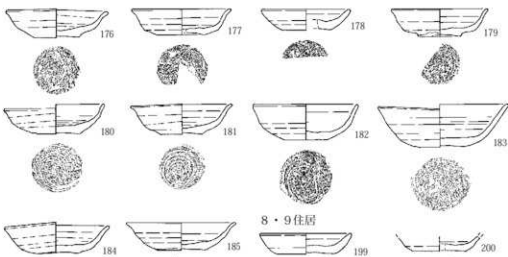
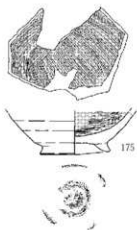
172

0 1:4 8cm

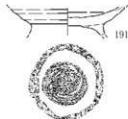
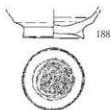
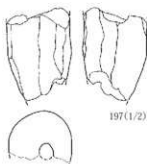
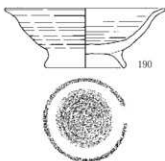
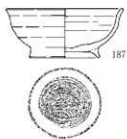
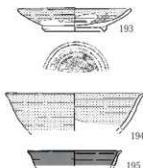
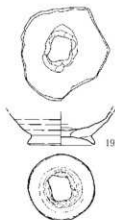
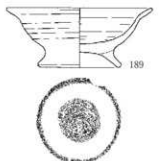
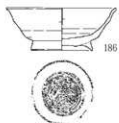
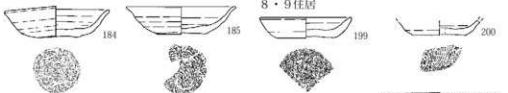
第72図 2区2面5~7住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

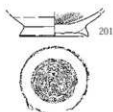
8住居



8・9住居



9住居

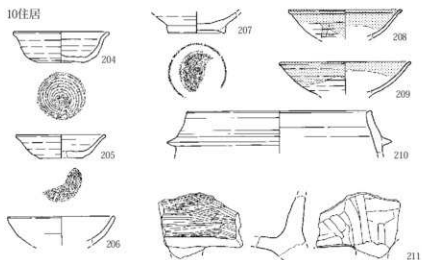


196(剖口)

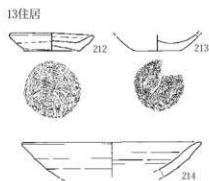


第73図 2区2面8・9住居出土遺物

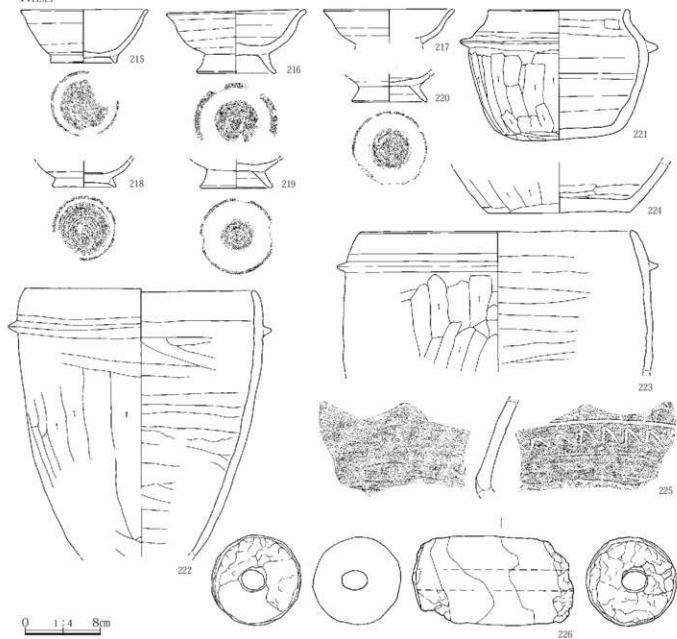
10住居



13住居



14住居

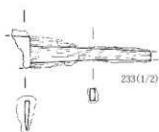
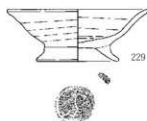
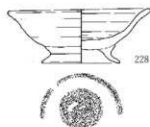


0 1:4 8cm

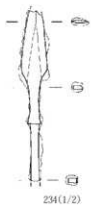
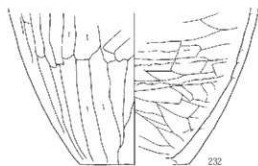
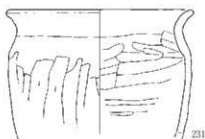
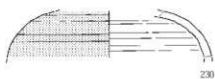
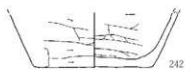
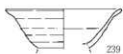
第74図 2区2面10・13・14住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

15住居

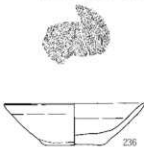


4竪穴

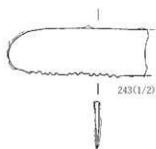
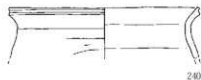


第75図 2区2面15住居、1・3・4竪穴出土遺物

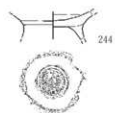
1竪穴



3竪穴



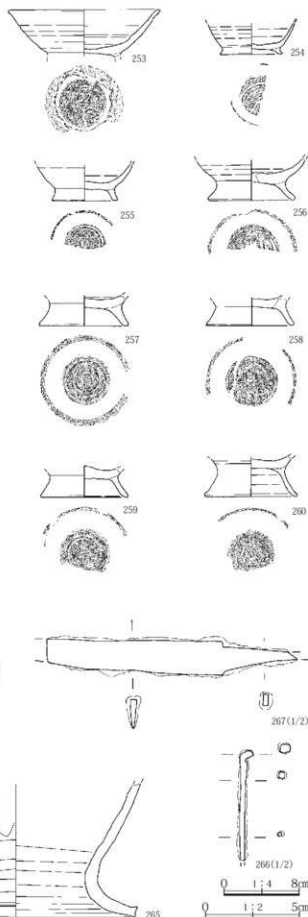
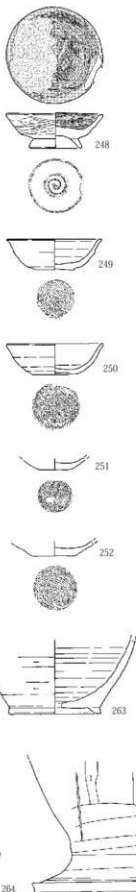
1溝



2溝



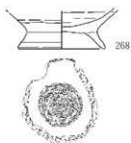
3溝



第76図 2区1面1溝、2面2・3溝

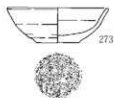
第4章 検出された遺構と遺物

6土坑



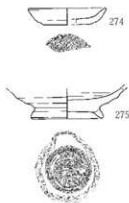
268

21土坑



273

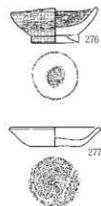
29土坑



274

275

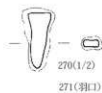
36土坑



276

277

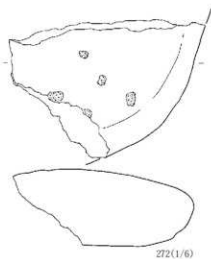
16土坑



270(1/2)

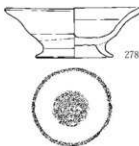
271(雜口)

19土坑



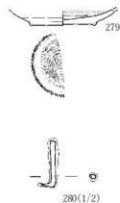
272(1/6)

43土坑



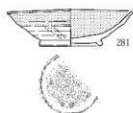
278

44土坑



279

7ピット



281



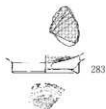
280(1/2)

7土坑 269(雜口)

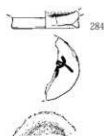
遺構外



282

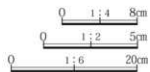


283



284

285~287(雜口)



第77図 2区2面土坑・ピット、遺構外出土遺物

第4節 3区の遺構と遺物

1 3区の概要(第78図、PL.33)

3区では表土直下下位の層が荒れていて、第1面相当の遺構を確認することができなかった。そこで、第1面は保存状態の良い土壁の断面を精査して記録することとした。

表土直下では幅2mほどの機械的な掘削痕がみられ、その深さは約1mに達することが判明した。掘削痕の中には大小の礫や川砂利が含まれ、天明3(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流の復旧痕に似ていたことから、地元の古老への聞き取り調査を行なったところ、第二次大戦後の昭和22(1947)年9月に災害をもたらしたカスリーン台風の被害の復旧溝であると考えられた。

2面に達するまでの断面を観察したところ、現在の水田耕作土のほかに、5枚の水田面が認められ、それらは江戸時代～近代2面、中世2面、平安末から中世にかけて1面と推定される。

2面では、住居2軒、溝6条、土坑4基、ピット1基を検出した。礫層が所々で盛り上がり、溝や土坑の底面は礫層が露出する。河川の氾濫による流失が想定される。

住居2軒のうち、南側の12住居は床面水準を失い、カマドの底面炭化物層が辛うじて遺存していた。掘り方底面から『祥符通宝』(初鑄1009年)が出土した。住居2軒は遺存状態が不良で、平安時代後半～末にかけての所産とみられる。

溝のうち、4・5・8溝は底面の状態と堆積層の状態から自然河川と推定される。7溝は8溝を掘り込んでおり、6溝とはほぼ平行することから、人工の溝と考えられるが、東半部が調査区外にあり、全体を把握できなかった。

2 1面の遺構と遺物

3区東壁・南壁の土層(第84図、PL.36)

3区では河川によるのか、全体に荒れ地化していたため、他の区で検出した1面が確認できなかった。比較的残りの良好な調査区壁の土層断面で、1面相当の様子を復元することとした。

ア 東壁

表土は調査に着手した平成24(2012)年時点で水田となっていた。その直下から切り込まれた幅2m×深さ1mほどの機械的に掘り込まれた溝が認められた。地元の古老への聞き取り調査によって、この溝はカスリーン台風による洪水(土石流)を受けた水田の復旧溝であると判断された。昭和22(1947)年9月に発生したカスリーン台風は、9月16日～17日に関東平野に近づき、県内の赤城山麓等に土石流・河川氾濫を発生させ、群馬県では592人の死者を出したと記録されている。利根川下流の埼玉県・東京都でも甚大な被害をもたらした。

東壁ではこのほか、何枚かの水田面とみられる土層が認められた。3層・6層・9層・12層・13層の5枚である。東壁最下層の26層で、As-B礫石+灰を含むことが判明したことと、調査区の掘削深さ約1.4mで平安時代後半の10世紀～11世紀の住居を検出したことから、26層は平安時代後半ないし末～中世の堆積と考えられる。

13～18層は7溝の覆土である。7溝南端(図中右端)の底面近くから形態の崩れた羽釜破片が出土しており、26層の時期に近い。ただし、土器片は流水で移動するので、偶然の一致の可能性もある。

掘削最下層の時代推定と上位の水田面とを勘案すると、およそ次のように想定できる。すなわち、6層水田面は江戸時代の天明ころ、9層～24層水田面と12・13層水田面は中世と推定される。

イ 南壁

南壁の土層は、溝や土坑がかかり、やや複雑である。東壁の土層断面と連動して勘案すると、6・9・12・13層が水田面と推定される。33層は水平に広がることから、13層の一部の水田面であろう。

13・16層は東壁と同じく7溝の覆土である。34層の上は8溝の覆土と考えられ、34・35層は8溝の底面に相当する地山と考えられる。35層は黒色土で、As-Cを含む混土であり(いわゆるCクロ)、堆積層位に矛盾がない。

3 2面の遺構と遺物

11住居(第79・85図、PL.34・159)

検出位置 78区1～18グリッドで検出した。2区の中央部やや北寄りに位置する。

重複関係 5溝、14土坑と重複する。それぞれ11住居→5溝、11住居→14土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北東隅は調査区外にあるが、ほぼ全体の形状は判明した。南北に長く、平行四辺形を呈する。南壁3.48m、西壁3.92m、北壁2.51m(推定3.5m)、東壁2.44m(推定3.7m)で、東西3.71m、南北4.26m、深さは15~30cmが遺存する。長軸方位はN4°Wである。北壁沿いの凹みはカマド痕跡とされたが、カマド位置が北東隅になる可能性が残る。

床面 細かい凹凸はあるが、全体に平坦である。北西隅付近に炭化物が分布するが、カマドにはならなかった。また、南東隅付近はやや高くなり、大小の礫が出土した。住居外の周囲から礫が出土しないことから、集石遺構とみられる。用途は不明である。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 北壁東寄りの凹みがカマド痕跡とみられるが、明瞭な灰層や焼土の分布がなく、埋没土に炭化物粒や灰が含まれる程度である。礫と土器片が出土した。

貯蔵穴 未検出。

掘り方 硬い床面を形成する土が認定できなかったため、確実な掘り方にならず、平坦な底面を検出した。

その他 北壁沿いの礫・土器が出土した範囲は、カマド底面らしい灰層や焼土粒の分布が見当たらないことから、北東隅に設置したカマドの縁辺になる可能性がある。また、重複する5溝底面の礫の分布、14土坑底面の礫の分布状態から、南東隅の礫は、地山の礫層の盛り上がり、または竪穴掘削時に出た礫を集めた可能性がある。

遺物 土師器片、杯(288)等の須恵器片等が出土した。これらは住居北壁、南東隅(集石遺構)、北西隅付近の炭化物分布範囲、中央部北寄りから出土した。カマドからは土師器甕(289)、中央部北寄りの床面から上位8cm程で鉄製刀子(290)が出土している。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

12住居(第80・85図、PL.34・159)

検出位置 78区I17グリッドで検出した。2区の中央部に位置する。

重複関係 5・9溝と重複する。5・9溝とも12住居より新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没するようだが、床面以上の埋没土が遺存していないため不明である。住居の土層断面A・Bの1層と2層が床面を形成する土の一部とみられる。

壁 西半部は5溝によって破壊されていた。床面水準の形状は不明なため、以下の計測値は掘り方の形状から計測した。東西2.56m以上、南北3.25mで、長方形を呈すると推定する。南壁2.24m以上、北壁2.61m以上、東壁2.92mである。掘り方の壁の深さは1~13cmである。カマドは南壁東寄りの2カマドと、南東隅から斜めに煙道部が延びる1カマドが認められた。

床面 殆ど失っていた。1面相当とともに削平されたか、4・5溝によって流された可能性が高い。

柱穴 柱穴とみられる掘り込みは検出しなかった。

カマド 南壁の東寄りて炭化物の分布する範囲が認められ、これを中心として2カマドとした。2カマドは上位の構造を殆ど失っていたが、燃焼部底面とみられる灰層を検出した。灰層は厚いところで5cmほど遺存していた。上位の構造は不明である。2カマドの軸方位はN44°Wである。1カマドは南東隅に燃焼部をもち、南東に向かって斜めに煙道が延びる形状で、軸方位はN60°Wである。土層断面にかかった焼土等は、燃焼部の灰層下位の掘り込みの埋没土とみられる。灰層や形状の遺存状態から、2カマドの方が新しいと推定する。

貯蔵穴 未検出。

掘り方 遺物の出土状態を記録したのち、底面を掘り下げたところ、南東隅のカマド前が174×146・深さ14~17cmの略長方形の掘り込みとなっていることが判明した。掘り込みは焼土粒・炭化物粒を含む黒褐色土で埋没していた。このほか、東壁北寄りの壁隙でやや深いピットを1個検出した。規模はP1:35×32・深さ15cmである。掘り方底面はいくつか小が認められ、浅い不整形な掘り込みがある。

その他 床面より上位を失っているため、詳細は不明である。

遺物 本住居からは土師器片、須恵器杯(291・292)・椀(293)、灰釉長頸壺(294)、鉄製品釘(295)・不明(296)、床面から『祥符通宝』(297)の銅貨が出土した。このうち

2カマド手前西側からは底面から上位8cm程で(291)、東壁の中段に沿って(294)が出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、11世紀前半と推定する。

4・5溝(第81・85図、PL.34・35)

検出位置 78区I16～J19グリッドで検出した。3区の調査区西壁沿いに4溝があり、これにほぼ平行して5溝が南南東の走行で延びる。

重複関係 5溝は11住居・12住居と重複し、いずれも5溝が新しい。5溝は12住居の西半部を削っている。

覆土 黒褐色系の土のほか、灰黄色・灰色土などの明るい色の土や鉄分が酸化した赤褐色系の砂質土などで埋没する。全体に砂質土だが、一部に粘性の強い土が混じる。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 輪郭が不整形で、緩い傾斜で立ち上がる。5溝の東岸では深さ14～18cmで、4溝東岸は5溝の西岸と共有する。5溝の走行方位はN12°Wである。

底面 5溝の底面は不整形で、一部では礫層が露出する。等高線では判然としなが、底面標高をみると北寄り最深部で128.25m、南寄りで128.14mであり、わずかな差であるが、概ね南が低いことから、水流は南へ向かって流れたと推定する。4溝も同じである。

その他 形状や堆積土層の観察から、4・5溝は自然河川の一部と考えられる。

遺物 両溝共に出土遺物は少なかったが、4溝からは土師器片と、須恵器碗(298)、5溝からは土師器杯(299)と須恵器・埴輪片土器片が出土した。

時代・時期 わずかな出土土器の特徴と埋没土の状況、重複する遺構出土遺物から、10世紀後半～11世紀の自然河川跡と推定する。

6溝(第82図、PL.35)

検出位置 78区I17グリッドで検出した。3区の南寄り中央部に位置する。

重複関係 なし。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。底面はHr-FA泥流層である。走行方位はN30°Wである。

壁 浅く直線的な溝で、長さ2.30m分を検出した。幅34～46cm、深さ5～14cmである。

底面 一定の幅をもつ溝で、底面標高は南側が数cm低い。

その他 直線的な形状から、6溝は人工の溝と考えられるが、用途不明である。

遺物 なし。

時代・時期 埋没土の状況から、10世紀後半の所産と推定する。

7溝(第82図、PL.35)

土層断面は東壁の第84図を参照指定する

検出位置 78区H17グリッドで検出した。3区の東壁沿いで南寄りに位置する。

重複関係 8溝・11ピットと重複し、いずれも7溝が新しい。

覆土 褐色～灰色系の砂質土で埋没する。一部にAs-Cを含む黒色土ブロックを含む。堆積状態から、河川による埋没と推定する。検出範囲での走行方位はN37°Wである。

壁 検出した西岸は直線的に斜めに立ち上がる。長さ4.2m分を検出し、幅は40～48cm、深さは41給み50cmである。

底面 検出範囲では一定の幅をもち、底面標高は北側が数cm低い。

その他 直線的な形状から、7溝は人工の溝と考えられるが、東岸は調査区外にあり、詳細は不明である。走行は6溝に近い。

遺物 須恵器片の出土があったが、図化掲載に取り上げるべき遺物はなかった。

時代・時期 埋没土の状況から、10世紀後半の所産と推定する。

8溝(第82・85図、PL.35・159)

検出位置 78区H17～I18グリッドで検出した。3区の調査区東壁沿いに7溝があり、東壁沿いの南半部に不整形の8溝がある。

重複関係 8溝は7溝と重複し、8溝→7溝の順に新しい。11ピットは直接8溝との新旧関係が捉えられなかった。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。鉄分が酸化されて硬くなった土や、砂質土で埋没しており、河川堆積物

第4章 検出された遺構と遺物

と考えられる。底面に灰色の粘質土が堆積する。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 輪郭が不整形で、緩い傾斜で立ち上がる。検出範囲の中央部に略半円形の高まりがあり、これを取り巻くように8溝が曲る。北寄りでは幅1.40m、南寄りでは幅1.98mで、西岸の深さは3～40cm、中央部の高まり周囲では深さ16～24cmである。

底面 8溝の底面は不整形で、北寄りでは礫層が露出する。北寄りの底面が標高128.2m代で、南寄り底面が128.10m代なので、水流は北から南へ向かって流れたとみられる。

その他 形状や堆積土層の観察から、8溝は自然河川の一部と考えられる。

遺物 本溝からは灰軸椀(300)・裏(301)等、土師器の羽釜(302)が出土した。これらは北寄りの10～30cm大の礫の間と、南東端から出土しているが、流れ込んだ土器片と考えられる。

時代・時期 わずかな出土土器の特徴と埋没土の状況から、10世紀後半～11世紀の自然河川跡と推定する。

9溝(第82図、PL.35)

検出位置 78区117～18グリッドで検出した。3区の中央部にあり、略南北走行の溝である。

重複関係 9溝は11・12住居と重複し、9溝→11住居、12住居→9溝の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。Hr-FP軽石粒やHr-FAブロックを含む。埋没土の堆積が薄いので断定できないが、自然埋没と推定する。

壁 斜めに立ち上がる。長さ1.35mを検出し、幅は31～39cm、深さ13～14cmである。走行方位はN3°Wである。

底面 9溝の底面は半円形を呈する。底面標高は128.25mで、ほぼ同じである。

その他 形状や堆積土層の観察から、9溝は人口の溝と考えられるが、用途は不明である。幅と埋没土は6溝に似る。

遺物 なし。

時代・時期 遺構の重複関係と埋没土の状況から、10世紀後半の所産と推定する。

3区2面土坑(第83・85図、PL.35・36・159)

11土坑は調査区南壁にかかった土坑で、調査区内では略方形を呈し、北西隅と北東隅を検出した。12・13土坑→11土坑の順に新しい。西壁0.61m以上、北壁1.72m、東壁0.79m以上で、南北1.53m以上・東西1.86mである。深さは23～28cmで、北壁東寄りの壁際に30×21・深さ8cmの楕円形小穴がある。小穴脇から砥石(303)が出土した。東壁沿いの壁際には、炭化物が60×35cmの範囲で分布していた。3区で検出した「竪穴」に近い形状である。

12・13土坑は11土坑の下位で確認したもので、ほぼ同大の不整形掘り込みである。12土坑からは少量の土師器・須恵器片、13土坑からは少量の土師器片が出土した。

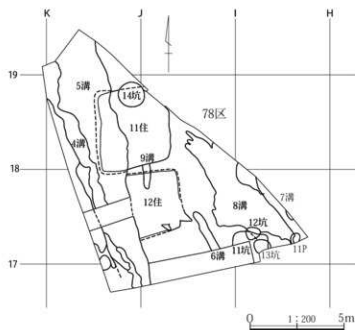
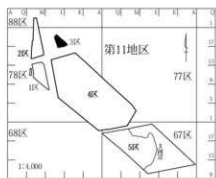
14土坑は3区北寄りの11住居の上から掘り込まれた土坑で、径140cmほどの円形を呈する。底面は礫層に達する。土師器片と若干の須恵器・灰釉陶器片が出土したが取り上げるべきものはなかった。また床面から17cm程で不明鉄製品(305)が出土し、他に鉄鏝(304)が出土した。

3区2面ピット(第83・85図、PL.36・159)

11ピットは7溝南端の底面で検出した遺構で、深さ35cmと比較的深い。埋没土上位に30cm大の礫が落ち込んでおり、粘性のある黒褐色土で埋没していた。また鉄製品鏝(306)出土した。8溝(自然河川)の一部であった可能性がある。

4 遺構外の出土遺物(PL.159)

3区では、遺構外の出土遺物として少量の土師器片や須恵器片の他、羽口片(307)が出土したに過ぎなかった。



▲3区2面調査風景1 北から



▲3区2面調査風景2 西から



▲3区復旧溝の確認 南東から

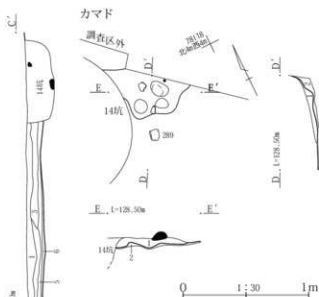
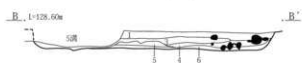
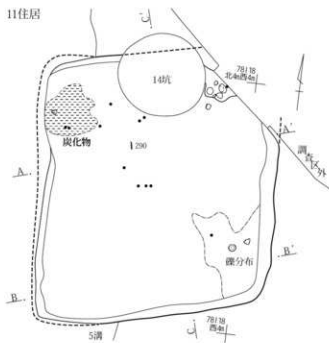


▲3区東壁の土層と復旧溝 西から

第78図 3区2面全体図

第4章 検出された遺構と遺物

11住居



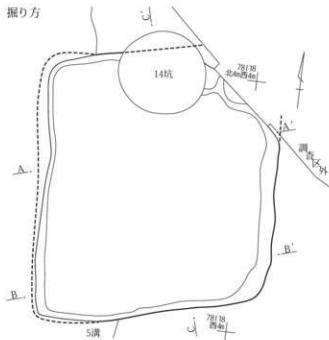
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 粘質土。わずかに灰を含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。わずかに炭化物粒を含む。

11住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。白色鉱物粒を全体に含む。炭化物粒と黄褐色土粒を少量含む。
- 2 黒色土 7r-FA軽石粒と炭化物粒状を含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒をまばらに含み、llr-FA軽石粒のフロックが混じる。
- 4 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。一部にAs-C軽石粒が入る。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。
- 6 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。

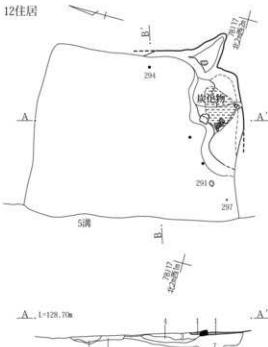
掘り方



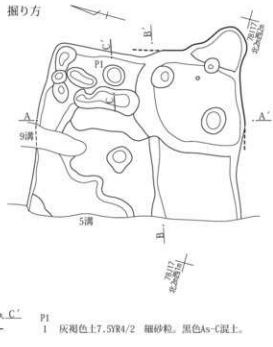
▲3区2面11住居南東隅石出土状態 南から

第79図 3区2面11住居

12住居

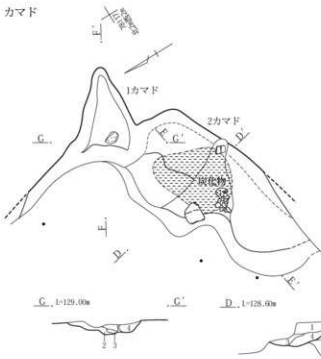


掘り方



- 12住居
- 1 焼上。カマドか。
 - 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。白色炭化物粒が入る。
 - 3 黒褐色土7.5YR3/1 Hr-FP軽石粒・Hr-FAブロック・酸化鉄を含む。締まっている。
 - 4 暗褐色土7.5YR3/4 細砂粒。Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FAブロックが斑点状に入る。
 - 5 暗褐色土7.5YR3/4 細砂粒。Hr-FP軽石粒が小粒。
 - 6 褐色土7.5YR4/6 Hr-FP軽石粒とHr-FAブロックを含む。
 - 7 暗褐色土10YR3/4 シルト質上。
 - 8 黒褐色土7.5YR3/1 小礫。径10mm前後が多い。河川堆積物か。Hr-FP軽石粒も少量入る。
 - 9 黒色土10YR1/7 As-C軽石粒が混じる。
 - 10 にふいぶ暗褐色土10YR5/4 Hr-FAの二次堆積上。わずかにHr-FP軽石粒を含む。
 - 11 灰黄褐色土10YR4/3 Hr-FAの二次堆積上とAs-C軽石粒混上。

カマド



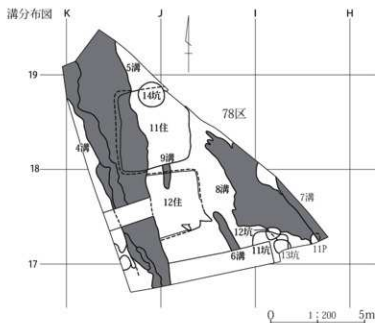
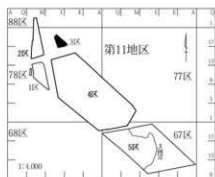
- 1カマド
- 1 明赤褐色土2.5YR5/8 焼土ブロックに炭化物を含む。締まりあり。
 - 2 赤褐色土2.5YR4/8 焼土ブロック。わずかに灰を含む。締まりあり。
 - 3 黄灰色土2.5YR5/1 やや粘性あり。
 - 4 黒褐色土7.5YR3/1 焼土ブロックを含む。白色炭化物粒を含む。

2カマド

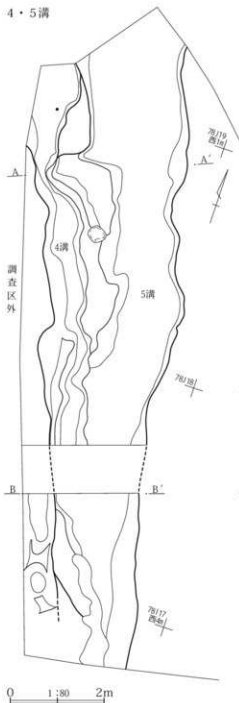
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 白色炭化物粒を多く含む。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 明赤褐色土2.5YR5/6 シルト質上。よく焼けている。わずかに白色炭化物粒を含む。
- 3 明赤褐色土5YR5/6 焼土粒・炭化物を多く含む。硬く締まっている。Hr-FP軽石粒を含む。
- 4 暗赤褐色土5YR3/2 焼土・炭化物を少量含む締まった上。Hr-FP軽石粒を含む。
- 5 黒褐色土5YR3/1 焼土・炭化物・Hr-FAブロックの混上。カマドの底面に穴を掘り敷き込んだか。
- 6 褐灰色土5YR4/1 炭化物層と灰褐色の互層。

第80図 3区2面12住居

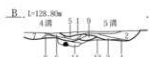
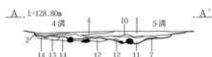
第4章 検出された遺構と遺物



4・5溝



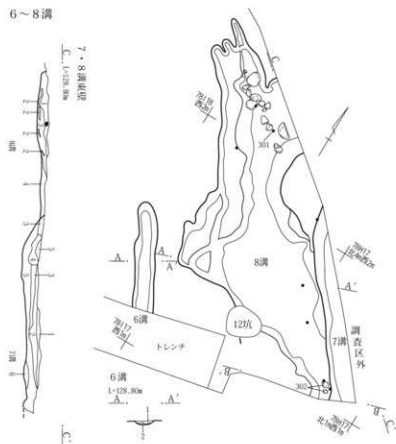
▲3区2面4・5溝A土層付近 南から



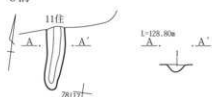
- 4・5溝
- 1 黄灰色土2.5Y5/1 細砂粒土。
 - 2 灰黄褐色土10YR5/2 中砂粒土の互層。茶褐色の鉄分を含んだ層と細砂粒土。
 - 3 暗灰黄色土2.5Y5/2 中砂粒土と灰黄褐色シルト質土との互層。
 - 4 褐灰色土10YR4/1 粘性あり。
 - 5 黒褐色土2.5Y3/2 中砂粒土。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 細砂粒土。
 - 7 オリーブ黒色土7.5Y3/1 粘性あり。
 - 8 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土と鉄分を含む中砂粒土の互層。
 - 9 黒褐色土7.5YR3/2 粘性あり。
 - 10 灰白色土7.5Y7/1 粘質土。
 - 11 赤褐色土2.5YR4/6 大粒砂質土と灰白色粘質土の互層。
 - 12 赤褐色土2.5YR4/6 大粒砂質土。鉄分多い。一部に礫を含む。
 - 13 にぶい褐色土7.5YR5/4 粘性あり。一部に砂を含む互層。
 - 14 灰色土10Y4/1 大粒の砂質土。一部に礫を含む。

第81図 3区2面溝分布図、4・5溝

6～8溝



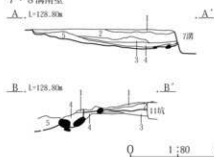
9溝



9溝

1 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FAブロックを含む。

7・8溝南壁



▲3区2面6溝 南から



▲3区2面7・8溝 西から

6溝

1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FA泥流の黄褐色土ブロックを含む。
2 黄褐色土7.5YR3/4 Hr-FA泥流層。締まりなし。

7溝東・南壁

1 灰黄褐色土10YR4/2 中砂質土。河川堆積層(7溝最上層)。
2 暗褐色土10YR3/4 中砂質土。河川堆積層。
3 褐色土10YR4/1 粘質土。わずかに細粒土を含む。
4 黒色土10YR2/1 As-C混土の二次堆積土がブロック状に混じる。河川堆積層。
5 暗灰色土N3/ 大砂粒上。ラミナ状に堆積する。
6 黒褐色土10YR3/1 粘質土。

8溝東壁

1 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。中砂粒～シルト質土の互層。酸化鉄分を含む。乱れた堆積状況。河川堆積層。
2 黄灰色土2.5YR5/1 中砂粒上。軽石か。底面は黒褐色土で所々に凹みがあり砂が入る。
3 黒褐色土7.5YR3/2 粘質土と褐色土中砂粒土(As-B軽石粒+小豆色アッシュブロック)の互層。As-B二次堆積の可能性あり。河川堆積層。
4 黒褐色土7.5YR3/2 中砂粒上。白色鉱物粒を含む。河川堆積層。

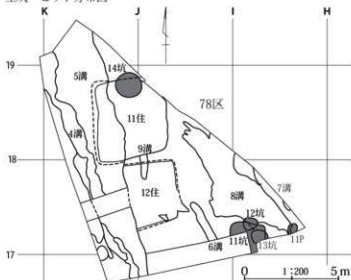
8溝南壁

1 褐色土5YR6/1 細砂粒上。
2 灰褐色土2.5YR2/1 As-C混土。やや粘性あり。

第82図 3区2面6～9溝

第4章 検出された遺構と遺物

土坑・ピット分布図



▲3区2面11土坑 北から

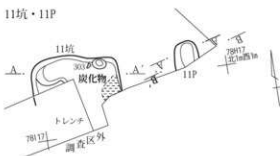


▲3区2面12・13土坑 北から



▲3区2面14土坑遺物出土状態 南から

11坑・11P



11P

A. L=128.60m A'

B. L=128.60m B'

7溝

11P

1 黒褐色土7.5YR2/2 粘質土。

11坑

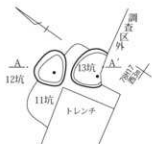
A. L=128.60m A'

12坑 13坑

11土坑

1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。榛名山起部の軽石粒と炭化物粒を含む。締まりなし。
2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。1層よりも軽石粒・炭化物粒が少ない。榛名山起部の火山灰ブロックを多く含む。

12・13坑



12・13坑

A. L=128.60m A'

12坑 13坑

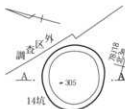
12土坑

1 暗褐色土7.5YR3/4 粘性あり。榛名山起部の火山灰ブロックをわずかに含む。As-C混土層を掘り込んでいる。

13土坑

1 黒色土7.5YR1.7 炭化物層。
2 黒褐色土7.5YR2/2 粘質土。白色鉱物粒と炭化物粒を少量含む。

14坑



14坑

A. L=128.60m A'

1

14土坑

1 暗褐色土10YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

0 1:80 2m

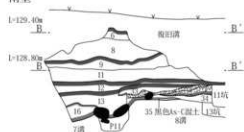


3区壁

(東壁)

- 1 表土 水田跡。<水田耕作土>
- 2 表土 水田跡上下 酸化鉄分を含むシルト質土。
- 3 におい黄褐色土10YR5/3 シルト質土。椋名山起源の軽石粒がわずかに混じる。<水田耕作土>
- 4 におい黄褐色土10YR5/3 シルト質土。酸化鉄分がわずかに混じる。
- 5 におい黄褐色土10YR5/4 白色鉱物を多く含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3 白色鉱物粒、炭化物粒をわずかに含む。<水田耕作土>
- 7 暗赤褐色土5YR5/8 シルト質土。酸化鉄分を多く含む。
- 8 におい赤褐色土5YR4/4 細砂粒土。白色鉱物粒を含む。砂粒が堆積。
- 9 暗褐色土7.5YR3/3 粘性あり。白色鉱物粒と褐色粒を含む。<水田耕作土>
- 10 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。椋名山起源の軽石粒と褐色土を含む。粘質土。難解。
- 11 赤褐色土2.5YR4/6 細砂粒土。白色鉱物粒と褐色粒を多く含む。酸化鉄分が多い。
- 12 黒色土7.5YR3/1 白色鉱物粒を多く、わずかに炭化物粒を含む。<水田耕作土>
- 13 極暗褐色土1.75YR2/3 シルト質土。下位はシルト質土、上位はやや粘性あり。わずかにB₁-F₁軽石粒を含む。<水田耕作土>
- 14 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。
- 15 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。やや粘性あり。水田耕作土上。
- 16 灰黄色土2.5YR7/2 中砂粒土。白色鉱物粒を含む。
- 17 におい褐色土7.5YR5/4 シルト質土と細砂粒土が堆積。
- 18 におい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。白色系の細砂粒土。
- 19 におい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。
- 20 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。褐色土上に椋名山起源の軽石粒を互層。
- 21 灰黄褐色土10YR5/2 中砂粒土。
- 22 におい黄褐色土10YR7/2 難砂～シルト質土。
- 23 灰白色土10B8/2 中砂粒土。
- 24 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。下位に砂礫を少量含む。<水田耕作土>
- 25 褐色土10YR5/1 シルト質土。酸化鉄分を多く含む。
- 26 褐色土10YR4/1 中砂粒土。酸化鉄分が多い。
- 27 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。粘性あり。酸化鉄分を含む。
- 28 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。椋名山起源の軽石粒と砂粒を含む。
- 29 黒褐色土7.5YR3/1 椋名山起源の軽石粒土。褐色土上ブロックを含む。ミナ状に堆積した河川堆積物。
- 30 におい褐色土7.5YR6/4 中粒・細粒の砂質土。
- 31 暗褐色土7.5YR3/4 細砂粒土。椋名山起源の軽石粒と褐色土を少量含む。粘性あり。
- 32 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。B₁-FAの二次堆積物。

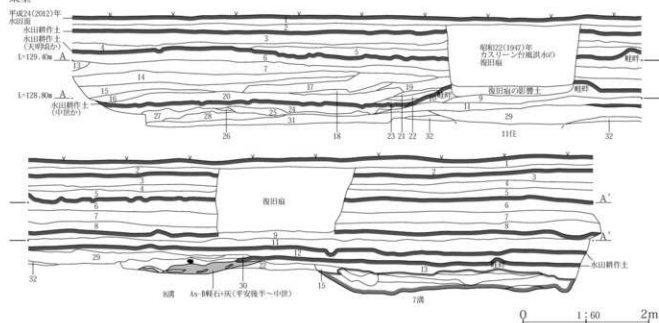
南壁



[南壁]

- 33 黒褐色土5YR3/1 シルト質土。締まりなし。8溝覆土。
- 34 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。
- 35 黒色土2.5Y2/1 As-C説土。やや粘性あり。
- 27 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。粘性あり。酸化鉄分を含む。

東壁



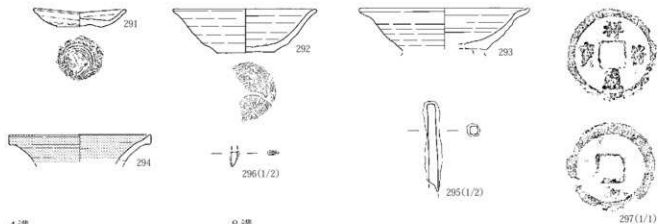
第84図 3区2面東壁・南壁土層

第4章 検出された遺構と遺物

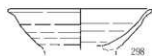
11住居



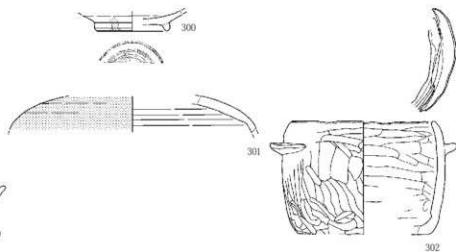
12住居



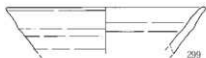
4溝



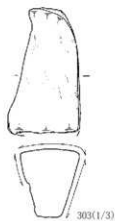
8溝



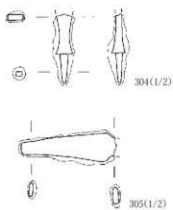
5溝



11土坑



14土坑



11ピット



第85図 3区2面11・12住居、4・5・8溝、土坑・ピット出土遺物

第5節 4区の遺構と遺物

1 4区の概要

(第86・87・112・267図、PL.37・51・52・146)

4区では3面の調査面を以て、調査を実施した。即ち、古代末から、中世以降の1面、10世紀から11世紀の所産の遺構を主体とする古墳時代後期以降から11世紀の2面、FA泥流で埋没する遺構を中心とした、6世紀の3面である。尚、3面から下位面への確認調査では、遺構は確認されなかった。

1面では区北西部から東部に流下する1河道1条(旧細ヶ沢川流路)、東西方向の4河道がある。列石1箇所、溝13条、畠1面、土坑109基、ピット55基が確認された。これで時期の特定できたものは少なく、殆どが近世以降と判断できるに過ぎないものであった。

2面では、区全体に住居83軒の分布が見られ、これらに混在して、竪穴6棟、溝18条があった。集落の時期は10世紀から11世紀初頭にかけての所産と推定したが、竪穴、溝も同時期の所産と判断されるものであった。また、製鉄遺構と製鉄炉3基が4区南西部、鍛冶炉1基が4区南東部にある。遺構は確認されなかったものの、鍛冶遺構の存在が想定される地点が別に1箇所あった。これらの製鉄遺構は、遺構の新旧関係から集落が形成された時期の半ば以降に営まれていたものと推定されるものである。この他、土坑116基、ピット7基が検出され、その時期を特定できたものは集落と同時期であった。

3面では旧地形が確認され、低地部ではFA泥流下水田と土坑1基、微高地部では集石1箇所と土坑1基が確認された。尚、これらの遺構は概ね古墳時代後期(6世紀)の所産として推定された。

2 1面の遺構と遺物

1列石(第87・88図、PL.37)

検出位置 77区と78区、67区と68区の交点付近で検出したが、主として77区Q1～T3グリッドに位置する。

重複関係 なし。

規模 略南北方向に並ぶ石列と、北東-南西に並ぶ石列からなる、両者は北東部で接続している。

略南北の列石は長さ約19.5mを検出し、礫の間隔は1.3m程と、2.2m程を測る。A-A'の方位はN15°Wである。

北東-南西に並ぶ列石は、東半部の長さ約17m分が直線的に並び、西半部では4m分が直線的に並ぶ。西半部は東半部の延長線上に並ばない。また、礫の間隔は一定にならない。B-B'の方位はN64°Eで、略南北方向の石列との角度は79°であり、直角にならない。

その他 礫の並び方が直線的であることから、これらの礫は「礎石」のように柱の底部を支えていたと推定される。

遺物 なし。

時代・時期 第1面の表土直下で検出されたことから、近世以降の所産と推定する。

11溝(第89図、PL.37)

検出位置 78区A4～C7グリッドで検出した。4区の中央部を北西-南東に走行する。

重複関係 西寄りて12溝と重複し、12溝→11溝の順に新しい。

覆土 褐色～黒褐色系の上で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 壁は斜めに直線的に立ち上がる。長さ22.3mを検出したが、北西部は浅くなり、南東端に向い細くなり消滅する。上面幅43～78cm、底面幅18～43cm、深さは9～36cmである。走行はやや湾曲し、方位は両端を結ぶ線でN48°Wである。

底面 北半部では比較的平坦だが、南半部では底面に一段と低い部分がある。A土層の位置で特に深くなり、その北西側は上面幅が広がる。北端底面の標高は128.59m、南端底面の標高は128.51mで、概ね北西寄りで高く、南東に向かって低くなる。通水があったとすれば、南東に向かって流れたと推定する。

その他 北西端が1河道に接している状態から、1河道から分水していた用水路の可能性がある。

遺物 図化掲載に取上げるべき遺物はなかったが、少量の土師器・須恵器片が出土した。

時代・時期 1河道との位置関係から、中世以降の所産と推定する。

12溝(第89図、PL.38)

検出位置 78区B4～E10グリッドで検出した。4区の中央部を北北西～南南東の方向で断続的に走行する。北寄りの部分から12溝a、12溝b、12溝cとする。

重複関係 12溝cの北端で11溝と重複し、12溝→11溝の順に新しい。

覆土 暗褐色～褐色系の土で埋没する。堆積が浅いが、自然埋没と推定する。

壁 壁は浅く斜めに立ち上がる。12溝aと12溝cは直線的で、12溝bは西側に凸の湾曲をもつ。それぞれの規模は、12溝a：長さ10.2m、上面幅25～52cm、底面幅10～25cm、深さ2～6cm、北寄りとは岐するように見える。12溝b：長さ10.2m、上面幅32～59cm、底面幅17～51cm、深さ1～3cm。12溝c：長さ10.2m、上面幅37～61cm、底面幅18～29cm、深さ2～9cm。12溝aの北端と12溝cの南端とを結ぶ線の方位はN23°Wで、両端を結ぶ全長は33.2mである。

底面 全体に不整形で、12溝a北端部と12溝c南半部では凹凸がある。12溝a北寄りの底面標高は128.7m前後、12溝c南寄りの底面標高は128.6m前後で、概ね北寄りで高く、南に向かって低くなる。通水があったとすれば、南南東に向かって流れたと推定する。

その他 全体として1河道に平行している状態から、1河道の位置を認識していたと考えられる。

遺物 少量の土師器、須恵器片を出土した。

時代・時期 1河道との位置関係から、近世以降の所産と推定する。

13溝(第90図、PL.38)

検出位置 67区T19～78区A4グリッドで検出した。4区の東半部を略南北に走行する。11溝から分流する部分を13溝a、南部を13溝bとする。未検出部を含めると、全体としてゆるいS字状を呈する。

重複関係 13溝は11溝から分流するように見えて、新旧関係は不明である。南端近くで19・20溝と重複し、A土層断面から、13溝→20溝の順に新しい。19溝とは直接重複していないが、19溝が20溝の走行とほぼ同じことから、13溝→19溝の順に新しいと推定される。

覆土 暗褐色～褐色系の土で埋没する。堆積が浅いが、自然埋没と推定する。

壁 壁は浅く斜めに立ち上がる。13溝aの上面がやや幅広く、外形に凹凸があり、13溝bは細く一定の幅をもつ。それぞれの規模は、13溝a：長さ4.1m、上面幅42～78cm、底面幅21～56cm、深さ11～18cm。13溝b：長さ17.8m、上面幅23～59cm、底面幅11～33cm、深さ4～10cm。13溝aの北端と13溝bの南端とを結ぶ線の方位はN5°Wで、両端を結ぶ全長は26.7mである。

底面 13溝aは不整形で、13溝bの南半部では凹凸がある。13溝aの底面標高は128.44m前後、13溝b南寄りの底面標高は128.49m前後で、殆ど差がない。しかし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、通水があったとすれば、南に向かって流れたと推定する。

その他 13溝も全体として1河道に平行している状態から、1河道の位置を認識していたと考えられる。

遺物 少量の土師器、須恵器片を出土した。

時代・時期 1河道との位置関係から、近世以降の所産と推定する。

14溝(第90・306図、PL.38・175)

検出位置 68区C20～78区D7グリッドで検出した。4区の中央部を略南北に走行する。北半部を14溝a、トレンチから南側を14溝bとする。全体としてゆるいZ字状を呈する。

重複関係 1河道の東岸沿いに走行するが、14溝a北寄りの部分は1河道の東岸の内側にあり、1河道よりも新しくなる可能性が高い。C・D土層断面では、地山の黄褐色砂質土を掘り込んでおり、1河道よりも新しく見える。南半部の北寄りでは17溝と接しており、17溝→14溝の順に新しいが、17溝と同時に存在していたかのどちらかである。

覆土 にぶい褐色系の土で埋没し、円礫や砂粒を含む。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 14溝b南端では2本の溝が交差するような状態を示し、14溝aの中央部では片側に平坦な面をもつC・D土層断面は特異な形状である。14溝a中央部では、一部を深く掘り下げた状態を示す。それぞれの規模は、14溝a：長さ21.4m、上面幅35～116cm、底面幅9～38cm、深さ8～74cm。14溝b：長さ12.4m、上面幅26～88cm、底面幅13～56cm、深さ22～60cm。14溝aの北端と14溝bの

南端とを結ぶ線の方位はN6°Wで、両端を結ぶ全長は35.4mである。

底面 14溝aでは狭く深い底面が断続して認められ、14溝bでは小穴がいくつか検出された。14溝a北端付近の底面標高は128.34m、14溝b南寄りの底面標高は128.36m前後で、殆ど差がない。ただし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、通水があったとすれば、南に向かって流れたと推定する。

その他 14溝bの南半部では、2本の溝が交差するような形状を示していること、14溝aでは片側に平坦な面を持っていることなどから、14溝は一度埋没した溝を掘り直した可能性がある。

遺物 若干の須臾器片が出土した他14溝bの西側壁際から模倣銭(968)が出土した。銭銘は摩滅して判然としなないが、「皇宋道宝」の可能性が高い。

時代・時期 1河道との位置関係から、近世以降の所産と推定する。

15溝(第90図、PL.38)

検出位置 78区E9～F12グリッドで検出した。4区の北寄り、1河道の東側を北西～南東に走行する。全体としてゆるいZ字状を呈する。

重複関係 1河道の東岸沿いに走行するが、南北両端で形状が断絶する。136土坑と重複し、136土坑→15溝の順に新しい。耕具痕は15溝埋没土の上でみられる。

覆土 灰褐色系の土で埋没し、酸化鉄分を含む。堆積が浅いが、自然埋没と推定する。

壁 中央部が幅広く、両端でやや細くなる。規模は、長さ15.4m、上面幅40～133cm、底面幅24～105cm、深さ3～10cm。15溝の北端と南端とを結ぶ線の方位はN35°Wである。

底面 底面は比較的平坦である。15溝北西端付近の底面標高は128.61m、南東端の底面標高も128.61mで差がない。しかし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、水流があったとすれば、南東に向かって流れたと推定する。

その他 15溝は1河道の東岸に沿って平行している状態から、1河道の位置を認識していたと考えられる。

遺物 少量の土師器・須臾器片が出土したが、図化掲載

に取り上げるべき遺物はなかった。

時代・時期 1河道との位置関係から、近世以降の所産と推定する。

17溝(第91図、PL.38)

検出位置 68区A19～78区C2グリッドで検出した。4区の東半部南寄りにあり、強い屈曲をもつ。

重複関係 北西端では14溝と接するが新旧関係は不明である。南部では19・20溝と重複し、17溝→19・20溝の順に新しい。18溝は17溝から分派し、17溝とほぼ平行して略南北に走行する。北半部で132・138土坑・131土坑と重複し、132土坑→138土坑→17溝、131土坑→17溝の順に新しい。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没し、砂粒を含み締まっている。堆積は浅いが、自然埋没と推定する。

壁 14溝bの北寄りに接し、南東に走行したのち略南に向かい、クランク状に屈曲して調査区南壁に至る特異な形状を示す。規模は、のべ長さ24.4m、上面幅21～58cm、底面幅10～40cm、深さ8～20cm。

底面 底面は比較的平坦である。17溝北西端付近の底面標高は128.38m、南東端の底面標高は128.43mで殆ど差がない。しかし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、水流があったとすれば、南東に向かって流れたと推定する。

その他 17溝は北西部で14溝に接し、南東部では13溝にほぼ平行する。14溝側の接する点の底面標高は128.14m、17溝側の底面標高は128.38mで17溝側が高い。17溝が14溝から分派していたかどうか、判定は困難である。重複する土坑よりも、17溝の方が新しい。したがって、131・132・138土坑→17溝→19・20溝の順に新しいとすることができる。

遺物 須臾器片と少量の灰軸陶器片が出土したが、図化掲載に取り上げるべき遺物はなかった。

時代・時期 14溝から分派していたとすれば、1河道との新旧関係から、近世以降の所産と推定する。

18溝(第91図、PL.38)

検出位置 68区A19～21グリッドで検出した。4区の東半部南寄りにある。

重複関係 北西端では14溝と接するが新旧関係は不明で

ある。17溝から分水し、19・20溝と重複するが、18溝→19・20溝の順に新しい。17溝とはほぼ平行して略南北に走行する。

覆土 黒褐色系の土で埋没し、円礫を含む。堆積は浅いが、自然埋没と推定する。

壁 緩く東に張り出す弧状を呈し、調査区南壁に至る。規模は、のべ長さ7.2m、上面幅14～37cm、底面幅14～22cm、深さ1～9cm。両端を結ぶ線の方位はN13°Wである。

底面 底面は比較的平坦である。17溝北西端付近の底面標高は128.45m、南東端の底面標高は128.51mで殆ど差がない。しかし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、通水があったとすれば、17溝同様南東に向かって通水していたと推定する。

その他 18溝→19・20溝の順に新しい。

遺物 若干の土師器片を出土した。

時代・時期 分岐する17溝に比較して、近世以降の所産と推定する。

19溝(第91図、PL.38)

検出位置 67区T19～68区B19グリッドで検出した。4区の東半部南端で略東西に走行し、直線的な溝である。

重複関係 東半部で20溝と平行するが、新旧関係は不明である。略南北走行の13・17・18溝と重複し、17溝→19溝の順に新しい。20溝と接するように平行することから、18溝→19・20溝、13溝→19・20溝の順に新しいと推定する。

覆土 褐灰色系の土で埋没し、砂粒を含む。堆積は薄い。自然埋没と推定する。

壁 全体に直線的な走行だが、広狭があつて不整形である。規模は、長さ7.5m、上面幅14～37cm、底面幅5～19cm、深さ3～15cm。両端を結ぶ線の方位はN79°Eである。

底面 底面には凹凸がある。19溝西端付近の底面標高は128.57m、東端の底面標高は128.52mで殆ど差がない。しかし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、通水があったとすれば、東に向かって流れたと推定する。

その他 略南北走行の13・17・18溝より新しく、第1面検出遺構のなかでも時間差のあることが確実である。

遺物 少量の土師器片が出土した。

時代・時期 17・18溝より新しいことから、近世以降の所産と推定する。

20溝(第91図、PL.38)

検出位置 67区T19～68区A19グリッドで検出した。4区の東半部南端で略東西に走行し、直線的な溝である。

重複関係 19溝と平行するが、新旧関係は不明である。略南北走行の13・17・18溝と重複し、17・18溝→20溝、13溝→20溝の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没し、砂粒を含む。堆積は浅いが、自然埋没と推定する。

壁 全体に直線的な走行で、19溝東半部と平行する。規模は次の通りである。長さ4.0m、上面幅13～22cm、底面幅7～19cm、深さ6～20cm。両端を結ぶ線の方位はN78°Eである。

底面 底面には広狭があり、一定ではない。20溝西端付近の底面標高は128.46m、東端の底面標高は128.49mで殆ど差がない。しかし、遺構確認面の標高は北西が高く、南東に向かって低くなる地形であることから、通水があったとすれば、東に向かって流れたと推定する。

その他 19溝に接する状態であり、19溝の再設置の可能性がある。

遺物 少量の土師器・須恵器片が出土した。

時代・時期 17・18溝より新しいことから、近世以降の所産と推定する。

21溝a(第91・306図、PL.38・175)

検出位置 78区I12～K12グリッドで検出した。4区の北西端付近で略東西に走行し、直線的な溝である。

重複関係 なし。

覆土 灰黄色系の土で埋没し、砂粒を含む。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 全体に直線的な走行であるが、広狭があるうえ、東半部は深く掘り下げている。規模は、長さ11.2m、上面幅33～98cm、底面幅9～86cm、深さ2～50cm。両端を結ぶ線の方位はN88°Wである。

底面 底面には広狭があり、一定ではない。東半部は断面長方形を呈し、50cm前後の深さとなるが、西半部は2～15cmで浅く、不整形な底面である。溝西端部の底面標

高は128.76m、東端部の底面標高は128.75mで殆ど差がない。遺構確認面の微地形は南東に向かって低くなる地形であることから、溝に通水があれば、東に向かって流れたと推定する。

その他 21溝bに平行する状態であり、21溝bが1河道に流入するような形状をもっていることから、21溝aも1河道に合流した可能性がある。

遺物 なし。21溝a・bのいずれに属するかは明らかでないが、21溝として少量の土師器、須恵器片と共に灰軸陶器碗(975)、砥石(976)、火打石(977)が出土した。

時代・時期 21溝b・22溝と平行することから、1河道の位置を認識していたと考えられ、近世以降の所産と推定する。

21溝b(第91図、PL.38)

検出位置 78区H13～112グリッドで検出した。4区の北西端付近で略東西に走行し、直線的な溝である。

重複関係 1河道に接する。

覆土 黒褐色系の土で埋没し、締まっている。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 全体に直線的な走行であるが、東端部はラッパ状に開き、低くなる。規模は、長さ6.2m、上面幅31～47cm、底面幅7～23cm、深さ8～15cm。東端部を除く細い部分の方位はN85°Eである。東端の開く部分は最大幅115cmで、不整形の土坑状の穴は、上面径81×67・底面径51×36深さ9cmである。

底面 底面には小穴があり、不整形の土坑状の穴までは概ね一定であるが、この穴の東側は1河道に向かって低くなる。水流は不整形穴に一時的に溜まり、溢れた水は1河道に流入したと考えられる。

その他 東端のラッパ状に開く形状から、水流は東に向かって流れ、埋没途中または埋没後の1河道に流入したと考えられる。ラッパ状に開く位置より東側の1河道の西壁が、水流の影響を受けていない状態とみられることから、埋没後に流入・浸透した可能性が高い。

遺物 (21溝a参照)

時代・時期 21溝a・22溝と平行することから、1河道の位置を認識していたと考えられ、近世以降の所産と推定する。

22溝(第91図、PL.39)

検出位置 78区I13～K13グリッドで検出した。4区の北西端付近で略東西に走行し、東半部は南に凸状を呈する溝である。

重複関係 1河道に接する。

覆土 明赤褐色～黄灰色系の砂質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、一度埋没したのちに再び掘り下げられている。

壁 西半部は細く直線的であるが、東半部は南に凸状を呈して曲り、上面が不整形である。東端部は不整形の土坑状となり、1河道の西岸に接する。規模は、延べ長さ12.3m、上面幅23～73cm、底面幅11～55cm、深さ16～61cm。西半の直線的な部分の方位はN88°Wである。東端の不整形の土坑状の穴は、上面径171×141・底面径124×108・深さ11cmである。

底面 中央部の底面はとくに深く掘り込まれ、A土層の位置の底面標高は128.23mである。この傾向は西半部の東半に及ぶ。A土層断面よりも東側は階段状に低くなり、不整形の土坑状の穴(底面標高128.35m)に至る。遺構確認面の標高は概ね一定で、1河道西岸で低くなる。水流があれば、西から流入し、A土層断面付近で一時的に滞留し、あふれた水が東に向かって不整形の土坑状掘り込みに至るといった特異な構造が推定される。

その他 東端の不整形の穴から東側では、1河道の西壁に水流の痕跡が見当たらないことから、21溝bと同じく、埋没後に水が流入・浸透したと考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 21溝a・bとほぼ並行することから、1河道の位置を認識していたと考えられ、近世以降の所産と推定する。

37溝(第91図、PL.39)

検出位置 78区C7～D8グリッドで検出した。4区の東半部中央付近で北北西～南南東方向に走行し、北端は23溝の輪郭と一致する。23溝は第2面で検出した溝で、29溝に連なる溝の可能性があり、37溝は23溝の分水の可能性はあるが、ここでは第1面の溝としておく。

重複関係 なし。

覆土 不明。

壁 全体として直線的であるが、北東壁は凹凸があり、

第4章 検出された遺構と遺物

不整形である。北西端は23溝の輪郭に一致する。規模は、長さ8.4m、上面幅85～130cm、底面幅60～99cm、深さ10～25cm。両端を結ぶ線の方位はN30°Wである。

底面 底面に細かい凹凸がある。北西端の底面標高は128.51m、南東端の底面標高は128.62mで、南東端側が高い。しかし、遺構確認面の微地形は南東に向かって低くなる地形であり、通水があれば南東に向かったと推定される。

その他 第2面検出の23溝は形状が明確で、深さ20cmほどあって掘り込みもしっかりしており、37溝よりも深い。西側に平行する12溝bと比較して、湾曲状態が近似しており、第1面の溝の可能性が高い。

遺物 なし。

時代・時期 12溝bとほぼ並行することから、1河道の位置を認識していたと考えられ、近世以降の所産と推定する。

畝(第92図)

4区1面では8箇所サク跡を検出した。1・2・3・5・6・7サクは略東西走行の畝間が残り、4・12サクはこれとほぼ直交する方位にサクが走る。いずれも自然埋没と推定されるが、堆積が浅いため、断定できない。

1サク(第93図、PL.39)

検出位置 67区P20～Q20グリッドで検出した。4区の南東部に位置する。

重複関係 耕具痕がサクの内外に認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、暗褐色～黒褐色系の土で埋没する。また、サクの外側の確認面の土はHr-FA泥流で、堆積の後に掘り込まれている。サク中の埋没土にはAs-B軽石粒を含まない。

壁 最長で東西4.90mが遺存する。畝の距離は一定ではなく、15～163cmの幅がある。サクの上端外形は凹凸があり不整形で、深さは2～11cmである。1サクbの方位はN80°Eである。

底面 サク底面も上端輪郭と同じく、幅が一定ではない。狭い部分で2cm、広い部分で17cmである。

その他 サクの内外に耕具痕が認められた。向きは一定ではないが、概ねサクの内部に遺存していた。

遺物 なし。

時代・時期 サク周囲の確認面がHr-FA泥流であり、サク埋没土中にAs-B軽石粒を含まないことから、6世紀～12世紀の所産となる可能性を有するが、下位面に10世紀～11世紀初頭の集落が存在することから、本サクは11世紀の所産と推定する。

2サク(第92図、PL.39)

検出位置 77区Q1～Q2グリッドで検出した。4区の南東部に位置し、1サクの北側にある。

重複関係 耕具痕がサクの内外に認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、にぶい褐色系の土で埋没する。

壁 2サクdが最長で、東西1.61mが遺存する。畝の距離は一定ではなく、2サクa-2サクb東:77cm、2サクb東-2サクc:141cmである。2サクc-2サクdの間は150cm前後と推定される。サクの上端外形は凹凸があり不整形で、2サクaは直線的ではない。深さは1～15cmである。2サクdの溝の方位はN85°Wである。

底面 サク底面も上端輪郭と同じく、幅が一定ではない。狭い部分で5cm、広い部分で15cmである。

その他 サクの内外に耕具痕が認められた。向きは一定ではないが、2サクa・cの内部に遺存していた。

遺物 なし。

時代・時期 1サクと同様の理由により、本サクも凡そ11世紀の所産と推定する。

3サク(第92図、PL.39)

検出位置 77区Q2～Q3グリッドで検出した。4区の南東部に位置し、1・2サクの北側にある。

重複関係 耕具痕が溝の内外に認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、暗褐色～にぶい褐色系の土で埋没する。

壁 3サクdが最長で、東西1.25mが遺存する。畝の距離は一定ではなく、3サクa-b:144cm、3サクb-c:136cm、3サクc-f:175cm、3サクf-e:16cm、3サクe-d:52cmである。3サクf-d間は88cmとなる。サクの上端外形は凹凸があり不整形で、3サクbは直線的ではない。深さは2～19cmである。3サクcの方位は

N78°Eである。

底面 サク底面も上端外形と同じく、幅が一定ではない。狭い部分で4cm、広い部分で21cmである。

その他 サクの内外に耕具痕が認められた。向きは一定ではないが、3サクbの内部に遺存していた。

遺物 なし。

時代・時期 本サクも1サクと同様の理由により、凡そ11世紀の所産と推定する。

4サク(第92図、PL.39)

検出位置 77区Q1～R2グリッドで検出した。4区の南東部に位置し、2・3サクの東西にある略南北走行のサクである。

重複関係 耕具痕がサクの内外に認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、にぶい褐色系の土で埋没する。

壁 4サクcが最長で、南北9.64mが遺存する。畝の距離は一定ではなく、4サクa-b:77cm、4サクb-c:128cm、4サクc-d:234cmである。サク上端外形は凹凸があり不整形で、4サクc・dは東に凸、4サクbはゆるいZ字状に屈曲する。深さは2～11cmである。4サクcの両端を結ぶ線の方位はN2°Wである。

底面 サク底面も上端外形と同じく、幅が一定ではない。狭い部分で3cm、広い部分で8cmである。

その他 サクの内外に耕具痕が認められた。向きは一定ではないが、4サクaの内部に遺存していた。

遺物 少量の須恵器片が出土した。

時代・時期 本サクも1サクと同様の理由により、凡そ11世紀の所産と推定する。

5サク(第93図、PL.39)

検出位置 77区R2～R3グリッドで検出した。4区の南東部に位置し、4サクの西側にある略東西走行のサク2本である。

重複関係 耕具痕がサクの内外に認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、褐色系の土で埋没する。

壁 5サクaが長く、東西4.33mのサクが遺存する。畝の距離は5サクa-b:433cmである。5サクbの上端外形は凹凸があり不整形で、5サクa南に凸状を呈する。

深さは4～14cmである。5サクaの両端を結ぶ線の方位はN81°Eである。

底面 5サクaの上端外形はほぼ一定であるが、底面は広狭がある。狭い部分で3cm、広い部分で19cmである。

その他 サクの内外に耕具痕が認められた。向きは一定ではないが、5サクbの内部に遺存していた。

遺物 なし。

時代・時期 本サクも1サクと同様の理由により、凡そ11世紀の所産と推定する。

6サク(第93図、PL.40)

検出位置 77区S3～T3グリッドで検出した。4区の南東部に位置し、13溝の東側にある略東西走行のサク2本である。

重複関係 51土坑が6サクaと、47ピットが6サクbと重複するが、6サクa→51土坑、6サクb→47ピットの順に新しい。

覆土 サクの覆土は、明褐色系の土で埋没する。

壁 6サクaが長く、東西4.47mの溝が遺存する。畝の距離は6サクa-b:44cmである。上端の外形は凹凸があり不整形で、6サクaはゆるいZ字状を呈し、6サクbは北に凸で曲る。深さは4～8cmである。6サクaの両端を結ぶ線の方位はN84°Eである。

底面 上端の外形に凹凸があるように、底面も広狭がある。狭い部分で3cm、広い部分で24cmである。

その他 サクの外に耕具痕が認められた。内部には小ピットのような掘り込みがある。

遺物 なし。

時代・時期 本サクも1サクと同様の理由により、凡そ11世紀の所産と推定する。

7サク(第93図、PL.40)

検出位置 78区A7～B7グリッドで検出した。4区の東半中央部に位置し、12溝bの東側にある略東西走行のサク2本である。

重複関係 耕具痕がサクの内外に認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、褐色系の土で埋没する。

壁 7サクbが長く、東西4.92mが遺存する。畝の距離は7サクa-b:26cmである。上端の外形はゆるやかな

凹凸があり、7サクaは南に凸、7サクbは北に凸状を呈する。深さは5~9cmで、7サクbではほぼ一定の8cmである。7サクbの両端を結ぶ線の方位はN82°Wである。

底面 上端の外形に凹凸があるように、底面も広狭がある。狭い部分で3cm、広い部分で11cmである。

その他 サクの外に耕具痕が認められた。

遺物 なし。

時代・時期 本サクも1サクと同様の理由により、凡そ11世紀の所産と推定する。

12サク(第93図、PL.40)

検出位置 78区A1グリッドで検出した。4区の南東部に位置し、17溝の北側にある略南北走行のサク2本である。

重複関係 耕具痕がサクの外に多数認められた。サクが耕具痕より新しい。

覆土 サクの覆土は、褐色系の土で埋没し、硬く締まっている。

壁 12サクbが長く、南北1.85mが遺存する。畝の距離は12サクa-b:69cmである。上端の外形はゆるやかな凹凸があるが、ほぼ直線的である。深さは5~15cmである。12サクbの両端を結ぶ線の方位はN5°Wである。

底面 上端の外形に凹凸があるように、底面も広狭がある。狭い部分で3cm、広い部分で13cmである。

その他 サクの外に耕具痕が認められた。

遺物 なし。

時代・時期 本サクも1サクと同様の理由により、凡そ11世紀の所産と推定する。

耕具痕(第94図)

4区1面では、ほぼ全面に耕具痕が検出された。1河道を挟んでその両側に濃密に分布するが、南東部では分布が少ない。ここでは分布する区域ごとに部分図1~11に分けて掲載した。

(1) 1・2・3 耕具痕(第95図、PL.40)

78区A2~B2グリッドで検出した代表例で、詳細図を示した。平面半月形を呈し、その断面はV字形を呈するが一方の壁は垂直に近い角度を示す。1~3 耕具痕の検出位置は、部分図8のなかに示した。

(2) 部分図1~11(第95~103図)

部分図1は4区の北西部で、1河道の西側に位置する。濃密に分布するが、一部に空白区域がある。

部分図2は1河道と4河道との間の区域である。トレンチの南東部は分布がやや少なくなる。

部分図3は4河道の南側・1河道の西側の区域である。耕具痕の集中は3地点認められた。

部分図4は部分図3の南半部である。

部分図5は4区の北部で1河道の西側の区域である。北東に向かって低くなる地形の高い地点に分布する。

部分図6は1河道の東側で4区の中央部の区域である。耕具痕を囲むように土坑やピットが分布する。

部分図7は部分図6の南側の区域で、土坑に囲まれた区域に分布する。

部分図8・9は1河道の東側で17溝と13溝に挟まれた区域に、耕具痕が濃密に分布する。1~3 耕具痕はこの区域で記録した。

部分図10・11は主として77区の区域で、1~5サクの間にまばらに分布する。サクの畝間の溝の中からも耕具痕を検出した。部分図11の東端は、1面で検出した水田アゼの東側に相当し、まばらに耕具痕が分布する。ここから東側の4区内では遺構を検出していない。5区の遺構分布図と合わせると、4区東端は5区3河道の一部であることが推定でき、この区域では遺構が存在していても流失したと考えられる。

1面の土坑群(第104~109・313図、PL.40~47・178)

分布 4区1面の土坑は1河道の東西に分布し、東側では調査区東側の低地と1河道に挟まれた靴部状の自然堤防上に南北に分布し、西側では1河道に沿う様な状態で分布している。このうち1河道の西側では111~130・137・139~141・148・150・151土坑の27基が分布し、1河道東側では東側の筋の北寄りで61・62・73・74・76・77・83~85・133~135・147土坑の13基、南寄りでは92~94・104~106土坑の6基、中央の筋は調査区中央に寄っていて51~55・59・60・68~72・75・78~82・86~89・91・95~103・108・109土坑の34基、西側の筋では北寄りでは90・136号土坑の2基、南寄りでは56~58・63~67・131・132・138・142~146・152~162土坑の27基、南端部で107・110土坑の2基が分布している。尚、この分布

域は後述するピットでも同様の様相を見せており、土地の利用に制約のあったことが窺われる。

規格・規模 土坑群の個々の土坑の規格等は表11に記したとおりであるが、平面の規格は30～228cmで平均92.6cmを測る。またそのプランはそれと見られるものを含め円形25基、楕円形55基、隅丸方形1基、長方形2基、隅丸長方形5基、不整形17基、形態を確認できなかったもの6基であった。

重複 重複した土坑では、71・108土坑、76土坑と20ピット、78土坑と79土坑、83土坑と54ピット、95土坑と32ピット、96～98土坑、102・103・109土坑と32ピット、126・137土坑、130土坑と66ピット、131土坑と17溝、132・138土坑と17溝、145・146土坑、154・155・159土坑、156・157土坑があった。このうち新旧の確認できたものでは、71土坑→108土坑、76土坑→20ピット、78土坑→79土坑、83土坑→21ピット、95土坑→32ピット、97土坑→96土坑・98土坑、103土坑→102土坑、66ピット→130土坑、131土坑→17溝、132土坑→138土坑→17溝、145土坑→146土坑、155土坑→154(159)土坑、157土坑→156土坑の順に新しい。

遺物 55・60・65・70・74～77・80・83・85～87・93・99・100・102・104・107・108・110・111・113・114・116・118・122・124・127・128・130・131・133・135・136・139～141・145～147・149・151～154～156・161・163土坑から少量の土師器・須恵器片が出土し、このうち75・113土坑からは土師器が少し多く出土し、152・153土坑から灰軸陶器片が出土した。また掲載した遺物には73土坑で須恵器椀(1109)、77土坑で鉄釘(1110)、87土坑で須恵器椀(1111)、105土坑で黒色土器椀(1112)、127土坑で羽口(1113)、128土坑で須恵器椀(1114)、139土坑で刀子(1115)、147土坑で須恵器椀(1116)がある。

その他 何れの土坑も掘削意図等を確認することができなかった。

時代・時期 各土坑の時期も明確ではないが、確認面等から推しておよそ中世以降の所産と認識される。

1面のピット(第104～106・108・110・111図、PL.47～50)

分布 土坑の分布範囲に重複する。このうち1河道の西側では66・67ピットの2基が分布し、1河道東側では東側の筋では北寄りに20・21・23～28ピットの8基、南

寄りに48・60～62ピットの4基、中央の筋では12～18・22・29～33・36～47・49～51・63ピットの29基、西側の筋では北寄りで34・35ピットの2基、南寄りで19・52～59・64ピット10基が分布している。尚、この分布域は上述する土坑の分布に重なるもので、土地の利用に制約のあったことが窺われる。

規格・規模 規格等は表17に記したとおりである。平面の規格は25～75cmで平均39.9cmを測る。またそのプランはそれと見られるものを含め円形17基、楕円形28基、方形1基、不整形9基であった。

重複 他遺構と重複するピットは、53ピットと54ピット、67ピットと141土坑があるが、54ピット→53ピット、67ピット→141土坑の順に新しい。また東筋南寄りのものは高遺構群と重複するが、何れに対しても新旧関係は特定できなかった。

遺物 遺物を出したピットは少なく、その量も僅かであったが、38ピットから須恵器、61ピットからは土師器の出土があった。

その他 何れのピットも建物をも想定することができず、掘削意図も確認できなかった。

時代・時期 各ピットの時期も明確ではないが、確認面等から推しておよそ中世以降の所産と認識される。

3 2面の遺構と遺物

住居(第112図、PL.51・52)

4区2面では竪穴状遺構を含む83軒の竪穴住居を検出した。4区の北西隅部と北東隅部を除く区のほぼ全域に分布するが、1面の1河道に東沿いの部分等に分布の薄い箇所があった。

これらの住居は9世紀第4四半期から11世紀初頭にかけての所産と見られるものである。このうち9世紀のものが2軒、10世紀のものが76軒(前葉8軒、前半1軒、中葉34軒、後半3軒、後葉30軒)、11世紀のものが5軒であった。

21住居(第113・273図、PL.53・160)

検出位置 78区F12グリッドで検出した。4区の北東隅近くに位置する。

重複関係 なし。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 四壁を検出し、全体としては隅丸方形に近い台形を呈する。南北3.06m、東西は3.28m、深さは南東隅付近で19cmほど、北東隅で9cmである。

床面 概ね平坦であった。

柱穴 検出されなかった。

カマド 燃焼部の半分が屋外にあり、焚口側は浅い掘り方を有する。右側壁際に径24×34cm、左側壁際に24×46cmで共に深さ5cmを測る小孔を穿って河床礫を据えて袖石とし、燃焼部の壁のライン上の中央に径24×34cm、深さ5cmの小孔を穿って河床礫を据え、袖石としている。カマド中軸線の方位はN114°Eである。

貯蔵穴 確認されない。

遺物 円筒埴輪(309~312)や形象埴輪(313・314)等の埴輪片と、杯(308)等の備かな須恵器が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半以降と判断される。

26住居(第114・273図、PL.53・54・160)

検出位置 78区I・J6・7グリッドで検出した。4区の南西部南壁屈曲部に位置する。

重複関係 27住居、25溝、440・445土坑と重複するが、445土坑→440土坑→27住居→26住居、25溝→27住居→26住居の順に新しい。

覆土 灰褐色・褐色・暗褐色のシルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 西壁の中・南部と南西隅部がトレンチで失われているが、平面形状は横長の隅丸方形を呈する。南北3.89m、東西は3.34m、深さは北壁付近では9cm、南壁付近では16cmを測った。

床面 掘り方は、27住居との重複もあり確認できなかった。床面は南北では6cm程の比高差があつて、北高南低となっているが、面的には比較的平坦であった。

柱穴 検出されなかった。

カマド カマドは東壁南端近くに設けられる。燃焼部は南東隅寄りを屋外に跨り込まれ、幅66cm、奥行75cm、深さ9cmの南西部が隅丸形で全体には楕円形を呈する燃焼部を有する。幅18cm、長さ33cm程の煙道を有する。燃焼部底面と煙道底面の比高差は14cmを測る。カマド中軸線

の方位はN79°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 釜(318)を含む土師器と杯(315)・椀(316)等の若干の須恵器、灰釉陶器椀(317)、砥石(319)、不明鉄製品(320)、羽口(321・322)が出土したが、315は住居北寄り、316は住居東壁中央付近前、319は中部北東寄り、321は北壁東部前からの出土である。

時代・時期 315は10世紀後半、316は10世紀前半の所産と見られるが、27住居との重複関係から現時点で本住居は10世紀後半頃の所産として把握したい。

27住居(第115・116・274図、PL.53・54・160)

検出位置 78区I・J6・7グリッドで検出した。4区の南西部南壁屈曲部に位置する。

重複関係 26住居、25溝、440・445土坑と重複するが、445土坑→440土坑→27住居→26住居、25溝→27住居の順に新しい。

覆土 灰黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 住居形状は、北東隅が強く丸みを帯びる縦長の隅丸方形を呈する。南北3.82m、東西は4.59m、深さは46cm程を測る。

床面 凹凸の見られる掘り方を有し、これを、にぶい黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は比較的平坦である。

柱穴 検出されなかった。

カマド カマドは住居の東南隅部に設けられている。屋外に掘削する掘り方を有し、これをにぶい黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部の手前寄りに炭化物の分布が見られる。左袖は失われているが、右袖は壁と一体になった掘り残して残されている。尚、炭化物分布域の中に、袖材等として使用した可能性が思慮される礫が残されている。煙道は全長72cmを測り、前後に段に分かれる。手前側は幅20cm、長さは約20cm、奥側は幅3~5cm、長さ44cmを測り、燃焼面と煙道の手前側、手前側と奥側の比高差は、それぞれ14cm、15cmを測る。カマド中軸線の方位はN66°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 出土遺物はさして多くなかったが、黒色土器椀(323)、杯(324)・甕(325)等の須恵器、甕(326)等の土師

器、灰陶器片、羽口(327・328)が出土した。このうち323はカマド右袖手前、324は中程の東壁際、326はカマド内の燃焼部と煙道の境付近、328はカマド右袖上からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

28住居(第117・118・274図、PL.54・160)

検出位置 78区H・I 10・11グリッドで検出した。4区の南西部のやや西寄りに位置する。

重複関係 76住居、72ピットと重複するが、76住居→28住居の順に新しい。

覆土 褐色土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、2層(暗褐色土)は所謂三角堆積であり、3層(にぶい黄褐色土)は三角堆積及び土葺き材の可能性が考慮される。

壁 住居形状は東に開く横長の隅丸逆台形を呈する。南北4.86m、東西は3.81m、深さは50cm程を測る。また東壁の中央やや南寄りに、壁に対して垂直方向に上幅基15cm、底幅72cm、長さ63cmを測る突起状の掘り残しが認められる。

床面 外周部にピット状の窪みが散見される浅い掘り方を有し、これを明黄褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。南西隅部には幅10～20cm、長さ233cm、深さ6～11cm、北西隅部には幅9cmを測る、間に10cmの空隙を挟んで、西壁に沿って長さ62cm、北壁に沿って長さ53cmの溝が残されている。

柱穴 検出されなかった。

カマド カマドは住居の東壁南部に設けられている。屋外に幅38cm、奥行82cm、深さ6cm掘り方を掘削し、これを暗褐色土、にぶい黄色土で埋め戻して燃焼面を作っている。掘り方には袖石を据えたと思われる楕円形のピット状の掘り込みが、燃焼部側の右袖手前に径10×14cm、深さ8cm、左袖の燃焼側面の手前に径14×21cm、袖上からの深さ29cm、奥側には径14×23cm、同じく深さ35cmを測るものが検出された。また燃焼部の奥壁側、燃焼部と煙道との間は、手前から比高差19cm、14cmを測る二段構造となっている。カマドの手前側には炭化物の遺存が見られる。袖は掘り残したものの内側に暗褐色土を張って造られ、左袖は幅42cm、長さ56cm、右袖は壁面と一

体の構造として幅66cm、奥行38cm、高さ26cm程が残されている。煙道はトンネル状に掘削され、幅17cm以上、高さ12cm以下で、長さ85cmを測る。その底面は手前側では燃焼部との比高差10cm程を測り、先端は径24cmの円形の堅孔につながって、確認面と底面との比高差は21cmを測る。カマド中軸線の方位はN89°Eである。また、カマドの右側に当る住居南東隅部は、東壁から屋内側に突き出る。カマドの右袖を左袖とした別カマドの設定が考慮される。袖以外の構造は確認されなかったため、計画段階にとどまったものと想定される。袖の中心間隔は50cm程を測る。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 出土遺物は須恵器杯(329～332)、緑陶器碗(333)、土師器、酸化塩焼成の羽釜と僅かな灰陶器、鉄釘(335～337)、羽口(338)が出土した。このうち329は南西隅部の西壁際周溝底部、335・336はカマド前、330～332はカマド燃焼部、334はカマドやカマド掘り方、333・338は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

29住居(第119・120・275図、PL.54・55・161)

検出位置 78区H・I 7・8グリッドで検出した。4区の南西部のやや西寄りに位置する。

重複関係 392・394土坑と重複するが、394土坑→29住居→392土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、4層(黄褐色土)は所謂三角堆積であり、3層(褐色土)は三角堆積及び土葺き材の可能性が考慮される。

壁 住居形状はやや横長の隅丸方形を呈する。南北4.79m、東西は4.21m、深さは44cm程を測る。

床面 東壁に沿って径170×86cm、深さ8cmの長方形のプランの掘削が見られるなど複雑な凹凸の見られる浅い掘り方を有し、これを、暗褐色土ブロックを多く含む黄褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出されなかった。また掘り方の凹凸にも確認できなかった。

カマド カマドは住居の東壁南端近くに設けられる。屋外に階段状の掘り方が掘削される。掘り方の手前側に中

第4章 検出された遺構と遺物

心間隔52cmの配置で、左が径31×23cm、深さ9cm、右側に径20×20cm、深さ5cm、奥側に中心間隔19cmの配置で、左が径11cm、深さ9cm、右側に径8cm、深さ3cmの土坑、ビット状の掘り込みが在り、このうち左側の2孔には袖石の挿入が見られ、右側の2孔は袖石の挿入はなかったが、同様に袖石が据えてあったと思慮される。このような掘り方を黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部の内面も同じ土壌で造られているが、掘り方に確認された床下土坑1(径27×24cm、深さ13cm)と床下土坑2(径65×69cm、深さ18cm)の底部近くも黒褐色土で充填しているため、両床下土坑はカマド構築材をこねた所謂床下粘土坑であった可能性が考慮される。燃焼部の左側には3基2段の石列が据えられる。またカマド手前には袖石或いは天井石に使用したと思しき礫の遺存が見られる。煙道はしゃもじ形のプランを呈し、その幅は基部で11cm、奥側で18cmを測る。燃焼面と手前側煙道の底部との比高差は30cmで、奥に向かって3cm、5cmとだんだんに低くなる。奥壁近くはビット状を呈し、確認面との比高差は11cmを測る。カマド中軸線の方位はN87°Eである。

貯蔵穴 南西隅近くに在る。楕円形プランを呈し、径62×74cm、深さ46cmを測る。掘削形態は挿鉢様を呈する。

遺物 出土遺物は多くないが、黒色土器杯(339)、杯(340)・小型甕(343)等の須恵器、皿(341)や皿と見られるもの(342)など少量の灰釉陶器、甕(344)や甕あるいは羽釜(345)等の土師器、敲石と見られるもの(346)や砥石と見られるもの(347)、台石(348)等の石製品、鉄釘(349)、流動滓(350・351)や羽口(352)といった製鉄関連遺物の出土があった。このうち350は住居北西部から、339・340が東壁南半部の壁際、345・352がカマド前から、348はカマドから、344はカマド・カマド前・カマド掘り方から、346はカマド左袖から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

30住居(第121・275図、PL.55・160)

検出位置 78区G・H10・11グリッドで検出した。4区の中西部の中段に位置する。

重複関係 1河道に切られるが、75・78ビットと重複するもの、新旧は特定できなかった。

覆土 褐色土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、4層(褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 南端部を除く東壁と北壁の東部は、1河道に削られて全容は詳らかでない。残存部から推して、住居の平面形状は横長の隅丸長方形を呈するものと判断される。南北3.98m、東西は3.61m、西部の深さは48cm程を測る。

床面 東部に幅1.2m以下、高さ7cm以下のテラスを伴う厚い掘り方を有し、これを黄褐色土で埋め戻して、やや東上がりの床面を造っている。

柱穴 西部中央付近に、径35×32cm、深さ10cm程の楕円形プランのビットが確認されたが、棟柱の可能性はあるものの、判断はできない。

カマド カマドは住居南東隅に設けられる。東壁南端に、屋外に列り込まれ掘り方が掘削される。右側壁には河床礫による袖石が据えられていたが、掘り方にはこれを据える径20cmの浅い掘り込みが掘削されていた。この掘り方を住居掘り方埋め土と同じ黄褐色土で埋め戻して燃焼面が造られている。上述の袖石が残されていた以外、袖、天井、煙道等の構造は残されていなかった。尚、燃焼部から住居側に炭化物の分布が見られた。

貯蔵穴 南西隅近くに在る。楕円形を呈し、径72×61cm、深さ35cmを測る。掘削形態は筒様を呈する。

遺物 出土遺物は多くないが、杯(353)等の須恵器、土師器、埴輪片等の出土があった。353はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉の所産と判断される。

31住居(第122・276図、PL.55・161)

検出位置 67区Q・R20、77区Q・R1グリッドで検出した。4区の北東部に位置する。

重複関係 4溝と重複するが、本住居の方が新しい。

覆土 灰褐色、黒褐色のシルト質土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、5層(暗褐色土)の一部と6層(暗褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。また4層土は土葺き材の可能性も否定できない。

壁 住居形状は横長の隅丸長方形を呈する。南北3.96m、東西は3.22m、深さは39cm程を測る。

床面 南西部に高さ10cm、北東部に高さ20cm程のテラスを掘り残し、中部から北西部にかけて3基の大型の土坑

状の掘り込み、南西隅部に小型の土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを暗褐色土や橙色土で埋め戻して床面を造っている。床面は概ね平坦である。

柱穴 認められなかった。

カマド カマドは東壁南端に設けられる。壁面を鈎いで燃焼部を造るが、燃焼面は橙色土で埋め戻して造られている。袖は、左袖が褐色土で造られ、幅31cm、長さ31cmが残る。右袖は住居南壁を用いている。煙道は、カマド東端に残欠と見られる突出部が残されているに過ぎない。東壁南端の屋外に掘り方が掘削される。また、燃焼部からカマド前にかけて炭化物の分布が見られた。

貯蔵穴 南西隅近くに在った楕円形プラン(径40×47cm、深さ21cm)に、その可能性が考慮される。

遺物 杯(361～364)・椀(365)・鉢(367)等の須恵器、酸化焙焼成の羽釜(368・369)等の土師器、灰軸陶器椀(366)、不明金属器(370)、羽口(371・372)の出土があった。このうち362は住居中南部の床上から、370は東部中央の壁際から、361・364・369はカマドから、367はカマドと住居掘り方から、368・371・372は北西部の掘り込み西側部からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉から中葉の所産と判断される。

32住居(第123・275図、PL.56)

検出位置 77区R 1グリッドで検出した。4区の南部に位置する。

重複関係 44溝と重複するが本住居の方が新しい。

覆土 7層は所謂三角堆積は明褐色系の土であり、褐色系、黒褐色の土壌で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 四壁を検出し、全体としては隅丸長方形を呈する。南北5.19m、東西は3.62m、深さは48cmである。

床面 床面は概ね平坦であった。

柱穴 確認できなかったが、南西隅近くの土坑にその可能性は残される。

カマド 燃焼部の半分が屋外にあり、焚口側は浅い半円形の凹みを呈する。カマド前から燃焼部にかけて、1mm未満の厚さで炭化物が堆積する。煙道は掘り抜きであり、径18×17cm、長さ67cmのトンネル状に掘削される。なお、カマド前の南壁沿いに天井石に使用されたと思われる円

礫が出土する。カマド中軸線の方位はN62°Wである。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 甕(356)を含む土師器片と、瓶(355)を含む少量の須恵器片、灰軸陶器片、緑軸陶器皿(354)が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

33住居(第124・125・275図、PL.56)

検出位置 67区P 20、77区O・P 1グリッドで検出した。4区の東端近くに位置する。

重複関係 65・66住居と重複するが、本住居の方が新しい。

覆土 黒褐色土、暗褐色土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。4層(褐色シルト質土)は三角堆積の一部であり、土葺材の可能性も考慮される。

壁 四壁を検出し、全体としては横長の隅丸長方形を呈する。南北5.09m、東西は4.11m、深さは27cm程を測る。

床面 浅い掘り込みの南半部に土坑状の掘削が施される掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面には多少の凹凸が見られた。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南端近くに設けられる。東壁屋内側に中心を持つ掘り方が掘削される。掘り方左右両側の壁際には、袖石を据えた幅7～16cm、奥行13～23cm、深さ1～16cmを測る、縦列2基ずつの小ピットが掘削される。またカマド前には径91×64cm、深さ18cm、径51×44cm、深さ19cmを測る2基の土坑が掘削されている。こうした掘り込みを持つ掘り方をシルト質の褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。左袖は幅15cm程、長さ20cm程が残されているが、右袖は住居南壁と兼用されている。燃焼部の左右両側には長手を前後にした円礫が縦列に3個ずつ配置され、その外側をシルト質の褐色土や暗褐色土で埋めて壁面を形成している。燃焼面奥側の左右袖石の上には、大型の円礫が前後段違いに面を上にして据えられ、煙道部との境としている。煙道は幅30cm、長さ45cm程を測る。煙道の奥壁は高さ10cm程が残される。尚、カマドの燃焼面から手前にかけて炭化物の面的分布が見られる。カマド中軸線の方位はN79°Wである。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 住居北東隅部から出土した小型台甕(357)を含

む土師器片や須恵器片など少量の遺物が出土したに過ぎなかった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、9世紀第4四半期の所産と判断される。

34住居(第126・275図、PL.57・160)

検出位置 67区S・T20、77区S・T1グリッドで検出した。4区の東南部に位置する。

重複関係 56住居、36溝と重複するが、36溝→56住居→34住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。3層(暗褐色土)は所謂三角堆積であり、4層(褐色土)は三角堆積の一部を構成するが、土葺材の可能性も否定できないものと考えられる。

壁 平面形状は南壁が広がる隅丸台形を呈する。南北4.41m、東西は4.29m、深さは32cm程を測る。

床面 凹凸の顕著な掘り方を有し、これをややシルト質の褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南端に設けられる。東壁面ラインを越えて掘削される幅93cm、奥行194cm、深さ7cmを測る滴形の掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。左袖は失われて確認できなかったが、右袖は住居南壁を取り込んで用いており、礫1個が斜めに張り付いて残る。燃焼部の内壁はややシルト質の褐色土で張られている。燃焼部と煙道部の底面は同一レベルで、その境は明瞭ではないが、煙道の幅は38cm以下、長さは70~80cm程と思慮される。カマド中軸線の方位はN85°Wである。

貯蔵穴 南西隅部に在る、径105×88cm、深さ49cmを測る土坑にその可能性が考慮される。

遺物 杯(358・359)等の須恵器や多くの土師器、段皿(380)等少量の灰軸陶器片や埴輪片が出土した。このうち358はカマド等からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半頃の所産と判断される。

35住居(第127・276図、PL.57)

検出位置 78区A・B2・3グリッドで検出した。4区の南東に位置する。

重複関係 単独で在り、重複遺構はない。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、4層(黄褐色土)は所謂三角堆積。

壁 平面形状は多少北側が広がり隅部の丸みの強い縦長の隅丸長方形を呈する。東西3.39m、南北2.61mを測る。深さは北西隅付近で37cmほど、東壁~南壁で22~24cmである。

床面 浅い掘り方を掘削し、これを褐色のシルト質土で埋め戻して床面を造っている。東寄りと北西隅がやや窪むが、床面は概ね平坦であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは南東隅に位置し、壁面を掘り込んで幅84cm、奥行96cm、深さ7cm以下の掘り方を有し、これを褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部過半は屋外にあり、焚口側は極浅い凹みを呈する。カマド前から燃焼部にかけて、部分的に厚1mm以下に炭化物層が堆積する。煙道は掘り抜きであり、幅12cm、長さ19cmのトンネル状に掘削される。カマド中軸線の方位はN63°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 カマドから出土した小型甕(374)を含む土師器片と、杯(373)を含む少量の須恵器片が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半頃の所産と判断される。

36住居(第128・276図、PL.58・161)

検出位置 78区B・C6・7グリッドで検出した。4区中央、1河道の東に位置する。

重複関係 単独で在り、他遺構との重複は見られない。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没する。3層(褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 南東方向に開く横長の隅丸台形のプランを呈する。東西は北側が230cm、南側が3.54m、南北が5.05mを測る。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して床を造っている。床面は南東より北西が17cm低く、傾いている。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁中央のやや北寄りに設けられる。カマドを跨いで燃焼部が作られ、浅い掘り方を褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。なお、煙道は確認できなかった。

カマドの中軸線の方位は、E 0°である。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 土師器片と、須恵器杯(375)・椀(376~378)・羽釜(379)が出土した。このうち375・378は住居北東隅付近から、377は中央東壁寄りから、379はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

37住居(第129・277図、PL.58・161)

検出位置 78区A・B 5・6グリッドで検出した。4区の中央付近に位置する。

重複関係 単独で在り、重複遺構はない。

覆土 黒褐色土、暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(黒褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 平面形状は縦長の隅丸長方形を呈する。東西4.21m、南北3.39mを測る。深さは43cmほどである。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南東隅近くに位置し、壁面を掘り込んだ極浅い掘り方を黒褐色土や住居床面と同質の暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部の過半は屋外にあり、焚口側は極浅い凹みを持つ。カマド前から燃焼部にかけて、黒色灰が多く入る。煙道は確認されなかった。カマド中軸線の方位はN 67°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 土師器と杯(380)・椀(381・382)等比較的多くの須恵器、灰軸陶器壺(383)、酸化焙焼成のもの(384)と還元焙焼成のもの(385)がある羽釜、そして不明鉄製品(386)の出土があった。このうち380・382はカマドから、383・385はカマド前から東壁にかけて、381は北壁際中央付近から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

38住居(第130・131・278図、PL.59・162)

検出位置 78区A・B 7グリッドで検出した。4区の中央やや北寄りに位置する。

重複関係 39住居と重複するが本住居の方が新しい。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、4層(黄褐色土)は所謂三角堆積であり、5層土(褐色土)は土葺き材の可能性が考慮される。

壁 平面形状は縦長の若干隅丸の長方形を呈する。東西は4.19m、南北は3.71mを測る。深さは63cmほどである。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南寄りに位置し、壁面を掘り込んで作っている。暗褐色土で燃焼面や奥側の壁面を造る。燃焼部の過半は屋外にあり、焚口側炭化物が平面的に分布する。幅30cmの煙道が長さ28cm程残り、奥壁は残存高さ10cmに立ち上がる。カマド中軸線の方位はN 80°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 カマド前を中心に、黒色土器椀(394)、灰軸陶器椀(399)、緑釉陶器皿(398)、杯(395)・椀(396)・甕(407)を含む須恵器、小型甕(400)を含む土師器と、酸化焙焼成(401~403)と還元焙焼成(404~406)の羽釜等比較的多くの遺物が出土した。このうち394・397~402・404~407はカマド前、385・402は竈左側の東壁際から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

39住居(第130図、PL.59)

検出位置 78区B 7グリッドで検出した。4区の中央やや北寄りに位置する。

重複関係 38住居と重複するが本住居の方が古い。

覆土 褐色土や灰褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(暗褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 38住居に大きく削られていて、西側部分しか確認できない。平面形状は恐らく横長の隅丸長方形を呈する。東西は検出範囲で2.29m、南北は3.41mを測る。深さは62cmほどである。

床面 浅い掘り方を有している。床面は多少の凹凸は見られるが概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 確認できなかった。

時代・時期 38住居との重複関係から、10世紀中葉以前の所産と推定する。

その他 本住居はカマド等が確認できなかったため、堅穴の可能性も有する。

40住居(第132・133・277図、PL.58・60・162)

検出位置 79区A3・4グリッドで検出した。4区の中央やや東寄りに位置する。

重複関係 365土坑と重複するが、本住居の方が古い。

覆土 暗褐色土で埋没する。なお、2・3・4層(褐色土)は所謂三角堆積であり、このうち2層土の一部は土葺き材の可能性が考慮される。

壁 平面形状は東壁南側がやや開く横長の隅丸長方形を呈する。東西は3.81mで、南北は3.44mを測る。深さは46cmほどである。

床面 極浅い掘り方を有し、これを、炭化物を少量含むシルト質の褐色土で埋め戻して造る。床面は多少の凹凸はあるが概ね平坦である。

柱穴 位置的に北西部(径72×60cm、深さ16cm)と(径56×50cm、深さ30cm)がその可能性を有するがはっきりしない。

カマド カマドは東壁南寄りに位置し、壁面を掘り込んで造っている。暗褐色土で燃焼面や奥側の壁面を造る。燃焼部の過半は屋外にあり、焚口側炭化物が平面的に分布する。幅30cmの煙道が長さ28cm程残り、奥壁は残存高さ10cmに立ち上がる。カマド中軸線の方位はN80°Wである。

貯蔵穴 南西隅に検出された(径79×72cm、深さ36cm)がその可能性を有する。

遺物 杯(387～389)等の須恵器と土師器が比較的多く出土し、白磁碗(390)、不明鉄製品(391・393)が出土したが、金銅製観音像(392)の出土が注目される。このうち391・392は西壁中央手前から出土、383・387・393は東壁の中央やや北寄りから出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉から11世紀初頭の時期の所産と判断される。

41住居(第134・279図、PL.60・163)

検出位置 77区Q・R5・6グリッドで検出した。4区の中央付近に位置する。

重複関係 51住居と重複するが、本住居の方が新しい。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、4層(褐色土)、5層(橙色土)は所謂三角堆積である。

壁 平面形状は南壁が東寄りて開く隅丸方形を呈する。東西3.44m、南北3.81mを測る。深さは46cmほどである。

床面 土坑状の掘削を伴う浅い掘り方を有し、これをシルト質の暗褐色土や明褐色土で埋め戻して床面を造る。床面は概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東南隅に設けられる。壁面を掘り込んだ極浅い掘り方を暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部の過半は屋内にあり、焚口側は極浅い凹みを持つ。幅19cm、長さ137cmの煙道が確認された。煙道の掘り込みは確認面から10cm程であった。カマド中軸線の方位はN58°Wである。なお、カマド前には炭化物の面的分布が見られる。

貯蔵穴 確認されなかったが、南西隅に有る土坑(調査段階の364土坑、径101×78cm、深さ25cm)にその可能性がある。

遺物 カマド及びカマド前を中心に杯(408～409)等の須恵器と灰釉陶器碗(411)、埴輪片と比較的量の多い甕(412)・把手付甕(413)等の土師器が出土した。このうち409はカマドから、408は住居北西部から、411は48住居と接合する。412は中央西壁寄りと南壁中央近くから、413はカマドと南壁中央近くから出土している。尚、一括して取上げられた炭化材は針葉樹であったが、群馬県域に於ける出土木材や炭化材の多くが広葉樹であることから、注目されるものである。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

42住居(第135・136・279図、PL.60・61・163)

検出位置 77区Q・R5・6グリッドで検出した。4区中東部、調査区壁近くに位置する。

重複関係 404・410土坑と重複するが、410土坑に対しては本住居の方が新しく、404土坑の新旧関係は特定で

きなかった。

覆土 暗褐色・黄褐色・褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 平面形状は南壁東寄りか弧状を呈し、南西隅は隅丸を呈する横長の長方形を呈する。東西は3.81m、南北は4.86mを測り、深さは52cmほどを測る。

床面 凹凸のある掘り方を有し、その下半をシルト質の褐色土、上半をシルト質の暗褐色土で埋め戻し床面を造っている。床面は多少の凹凸は見られるが、概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南端近くに位置し、壁面を掘り込んで屋外に造る。浅い掘り方を褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部の壁ラインの前後にあり、直上の6層には黒色灰が含まれる。焚口奥側は徐々にせり上がり、幅22cmの煙道が長さ28cm程残る。カマド中軸線の方位はN72°Eである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 若干の甕(415)土師器、灰陶陶器片と、椀(414)多くの須恵器、還元焙焼成と見られるもの(416)と酸化焙焼成と見られる(417)羽釜、不明鉄製品(418)等の出土があった。尚、414・416はカマドから出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

43住居(第137・138・279図、PL.61)

検出位置 77区S7・8グリッドで検出した。4区の中北部北壁寄りに位置する。

重複関係 12竪穴、43・44溝と重複するが、12竪穴→43住居、43・44溝→43住居の順に新しい。

覆土 灰褐色土、褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。

壁 平面形状は横長の隅丸長方形を呈するが、北東・北西隅部の丸みは少ない。東西は2.73m、南北は4.01mを測る。深さは41cmほどである。

床面 浅い掘り方を有し、これを褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南寄りに位置し、壁面を掘り込ん

で屋外に造る。幅57cm、奥行136cm、深さ16cmの縦長楕円形プランの掘り方を掘削し、これを暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。カマド掘り方の壁面前には径17×15cm、深さ17cmの楕円形プランの小型のピットが掘削されているが、ここに袖石を据えた可能性が考慮される。燃焼面からカマド前にかけて、厚5cm以下の黒色灰が面的に確認される。煙道は舌状を呈している。カマド中軸線の方位はN82°Wである。

貯蔵穴 確認されなかったが、掘り方の南右側の住居南東隅にある径82×約35cm、深さ14cmの土坑状の掘り込みにその可能性が考えられる。

遺物 若干の土師器・須恵器片が出土したが、中には黒色土器椀(419)と東寄りの南壁際から出土した土師器の甕または羽釜片(420)があった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と判断される。

44住居(第139・140・279図、PL.61・62・163)

検出位置 78区C・D8・9グリッドで検出した。4区の中北部のやや西寄りに位置する。

重複関係 37溝、409土坑と重複するが、409土坑→44住居→37溝の順に新しい。

覆土 灰褐色・褐色・にぶい褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南北壁の西側と東壁が残る。残存部から平面形状は隅丸形状を呈すると見られる。東西は残存長3.21m、南北は4.19mを測る。深さは22cmほどである。

床面 北東隅と南東隅に8cm以下の比高差を持つテラスを有し、調査範囲の西端に幅30cm以下、深さ7cm以下の溝が、東壁に併行して長さ4.33走り、その南端に接して径60×49cm、深さ18cmの土坑を掘削し、これを褐色土やにぶい褐色土で埋め戻して床を造っているが、北西寄りに明褐色シルト質土で貼床を施している。床面は平坦に近いが、カマド前が1～6cm程膨らむ。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁の南東隅に最も寄った部分に位置する。カマド掘り方は軸をやや南に傾け、屋外側に長い舌状である。燃焼面は、灰を筋状に挟む褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼面には焼土が面的に残り、その中程には炭化物の平面的分布範囲、また燃焼面に覆

う7層には部分的に灰色灰が堆積する。袖、天井、煙道等は確認できなかった。カマド中軸線の方位はN69°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 掘り方のカマドとカマド前を中心に、杯(421・422)・椀(423)等の須恵器や少量の埴輪、甕(424)等多くの土師器が出土した。421・423はカマドから、424はカマド前からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

45住居(第141・142・280図、PL.62・163)

検出位置 78区B10・11グリッドで検出した。4区中部の北側調査区際に位置する。

重複関係 単独で在り、他遺構との重複は見られない。

覆土 明褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。2層(褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 北東隅部が狭く丸まるが、若干縦長の隅丸方形プランを呈する。東西は3.51m、南北は2.99m、深さは約44cmを測る。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の橙色土で埋め戻して床面を造る。床面は多少の凹凸はあるものの概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは南東隅部に在る。壁面を東方向に削り出して燃焼部を造り、埋土の間に黒色灰を層として挟んで褐色のシルト質土で埋め戻して燃焼面を造っている。壁より内側の土層観察から、袖がシルト質の褐色土で作られた可能性が窺われる。明確な範囲としての煙道は認められない。カマド中軸線の方位はN65°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 カマド付近を中心に、土師器片と黒色土器碗(425)、椀(426・427)・羽釜(428・429)等の須恵器が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉の所産と判断される。

46住居(第143・280図、PL.62・163)

検出位置 77区T7・8グリッドで検出した。4区の中北部に位置する。

重複関係 12竈穴、28溝と重複するが、28溝→46住居→12竈穴の順に新しい。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東部が広がる横長の隅丸方形のプランを呈する。東西は3.15m、南北は3.84m、深さは約39cmを測る。

床面 ビット状の掘削箇所一箇所を伴う浅い掘り方を有し、これを褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面に多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁の中央よりやや南寄りに位置する。燃焼部は壁面を掘り込んで造る。掘り方を粘性のある褐色土で埋め戻して造っている。壁面側の壁に沿って礫が置かれ、暗褐色土等で袖を造っている。煙道は残されていない。カマド中軸線の方位はN89°Eである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 黒色土器碗(431)椀(435~437)・杯(432~434)等の須恵器、段皿(438)等少量の灰軸陶器、及び甕(439)・甕または甗(440)等の土師器、砥石(441)が出土した。このうち430・431・437・440はカマド及びカマド掘り方、432はカマド左側の東壁際、438は東壁際北寄り、434~436はカマド右側の南壁前、439は西壁中央壁際、433は住居北西隅部から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

47住居(第144・280図、PL.63・163)

検出位置 77区T6・7グリッドで検出した。4区中央やや北東寄りに位置する。

重複関係 28溝、39溝、424土坑と重複する。39溝→424土坑→47住居→28溝の順に新しい。

覆土 暗褐色・灰褐色・褐色土で埋没する。

壁 平面形状は横長の隅丸長方形を呈するが、南壁中・東部が北に寄る。東西は2.26m、南北は3.69mを測る。深さは39cmほどである。

床面 若干凹凸の有る掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して床を造る。床面は概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南端に備える。壁面を僅かに跨ぐ位置に燃焼部を設定し、住居掘り方を掘り込んで浅い掘

り込みを設ける。燃焼面には炭化物の分布が見られる。燃焼面に続く状態で幅50cm、長さ85cmの煙道が残る。カマド中軸線の方位はN87°Eである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 土師器片と杯(442・443)・耳皿(444)・椀(445)・壺と思われるもの(446)・羽釜(447)等の多数の須恵器と、鉄製茅(448)が出土した。このうち442・444・447はカマド付近、443は西壁中央の壁際、445は東壁際から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

48住居(第145・281図、PL.63・163)

検出位置 67区O・P20グリッドで検出した。4区の南東隅部に位置する。

重複関係 49・65住居と重複するが、共に本住居の方が新しい。

覆土 暗褐色土、黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(黒褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 南側が調査区外に出ていて全容は詳らかでないが、平面形状は横長の隅丸長方形を呈するもの、調査区際で東方に若干屈曲する。東西は2.41m、南北は残存長3.99mを測る。深さは37cmほどである。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の黒褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 土師器と、転用碗(457)・椀(450～453)・皿と思われるもの(455)と段皿(454)・椀(456)等を含む、僅かな灰釉陶器片、不明土製品(458・459)、刀子(460)、不明鉄製品(461・462)、羽口(463)が出土した。これらの多くは覆土中からの遺物の出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉の所産と判断される。

49住居(第145・281図、PL.63・163)

検出位置 67区P20グリッドで検出した。4区の南東隅部に位置する。

重複関係 48住居と重複するが、本住居の方が古い。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東側が48住居に切られるため、全容は詳らかでないが、平面形状は縦長の隅丸長方形を呈している。東西は残存長2.69m、南北は3.06mを測る。深さは51cmほどである。

床面 南東隅に土坑状の掘り込みを伴う浅い掘り方を有し、これをシルト質の暗褐色土やにぶい褐色土で埋め戻して平坦な床面を造る。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出されなかった。

貯蔵穴 床面に於いて貯蔵穴は確認されなかったが、南西隅部の径65×60cm、深さ24cmの土坑状の掘り込みによる可能性が考慮される。

遺物 杯(465)・椀(466)を含む須恵器と黒色土器碗(464)、酸化燻焼成の羽釜(467)や若干の土師器片が出土した。なお、465は住居北寄りからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と判断される。

50住居(第146・147・281図、PL.64・163)

検出位置 77区Q・R3・4グリッドで検出した。4区東部やや北寄りに位置する。

重複関係 41・62住居と重複するが、62住居→50住居→41住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(褐色土)は所謂三角堆積であり、2層土(暗褐色土)は土葺き材の可能性が考慮される。

壁 平面形状はやや南側が広がる横長の隅丸長方形を呈する。東西は3.99m、南北は5.51mを測る。深さは42cmほどである。

床面 掘り方を有し、これを褐色土等で埋め戻して床面を造っている。床面は大凡平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南端に位置し、壁面を掘り込んで造っている。凹凸の有る掘り方を有する。掘り方内燃焼部位の壁直下には、燃焼部の壁補強に用いられた、礫の裾方の小ピットが6箇所認められる。左側が径13×24cm、深さ18cmを測る縦長の楕円形プラン、右側が径15

×24cm、深さ12cmを測る縦長の隅丸長方形プランのピットが掘削され、この位置に袖石が据えられている。この掘り方を褐色土で埋め戻して燃焼面を造るが、燃焼面は幅109cm、奥行135cm、深さ10cm以下の縦長楕円形プランの窪みを成す。また燃焼面には焼土を含む黒色灰が堆積している。袖、天井は失われていたが、燃焼部と煙道の境付近の左右両側の壁際に礫が据えられている。煙道は幅25cm、長さ78cmを測り、手前側は燃焼面から連続し、奥壁は高さ10cmを測って立ち上がる。カマド中軸線の方位はN82°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 遺物はカマドを中心に出土し、甕(470)等の土師器、杯(468)等の須恵器片と皿(469)等少量の灰釉陶器片と埴輪片、鉄製紡錘車(471)、礫が出土した。このうち469は東壁の中程壁、470はカマド等から出土している。

時代・時期 469は10世紀前葉、470は10世紀後葉の所産であるが、重複関係から本住居は10世紀後葉の所産と判断される。

51住居(第149・282図、Pl.64・163)

検出位置 77区R・S4・5グリッドで検出した。4区の東部に位置する。

重複関係 41住居、43溝、415・416土坑と重複する。43溝、415・416土坑→51住居→41住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東壁中・南部から南壁東部にかけて41住居に壊されていて失われている。残存部から平面形状は隅丸長方形を呈すると判断される。東西は4.51m、南北は5.36mを測る。深さは43cmほどである。

床面 掘り方を有する。北壁から西壁中部にかけて壁面から40～70cmの位置に幅28cm以上、深さ5～6cm、その内側に壁面より70～123cm離れた位置に幅20cm、深さ5cmの周溝状の掘削があり、南部には径70～90cm程、深さ36～49cm内外のピット状の掘削が、また中央部から東部にかけて深さ30cm以下の土坑状の掘削を伴い、これを褐色土等で埋戻し固くして床面としている。床面は平坦である。また中南部には炭化物の分布が見られた。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出しなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 杯(472～474)等の須恵器と、やや量の多い甕(475)等の土師器、或いは羽口(478)が出土した。このうち472が中部寄りから、475は住居北部から、476・477は住居南西隅部から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀初頭の所産と認識される。

52住居(第150・151・282図、Pl.64・65・164)

検出位置 67区T19・20、68区A19・20グリッドで検出した。4区東端部南東隅部に位置する。

重複関係 53・64住居、13・17・18溝、298・299・450土坑と重複するが、53・64住居→52住居→13・17・18溝・450土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、6層(褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 壁の南東隅部及び南壁の東半部が調査区外に延びるため全容は把握できなかったが、平面形状は東壁の南寄りやや開く隅丸形状を呈すると考えられる。東西は4.66m、南北は4.55mを測る。深さは58cmほどである。

床面 凹凸のある部分的な浅い掘り方を黄褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。また住居中央には径58以上×47cmの楕円形プランに焼土化が見られる。

柱穴 床面に幾つかの土坑状の掘り込みが遺されていたが、柱穴として認識されるものはなかった。

カマド 450土坑等で壊されていて、その形状等を詳らかにすることはできなかった。カマドは東壁南端近くに位置している。住居の壁面手前に、半楕円形プランの深さ16cm以下の燃焼部が残る。燃焼部付近には炭化物の面的分布が見られる。推定されるカマド中軸線の方位はN83°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 比較的多くの杯(479)・椀(480)等の須恵器片、甕(481)等の土師器と、若干の灰釉陶器片、砥石(482)が出土した。480は中央やや西寄り、481は掘り方から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉以降の所産と推定する。

53住居(第152・282図、PL.65・164)

検出位置 68区A・B19・20グリッドで検出した。4区の南東隅付近に位置する。

重複関係 52住居、299土坑と重複する。53住居→52住居の順に新しいが、299土坑の新旧関係は特定できなかった。尚、54住居が北接するが、重複関係は見られない。

覆土 褐色土や暗褐色土で埋没する。なお、3層(褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。

壁 東部が52住居に壊され、299土坑と重複するため東壁は失われている。残存部分から推してプランは恐らく縦長の隅丸長方形を呈すると判断される。東西は残存長3.68m、南北は3.72mを測る。深さは54cmほどを測る。

床面 凹凸の多い浅い掘り方を有し、これを灰黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。中央やや西寄りの南壁際には、遺物の出土した径70×59cm、深さ34cmを測るピット状の掘り込みが在った。床面は概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは確認できなかったが、残存部東端の中央若干南寄りに炭化物の分布が見られるため、この東側に在った可能性が考えられる。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 黒色土器碗(483・484)、緑軸陶器段皿(487)の他、碗(485・486)等の須恵器と少量の土器器、碗(488)・長頸壺(489)等の灰軸陶器、酸化焰焼成の羽釜(490)が出土した。このうち483は住居中央やや南、486は住居南東部、489は北壁中央壁際、490は住居中南部、485は上述の炭化物分布域、484・488は南壁際のピット状の掘り込みから出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

54住居(第153・154・283図、PL.65・66・164)

検出位置 68区A20・B20、78区A1・B1グリッドで検出した。4区の南東隅近くに位置する。

重複関係 55住居と重複するが本住居の方が新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 平面形状は東側が備かに開く、若干縦長の隅丸台形を呈する。東西は4.49m、南北は3.65mを測る。深さは42cmほどである。

床面 中央に104cm間隔で、幅38cm以下、深さ10cm内外の溝が並列に東西方向に掘削される掘り方を持ち、褐色土等で埋め戻して床面を造っている。床面は概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南東隅部寄りに、壁面を掘り込んで造っている。幅102cm、奥行130cmを測る、手前左側(北西側)が低くなる、凹凸の有る掘り方を有し、これを炭化物、焼土粒、灰を多く含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。燃焼面の上には厚2cm程の灰が乗る。袖は幅38cmの左袖が長さ13cm程残されていたが、右袖は失われていた。燃焼部奥壁部には左側に1個、右側に前後方向に2個の円礫を長軸を上下に据えて、黄褐色系の土壌で固めて壁面を造っている。煙道は燃焼部から37°の角度に上げて造られるが、長さ43cm程残る。カマド中軸線の方位はN71°Wである。

貯蔵穴 北東隅部に確認された、径98×79cm、深さ30cmの土坑にその可能性が考慮される。

遺物 土師器と杯(494・495)・椀(497)・耳皿(496)・転用硯(501)・鉢(498)等比較的多くの須恵器、還元焰焼成(499)と酸化焰焼成(500)の羽釜、そして少量の灰軸陶器と釘(502)が出土した。495は西寄りの北壁際、494は住居中央付近、501は北西寄り、496・497はカマド左側の東壁近く、498はカマド右側の東壁際から、500はカマドと北西寄りから出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と推定する。

55住居(第155・283図、PL.66・164)

検出位置 68区B20、78区B1グリッドで検出した。4区の南東隅から備かに西寄り位置する。

重複関係 54住居と重複するが本住居の方が古い。

覆土 暗褐色土や褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(にぶい褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 平面形状は横長の隅丸長方形を呈する。東西は2.82m、南北は3.28mを測る。深さは51cmほどである。

床面 若干の凹凸のある浅い掘り方を有し、これを明黄褐色土で埋め戻して、概ね平坦な床面を造る。

柱穴 床面に於いて柱穴は検出しなかった。しかし掘り

方面の北西隅に径47×42cm、深さ3cm、南西隅に径57×54cm、深さ8cmのピットが掘削されている。これは柱を据えるために掘削し、掘り方の埋戻しに伴って埋められた、床面には残らない堅穴住居建設当初段階の柱穴の可能性が思慮される。

カマド カマドは東壁の中央やや南寄りに位置する。壁面を掘り込んで、幅63cm、奥行90cm、深さ4cmで隅丸形状プランの掘り方を掘削し、これをにぶい黄褐色土等で埋め戻して幅49cm、奥行73cm、深さ5cm程の楕円形プランの燃焼面が造られる。カマド内に灰や焼土、カマド手前に炭化物の分布が見られる。左袖が幅30cm以下、長さ15cm、高さ7cm程で残るが、右袖と煙道は遺存していない。またカマドとカマド前の左寄りで礫が多く見られる。カマド中軸線の方位はN88°Eである。

貯蔵穴 カマド右側の住居南東隅に確認された。径59×54cm、深さ21cmを測る楕円形プラン、掘鉢状の掘削形態を呈する。

遺物 土師器と黒色土器碗(503・504)・多量の椀(506)・杯(505)・羽釜(507~509)等の須臾器が出土した。このうち北西寄りに礫に囲まれて506、西壁中央壁際から505、カマド左側の東壁寄りに508、カマド前からカマドにかけて507、カマドから509、貯蔵穴から503が出土している。

時代・時期 混入と考えられる出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

56住居(第156・282図、PL.66・67・164)

検出位置 67区S・T19・20グリッドで検出した。4区の南東部、東壁寄りに位置する。

重複関係 34・155住居、36溝と重複するが、155住居・36溝→56住居→34住居の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3・4層(褐色土)は所謂三角堆積と判断される。

壁 北西隅寄りが34住居に壊されているが、残存部から推して、プランは縦長の隅丸正方形を呈するものと想定される。南北は3.21m、東西は3.89mを測る。深さは38cmほどである。

床面 北東隅に径120×11cm、深さ16cmの隅丸形状の掘り込み、南部中央に径120×105cm、深さ36cmを測る共

に隅丸長方形のプランを呈する土坑状の掘り込みが認められ、これを褐色土で埋め戻してほぼ平坦な床面を造り出している。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは住居南東隅部に設けられる。南東隅部を掘り込んだ浅い掘り方を有し、これを住居掘り方で埋め戻したのと同じ褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅81cm、奥行89cm、深さ5cmを測る。左袖はないが、掘り込み部の右側壁面前葉シルト質の暗褐色土で覆われているため、同様の土壌で形成された可能性が考慮される。また右袖は住居南壁を利用していたものと思慮される。煙道は、燃焼面の延長として幅16cm、高さ14cmのトンネル状の掘削によって造られる。トンネルの長さは凡そ64cmを測り、先端には、径20×30cm、深さ19cmの堅坑が穿たれて接続される。カマド中軸線の方位はN64°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 杯(491・492)等の須臾器と小型甕と思われるもの(493)を含む土師器、少量の灰黒陶器片が出土した。このうち491・493はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、491・492と493の時期が異なるが、本住居は前2者に伴うものと判断して、10世紀後葉の所産と推定する。

57住居(第157・284図、PL.67・164)

検出位置 67区R・S20、77区R・S1グリッドで検出した。4区の南部、やや南寄りに位置する。

重複関係 155住居、43溝、451・453土坑と重複するが何れに対しても本住居の方が新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 平面形状は南西部が欠け、廃絶時のカマド(以下「2カマド」とする)の北側に長さ80cm、幅15cmを測る掘り残しを伴う、変形横長の隅丸形状を呈する。南北は4.11m、東西は3.07mを測る。深さは36cmほどである。尚、後述する廃絶時には埋められていた元々のカマド(以下「1カマド」とする)の存在によって、1カマド段階の壁ラインは、廃絶段階のものより東壁が30cm、南壁が42cm以内で狭い、一回り小さな規模であったことが窺われる。また、その形状は1カマドの南壁と東壁のラインから推

して横長の隅丸長方形であった可能性が推定される。その後住居を拡張する段階で、廃絶時のカマドの設置位置を基点とした、南壁が「**く**」の字状に屈曲する、遺構調査段階の住居のプランになったものと思慮される。

床面 掘り方を有し、これをややシルト質の暗褐色土や褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は多少の凹凸は見られるがほぼ平坦であり、暗褐色土(3層土)で部分的に貼床を施していたものと思慮される。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは2箇所確認され、調査の結果双方には新旧の関係があることが判明した。2カマド(住居廃棄時まで使用されていたカマド)は、東壁の南東隅寄りに、1カマドは南東隅部に備えられている。1カマドは燃焼部奥壁側から煙道部分が残存し、燃焼部の焚口側及び焚口部が失われている。2カマドの付け替えにより、住居の東壁が東側に拡張されたことが窺える。このことから2カマドは、東壁拡張後に付設されたことが判明した。

2カマドは拡張した東壁南端に設置されている。カマド手前に径70×46cm、深さ13cm、これの東側に連続して、住居東壁を掘り込んで掘られる径57×75cm以上、深さ7cmを測る、共に楕円形プランの掘り込みを伴う掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。燃焼面南部からカマド手前にかけて深さ7cm以下の掘り込みが在り、燃焼部からカマド手前にかけて炭化物の平面的分布が見られる。袖は左が幅24cm、奥行7cm、右は幅15cm、奥行9cm程の掘り残しが確認された。また断面観察によって左袖はシルト質の黒褐色土で作られた可能性があり、右袖は1カマドを埋め戻したシルト質の褐色土の南壁面を使っている。燃焼部奥の左右には円礫が据えられ、その上に天井石が横位に設置され、その奥にもう一石が据えられて煙道部との境としている。煙道は幅18cm、長さ29cmが残り、その底面はすり上がっている。新カマド中軸線の方位はN84°Wである。

1カマドは2カマド構築時に埋め戻され、袖等は東壁の拡張により失われている。掘り方は浅く、これをシルト質の褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。煙道は幅9cm、高さ10cmを測るトンネル状で、長さ21cm程が残る。煙道の先端は幅32cm、奥行48cmを測る土坑状の掘り込みで、確認面からの深さは24cmを測る。1カマド中軸

線の方位は凡そN89°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 出土遺物はさして多くなかったが、土師器や椀(510)・椀(511~513)等の須恵器、皿(514)等と少量の灰軸陶器、有孔円板かと思われる土製品(515)、鉄製刀子(516)が出土した。このうち514・516は住居中央から、511は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉の所産の可能性もあるが、510と155住居との重複関係から10世紀後葉の所産と推定する。

58住居(第158・159・284図、PL.68・164)

検出位置 77区R・S2・3グリッドで検出した。4区の東部の中程に位置する。

重複関係 59・68住居、43溝、426土坑と重複するが、68住居→59住居→58住居、43溝→58住居の順に新しい。

覆土 褐色土、暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(黒褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 平面形状は北東・北西・南西が隅丸の方形を呈する。東西は4.05m、南北は4.16mを測る。深さは59cmほどである。

床面 西壁際の中程から北部にかけて幅89cm以下、深さ16cm以下の溝状の、また南西隅部に径92×83cm、深さ50cmの摺鉢状の掘削を伴い、東壁際もやや低くなる、凹凸のある浅い掘り方を有し、これを暗褐色土やにぶい褐色土で埋め戻して床面を造る。床面は概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁の南端に位置し、壁面を掘り込んで造る。浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して燃焼面を作っている。燃焼部は幅50cm程、奥行55cm程の範囲と見られる。左袖は東壁際に僅かにその痕跡が残されるが、右袖は住居南東隅部に幅45cm、奥行43cm、高さ20cm程で残っている。煙道は幅9cm以下、高さ14cmのトンネル状に掘削され、煙道底面の前後の比高差は7cmを測る。長さはトンネル部分が37cm、全長117cmを測る。煙道部の先端は情報に向かって、径27×38cmの前後に長い楕円形プランのピットとして掘削される。煙道先端部の底面と確認面との比高差は凡そ30cm程である。カマド中軸線の方位はN89°Wである。

貯蔵穴 南西隅部の土坑がこれに該当する可能性がある。

遺物 杯(517)等の須恵器、甕(518)等の土師器、及び僅かに埴輪片、灰釉陶器1片が出土した。このうち517は南壁中央壁際から、518は中央部南寄りから出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀初頭の所産と推定する。

59住居(第160～162・284図、PL.68・164)

検出位置 77区R・S2グリッドで検出した。4区の東部の中程に位置する。

重複関係 58・68住居、43溝と重複するが、68住居→59住居→58住居、43溝→59住居の順に新しい。

覆土 灰黄褐色土、暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北壁は58住居に壊されている。平面形状は隅丸方形状を呈する。東西は2.85m、南北は残存長2.25mを測る。深さは45cmほどである。

床面 褐色土、暗褐色土等で埋め戻して、南西側が若干低くなる平坦な床面を造る。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁の中央寄りと推定される位置に在る。壁面を掘り込んで、幅49cm、奥行54cm程の楕円形プランの浅い掘り方を有し、これをにぶい褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。袖は失われていたが、燃焼部奥壁の両側に礎が据えられている。煙道は幅29cm、長さ67cmを測るものが残り、煙道の底面は燃焼面より13cm程高い。煙道は奥に向けて僅かに持ちあがり、奥壁は確認面はより11cmの高さを測る。カマド中軸線の方位はN75°Eである。

貯蔵穴 貯蔵穴はカマド右側の住居南東隅寄りに位置する。径56×43cm、深さ15cmを測り、楕円形に近い隅丸方形プランを呈している。

遺物 杯(519～521)・羽釜(523)等の須恵器、土師器が一定量出土した他、灰釉陶器段皿(522)、或いは羽口(524・525)が出土した。これらのうち住居南東の貯蔵穴と南壁の間から519～521、東壁の間から523から出土し、522がカマドから出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

60住居(第165・285図、PL.68・69・165)

検出位置 77区S8グリッドで検出した。4区の中北部北東寄りに位置している。

重複関係 44溝、427土坑と重複するが、427土坑→60住居の順に新しい。尚、44溝は本住居に先行して掘削されているが、本住居の方が新しいと解釈される。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、2層(暗褐色土)と3層土(褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 北東隅部が調査区外に延びている。西壁は内側にまがり東側が広がる、横長の隅丸台形プランを呈する。東西は2.63m、南北は3.86mを測る。深さは45cm程を測る。

床面 西壁際と南東隅部が僅かに低くなり、住居北半の東壁と北壁沿いにピットが掘削される浅い掘り方を有し、これをシルト質の暗褐色土で埋め戻して平坦な床面を造る。

柱穴 北壁近くの西寄りにP3:40×36cm、深さ10cm、東壁の北寄りにP2:36×37以上cm、深さ17cm、中央やや北寄りにP1:39×33cm、深さ8cm、また南東隅部に径42×50cm程、深さ7cmの楕円形プランの掘り込みが有って、これらに本住居建設時の壁柱穴の可能性が考慮される。

カマド カマドは東壁南寄りに位置し、壁面を掘り込んで掘り方を造る。掘り方の奥壁、煙道に当たる部分の左右両側に、それぞれ径12×22cm、18×23cmを測る楕円形プランのピットが燃焼面の高さまで掘り込まれて、円礫を表裏面を燃焼面側に見せて立位で据えている。また焚口部では、左右焚口部先端の補強の礫を据えていた痕跡がピットとして残存している。右側に16×23cmの一箇所、左側に縦列に径18×20cm、15×16cmの2箇所掘削されている。調査時点では確認できなかったが、これらのピットにはそれぞれ袖石が据えられていたものと思慮される。このような掘り方をシルト質の暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造り出している。奥壁寄りは橙色シルト質土で燃焼面より8cm程高く埋め戻した、燃焼面のラインに続く煙道が長さ19cm程残る。奥壁の煙道底面と遺構確認面等の比高差は10cmを測る。カマド中軸線の方位はN89°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 住居南西寄りを中心に、須恵器片を中心に比較的多くの遺物が出土したが、この中には黒色土器椀(531)、杯(532～534)、椀(535・537～544)・皿(536)、灰釉陶器椀(545)、土師器甕(546)、酸化焰焼成の羽釜(547～550)、石製紡錘車(551)の出土があった。このうち531・532・537・543・546～549が住居南西部の遺物集中域から出土し、538・551は西壁際の中央やや北寄りから、535・539・540・542・550は南壁寄りの中央付近から、541は住居北東部、536は北壁際西寄り、545はカマド焚口付近から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と推定する。

61住居(第166・286図、PL.69・164)

検出位置 77区T9・10グリッドで検出した。4区の中部の調査区北壁に位置する。

重複関係 単独で在り、他遺構との重複はない。

覆土 褐色土で埋没し、堆積状態から自然埋没と推定する。なお、2層(褐色土)は所謂三角堆積、及び土葺き材の可能性が考慮される。

壁 南東隅部から北西隅部の北側が調査区外に延びている。平面形状は概ね隅丸方形を呈すると考えられる。東西は3.35m、南北は3.69mを測る。深さは48cmほどである。

家屋 本住居は炭化物が分布する所謂焼失家屋である。炭化物は西壁沿いの中・北部と南西側に直線的な遺存でみられる。これらは主に垂木或いは椽と判断されるものである。木材はクスギ節等であった。

床面 浅い掘り方を有し、南壁際東半部に幅188×150cm、深さ10cm程の崩れた隅丸方形プラン、南西隅に径111×89cm、深さ40cmの不整形プランを呈する掘り込みを伴う掘り方を有し、これをにぶい褐色土や褐色土で埋め戻して床面を造る。床面はやや凹凸が見られる。

柱穴 検出しなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 南西隅に見られた楕円形の土坑がその可能性を有する。

遺物 黒色土器椀(552)、杯(553～556)等の須恵器と土師器甕(557)が出土した。このうち554・555は南壁中央付近に沿って、556はやや北寄りの西壁際から出土して

いる。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

その他 本住居出土の炭化材の遺存状態から推して、着火地点は南西隅部付近であり、焼失時の風向きは西南西であったと想定される。

62住居(第168・287図、PL.70・165)

検出位置 77区P・Q4グリッドで検出した。4区の北東部に位置する。

重複関係 50住居と重複するが、本住居の方が古い。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(暗褐色土)、4層(褐色土)、5層(褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 西壁が50住居に壊されているので、全容は詳らかにできないが、やや東側が開く縦長の隅丸方形プランを呈すると推定される。プランは縦長の若干隅丸の長方形を呈する。東西は残存3.20m、南北は3.09mを測る。深さは40cmほどを測る。

床面 径30cm前後、深さ20cm程の楕円形プランの掘り込みを伴う浅い掘り方を有し、これを褐色のシルト質土で埋め戻して平坦な床面を造る。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南寄りに設けられる。カマド右側の住居壁際に径22×29cm、深さ7cmの縦長楕円形プランのピットが掘削される。また右袖は下半にぶい褐色のシルト質土、上半にシルト質の褐色土を覆って造られている。また燃焼部から手前にかけて灰の平面的分布が見られ、奥壁には焼土化が見られる。煙道は確認されない。カマド中軸線の方位はN88°Eである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 少量の土師器や杯(569)・椀(570～573)・羽釜(574・575)等の須恵器が出土し、569・572は南壁前中央付近から、573はカマド左側の東壁寄りから、570・571・574・575はカマドから出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

63住居(第169・286図、PL.70・165)

検出位置 78区A8・9、B9グリッドで検出した。4

区の中北部やや北寄りに位置する。

重複関係 28溝、1面82・86土坑と重複する。このうち28溝に対しては本住居の方が古い。

覆土 灰褐色土、褐色土、暗褐色土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、6層(黄褐色土)は所謂三角堆積であり、5層土(黒褐色土)は土葺き材の可能性も考慮される。

壁 平面形状は東側が開く、縦長の隅丸逆台形を呈する。東西は4.69m、南北は4.01mを測る。深さ63cmほどを測る。

床面 土坑状の掘り込みで浅い掘り方を有する。床面を形成する土壌は記録に不備があって不詳。床面は多少の凹凸はあるが、概ね平らである。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁中央やや北寄りに位置する。壁面を掘り込んで幅89cm、奥行133cm、深さ9cmの不整形な縦長楕円形プランの掘り方を掘削し、褐色のシルト質土で燃焼面を造っている。燃焼部の両側に、幅9～14cm、奥行17～21cmの小孔を燃焼面と同程度の深さまで掘削し、円礫を立てて据えている。またカマド内に礫が転落している。煙道は28溝に壊されていて明瞭ではないが、幅15cm、長さ6cm程に範囲で、その残欠が残されている。カマド中軸線の方はN92°Eである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 黒色土器碗(558)、皿(559)・杯(560・561)・碗(562・563)・羽釜(565・566)等比較的量の多い須恵器と酸化焙焼成の羽釜(564)等若干の土師器、灰釉陶器片が出土した。このうち560は掘り方、564・565・567はカマド、561・568はカマド周辺、566・567はカマド右側の東壁際から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と推定する。

64住居(第167・287図、PL.71・166)

検出位置 68区A19グリッドで検出した。4区東南隅に位置する。

重複関係 52住居と重複するが、本住居の方が古い。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(黒褐色土)は後述する周溝の覆土である。

壁 本住居はその殆どが調査区南側に延びる。また東側は52住居に壊されているため、北西隅部を調査できたに過ぎなかった。従って全容は不明である。残存範囲は東西2.10m、南北は1.62mであり、深さは38cmである。

床面 浅い掘り方を有し、これを黄褐色土で埋め戻して平坦な床面を造る。また調査時点では掘り方に於いて確認したが、西壁に沿って幅19cm、深さ9cmの周溝の掘削が確認された。

柱穴 検出しなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 少量の土師器、杯(576)・碗(577)等の須恵器、灰釉陶器、埴輪片が出土した。このうち577は調査区南壁に沿って出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と推定する。

65住居(第170・287図、PL.71・166)

検出位置 67区O・P20及び77区O・P1グリッドで検出した。4区の東端部の中程に位置する。

重複関係 33・48住居と重複するが、何れに対しても本住居の方が古い。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南壁と中南部を除く西壁が重複により失われており、全容は詳らかでない。確認範囲に照らして、平面形状は概ね縦長の隅丸台形を呈すると見られる。東西は2.31m、南北は残存長3.30mを測る。深さは23cmほどを測った。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻してほぼ平坦な床面を造る。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁に設けられ、その位置は南に寄っていると推定される。壁面を掘り込んで造り、焚口部と考えられる部分には径37×30cm、深さ38cmを測る横長隅丸長方形プランの土坑を掘削する掘り方を有し、これを暗褐色土で埋め戻して、燃焼面を造っている。また右袖も同質の土壌で造られたと見られる。またカマド前から南にかけて、炭化物の平面的分布が見られる。煙道は確認できなかったが、カマド先端に僅かにその痕跡が見ら

れる。カマド中軸線の方位はN64°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 椀(578・579)・羽釜(582)などの須恵器を中心に甕(580・581)等の土師器、不明鉄製品(583)の出土も見られた。これらはカマド前の左(北)側と特に右側に礫を含む遺物の集中的な出土状態が見られたが、カマド及びカマド右側手前から580・581、特に遺物集中的なカマド右側手前から578・579・582が出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉の所産と推定する。

66住居(第171・288図、PL.71・72・166)

検出位置 77区P1・2グリッドで検出した。4区の中央やや北寄りに位置する。

重複関係 33住居と重複するが本住居の方が新しい。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、2層(褐色土)は所謂三角堆積であり、3層土(暗褐色土)は土葺き材の可能性が考慮される。

壁 平面形状は縦長の若干隅丸の長方形を呈する。東西は4.19m、南北は3.71mを測る。深さは63cmほどである。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南寄りに位置し、壁面を掘り込んで造っている。暗褐色土で焼面や奥側の壁面を造る。焼面は屋外にあり、焚口側炭化物が平面的に分布する。幅30cmの煙道が長さ28cm程残り、奥壁は残存高さ10cmに立ち上がる。カマド中軸線の方位はN80°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 カマド前を中心に、杯(584)・椀(585・586)を含む須恵器、甕(587・588)を含む土師器が出土した。このうち584～587はカマド前から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、9世紀第4四半期の所産と推定する。

67住居(第172・288図、PL.72・166)

検出位置 77区O・P1・2グリッドで検出した。4区東端部の中程に位置する。

重複関係 66住居と重複するが本住居の方が新しい。

覆土 暗褐色土、黒褐色土で埋没する。堆積状態から自

然埋没と推定する。

壁 平面形状は、南西隅部は直角に近いが、全体としては横長の隅丸の長方形を呈する。東西は3.06m、南北は3.69mを測る。深さは27cmほどを測る。

床面 浅い掘り方を有し、これをややシルト質の褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南寄りに設けられ、壁面を掘り込み屋外側に焼面及び煙道部を設けている。幅26cm、奥行82cm、深さ11cmを測る不整系な楕円形プランを呈し、シルト質の暗褐色土等でこれを埋め戻して焼面を造っている。右袖は暗褐色土で造られ煙道は幅17cm以下の先細り、長さは凡そ60cm程を測る。また焼面部の左寄りに炭化物の分布域が見られた。尚、右側の使用面と掘り方の形態に齟齬があるので、造り替えの可能性が思慮される。カマド中軸線の方位はN85°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 黒色土器椀(589)や杯(590)・椀(591・592)等の須恵器と少量の土師器片、及び灰陶器の皿(593)・椀(594)が出土した。589はカマド手前左側の南壁寄りから、593は北壁際中央から、590はその南東から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

68住居(第160・161・164・284図、PL.72・73)

検出位置 77区R・S1・2グリッドで検出した。4区東部やや南寄りに位置する。

重複関係 58・59・69・70住居と重複する。69住居→68住居→59住居→58住居、70住居→68住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、3層(黒褐色土)は所謂三角堆積である。

壁 北壁の過半から東壁の北部が、重複により壊されているため全容は詳らかでないが、残存部分から推して、東壁の北側が開く横長の隅丸台形状のプランを呈すると思慮されるが、重複関係が著しいので詳細は不明な点が多い。東西は4.75m、南北は4.65m、深さは27cmほどを測る。

床面 凹凸があり、浅い掘り方を有し、これをシルト質の暗褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は多少の凹凸は見られるが、概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは南東隅部の2カマドとその北側に在る1カマドの2基が並列に残る。

1カマドは最大幅71cm、奥行102cm、深さ10cmを測る弧形状の掘り込みを伴う掘り方を、褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部は壁面ラインを挟んで構築されている。袖はシルト質の褐色土や暗褐色土で造られ、左袖は幅40cm、長さ14cmが残り、右袖は幅22cmを測る。煙道は確認されない。カマド中軸線の方位はN64°Wである。

2カマドは掘り方をシルト質の褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は壁面ラインを挟んで構築されている。左袖は1カマドの右袖と共用である。煙道は幅14cmのトンネルで掘削され、長さ10cm程が残り、幅21cm、奥行44cmの楕円形プランの竪穴に通じる。竪穴の深さは25cmを測る。カマド中軸線の方位はN52°Wである。

貯蔵穴 南東隅に在る、97×103cm、深さ18cmの楕円形プランの土坑にその可能性が考えられる。

遺物 少量の甕(526～528)等の土師器と須恵器が出土したが、526・527はカマド、528は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉の所産と推定する。

69住居(第160・161・163・284図、PL.73)

検出位置 77区S1グリッドで検出した。4区の東部やや南寄りに位置する。

重複関係 68住居、425土坑と重複するが、何れに対しても本住居の方が古い。

覆土 褐色土、暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北壁が68住居に壊されているので全容は詳らかでないが、隅丸方形のプランを呈すると想定される。東西は2.05m、南北は残存長1.62mを測り、深さは27cmほどを測る。

床面 掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋戻し、中央寄りにはシルト質の褐色土を乗せて、その上面を固く締めて貼床構造としている。床面は平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁の南寄りに設置されている。焚口基部を住居の壁部分に採り、燃焼部と煙道は屋外側に設

けている。事前に径82×70cm、深さ11cmの隅丸長方形プランの、そしてこれに東接して壁面掘り込み部分の中央に径22×20cm、深さ9cmを測る2つの掘り込みを伴う掘り方を、シルト質の褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。また左袖もシルト質の褐色土で構築されている。煙道は確認されなかった。カマド中軸線の方位はN89°Eである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 少量の土師器と杯(529)等の須恵器が出土したが、529は掘り方からの出土である。

時代・時期 本住居の時期は判然としないが、出土遺物の特徴から10世紀後葉以降の所産かと思慮される。

70住居(第160・161・284図、PL.73)

検出位置 79区A7・B7グリッドで検出した。4区の中央やや北寄りに位置する。

重複関係 39住居と重複するが本住居の方が新しい。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 平面形状は縦長の若干隅丸の長方形を呈する。東西は4.19m、南北は3.71mを測る。深さは63cmほどである。

床面 浅い掘り方を有し、これをシルト質の褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出しなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 甕(530)等の土師器が出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

71住居(第173・288図、PL.74・75・166)

検出位置 78区G7・8グリッドで検出した。4区南西部北東寄りに位置する。

重複関係 77住居と重複するが本住居の方が古い。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。なお、2層(黄褐色土)は所謂三角堆積であり、3層土(褐色土)は土葺き材の可能性を残す。

壁 北壁及び東西壁の北部は77住居に切られているため全容は詳らかでない。残存部から推して、平面形状は恐らく縦長の隅丸長方形を呈するものと判断される。また

東壁北側は床面から上位に、14cmの高さで棚状の平坦な部分がある。長さ81cm・最大幅25cm程で認められる。同様に南西隅寄りの南壁には、床面から上位に8cm程の高さで、長さ76cm・最大幅35cm程の三日月状を呈する棚状に掘り残されている。後者の棚状の部分の左右には小円礫を据えている。この状態から当該住居の出入口施設と考えられるが、平坦面には硬化面の遺存は認められなかった。東西は3.39m、南北の残存長は2.70mを測る。深さは25cm程である。

床面 掘り方には、不整形を呈する浅い土坑状の掘り込みが認められ、これを明黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は多少の凹凸は見られるが、概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド カマドは東壁南寄りに設置され、燃焼部は僅かに壁面を掘り込んで設けられている。掘り方は浅く、これを黒褐色土や黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部には左右共に大型の円礫が据えられている。煙道は幅27cm以下、長さ42cmを測り、燃焼面との比高差は24cm、確認面との比高差は9cmを測る。尚、カマド前には炭化物の平面的分布が見られ、また焚口部には構造材の円礫が崩落した大型のものを中心に8個の円礫が出土している。カマド中軸線の方位はN89°Wである。

貯蔵穴 カマド右側に在る隅丸方形プランの土坑(径44×36cm、深さ16cm)と住居南西隅部に在る楕円形プランの土坑(径69×66cm、深さ36cm)が該当すると思慮される。

遺物 椀(595～597)・壺(599)・鉢(600)等を含む須恵器、椀(598)等を含む少量の灰陶陶器、甕(601)・羽釜(602)・甕(603)等を含む土師器が出土した。このうち599は東壁の棚状の掘り残しの付近から、597・598・600・601・603はカマド前、602カマド煙道及びカマド前からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

72住居(第174・289図、PL.76・167)

検出位置 78区K12・13グリッドで検出した。4区西端部の調査区南端に位置する。

重複関係 27溝、396土坑と重複するが、27溝→72住居→396土坑の順に新しい。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、2層土は上位層と同じ土壌であるが、炭化物の混入が多く、土葺き材の可能性を有する。

壁 住居の過半が調査区外に出て、396土坑に切られるため、壁面は南北壁の東部と東壁のみを確認したに過ぎない。南北は3.25m、東西は残存長で1.26mを測り、深さは25cm程である。

床面 複雑な凹凸が見られる掘り方を有する。これを埋め戻して、概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 検出されなかった。

カマド 東壁の南寄りに設けられる。屋外に土坑状の掘り方を有し、燃焼部側の壁は扁平な円礫を横架して支脚となる円礫を立てている。このような掘り方を褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼面には薄く灰の堆積が見られた。また、右袖は失われていたが、左袖は幅20数cm、長さ31cm程の掘り残しの残欠が見られる。また燃焼部奥側部の天井石としている。煙道は幅32cm以下、長さ24cmを測り、燃焼面からすり上がっている。カマド中軸線の方位はN89°Wである。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 杯(604・605)、椀(606)等多くの須恵器と、甕(607)等少量の土師器が出土した。604は東壁沿いから、607はカマド及び東壁沿いから、605・606はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀初頭と推定する。

73住居(第175・176・290図、PL.76・167)

検出位置 78区H・I9・10グリッドで検出した。4区南西部のやや西寄りに位置する。

重複関係 76・80・81住居、1面141・151土坑と重複し、76・80・81住居・141土坑→73住居→151土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また、3層(にぶい黄褐色土)・4層(黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 本住居は当初使用面の遺構と、拡張された後の遺構との二者がある。

当初住居の平面形状は横長の隅丸長方形であり、南北は3.99m、東西は3.36mを測るものであった。

一方拡張後の住居は、南西隅付近が81住居との重複の

ため確認できなかったが、残存範囲から推して、平面形状は縦長の隅丸長方形であり、東西4.92m、南北4.57mを測るものであった。

床面 拡張前の住居は、浅い土坑状の掘り込みを有している。これを暗褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は平坦でやや硬化が見られた。

拡張後の住居は、拡張前の住居の範囲では暗褐色土を4～6cm厚で埋めて固く締め、それ以外は掘り方を持たない所謂地床として、概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 拡張前後の住居は共に柱穴は検出されなかった。

カマド カマドは拡張前後で同じ位置に造られ、共に東壁南部に設けられている。

拡張前のカマドは屋外に深く突出する。幅52cm、奥行60cm、深さ4cmの縦長の楕円形プランの浅い掘り方を有し、これを焼土粒や炭化物を多く含む褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部中央には羽口(631)が立位に据えられて支脚として使用されている。袖は左右共に円礫を据え、奥側は二段に円礫を積み、これを袖材とし、袖石の背面または上面に黄褐色洪水層土ブロックを多く含む黒褐色土で覆い袖を構築している。燃焼面は焼土化が見られ、カマド手前には炭化物の平面的分布が見られる。煙道は階段状に二段で構成され、手前側の幅は19cm、長さ13cm、奥側は幅10cm、長さ7cm、全長22cmを測る。燃焼面と煙道手前側との比高差は33cm、手前側と奥側の比高差は13cm、奥側と確認面の比高差は4cmを測る。拡張前のカマドの中軸線の方位はN82°Wである。

拡張後のカマドは拡張前のカマドを利用している。前側の礫は現れているが、奥側の礫は埋もれていて見えない。また燃焼部には拡張前のカマドの支脚として使用された羽口(631)が見られるが、その出土位置は拡張後のカマドでは奥に寄っているため、支脚として使用されなかったものと思慮される。煙道は一段で、燃焼部との比高差は28cm、確認面との比高差は20cmを測る。拡張後のカマド中軸線の方位はN83°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 黒色土器(622・623)、杯(624・625)・椀(626)等多くの須恵器と、土師器(627)や酸化焰焼成と見られる羽釜(628)、少量の灰軸陶器、不明鉄製品(629・630)、羽口(631・632)が出土した。このうち拡張前の住居に伴う遺物では、629が住居中央部から、631がカマド

の燃焼部中央から出土している。また拡張後の住居からは、623が住居中央東寄りから、625が住居北東部から、624がカマド手前の南壁沿い、626がカマド手前から出土し、627・628がカマドからの出土遺物である。尚、本遺跡から出土の破片から成る緑軸陶器(734)は87住居に報告する。また住居南西部からクスギ節の炭化物が出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

74住居(第177・290図、PL.76・167)

検出位置 78区1・J10・11グリッドで検出した。4区南西部に在り、72・75住居を除く、南西部の住居集中域中では最西端に位置する住居である。

重複関係 76住居、47溝と重複するが、74住居→76住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土、にぶい黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また、3層(明黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 南東隅部周辺が76住居に切られているので全容は詳らかでないが、残存部から推して、平面形状は横長の隅丸長方形を呈するものと想定される。南北は4.68m、東西は3.64mを測る。深さは45cmほどである。

床面 凡そ外周部が10数～80cm程の幅でテラス状にこれを暗褐色土やにぶい黄褐色土で埋め戻して、南部が僅かに下がるものの、全体としては平坦な床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南寄りに設けられる。窪み上の燃焼面と、左袖に伴うと見られる礫が確認されるものの、過半が76住居に壊されていて構造等を詳らかにすることはできなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 杯(633)・椀(634・635)等の須恵器と、緑軸陶器(636)、灰軸陶器(637)が出土した。このうち633は北寄りの東壁際、634はカマド前付近から、635は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。尚、76住居との時間差は僅かである。

75住居(第178・289図、PL.77・167)

検出位置 78区1・J13・14グリッドで検出した。4区西端部に位置する住居である。

重複関係 383(製鉄関連遺構)・385土坑と重複するが、何れにも本住居が古い。

覆土 黄灰色土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、4層(黄灰色土)は所謂三角堆積層である。

壁 北壁の殆どが調査区外に延びており、西壁の北部が385土坑に切られているので、全容は詳らかでないが、残存部から推して、平面形状は横長の隅丸方形プランを呈するものと推定され、南壁の中・東部では幅34cm以下のテラス状の張り出し部を伴う。床面とテラスの比高差は23cmである。南北の残存長は3.70m、東西は3.19mを測る。深さは37cmである。

床面 南西隅部から西壁前を中心に土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを黄灰色土や暗褐色土で埋め戻して、やや南東部が僅かに下がる、概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南寄り、上述のテラスを除く南端近くに設けられる。屋外に掘削される掘り方を有し、これを黄灰色土で埋め戻して燃焼面を造っている。掘り方突出部左側にはビット状の小さい掘り込みが見られる。袖は残されていないが、右袖はテラス部分を利用している。燃焼部から右側カマド前にかけて炭化物の分布が見られた。煙道は確認できなかった。カマド中軸線の方位はN89°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 杯(608~614)・椀(615~617)等の須恵器と、甕(619)等の土師器、灰釉陶器甕(618)、酸化焰焼成(620)と還元焰焼成(621)の羽釜が出土した。このうち613は住居南西隅部から、611は北東部から、608・609・616は西部中程から、610・618は住居中南部から、615はテラスから、612・619・620・621はカマド前の炭化物分布域から、614は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、620・621は10世紀前葉かと思われるが、全体として10世紀後葉と推定する。

76住居(第179・290図、PL.77・167)

検出位置 78区1・J9・10グリッドで検出した。4区南西部に位置する。

重複関係 28・73・74・80・81・82住居と165土坑と重複するが、81住居→74・80住居→76住居→28・73・82住居の順に新しい。

覆土 黄褐色土、暗褐色土、明黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、3層(明黄褐色土)の壁際は所謂三角堆積層でもあり、住居中央部に於いては土葺材の可能性も残る土層である。

壁 北東隅部と南東部が重複により削られていて全容は詳らかでないが、残存部から推して、平面形状は横長の隅丸方形プランを呈するものと想定される。南北は5.06m、東西は3.32m、深さは51cm程を測る。

床面 凹凸の多く見られる掘り方を有し、これを黒褐色土で埋め戻して、北東部下から南西部にかけてやや傾斜する床面を造る。

柱穴 検出できなかった。

カマド 東壁の南部に設けられているが、73住居に壊された範囲に在るため、細かい構造等は確認できなかった。

貯蔵穴 南西隅部に在る径84×67cm、深さ63cmを測る隅丸長方形プランの土坑に、その可能性が考慮される。

遺物 黒色土器杯(638)、杯(639・640)等の須恵器と、緑釉陶器の段皿(641)・椀(642)、灰釉陶器椀(643)、還元焰焼成の羽釜(644)が出土した。このうち640は住居北東部から、644は北西部から、639は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。尚、74住居との時間差は僅かである。

77住居(第180~182・291図、PL.74・75・168)

検出位置 78区F・G8・9グリッドで検出した。4区南西部の中程北寄りに位置する。

重複関係 71・78・79住居、1面151土坑と重複するが、71・151土坑→77住居、79住居→78住居→77住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、6層(黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 78住居と一括掘削したため西壁北部と北壁西部が確

第4章 検出された遺構と遺物

認できなかったため全容は詳らかにできなかったが、平面形状は、北東・南東の角が隅丸な縦長長方形を呈するものである。東西は5.49m、南北は4.31m、深さは49cm程を測る。

床面 土坑状の掘り込みの見られる掘り方を、暗褐色土、明黄褐色土で埋め戻して、やや南側が下がる床面を造る。焼土化した面が3箇所確認される。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは新旧2箇所に設置されている。当初段階のカマド(以下「1カマド」とする)が南東隅部に設けられ、東壁の南寄りに廃絶段階のカマド(以下「2カマド」とする)が設けられる。

1カマドは南東隅の屋外に浅い掘り方を掘削し、これを黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は深さ4cmの丸底状となっており、奥壁に向かって7cm程上がっている。袖は2カマド構築時に壊されて確認できなかった。燃焼部と煙道の間に円礫が残り、煙道は幅19cm、長さ72cmを測り、先端は径25cm程の柱状の掘り込みとなっている。底面は2段になっており、奥側が3cm程低く、燃焼部側は長さ31cm、奥側は長さ27cmを測る。また、燃焼面と煙道底面との比高差は18cm、また奥側の深さは15cmを測る。1カマド中軸線の方位はN31°Wである。

2カマドは東壁を掘り込む浅い掘り方を有し、これを黄褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅50cm、奥行は65cm程を測る。燃焼部からカマド右手前側にかけて炭化物の面的分布が見られた。袖は地山の削り出しで左袖は幅40cm以下、長さ45cm、右袖は幅55cm以下、長さ63cmを測る。煙道は幅30cm、長さ94cmを測り、煙道底面と燃焼面との比高差は14cm、遺構確認面との比高差は13cmを測る。2カマド中軸線の方位はN61°Wである。

貯蔵穴 確認されなかった。

遺物 出土遺物の量は多くなかったが、土師器片の他、黒色土器椀(645)、杯(646・647)・壺かと思われるもの(649)等の須恵器、灰釉陶器壺(648)、円筒埴輪と思われる埴輪片(651)、砥石(652)、敲石(653)、羽巾(654)が出土した。このうち648は住居中央西寄りから、652・653は2カマド前から、650は1カマド前南壁沿いから、647は1カマドから、646は掘り方の土坑2から、649は南壁

中央壁際から、651は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

78住居(第183・184・291図、PL.74・75・168)

検出位置 78区G・H8・9グリッドで検出した。4区南西部の中程北寄りに位置する。

重複関係 77・79住居と重複するが、79住居→78住居→77住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土、黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、3層(褐色土)は所謂三角堆積層である。また、床上の6～8層土は炭化物を主体にした層である。

壁 77・79住居と一括で掘削したため、西壁中南部、南壁、東壁の南半分は他の区画に比べて30cm程削られた状態にあったため、全容を把握したものではない。平面形状は横長の隅丸長方形を呈する。また、東壁の中央部では床面40cm幅上位に、幅16cm・長さ93cmの範囲でテラス状の掘り残しが見られた。南半部では削られていたため、全長は不明であった。南北は4.51m、東西は3.49m、深さは61cm程を測った。

建物 本住居では、住居全体に炭化材や酸化物が出土している。炭化材は芯持丸木材が多いが、半裁材やミカン割材等もあり、樹種はコナラ節やクスギ節が殆どで、ヤナギ属やイネ、ムギ、ススキ等のイネ科を丸木状に束ねたらしいもの(北西部西壁手前の南北方向のもの)も見られた。また、これらの材のうち、西側に見られる交差するものは垂木と椽である。その他の材の多くも垂れ木材と考えられるが、北西側に北西方向から南東方向に斜めに残る炭化材は、クスギ節の削り出し材の可能性を持つものである。これは椽に伴う垂れ木材の可能性があり、その想定が正しければ、その東端に残る南北方向の炭化材は椽材の可能性が考慮される。また南部の炭化物の無い空白部分の北側に東西方向に残る炭化材は梁材の可能性が考慮される。材として確認されなかった炭化物は葺き材と思慮される。尚、こうした炭化物を含む6～8層土の層厚は6cm以下であるが、木質の葺き材が確認されることは稀である。

床面 南半部を中心に若干の掘り込みの見られる極浅い掘り方を、明黄褐色土で埋め戻して、南に傾斜する床面

を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南東隅寄りに設けられる。燃焼部及び煙道は屋外に径46×19cm、深さ5cm程掘り込み、屋内外に径119×103cm、深さ5cmの浅い掘り込みを有する掘り方を呈する。これを暗褐色土と焼土で埋め戻して燃焼面を造っている。袖や煙道は残されていない。尚、燃焼部からカマド手前に若干の炭化物の平面的分布が見られる。カマド中軸線の方位はN87°Wである。

貯蔵穴 住居南西隅に、壁面に接して備えている。径79×77cm、深さ52cmを測り、掘削形態は掘鉢状を呈している。

遺物 出土遺物は黒色土器椀(655)・杯(656)・碗(567・658・661)等比較的多くの須恵器と少量の椀(659・660)灰釉陶器と埴輪片、土師器甕(662)、砥石(663・664)であった。このうち657は住居中央部から、西壁際の中央から663、南寄りから658が出土し、661は南西隅部から、662は南東隅近くから、659・660はカマド前から、655は掘り方南部の大型土坑からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

焼失家屋 本住居はカマドが完全に破却されていることに鑑みれば、焼失は失火によるものではなく、人為的な行為として捉えられるものである。従って家屋の焼却によることを示唆していると判断される。一方、炭化材の遺存状態から推して、着火点はカマド付近であり、東風であったと思われる。

また掘り方面で確認されたカマド西側の土坑(径108×87cm、深さ26cm)は、カマド構築時に使用された可能性が考慮されるが、炭化物が多く入ることから住居の焼却処分に伴うものである可能性が考慮され、この場合は、本住居では廃棄分解を含め2回以上の焼却処分が行われたことを示すものである。

79住居(第186・292図、PL.76・168)

検出位置 78区G・H 8・9グリッドで検出した。4区南西部の中段北寄りに位置する。

重複関係 77・78住居、399土坑と重複するが、79住居→78住居→77住居、79住居→399土坑の順に新しい。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 78住居等に壊されていたため、東壁と南北壁の東部が失われていて確認できなかった。残存範囲の平面形状は北壁の東側に南に若干下がる隅丸方形を呈している。南北は4.01m、東西は残存長4.46m、深さは48cm程を測る。

床面 凹凸の見られる掘り方を有し、これを明黄褐色土で埋め戻して、比較的平坦な床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 貯蔵穴は住居南西隅に、壁面に接して造られている。径100×98cm、深さ17cmを測り、筒形の掘削形態を呈する。

遺物 出土遺物は黒色土器椀(665)、杯(666～668)等の須恵器と土師器、及び少量の灰釉陶器と不銹鉄製品(669・670)であった。このうち665は貯蔵穴から、668は貯蔵穴の直く東から、667は貯蔵穴の北東から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

80住居(第185図、PL.78)

検出位置 78区I 10グリッドで検出した。4区南西部のやや西寄りに位置する。

重複関係 73・76住居と重複するが、本住居が古い。

覆土 暗褐色土で埋没する。

壁 本住居は北壁の一部と北東隅部が確認できただけである。残存部から隅丸方形のプランであった可能性が示せるに過ぎない。当初使用面の遺構と拡張された後の遺構とがある。東西残存長2.40m、南北残存長は0.40mであった。

床面 浅い掘り方が有り、これを黄褐色土で埋め戻して床にしている。

柱穴 検出されなかった。

カマド 検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時代・時期 重複関係から10世紀中葉以前と把握できるに過ぎなかった。

81住居(第187・292図、PL.78・168)

検出位置 78区1・J9グリッドで検出した。4区南西部の中段北寄りに位置する。

重複関係 73・76・82・85住居と重複するが、82住居→81住居→73住居→76住居、81住居→85住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、床上の1層(にぶい黄色土)は所謂三角堆積層である。

壁 平面形状は縦長の隅丸長方形の南側(短辺)が「く」の字形に突出するプランを呈する。南北は3.56m、東西は2.95m、深さは47cm程を測った。

床面 カマド左の東壁際に在る径106×89cm、深さ16cmの楕円形プランの土坑と、南寄りの西壁前に在る径76×69cm、深さ32cmの楕円形プランの土坑等大小の凹凸が見られる掘り方を有し、これを黄褐色土で埋め戻して、概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東南隅に設けられる。焚口を住居壁部に設け、燃焼日及び煙道は屋外に設けている。幅110cm、奥行229cm、深さ7～15cmを測る西洋梨形のプランの掘り方を有し、これを灰黄褐色土、黄褐色土と部分的に黒色炭化物やにぶい褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。左右両袖は袖石を据えている。焚口部周辺の掘り方をみると、焚口部左基部(袖)は、東壁南端側をカマド焚口基部の造作を意識して瘤状に地山を削り出している。焚口基部補強材の礎は、この削り出した地山の内側に据えている。右側は、裏込めを施して同様に礎を据え補強している。煙道は比高差8cmを測る2段構成で、全長は49cmを測る。手前側が幅42～25cm、長さ25cm、奥側が幅19cm以下、長さ20cmを測る。燃焼面と煙道手前側の比高差は22cm、奥側と礎認面との比高差は15cmを測る。カマド中軸線の方位はN51°Wであり、その方向は東壁ではなく、南側突出部の南東面の壁面ラインに直交している。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 出土遺物は特段多くはなかったが、杯(671・672)・椀(673)等の須恵器、と灰軸陶器椀(674)、羽釜(675)等の土師器、不明鉄製品(676・677)の出土があった他、後述の1製鉄が近いのか、中段の炉壁(678・679)、炉内滓(680)の出土が見られた。このうち675・679はカマドから、672はカマドと南壁中央の屈曲部付近から、

671はカマド掘り方から、678は上述の掘り方東壁前の土坑から、673と674は掘り方からの出土である。尚、本遺跡から出土の破片から成る緑軸陶器椀(734)は87住居に報告する。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉と推定する。

82住居(第188・292図、PL.78)

検出位置 78区J9・10グリッドで検出した。4区南西部、住居集中域西寄りの調査区南壁近くに位置する。

重複関係 76・81住居、165土坑と重複するが、82住居→81住居→76住居、76住居→165土坑の順に新しい。

覆土 にぶい黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、3層(黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 壁は、東壁と南北壁の東部は76・81住居に切られて失われ、西壁の北よりは165土坑に切られて失われている。残存部の壁のラインは隅丸方形のプランを呈する。南北は4.65m、東西の残存長は3.10mを測り、深さは43cm程であった。

床面 若干の掘り込みが散見される極浅い掘り方を有し、これを黄褐色土で埋め戻して、若干の凹凸の見られる床面である。

柱穴 検出できなかった。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 出土遺物は少量の土師器や椀(681)等の須恵器、僅かな灰軸陶器片と緑軸陶器椀(682)が出土した。このうち681は住居中央南寄り、682は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

83住居(第189・292図、PL.78・168)

検出位置 78区J9グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域西寄りの調査区南壁に位置する。

重複関係 単独で在り、重複関係は見られない。

覆土・壁・床面・柱穴・貯蔵穴 住居本体は南側調査区外に在って確認できなかった。

カマド カマドの住居に対する設置位置は不明である。

またカマドのうち確認できたのは燃焼部と煙道だけであった。燃焼部と思わる箇所は幅34cm以下で奥行90cmの範囲で確認できた細長い楕円形様の掘り方を有し、これを黒褐色土と暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅42cmで、奥行54cm程が確認され、確認範囲の西側で、燃焼部北側で11cm離れた位置に縦列に2個の、南側で1個の袖石と見られる円礫が据えられている。煙道は幅21cm、長さ71cmを測る。また煙道先端には大型の円礫が乗せられている。

遺物 羽釜(685)等の土師器と杯(683)・椀(684)等の須恵器が少量出土した。このうち685は燃焼部から、683・684はカマド掘り方からの出土であった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前半と推定する。

84住居(第190・293図、PL.79・169)

検出位置 78区1・J7・8グリッドで検出した。4区南西部、住居集中域の中間、調査区南壁近くに在る。

重複関係 85・87・152住居、439土坑と重複する。152住居→84住居→85住居、87住居・439土坑→84住居、の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、床上の3層(暗褐色土)は土葺き材の可能性も考慮される。また87住居添いの床面上には焼土・灰3層の薄い堆積が確認されている。

壁 西壁は一括掘削のため明瞭ではないが、平面形状は隅丸方形を呈するものである。東西は2.99m、南北は2.91mを測り、深さは42cm程を測る。

床面 極浅い掘り方を有し、これを黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面のうち北西部は掘り過ぎてしまったが、残存部は全体に平坦であるものの、北壁沿いに比べて南壁沿いは5cm程下がっている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは南壁南よりに設けられる。焚口部を住居東壁際に設け、燃焼部と煙道は壁面から屋外に幅60cm程、奥行85cm、深さ17cmを測る楕円形様のプランを呈する掘り方を掘削。これを明褐色土、にぶい黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。焚口部の左右には袖石を据えている。袖は袖石を包み込むように造られ、左袖は幅23cm、長さ27cm、右袖は幅21cm、長さ28cm程を測る。

また燃焼部からカマド左側手前にかけては炭化物の分布が見られた。煙道は幅47cm以下、長さ46cmを測り、燃焼部との境に円礫が立てられ、ここから緩やかに立ち上がっている。カマド中軸線の方位はN38°Wである。

貯蔵穴 住居南西部に在り、円形のプランを呈し、径53×53cm、深さ23cmを測る。また住居北西部に在る楕円形プランの土坑(径66×45cm、床面からの深さ27cm)は、付近を掘り過ぎたため床面に現れていたか否かは不明であるが、貯蔵穴であった可能性は残される。

遺物 出土遺物は時段多くはなかったが、壺(688)・羽釜(689・690)等の土師器、杯(686・687)・甕(691)等の須恵器、少量の灰陶器や埴輪片の他、敲石(692～697)、中段下半のものを含む炉壁(713)、羽口(689～702)、椀形鉄滓(703～706)、炉内滓(707)、流動滓(708～710・712)、鉄塊系遺物(711)など多量の製鉄関連遺物の出土が見られた。このうち696は住居南西部から、695は貯蔵穴から、707は住居南壁中央近い付近から、697・704・705は住居中央南東寄りから、699・710は住居南東部から、691はカマド右側壁際から、687・698はカマド右袖前から、706はカマド前から、693はカマド右袖石であり、686・688・689・694・702はカマドから、690は住居掘り方北西部から、708は北東隅部土坑の東方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

85住居(第191・192・293図、PL.79・168)

検出位置 78区1・J8・9グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の西寄りの調査区南壁近くに位置する。

重複関係 81・84・87・152住居及び1製鉄炉と重複する。81・152住居→84住居→85住居、85住居→1製鉄炉の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、3層(黄褐色洪水層土を多く含む黒褐色土)の壁際のは所謂三角堆積層であり、床面に乗るものは土葺き材の可能性もある。また、埋没途中(3層埋没後)に、後述する1製鉄炉の前庭部として使用されていたものと思慮される。

壁 壁面は東壁の中南部、南壁の中東部は84・152住居

に切れ、南西隅部も調査区外に延びるため確認できず、また西壁の一部も1製鉄炉²に切られて失われていた。従って全容は把握できなかったが、残存部から、壁面ラインは横長の隅丸長方形を呈するものと思われる。南北は6.41m、東西は5.09mを測り、深さは34cm程であった。**床面** 凹凸の見られる掘り方を、黒褐色土ブロックを多量に含む黄褐色土で埋め戻して床を造っている。床面は壁際が4cm程高い、僅かな傾斜のすり鉢状を呈している。また共に楕円形プランの土坑1(径88×74cm、深さ18cm)が南東部に、土坑2(径99×85cm、深さ43cm)が南西部に確認された。

柱穴 検出できなかった。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 明確ではないが、上述の土坑2にその可能性が考慮される。

遺物 以下に記す出土遺物のうち製鉄関連遺物の多くは、1製鉄炉²に関連するものと解釈されるが、全てが1製鉄炉²に伴うものではなかったため、便宜上、本住居出土遺物として扱った。杯(714)を含む須臾器、鉢と見られるもの(715)を含む土師器など、土器類の出土は少なかった。一方、製鉄関連遺物としては叢石(716・717)、中段の炉壁(720)、炉内滓(721)、流動滓(722・723)、羽口(718・719)等、一定量の出土が見られた。これらのうち716・717は土坑2から、715は土坑2と掘り方から、721は土坑1からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴と重複関係から、本住居は10世紀後葉と推定する。

87住居(第193・194・294・295図、PL.80・169・170)

検出位置 78区1・J7・8グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の中程、調査区南壁に接して位置する。

重複関係 84・85住居及び2製鉄炉²と重複する。81住居→85住居→152住居→84住居の順に新しい。

覆土 暗灰黄色土、灰黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。高、2層(黄褐色洪水層土を多く含む黒褐色土)は所謂三角堆積層であり、床面直上の5層(炭化物や灰を多く含む黒褐色土)は土葺き材と見られる。また、覆土上位の面は、2製鉄炉²の前庭部として使用されていたものと思慮される。

壁 壁面は東壁の南部が441土坑とトレンチで、南壁の一部がトレンチにより壊され、西壁の中・南部は調査区外に延びているため確認できなかったが、平面形状は、残存部から見て、南壁が広く南北方向が長い隅丸台形を呈するものである。南北は4.69m、東西は4.21mを測り、深さは61cm程であった。

建物 本住居では、東西方向の中央北半部以外に炭化物の分布が見られる。炭化材の多くは垂木か椀と見られる。193図の上(東)側のトレンチの右下から下方に延びる炭化材は、位置的に梁の可能性も考慮される。材として確認されなかった炭化物は葺き材と思われる。こうした木質の材と土葺き材(5層土)を用いた屋根構造であったと判断される。

床面 東壁沿いに断続的な溝状の掘り込み、南壁沿いに階段状の掘り残り等が見られる全体としては浅い掘り方を有し、これにぶい黄色土で埋め戻して、概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド 南西隅部に設けられるとみられるが、掘り方も確認できず、トレンチの掘削等により、詳細を確認することはできなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 杯(724~729)・椀(730~733)や甔と思われるもの(738)等を含む須臾器を中心に、甕(735・736)等の土師器や酸化焰焼成の羽釜(737)や、少量の灰釉陶器や緑釉陶器椀(734)が出土した他、羽口(739・740・786~790)、鉄鎌(741)、不明鉄製品(742・747・766~768・771~778)、鉄釘(743・748~765)、鉄製刀子(745・746)、不明金属製品(769・770)、中段(782・783)・中段下半(781)の炉壁、鉄塊系滓(779)、流動滓(780・785)等の製鉄関連遺物の出土が多く見られた。尚、これらの製鉄関連遺物の多くは、2製鉄炉²や、周辺にその存在が想定される鍛冶遺構に伴うものと見られる。これのうち746・774は住居中部の南寄りから、770は中部の北寄りから、748・761は北寄りから、741は北西隅部から、754・772は北東部から、724・726・730・734(73・81住居出土の破片から成る)は東部の中程から、762・763・773は東壁際から、725・735~737・781・740は東南部のカマドと思われる付近から集中して、731は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉から後葉

と推定する。

焼失家屋 本住居は所謂焼失家屋であるが、カマドが破壊されて、構造が残されていないことから、焼却処分されたものと思慮されるが、炭化材の遺存状況から、着火点は北壁沿いの焼土の有った箇所付近で、焼却時の風向きは北北西であったと推定される。

89住居(第195・296図、PL.80・171)

検出位置 78区16・7グリッドで検出した。4区南西部の調査区範囲の屈曲部近くに位置する。

重複関係 26・27住居、25溝と重複するが、89住居→25溝→27住居→26住居の順に新しい。

覆土 褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、床上の2層(にぶい黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 壁は南壁西半から北端を除く西壁にかけて、26・27住居との重複によって失われているが、残存部から推して、平面形状は隅丸方形を呈すると判断される。南北は3.23m、東西の残長は3.60mを測り、深さは30cm程である。

床面 残存範囲の中央部と中南部、南部に掘り残しを伴う掘り方を有し、これを埋め戻してやや南西方向に傾斜する床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは南東隅寄りに設けられる。この付近の壁面は若干時計回りに屈曲している。尚、掘り方の奥側は掘り過ぎの可能性がある。本カマドは壁面を掘り込んで掘り方を設け、これを埋め戻して燃焼面としている。袖は残されていないが、右側焚口部基部には、袖材の可能性も考えられる円礫が残り、左袖には袖材として使用されたと思いき黄褐色土ブロックを含む褐色土が土層断面に確認されている。煙道は幅18cm、長さ14cmを測り、燃焼部との比高差は6cm、確認面との比高差は3cmであった。カマド中軸線の方位はN68°Wである。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少量の椀(791)・甕(796)等の土師器と杯(792)・椀(793・794)等の須恵器が出土した他、椀かと思われる緑釉陶器(795)と鉄製刀子(797)が出土している。このうち793はカマドから出土し、796はカマドから住居内の広い範囲に破片が散らばっていた。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

90住居(第196・296図、PL.81)

検出位置 78区15・6グリッドで検出した。4区南西部の調査区範囲の屈曲部に位置する。

重複関係 147・149・154住居と重複するが、90住居→147住居→149住居、90住居→154住居の順に新しい。

覆土 褐色・橙色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南壁と西壁の過半が調査区外に延びているため、全容は把握できなかったが、壁面プランは隅丸方形様を呈し、北東隅部は丸みが強い。残存長は南北で2.51m、東西の残長は2.30mを測り、深さは24cm程である。

床面 床面より下位に部分的な掘り込みが見られるが、掘り方の有無は不明。床面は南西に若干傾いているが、概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド 東壁の恐らく南寄りに設けられていると考えられる。幅63cm以上、奥行52cm、深さ11cmを測る椀状プランの掘り方を有し、この掘り方にはさらに焚口部底面にはピット状の掘削が行われている。この掘り方を極暗赤褐色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅60cm以上、奥行66cm、深さ4cmの楕円形プランの浅い掘り込みとして確認される。右袖は調査区外に在って確認できなかったが、左袖は45cm程、長さ24cmを測る。煙道はカマド先端でその痕跡を確認するに過ぎない。カマド中軸線の方位はN82°Wである。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 出土遺物は少量の土師器と杯(798)等の須恵器が出土したに過ぎない。尚、798はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉と推定する。

91住居(第197・296図、PL.81・170)

検出位置 78区F・G4・5グリッドで検出した。4区中部の南寄りに位置する。

重複関係 139・141・142・143住居と重複するが、139・141・142住居に対しては本住居が古い。

覆土 褐色・灰褐色・黒褐色シルト質土で埋没する。堆

積状態から自然埋没と推定する。

壁 南壁の東半と西部及び西壁の南部が、重複により失われているか確認できなかったため、全容は把握できなかったが、平面形状は北西隅部が隅丸となる横長の長方形プランを呈している。南北は3.89m、東西は3.21mを測り、深さは36cm程を測った。

床面 東部北寄り、北部中央、西部、南部の中部から東にかけての壁前に比較的大きな浅い掘り込みが施され、ピット状の掘り込みが散見される掘り方を有し、これを黒褐色シルト質土で埋め戻して概ね平坦な床面を造っている。

柱穴 床面に於いては検出できなかった。また掘り方に散見されたピットも位置的に該当するものは見られなかった。

カマド 東壁の南寄りに設けられていると考えられる。北半分を調査できたに過ぎないが、本住居のカマドは壁面を掘り込んで幅35cm、奥行53cm以上のテラス状の掘り方を有する。掘り方の手前斜面には径36cm以下の3基のピット状の掘り込みが有る。この掘り方を暗褐色土等で埋め戻して燃焼面を造っている。袖はないが、燃焼部からカマド前にかけて炭化物の分布が見られる。また燃焼部右側の壁面には小さなテラスが前後2箇所設けられている。煙道は幅24cm以上、長さ20cmを測り、煙道底面と燃焼部との比高差は17cm、確認面との比高差は10cmを測る。カマド中軸線の方位は凡そN89°Wを指すものと見られる。

貯蔵穴 住居南西隅近くに検出された。円形に近い楕円形のプランを呈し、径63×61cm、深さ25cmを測った。

遺物 黒色土器碗(799)、杯(800~802)・碗(803・804)等の須恵器と、灰釉陶器碗(805~808)、酸化焰焼成と見られるもの(809)と還元焰焼成の羽釜(810・811)が出土している。801は住居南西部壁際から、802は住居南西部から、806は住居中西部寄りから、805は住居北壁際東部から、809・810はカマドから、800はカマドと住居南部から、811はカマドやカマド前、掘り方から、804・807は掘り方から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

139住居(第198・199・297図、PL.82・171)

検出位置 78区E・F4・5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東端に位置する。

重複関係 91・146住居、173土坑と重複する。146住居→91住居→139住居→173土坑の順に新しい。

覆土 灰褐色・褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、3層土(黒褐色シルト質土)の壁際は所謂三角堆積を形成し、また土葺き材であった可能性が考慮される。

壁 平面形状は南壁東がやや窄まる、縦長の隅丸樽形を呈する。東西は5.79m、南北は4.81mを測り、深さは53cm程を測った。

建物 外周側を中心に炭化材や焼土の平面的分布が見られる。炭化材の殆どは位置等から推して垂木材か椽と判断される。これらはコナラ節やクスギ節が中心で、ヤナギ属も見られたが、芯持丸木座主やミカン割材等の加工材も見られた。またイネ、ムギ、ススキ等のイネ科の炭化材(198図中の焼土状況内「→」)も見られたが、これは葺き材であろうと思慮される。

床面 四隅と東壁前やや南よりに土坑状の掘り込みが見られ、全域に弱い凹凸が見られる掘り方を有し、これを褐色シルト質土で埋め戻して床面を造っている。床面は概ね平坦だが、東壁面側が7cm程低くなっている。

柱穴 南西隅部に径79以上×48cm、深さ15cmの不整円形プラン、北西隅部に径99×90cm、深さ16cmの楕円形プラン、北東隅部に径43×43cm、深さ23cmの円形プラン、南東隅部に径96×61cm、深さ13の瓢形プランの掘り込みが有り、これらが、床面構築前に掘削された柱穴として使用されていた可能性が考慮される。

カマド 東壁の南東隅寄りに設けられている。壁面を掘り込み、壁面から幅152cm、奥行160cm、深さ16cm以下を測る隅丸方形プランの掘り込みを伴う掘り方を有し、これを暗褐色細砂質土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅61cm、奥行96cm、深さ9cmを測る縦長の楕円形プランで、底面が奥に向かって14cm程高くなる掘り込みとなっている。袖は残されていないが、袖石や天井石であったと考えられる円礫が、燃焼部から焚口部前にかけて散見される。また燃焼部からカマド手前にかけては黒褐色灰の平面的分布が見られる。煙道はトンネル状であり、幅16cm以上、長さ6cmが残る。先端は幅37cm、

奥行31cm、深さ18cmを測るビット状の掘り込みである。煙道底面と直近の燃焼面底面との比高差は16cmを測る。カマド中軸線の方位は凡そN86°Eを指す。

貯蔵穴 住居南西隅近くに検出された。径119×115cm、深さ55cmを測る円形に近い楕円形のプランを呈し、鍋形の掘削形態を呈する。

遺物 喪(818)等の土師器と、杯(812~814)・椀(815)等の須恵器と、椀(816)・長頸壺(817)等少量の灰釉陶器、鉄製刀子(819)・釘(820)が出土した。このうち815は住居北東部から、817は住居北東隅と貯蔵穴南隅から、812・813・820はカマド左側から、818はカマドの手前側からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀初頭と推定する。

焼失家屋 本住居は所謂焼失家屋であるが、焼失時の着火点や風向きを想定することはできなかった。高、カマドが壊されていることから、失火ではなく、建物の焼却処分であると判断される。

140住居(第200・297図、PL.82・171)

検出位置 78区E・F5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の北東端に位置する。

重複関係 141住居、139土坑と重複する。141住居→140住居→139土坑の順に新しい。

覆土 褐色や暗褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。高、3層土(暗褐色シルト質土)と5層土(褐色シルト質土)は所謂三角堆積であり、3層土は堆積状況から土葺き材であった可能性が考慮される。

壁 平面形状は東壁が広がる隅丸の逆台形のプランを呈する。南北は3.51m、東西は3.39mを測り、深さは50cm程を測る。

床面 本住居は北側中央2箇所の柱穴状の掘り込みを伴う浅い掘り方を有し、これを黄褐色土を含む黒褐色土で埋め戻して、固く締めた床面を造っている。床面は外周に比べ、中央部が3cm、東南隅が7cm程低くなっている。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南寄りに設けられる。壁面を幅67cm以下、奥行60cm程削り込み、壁面手前に幅50cm、奥行46cm、深さ10cm程の楕円形プランの掘り込みを伴う掘

り方を有し、これを灰褐色シルト質土と黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。袖は左袖の痕跡が掘り残しとして残っているが、全体としての構造は不明である。高、カマド付近に袖材と思しき円礫の出土が見られている。煙道は幅48cm以下、長さ58cmが残る。煙道の底面は奥側に向かって5cm程高くなっており、煙道底面の手前側と燃焼面と比高差は15cm、奥側と遺構確認面との比高差は29cmを測る。カマド中軸線の方位は凡そN76°Wを指す。

貯蔵穴 住居南西隅に壁面に接して設けられている。径77×31cm、深さ24cmを測る東半は楕円形、西半は隅丸形状を呈するプランを有し、鍋形を呈する。

遺物 羽釜(824)等の土師器と、黒色土器椀(821)、椀(822)等の須恵器と、段皿(823)等僅かな灰釉陶器、鉄製刀子(825)・釘(826・827)、不明鉄製品(828)が出土した。このうち、823は貯蔵穴東から、822・825は貯蔵穴から、821・824・827はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

141住居(第201・298図、PL.83・171)

検出位置 78区E・F5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の北東隅部に位置する。

重複関係 91・140住居、1面118・139土坑と重複する。141住居→140住居→139土坑の順に新しい。

覆土 灰褐色や黒褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。高、3層土(明褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。

壁 重複により、東壁と北壁の過半と西壁と南壁の一部が失われているが、残存範囲から推して、平面形状は横長の長方形に近い長方形プランを呈するものと判断される。南北は4.09m、東西は3.34mを測り、深さは32cm程である。

床面 細かい凹凸の見られる掘り方を有し、これを褐色シルト質土で埋め戻して、床面を造っている。床面は、残存範囲では多少の凹凸は見られるもの概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南東隅部寄りに設けられている。大半が140住居に壊されているため、全容は詳らか

でない。掘り方を有し、これを暗褐色・褐色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造っている。右軸は灰褐色シルトで造られ、幅25cm、長さ32cm程が残り、一部に焼土化が見られる。煙道は確認できない。カマド中軸線の方位は凡そ東南東方向を指す。

貯蔵穴 住居南西隅近くの貯蔵穴1と、南東隅の壁面に接して設けられる貯蔵穴2の2箇所が確認された。貯蔵穴1は径63×54cm、深さ30cmを測る楕円形プランを呈し、鍋形を呈している。一方、貯蔵穴2は径76×58cm、深さ37cmを測る楕円形プランを呈し、形状はややすり鉢状を呈するものである。

遺物 出土遺物は多くないが、鉢(832)等の土師器と、黒色土器杯(829)、杯(830・831)等の須恵器や、砥石(833)、不明鉄製品(834)の出土が見られた。このうち、830は住居南西隅から、831・832は貯蔵穴1付近からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

142住居(第202・298図、PL.83・172)

検出位置 78区F・G4・5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部に位置する。

重複関係 91・143・146・148・153住居と重複する。148住居→91・143住居→142住居、148住居→153住居→142住居、146住居→142住居の順に新しい。

覆土 暗褐色や極暗褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、3・4層土(褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。また2層土(極暗褐色シルト質土)は炭化物と焼土が混入しており、層厚が均質で薄いことから推して土葺き材であった可能性が思慮される。

壁 北西隅は失われている。平面形状は西壁を除いて直線的ではないが、全体的には横長の隅丸長方形のプランを呈する。南北は3.81m、東西は3.31mを測り、深さは32cm程である。

床面 住居中央付近に径220×138mを測る極低い掘り残しを有し、南西隅近くにピット状の浅い掘り込みを伴い、これを褐色土等で埋め戻して平坦な床面を造っている。尚、須恵器杯等が並べて或いは重なった状態で出土しているため、構築に伴う祭祀に伴うものである可能性が考

慮される。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南東隅部寄りに設けられる。燃焼部及び煙道は屋外に掘り込んで、幅90cm、奥行105cm、深さ9cm程の楕円形プランの掘り方を有する。掘り方底面は中程で焚口部前面と同じ高さとなり、奥側で2cm程下がる。また掘り方の奥壁の左肩に径14×11cm、深さ8cm、右肩に20×12cm、深さ8cmの礫の差し込み痕跡と思しきピットが掘削されている。こうした掘り方を褐色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅60cm、奥行95cm程を測る縦長の楕円形プランを呈するものである。燃焼部の左右の壁には礫が据えられ、燃焼部内にも礫が崩落している。燃焼部底面は、焚口部底面から奥壁に向かい緩やかに立ち上がる。煙道部は、燃焼部奥壁が6cm程立ち上がった部位から遺構確認に向かい30cm程延びている。煙道底面は、奥壁まで緩やかに立ち上がり、遺構確認に向かいほぼ垂直に立ち上がっている。煙道部には4個の小型の礫を脚として、平石が乗せられた構造が残っており、ここが煙道先端と見られる。カマド中軸線の方位は凡そN59°Wを指す。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 杯(835~845)・碗(846)等の須恵器、羽釜(847・848)等の土師器、土製有孔円板(849)、不明鉄製品(850)が出土したが、このうち847・849と143住居出土遺物として掲載した858は、本住居と143住居出土の破片の接合である。また、835・836は南壁東部の壁際の床土から重なって、850は住居東部中央やや北寄りから、840・844・845・846はカマドから、838・842は住居中央の掘り残し上から重なって、837・843並びには中北の掘り残しと壁面との間から、839・841は北東隅部から、848は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

焼失家屋 炭化材は確認されなかったが、西壁の中央付近と北壁の東よりの壁面近くに焼土或いは炭化物の小さな分布が見られ、床土の2層土に炭化物や焼土ブロックが確認されていることから、本住居は焼失家屋であると判断される。尚、着火点や風向きは確認できなかった。

143住居(第203・205・299・300図、PL.84・172・173)

検出位置 78区G・H5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部に位置する。

重複関係 91・142・148・153住居、1面119・171・172土坑と重複する。148住居→153住居→143住居→142住居・119土坑、172土坑→171土坑→143住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 壁面は、確認面に凹凸があるため直線的ではない部分もあるが、平面形状は全体としては北壁が狭くなる南北に長い隅丸台形を呈する。南北は4.49m、東西は4.18mを測り、深さは53cm程である。

建物 本住居は焼失家屋であり、炭化材が散在している。東部の東寄りと南部、及び北西部の炭化材は垂木か椀と見られる。東部の西寄りと中北部の炭化材と炭化物は棟に伴う垂れ木材と葺き材と見られるが、棟木、梁、桁、柱に相当する材は認められなかった。尚出土炭化材の一つはクヌギ節のものであった。

床面 土坑状やピット状の掘り込みが多く見られる掘り方を有し、これを暗褐色微砂質土で埋め戻して、その上に黒褐色土を乗せて締め貼床としている。床面はカマド前が5cm程高くなるが、概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南寄りに設けられる。壁面を削り込んで、幅82cm、奥行120cm、深さ8cm程の楕円形プランの掘り方を有する。焚口部の掘り方には径43×34cm、深さ19cmの柱状の掘り込みが在る。この掘り方は、灰を多量に含み炭化物や焼土を少量含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅60cm以下、奥行120cm、深さ4cmを測る楕円形のプランの浅い掘り込みである。袖は左右両側とも円礫を据え、これを暗褐色土で被覆して袖を構築している。右袖は幅45cm以下、長さ55cm、左袖は幅76cm以下、長さ67cmを測る。また壁面を越える付近から奥側の燃焼部の左右両側の壁際には、円礫が3乃至4個据えられている。煙道は幅13cm、長さ39cmを測る細長いものであるが、煙道底面と燃焼部底面との比高差は34cm、確認面との比高差は8cmを測る。また煙道から燃焼面奥壁にかけては半裁した羽釜(875)を、外面を外に向けて、被せて設置している。カマド中軸線の方位はN89°Wを指す。

貯蔵穴 南西隅部に壁面に接して掘削されている。径107×94cm、深さ36cmを測る。

遺物 比較的多くの椀(851・852)等の土師器と、杯(853～856)・椀(857～864)等の須恵器、数量は少なかったが椀(865～869)・壺(870)等の灰釉陶器、酸化焙焼成の羽釜(871・872)や甗(873・874)、還元焙焼成の羽釜(875)、858は本住居と142住居出土遺物の接合品であり、866は本住居と148住居出土遺物との接合品である。また、859は住居南東部から、861は住居東壁の外側(周提帯想定位置)と住居東南部から、852・858は南壁中央付近手前から、876は南壁西寄り壁際から、866は住居西壁中部のやや南よりの壁際と148住居から、868・869・880は北壁前西寄りから、877・878は住居北東部から、860は住居北東隅部から、873は東壁際中央付近から、851・865は住居中西部から、872は掘り方から、853・854は貯蔵穴から、864はカマド右袖前から、882はカマド左袖上から、855・870・874はカマドから、875はカマド煙道部と右袖から、857は掘り方とカマドから、862・863はカマドから、867は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

焼失家屋 本住居は竪穴住居と認識されるが、カマドが壊されていることから推して、失火ではなく焼却処分されたものと想定される。尚、着火点や風向きは推定できなかった。

144住居(第207・208・300図、PL.84)

検出位置 78区H・I5・6グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部西寄りに位置する。

重複関係 145住居、172土坑と重複する。145住居→144住居、172土坑→144住居の順に新しい。

覆土 にぶい褐色・暗褐色・褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。4層(黒褐色シルト質土)と5層(明褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。

壁 南壁のプランは直線的であるが、東・西・北壁のプランはやや膨らみを持つ。南東隅はやや鋭角だが、全体のプランは隅丸台形を呈する。東西は4.57m、南北は4.33mを測り、深さは48cm程である。

床面 南寄りに土坑状の掘り込みを持つ掘り方を有し、これを褐色シルト質土で埋め戻して床面を造っている。

床面は北東寄りが若干高くなるが、概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南端寄りに設けられる。壁面を掘り込み、壁際を中心とする幅106cm、奥行214cm、深さ11cmを測る弧形プランの掘り方を有す。掘り方底面は焼土化が見られる。掘り方底面は焼土化が見られる褐色シルト質土、その上に炭化物や灰を含む黒色土を載せて燃焼面としている。燃焼部は幅72cm、奥行166cm、深さ5cm程の楕円形様のプランを有する。焚口部は左側基部に相当する袖部分が失われている。同右袖部分は、南東隅部直下に認められる。この右袖部分は円礫を芯材として褐色シルト質土で被覆している。左袖は長さ77cmを測り、右袖は幅23cm、長さ42cm程を測る。また燃焼部の右側壁には、円礫5個によって壁の補強が成され、左側壁部は一石で補強されている。また燃焼部奥壁には煙道口の円礫による補強材等が、部分的に崩落した状態で認められた。煙道は確認されなかった。カマド中軸線の方位はN60°Wを指す。

貯蔵穴 南西隅部に確認した。プランは隅丸台形を呈し、径72×67cm、深さ47cmを測る。

遺物 甕(886)等の土師器と、椀(883)や羽釜(887・888)等の若干の須恵器、皿(884)・椀(885)等の少量の灰釉陶器が出土した。また、883・887はカマドから、886はカマド左袖上からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴は、10世紀中葉と推定されるが、重複関係から後葉の可能性がある。

145住居(第209・301図、PL.85)

検出位置 78区H・I 4・5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部西寄りに位置する。

重複関係 144住居、168・169土坑と重複する。145住居→144住居、169土坑→168土坑→145住居の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。

壁 東西壁の南部と南東・南西隅を除く南壁を確認した。残存部のプランは隅丸台形を呈する。東西は3.49m、南北は残存長1.26m、深さは27cmを測った。

床面 南西部に径49×残長50cm、深さ10cmを測る楕円形のプランを呈するものなど、若干の掘り込みを伴う掘り方を有する。この掘り方をふい褐色シルト質土で埋め戻してやや凹凸の有る床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド 確認されなかった。

貯蔵穴 南西隅部と南東隅部の、共に壁面に接したものが在った。南西隅部のプランは、隅部の丸み強い隅丸長方形を呈するもので、径60×59cm、深さ29cmを測った。南東隅部は、径102×99cm、深さ17cmを測る隅丸方形プランのものであった。

遺物 出土遺物は多くなかったが、土師器や、杯(889)・椀(890)・羽釜(892・893)・甕(894)等須恵器、皿(891)等の少量の灰釉陶器が出土した。このうち、890・892は住居西部からの出土で890は床の直上からの出土である。また、889・894は南東隅部からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

146住居(第211・301図、PL.85・173)

検出位置 78区F・G 3・4グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東端南部に位置する。

重複関係 139・142住居、173・432・446土坑と重複する。146住居→142住居→139住居→173土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東壁の中部から北東隅部が139住居、北西側が142住居によって壊され、南西隅部が432土坑、南壁の過半が446土坑に重複して確認できなかった。このため住居の全容は詳らかにできないが、残存範囲から平面形状は縦長方形のプランであったものと想定される。東西は4.12m、南北は3.29m、深さは42cm程を測った。

床面 若干の土坑状の掘り込みが散見される浅い掘り方を有し、これを明褐色シルト質土で埋め戻して床面を造っている。床面は中西部に3、4cm程の高まりが見られる。

柱穴 検出できなかった。

カマド 東壁のやや南寄りに設けられていたと想定される。この箇所東壁面が東に開き、灰の面的分布が見られるが、構造等を明らかにすることはできなかった。

貯蔵穴 南東隅部に設けられる。やや南東側が開く楕円形のプランを呈し、径47×44cm、深さ22cmを測る。

遺物 出土遺物は少なく、杯(895・896)等僅かな須恵器と灰釉陶器椀(897)、鉄製の小刀(898)・刀子(899・900)

が出土したに過ぎなかった。このうち、896・898・899は住居北部壁近くから、900は住居西部中程から、895・897は貯蔵穴付近からの出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

147住居(第210図、PL.85)

検出位置 78区15・6グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の中部、調査区南壁ラインの屈曲部近くに位置する。

重複関係 90・149住居、436土坑と重複する。90住居→147住居→149住居の順に新しい。

覆土 褐色シルト質土で埋没する。炭化物が混入する。堆積状態から自然埋没と推定する。2層(褐色シルト質土)は所謂三角堆積である。

壁 西壁は削平により失われ、北壁の西部は436土坑と一括掘削したため確認できず、北東隅部を除く東壁と南壁は149住居に壊されて確認できなかった。平面形状は、残存箇所から推して、隅丸方形様を呈するものと推定される。残存範囲は東西は3.50m、南北は0.90mであり、深さは17cm以下であった。

床面 北壁の北東部に床面と同レベル、幅20cm以下の掘り残しを伴う掘り方を有し、これを褐色シルト質土で埋め戻して床面を造っている。床面は比高差2～4cm程で若干内側が低くなっている。

柱穴 検出できなかった。

カマド 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 少量の須臾器片が出土したが、図化掲載に取り上げるべき遺物は無かった。

時代・時期 出土遺物も少なく、本住居の時期は特定できなかったが、重複関係から10世紀前葉以降、11世紀初頭以前の大凡10世紀の所産と把握されるに過ぎない。

148住居(第212・301図、PL.85・86・173)

検出位置 78区G・H4・5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部に位置する。

重複関係 142・143・153住居、430土坑と重複する。148住居→153住居→143住居→142住居、148住居→430土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。3層(褐灰色シルト質土)は所謂三角堆積層と見られる。

壁 東西両壁の北部から北壁にかけては143住居に、西壁の中部は430土坑に壊されて確認できなかった。東西は2.86m、南北は残存長2.30mを測り、深さは40cm程であった。

床面 北東寄りに径64×51cm、深さ25cmを測る、楕円形プランの掘り込みと、北東部を中心に深さ17cm以下、南東部を中心に深さ19cm以下を測る掘り込みを伴う掘り方を有し、これを埋め戻して床面を造っている。床面は北西側が4cm程高いが、概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁の南東隅部寄りに設けられる。壁面を掘り込んで、幅37cm、奥行78cm、深さ12cmを測る掘り方を有する。これを褐色シルト質土等左右の袖や天井は壊されていたが、左袖の位置の壁面際に円礫が残る。煙道は確認できなかった。カマド中軸線の方はN85°Eを指す。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 出土遺物は少なかったが、土師器や、住居北部から出土した椀(901)・住居南西隅部から出土した羽釜(902)等の須臾器と、僅かな量の灰矽陶器の出土が見られた。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉と推定する。

149住居(第213・301図、PL.86・173)

検出位置 78区15グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部、調査区南壁の屈曲部の東寄りに位置する。

重複関係 90・147住居と重複するが、90住居→147住居→149住居の順に新しい。

覆土 褐灰色シルト質土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。4層(褐灰色シルト質土)・6層(赤褐色シルトブロック)は所謂三角堆積層と見られる。また、床上に堆積する8層(暗褐色シルト質土)は土蒔き材と思慮される。

壁 南西部が調査区外に延びているため、全容は詳らかにできないが、平面形状は残存範囲からは東南部が西

に湾曲する隅丸方形のプランを呈する。残存長は東西4.10m、南北3.50mを測る。深さは36cm程を測る。

床面 北西部が90住居と重複するので明瞭ではないが、北東部に浅い掘り込みが見られる掘り方を有する。床面は90・148住居の覆土等を利用している。床面は多少の凹凸は見られるが、概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド カマドは東壁でも、恐らく南東隅部寄りに設けられている。壁面を掘り込んで、残幅22cm、奥行69cm、深さ1cmを測る極浅い掘り方を有する。これを焼土化の見られる橙色シルトで埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は残幅24cm、長さ109cm、深さ2cmの楕円形プランを呈するものである。燃焼部底面は徐々に上がっており、西の手前側と奥の東側の比高差は10cmを測る。左袖は掘り残して確認され、幅47cm程、長さ36cmが確認される。また燃焼部左壁には円礫が残っているが、煙道も確認できず、全体のカマド構造を詳らかにすることはできなかった。カマド中軸線の方位はN55°Wを指すものと推定される。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 杯(903)等の須臾器と、甕(904)等の土師器の出土があった。なお、903は燃焼部左壁付近から、904はカマド燃焼部からの出土であった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀初頭と推定する。

150住居(第214・215・302図、PL.86・87・173)

検出位置 77区T1・2、78区A1・2グリッドで検出した。4区東南部の住居集中域の北西寄りに位置する。

重複関係 151住居、1鍛冶工房、289・290・357・429土坑と重複するが、429土坑→151住居→150住居→1鍛冶工房・289・290・357土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、1鍛冶工房は本住居の覆土上位に構築されている。

壁 本住居の平面形状は、縦長の隅丸方形を呈している。東西4.34m、南北4.13m、深さは54cmを測る。

床面 不規則な浅い掘り込みが見られる掘り方を有し、これをにぶい黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は概ね平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド 東壁の南寄りに設けられる。壁面を掘り込んで、幅85cm、奥行100cm、深さ5cmを測る浅い掘り方を有する。掘り方の奥壁には2段、左奥に1段、燃焼部分は、右壁から奥壁部分にテラスが設けられている。焚口部と燃焼部底面には、径102×92cm、深さ6cm(テラスからは30cm)を測る隅丸長方形プランの土坑状の掘り込みが在る。この掘り方を、炭化材・灰が主体の黒色土(6層)と一部その上に載る黄褐色土で埋め戻している。燃焼部は幅70cm以下で、比高差6cmを測る前後の段から成っている。前側は長さ35cm程で、奥側は15cmを測る。また燃焼部左側には径37×25cm、深さ4cm以下の、前後に長い楕円形プランの浅い掘り込みが残り、燃焼部からカマド手前にかけて炭化物の面的分布が見られる。袖は5層土(黒褐色土)で造られ、左袖は幅35cm、長さ25cm、右袖は幅40cm、長さ14cm程が残る。煙道は比高差17cmを測る前後二段で、手前側は幅28cm以下で、長さ20cmを測り、そこから11cm隔てた位置に幅17cmで、長さ8cmを測る奥側の底面があるが、奥側は柱穴状の掘削形態を呈している。煙道の全長は33cmである。燃焼部奥側と煙道手前側の底面の比高差は6cmを測り、煙道奥側と遺構確認面との比高差は4cm程を測る。カマド中軸線の方位はN89°Eを指す。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 遺物は少なかったが、土師器や杯(905・906)・碗(908・909)等の須臾器、酸化焙焼成の羽釜(910)が出土した。なお、905・909は掘り方からの出土であった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定されるが、重複関係からは後葉の可能性も考慮される。

151住居(第216・217・302図、PL.87・173)

検出位置 77区T2・3グリッドで検出した。4区東南部の住居集中域の北西寄りに位置する。

重複関係 150住居、403・408・429・438土坑と重複するが、429・438土坑→151住居→150住居、151住居→403土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また2層(褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 南壁とが150住居に壊され、403・408土坑の調査に伴って東壁の一部が失われている。残存範囲を観察する

と、東壁は「門」の字状に屈曲して続べ面が三分され、西壁の最南部は後述するカマドの設置によって逆「く」の字状に屈曲しているが、全体としては縦長の隅丸長方形プランを呈している。南北は残存長4.35m、東西は3.51mを測り、深さは35cm程である。

床面 不規則な凹凸が見られる浅い掘り方を有し、これをにぶい黄褐色土や褐色土で埋め戻して床面を造っている。床面は僅かに北側が高いが平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド 南東隅部にカマド燃焼部から東側に径135×75cm、深さ11cmを測る横長の隅丸方形プランの掘り込みが掘削される掘り方を有し、これを灰黄褐色土、黒褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅50cm、奥行40cm程の範囲と見られる。燃焼部からカマド手前にかけて炭化物の平面的分布が見られる。左袖の先端には袖石が据えられている。また右袖には、袖石は据えられていない。燃焼部手前に遡る長円形の円礫は天井石と思慮される。また左袖石の位置より奥側、燃焼部中央には支脚石が据えられている。燃焼部の奥は狭まっており、この部分は煙道と見られる。煙道は残幅40cm、残長35cm程である。また、煙道の底面のレベルは燃焼面とほぼ同じであるが、左側壁面には1石2段、左壁には2個の円礫が埋め込まれている。カマド中軸線の方位はN55°Eを指す。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 甕(912・913)土師器と、杯(911)等少量の須恵器、僅かな灰軸陶器片や、鉄製鎌(914)が出土した。また、912はカマドやカマド前から、913はカマドから、914は住居北西隅からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

152住居(第218・302図、PL.87・88・173・174)

検出位置 77区1・J8グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の中南部西寄りに位置する。

重複関係 84・85住居と重複するが、152住居→84住居→85住居の順に新しい。

覆土 黒褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また、炭化物や焼土を多量に含む3層(黒褐色土)は土葺き材の可能性が考慮される。

壁 南壁の過半が84住居に壊されて確認できなかったが、本住居の平面形状は縦長の隅丸方形プランを呈している。東西は3.70m、南北は2.39mを測り、深さは21cm程である。

床面 東部に小型の、西部に大型の掘り込みが散見される掘り方を有し、これを黒褐色土を少量に含む黄褐色で埋め戻し、一部に黄褐色土で貼床を施して床面を造っている。床面は僅かに東壁面が高く、平坦である。

柱穴 検出できなかった。

カマド 東壁の中程に造られる。細かく浅いピット群が掘削される掘り方を有し、これを黒色土、にぶい黄褐色土、黄褐色土で埋め戻して燃焼面としている。燃焼部は幅80cm以下、奥行30cm以上を測る。左右に袖の一部と見られるものが残され、左袖は幅45cm程、長さ39cm、右袖は幅35cm程、長さ34cmが確認される。そして、燃焼部及び焚口部側壁は円礫を2段積みして補強している。また一部では、壁の崩落に伴って円礫が燃焼部内から出土している。煙道は幅29cm、長さ31cmを測り、燃焼面と煙道底面の比高差は12cm、煙道底面と確認面との比高差は14cmを測る。カマド中軸線の方位はN81°Wを指す。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 出土遺物は少なく、白磁碗(915)、少量の土師器や椀(916・917)等の須恵器、葎石(918・919・921)、台石と思われるもの(920)、砥石と思われるもの(922)、羽口(923)が出土したに過ぎない。また、917は住居北西部から、920はカマド前から919・921・922はカマド燃焼部付近から、923は南西部から、915・916は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉と推定する。

その他 3層土や、住居の過半に及ぶ炭化物の平面的分布の存在により、本住居には焼失家屋の可能性が考慮される。

153住居(第206・302図、PL.88・174)

検出位置 78区G4・5グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の東部に位置する。

重複関係 142・143・148住居と重複するが、148住居→153住居→143住居、153住居→142住居の順に新しい。

覆土 確認面から床面までが浅いため不明。

壁 南壁の一部が確認されたに過ぎなかったため、詳細は不詳である。

床面 掘り方の有無等は確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

カマド カマドは南壁に設けられる。壁面での設置位置は特定できなかった。壁面手前に幅58cm、奥行47cm以上、深さ22cmの楕円形のプランの掘り込みを伴う、幅70cm以上、奥行76cm以下、深さ13cmを測る浅い掘り方を有し、これを黒褐色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は西半だけが確認された。袖は暗褐色シルト質土で造っているが、一括掘り下げてしまっていて袖は確認できなかった。煙道は確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 僅かな土師器と、共にカマドから出土した杯(924)や椀(925)等の少量の須恵器が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉と推定する。

154住居(第219・303図、PL.88・89・174)

検出位置 78区I・J 6グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域の中東部、南側調査範囲の屈曲部西に位置する。

重複関係 26・27・90住居、170・436土坑と重複するが、90住居→154住居→27住居→26住居、154住居→170土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色・灰褐色・極暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また「4」層(にぶい褐色シルト質土)は土葺材の可能性が考慮される。

壁 本住居は、過半が西側調査区外に在り、27・90住居、436土坑に壊されて東壁、北壁の一部しか確認されなかった。残存部は直線的で、方形を基調とした壁面の配置があったものと想定される。

床面 ビット状の掘り込みを伴う掘り方を有するが、殆ど地床に近い。床面は平坦である。

柱穴 確認できなかった。

カマド 東壁の残存範囲の南寄りに設けられている。436土坑と重複して手前側しか確認できなかった。壁面を掘り込んで、幅90cm以上、奥行72cm以上、深さ15cmを測る隅丸菱形プランの掘り方を有する。この掘り方の左側には径33×31cm、深さ17cm、右側の手前側には径32

×22cm、深さ15cm、中心で46cm離れた奥側に径32×22cm、深さ8cmを測る、何れも楕円形プランの、袖石を据え付けたと思慮されるビットが掘削されている。この掘り方を褐色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造っている。燃焼部は幅51cm程、奥行36cm、深さ8cm程で楕円形と想定されるプランを有する掘り込みである。上述のように袖石を据えていたと思われるが、袖等は確認できなかった。煙道も確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 少量の土師器と、椀(926・927)等の須恵器、酸化焙焼成の羽釜(928・929)が出土した。926は北東床上から、927・928・929はカマドの燃焼面からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀前葉と推定する。

155住居(第220・303図、PL.89・174)

検出位置 67区R・S 20グリッドで検出した。4区東部の住居集中域の南東寄りに位置する。

重複関係 56・57住居、43溝と重複するが、155住居→43溝→56・57住居の順に新しい。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また、4層(暗褐色土)は所謂三角堆積層であり、土葺材の可能性が考慮される。

壁 西壁の過半と南壁の西部が56住居に、北壁の殆どが57住居に壊されているため全容は詳らかでないが、残存部分から推して横長の隅丸台形を呈するものと想定される。残存長は南北で2.70m、東西で2.10mを測る。深さは36cm程であった。

床面 若干の凹凸の有る掘り方を有し、これを褐色土で埋め戻して平坦な床面を造っている。

柱穴 検出できなかった。

カマド 東壁の南寄りに造られる。屋外に径106×47cm、深さ13cmの西に張り出す不整形の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを褐色土や暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。焚口部周辺から燃焼部にかけて、底面は炭化物の分布が見られる。燃焼部奥壁には、円礫を鳥居状に施し煙道口部を補強している。煙道は地山土を掘り抜きトンネルとしている。長さは134cmを測り、幅は15cmを測る。煙道の端部は、遺構確認面で楕円形状の開口がある。この開口部の規模は47×38cmである。煙道の

底面は平均斜度12°程で、緩やかに開口部直下まで延びている。15cmを測る掘り込み部分の底面はほぼ水平である。カマド中軸線の方位はN83°Wを向き、煙道の軸線方位はN80°Wを指している。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 出土遺物は少なく、釜(932)等を含む僅かな土師器と、須恵器杯(930)を出土したに過ぎない。932は住居北部から、930はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉と推定する。

156住居(第148図、PL.64)

検出位置 77区R 4グリッドで検出した。4区東部やや北寄りに位置する。

重複関係 41・50住居と重複するが、何れに対しても本住居の方が古い。

覆土 確認面から床面までが浅いため不明。

壁 北西部の一部が確認されたに過ぎなかったが、本住居は方形プランを呈するものと想定される。

床面 掘り方の有無等は確認できなかった。

柱穴 確認できなかった。

カマド 確認できなかった。

貯蔵穴 確認できなかった。

遺物 50住居と一括調査されているが、本住居出土の遺物は特定できない。

時代・時期 出土遺物の特徴と重複関係から、本住居は10世紀後葉以前の所産と把握できるに過ぎない。

その他 本住居は住居として取り上げたが、竪穴遺構である可能性も考慮される。

竪穴(第221図)

4区2面では6棟の竪穴建物を確認した。このうち7竪穴が4区中北部に、9竪穴が4区中南部西寄りに、それ以外は中部北東寄りに在る。このうち、9竪穴は周囲の住居と違う軸線によって建てられ、住居や土坑がこれを避けるように分布している。

またこれらの時期は10世紀の範囲に入ると想定され、10世紀中葉に特定されたもの2棟と、後葉に特定されたものが1棟あった。

7竪穴(第222・303図、PL.89・174)

検出位置 78区B 7・8グリッドで検出した。4区中北部に位置する。

重複関係 91土坑と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

覆土 シルト質の褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。3層(黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 平面形状は隅丸長方形を呈する。南北は3.55m、東西は2.64m、深さは42cmを測る。長軸の方位はN1°Wである。

底面 掘り方を褐色シルト質土で埋め戻して床面を造っている。床面はやや凹凸が見られる。

掘り方 南西—北東方向に段差が走り、南東側に比べ北西側が10cm程低くなる掘り方を有する。掘り方の北西隅部には径35×29cm、深さ23cmを測る楕円形のプランを呈する掘り込みが在った。

遺物 遺物は少なかったが、杯(933)等の須恵器、小型甕(934)等の土師器、酸化焰焼成の羽釜(935—937)が出土した。何れも覆土中からの出土であったが、933は北壁沿い中央付近、934・935・936・937は南寄り東壁前からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中葉の所産と推定する。

9竪穴(第222図、PL.90)

検出位置 78区G・H 6・7グリッドで検出した。4区南西部の住居集中域のやや東寄りに位置する。

重複関係 25溝と重複するが、本竪穴の方が古い。

覆土 確認面から床面まで浅く、また25溝と重複していたため不明。

壁 平面形状は、東西壁が僅かに時計回りに傾く、隅丸平行四辺形を呈する。東西は4.19m、南北は4.06m、深さは21cmを測る。長軸の方位はN41°Eである。

底面 床面は平坦であった。

掘り方 確認されなかった。

遺物 遺物は見られなかった。

時代・時期 重複関係から10世紀中葉以前とできるだけで、時期の特定には至らなかった。

10竪穴(第223・304図、PL.90・174)

検出位置 77区R・S5・6グリッドで検出した。4区中東部やや北寄りに位置する。

重複関係 13竪穴、43・44溝と重複する。何れに対しても本竪穴が新しい。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。2層(にぶい・橙色土)は所謂三角堆積層である。

壁 東壁北半がやや欠け気味である。平面形状は、南東・南西隅の丸みが弱い南北に長い隅丸長方形を呈する。南北は4.31m、東西は3.57m、深さは34cmを測る。長軸の方位はN7°Wである。

底面 掘り方をシルト質の暗褐色で埋め戻して床面を造っている。床面は多少中東部や南西部が低いものの、概ね平坦である。

掘り方 西壁沿いの中・南部と、中部東寄りに9cm以下の掘り込みが見られる。

遺物 少量の土師器、須恵器片が出土した他、東壁沿い南寄りから鉄製鎌(938)が出土した。

時代・時期 時期は特定できなかったが、凡そ10世紀頃の所産と推測される。

11竪穴(第223・304図、PL.90)

検出位置 77区S・T5グリッドで検出した。4区中東部やや北寄りに位置する。

重複関係 13竪穴、417・419土坑と重複する。何れに対しても本住居の方が新しい。

覆土 3層上面を床面とした時期と、7層上面を床面とした時期の2時期が在った可能性がある。前者は褐色土、黄褐色土で埋没し、堆積状態から共に自然埋没と推定する。後者は褐色土やにぶい褐色土で恐らく人為的に埋められている。尚、2層(黄褐色土)は所謂三角堆積層である。

壁 東壁(約3m)に対して西壁(約2.7m)がやや狭い。また掘り過ぎによって南北壁が半ばから南西・北西隅に向かって弱く屈曲する。全体として見れば、壁面ラインは概ね隅丸形状を呈している。南東・南西隅の丸みが弱い南北に長い隅丸長方形を呈する。南北は3.06m、東西は3.06m、深さは30cmを測る。長軸の方位はN11°Wである。

底面 図示した床面は3層上面であり、褐色土やにぶい褐色土で埋めて床面が造られている。床面は5cm以内の高差で僅かな凹凸が見られるが、概ね平らである。7層上面を床面とする場合は、掘り方を、部分的に橙色土で埋め、その上に黄褐色土を埋め戻して床面を造っている。

掘り方 (当初の)掘り方は概ね平坦であり、東壁際に12cm以下の土坑状の掘り込みが3箇所ある。

遺物 甕(942)等の土師器と、杯(939)・椀(940)等少量の須恵器、そして灰桶陶器椀(941)の出土が見られた。出土位置は941が住居東南隅部南壁際から出土した以外は、掘り方東南隅部からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後葉頃の所産と推定する。

12竪穴(第224・304・305図、PL.90・174)

検出位置 77区S・T7・8グリッドで検出した。4区中部北東寄りに位置する。

重複関係 43・46住居、421土坑と重複するが、何れに対しても本竪穴の方が古い。

覆土 褐色土と灰褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東西両側が43・46住居に削られて東西壁が失われているため、全容は詳らかにできないが、南壁は弧状に近く、北壁は直線的である。残存範囲の長軸の方位はN1°Wである。

底面 底面は、掘り方埋土の4・5層上面を床面とし、残存する部分では、浅い凹凸が多い。

掘り方 掘り方中央南壁寄りの「掘り残し」は、図中全て落ち込み表現になっている。

遺物 杯(943~950)・椀(951~956)・羽釜(961・962)等の須恵器や、小型甕(957)・羽釜(958~960)・甕(963)等の土師器が出土した。これらは943~956・958・959・961・962が床・南壁近くで出土し、残存する建物の中東部で957、掘り方北東隅付近から960が出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴と重複関係から推して、本竪穴は10世紀後半以前の所産と推定する。

13竪穴(第224・305図、PL.91・174)

検出位置 77区S・T5・6グリッドで検出した。4区

中東部やや北寄りに位置する。

重複関係 10・11竪穴、43溝と重複する。43溝→13竪穴→10・11竪穴の順に新しい。

覆土 褐色土と暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東壁の中・北部と北壁の東部が10竪穴に、西壁の中・南部は11竪穴に壊されて確認できなかった。残存部から推して、平面形状は、南北に長い隅丸長方形を呈すると判断される。長軸の方位はN5°Wである。

底面 床面は、北壁寄りが12cm程高いが、概ね平坦である。

掘り方 凹凸はあまり見られないが、中央に径82以上×90cm、深さ20cm、その南東に径58×49cm、深さ24cmを測る。共に楕円形のプランを呈する。

遺物 少量の小型壺(966)等の土師器と、杯(964)等の須恵器、及び灰軸陶器段皿が(965)出土した。964は竪穴南東部から、965は10竪穴との重複箇所から、966は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀中頃頃の所産と推定する。

16溝(第225・306図、PL.91・175)

検出位置 78区D～F 8～15グリッドで検出した。4区北西隅に在る。調査区北壁に沿って略東南流した後、略南流する溝である。

重複関係 24・38溝と重複する。両溝とも本溝を越えて確認されなかったことから同時期の可能性を持つが、覆土の観察から、24溝は本溝より古いものとしても捉えられる。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。上位層(1～3層)は粘質土で、中位層(4～6層)は中砂質土、下位層は粘性土やシルト質土である。特に6層土はAs-B軽石・火山灰の二次堆積層であり、天仁元年(1008)浅間山噴火火山災害直後の洪水層に伴うものと判断される。埋め土は自然埋没と推定する。

壁 北端の略東南流箇所は北半が調査区外で確認できず、南端は上位層の1河道に達して失われ、以南の様子は不明である。最北西端はN151°Eの軸線方向で調査区に入り、7.3m程走ったところで、逆時計回りに屈曲して、N85°方向に転じて2.8m程走って、再びS55°Eに転じ

て3m程走ってから4m掛けて緩やかにS7°W方向に転じて確認範囲の南端部まで、直線的に走っている。細かく見ると走行には多少の蛇行は見られるものの、全体としては直線的である。また壁面の立ち上がりは概ね逆「ハ」の字状であるが、24溝との重複付近では東壁は63°、西壁は40°を測り、南端付近では東壁は39°、西壁は68°の傾斜であった。南寄りの相対する東西両壁にテラスが残るが、東壁のテラスは幅45cm、底面からの比高差22cm、長さ6.38mを測り、西壁のテラスは幅20cm、底面との比高差20cm程、長さ3.51mを測った。

底面 略東南流箇所は底面には凹凸がある。西端から2.48mの地点から11.40mの間は長楕円形様の窪みがあり、西端及び南壁突出部に対して、窪みは17～21cm程低く、窪みの中は西端から7.88m以東では直近の底面から16cm低くなり、東端では楕円形プランに更に8cmほど低くなっている。一方、略南流部分の底面はほぼ平坦である。溝の最西端の底面標高は127.73m、窪み部分の中心は127.52m、屈曲部付近で127.67mを測る。徐々に高くなって行くが、24・38溝重複箇所前後では127.90mを超える高さとなっている。そして南端に近くなって徐々に下がり、南端の標高は127.82cmとなっている。従って流水が有ったとしても、その方向は南北何れになるか特定できないことから、通水を目的とした溝ではないことが考えられる。

遺物 出土遺物は多くなかったが、杯(969)・椀(970・971)等の須恵器、小型壺(972)・台付壺(973)等の土師器、少量の灰軸陶器片と、円筒埴輪と見られるもの(974)を含む埴輪片が出土した。このうち969・970・973は溝北部の屈曲部南東付近からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、本溝は10世紀中葉の所産と推定する。

その他 土層堆積状況、及び底面の標高の比較からは、常時の通水が有ったようには見られない。また7・8層で埋没しかけた後、5・6層に見られるように、As-以降後早い段階での洪水を受けている。

23溝(第229・306図、PL.91)

検出位置 78区C・D 7～11グリッドで検出した。4区中北部西寄りに位置する、略南北に走行する溝である。

重複関係 44住居、29溝と重複するが、44住居→23溝、

第4章 検出された遺構と遺物

29溝→23溝の順に新しい。また上述の16溝の東に、2m程隔たって平行する。

覆土 暗褐色土、褐色土で埋没するが、自然埋没と推定する。

壁 南側は29溝と一括で掘削された為明瞭ではなく、北側も削られて失われているため、全容は詳らかにできなかった。壁面の立ち上がりは30～40°程の傾斜を測る逆「ハ」の字状で、壁面ラインは北端N16°E、中程でN10°E、南端でN0°Eを示す、西側に弱く張り出す弧状のプランを呈する。本溝は長さ20.43m、上面幅77～148cm、深さ22cm以下を測る。

底面 底面の横断面形は丸底気味である。底面幅は37～111cmを測る。底面は若干凹凸はあるが最南端で標高128.42mを測るものの、途中は標高128.45～128.51mであり、特段の高低差は認められなかった。

遺物 出土遺物は少量であり、土師器、椀(973)等の須恵器、緑釉陶器段皿(979)、埴輪片が出土した。

時代・時期 出土遺物は10世紀中葉という時期を示しているが、重複関係から推して10世紀後葉以降の所産と推定する。

その他 覆土や遺構の状況からも流水の痕跡は確認されない。

24溝(第231図、PL.91)

検出位置 78区E・F11グリッドで検出した。4区中北西部東寄りに位置する、略東北東—西南西に走行する溝である。

重複関係 16溝と重複し、本溝の方が古いと見られるが、本溝は16溝を越えて確認されていないことから同時期のものである可能性もある。

覆土 褐灰色細砂粒・シルト質土(1層)、黒色細砂粒土(2層)で埋没する。自然埋没と推定する。少なくとも1層土(褐灰色細砂粒土)は流水による堆積であると認められる。

壁 東は16溝と重複し、西は1河道に切られているため、一部を調査できたに過ぎない。壁面は40～60°程の傾斜を測る。走行は緩やかに蛇行しているが、全体の軸線方向はN15°Eを示す。本溝の長さ6.47m、上面幅47cmを測る。

底面 底面の横断面形は丸底気味である。底面幅は28cm

程、深さは10～20cmを測る。底面は若干の凹凸はあるが、底面高は標高128.54～128.59mを測る。しかし底面の高さは東から高低高低であり、中程の標高128.45～128.51mであるなど、流水の方向は特定できない。

遺物 土師器片、須恵器片等少量の遺物が出土した。図示するものは得られなかった。

時代・時期 重複関係から、本溝は10世紀以前の所産と推定できるだけである。

その他 1層などから流水の痕跡が確認される。しかし、このことが本溝の掘削意図を示すものとは限らない。

25溝(第227図、PL.92)

検出位置 78区E・F11グリッドで検出した。4区中北西部東寄りに位置する、略東北東—西南西に走行する溝である。

重複関係 26・27・89住居、9竅穴と重複する。89住居→25溝→27住居→26住居、9竅穴→25溝の順に新しい。

覆土 最下層に南壁の崩落土である明褐色土が堆積し、その上に黒褐色・灰褐色・褐色のシルト質土が埋没する。

壁 東が1河道に切れ、西側は26・27住居と重複し、更に調査区外に伸びていると見られるため全容は詳らかでない。崩落の無かった北壁面は33°程の傾斜を測る、逆「ハ」の字状を呈する。走行は極緩やかに蛇行しているが、全体としては直線に近く、軸線方向はN88°Eを示す。本溝は長さ17.98m、上面幅216～242cmである。また、底面幅は東端部から5.2m程では120～130cmであるが、東端から8.3m付近で38cm程と狭くなり、以西で再び広がって、西端3.2mの範囲で203cm程を測るほどに広がる。この東寄りで底面幅が狭くなる箇所は主に北側からせり出しており、このせり出しは北壁では長さ1.3m、南壁では3.4mの範囲で見られ、最狭部からの長さは南北壁共に西側では0.6mを測る。

底面 底面の横断面形は平底に近い。底面幅38～203cm、深さは31cm以下を測る。底面は西端部が高い。標高は漸移的に上下し、西端で標高128.32m、東端127.87mを測る。

遺物 須恵器片と少量の灰釉陶器片が出土したが、図示するものは得られなかった。

時代・時期 重複遺構との関係から推して、本住居は10世紀中葉の所産と推定する。

その他 流水の痕跡は確認されなかったが、通水した場合は西から東へとなる。また、1河道の東側には伸びていないため、当時の1河道を意識して掘削された可能性が考慮される。また本溝の西には26・27・89住居が重複するものの、南側の91・140・141・143・144住居、171・172土坑が、本溝より1～5m程離れて位置することから、本溝或いは9窪穴の周辺に、土地利用の規制があったことが窺われる。

26溝(第226・306図、PL.92)

検出位置 78区H～J11・12グリッドで検出した。4区南西端近くに位置する、略東西方向に走行する。

重複関係 163・386土坑と重複する。尚、北側に2.5～3m隔てて27溝が並走している。

覆土 褐色・黒褐色・暗褐色シルト質土で埋没する。覆土からは流水の痕跡は認められない。

壁 東が1河道に切られ、西側は調査区外に出るが、西方に延伸して1区に続いている。壁面は38°程の傾斜を測るが、東西両側部を除いて、南壁の底面から20cm程の高さに、幅146cm以下のテラス状段差が認められている。壁面の形状は全体としては逆「ハ」の字状を呈するが、南北壁それぞれに弱い蛇行が見られ、東から狭、広、狭、広となっている。軸線方向はN77°Eを示す。本溝の長さは15.98m、上面幅130～311cmを測る。

底面 底面の横断面形は平底気味である。底面幅53～173cm、深さは64cm以下である。底面は若干の凹凸はあるが、全体的には東端部が高く、底面高は標高127.98～128.22mを測り、仮に通水があった場合は西に向かって流される。また底面幅は、テラス状段差の有る部分では狭まり、無い部分では広がっている。

遺物 出土遺物は少なかったが、土師器片や、杯(980)・椀(981)等の須恵器が出土した。また上層から、クヌギ節を含む炭化物が出土した。

時代・時期 出土遺物から推して、10世紀頃以前の所産と推定されるに過ぎない。

その他 本溝には流水の痕跡は確認されなかった。また1河道を越えないことから、その掘削には1河道(その位置に在った溝)を意識して掘削された可能性が思慮される。一方、覆土から当初掘削面(8・9層下面)と、上面幅180cm、深さ45cmを測る廃絶段階の面(6・7層下面)

が観察されることから、一定程度埋没した段階で、掘り直されたことが窺われる。

27溝(第226・307図、PL.92・175)

検出位置 78区1～K12・13グリッドで検出した。4区南西端近くに位置する、略東西方向に走行する。

重複関係 72住居、76・77・389・390・396土坑と重複する。27溝→72住居→396土坑、27溝→76・77土坑の順に新しい。尚、南側に2.5～3m隔てて26溝が並走して在る。

覆土 暗褐色土、褐色土、黒褐色土、黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また覆土からは流水の痕跡は認められない。

壁 東が1河道に切られ、西側は72住居と重複し、更に調査区外に延びて、1区に続いている。土層断面から、新旧2期の遺構が把握される。旧段階の壁面の傾斜は、西部では底部付近では56°であるが、底面から12cm程で幅33～86cm、残存長4.7m程のテラス状の段差が認められ、その北側は20°程の傾斜で立ち上がる。テラスの中程、内側肩部には、径49×35cm、深さ10cmを測る南壁が失われたピット状の掘り込みが残っている。一方、新段階での壁面の傾斜は57°程を測る。走行は、南壁では弱い蛇行が見られるものの、全体的にはN80°E方向に直線的な状態を呈する。一方北壁も弱い蛇行は見られるが、西端部では1m以下の短い範囲で、その軸線方向がN105°E、N94°E、N72°Eと連続的に屈曲し、以東では後者の軸線方向で走っている。本溝の長さは11.56m、上面幅270～362cmを測る。

底面 底面西寄りにP1・2が調査されている。深さは-11～-25cmであり、遺構確認面からは-56cmを測る。このことから、ピットを掘削した当時の地表面からの掘削と考えるには不合理であると考えられる。恐らく、27溝底面から掘削されたと判断される。上記のことから、当該溝に伴う施設の可能性が高い。また溝の走行に直交する状態に配置されていることからすると、P1・2は溝に架けられた橋脚柱の掘り方ピットと考えられる。この場合、橋は一本橋であったことが推定される。底面は僅かな凹凸は見られるが、平底状を呈する。底面幅122～303cm、深さは55cm以下である。全体的には26溝同様、東端部が高く、底面高は標高128.23～128.33mを測り、仮に通水があった場合は西に向かって流れるが、底面の

傾斜は西側橋付近でやや大きくなる。

遺物 出土遺物は多くなかった、若干の土師器片や、耳皿(982)・杯(983・984)・椀(985～990)等の須恵器、椀(991)等の僅かな灰軸陶器が出土した。このうち982・989は西端部から、983は溝の中央壁面寄りと東寄りから、986・990は東寄りから、987は東端部からの出土である。

時代・時期 出土遺物から推して10世紀後葉の所産と推定する。

その他 本溝には流水の痕跡は確認されなかった。また1河道を越えないことから、1河道を意識して掘削された可能性が思慮される。一方、覆土の観察から、本溝は当初掘削段階(7～10層下面)と、掘り直しの段階(4・5層下面)があったことが確認されているが、掘り直しの掘り込みは、当初の掘り込みより南に寄って掘削されたことが確認された。

28溝(第232図、PL.92)

検出位置 77区T6～9、78区A・B8～10グリッドで検出した。4区中北部に位置する、略西北西～東南東方向に走行する溝である。

重複関係 46・47・63住居、39溝、413・424土坑と重複する。39溝→47・63住居→28溝→46住居の順に新しい。尚、本溝は1河道の東に17m隔てて在り、1河道に並走して在る。

覆土 壁面が崩落した褐色土と黒褐色土、黄褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また覆土からは流水の痕跡は認められない。

壁 北寄りがトレンチによって2.1m程の範囲が失われていたが、ほぼ全容は確認できた。走行は若干の蛇行は見られるが、比較的直線的である。また軸線方向は、北端から7.7mの区間はN33°W、南端から5mの区間の軸線方位はN18°Wであるが、大半の区間はN18°Wに軸線を向く。また南端部は南東方向に分岐するような痕跡が見られた。本溝の長さは28.91m、上面幅41～98cmを測る。尚、南端部の分岐部分の上幅は44cm程で、長さ1.82m程の長さが残る。

底面 底面は平底状を呈するが、中位を中心に細かいピット状の凹凸は見られる。ピット状の掘り込みの配置には規則性はなく、流水によるものと想定される。底面幅14～68cm、深さは32cm以下である。また南端部の分岐部

分では、長さ2.8m程の範囲で高さ5cm程浅く掘り残されているが、環に似た構造の可能性も思慮される。底面高は標高128.28～128.51mを測るが、高低に規則性はない。従って底面から流水の方向を特定することは難しい。

遺物 土師器片や須恵器片等の少量の出土遺物が得られた。しかしながら、これらの遺物には図化するべきものは見られなかった。

時代・時期 新旧関係から推して、本溝は凡そ10世紀後葉の所産と推定される。

その他 底面形態等から推して、本溝は水路であった可能性が考慮される。

29溝(第229・307図、PL.93)

検出位置 68区C20、78区C・D1～8グリッドで検出した。4区中・南部に位置する。1河道(1面)に沿って走行する、略南北走行の溝である。

重複関係 23・37溝と重複する。29溝→23溝の順に新しい。

覆土 暗褐色・明褐色シルト質土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また覆土からは流水の痕跡は認められない。

壁 西壁が1河道と重複してやや不明瞭な箇所が有り、中北部から中部にかけての東壁は1面の17溝に切れ、また南側が調査区外に延びているため全容は詳らかでない。壁面の傾斜は一定せず、北部は鈍角で、中部は鋭角、南部と中央部東壁はその中間の傾斜を成している。走行は緩やかな蛇行を見せるが、全体的な軸線方向はN3°Wである。本溝の長さは12.52m、上面幅120～224cmを測る。尚、南端部の東壁付近に2条の分岐溝の痕跡と見られるものがあり、この部分の溝の上幅は282cmを測り、東側の分岐溝は上幅は73cm、下幅62cm、深さ70cm、西側のものは上幅45cm、下幅23cm、深さ65cmを測る。

底面 底面は一定せず、広狭があり、底面は比較的平底気味だが、凹凸が見られる。底面幅40～183cm、深さは55cm以下である。全体的には26溝同様、東高西低で、底面高は標高127.79～128.47mを測り、高低に一貫性はないが、どちらかというとな端部が高く、仮に通水した場合は南流するものと想像される。本溝の北側部分は、緩やかな曲線を描いている。この緩やかな曲線状に走行する状態は、同部で走行する16溝の走行状態に等しい。こ

のことから16溝と併存していた可能性が高い。

遺物 土師器片や、杯(992)等の須臾器が出土した。尚、992は溝の中程からの出土である。

時代・時期 出土遺物と重複関係から推して10世紀前半頃の所産と推定する。

その他 底面経緯から流水の痕跡が窺われることから、水路としての使用の可能性が考慮される。

36溝(第233図、PL.92)

検出位置 68区S・T19・20、78区A～C1グリッドで検出した。4区南東部に位置する。

重複関係 34・56住居、45溝、286土坑と重複する。36溝→56住居→34住居、36溝→286土坑の順に新しい。

覆土 シルト質の暗褐色土、暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、覆土から流水の痕跡は確認されない。

壁 本溝は南側が調査区外に出ており、調査区内に於いても34・56住居、286土坑や掘乱で壊されている箇所が多いため全容は詳らかでない。壁面の傾斜角は測定可能範囲で51°を測る。本溝の走行は緩やかな蛇行を見せて、溝の幅も一定せず広狭がある。全体的な軸線は南端でN60°W、N86°W、N39°Wと短い間に変化して蛇行し、この蛇行の終了位置から西端部でN83°W方向に軸線が向くまでは、時計回りに大きく弧状のプランを描いている。尚、西寄りの286土坑等の重複付近から西側60cm以上の間は、溝が途絶える区間がある。本溝の長さは、この途絶区間を含めると全長11.65m、上面幅25～84cmを測る。

底面 底面は部分的に凹凸が見られるものの、比較的平底気味を呈しており、底面幅も上面幅に伴って広狭がある。底面幅6～57cm、深さは12cm以下を測る。底面高は標高128.29～128.45mを測るが、全体としてみれば西側に比し南側が弱い。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時代・時期 重複関係から推して10世紀後葉以前の所産と推定されるに過ぎない。

その他 溝が途絶することから、水路としての可能性は考慮されない。

38溝a(第231図、PL.93)

検出位置 78区B～D11・12グリッドで検出した。4区北西部東寄りに位置する。

重複関係 16溝と重複する。本溝は16溝を越えて確認されなかったことから、同時期の可能性を持つが明らかではない。南側に38溝bが0～8cm程隔たって並走している。

覆土 確認面から底面まで浅いため不明。

壁 東端は調査区外に出ており、西端も16溝と重複して確認できなかったため全容は詳らかでないが、西端が16溝左岸壁面に接して設けられる、幅137cm、奥行76cm、深さ19cmを測る、半円形プランの掘り込みに接し、ここからS30°E方向に発して、部分的に直線状を呈するものの、全体的には逆時計回りの走行を呈して、東端ではE13°Sの方位で抜けている。南壁面はこれに従って緩やかな弧状を呈しているが、北壁の西半部では蛇行が見られる。本溝の長さは11.01m、上面幅30～74cmを測る。

底面 底面に平底を呈する。底面幅11～53cm、深さは4cm以下を測る。底面の標高は128.34～128.37mを測るが、通水した場合の流水の方向は特定できなかった。

遺物 得られなかった。

時代・時期 16溝と同時期とすれば、10世紀中葉の所産ということになるが、時期の特定には至らなかった。

その他 掘削意図を想定することはできなかった。

38溝b(第231図、PL.93)

検出位置 78区C・D7・8グリッドで検出した。4区中部北西寄りに位置する。

重複関係 16溝と重複する。37溝→23溝、29溝→23溝の順に新しい。本溝は16溝を越えて確認されなかったことから、同時期の可能性を持つが明らかではない。北側に38溝aが0～8cm程隔たって並走している。

覆土 確認面から底面まで浅いため不明。

壁 東端は調査区外に出ており、西端も16溝左岸の掘り込みと重複して、全容は詳らかでない。壁面の傾斜は°程である。走行は緩やかな弧状を描いている。軸線方向は西端でN40°Wで、逆時計回りの弧状を描いて、東端でN51°Wを指す。本溝の長さは4.05m、上面幅16cm程を測る。

底面 底面はほぼ平底であるが、若干の広狭がある。底

面幅5~14cm、深さは7cm以下を測る。底面の標高は128.36~128.38mを測り、ほぼ平坦であった。

遺物 得られなかった。

時代・時期 16溝と同時期とすれば、10世紀中葉の所産ということになるが、時期の特定には至らなかった。

その他 掘削意図を想定することはできなかった。

39溝(第228・307図、PL.93)

検出位置 77区R~T6グリッドで検出した。4区中部北西寄りに位置する。

重複関係 47住居、28・43・44溝、418・424土坑と重複する。43・44溝→39溝→418土坑→47住居→28溝、424土坑→39溝の順に新しい。

覆土 褐色土や暗褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、覆土に於いて流水の痕跡は確認されない。

壁 西側が47住居等に壊されているため全容は詳らかでないが、壁面の傾斜は66°以下である。走行は緩やかに蛇行するが、全体としては直線的なプランを見せ、軸線方向は西端でN80°Eを測る。本溝の長さは8.25m、上面幅136~204cm程を測る。

底面 底面はやや船底形の形状を呈し、底面幅は中程で狭くなる。底面幅52~102cm、深さは52cm以下を測る。底面の標高は127.86~128.11mを測り、中央はやや低く、西端は高い。

遺物 少量の土師器や、中央やや東よりの北壁際から出土した甕(994)等の須恵器、灰釉陶器碗(993)といった少量の出土遺物があった。

時代・時期 出土遺物と重複関係から推して10世紀中葉頃の所産と推定される。

その他 本溝は、比較的狭い範囲に確認されることから、水路ではなく、空間を遮断する意図を持って掘削されたものと思慮される。

42溝(第227・307図、PL.93・175)

検出位置 78区J・K10グリッドで検出した。4区南西部に位置する。

重複関係 74住居、165土坑と重複する。42溝→74住居・165土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色土やぶい黄褐色土で埋没する。堆積状態

から自然埋没と推定する。尚、覆土に於いて流水の痕跡は確認されない。

壁 東側が74住居と重複し、西側は調査区外に在るため全容は詳らかでない。壁面の傾斜は54°以下である。走行は緩やかに蛇行するが、全体としては直線的である。しかし東端で反時計回りに大きく走行を転ずる様子が窺われる。軸線の方向はN51°E、東端でN27°Eを測る。北壁の2箇所に、小さいテラス状が底面より14cmの高さで残るが、この位置で北壁は160の間隔で30~40cm程迫り出し、対面の南壁もcm程の間隔で同程度に迫り出している。本溝の長さは4.48m、上面幅110~163cm程を測る。

底面 底面は平底状を呈し、底面幅50~126cm、深さ27cm以下を測る。底面幅は上述部の壁面の突出部で狭くなる。底面の標高は128.37~128.47mを測るが、調査範囲では、上述の壁面の突出部のうち西側のものの直近東側が低くなっていた。

遺物 不明鉄製品(995)一点が出土したに過ぎなかった。

時代・時期 重複関係から推して10世紀中葉頃の所産と推定される。

その他 本溝の掘削意図は特定できなかった。

43溝(第228図、PL.93)

検出位置 67区R19・20グリッド、77区R・S1~7グリッドで検出した。4区北東部に位置する、略南北走行の溝である。

重複関係 43・51・57・58・59・68・155住居、10・13竪穴、39溝、423・426土坑と重複する。新旧の特定はできなかった426土坑を除いて、何れの遺構に対しても本溝の方が古い。東に50~241cm隔たって44溝が並走している。

覆土 暗褐色土や褐色土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。尚、覆土に於いて流水の痕跡は確認されない。

壁 南端は調査区外に出ており、北端も43住居に壊されて失われ、その他の遺構との重複もあって失われており、調査区内にあっても凡そ半分ほどが調査できたに過ぎないため、全容は詳らかでない。壁面の傾斜は40°ほどである。走行は東壁を中心に緩やかに蛇行し、全体としても極緩やかな蛇行が見られる。全体としての軸線方向はN3°Wを測る。本溝の長さは39.23m、上面幅42~106cmを測る。

底面 底面は平底状を呈し、底面幅28～77cm、深さ27cm以下を測る。底面の標高は128.08～128.27mを測るが、全体的には北端部が高い。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 重複関係から推して、本溝は10世紀中葉以前の所産と推定されるに過ぎず、時期の特定には至らなかった。

その他 本溝の掘削意図は特定できなかった。

44溝(第228図、PL.93)

検出位置 67区R19・20グリッド、77区R・S1～8グリッドで検出した。4区北東部に位置する。

重複関係 31・32・40・43・60住居、10竈穴、39溝と重複する。何れも、本溝より新しい。高、本溝は66住居に先行して掘削されているが、他の遺構との重複関係から、66住居の方が新しいと解釈される。また西に50～241cm隔たった地点に44溝が並走している。

覆土 一部底面に壁面の崩落土(シルト質の明褐色・暗褐色・にぶい褐色土)が堆積し、その上にシルト質の暗褐色・黒褐色土が堆積して埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、覆土に流水の痕跡は確認されない。

壁 南端は調査区外に出ており、北端も43住居以北では確認されない。また61住居等の住居遺構等に壊されており、凡そ調査区内の三分の一程が調査できたに過ぎない。従って、全容は詳らかにできなかった。壁面の傾斜は40～45°ほどであるが、壁面は内湾している。走行は緩やかに蛇行して溝幅に広狭が見られるが、全体としても緩やかな蛇行が見られる。全体として北部で軸線方向はN16°W、中・南部ではN2°Eを測る。本溝の長さは43.45m、上面幅36～105cmを測るが、80～100cm幅が一般的であり、5グリッドラインで南北方向に4m強の範囲で狭くなる傾向が見られる。

底面 底面の横断面形は丸底を呈する。底面幅8～50cm、深さ30cm以下を測り、一定しない。底面の標高は127.94～128.12mを測るが、全体的には北端部が高い傾向が窺われる。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 重複関係から推して、本溝は10世紀中葉以前の所産と推定されるに過ぎず、時期の特定には至らなかった。

その他 本溝の掘削意図は特定できなかった。

45溝(第230・307図、PL.93・175)

検出位置 67区B・C20グリッド、77区B・C1～5グリッドで検出した。4区南東部西寄りに位置する。

重複関係 36溝、452土坑と重複する。36溝との新旧関係は確認できなかったが、452土坑に対しては本溝の方が古い。

覆土 褐色・暗褐色シルト質土等で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。また覆土に流水の痕跡は確認されない。

壁 本溝の南側は調査区外に出ており、全容は詳らかにできなかった。壁面の傾斜は60°弱の箇所が多いが、部分的に上位が45°以上開くところがある。壁面は逆「ハ」の字状に開く。走行は緩やかに蛇行して溝幅に広狭が見られるが、全体としては比較的直線的でもある。軸線方向はN3°Wを測り、南端部はN9°Eを測る。本溝の長さは26.13m、上面幅77～202cmを測るが、1m強の幅が一般的である。

底面 底面のやや丸みを持つ平底状を呈する。底面幅16～99cm、深さ60cm以下を測り、一定しないが、南北三分の一の付近で深くなり、4グリッドライン付近では、長さ75cm前後で20cm近く落ちる。底面の標高は127.77～128.25mを測るが、全体的には北端部が高い傾向が窺われる。

その他 本溝の掘削意図は特定できなかったが、底面の状況から水路に使用された可能性が考慮される。

遺物 僅かな須恵器と、碗(996)等少量の須恵器、及び鉄鏝(997)が出土した。

時代・時期 出土遺物から推して10世紀中葉の所産と推定する。

製鉄遺構(第234・255～257図)

4区2面では3基の製鉄炉と1基の鍛冶工房、そして鍛冶関連遺構と思慮される土坑1基(383土坑)を確認、調査した。このうち製鉄炉3基は、4区南西部の西壁に沿って近接して在り、鍛冶工房は4区東部のやや南東寄り、製鉄関連遺構は4区西端部に位置している。これらは10世紀後半の、比較的近接した時期のものと思慮される。

また3基の製鉄炉周辺を中心とした152住居、165・170・397・401土坑、25・42溝から製鉄関連遺物の出土を見ている。

この他、遺構は確認されなかったが、鉄滓の分析を通して、2製鉄炉周辺に鍛冶炉が設置された可能性が考慮される。

1製鉄炉¹(第235～240・308・309図、PL.94・175・176)

検出位置 78区K8・9Bグリッドで検出した。4区南西部の調査区西壁際位置する。

重複関係 85住居と重複するが、本製鉄炉の方が新しい。

概要 本製鉄炉は北西側が調査区外に在るため全容は詳らかでない。本製鉄炉では輪座の構造は確認できず、主に炉体部と前庭部を検出、調査した。また前庭部は、85住居の下位埋没後のクレータ形状になった窪みを利用しているが、この前庭部にあたる85住居部分と炉体部との接続部は「ハ」の字状に開いている。

覆土 炉体部の上位と前庭部に暗褐色土、炉体部の中位に炉壁の残骸である橙色土、炉体部の下位に鉄滓を多量に含んだ青灰色土等で埋没する。堆積状態から上位層は自然埋没の可能性を持つが、中・下位層は製鉄炉破壊によるものと推定する。

壁 炉体部の壁面は80°の傾斜で掘削され、青黒色～黒色の粘質土が貼られている。また前庭部の壁面はやや緩傾斜気味である。軸線の方はN75°Wであり、炉体部は幅140cm、奥行153cm、壁高24cmを測る。前庭部の85住居部分との接続部は幅97～167cm、奥行98cmを測り、壁高は推定60cm程である。

底面 炉体部の底面は、やはり青黒色～黒色の粘質土を貼った粘土床で、手前側に15°の角度に落として傾斜させ、整地されている。炉体部の底面は幅105cm、奥行87～98cmを測るが、前庭部との接続部で削り落とされている。

前庭部の85住居部分との接続部は幅71cm、奥行44～64cmを測る、逆「M」字形プランの、炉底部底面より19cm以上低くなる中段面があり、更にこの中段より15cm低い、85住居埋没途中の面がある。

掘り方 炉体部は凹凸の有る掘り方を有し、この掘り方底面に5～10cm、壁面に5、6cmの厚さに青黒色～黒色の粘質土を貼って壁面及び底面を造っている。また掘り方底面の地山黄褐色砂質土は、上位10～12cmは還元による、また下位は10cm以上で酸化による焼土化が見られた。

遺物 少量の土師器や黒色土器杯(999)・碗(1000)等の須恵器と、白磁碗(998)の他、台石と見られる礫石器(1001)、鉄釘(1002)や不明製鉄品(1003～1005)、羽口(1006～1009)、上段(1010・1012・1013・1026～1029)や中段(1011・1014・1030～1033)の炉壁、炉内滓(1015・1016・1034)や鉄塊系遺物(1017～1019)、流動滓(1020～1023)、炉内流動滓(1024)、炉底塊(1025)等、多量の製鉄関連製品の出土も見られた。このうち1012は大型の炉壁塊で85住居内に入る前庭部から出土しており、1002・1016・1018・1019・1024・1025・1032は炉体部から、1010は炉内粘土床から、998～1001・1006～1009・1011～1015・1022・1023・1027～1031・1033・1034は前庭部からの出土である。また85住居からの出土遺物として報告した敲石(716・717)、中段の炉壁(720)、炉内滓(721)、流動滓(722)、羽口(718・719)等も、本遺構に伴うものと判断される。

時代・時期 出土遺物と重複関係から推して、本製鉄炉は10世紀後葉以降の所産と推定する。

製鉄 本製鉄炉は西浦北型の型製鉄炉と思慮される。また出土鉄滓の分析によって、本製鉄炉では、火山岩起源の砂鉄を原料とした、炉内温度の低い砂鉄製錬が行われ、やや少留りの悪い操業が行われたという所見が得られている。

2製鉄炉²(第235・241～244・310・311図、PL.95・176・177)

検出位置 78区I・J7・8グリッドで検出した。4区南西部の調査区西壁際位置する。

重複関係 84・87住居と重複する。87住居→2製鉄炉→84住居の順に新しい。

概要 本製鉄炉の(輪座等を含む)北西側は調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、本製鉄炉は、主に炉体

と前庭部を検出、調査した。掘削範囲の奥(西)側は隅丸方形プランを呈し、ここが炉体と思慮され、その手前側(東側)が前庭部と判断される。しかし、前庭部は87住居がかなり埋没した状態の、1層土上面の窪地を前庭部として取り込んでいる。

覆土 炉内には炉壁や鉄滓等を含む黒色土が堆積し、それにかぶるように、前庭部にかけて炭化物や焼土粒を含む暗褐色土で被覆されている。

壁 壁体の壁面は42°の傾斜で掘削されている。壁面は黒色粘土で被覆されていたが、上位には焼土化が見られ、焼土は炉内側が3~6cm厚で還元し、その外側が3~7cm厚で酸化しているのが見られた。平面形状は、燃焼部は西端が調査区外に在るため不明瞭であるが、残存部から推して、凡そ横長の楕円形を呈するものと想定される。また前庭部のそれは、炉体部側で短く膨らんで、手前側は大きく膨らんでいる。後、軸線の方位はN74°Eであり、炉体部は幅75cm、奥行102cm、壁高31cmを測る。前庭部(87住居部分との接続部)は幅99~140cm、奥行379cmを測り、壁高は16cm程である。

底面 炉底は、やはり黒色粘質土を貼った粘土床である。奥側の底面は幅49cm、奥行39cmを測る。前庭部は手前寄り端部で削り落とされている。前庭部は、3~5cmの比高差のある3段の段差が設けられる。

掘り方 掘り方は、粘土貼り付けの有無が確認できただけで、形態的に使用面と大差はない。

遺物 出土遺物には、杯(1036)等の土師器、杯(1035)の須恵器、少量の灰釉陶器片等土器類や、形象埴輪片(1037)を含む埴輪片が出土した他、砥石(1038)、鉄鏝(1039)、羽口(1040~1048)、椀形鍛冶滓(1049~1052・1072・1073)、鉄塊系遺物(1053~1055・1067・1068)、炉壁片(1056~1058、1064~1066)、流動滓(1059~1063・1069~1071)等、多量の製鉄関連製品の出土も見られた。このうち1056・1052・1062は炉内から、1035~1039・1049~1063は前庭からの出土である。

時代・時期 出土遺物と重複関係から推して、本製鉄炉は10世紀後半期の所産と推定する。

製鉄 本製鉄炉は西浦北型の壱型製鉄炉と思慮される。また出土鉄滓の分析によって、本製鉄炉では、火山岩起源の砂鉄を原料とした、炉内温度の低い砂鉄製錬が行われ、やや歩留りの悪い操業が行われたという所見が得ら

れている。

3 製鉄炉(第235・245~247・311図、PL.96・177)

検出位置 78区J 8グリッドで検出した。4区南西部の調査区西壁際に位置する。

重複関係 84・85・87住居と重複する。3製鉄炉→87住居→84住居→85住居の順に新しい。

概要 本製鉄炉の北西側は調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、炉体と前庭部を検出、調査した。掘削範囲の東側は楕円形プランを呈する箇所が有り、ここが炉体で、中・西部が前庭部と判断される。また炉体は大きく削られており、確認面で、灰、焼土・炭化物ブロック、還元粘土等が、混在して現れていた。尚、炉体と前庭部の配置の方向は、1・2製鉄炉とは逆向きとなっている。

覆土 前庭部に褐色土や黄褐色土で埋没する。覆土上層の炉体寄りには鉄滓等が多く含まれる。

壁 炉体部の壁体の構造は詳らかでない。炉体部のプランは楕円形を呈し、幅40cm、奥行37cm、前庭部は縦長の弧線形を呈し、幅は中位で60cm、屈曲部で49cm、西寄りで62cmを測り、全長は120cm以上を測った。尚、前庭部の壁面の傾斜は緩傾斜である。尚軸線の方位はN88°Wである。

底面 炉底は、幅27cm、奥行32cmを測る隅丸方形のプランで、還元した粘土主体のオリープ黄色土で構築されている。前庭部は2段構造で、奥側(炉寄り)のものは炉底より7cm程低く、幅41cm、奥行44cmを測るもので、手前側は、これより4~9cm程低い、幅35cm、奥行55cm以上を測る、共に不整形プランを呈するものであった。

掘り方 壁体の掘り方の壁面は43°程の傾斜で掘削され、壁高12cm以下を測る。掘り方底面は明黄褐色洪水層土であるが、還元しており、その上にきめの細かい黒色還元砂質土、更に灰と黒色還元砂質土の混土が乗せられ、その上に炉が構築されている。

遺物 本遺構の出土遺物には少量の須恵器片や、砥石と見られる礫の砥石(1074)、羽口(1075・1076)、中段上半(1077・1078)や中段(1083)の炉壁、炉内滓(1079・1080・1084~1087・1089・1090)が出土した。このうち1074・1077~1079・1083・1084は炉内から、1075・1089は炉と前庭の境、1076・1080・1081・1085は前庭の奥側、1090は前庭の奥側と前側との境、1082・1086・1087は前

側からの出土である。

時代・時期 重複関係から推して、本製鉄炉は10世紀中葉以前の所産と推定する。

製鉄 本製鉄炉は西浦北型の堅型製鉄炉と思慮される。また出土鉄滓の分析によって、本製鉄炉では、火山岩起源の砂鉄を原料とした、炉内温度の低い砂鉄製錬が行われ、やや歩留りの悪い操業が行われたという所見が得られている。

1 鍛冶工房(第248～253・312図、PL.97・177・178)

検出位置 77区T1・2、78区A2グリッドで検出した。4区南東部に位置する。

重複関係 150住居、289・354土坑と重複する。150住居→1 鍛冶工房の順に新しい。

概要 本鍛冶工房は遺存状態が悪く、床面の一部と掘り方を確認したに過ぎない。従って、全容は詳らかでない。

覆土 確認されなかった。

壁 確認されなかった。

掘り方 掘り方を有する。掘り方には鍛冶工房の正中の南北に土坑4(径:51×44cm、深さ:6cm)、土坑2(径:95以上×77以上cm、深さ:16cm)、土坑1(径:171×165cm、深さ:46cm)、土坑6(径:103×76cm、深さ:20cm)が連なり、北西側に土坑5(径:46×35cm、深さ:16cm)、南西側に土坑3(径:91×52cm、深さ:16cm)、土坑7(径:87×37cm、深さ:21cm)の7基の土坑が掘削される。また土坑1は幅30cm以下のテラスが北東から南西にかけて3/4周する円形プラン、土坑2～5・6は楕円形様、土坑7は落花生形のプランを呈する。また、土坑1・2・4・6は重複関係にあり、土坑2→土坑1→土坑6、土坑2→土坑4の順に新しい。掘り方全体を埋め戻した土壌は確認されなかったが、それぞれの土坑は黒褐色・暗褐色・褐色・黄褐色土等、種々の土壌で埋め戻されている。また土坑1の西側に、南北39cm、東西27cmの範囲で鍛造割片の集中域が見られた。

底面 上述のように、床面も一部が確認されたにすぎないが、床面は東西3.11m、南北3.55mを測るやや隅丸の長方形プランを呈する。鍛冶工房北西寄りに鍛冶炉が設けられ、その北西には台石と見られる敷石(1101)が据えられている。また鍛冶炉の北東側には褐色粘質土の分布範囲が見られ、掘り方の土坑3の位置には鉄滓の集中域、

土坑4の位置には炭化物の面的分布が見られた。

鍛冶炉 鍛冶炉も底部が確認されたにすぎないが、炉底は径21×17cmを測る。炉底は径30cm程、深さ12cm程に浅く掘り込まれた掘り方を有し、これを黒褐色土、更に灰黄褐色土で埋め戻した上に、還元して灰黄色～灰オリブ色になった土壌を乗せて炉底を造っている。炉壁は焼土化した橙色のブロック層として、土坑1側に崩れたものが確認されている。

遺物 本鍛冶工房からは、黒色土器椀(1091)、杯(1092・1093)・椀(1094・1095)・羽釜(1096)等の須臾器、円鑊を用いた敷石(1097～1103)や、その可能性を持つもの(1104)を含む台石(1105)、不明製鉄品(1106)、鍛冶滓(1107)等の鉄滓や鍛造割片等の出土が見られた。このうち1101は上述のように床面から出土しているが、1092・1093・1103は土坑1から、1104・1106は土坑2から、1098は土坑6から、1094は掘り方南壁際中央部からの出土である。

時代・時期 出土遺物と重複関係から推して、本製鉄炉は10世紀後半の所産と推定される。

鍛冶関連遺構(383土坑)(第254・312図、PL.178)

検出位置 78区I・J14グリッドで検出した。4区西端部に位置する。

重複関係 75住居と重複するが、本遺構の方が新しい。

概要 本遺構は、発掘調査段階では土坑として処理したが、粘土、焼土、灰、鉄等が充填するように出土していたため、製鉄炉の炉底の可能性のあるものと判断したものである。しかし製鉄炉と捉えた場合であっても、炉体の構造等は確認できていない。

覆土 上位層、下位層共に、外周に粘土や焼土、一部炭化物が分布し、内面に灰や鉄当が遺存する傾向が見られた。

壁 掘り込みの壁面は緩傾斜を呈している。平面形状は凡そ隅丸方形を呈し、東西100cm、南北104cm、深さ8cmを測る。

底面 底面は75住居の覆土の黄灰色砂質土であるが、被熱の痕跡が見られた。底面の掘削形態は平坦である。

遺物 本遺構からの出土遺物は南西部から出土した杯(1108)等、少量の須臾器が出土したに過ぎない。

時代・時期 出土遺物から推して、本遺構は11世紀前葉

の所産と推定される。

その他の鍛冶関連遺構

(第234・255～257図)

検出位置 78区I・J7・8グリッド付近。4区西部の調査区西壁際付近。

重複関係 2製鉄炉付近を想定、2・3製鉄炉より古いと思慮される。

概要 発掘調査時点で、2製鉄炉付近で鍛冶炉に伴うと判断された鉄滓が確認された。このため遺構の確認に努めたが、遺構としての鍛冶炉を確認することができなかった。

遺物 2製鉄炉出土遺物として取り上げた、羽口(1042)、椀型鍛冶滓(1049～1052)は、製鉄炉周辺の鍛冶工房からの出土と見られる。

18畠(第258図)

検出位置 78区J・K11グリッドで検出した。4区西部に位置する。

重複関係 本畠は26溝と重複するが、新旧は特定できなかった。

覆土 サクはHr-FAやAs-Cを含むにふい黄褐色土で埋没する。

壁 略南北走行のサク5条を確認した。壁面は開き気味である。北側が26溝と重複して確認できないため、全容は詳らかでないが、サクの形状は短冊状のU字形のプランを呈する。サクは残長0.76～1.83m、平均1.21m、幅20～38cm、平均30.6cmを測る。また畝間は、0.16～0.62m、平均0.41mを測る。軸線の方位は凡そN9°Wである。

底面 底面は壁面と一体になって弧状を呈するが、底面の横断面形は丸底状を呈する。

遺物 なし。

時代・時期 覆土から推して、本畠は6～11世紀の所産として把握されるに過ぎない。

2面土坑群(第259～266・313～315図、PL.98～104・178・179)

分布 4区2面の土坑は1河道を境に東西に分かれて分布する。1河道以東では409土坑が78区C8グリッド、407土坑が78区A4グリッドに離れて位置する以外は、77区T9・R2、68区A19グリッドを結ぶライン付近に

分布しており、286～300・355～357・360～363・365・401～406・408・410～427・429・437・438・450～453土坑が分布している。一方、1河道の西側には149・163～166・168～173・381～400・422・431～436・440・445～447・460土坑が分布する。その分布に偏りは見られないが、384・393・149・400土坑がほぼ東西に、直線的、且つ連続的に掘削されている。

規格・規模 土坑群の個々の土坑の規格等は表17に記したとおりであるが、平面の径は43～480cmで平均123.4cmを測る。またそのプランはそれと見られるものを含め円形25基、楕円形24基、隅丸方形1基、長方形1基、隅丸長方形12基、不整形10基、形態を確認できなかったもの15基であった。

重複 2面の土坑のうち、165土坑は76住居、168・169土坑は145住居、170・436土坑：154住居、171土坑は143住居と172土坑、172土坑は143・144住居と171土坑、173土坑は139・146住居、287土坑は288土坑と、289・290・357土坑は1鍛冶工房、298・299土坑は52住居、345土坑は40住居、362土坑は363土坑、385土坑は75住居と384土坑、387土坑と431土坑、392・394土坑は29住居、393土坑は394土坑、396土坑は72住居・27溝、399土坑は79住居、403土坑：70・151住居、404土坑：42住居、408土坑は151住居、409土坑は44住居、410土坑は42住居、413土坑は414・424土坑、415・416土坑は51住居・43溝、417・419土坑は11竪穴、421土坑は12竪穴、424土坑は47住居・39溝、425土坑は69住居、426土坑：58住居、427土坑は60住居、429・438土坑は151住居、430土坑は148住居、432・446土坑は146住居、436土坑は440・445土坑、439土坑は84住居、436土坑は147住居、438土坑は151住居、439土坑は85住居、440・445土坑は27住居、441土坑は87住居、447土坑は143・148住居、450土坑は52住居、451・453土坑は155住居と重複関係にあるが、76住居→165土坑、169土坑→168土坑→145住居、154住居→170土坑、172土坑→171土坑→143住居、172土坑→144住居、146住居→139住居→173土坑、288土坑→287土坑、429土坑→151住居→150住居→1鍛冶工房・289・290・357土坑、363土坑→392土坑、75住居・384土坑→385土坑、394土坑→29住居→392土坑、384土坑→395土坑、413土坑→414土坑、431土坑→387土坑、79住居<→399土坑27溝→72住居→396土坑、151住居→403土坑、410土坑→42住

居、415・416土坑→51住居、417・419土坑→11竪穴、12竪穴→421土坑、39溝→424土坑→47住居、69住居→425土坑、427土坑→60住居、429・438土坑→151住居、148住居→430・447土坑439土坑→84住居、85住居→439土坑、445土坑→440土坑→27住居、451・453土坑→155住居、52住居→450土坑、154住居→170土坑の順に新しいという新旧関係が確認された。

遺物 土坑からの出土遺物には、遺構によって出土量に多少があるが、全体的にその量は少なかった。このうち286・363・364・383・392・421・434・435・450土坑から土師器、149・168・170・297・298・356・357・385・395・396・403・419・422・427・430・440・447・451土坑からは土師器と須恵器が出土したが、427からは一定量の須恵器片の出土が見られた。また、400土坑からは土師器、須恵器、灰軸陶器が165・169・171・172・292・299・361・387・398・399・404・410・411・417・420・425・429・432・436・438・442・445・446・452土坑から須恵器、163土坑からは須恵器と灰軸陶器、394土坑から須恵器と緑釉陶器、173土坑から灰軸陶器が出土した。このうち165土坑からは、須恵器杯(1117)・碗(1118)、170土坑で須恵器杯(1119)・鉄釘(1120)、171土坑で須恵器杯(1121)、173土坑で灰軸陶器壺(1122)、299土坑で須恵器杯(1123・1124・1125)、357土坑で須恵器杯(1127)、392土坑で土師器甕(1128)、394土坑で須恵器杯(1129)・碗(1130)、緑釉陶器段皿(1131)、395土坑で須恵器杯(1132・1133)・碗(1134)、399土坑で須恵器碗(1135)、429土坑で須恵器杯(1136)、434土坑で須恵器杯(1137)、438土坑で須恵器碗(1138)が出土している。

時代・時期 4区2面の土坑は確認面から、6世紀～11世紀の所産として把握されるが、出土遺物と重複関係から推して、422土坑は10世紀前葉、445土坑は10世紀中葉以前、171・427・436土坑は10世紀中葉、392・421・394土坑は10世紀後半、165・170・299・395・400・419・429・434土坑は10世紀後葉、451土坑は10世紀代の所産と推定される。また重複関係から推して、430土坑は10世紀前葉以降、170土坑は10世紀前葉以降、172・440・451・453土坑は10世紀中葉以前、392・399・450土坑は10世紀中葉以降、151土坑は10世紀中・後葉前後、424土坑は10世紀中・後葉、168・169・429・417・438・439土坑は10世紀後葉以前、357・385・403・410・425・439土

坑は10世紀後葉以降、415・416土坑は11世紀初頭以前、173・396土坑は11世紀初頭以降の所産として把握される。

2面のピット(第259・260・263・313図、PL.104・179)

分布 4区2面のピットは7基と少ない。1河道東側に在るのは121ピットだけであり、上述の1河道東部の土坑群の北西側に位置している。1河道西側のピットは北西部に集中しているが、26溝を境に、南東側には72～75・78・79ピットが分布している。

規格・規模 土坑群の個々の土坑の規格等は表23に記したとおりであるが、平面径は35～81cmで平均41.0cmを測る。またそのプランは円形4基、楕円形3基であった。

重複 他遺構と重複するピットは、72・79ピットが28住居、75・78が30住居と重複しているが、共に新旧関係は特定できなかった。尚、遺構の検出状況から推して、79ピットは28住居より古い可能性が考えられる。

遺物 遺物が出土したピットは121ピットだけであった。121ピットからは土師器、須恵器、壺片(1139)を含む灰軸陶器の出土があった。

その他 何れのピットも建物を想定することができず、掘削意図も確認できなかった。

時代・時期 4区2面のピットは確認面から、6世紀～11世紀の所産として把握されるものである。

4 3面の遺構と遺物

3面の地形(第267図、PL.105・106)

当該調査面は、2箇所の微高地と低地からなる。

2箇所の微高地は、調査区内南西側と北西部分で確認されている。

微高地は、調査区内南西側で、47溝に沿い確認されているが、露呈された部分は、調査区と47溝による挟まれた状態で細く狭い極一部にすぎない。また、調査区内北西側では、48溝の蛇行流路により低地を区切る状態で、特に南東端部は舌状に突出する状態になっている。この舌状部分の規模は、長さ15.6m、幅13.2m程を測る。

低地部分は、前述47溝と48溝以南および東側に広がり、上記微高地の舌状部分の南東方向の延長部分で北側に向かい緩やかな傾斜で下降し延びている。

また、北東部分では、後述する地割れと思われる痕跡が認められている。

46溝(第268・269図、PL.107)

検出位置 67区O20～77区S8グリッドで検出した。4区北東部に位置する。尚、本溝は南東側の5区に延伸している。

重複関係 水田の中を走行し、水田が本溝を意識した造りとなっているため、水田と一体のものと解釈される。

覆土 ぶい黄褐色微砂層～細砂層で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 壁面は34°程の緩傾斜でやや丸みを帯びる。本溝は北側が調査区外に出ており、南側は現道を挟んで5区に続くが、全体としてのプランは南西側に張り出す緩やかな弧状を呈している。4区に於ける本溝の壁面ラインは細かい蛇行は見られるものの、総じて直線的であり、開いた「く」の字のプランを呈する。幅員は南に進むに従って徐々に狭くなっている。本区内での確認長は42.2m、上幅76～138cm、深さは18～53cmを測る。軸線方位は北部ではN12°W、南部ではN22°Wを指す。

底面 平底を呈する。底幅32～92cmを測る。多少の凹凸が見られる。流水の方向は地形的に見れば南流したものと解釈されるが、勾配率は0%で、南北何れに流下したかは断定できない。

堤 本溝の両側には群状の堤が設けられている。堤は全

幅37～130cm、上幅23～99cm、高さ5～19cmを測る。幅員は一定せず、溝線のラインは蛇行しているが、溝幅にほぼ比例している。

遺物 遺物はなかった。

時代・時期 本溝は水田の一部を形成すると判断されるもので、水田の推定時期から推して、凡そ7世紀頃の所産と推定される。

その他 上述のように本溝は水田構造の一部として把握される。本溝の南半の西側には、水田の明らかな排水路が並走しており、この溝との対比から、本溝は給水路であると判断される。

47溝(第268・269図、PL.107)

検出位置 67区T19～78区J8グリッドで検出した。4区南西部の調査区際に沿って位置する。南西側の微高地と北東側の低地との境に位置している。尚、本溝も46溝同様、南東側の5区に延伸している。

重複関係 水田の畔が、本溝の位置を意識して水口を造るなどしていることから、本溝は水田と一体のものと解釈される。

覆土 ぶい黄褐色微砂層で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 壁面は13°程の緩傾斜である。本溝も北側が調査区外に出ており、南側は現道を挟んで5区に続くものの、全容は詳らかでないが、プランは緩やかな弧状を呈しており、その漸移としての走行は開いた「く」の字状を呈している。本区内での確認長は70.5m、上幅66～168cm、深さは5～41cmを測る。軸線方位は北部ではN22°W、南部ではN51°W程を指す。

底面 平底を呈する。底幅41～76cmを測る。数cm内外の凹凸が見られるが、勾配率は5.9%で、南流していたものと解釈される。

堤 本溝の両側には群状の堤が設けられており、東側は全面で確認したが、西側は北寄りの15mほどで確認した。東側は全幅39～189cm、上幅24～133cm、高さ4～22cmを測る。幅員は一定せず、蛇行する。一方、西側は全幅45～90cm、上幅24～82cm、高さ4～12cmを測る。東側は調査範囲の中程に1箇所、南寄りに2箇所の水口が設けられる。このうち中程のものは上幅189cm、下幅160cmを測り、底面は水田面と同一であって、溝底面より8cm程高

い。また南寄り2箇所のうち北側のものは上幅74cm、下幅35cmを測り、底面は溝底、水田面共にフラットであるが、この部分の堤は68cm程南側が東に寄って食い違っている。この部分の47溝の走行がN64°Wであるのに対し、この水口の開口の方向はN20°Wを指していて、時計回り44°の方向に開口している。そして南側のものは堤を削って上幅40cm、下幅15cm深さ5cmの溝を47溝に直交して掘削させたものである。この水口の底面は水田面より7cm高く、溝底面より4cm程高い。一方、47溝の堤の中間やや南寄りで、上幅24cm、西側では確認された堤のやや南寄りで上幅82cm、下幅56cmを測る水口が設けられている。また、堤の南端に上幅25~61cm、下幅12~33cm、深さ6cmを測る溝が47溝に直交方向に掘削され、また中南部に長さ2.6m、上幅68cm、下幅28cm、深さ5cmを測る溝が掘削されているが、その掘削方向は、N21°Wで、その延長線上には47溝東側の食い違いの水口が開口している。またこの溝の底面高は47溝と同一である。

遺物 遺物はなかった。

時代・時期 本溝は水田の一部を形成すると判断されるもので、水田の推定時期から推して、凡そ7世紀頃の所産と推定される。

その他 上述のように本溝は水田構造の一部として把握される。本溝は東西両側に水口や溝が開口していることから、排水路である可能性が考慮される。

48溝(第268・269図、PL.107)

検出位置 78区C10~B・C7~K14グリッドで検出した。4区北西部に位置する。

重複関係 本溝は水田の北西側を画するように走行していることから、水田と一体のものとして解釈される。

覆土 ラミナ状の堆積を示す褐色・暗褐色の微砂、或いはにぶい黄褐色・暗褐色の微砂~細砂層で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 壁は底面から27~58°程で立ち上がっている。北側が調査区外に在るため、全容は詳らかでないが、プランは緩やかに蛇行しながら、略南東方向に走行し、南端で微高地の突出部を巻くようにU字形に旋回する。そして端部が開いて終わっている。4区での確認長は75.9m、上幅48~124cm、深さは3~28cmを測る。軸線方位は北側ではN47°W、旋回後の東部でN25°Wを指す。

底面 平底を呈する。底幅13~65cmを測る。底面は多少の凹凸が見られるが、勾配率は0.2%で、凡そ南流してから蛇行し、180°転進して北流していたものと思慮される。

堤 本溝の右岸(微高地の反対側)に群状の堤が設けられている。堤は全幅75~85cm、上幅20~75cm、高さ8cm以下を測る。幅員は一定せず、側のラインは蛇行が見られる。特に南端の区画aの西側はふくらみが見られ、この部分は全幅280cm、上幅264cmを測る。また、48溝が微高地の突出部で旋回した後、北走した北端部の左岸(微高地側)に、長さ4.7m、全幅42cm、上幅20cm、高さ3cmを測る群状の堤が見られた。

遺物 遺物はなかった。

時代・時期 本溝は水田の一部を形成すると判断されるもので、水田の推定時期から推して、凡そ7世紀頃の所産と推定される。

その他 上述のように本溝は水田構造の一部として把握される。本溝は4区北西の微高地縁辺沿いに掘削されている。その後溝は開いて確認できなくなるが、短部付近には上述のように左右両側に群状の堤が設けられ、本溝の延長線上の左側(西側)は微高地の傾斜面が続き、正面には数cmの段差が略東西に走って、水流を遮断している。東西走行の段差の南側、本溝の東側には耕作面1・4・10・15・20を先頭とする耕作区画が連なっており、48溝が運んだ水は、これらの水田への給水を成していたと思慮される。こうした点から本溝は、給水路であったものと判断される。

水田(第268・269・316図、PL.107・108・179)

検出位置 67区P78区O19・20、68区A・B19・20、77区R~T1~10、78区A1~K13グリッドの範囲で検出した。4区の北東部、北西部、南西調査区縁部を除く広域で確認されている。

重複関係 91土坑と重複するが、本水田の方が古い。

覆土 にぶい黄褐色シルト質土やにぶい黄褐色微細砂等の洪水層土で被覆する。

耕作土 灰黄褐色粘質土。

水田面 水田面は上述した46~48溝に囲まれた範囲と46溝の北東端で発見されている。

前者は、前述北東側微高地の舌状部分の南東端と、48

溝が蛇行する部分の南東延長方向部分で水田区画の割付に変化が認められる。この部分に相当する区画が102～104・112～117区画の水田である。この9面を境に、北側に向い傾斜7.54°で傾斜している。この地形の変化に応じた形で上記9面以北の水田区画の構成が成され、48溝は、傾斜に沿う状態で蛇行流路を採り給水している。そして、9面の水田面の南側は、47溝及び48溝の直進方向に従う形で区画がなされるが、上述の舌状の微高地付近では、さらに地形に沿う形で北東寄りに区画を向けている。この部分での傾斜は3.98°を測る。

また46溝北東端部での部分残存の状況は、洪水被災により流失か、耕作放棄地であったことが推測される。

水田面の傾斜は、北西部から南東方向で傾斜0.36°、微高地付近で北東寄りに向きを変える部分では傾斜1.71°、微高地の東側部分では東側向かい傾斜2.88°をそれぞれ測る。

区画 本水田は全体としては極小区画水田に分類されるもので、区画面は354面を数え、他に個々の面を区分できない9面がある。水田区画の測定値は表20に示すが、長軸は0.8～29m、平均2.58m、短軸は0.5～4.7m、平均0.39mを測り、計測面積は0.56～44.0m²、平均は3.56m²を測る。尚、東部では、長軸0.8～3.8m、平均1.76m、短軸0.6～1.8m、平均1.13mを測り、計測面積は0.61～5.01m²、平均は2.00m²を測り、西部では、長軸0.8～29m、平均3.03m、短軸0.50～4.7m、平均0.34mを測り、計測面積は0.56～44.3m²、平均は6.66m²を測った。

畦畔 本水田の畦畔は略南北方向に設置される畦畔(以下「畦」を用いる)と、この畦の間を仕切って垂直方向に設置される畦によって構成される。畔は0.8～3.5m、平均1.70mの間隔で設置されている。尚、東部の畦の設置間隔は1.2～2.2m、平均1.53mであるのに対し、西部の畔の設置間隔は0.8～3.5m、平均1.77mと若干広い。一方、畔の設置間隔は1.0～11.3m、平均2.21mを測った。畔も東部の畦の設置間隔は1.1～4.6m、平均2.04mであるのに対し、西部の畔の設置間隔は1～11.3m、平均3.25mと広い。

また畦畔の規模は、畦では幅14～81cm、平均40.56cm、直近下位の水田面からの高さは16cm以下、平均4.84cmを測り、畔では幅21～64cm、平均38.71cm、高さは14cm以下、平均4.06cmを測る。東部に於いては畦で幅14～58cm、平

均37.83cm、高さ16cm以下、平均4.52cm、畔では幅26～56cm、平均37.37cm、高さは1～14cm、平均5.8cmを測り、西部では畦で幅23～81cm、平均41.90cm、高さ11cm以下、平均5.00cm、畔では幅21～564cm、平均39.42cm、高さ14cm以下で、平均3.25cmを測るように、規模は西部の方が若干大きい。

水口 水口は例外を除いて畔端に設けられているが、その口は水田面の斜面の上側、即ち東部に於いては南西側、西部に於いては北東側に設けられるものが多い。水口が畔の1/2以下の長さで設けられたものを測定したが、基底幅で1～92cm、平均14.71cmを測る。しかし、上述のように西部の水田面、特に南西部は形成途中か、放棄地と見做されるため、その幅にばらつきが有り、東部では1～42cm、平均3.59cm、西部では1～92cm、平均28.90cmを測った。

遺物 微高地南東側に当たる箇所から出土した土師器杯(1187)は本水田の出土遺物としたが、他に若干の土師器が出土した。

時代・時期 本水田は、榛名山二ツ岳起源の厚い泥流層下から出土しており、その時期は6世紀の所産として把握される。しかし土師器杯(1187)の時期から推して、凡そ7世紀頃の所産と推定する。

1 集石(第270・271図、Pl.108)

検出位置 78区C 7～D 8グリッドで検出した。4区北西部、微高地の突出部付近に位置する。

重複関係 他遺構との重複は無かった。

覆土 As-Cを多量に含む粘質土で被覆する。

底面 As-Cを含まない暗褐色シルト質土層を底面とする。

集石 底面上に径4～48cmを測る大小多数の河床礫が、平積で置かれている。集石は2.8m程隔たって、北東側と南東側の2箇所に分かれて在る。このうち北西側のものは192個程の大小の河床礫を新月形プランに配置したもので、その分布範囲は南北11.38m、東西1.07m程を測る。その軸線は北側がN18°E、南側がN26°Wを測る。一方、南側は753個程の大小の河床礫を逆洋ナシ形プランに配置したもので、北西-南東方向に9.28m、北東-南西方向に5.23mを測り、軸線方向はN34°W方向を指している。

遺物 微高地南東隅に当たる箇所から杯(1187)が出土するなど、比較的多くの土師器片が出土した。

時代・時期 出土遺物と水田との関係から、本石組は凡そ6世紀の所産と推定する。

その他 本遺構の構築意図は不明であるが、開墾及び水田耕作で掘り出した礫を投棄した可能性や、土師器片が比較的多く出土したことから祭祀としての使用の可能性も考慮される。

443土坑(第272図)

検出位置 78区F9グリッドで検出した。4区西部、水田区画119北東側畦上に位置する。

重複関係 3面水田と重複し、本土坑が新しい。

覆土 As-C混土を含む暗褐色微砂。

壁 内湾し、壁面は比較的立っている。掘削方向はやや北東に傾いている。また南壁に河床礫が突出している。プランは楕円形を呈し、長さ56cm、短径49cm、深さ50cmを測る。主軸はN11°Wを指す。

底面 底面は丸底を呈する。

遺物 出土遺物は得られなかった。

時代・時期 本土坑の時期は7～9世紀の範囲でとらえられるに過ぎない。

444土坑(第272・316図、PL.179)

検出位置 78区I14グリッドで検出した。4区西端部に位置する。

重複関係 他遺構との重複は無かった。

覆土 記録されなかった。

壁 20～30°程の緩傾斜を呈する。プランは隅丸三角形で、径121×107cm、深さ24cmを測る。

底面 底面は揺鉢状を呈する。

遺物 須恵器椀(1186)の出土が見られた。

時代・時期 出土遺物から推して、本土坑の時期は10世紀中葉と推定する。

その他 本土坑は調査上3面で確認調査されたが、本来は2面で取り扱うべき遺構であった。

地割れ(第269図)

検出位置 78区B7～A9グリッドで検出した。4区中・北部に位置する。

重複関係 水田(東部)を切っている。

地割れ 凡そN28°E方向に延びる、その範囲は調査区北東壁から長さ13m、幅16cmを測り、そのプランは細かい蛇行が見られる。また地割れは北側に対し、南側が16cm程南西側に寄っている。

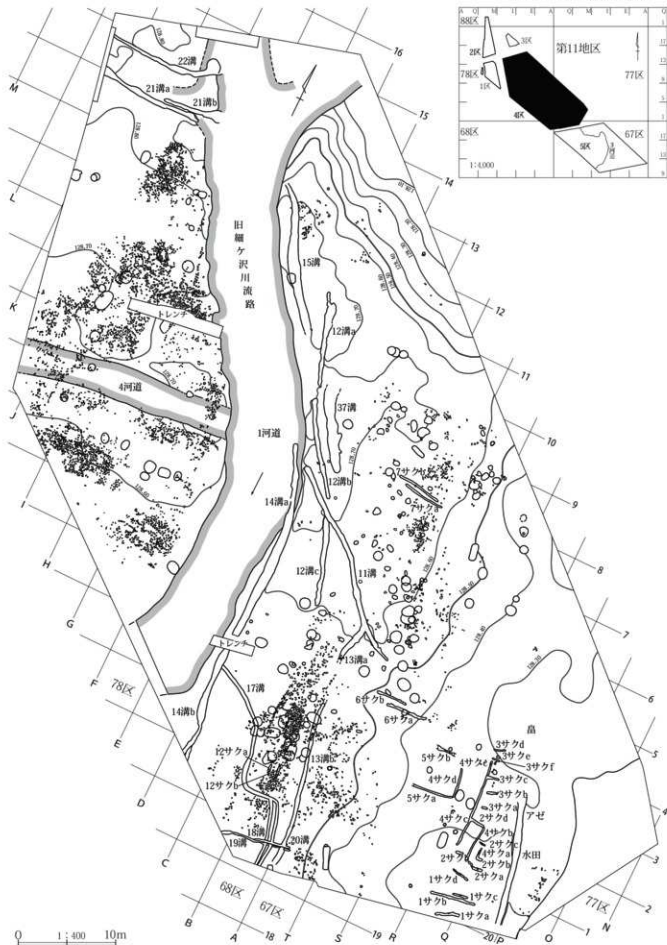
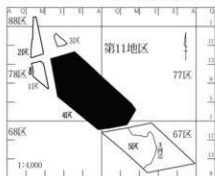
遺物 認められなかった。

時代・時期 時期は7世紀以降、9世紀以前に捉えられると思慮されることから、この地割れを現出させた地震は、弘仁9年(818)の地震と思慮される。

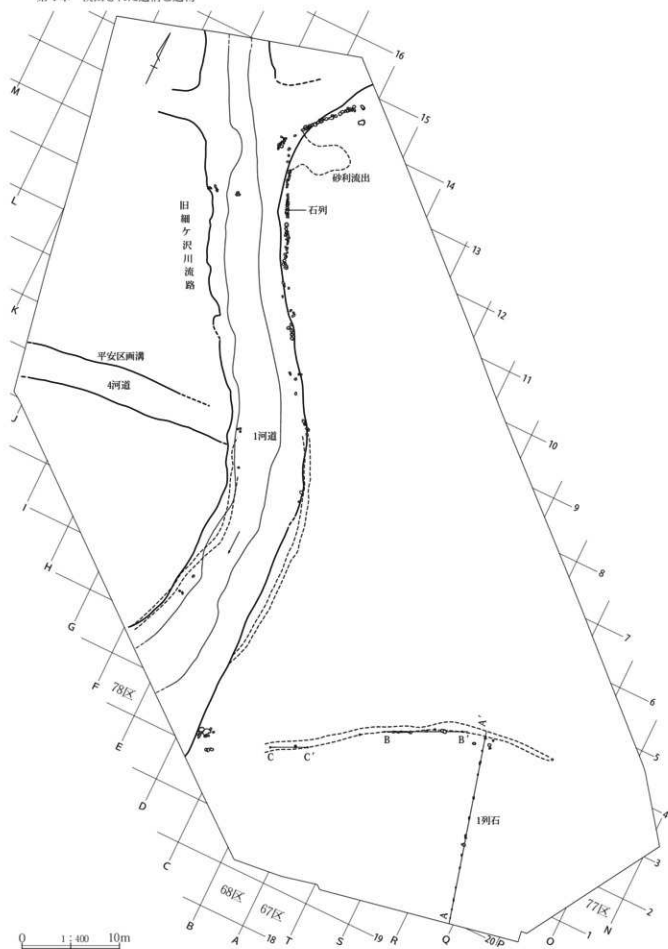
5 遺構外の出土遺物(第316・317図、PL.179)

4区では、遺構外から灰釉陶器を含む土師器35.9kg、須恵器27.7kg、灰釉陶器1.0kg、埴輪1.9kg以上の破片を含む多量の出土遺物を得た。これらの1割強は1面、8割ほどは2面からの出土遺物である。

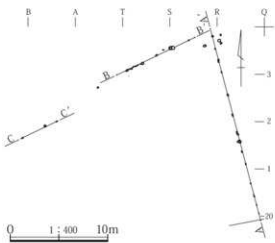
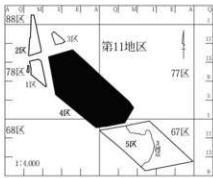
この中には須恵器杯(1194～1202)・椀(1203～1209)、白磁皿(1210)、緑釉陶器椀(1211・1212)、灰釉陶器面(1213～1215)・椀(1216・1217)・壺(1219)、中国陶器染付皿(1220)、龍泉窯系青磁碗(1221)、土師器甕(1222)、酸化焰焼成(土師器)の羽釜(1223)、円筒埴輪(1224)、形象埴輪盾形破片(1225)といった土器、陶磁器類の他、羽釜(1226)等の製鉄関連遺物、鉄製刀子(1227・1228)、不明鉄製品(1229・1234)、鉄釘(1230～1232)、煙管雁首(1233)、鉄製馬具(1235)、中世の模倣銭(1236)が見られた。



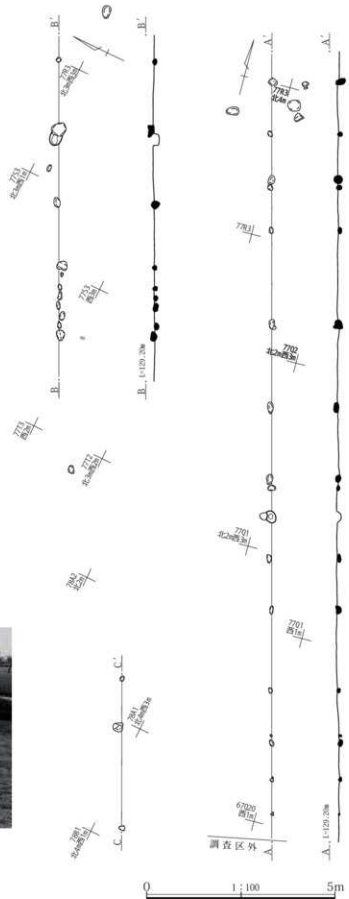
第86図 4区1面全体図



第87図 4区1面1・4河道、1列石分布図

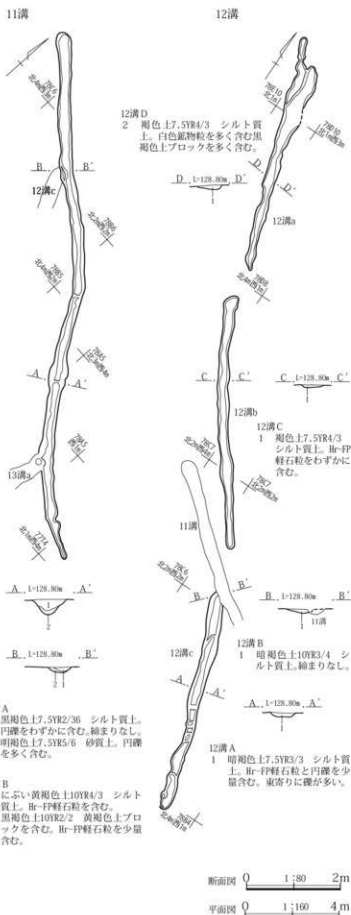
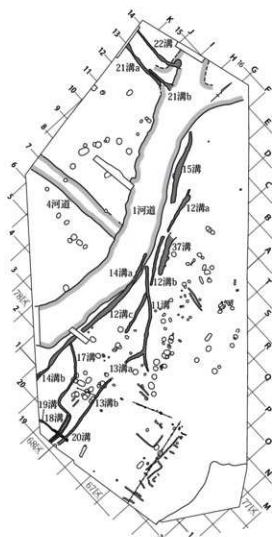
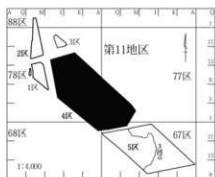


▲4区1面1列石 北から



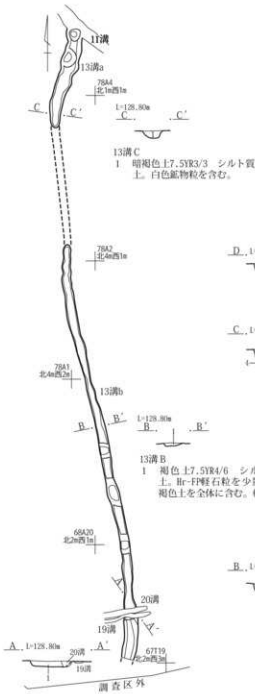
第88図 4区1面1列石

第4章 検出された遺構と遺物



第89図 4区1面溝分布図、11・12溝

13溝

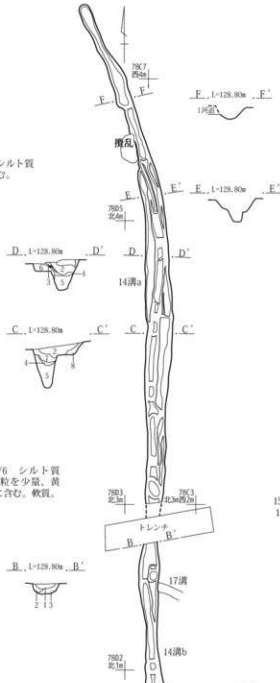


13溝A
1 暗褐色土7.5YR3/4 白色鉱物粒を含む。軟質。

断面図 0 1:80 2m

平面図 0 1:160 4m

14溝

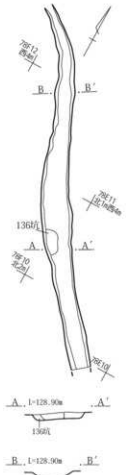


A, l=128.80m, A'

1 2 9

第90図 4区I面13~15溝

15溝



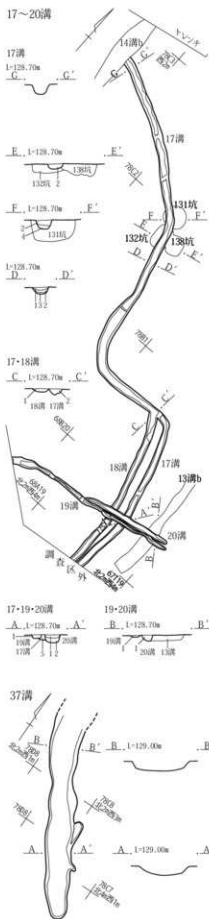
15溝
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。白色鉱物粒を多量に含む。酸化鉄分を斑点状に含む。硬く締まっている。

14溝

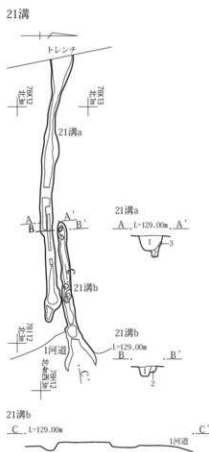
- 1 灰褐色土7.5YR5/3 シルト質土。
- 2 褐色土7.5YR4/2 シルト質土。中粒砂・円礫を含む。
- 3 黒褐色土10YR3/1 中砂粒土。
- 4 暗緑灰5C3/1 砂利層。円礫を含む。
- 5 暗青灰10B6/1 シルト質土。中砂粒土を含む。As-B軽石粒を含む。
- 6 黒褐色土2.5Y3/1 シルト質土。細砂粒土が互層堆積する。硬く締まっている。
- 7 黄灰色土2Y4/1 粘質土。硬く締まっている。
- 8 オリーブ褐色土2Y4/3 細砂粒土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 9 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。締まっている。

第4章 検出された遺構と遺物

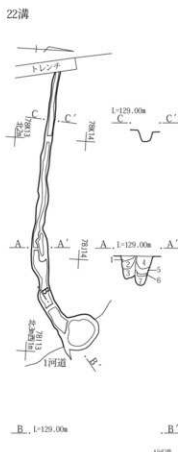
17~20溝



21溝



22溝



17溝

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 中砂粒土を含む。酸化鉄分を含む。硬い。
- 2 黒色土7.5YR2/1 中砂粒土。白色鉱物粒と砂粒の混上。硬く締まっている。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 Hr-FA泥濁を含む。締まっている。
- 4 黒褐色土7.5YR3/1 細砂粒土を含む。円礫と黄褐色シルトブロックを少量含む。
- 5 褐色土7.5YR4/4 Hr-FP軽石粒を少量含む。締まっている。

18溝

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。円礫を含む。

19溝

- 1 褐灰色土7.5YR4/1 細砂粒土。

20溝

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 細砂粒土。Hr-FP軽石粒を少量含む。締まっている。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。軟質。

21溝a

- 1 黄灰色土2.5Y5/1 シルト質土。白色鉱物粒を少量含む。
- 2 灰黄色土2.5Y6/2 細砂粒土。
- 3 黄色シルト質土ブロック。

21溝b

- 1 黒褐色土2.5Y3/2 淡黄色シルトブロックを含む。締まっている。
- 2 黒褐色土2.5Y3/1 シルト質土。

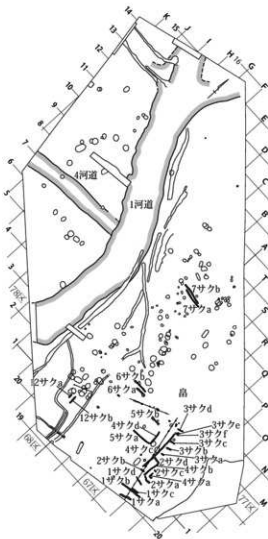
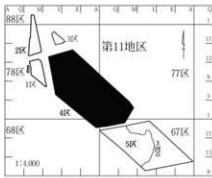
22溝

- 1 明赤褐色土5YR5/8 中砂粒土。Hr-FP軽石粒を多量に含む。
- 2 黄灰色土2.5Y5/1 砂質土。Hr-FP軽石粒を含む。中砂粒土と互層をなす。
- 3 黄灰色土2.5Y5/1 細砂粒土。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 4 褐灰色土7.5YR5/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 5 黄灰色土2.5Y6/1 シルト質土。
- 6 明黄褐色土2.5Y6/6 細砂粒土。
- 7 暗灰黄色土2.5Y4/3 細砂粒土。

断面図 0 1:80 2m

平面図 0 1:160 4m

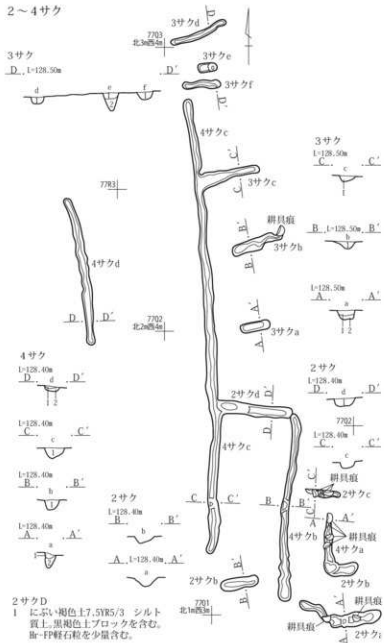
第91図 4区1面17~20・21・22・37溝



0 1:800 25m

- 4サクA
1 褐色土7.5YR7/6 粘質土ブロック。細砂粒をわずかに含む。
2 にふい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。褐色シルトブロックをわずかに含む。
- 4サクD
1 褐色土7.5YR5/1 細砂粒上。明褐色シルトブロックを少量含む。
2 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。Br-FP軽石粒を含む。

- 4サクB
1 にふい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。褐色シルトブロックをわずかに含む。
- 4サクC
1 にふい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。褐色シルトブロックをわずかに含む。



- 3サクA
1 暗褐色土7.5YR3/3 中砂粒上。白色鉱物粒を含む。
2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。
- 3サクC
1 暗褐色土7.5YR3/3 明褐色シルトブロックを多く含む。
- 3サクB
1 暗褐色土7.5YR3/3 明褐色シルト質土ブロックを少量含む。締まっている。
- 3サクD
1 にふい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。黄褐色シルトブロックを含む。
2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。黄褐色ブロックを含む。
3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。Br-FP軽石粒を少量含む。
4 暗褐色土7.5YR3/3 明褐色シルト質土ブロックを少量含む。締まっている。

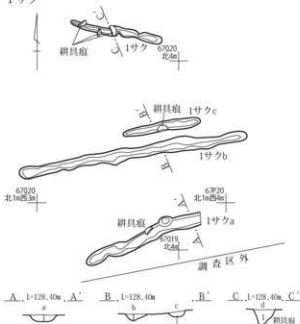
断面図 0 1:80 2m

平面図 0 1:160 4m

第92図 4区1面畠分布図、2~4サク

第4章 検出された遺構と遺物

1サク



- 1サクA**
- 黒褐色土7.5YR3/1 Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 1サクB**
- 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。白色鉱物粒を少量。Hr-FP軽石粒を含む。下に明褐色シルトブロックを含む。
- 1サクC**
- 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに含む。
 - 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を多く含む。

5サクA

- 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒を含む。
- 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。
- 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒を含む。

5サクB

- 褐色土7.5YR4/4 細砂粒上。黄褐色シルトブロックと白色鉱物粒を含む。
- 褐色土7.5YR4/3 黄褐色シルトブロックを多く含む。

6サクA

- 明褐色土7.5YR5/6 細砂粒上。黄褐色土ブロックを少量、白色鉱物粒を含む。

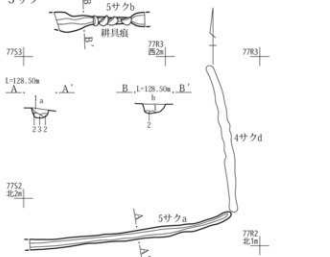
7サクA

- 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒を含む。
- 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

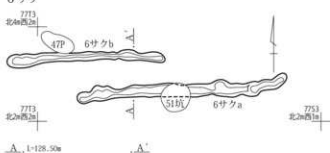


▲4区1面1～5サク 北から

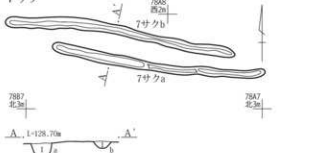
5サク



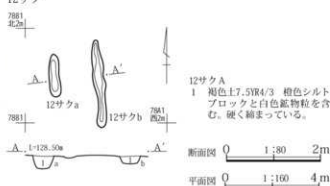
6サク



7サク



12サク



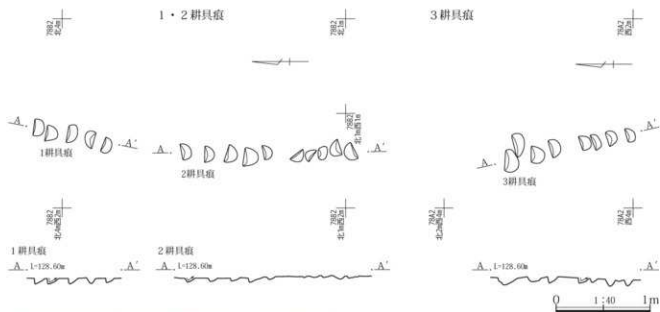
- 12サクA**
- 褐色土7.5YR4/3 褐色シルトブロックと白色鉱物粒を含む。硬く締まっている。

第93図 4区1面1・5～7・12サク

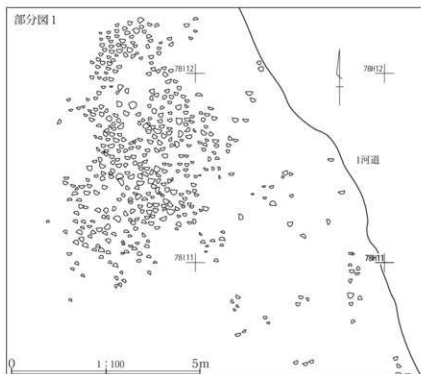


第94図 4区1面耕具痕分布図

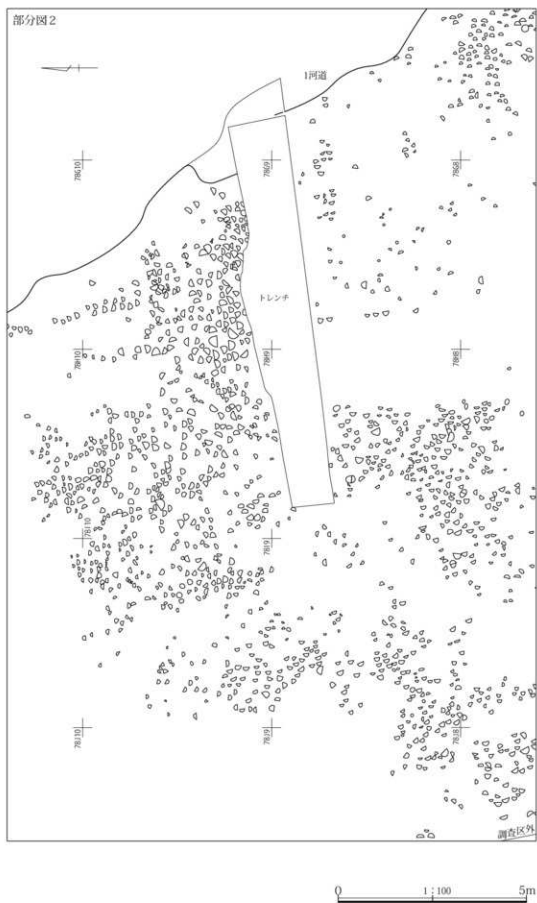
第4章 検出された遺構と遺物



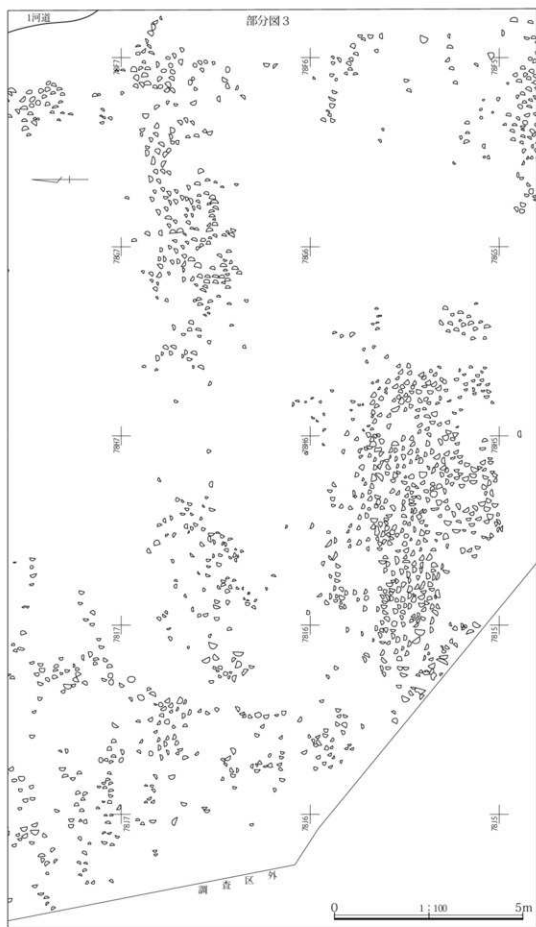
◀ 4区1面2 耕具痕 西から



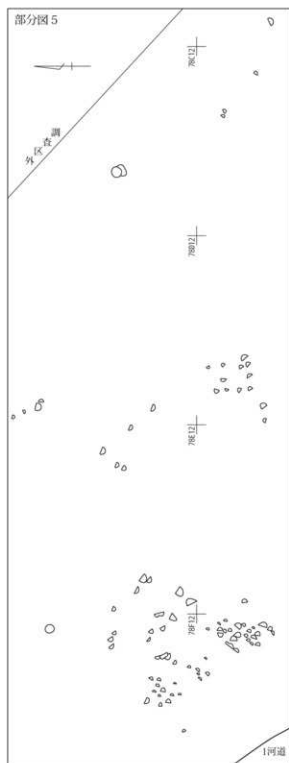
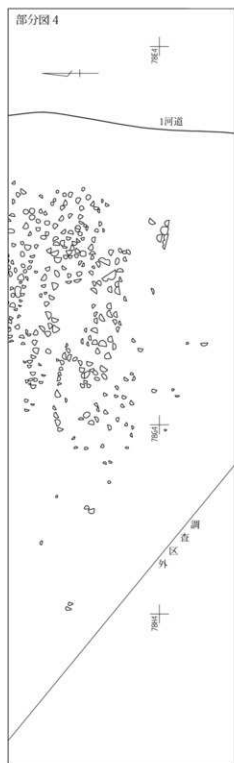
第95図 4区1面1～3 耕具痕、部分図1



第96図 4区1面部分図2

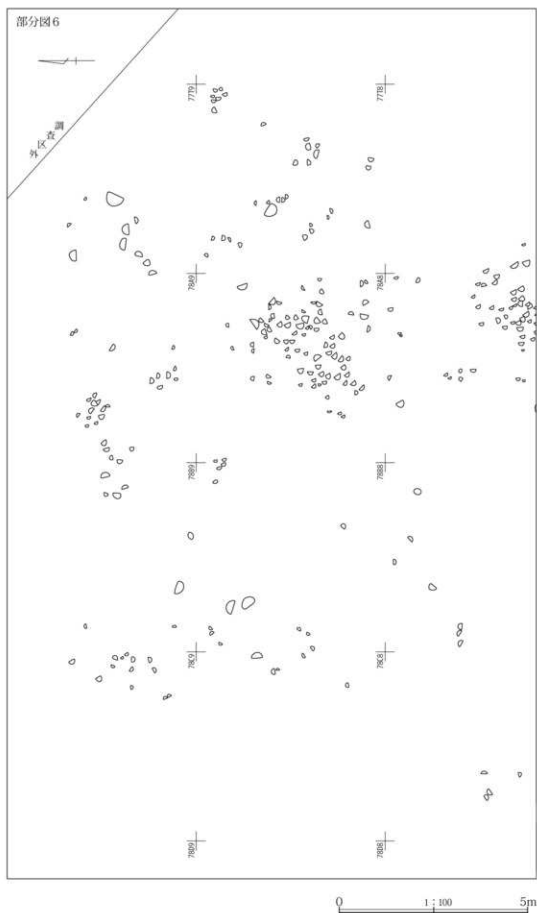


第97図 4区1面部分図3

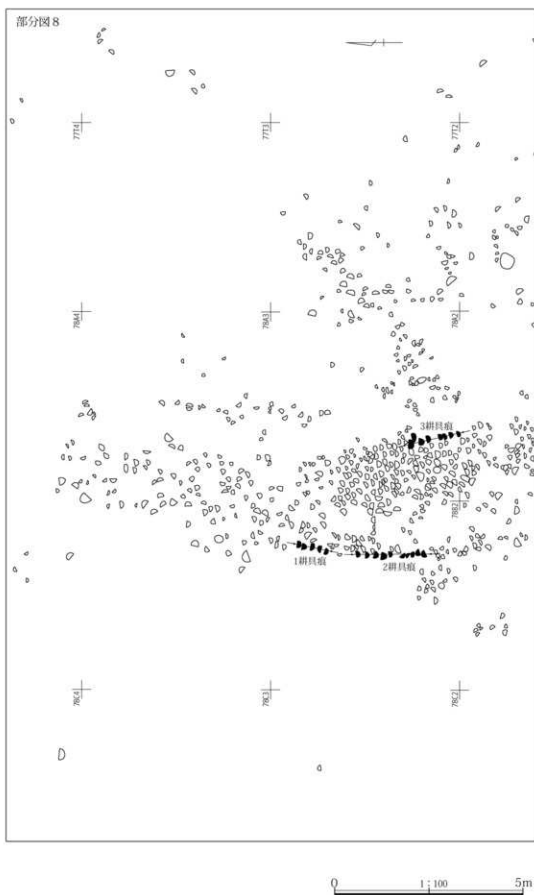


0 1:100 5m

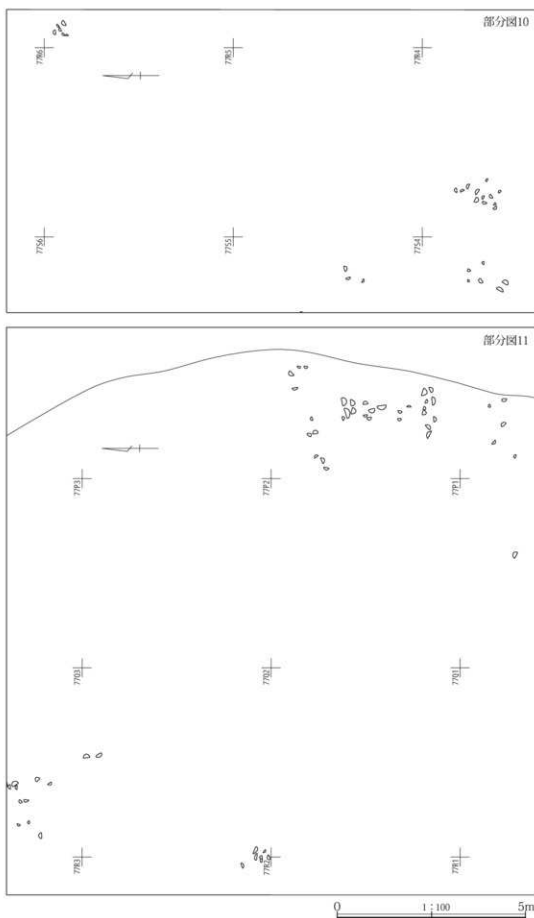
第98図 4区1面部分図4・5



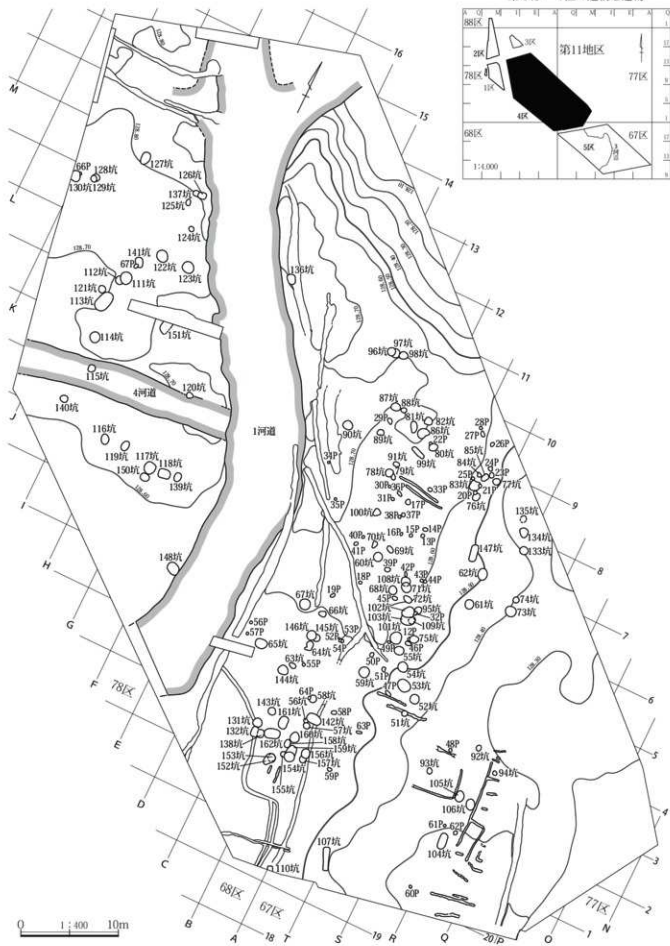
第99図 4区1面部分図6



第101図 4区1面部分図8

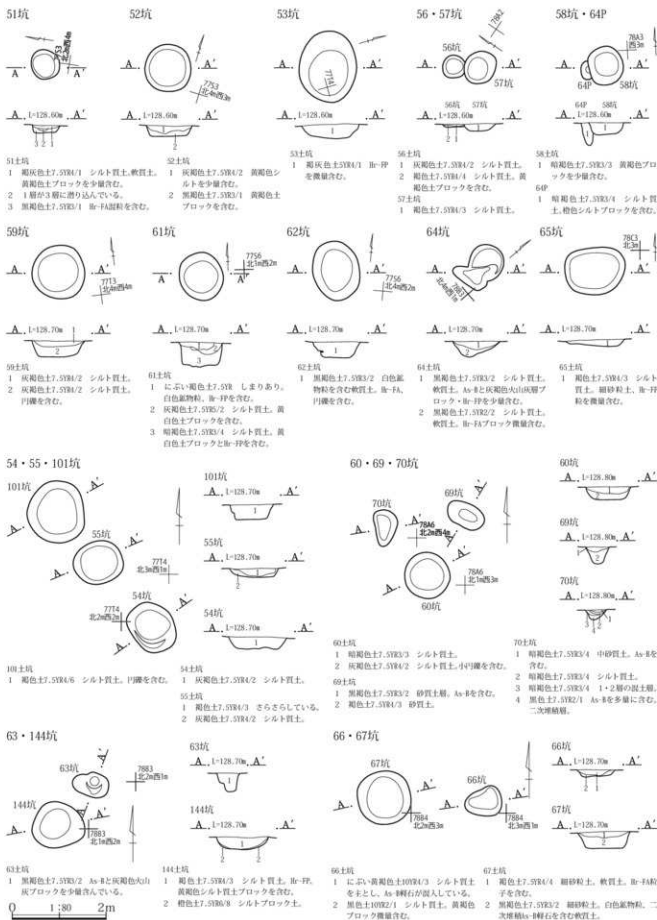


第103図 4区1面部分図10・11



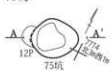
第104図 4区1面土坑・ピット分布図

第4章 検出された遺構と遺物



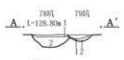
第105図 4区1面土坑・ピット1

75坑



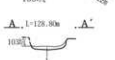
- 75土坑
1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。As-B、炭化物と焼土ブロック、粘土を含む。軟質。
2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。炭化物と焼土を含む。軟質土。
3 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。黄褐色のR-Fa炭液ブロックを含む。

78・79坑



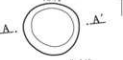
- 78土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 細砂粒土。As-Bを含む。
2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。R-Faを含む。軟質。
79土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。円礫を少量含む。
2 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。

109坑



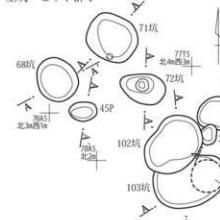
- 109土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。
R-Fa層を少量含む。粘質土。

73・74坑

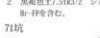


- 74土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色炭化物とR-Fa炭液のブロック状埋積物を含む。
2 に近い褐色土7.5YR4/3 粘性土。R-Fa炭液の二次埋積。締り強い。
73土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 R-Fa層がまばらに入る。炭化物、焼土。褐色シルト質土を含む。軟質土。

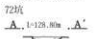
土坑・ピット群1



- 68土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。軟質土。白色炭化物を微量含む。
2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。軟質土。R-Faを含む。



- 71土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 炭化物ブロック。黄褐色土ブロックを含む。



- 72土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 砂質土。As-B、R-Fa黄褐色土ブロックを含む。
2 黒褐色土7.5YR3/2 やや粘性あり。締り強い。

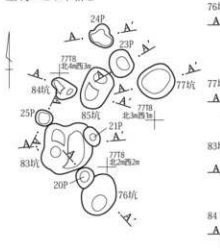


- 102土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。赤い褐色シルト質土。砂利。円礫を含む。
103土坑
1 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。円礫を数個含む。



- 95土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色炭化物。黄褐色土ブロックを少量含む。軟質土。
32P
1 黒褐色土7.5YR3/2 中砂粒土。As-Bを多量に含む。
45P
1 明褐色土7.5YR5/1 シルト質土。
2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。

土坑・ピット群2



- 76坑・20P
1 黒褐色土7.5YR2/2 砂質土。As-B、R-Fa炭液黄褐色土を含む。
2 明褐色土7.5YR5/8 シルトブロック。軟質。
20P
1 黒褐色土7.5YR3/2 細砂粒土。R-Fa炭液ブロックを少量含む。
2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。



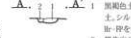
- 77土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。炭化物、焼土粒。R-Fa層。褐色シルトを少量含む。軟質土。
83坑・21P
83土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 R-Fa層を少量含む。全体に少量のAs-Bを含む。
21P
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。炭化物。褐色土ブロック。R-Fa層を少量含む。



- 84・85坑
1 灰黄褐色土10YR4/2 細砂粒土。As-Bを微量含む。

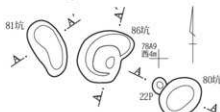


- 23P
1 黒褐色土7.5YR3/1 中砂粒土。As-Bを多量含む。
24P
1 暗褐色土7.5YR3/1 中砂粒土。シルト質土にAs-B層土。R-Fa層を微量含む。軟質土。
2 餅合層?



- 25P
1 暗褐色土7.5YR3/3 砂質土。As-B、R-Fa層粘。褐色シルトブロックを少量含む。
25P
1 暗褐色土7.5YR3/2 細砂粒土。As-Bを含む。

80・81・86坑・22P



- 81土坑
1 黒色土7.5YR2/1 中砂質土。As-Bを多量に含む。
2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。



- 86土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 細砂粒土にAs-Bを含む。軟質土。
2 褐色土7.5YR4/3 中砂粒土。As-Bを多量に含む。
3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。焼土粒を微量含む。

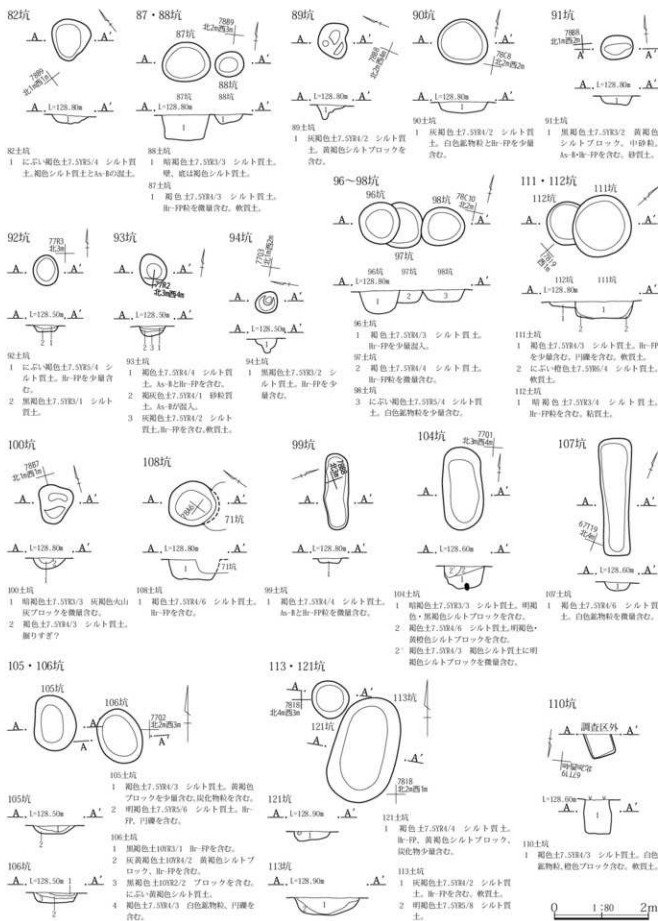


- 80土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 中砂質土。As-Bを多量含む。
2 黒褐色土7.5YR3/1 中砂質土。As-Bを多量含む。
3 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。
22P
1 黒褐色土7.5YR3/2 中砂質土。As-Bを多量含む。

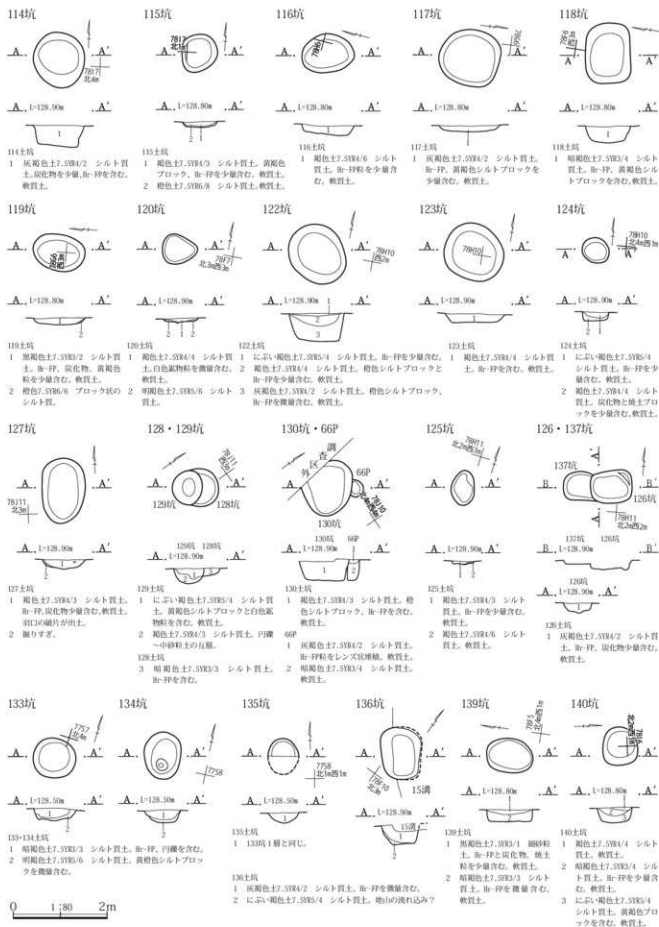


第106図 4区1面土坑・ピット2

第4章 検出された遺構と遺物

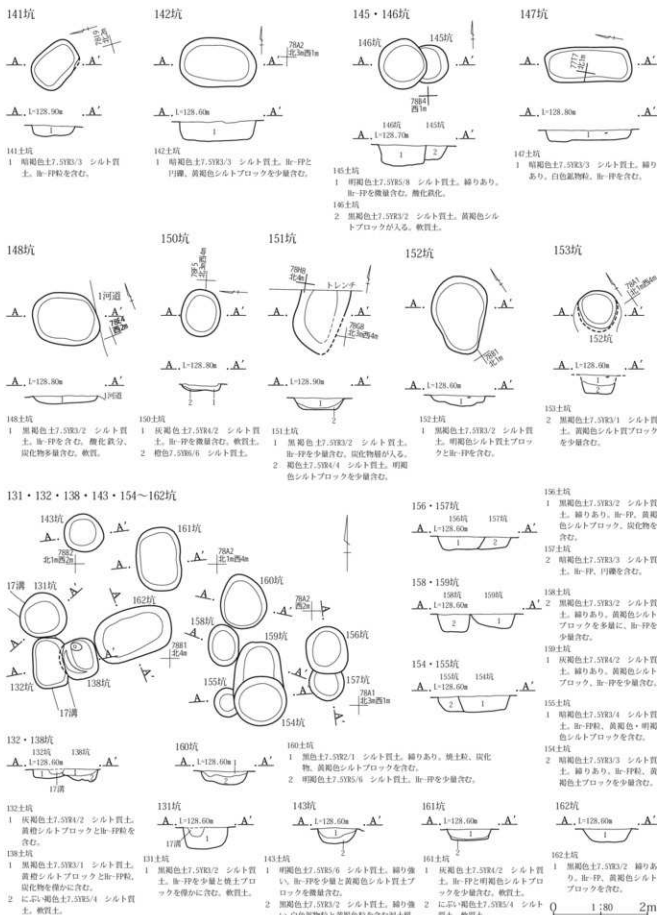


第107図 4区1面土坑3

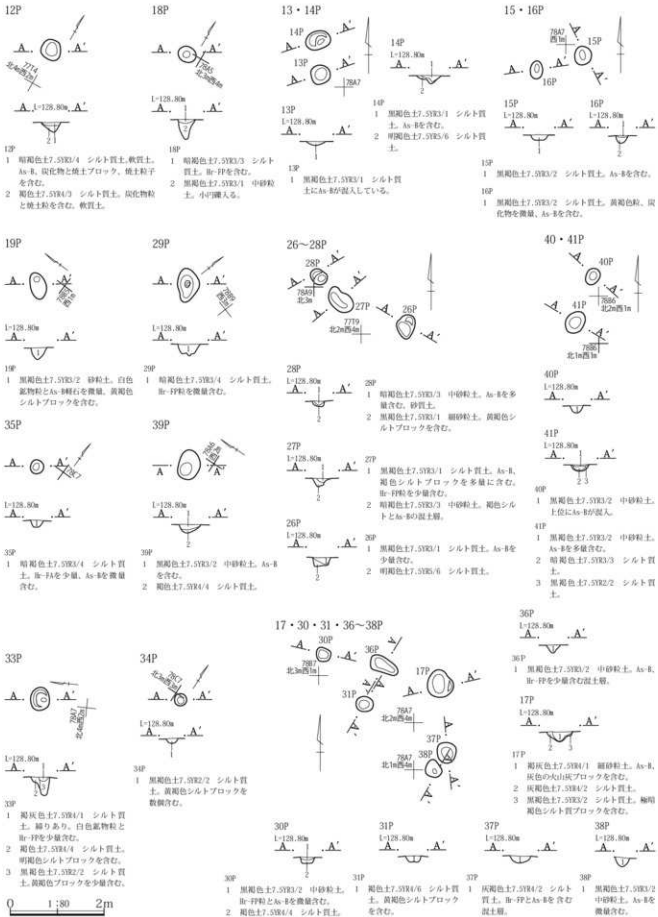


第108図 4区1面土坑4、ピット3

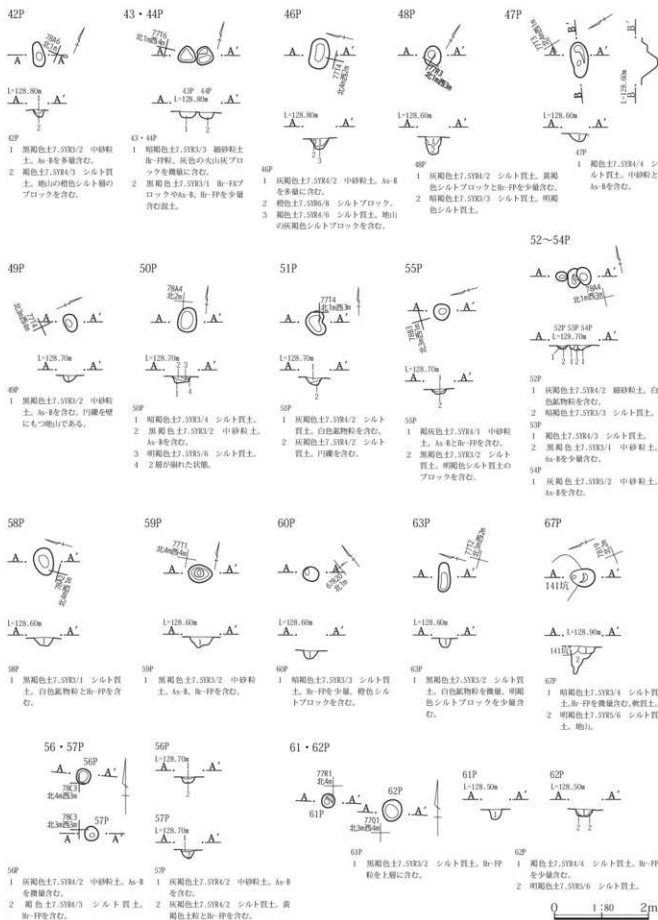
第4章 検出された遺構と遺物



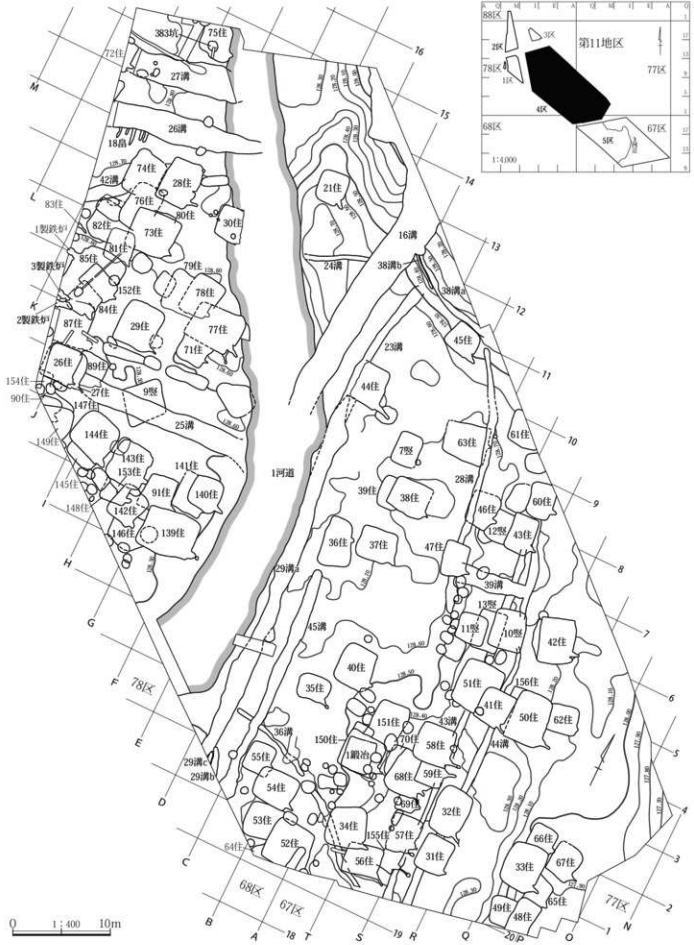
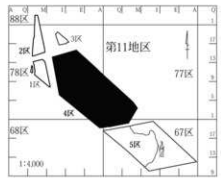
第109図 4区1面土坑5



第110図 4区1面ピット4

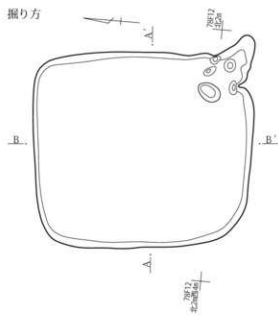
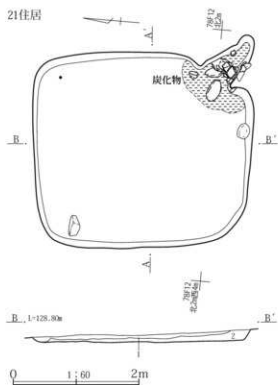


第111図 4区1面ピット5



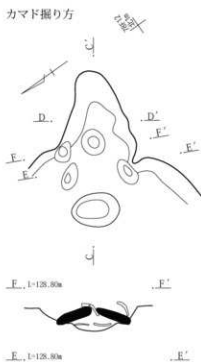
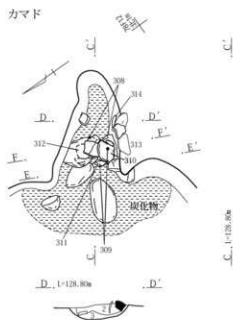
第112図 4区2面全体図

第4章 検出された遺構と遺物



21住居

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-F輝石粒を少量含む。軟質土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。斑状に鉄分が入る。軟質土。



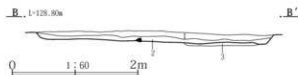
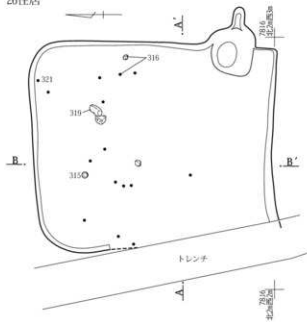
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。カマド煙道部、天井部が崩れ破上ブロック・炭化物を含む軟質土。
- 2 暗灰黄土2.5Y4/2 シルト質土。炭化物を含む。
- 3 灰黄土2.5Y4/1 シルト質土。
- 4 3と同じ。炭化物少量入る。炭化物層の下はわずかに被熱をうけている。
- 5 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。上位は被熱をうけている。埋山。

0 1 30 1m

第113図 4区2面21住居

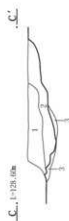
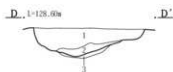
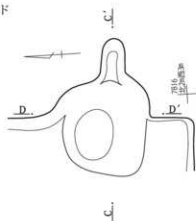
26住居



26住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。明褐色ブロックを少量、炭化物をまばらに含む。軟質土。
- 2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FPと炭化物を少量含む。軟質土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。わずかに炭化物粒を含む。

カマド



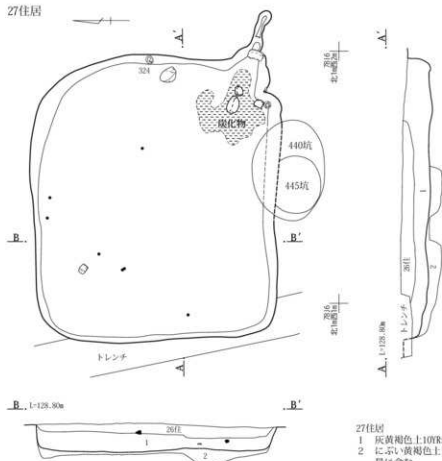
カマド

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FP混入。
- 2 暗褐色土7.5YR3/2 シルト質土。全体に炭化物が少量であるが混入している。煙道部付近は焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/1 シルト質土。

第114図 4区2面26住居

第4章 検出された遺構と遺物

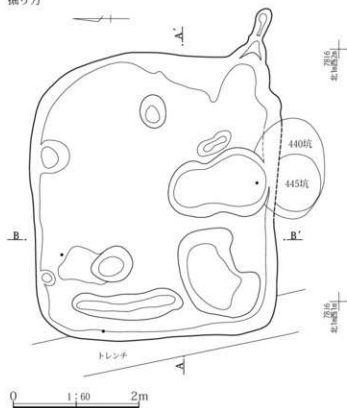
27住居



27住居

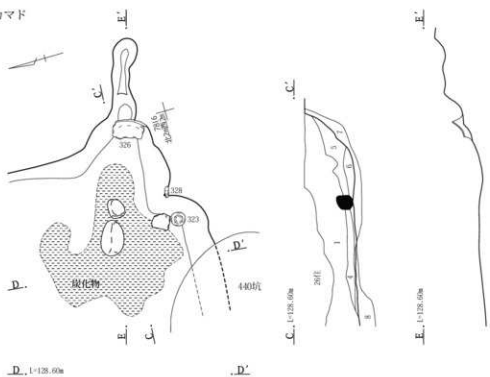
- 1 灰黄褐色土10YR5/2 As・C・Hr・FPを多量に含む。炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 As・C・Hr・FPを少量、黒褐色ブロックを多量に含む。

掘り方

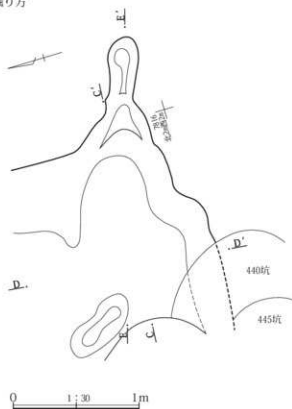


第115図 4区2面27住居1

27住居カマド



カマド掘り方



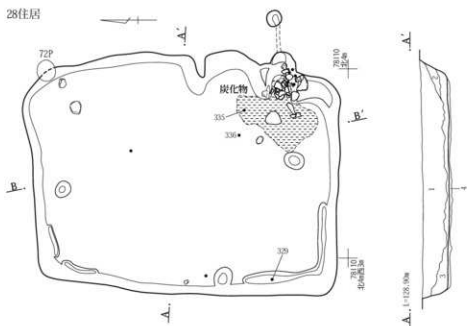
カマド

- 1 灰黄褐色K5/2 As-C・Br-FPを多量に含む。炭化物を少量含む。
- 2 褐色土10YR4/4 As-C・Br-FPを少量含む。
- 3 褐色土10YR4/6 As-C・Br-FPを少量含む。黄褐色ブロック(洪水層)を含む。
- 4 に近い黄褐色土10YR4/3 As-C・Br-FP少量含む。炭化物を若干含む。
- 5 黒褐色土10YR3/2 As-C・Br-FPを少量含む。黄褐色ブロック(洪水層)を含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3 As-C・Br-FP少量含む。焼土を多量に含む。炭化物を若干含む。
- 7 に近い黄褐色土10YR4/3 As-C・Br-FPを少量。焼土粒・炭化物粒を多量に含む。
- 8 に近い黄褐色土10YR4/3 As-C・Br-FPを少量。黒褐色ブロックを多量に含む。

第116図 4区2面27住居2

第4章 検出された遺構と遺物

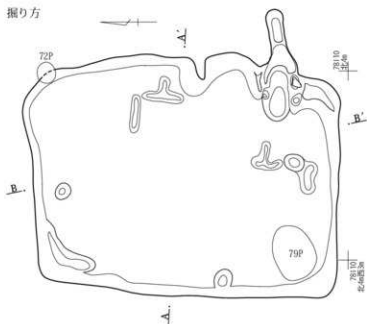
28住居



28住居

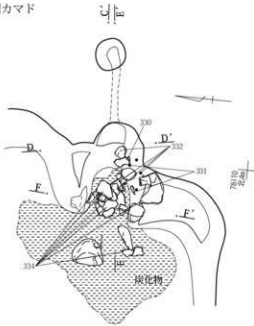
- 1 褐色土10YR4/4 As・C・Br-FPを少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 As・C・Br-FPを若干含む。黄褐色洪水層土を若干ブロック状に含む。
- 3 近い、黄褐色土10YR5/3 As・C・Br-FPを若干含む。黄褐色洪水層土を多量に含む。
- 4 明黄褐色土10YR6/6 As・C・Br-FPを若干含む。褐色土をブロック状に含む。

掘り方



第117図 4区2面28住居1

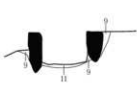
28住居カマド



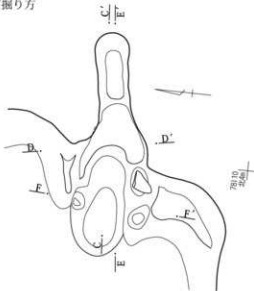
D., 1:128.80m



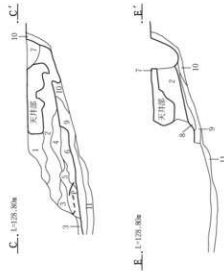
E., 1:128.80m



カマド掘り方



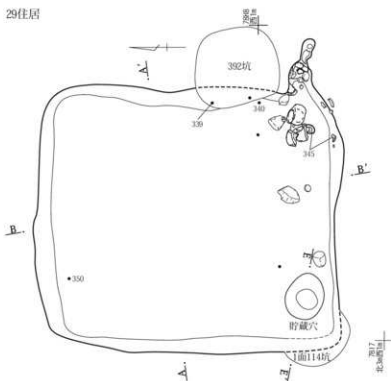
0 1:30 1m



カマド

- 1 褐色土10VR4/4 黄褐色洪水層ブロックを少量、焼土粒・炭化物粒を若干含む。Br-FA・As-Cを若干含む。
- 2 褐色土10VR4/6 黄褐色洪水層ブロックを若干。1と同じ。
- 3 にぶい黄褐色土10VR5/4 黄褐色洪水層ブロックを多量に。1と同じ。
- 4 にぶい黄褐色土10VR6/4 Br-FA・As-Cを若干含む。黄褐色洪水層ブロックを極多量に含む。焼土ブロック含む。
- 5 明黄褐色粘質土10VR6/6 粘土ブロック。
- 6 明黄褐色粘質土10VR6/6 Br-FA・As-C・褐色土を少量含む。
- 7 暗褐色土10YR3/3 焼土粒・炭化物粒・Br-FA・As-Cを少量含む。
- 8 赤色焼土10R5/8 赤土ブロック。
- 9 暗褐色土10YR3/3 焼土ブロックを多量に含む。炭化物・灰層を多量に含む。黄褐色洪水層ブロックを少量含む。
- 10 にぶい黄色土2.5YR6/4 粘質土。Br-FA・As-Cを若干含む。
- 11 にぶい黄色土2.5YR6/4 粘質土。焼土粒・Br-FA・As-Cを少量含む。

29住居



掘り方



29住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 As・C・Hr・FAを多く含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 As・C・Hr・FA・炭化物粒を若干含む。
- 3 褐色土10YR4/4 As・C・Hr・FAを少量含む。
- 4 黄褐色土10YR5/6 明黄褐色洪水層を多量に、As・C・Hr・FAを少量含む。
- 5 黄褐色土10YR5/5 暗褐色土をブロック状に多量に含む。As・C・Hr・FAを少量含む。

C

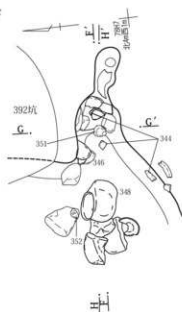
- 1 暗褐色土10YR3/4 As・C・Hr・FAを含む。
- 2 黒褐色土10YR3/1 As・C・Hr・FAを含む。炭化物粒を多量に含む。

D

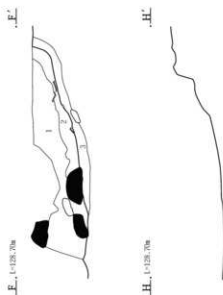
- 1 暗褐色土10YR3/4 As・C・Hr・FAを含む。
- 2 黒褐色土10YR3/1 As・C・Hr・FAを含む。

第119図 4区2面29住居1

29住居カマド



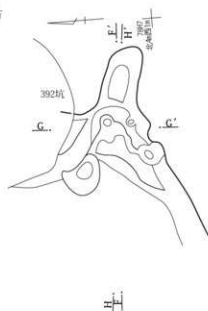
G., 1:128.70m G'



カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 Br-FA・As-Cを多く、炭化物粒を少量含む。焼土粒を若干含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 Br-FA・As-Cを少量含む。炭化物粒を少量含む。焼土粒を若干含む。
- 3 黒褐色土10YR3/1 Br-FA・As-Cを少量含む。炭化物粒を若干、焼土粒を少量含む。黄褐色洪水層をブロック状に少量含む。

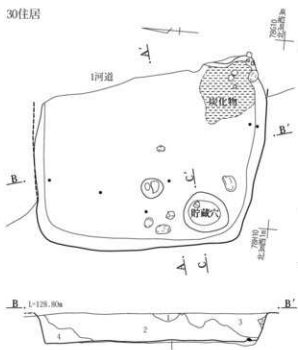
カマド掘り方



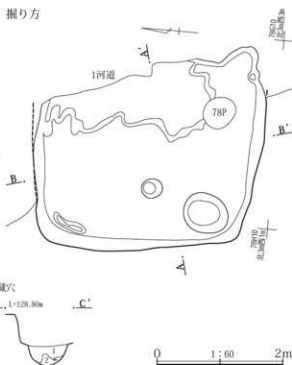
0 1:30 1m

第4章 検出された遺構と遺物

30住居



掘り方



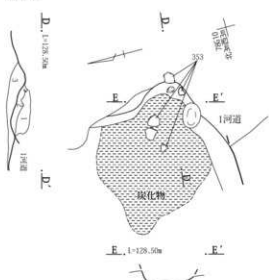
30住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 As・C・Hr・FAを少量含む。
- 2 褐色土10YR4/6 As・C・Hr・FAを少量含む。
- 3 褐灰色土10YR4/1 As・C・Hr・FAを少量含む。鉄分を多く含む。
- 4 褐色土10YR4/4 As・C・Hr・FAを少量含む。黄褐色渋水層をブロック状に少量含む。
- 5 黄褐色土10YR5/6 As・C・Hr・FAを若干含む。暗褐色土をブロック状に少量含む。

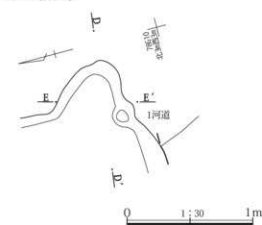
貯蔵穴

- 1 褐色土10YR4/6 As・C・Hr・FAを少量含む。
- 2 褐色土10YR4/6 As・C・Hr・FA・黄褐色渋水層を少量含む。

カマド



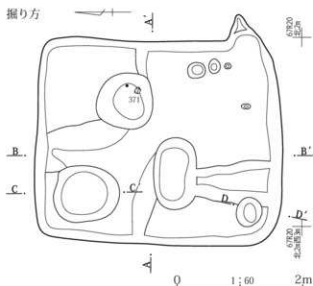
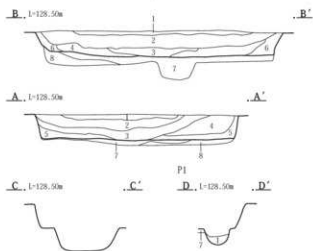
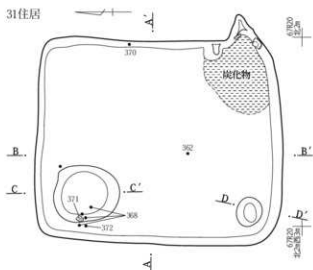
カマド掘り方



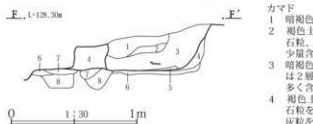
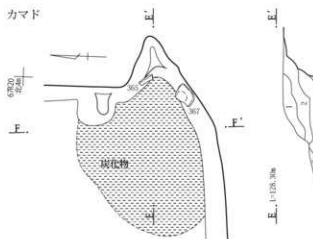
カマド

- 1 褐灰色土10YR5/1 Hr・FA・As・Cを少量含む。焼土ブロックを少量含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 Hr・FA・As・Cを少量含む。焼土ブロックを少量含む。炭化物粒を若干含む。
- 3 黄褐色土10YR5/6 Hr・FA・As・Cを少量含む。焼土ブロックを多量に含む。炭化物粒を少量含む。

第121図 4区2面30住居



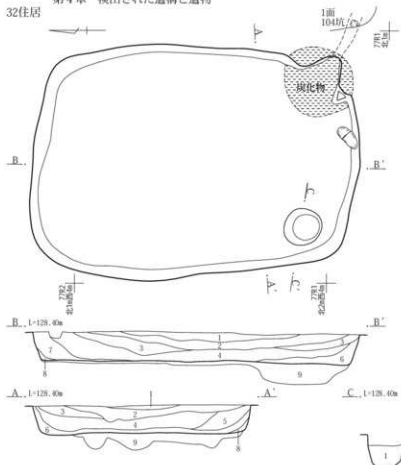
- 31住居
- 1 灰褐色シルト質上7.5YR4/2 白色鉱物粒とHr-FP、珉に灰白色シルトブロックを含む。しまっている。
 - 2 暗褐色シルト質上7.5YR3/3 Hr-FA泥流ブロックの黄褐色火山灰ブロックとHr-FPを多量に含むしまった上。
 - 3 黒褐色シルト質上7.5Yr3/1 Hr-FA泥流ブロックの黄褐色火山灰ブロックを多量、Hr-FP少量含むしまった上。
 - 4 褐色シルト質上7.5YR4/4 2層と同じ。
 - 5 極暗褐色上7.5YR2/3 Hr-FPを少量含む。軟質上。
 - 6 暗褐色シルト質上7.5YR3/4 Hr-FP・Hr-FA泥流ブロック。2層に似る。
 - 7 明褐色上7.5YR5/6 ややしシルト質上、ややしまりあり、Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土と火山灰粒を少量含む。炭化物粒と焼土粒をわずかに含む。
 - 8 褐色上7.5YR6/8 シルト質上。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。黄褐色シルト上主体で暗褐色を含む混土。
- PI
- 1 暗褐色上7.5YR3/3 ややしシルト、Hr-FP軽石粒・炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流土の小ブロックと火山灰粒を少量含む。



- カマド
- 1 暗褐色上7.50YR3/4 ややしシルト。
 - 2 褐色上7.5YR4/4 ややしシルト、Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土と火山灰ブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色上7.5YR3/3 シルト質上。混入物は2層と同じ。焼土粒・焼土ブロックを多く含む。
 - 4 褐色上7.5YR4/4 ややしシルト、Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA泥流ブロックと火山灰粒を含む混土。
 - 5 黒褐色上7.5YR3/2 黒色の灰を主体の混土。灰層。
 - 6 褐色上7.5YR6/6 Hr-FP軽石粒とHr-FA泥流土の小ブロックを少量含む。黄褐色シルト上と暗褐色上の混土。
 - 7 暗褐色上7.5YR3/3 Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒や焼土粒を少量含む。
 - 8 明褐色上7.5YR5/5 シルト質上。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土や火山灰粒を少量含む。炭化物粒や焼土粒をわずかに含む。

第122図 4区2面31住居

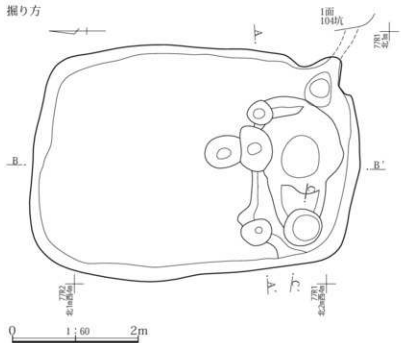
32住居



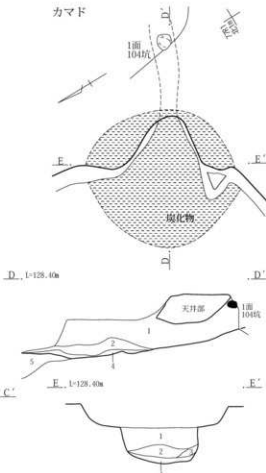
32住居

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。 | 5 黄褐色土10YR5/6 地山のHr-FA泥流土が主体。Hr-FP軽石粒を少量含む。 |
| 2 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土と混上。 | 6 褐色土17.5YR4/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒、炭化物粒、Hr-FAを少量含む。 |
| 3 褐色土7.5YR4/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土が混上。 | 7 明褐色土17.5YR5/6 ややシルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒をわずかに、Hr-FAを少量含む。 |
| 4 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土の混上。 | 8 明黄褐色土10YR7/6 シルト質土。地山のシルト質土が主体で暗褐色土を少量含む混上。 |
| | 9 暗褐色土17.5YR3/4 ややしりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土がブロック状の混上。 |

掘り方



カマド

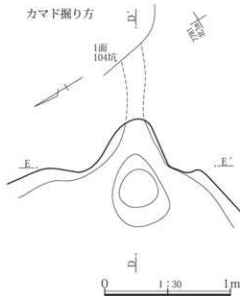


- | |
|--|
| 1 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒を多く、炭化物・Hr-FA泥流土と火山灰粒をわずかに含む。 |
|--|

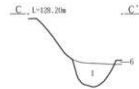
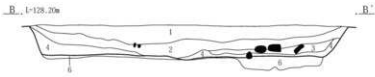
カマド

- | |
|---|
| 1 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土と火山灰粒を少量含む混上。 |
| 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。境上の小ブロックを少量、黒色の灰がすじ状に含む。 |
| 3 ぶい黄褐色土10YR6/4 ややしりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。 |
| 4 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。黒色の灰や炭化物粒・焼土粒を少量含む。灰の厚さは1mm未満。 |
| 5 褐色土17.5YR4/5 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土の小ブロックや火山灰粒と黄褐色シルト土・暗褐色土の混上。 |

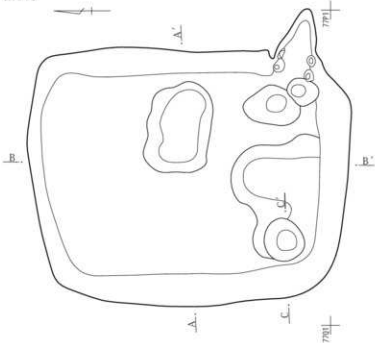
カマド掘り方



33住居



掘り方



33住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流関連の上はわずかに含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 地山のHr-FA泥流土を多く含む、ブロック状堆積。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややしと。Hr-FP軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒や小ブロックを含む混土。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流小ブロックを少量含む混土。
- 5 褐色土7.5YR6/6 地山のHr-FA泥流層が崩落して堆積土。
- 6 褐色土7.5YR4/6 ややしと。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒を少量含む。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土がブロック状に非常に多く入った混土。

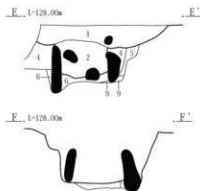
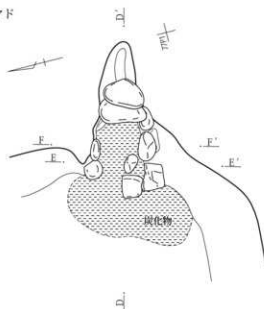
C

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしと。やや粘りあり。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流土や灰白色粘土を多く含む混土。

第124図 4区2面33住居1

第4章 検出された遺構と遺物

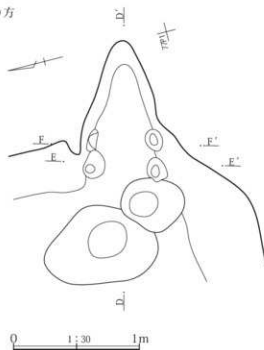
33住居カマド



カマド

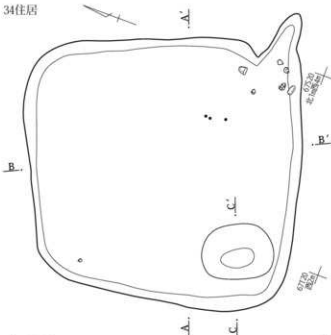
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 Hr-Fe軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土小ブロックを含む混土。
- 2 褐色土7.5YR4/3 やや粘りありにぶい褐色土流や小ブロックを含む。炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 Hr-Fe軽石粒をわずかに。焼上粒・小ブロックを多く含む。暗褐色土粒の小ブロックを少量含む。(カマド部材、赤化しているが焼熱により硬化している。)
- 4 褐色土7.5YR4/4 ややシルト。やや粘りあり、Hr-Fe軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。内面は広く焼上化している。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト質土。やや粘りあり。Hr-Fe軽石粒を少量含む。
- 6 褐色土7.5YR4/4 ややシルト。黒色の灰がすじ状・小ブロック状に非常に多く含まれている。明褐色の粘土ブロックを少量含む。
- 7 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。褐色土を主体に黒色の灰や明褐色の粘土小ブロック、Hr-FA泥流土。地山の黄褐色シルト土がブロック状に混ざっている混土。
- 8 黄褐色シルト土7.5YR8/8 地山の黄褐色シルト土が主体で暗褐色土や炭化物粒を少量含んでいる。
- 9 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FA泥流土を多く含む混土。
- 10 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-Fe軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。

カマド掘り方

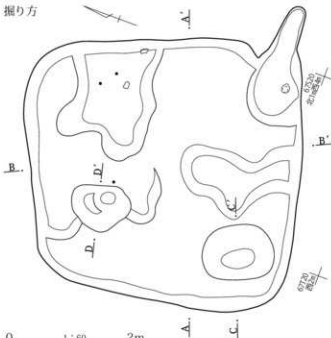


第125図 4区2面33住居2

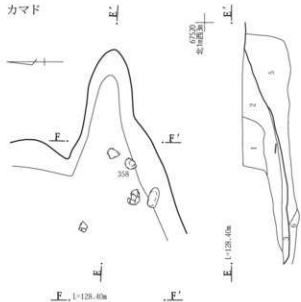
34住居



掘り方



カマド



34住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 As-Bが主体の暗褐色土との混土。二次堆積。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA粒、炭化物粒を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。地山上の崩落土。炭化物をわずかに含む。
- 5 褐色土7.5YR4/5 ややしルト。ややしまりあり、Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに、地山の黄褐色シルト土を含む。

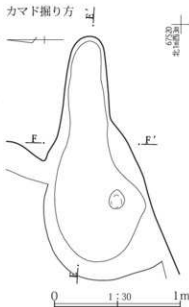
C

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 黒ボク。Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒と焼土粒、Hr-FA粒をわずかに含む。均質。

D

- 1 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。炭化物粒、Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 2 黄褐色土7.5YR7/8 シルト質土。地山の黄褐色シルト土。炭化物粒をわずかに含む。

カマド掘り方



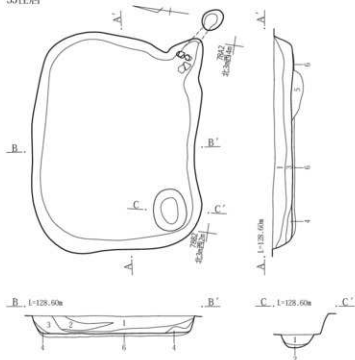
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。やや粘りあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、焼土ブロックを多く含む。灰が堆積。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 ややしルト。灰層。焼土・焼土小ブロックを少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒やHr-FA泥流土粒を混土。
- 5 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。Hr-FA泥流火山灰粒、地山のHr-FAを少量含む。
- 6 褐色土7.5YR6/8 シルト質土。黄褐色シルト土主体で暗褐色土を含む。被熱により赤化。

第126図 4区2面34住居

第4章 検出された遺構と遺物

35住居



35住居

- 1 暗褐色土10YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒とHr-FA肥流土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。含有物は1層と同じ。白色の灰が多く含まれ中層付近には厚さ20mm程の層を部分的に形成。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。地山のHr-FA粒・小ブロック・火山灰粒を少量含む。
- 4 黄褐色土10YR7/8 シルト質土。壁の崩落上で地山の黄褐色シルト土が主体。暗褐色土が少量入った混土。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。暗褐色土が主体で黄褐色シルト土とHr-FA肥流土を含む混土。
- 6 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。黄褐色シルト土と暗褐色土の混り。

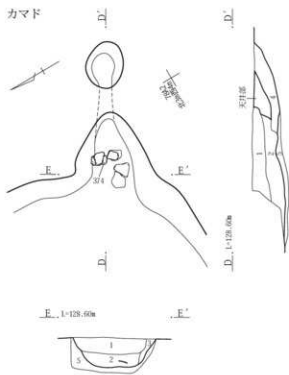
C

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。地山の黄褐色シルト土の混土。

掘り方



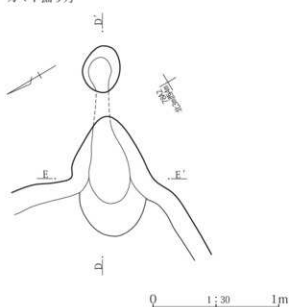
カマド



カマド

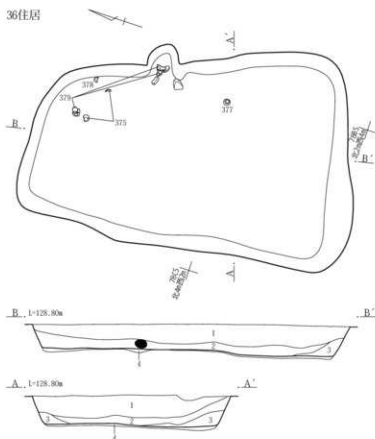
- 1 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒、焼土粒、Hr-FA小ブロックを少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。1層と同じだが、焼土粒・焼土ブロックを多く含む。
- 3 褐色土7.5YR4/5 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土やHr-FAの混り。
- 4 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。黒色の灰の厚さは1mm未満。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒、焼土粒を少量含む。2層とよく似る。

カマド掘り方



第127図 4区2面35住居

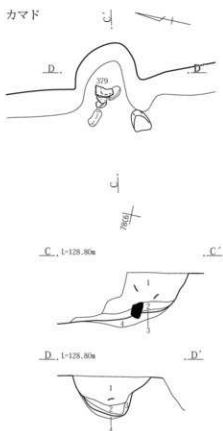
36住居



36住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を多く、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/1 Hr-FP軽石粒を少量含む。砂を非常に多く含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、黄褐色シルト土を少量含む混土。

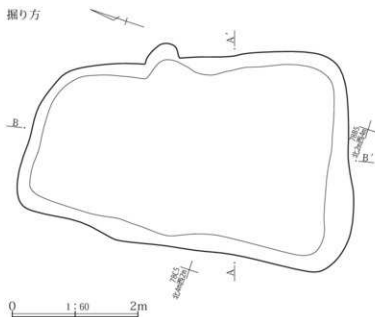
カマド



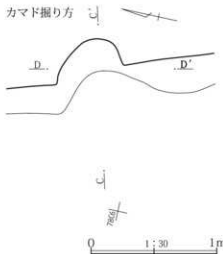
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒・焼土粒・灰土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。被熱による焼土化はほとんどみられず、灰層も検出できない。

掘り方

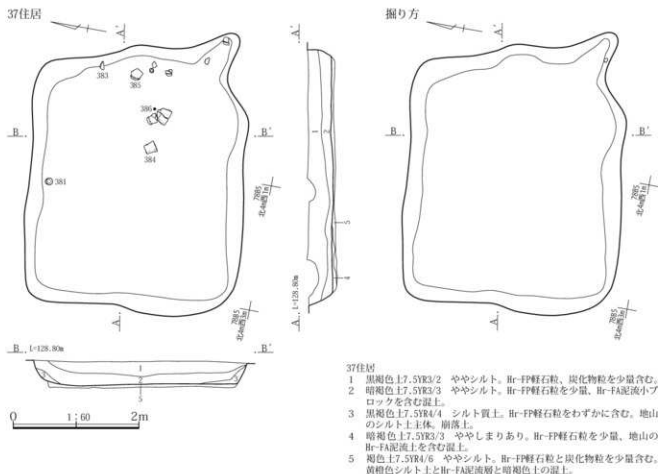


カマド掘り方

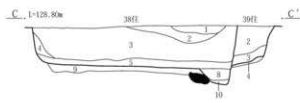
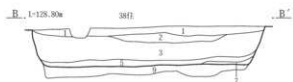
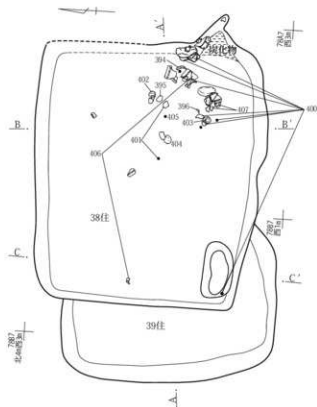


第128図 4区2面36住居

第4章 検出された遺構と遺物

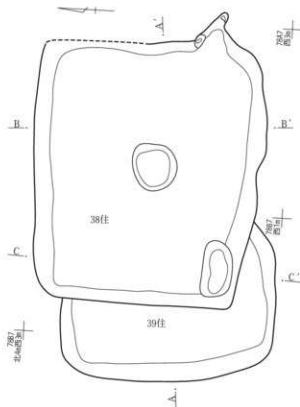


38・39住居



0 1:60 2m

掘り方



38住居

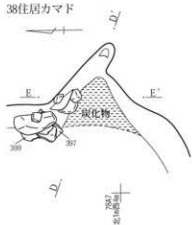
- 1 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量含む。As-Bを含む混土。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 4 黄褐色土7.5YR8/8 地山のHr-FA泥炭層が崩落して堆積した土。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥炭に伴う火山灰粒、Hr-FA泥炭土を少量含む混土。
- 6 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒とHr-FA泥炭火山灰粒、炭化物粒を少量含む。
- 7 棕色土7.5YR6/6 シルト質土。地山の黄褐色シルト土が崩落して堆積した土。6層の混土。
- 8 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 9 褐色土7.5YR4/3 Hr-FP軽石粒・炭化物粒を少量、黄褐色シルト土とHr-FA泥炭土を非常に多く含む混土。
- 10 褐色土7.5YR4/3 シルト。地山のHr-FA泥炭を含む混土。

39住居

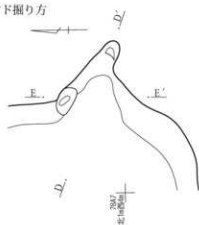
- 1 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒とHr-FA泥炭火山灰粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・Hr-FA泥炭土を少量含む混土。
- 4 棕色土7.5YR7/6 シルト質土。地山の黄褐色シルト土(崩落土)主体。炭化物をわずかに含む。

第4章 検出された遺構と遺物

38住居カマド



カマド掘り方



E, 1-128.70m E'

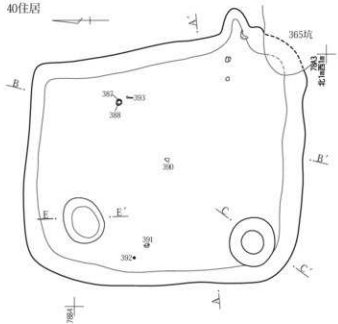


38住居カマド

- 1 暗褐色土7.5YR4/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量含む。地山のHr-FA泥流土粒や小ブロック・火山灰粒を含む混土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒をわずかに含む。焼土粒や焼土ブロックを少量含む混土。黒色の灰の厚さは1~2mm。

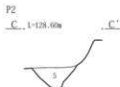
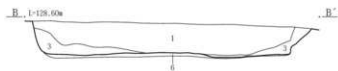
第131図 4区2面38住居

40住居



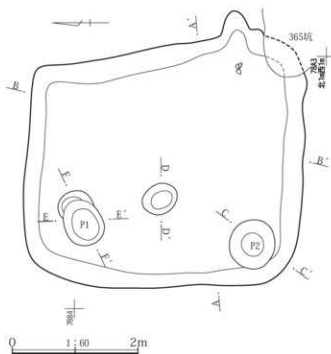
40住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土を含む混土。小礫を含む。
- 2 褐色土7.5YR3/4 粘土。しまりあり。1層によく似る。含有物は小礫以外は同じ。
- 3 褐色土7.5YR4/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量。地山のHr-FA泥流土と黄褐色シルト土を含む混土。(前落土含む。)
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト土。炭化物を少量含む。壁の黄褐色シルト土の前落土。
- 5 褐色土7.5YR3/4 Hr-FP軽石粒と炭化物粒を僅かに含む。
- 6 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量。黄褐色シルト土を含む混土。



第132図 4区2面40住居1

40住居掘り方



D, 1-128.20m D'



- D
- 1 褐色土7.5YR4/4 ややシルト質。Hr-FP軽石粒と、炭化物粒を僅かに含む。
 - 2 褐色土7.5YR6/5 シルト質土。炭化物粒を僅かに含む。地山の黄褐色シルト質土を多く含む混土。

P1 E, 1-128.20m E'



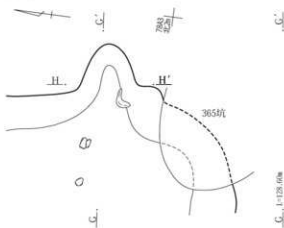
- E
- 1 褐色土7.5YR6/4 Hr-FP軽石粒僅か、焼土粒と炭化物粒を少量含む。

E, 1-128.20m E'



- F
- 1 に近い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒、Hr-F火山灰粒を少量含む。焼土粒を微量含む。
 - 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト質。含有物1層に似る。やや粘りあり。
 - 3 褐色土7.5YR6/5 シルト質土。炭化物粒を含み、地山の黄褐色シルト質土を多く含む混土。

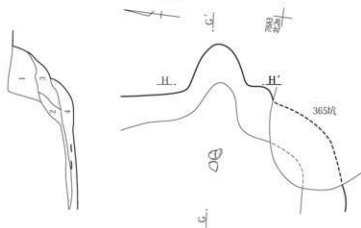
カマド



H, 1-128.60m H'



カマド掘り方



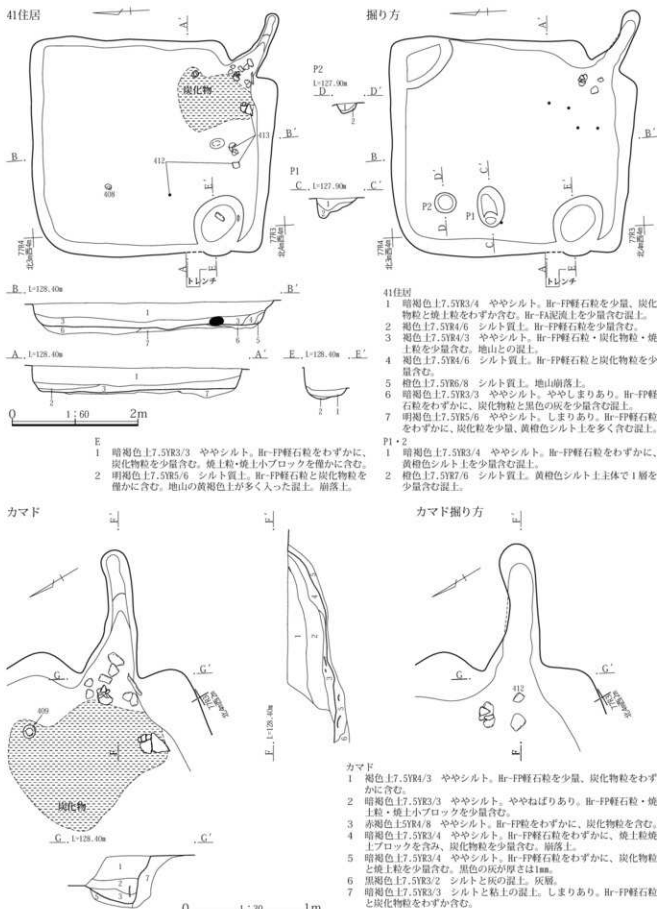
カマド

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。Hr-FP軽石粒・小礫を少量含む。炭化物粒と焼土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。焼土粒・小ブロックを多く含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。ややしまりあり。炭化物粒を少量、焼土粒・焼土小ブロックをわずかに含む。黒色の灰が厚さ1~2mm。

0 1:30 1m

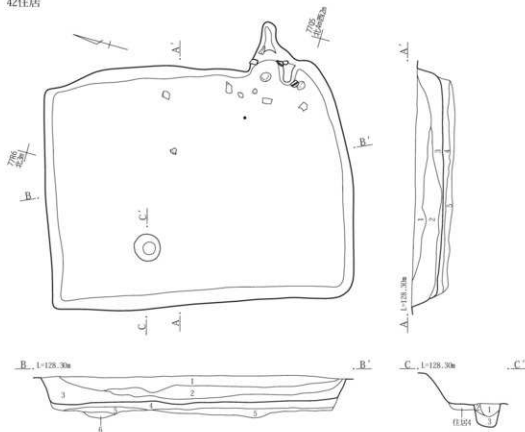
第133図 4区2面40住居2

第4章 検出された遺構と遺物



第134図 4区2面41住居

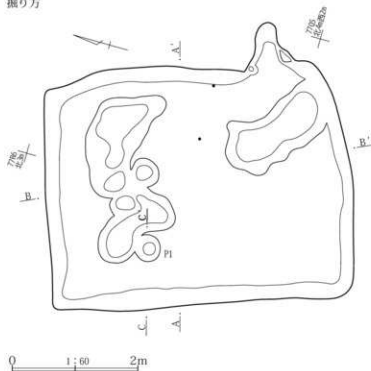
42住居



C

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 ややしルト。ややねぼりあり。炭化物粒を少量、Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。Hr-FP軽石粒、地山の黄褐色シルト上を少量含む混上。

掘り方



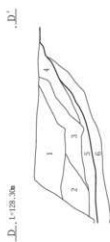
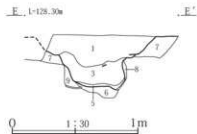
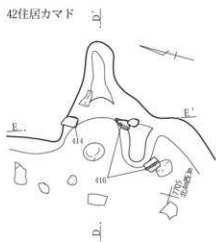
42住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒を少量含む。特に下層に多い。Hr-FA泥流土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土10YR5/8 ややしルト。Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FA泥流土粒・小ブロックを少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒・Hr-FA泥流土粒・火山灰粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土を少量含む混上。
- 5 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土主体。
- 6 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。5層と同じ上。

第135図 4区2面42住居1

第4章 検出された遺構と遺物

42住居カマド



カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。住居覆土の1層と同じ。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。住居覆土の3層と同じ。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。焼土粒・焼土小アブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。炭化材と焼土粒。焼土小アブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。ややしまり

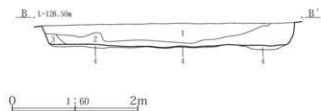
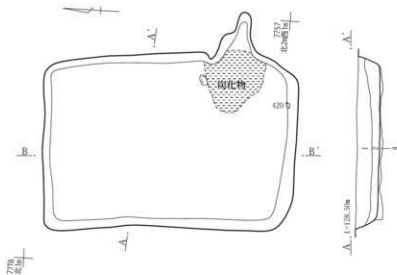
カマド掘り方



- 6 あり。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。炭化物粒を少量含む。黒色の灰を含む混土。
- 7 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに。炭化物粒を少量含む。黒色の灰が部分的に堆積。焼土化。
- 8 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山のHr-FA泥流土を少量含む混土。
- 9 赤褐色土2.5YR4/6 焼土。
- 10 暗褐色土2.5YR3/4 ややしルト。炭化物・焼土粒をわずかに含む。

第136図 4区2面42住居2

43住居

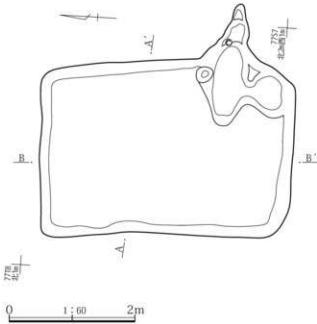


43住居

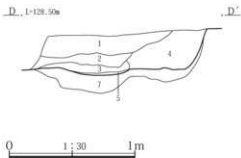
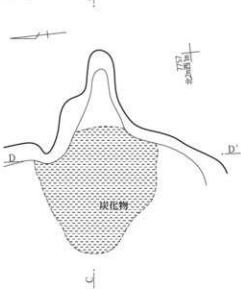
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土を含む混土。小礫を多く含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土を含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。地山・Hr-FA泥流土を含む混土。崩落土。
- 4 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量。Hr-FA泥流土を含む混土。床材。

第137図 4区2面43住居1

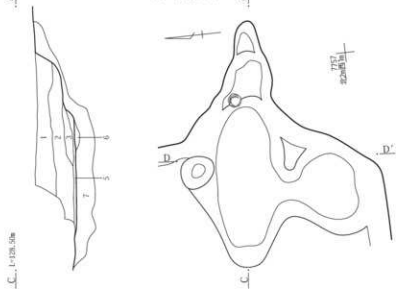
43住居掘り方



カマド



カマド掘り方

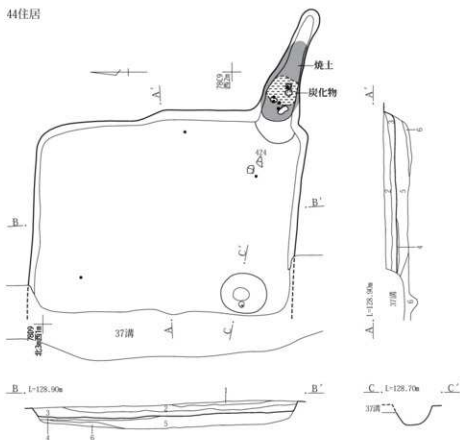


カマド

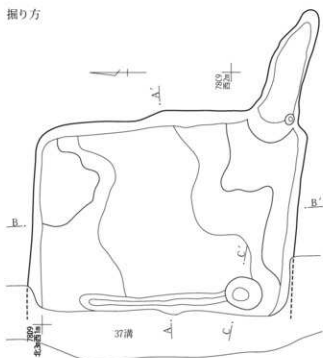
- 1 暗褐色土 7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土を少量含む混土。
- 2 褐色土 7.5YR4/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒、にふい・褐色土の小ブロック、Hr-FA泥流土を少量含む混土。
- 3 赤褐色土 5YR4/6 Hr-FP軽石粒をわずかに、焼土粒・焼土ブロックを非常に多く含む。
- 4 暗褐色土 7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土を含む混土。壁の崩落土。
- 5 黒褐色土 1.7.5YR3/2 灰層。黒色の灰が主体。焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土 5YR5/6 焼土。
- 7 暗褐色土 7.5YR3/6 ややしルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山のHr-FA泥流土を少量含む混土。

第138図 4区2面43住居2

44住居



掘り方



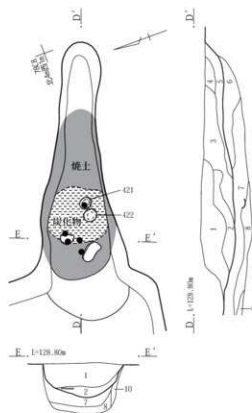
44住居

- 1 灰褐色土7.5YR5/2 As-Bを主体、二次堆積。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒・As-Bブロックをわずかに含む。
- 3 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 6 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。黄褐色シルト土主体で、炭化物粒をわずかに含む。

0 1:60 2m

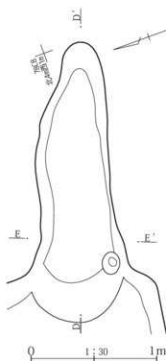
第139図 4区2面44住居1

44住居カマド



カマド

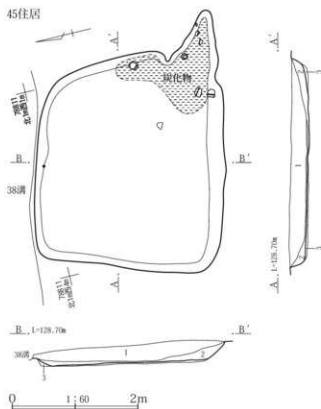
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、焼土粒・小ブロックを含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/6 やや粘性あり。かたくしまっている。Hr-FP軽石粒を少量、焼土粒・焼土ブロックを含む。天井部崩落上か。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。4層と同じだが、焼土粒・焼土ブロックを多く含む。
- 6 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒と焼土粒を少量含む。灰褐色粘土小ブロックと少量混じった混土。
- 7 明赤褐色土5YR5/6 シルト質土。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。焼土ブロックを非常に多く含む。灰色の灰が厚さ3～5mmで堆積。
- 8 褐色土7.5YR4/3 Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒・焼土粒・焼土小ブロックを少量含む。黒色の灰堆積。厚さ2～5mm。
- 9 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。床材。
- 10 褐色土2.5YR5/5 焼土。



カマド掘り方

第140図 4区2面44住居2

45住居

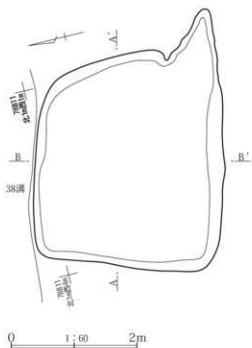


45住居

- 1 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土が主体で、非常に多く入った混土。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 3 褐色土7.5YR7/6 シルト質土。ややしまりあり。炭化物粒を少量含む。黄褐色シルト土が主体。地山に炭化物粒を含む。

第141図 4区2面45住居1

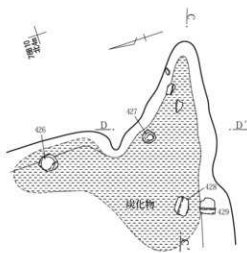
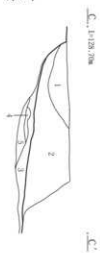
45住居掘り方



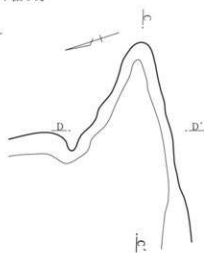
カマド

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土を多く含む混土。
- 3 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。炭化物粒をわずかに、焼土粒・焼土小ブロックを少量含む。黄褐色シルト土上で暗褐色土を含む混土。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 灰層。黒色の灰が堆積。焼土粒を少量含む。部分的な堆積。
- 5 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。黄褐色シルト土を多く含む混土。上面にやや赤化が見られる。

カマド

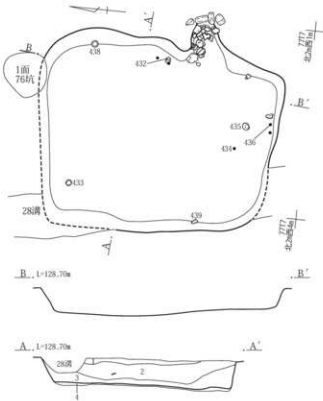


カマド掘り方



第142図 4区2面45住居2

46住居



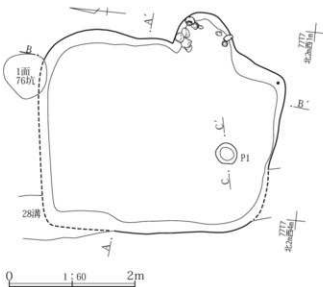
46住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 As-Bを非常に多く、Hr-FP軽石粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・Hr-FA泥流土を少量含む混上。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土を含む混上。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。しまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、地山の黄褐色シルト土を多く含む混上。

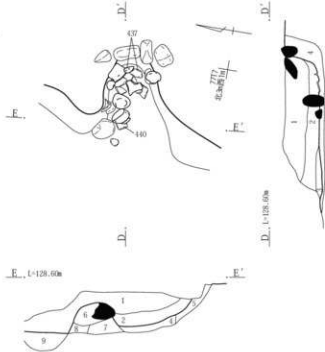
P1

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。

掘り方



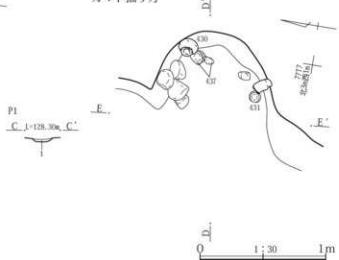
カマド



カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・焼土粒・Hr-FA泥流土を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒と焼土、Hr-FA泥流土を少量含む混上。黒色の灰の堆積が見られる。厚さ1~3mm。
- 4 褐色土7.5YR4/6 しまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量、焼土粒をわずかに含む。黒色の灰が層を形成。厚さ2~3mm。
- 5 にぶい褐色土7.5YR5/3 ややしルト質土。ややしりあり。炭化物粒を少量含む。地山のシルト土が上部。焼土化が見られる。
- 6 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。
- 7 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒と焼土粒を少量含む。
- 8 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、黄褐色シルト土を多く含む混上。
- 9 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。炭化物粒を少量含む。黒色の灰がブロック状・筋状に堆積。

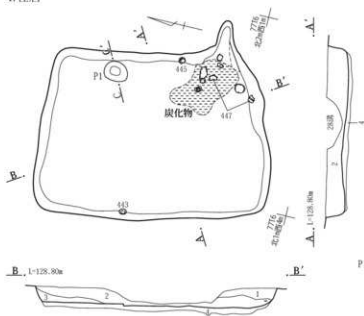
カマド掘り方



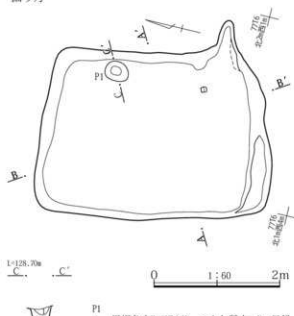
第143図 4区2面46住居

第4章 検出された遺構と遺物

47住居



掘り方



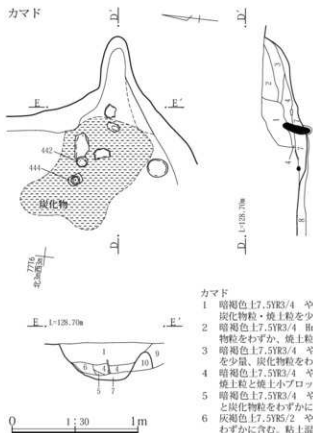
47住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流土を少量含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土を少量含む混土。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土とそれに伴う火山灰粒を少量含む混土。床材。

PI

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。焼土粒を少量含む。

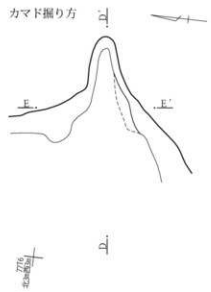
カマド



カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 Hr-FP軽石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。焼土粒・焼土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量。炭化物粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。1層と同じ。焼土粒と焼土小ブロックを含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。
- 6 灰褐色土7.5YR5/2 やや粘性あり。炭化物粒をわずかに含む。粘土混土。

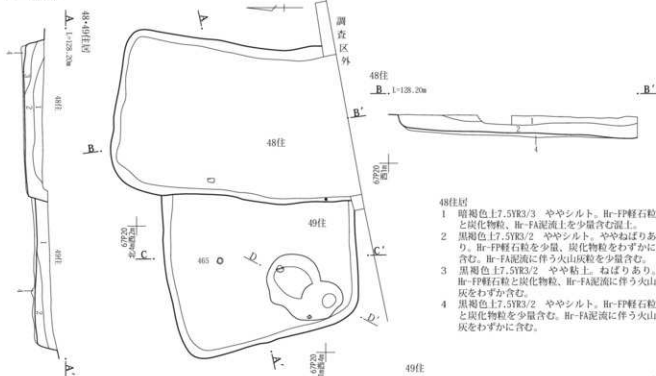
カマド掘り方



- 7 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。しまりあり。炭化物粒をわずかに含む。焼土粒・黒色の灰を少量含む。灰層。
- 8 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。しまりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土とそれに伴う火山灰粒を少量含む混土。床材。
- 9 暗褐色土7.5YR3/4 1層と似る。
- 10 灰褐色土7.5YR4/2 やや粘土質。ややねばりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。カマドの袖。

第144図 4区2面47住居

48・49住居



48住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒、Hr-FA泥流土を少量含む混土。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト。ややねばりあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 やや粘土。ねばりあり。Hr-FP軽石粒と炭化物粒、Hr-FA泥流に伴う火山灰をわずかに含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流に伴う火山灰をわずかに含む。

49住

C, 1-128.20m

49住

D, 1-128.20m

掘り方

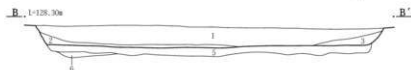
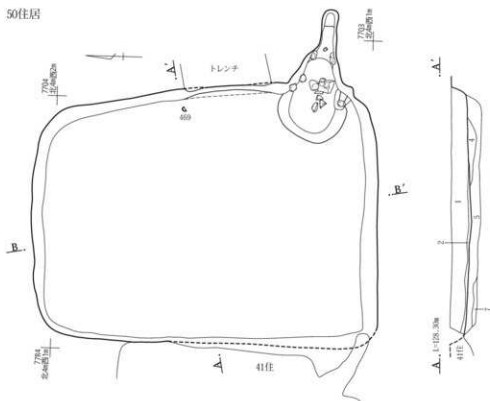


49住居

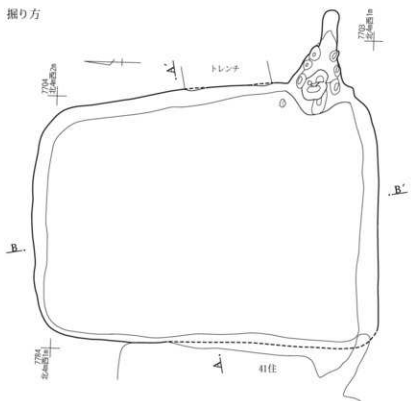
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒とHr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒と小ブロック、火山灰粒を少量含む混土。
- 3 にぶい褐色土7.5YR5/4 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。地山のHr-FA泥流土を多く含んだ混土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物粒・Hr-FA泥流土・火山灰粒を少量含む混土。

0 1:60 2m

50住居



掘り方

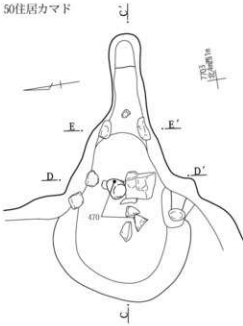


50住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒、Hr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。1層に同じ。地山のHr-FA泥流土を少量含む混土。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒を少量含む。地山のHr-FA泥流土を含む混土。崩落土含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずか含む。Hr-FA泥流土粒・小ブロックを含む混土。
- 5 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずか含む。Hr-FA泥流土を含む混土。
- 6 黒褐色土7.5YR3/2 ややしルト。Hr-FP軽石粒と焼土粒をわずかに、黒色の炭を非常に多く含む。
- 7 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。地山の黄褐色土主体の混土。炭化物粒をわずか含む。

第146図 4区2面50住居1

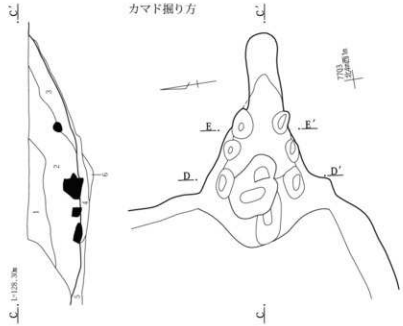
50住居カマド



D., L=1.125.30m



カマド掘り方

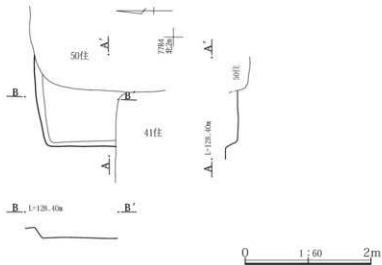


カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。住居1層と同じ。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。Hr-FP軽石を少量、炭化物粒をわずか含む。地山のHr-FA泥流土を少量含む混土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 Hr-FP軽石・炭化物粒を少量含む。焼土粒や焼土小ブロックを含む。地山のHr-FA泥流土を少量含む混土。煙道が崩落か。
- 4 黒褐色土7.5YR3/1 灰層。黒色の灰が堆積している。焼土粒・焼土ブロックを多く含む。
- 5 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石や炭化物粒、焼土粒を少量含む。Hr-FA泥流土を少量含む混土。
- 6 赤褐色土2.5YR4/6 焼土主体。黒色の灰と炭化物粒を少量含む。
- 7 にぶい褐色土7.5YR6/4 シルト質土。地山の黄褐色シルト土を非常に多く含む混土。
- 8 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。炭化物粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を含む混土。

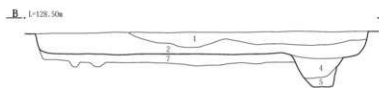
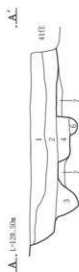
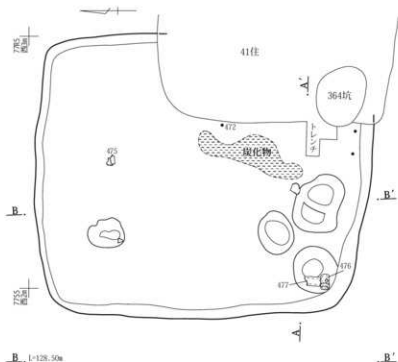
第147図 4区2面50住居2

156住居



第148図 4区2面156住居

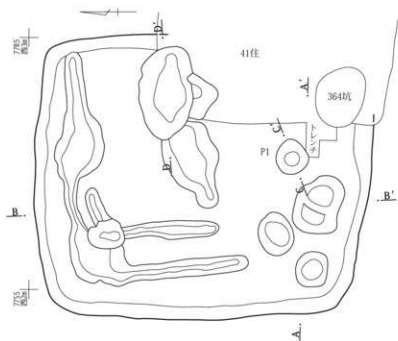
51住居



51住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒、Hr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。1層と同じ。地山のHr-FA泥流土を少量含む混土。住居中央下位に炭化物、褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒、Hr-FA泥流に伴う火山灰粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。しまりあり。Hr-FP軽石粒を少量含む。地山の黄褐色シルト土を粒状・小ブロック状を含む混土。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土やHr-FA泥流土を少量含む混土。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒や炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土が主体の混土。
- 6 暗褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒や炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土が主体の混土。
- 7 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒を少量、焼土粒をわずかに含む。黒色の灰をすじ状に堆積。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む混土。

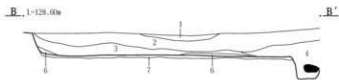
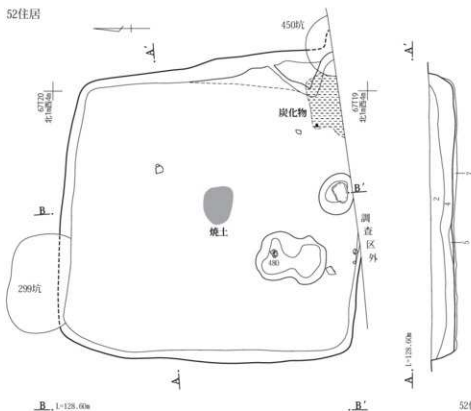
掘り方



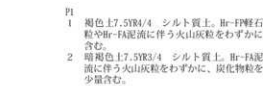
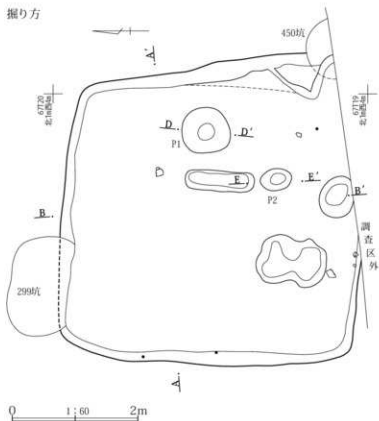
- P1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒や炭化物粒、Hr-FA火山灰粒を少量含む混土。
- 2 明黄褐色土10YR6/6 シルト質土。地山の黄褐色シルト土主体で1層を多く含む混土。

第149図 4区2面51住居

52住居



掘り方



52住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒や黒色の灰を多く含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト、Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややシルト、Hr-FP軽石粒や炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流や小ブロックを含む混土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト、Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流に伴う火山灰粒をわずかに含む。他に比べて粒が細かく水性堆積と思わせる。
- 5 暗褐色土10YR3/3 As-C・Hr-FPを少量、黄褐色土を若干含む。
- 6 褐色土10YR4/4 As-C・Hr-FP・黄褐色土を少量含む。
- 7 黄褐色土10YR5/6 As-C・Hr-FP・暗褐色土を若干含む。

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土、Hr-FP軽石粒やHr-FA泥流に伴う火山灰粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土、Hr-FA泥流に伴う火山灰粒をわずかに、炭化物粒を少量含む。

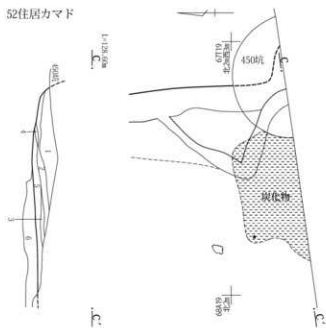


- 1 暗褐色土7.5YR4/4 シルト質土、Hr-FP軽石粒やHr-FA泥流に伴う火山灰粒をわずかに含む。

第150図 4区2面52住居1

第4章 検出された遺構と遺物

52住居カマド



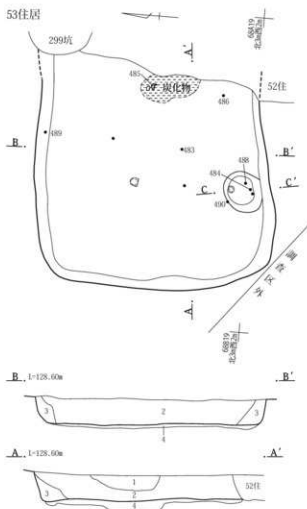
カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに含む。焼土粒を含む。
- 2 黒色土7.5YR2/1 灰層。焼土粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 ややシルト。炭化物粒をわずかに含む。
- 4 橙色土2.5YR6/8 焼土。カマド内壁から崩落したもの。
- 5 灰色土8H/ 灰層。灰白色の灰が主体。
- 6 床材に同じ。

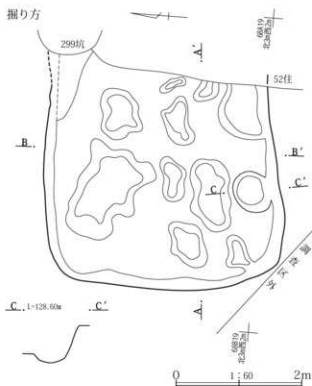
0 1:30 1m

第151図 4区2面52住居2

53住居



掘り方

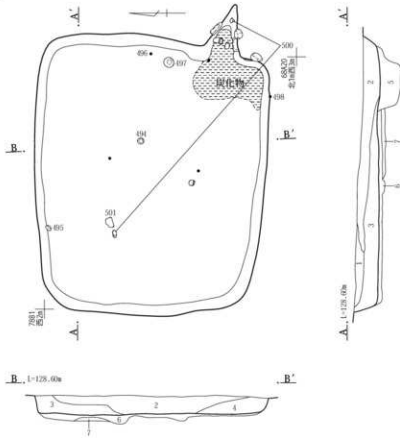


53住居

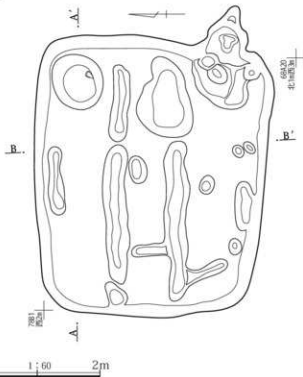
- 1 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。Hr-FA泥流土粒や小ブロックを多く含む泥土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。炭化物粒やHr-FAに伴う火山灰粒を少量含む泥土。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。しまっている。Hr-FP軽石粒とHr-FA泥流に伴う火山灰粒をわずかに含む。黒色の灰や炭化物粒を少量含む。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 As-C・Hr-FAを若干含む。明黄褐色洪水層をブロック状に少量含む。

第152図 4区2面53住居

54住居



掘り方



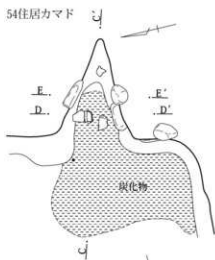
54住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。As-Bをブロック状に含む。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒や焼土粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流の火山灰粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒・Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。地山のHr-FA泥流や黄褐色シルト土を含む混土。
- 5 暗褐色土10YR3/4 As-C・Hr-FAを若干含む。明黄褐色洪水層を少量含む。
- 6 褐色土10YR4/4 As-C・Hr-FAを若干含む。明黄褐色洪水層をブロック状に多量に含む。
- 7 黄褐色土10YR5/6 As-C・Hr-FAを若干含む。明黄褐色洪水層を極多量に含む。

第153図 4区2面54住居1

第4章 検出された遺構と遺物

54住居カマド



D, L=128.50m D'



E, L=128.50m E'



カマド石組

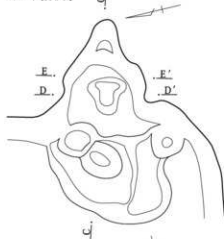


1:128.50m

カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 1層と同じ。Hr-FA泥流土と火山灰粒を含む混土。焼土粒を少量含む。
- 3 黄褐色土10YR3/2 炭化物。灰層。
- 4 暗褐色土10YR3/3 炭化物・焼土粒・灰を多量に含む。
- 5 褐色土10YR4/4 炭化物を若干、焼土を若干含む。
- 6 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA・As-Cを若干含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR5/3 Hr-FA・As-Cを若干含む。焼土を若干含む。
- 8 黄褐色土10YR5/6 地山が被熱。赤色土。

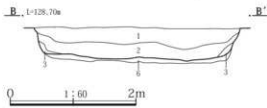
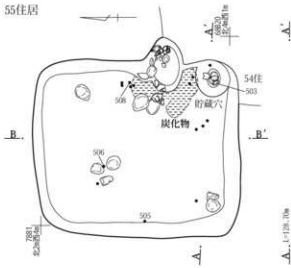
カマド掘り方



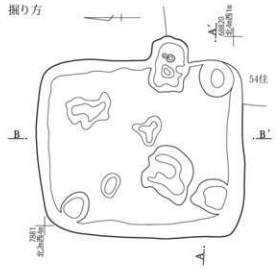
0 1:30 1m

第154図 4区2面54住居2

55住居



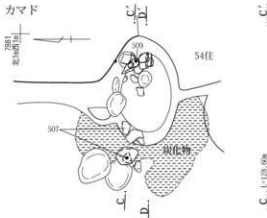
掘り方



55住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土を少量含む混土。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、Hr-FA泥流土を多く含む混土。
- 3 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。地山の黄褐色シルト土やHr-FA泥流土が崩落により多く堆積した混土。
- 4 にぶい黄褐色土10YR5/3 As-C・Hr-FAを若干含む。明黄褐色洪水層・炭化物を少量含む。
- 5 明黄褐色土10YR7/6 As-C・Hr-FA・炭化物を若干含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 As-C・Hr-FAを若干含む。明黄褐色土をブロック状に多量に含む。

カマド



カマド掘り方



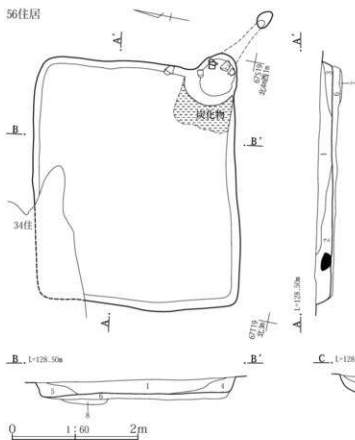
カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA・As-Cを多量に含む。炭化物を若干含む。
- 2 褐色土10YR4/4 Hr-FA・As-Cを少量。炭化物・焼土を少量含む。黄褐色土を多量に含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物主体。焼土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA・As-Cを少量。炭化物粒・焼土粒を少量含む。明黄褐色洪水層をブロック状に少量含む。
- 5 黒褐色土10YR2/3 Hr-FA・As-Cを若干。炭化物を極多量、焼土ブロックを少量含む。炭化物・灰層主体。
- 6 褐色の焼土5YR6/8 焼土の塊。炭化物を若干含む。
- 7 にぶい黄褐色土10YR5/4 洪水層を多量に、Hr-FA・As-Cを若干含む。

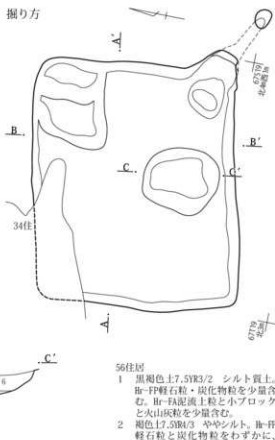
第155図 4区2面55住居

第4章 検出された遺構と遺物

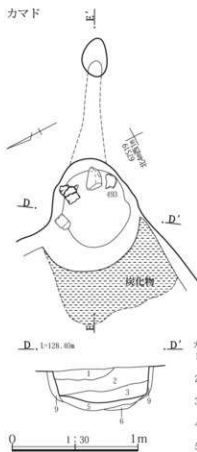
56住居



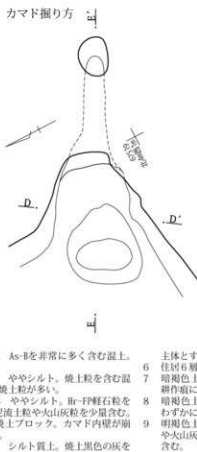
掘り方



カマド



カマド掘り方



56住居

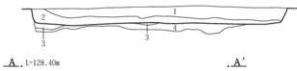
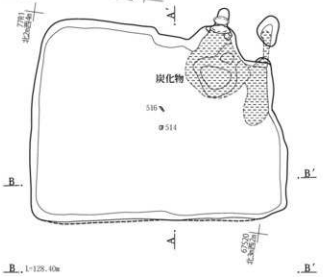
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒・炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒と小ブロックと火山灰粒を少量含む。
- 2 褐色土17.5B4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 3 褐色土17.5B4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒と小ブロック・火山灰粒を含む混土。
- 4 褐色土17.5B4/3 シルト質上。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒と小ブロック・火山灰粒を含む混土。
- 6 褐色土17.5B4/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量。Hr-FA泥流土粒や小ブロック・火山灰粒を多く含む混土。炭化物粒をわずかに含む。
- 7 褐色土17.5B4/4 シルト質上。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を多く含む。炭化物粒と焼土粒をわずかに含む混土。
- 8 明褐色土7.5YR5/6 シルト質上。Hr-FA泥流土と黄褐色シルト上の混土。

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 As-Bを非常に多く含む混土。耕作前による。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。焼土粒を含む混土。3層と同じで焼土粒が多い。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 4 褐色土5YR7/8 焼土ブロック。カマド内壁が崩落し堆積した焼土。
- 5 暗褐色土17.5YR3/4 シルト質上。焼土黒色の灰を

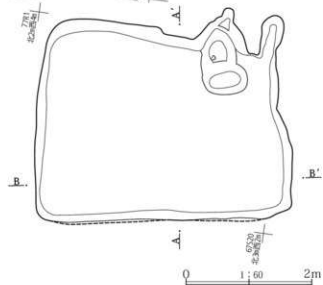
- 6 主体とする。焼土粒・焼土小ブロックを多く含む。住居6層と同じ。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 As-Bを非常に多く含む混土。耕作前によるもの。
- 8 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 9 明褐色土7.5YR5/6 ややしルト。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒。焼土粒や焼土小ブロックをわずかに含む。

第156図 4区2面56住居

57住居



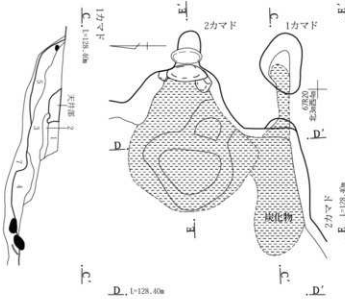
掘り方



57住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA肥土粒と火山灰粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FA肥土粒と小ブロックを含む。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。床を補修した際に使われた土か。
- 4 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-FA肥土土を非常に多く含む混土。

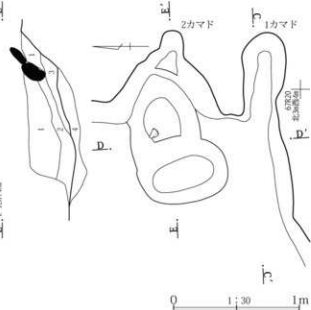
1・2カマド



1カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 2 褐色土5YR7/8 焼土。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒・焼土粒・小ブロックをわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。焼土粒や小ブロックを含む混土。
- 5 暗褐色土1.7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。Hr-FA肥土粒や火山灰粒を少量含む。壁の崩落土。
- 6 濃い褐色土7.5YR5/4 Hr-FA含む混土。

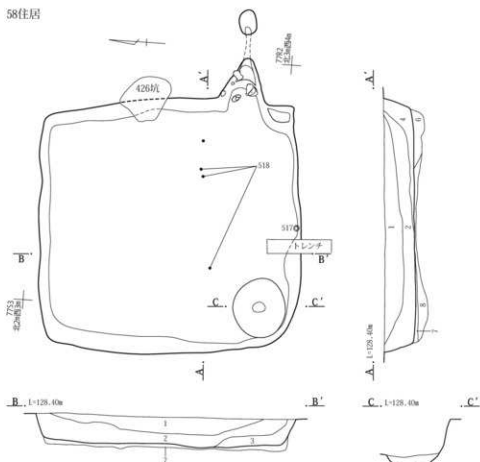
1・2カマド掘り方



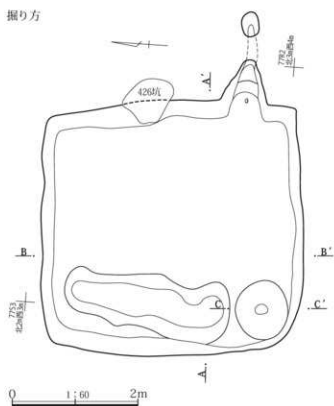
2カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA肥土土粒や火山灰粒を含む混土。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA肥土土粒と火山灰粒を少量含む混土。
- 3 暗褐色土1.7.5YR3/4 ややしルトあり。しまっている。焼土粒や焼土ブロックを含む。崩落土。
- 4 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-FA肥土土を多く含む混土。床材。
- 5 黒褐色土1.7.5YR3/2 ややしルト。しまりあり。Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA肥土土粒や火山灰粒を含む。
- 6 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FA肥土土粒と火山灰粒を多く、焼土粒や炭化物粒・黒色の灰を少量含む。
- 7 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-FA肥土土を多く含む混土。焼土粒や小ブロック、灰や炭化物粒を多く含む。

58住居



掘り方

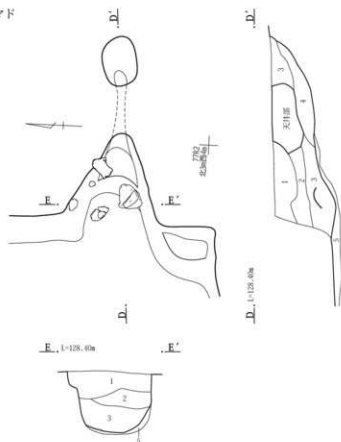


58住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。炭化物粒を少量含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を含む。崩落土。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。ねばりあり、Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 6 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。しまっている。炭化物粒と焼土粒を含む。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。かたくしまっている。Hr-FP軽石粒や炭化物粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 8 にぶい褐色土7.5YR5/4 ややしルト。Hr-FA泥流土粒や小ブロックを含む混土。

第158図 4区2面58住居1

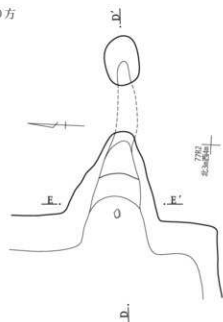
58住居カマド



カマド

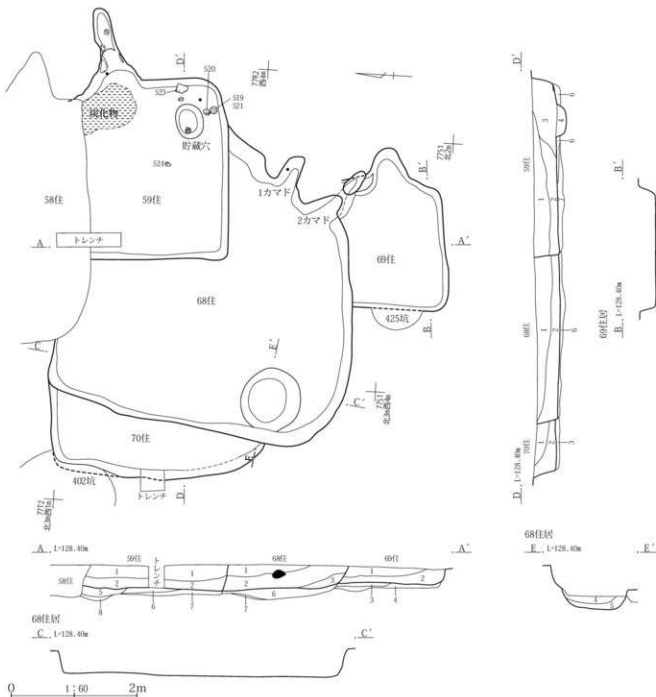
- 1 暗褐色土7.5VR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5VR4/3 ややしルト。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を多く、Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5VR3/3 ややしルト。炭化物粒・焼土粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒をわずかに含む。焼土粒・焼土小ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土7.5VR3/2 ややしルト。焼土粒・焼土ブロックを多く含む。煙道部明落上。
- 5 褐色土7.5VR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-FP、炭化物粒をわずかに含む。黒色の灰を層状に堆積。

カマド掘り方



0 1:30 1m

第159図 4区2面58住居2

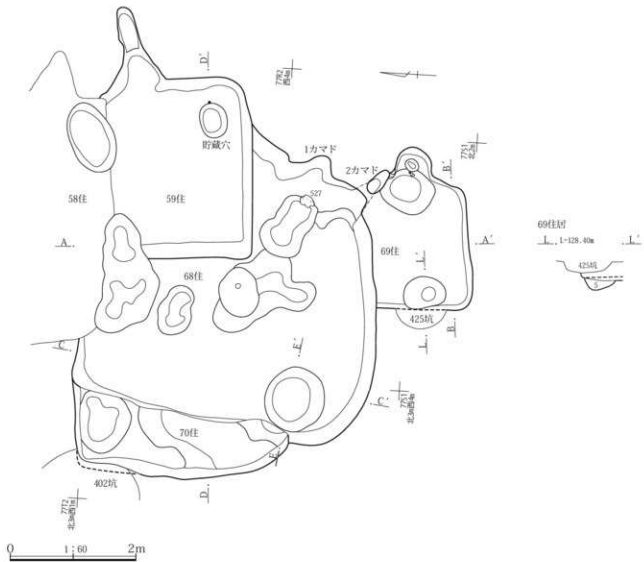


- 59住居
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 ややしルト。Hr-FP軽石粒・焼土粒を少量含む。Hr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
 - 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。焼土粒と炭化物粒をわずかに含む。
 - 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
 - 4 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒・炭化物粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
 - 5 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
 - 6 褐色土7.5YR4/6 非常にかたくしまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土を多く含む混土。
 - 7 ぶい、褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FA泥流土を含む混土。
 - 8 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。黄褐色シルト土を含む混土。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。

- 68住居
- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
 - 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰小ブロックを少量含む。
 - 3 黒褐色土7.5YR3/2 ややしルト。ややしまっている。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
 - 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
 - 5 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。炭化物粒をわずかに、黄褐色シルト土粒を少量含む。
 - 6 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む。黒色の灰を少量含み一部層状に堆積。
 - 7 黒褐色土7.5YR3/1 灰層。

第160図 4区2面59・68～70住居1

59・68～70住居掘り方



69住居

- 1 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Hr-PP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。Hr-PP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を多く含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Hr-PP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や小ブロック・火山灰粒を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。しまっている。Hr-PP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒や小ブロック・火山灰粒を多く含む混土。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。黄褐色シルト土を主体とする混土。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。

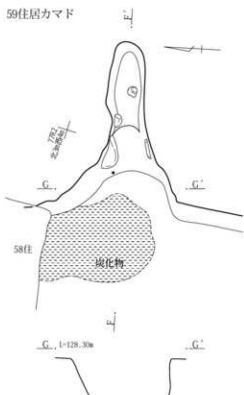
70住居

- 1 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流に伴う火山灰粒を少量含む。
- 2 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む混土。炭化物粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。ややしまりあり、Hr-PP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに、Hr-FA泥流土をブロック状に多く含む。褐色土との混土。

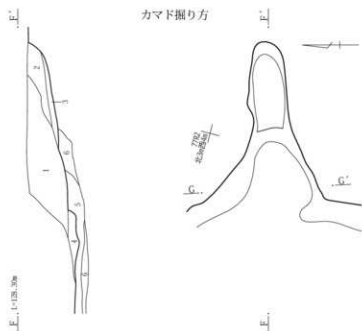
第161図 4区2面59・68～70住居2

第4章 検出された遺構と遺物

59住居カマド



カマド掘り方

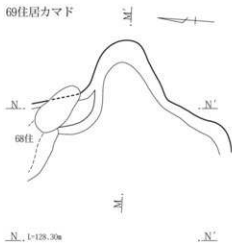


59住居カマド

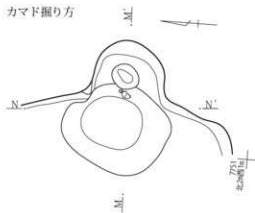
- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。焼土粒を少量、Hr-FP軽石粒や炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を多く含む。
- 3 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。炭化物粒と焼土粒を少量含む。
- 4 黒色土7.5YR2/1 灰層。炭化物含む。
- 5 濃い褐色土7.5YR5/4 かたくしまっている。住居貼り床。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土を多く含んだ混土。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量、焼土粒をわずかに含む。

第162図 4区2面59住居

69住居カマド



カマド掘り方

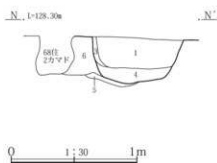


69住居カマド

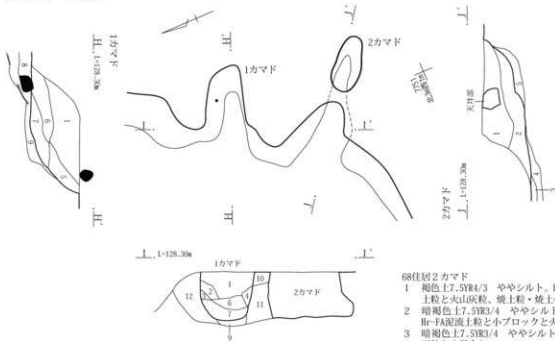
- 1 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。Hr-FP軽石粒と焼土粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。焼土粒や小ブロック、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。
- 3 濃い褐色土7.5YR5/3 Hr-FP軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土が多く混入している混土。崩落土。
- 4 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を含む。焼土粒や黒色の灰、炭化物粒を少量含む。
- 5 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土が多く混入した混土。
- 6 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。下面には黒色の灰の分布が見られた。

*カマドも住居の床面同様、1度補修されている。

第163図 4区2面69住居



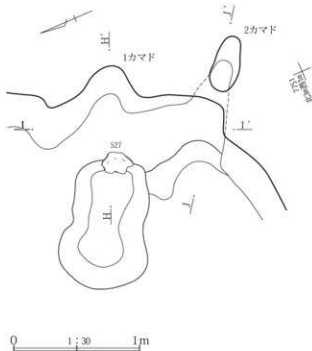
68住居1・2カマド



68住居2カマド

- 1 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Br-FP軽石粒、Br-FA泥流土粒と火山灰粒、焼土粒・焼土小ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Br-FP軽石粒を少量、Br-FA泥流土粒と小ブロックと火山灰粒を多く含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Br-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 4 褐色土5YR7/6 焼土。カマド内壁が焼土化した部分。
- 5 灰褐色土7.5YR5/2 ややしルト。ややねばりあり。焼土粒や小ブロックを少量、焼土粒や小ブロックを多く含む。カマドの崩落上。
- 6 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Br-FP軽石粒・炭化物粒をわずく、焼土粒を少量含む。
- 7 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。Br-FA泥流土粒・火山灰粒・焼土粒・焼土小ブロックを少量含む。
- 8 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。しまっている。焼土粒や炭化物粒を少量含む。
- 9 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。焼土粒、炭化物粒をわずく含む。オリーブ黒色の灰や黒色の灰が層状に堆積。
- 10 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Br-FP軽石粒、Br-FA泥流土粒と火山灰粒と炭化物粒を少量含む。
- 11 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Br-FP軽石粒、Br-FA泥流土粒やブロック、火山灰粒を少量含む。
- 12 暗褐色土7.5YR4/3 ややしルト。しまっている。Br-FP軽石粒を少量、Br-FA泥流土粒や小ブロック、火山灰粒を含む混土。

1・2カマド掘り方



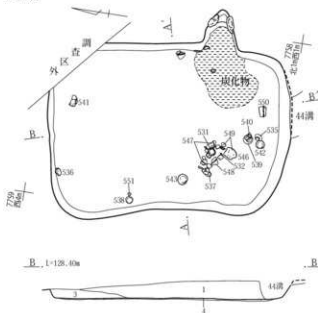
68住居1カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Br-FP軽石粒を少量、Br-FA泥流土粒と火山灰粒を含む混土。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。Br-FP軽石粒、焼土粒・ブロックを少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。しまっている。焼土粒を少量、炭化物粒をわずく含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。焼土粒を少量、炭化物粒をわずく含む。黒色の灰を粒状に少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Br-FP軽石粒をわずく、Br-FA泥流土粒や火山灰粒、焼土粒や炭化物粒、黒色の灰の小ブロックを少量含む。

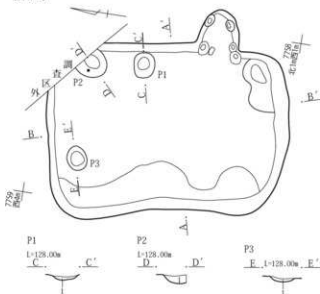
第164図 4区2面68住居

第4章 検出された遺構と遺物

60住居



掘り方



60住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を多く含む混土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。Hr-FP軽石粒。炭化物粒をわずかに含む。
- 3 褐色土7.5YR6/4 シルト質土。Hr-FP軽

- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。ややしまりあり。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土を含む混土。Hr-FP軽石粒と炭化物粒を少量含む。

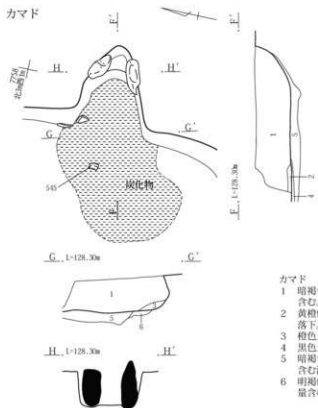
P1・2

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。黄褐色シルト土を含む混土。

P3

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、黒色の灰を多く含む。黄褐色シルト土を含む混土。

カマド



カマド掘り方

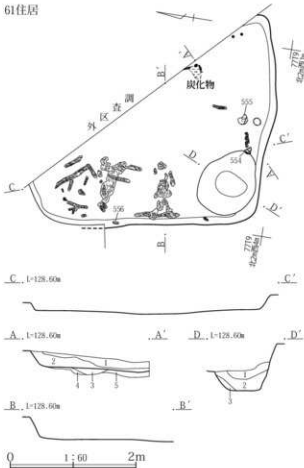


カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒と焼土粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒や小ブロックを少量含む混土。
- 2 黄褐色土7.5YR7/8 焼土粒とブロック。カマドの焼土が崩れて堆積。黒色の灰層上に落下。
- 3 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。壁の黄褐色シルト土の崩落土。
- 4 黒色土7.5YR2/1 灰層。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。ややしまりあり。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土を含む混土。焼土粒や炭化物粒・黒色の灰を少量含む。
- 6 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。黄褐色シルト土が主体で焼土粒・炭化物粒・灰を少量含む。

第165図 4区2面60住居

61住居



掘り方

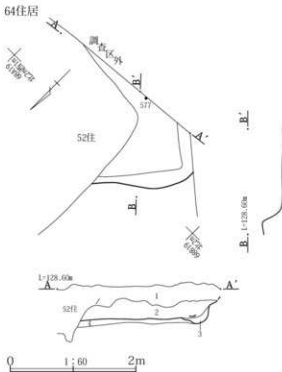


61住居

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。Hr-FA泥流土粒、炭化物を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。炭化物を非常に多く含む。焼土粒や焼土ブロックを少量含む。
- 3 にぶい褐色土7.5YR5/4 やや粘土。しまっている。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。ややしまりあり。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒をわずか含む。
- 5 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。ややしまりあり。Hr-FP軽石粒をわずか含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒、炭化物粒を少量含む。

第166図 4区2面61住居

64住居



掘り方



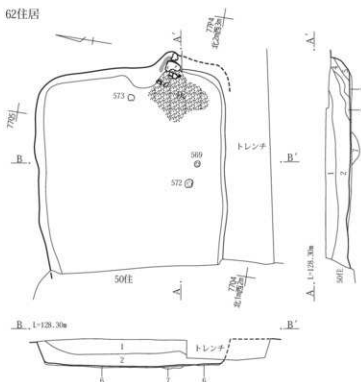
64住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C・Hr-FAを少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 As-C・Hr-FAを少量含む。黄褐色土を少量含む。
- 3 黒褐色土10YR2/3 As-C・Hr-FAを少量、黄褐色土を若干含む。
- 4 黄褐色土10YR5/6 As-C・Hr-FAを若干、暗褐色土を少量含む。

第167図 4区2面64住居

第4章 検出された遺構と遺物

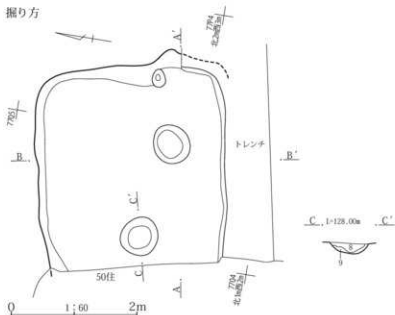
62住居



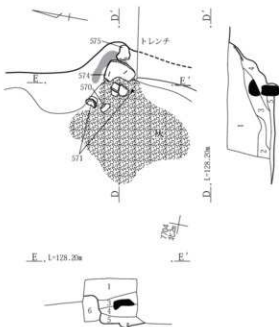
62住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 ややしルト。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒をわずが、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 やや粘上。しまりあり。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒をわずが、Hr-FA泥流土を小ブロックや粒状に多く含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。しまりあり。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/4 やや粘上。しまっている。Hr-FP軽石粒を少量含む。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土の混上。
- 5 褐色土2.5YR6/8 焼上。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。しまっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずが、Hr-FA泥流土が多く、黄褐色シルト土も含む混上。
- 7 褐色土7.5YR4/6 ややしルト。Hr-FA泥流土を多く含む混上。ブロック状に堆積し、床を作るときに埋められた可能性高い。
- 8 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずが、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 9 にぶい褐色土7.5YR5/4 ややしルト。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を多く含む混上。

掘り方



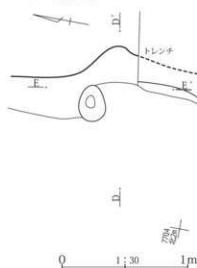
カマド



カマド

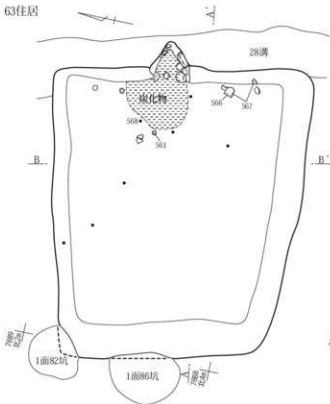
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 やや粘上。Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒をわずが、Hr-FA泥流土粒や小ブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト。しまりあり。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土や火山灰粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 やや粘上。しまっている。Hr-FP軽石粒を少量含む。黄褐色シルト土とHr-FA泥流土の混上。
- 4 褐色土2.5YR6/8 焼上。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。黒色の灰と焼土粒を多く含む混上。カマドを使用中に灰や崩れた焼土が混入した堆積上。
- 6 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土に伴う火山灰をわずが含む。

カマド掘り方

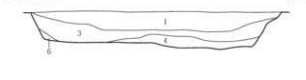
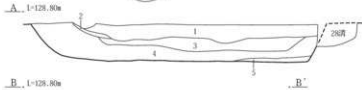
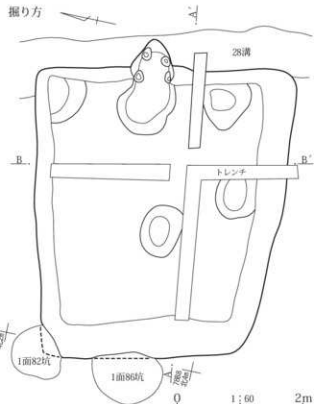


第168図 4区2面62住居

63住居



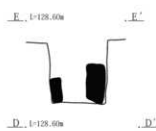
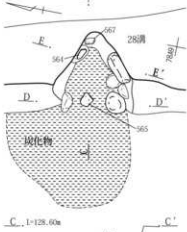
掘り方



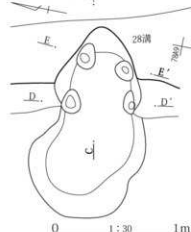
63住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質上。Br-FP軽石粒を少量、炭化物粒・Br-Fa粒・火山灰粒をわずかに含む。
- 2 明黄褐色土10YR7/6 シルト質上。黄褐色シルト土主体、灰褐色土を混上。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。Br-FP軽石粒とBr-Fa配粒土粒や小ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。Br-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Br-Faを少量、黄褐色シルト土粒を含む混上。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。黒色の灰を多く、焼土粒をわずかに含む。
- 6 黄褐色土10YR5/6 シルト質上。崩落土。黄褐色シルト土が混上。

カマド



カマド掘り方



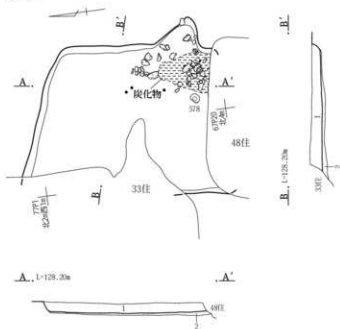
カマド

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。Br-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。1層と同じ。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。ややしまりあり。焼土粒や焼土小ブロック・炭化物粒を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。焼土粒や焼土ブロックを含む。灰色の灰が厚く堆積。
- 5 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。ややしまっている。黒色の灰が厚く堆積。焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土7.5YR4/6 ややシルト質上。しまっている。Br-FP軽石粒や炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。床材。

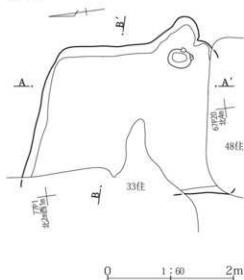
第169図 4区2面63住居

第4章 検出された遺構と遺物

65住居



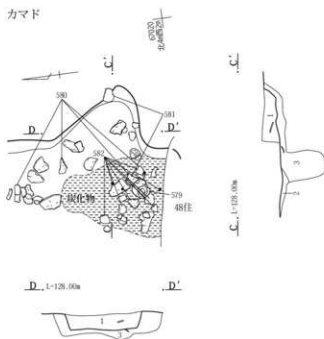
掘り方



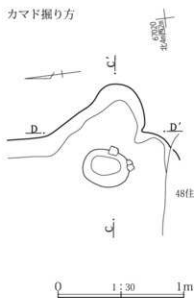
65住M

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒とHr-FA肥流土粒・火山灰粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR3/4 ややシルト。しまっている。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。床材。

カマド



カマド掘り方

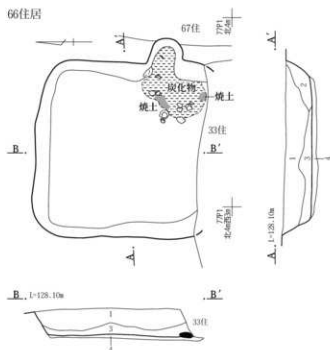


カマド

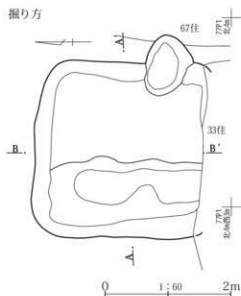
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒・Hr-FA肥流土粒や火山灰粒少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 しまっている。Hr-FA肥流土粒や火山灰粒を少量、黒色の灰と焼土粒をわずかに含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 しまっている。Hr-FA肥流土粒や火山灰粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。

第170図 4区2面65住居

66住居



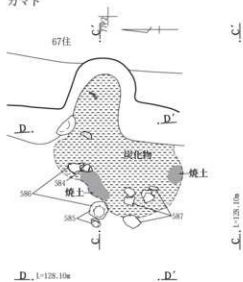
掘り方



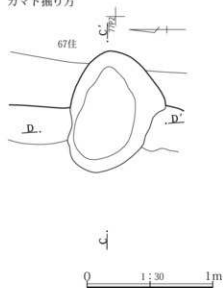
66住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト。Hr-FP軽石を多く、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずか、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA泥流土粒や小ブロック、火山灰粒を多く含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。しまっている。Hr-FA粒を多く含む混土。炭化物少量含む。床材。

カマド



カマド掘り方



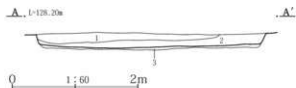
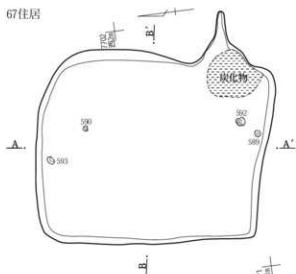
カマド

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 ややシルト。ややねばりがありしまっている。Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒をわずか含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずか、焼土粒を多く含む。
- 3 明赤褐色土2.5YR5/8 焼土ブロックが堆積土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。しまっている。焼土粒や小ブロックを少量、灰を多く含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。ややねばりあり。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒・炭化物粒を少量含む。

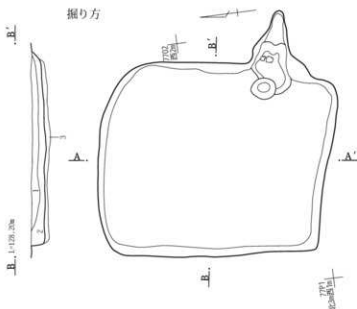
第171図 4区2面66住居

第4章 検出された遺構と遺物

67住居



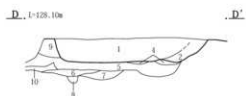
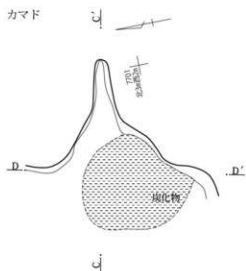
掘り方



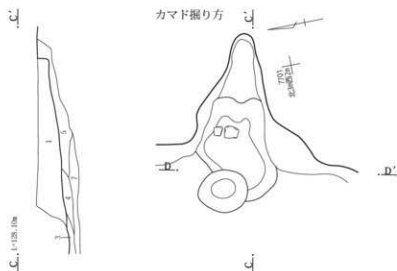
67住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。ややしまっている。Hr-FP軽石粒とHr-FA泥流土・火山灰粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA泥流土と火山灰粒を含む。
- 3 褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA粒と火山灰粒を少量含む。

カマド



カマド掘り方

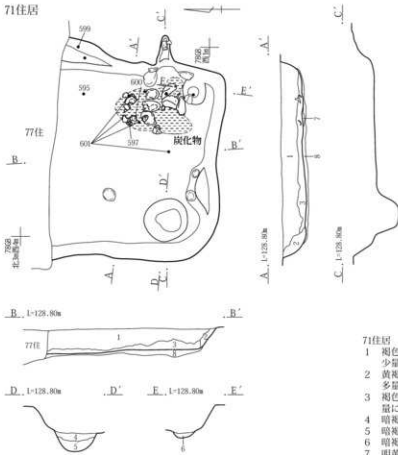


カマド

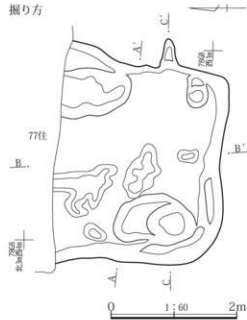
- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒をわずかに含む。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を含む混土。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒やHr-FA泥流土に伴う火山灰粒をわずかに、焼土粒や炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒とHr-FA泥流土粒や火山灰粒をわずかに含む。
- 4 黒色土7.5YR2/1 灰層。焼土粒を少量含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。しまっている。Hr-FP軽石粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 6 暗褐色土7.5YR3/3 灰層。黒色や灰色の灰が堆積。焼土粒を多く含む。
- 7 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FA泥流土主体で、黄褐色シルト土や暗褐色土を含む混土。床材。
- 8 褐色土7.5YR4/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒や炭化物粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒を含む混土。
- 9 暗褐色土7.5YR3/4 ややしルト。Hr-FP軽石粒と炭化物粒をわずかに、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む混土。
- 10 黒褐色土7.5YR3/2 炭化物粒や焼土粒。黒色灰を多く含む。

第172図 4区2面67住居

71住居



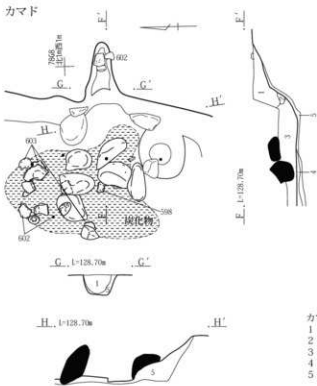
掘り方



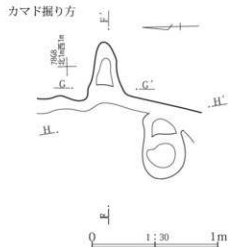
71住居

- 1 褐色土10YR4/4 As-C, Hr-FAを多量に、暗褐色土をブロック状に少量、黄褐色洪水ブロックを若干含む。
- 2 黄褐色土10YR5/6 As-C, Hr-FAを少量、暗褐色土をブロック状に多量に含む。
- 3 褐色土10YR4/6 As-C, Hr-FAを少量、暗褐色土をブロック状に多量に、黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを少量、褐色土を含む。
- 5 暗褐色土10YR3/2 As-C, Hr-FAを若干含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを少量含む。
- 7 明黄褐色土10YR6/6 As-C, Hr-FAを若干、炭化物を少量含む。
- 8 明黄褐色土10YR6/6 As-C, Hr-FAを若干含む。

カマド



カマド掘り方



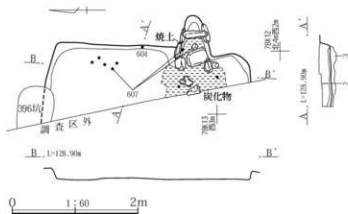
カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを少量含む。
- 2 黄褐色土10YR5/6 As-C, Hr-FAを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR5/4 As-C, Hr-FA, 焼土粒を少量含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 Hr-FA, As-Cを若干含む。炭化物主体、灰、焼土を少量含む。
- 5 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA, As-C, 焼土、炭化物を若干含む。

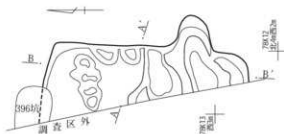
第173図 4区2面71住居

第4章 検出された遺構と遺物

72住居



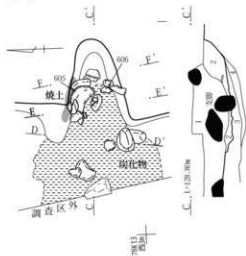
掘り方



72住居

- 1 褐灰色土10YR5/1 炭化物、灰層を少量含む。焼土を若干含む。
- 2 褐灰色土10YR5/1 1層と同様。炭化物がやや多い。
- 3 褐灰色土10YR5/1 炭化物、灰層を多量に含む。

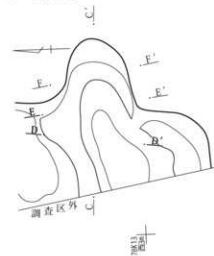
カマド



カマド石組

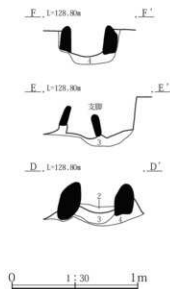


カマド掘り方



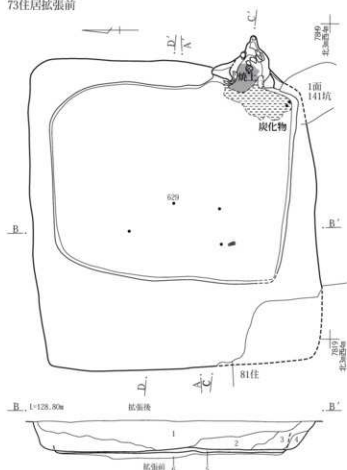
カマド

- 1 褐灰色土10YR5/1 炭化物、灰層を少量含む。焼土を若干含む。
- 2 褐灰色土10YR5/1 炭化物、灰層を多量に含む。焼土微量。
- 3 褐灰色土10YR5/1 炭化物、灰層を多量に含む。焼土若干。
- 4 褐色土10YR4/3 Hr-FA、As-Cをわずかに、炭化物を含む。

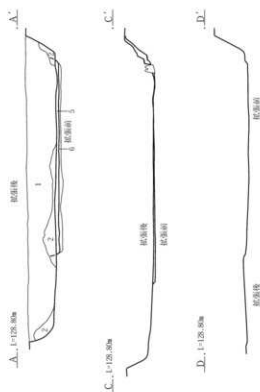
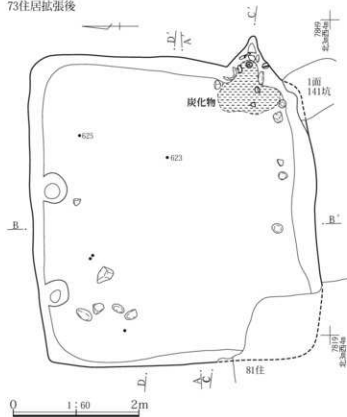


第174図 4区2面72住居

73住居拡張前



73住居拡張後



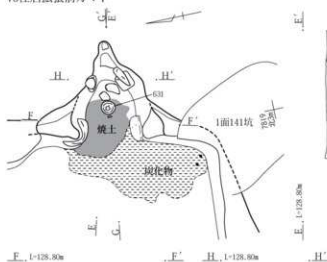
73住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを多量に、炭化物粒を若干含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 Hr-FA, As-Cを多量に、炭化物粒を若干含む。黄褐色洪水層上をブロック状に少量含む。
- 3 濃い黄褐色土10YR5/4 Hr-FA, As-Cを少量、暗褐色土を若干含む。黄褐色洪水層主体。
- 4 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA, As-Cを少量、暗褐色土を若干含む。ほとんど黄褐色洪水層。
- 5 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-C、炭化物粒を少量、5層上面に硬化面あり。拡張前の床面(5層下面)はやや硬い。拡張前の掘り込み。
- 6 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを少量含む。

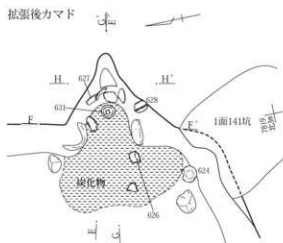
第175図 4区2面73住居1

第4章 検出された遺構と遺物

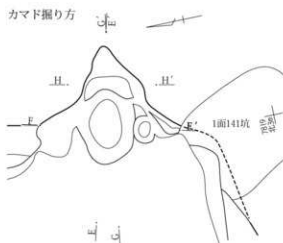
73住居拡張前カマド



拡張後カマド



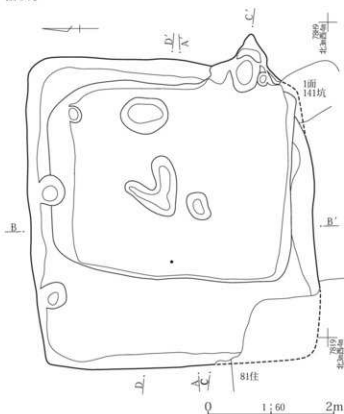
カマド掘り方



カマド

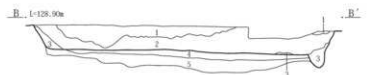
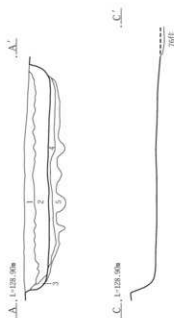
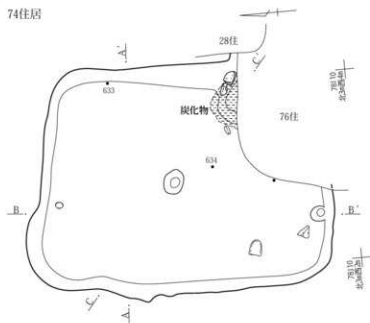
- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを含む。焼土粒を若干含む。
- 2 褐色土10YR4/6 Hr-FA, As-Cを含む。焼土粒、焼土ブロック・黄褐色洪水層ブロックを多量に、炭化物粒を少量含む。
- 3 灰白色土10YR8/2 粘土。Hr-FA, As-Cを含む。カマドの天井の崩落。
- 4 暗褐色土10YR3/2 Hr-FA, As-Cを含む。焼土粒を少量含む。
- 5 褐色土10YR4/4 Hr-FA, As-Cを含む。焼土粒、焼土ブロックを多量に、炭化物粒を少量含む。
- 6 褐色土10YR4/3 Hr-FA, As-Cを含む。焼土粒、炭化物を多量に含む。7層土層に灰層。
- 7 褐色土10YR4/6 Hr-FA, As-Cを含む。焼土粒、焼土ブロックを多量に、炭化物粒を少量含む。黄褐色洪水層をブロック状に少量含む。
- 8 黒褐色土10YR3/2 Hr-FA, As-Cを含む。黄褐色洪水層ブロックを多量に含む。

掘り方



第176図 4区2面73住居2

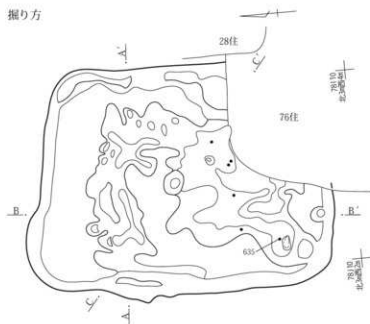
74住居



74住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA・As-Cを多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 Hr-FA・As-Cを多量に含む。明黄褐色洪水層をブロック状に含む。
- 3 明黄褐色洪水層10YR6/6 Hr-FA・As-Cを含む。暗褐色土を含む。
- 4 暗褐色土10YR3/4 黒褐色土・Hr-FA・As-Cを少量含む。尿床。
- 5 にぶい黄褐色土10YR5/4 黒褐色土を少量、Hr-FA・As-Cを若干含む。明黄褐色洪水層を多量に含む。

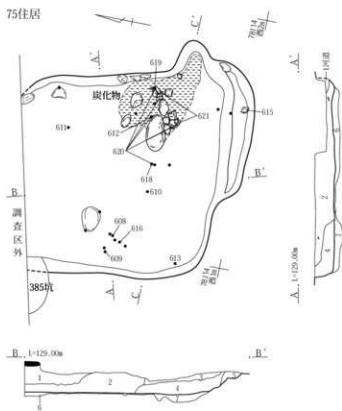
掘り方



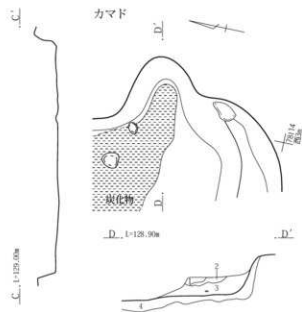
第177図 4区2面74住居

第4章 検出された遺構と遺物

75住居



カマド



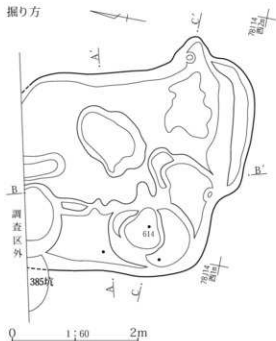
75住居

- 1 黄灰色土2.5YR5/1 2層と同じで炭化物を少量含む。
- 2 カマドの3層と同じ。
- 3 1層と同じ。炭化物を若干含む。
- 4 1層と同じ。黄褐色土をブロック状に少量含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを少量含む。
- 6 黄灰色土2.5YR5/1 砂質。Hr-FA, As-Cを含む。
- 7 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを多く含む。ブロック上。床面。

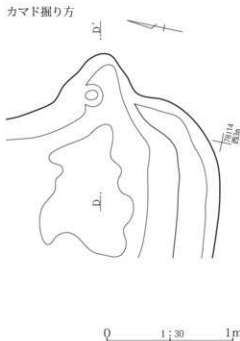
カマド

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 砂質。Hr-FA, As-Cを少量含む。
- 2 明黄褐色土2.5YR7/6 砂質。Hr-FA, As-Cを少量含む。
- 3 黄灰色土2.5YR5/1 砂質。Hr-FA, As-Cを少量含む。
- 4 黄灰色土2.5YR5/1 砂質。炭化物粒を若干含む。4層の上に灰層。

掘り方

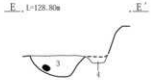
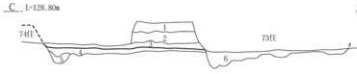
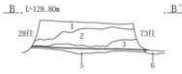
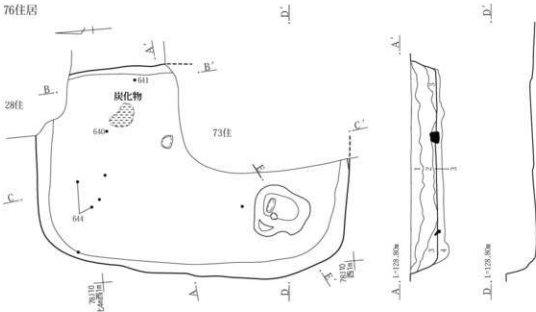


カマド掘り方

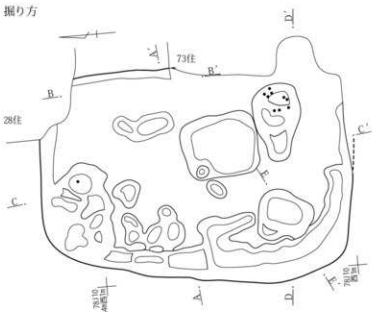


第178図 4区2画75住居

76住居



掘り方

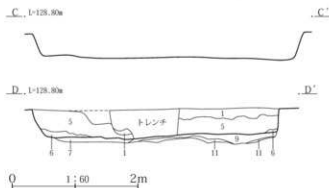
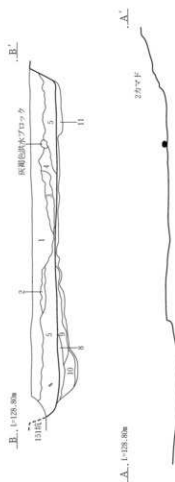
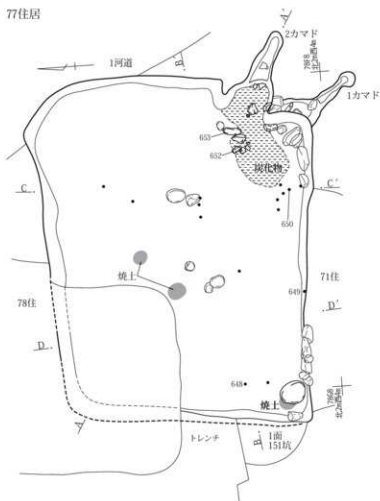


76住居

- 1 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA, As-C, 明黄褐色洪水ブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを、明黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 3 明黄褐色土10YR6/6 Hr-FA, As-Cを若干含む。2層をブロック状に少量含む。
- 4 黒褐色土10YR2/3 Hr-FA, As-C, 明黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土10YR3/2 Hr-FA, As-Cを少量含む。焼土粒、炭化物粒を含む。明黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-C, 明黄褐色洪水ブロックを少量含む。

第179図 4区2面76住居

77住居

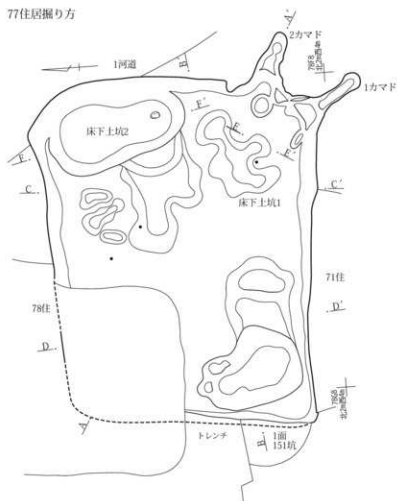


77住居

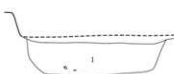
- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを多く、黄褐色洪水ブロックを若干含む。
- 2 黒褐色土10Yr3/2 As-C, Hr-FAを若干、暗褐色土を少量、炭化物を多量に含む。
- 3 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを多く、黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土10YR5/6 As-C, Hr-FAを若干、暗褐色土を少量含む。黄褐色洪水ブロック主体。
- 5 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを少量、黄褐色洪水ブロックを多量に含む。
- 6 黄褐色土10YR5/6 As-C, Hr-FAを若干含む。黄褐色洪水ブロック主体。
- 7 黄褐色土10YR5/6 As-C, Hr-FAを若干、暗褐色土・炭化物を多量に含む。
- 8 明黄褐色土10YR6/6 As-C, Hr-FAを若干、炭化物を少量含む。
- 9 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを若干、炭化物を少量含む。明黄褐色土をブロック状に少量含む。
- 10 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを若干、炭化物を多量に含む。明黄褐色土をブロック状に多量に含む。
- 11 明黄褐色土10YR6/6 As-C, Hr-FAを若干含む。

第180図 4区2面77住居1

77住居掘り方



床下土坑1 床下土坑2
 E₁, I-128.40m, E₁ E₁, I-128.80m E₁



0 1:60 2m

床下土坑1

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを少量、炭化物を多く、焼土を若干含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FAを少量、炭化物を多く含む。黄褐色土をブロック状に含む。

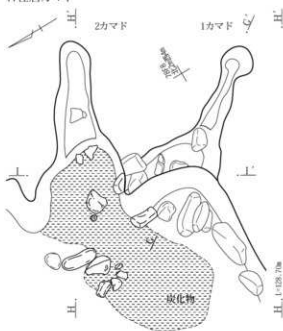
床下土坑2

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C・Hr-FA・炭化物を少量含む。黄褐色土をブロック状に少量含む。

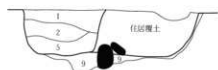
第181図 4区2面77住居2

第4章 検出された遺構と遺物

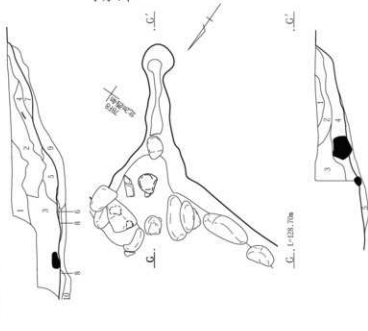
77住居カマド



上, 1=128.70m



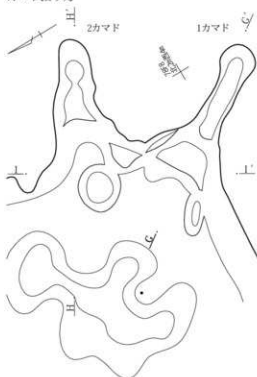
1カマド



1カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C、Hr-FAを多量に含む。
- 2 褐色土10YR4/4 As-C、Hr-FAを少量含む。
- 3 に近い褐色土10YR5/3 As-C、Hr-FAを少量、暗褐色土をブロック状に含む。
- 4 に近い褐色土10YR5/3 As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒、灰層を少量、暗褐色土をブロック状に含む。
- 5 黄褐色土10YR5/6 As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒を若干含む。

カマド掘り方



0 1:30 1m

2カマド

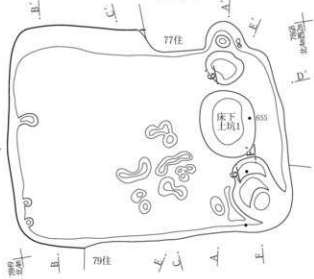
- 1 黒褐色土10YR3/2 Hr-FA、As-Cを多量に、黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 2 灰黄褐色土10YR6/2 Hr-FA、As-Cを若干含む。洪水層上。
- 3 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA、As-Cを少量、黄褐色洪水ブロックを若干含む。
- 4 灰黄褐色土10YR5/2 Hr-FA、As-Cを若干含む。粘土。カマドの構築材の崩落。
- 5 に近い黄褐色土10YR5/3 Hr-FA、As-C、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 6 黒褐色土10YR3/1 炭化物、灰層。
- 7 褐色土10YR4/4 Hr-FA、As-Cを若干、焼土を多量に、炭化物を少量含む。
- 8 黒褐色土10YR3/1 炭化物、灰層、黄褐色土を含む。
- 9 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA、As-Cを若干、炭化物を少量含む。
- 10 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA、As-Cを若干、炭化物、灰層を少量含む。

第182図 4区2面77住居3

78住居焼失状況



掘り方



床下土坑1

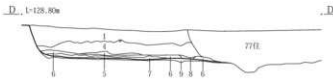
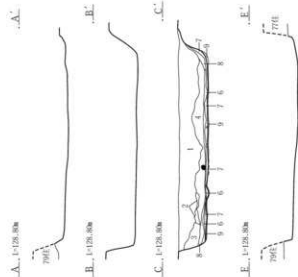
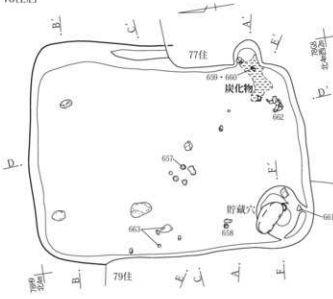
- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを少量含む。炭化物、炭化材を多量に含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-C、炭化物を少量含む。

床下土坑1

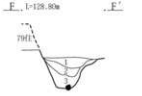
G, L-128.30m



78住居



貯蔵穴



- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを少量、炭化物、炭化材を多量に含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを少量、炭化物を多量に含む。
- 3 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA, As-Cを若干含む。

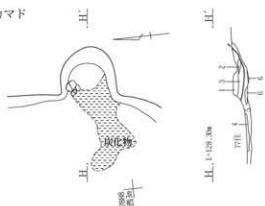
78住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C、Hr-FAを多く含む。黄褐色洪水ブロック粒、炭化物粒を少量含む。
- 2 黒褐色土10YR2/2 As-C、Hr-FAを若干含む。炭化物主体の層。
- 3 褐色土10YR4/4 As-C、Hr-FAを少量、黄褐色洪水ブロック、炭化物粒を多量、焼土粒を若干含む。
- 4 暗褐色土10YR3/4 As-C、Hr-FA、灰、焼上ブロックを少量含む。炭化物、焼土粒、黄褐色洪水ブロック、灰、焼上ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土10YR3/4 As-C、Hr-FAを少量含む。炭化物、焼土粒、黄褐色洪水ブロック、灰、焼上ブロックを多量に含む。
- 6 炭化物層10YR2/1 黒色。炭化物の層。炭化材、炭化物層を含む。
- 7 炭化物+黄褐色土10YR5/6 炭化物を少量含む黄褐色ブロック状。
- 8 赤褐色土5YR4/8 赤褐色焼上ブロック。暗褐色土を含む。炭化物を多量に含む。
- 9 明黄褐色土10YR6/6 As-C、Hr-FAを若干、暗褐色土をブロック状に多量に含む。

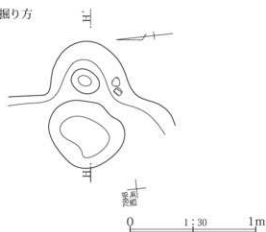
第183図 4区2面78住居1

第4章 検出された遺構と遺物

78住居カマド



カマド振り方

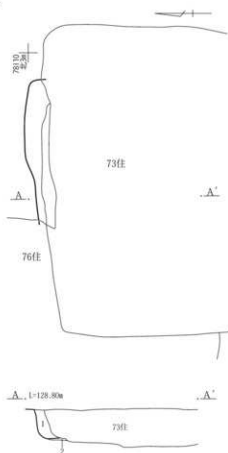


カマド

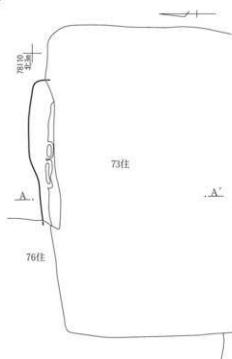
- 1 黄褐色土10YR5/6 炭化物、焼土を少量含む。
- 2 焼土ブロック。
- 3 暗褐色土10YR3/3 炭化物、焼土を多量に含む。灰を少量含む。3層下に灰層。
- 4 黒褐色土10YR3/1 炭化物主体、暗褐色土を層状に含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 黄褐色土、Hr-FA、As-Cを若干含む。
- 6 赤褐色土5YR4/8 赤褐色焼土ブロック、暗褐色土を含む。

第184図 4区2面78住居2

80住居



振り方

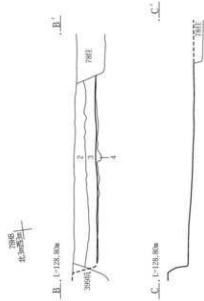
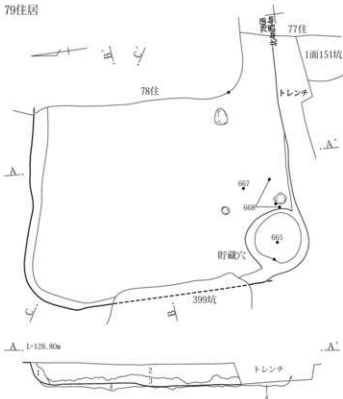


80住居

- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA、As-C、黄褐色洪水層を多量に含む。
- 2 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA、As-Cを若干含む。

第185図 4区2面80住居

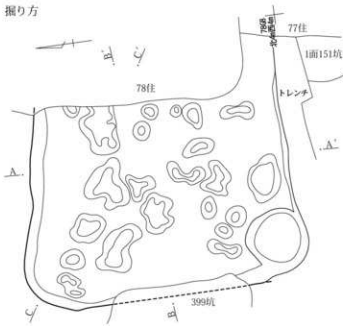
79住居



79住居

- 1 黄褐色土10YR5/6 As-C、Hr-FAを若干含む。黄褐色洪水ブロック主体。
- 2 褐色土10YR4/6 As-C、Hr-FAを多く、黄褐色洪水層をブロック状に少量含む。
- 3 褐色土10YR4/6 As-C、Hr-FAを少量、黄褐色洪水層をブロック状に多く含む。
- 4 明黄褐色土10YR6/6 As-C、Hr-FAを若干、暗褐色土をブロック状に少量含む。

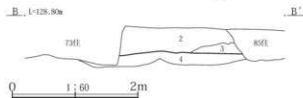
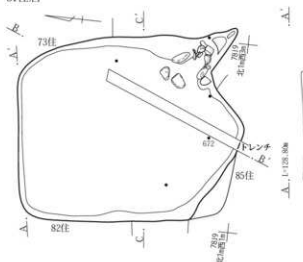
掘り方



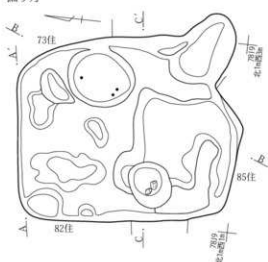
第186図 4区2面79住居

第4章 検出された遺構と遺物

81住居



掘り方



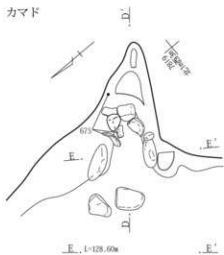
81住居

- 1 にぶい黄色土2.5YR6/4 Hr-FA・As-Cを若干含む。暗褐色土をブロック状に多量に含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 Hr-FA・As-Cを多量に、炭化物、黄褐色土をブロック状に少量含む。
- 3 暗褐色土10YR4/4 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物を若干、黄褐色土をブロック状に多量に含む。
- 4 黄褐色土2.5YR5/4 Hr-FA・As-Cを若干、暗褐色土をブロック状に少量含む。

カマド

- 1 暗褐色土10YR3/4 Hr-FA・As-Cを多量に、炭化物、黄褐色土をブロック状に少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 黄褐色土をブロック状に多量に含む。1層と同じ。
- 3 果褐色土10YR3/2 Hr-FA・As-Cを少量、焼土・炭化物粒を若干含む。
- 4 暗褐色土10YR3/4 Hr-FA・As-C・焼土・炭化物粒を若干含む。
- 5 果褐色土10YR3/2 炭化物・灰層主体、焼土粒を少量含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 赤色焼土を多量、炭化物粒を少量含む。灰層。
- 7 黒色土10YR2/1 炭化物層。
- 8 にぶい黄褐色土10YR5/4 黄褐色洪水層主体、Hr-FA・As-Cを若干、炭化物を少量含む。
- 9 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物・焼土粒を若干含む。

カマド

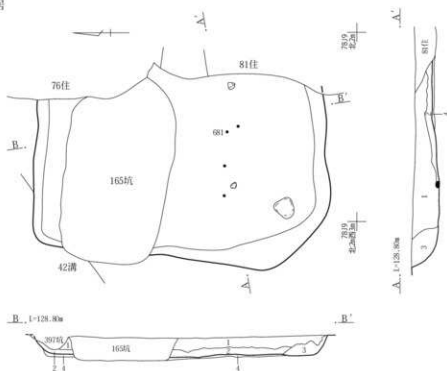


カマド掘り方



第187図 4区2面81住居

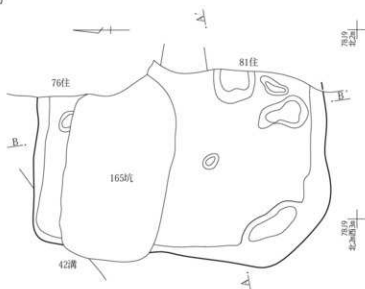
82住居



82住居

- 1 にぶい黄褐色土10YR4/3 Hr-FA・As-Cを多量に、炭化物、黄褐色土をブロック状に少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/3 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物を若干、黄褐色土をブロック状に多量に含む。
- 3 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA・As-C・炭化物を若干含む。
- 4 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA・As-Cを若干、にぶい黄褐色土をブロック状に含む。

掘り方

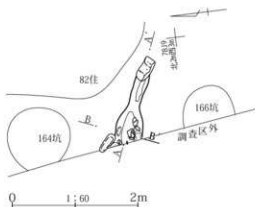


0 1:60 2m

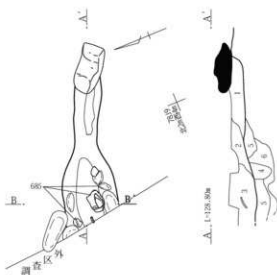
第188図 4区2面82住居

第4章 検出された遺構と遺物

83住居



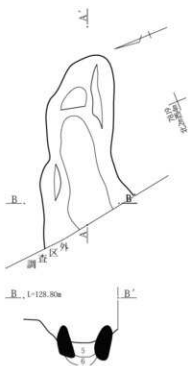
カマド



83住居カマドSPA

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 1 黒褐色土10YR2/3 | Hr-FA・As-Cを若干含む。 |
| 2 暗褐色土10YR3/3 | 焼土ブロックを多量に、Hr-FA・As-Cを若干含む。 |
| 3 暗褐色土10YR3/3 | 焼土ブロックを少量、Hr-FA・As-Cを若干含む。 |
| 4 暗褐色土10YR3/3 | 焼土粒を少量、Hr-FA・As-Cを若干含む。 |
| 5 黒褐色土10YR2/3 | 焼土粒ブロックを多量に、黄褐色土をブロック状に少量含む。 |
| 6 黒褐色土10YR2/3 | 焼土ブロックを少量、黄褐色土をブロック状に多量に含む。 |

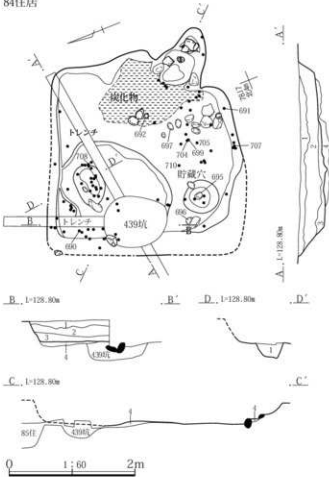
カマド掘り方



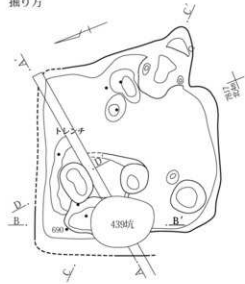
0 1:30 1m

第189図 4区2面83住居

84住居



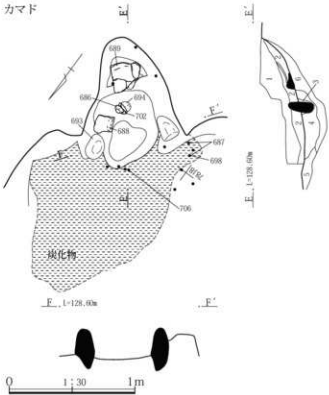
掘り方



84住居

- 1 黒褐色土10YR2/2 As-Bを多量に、Hr-FA・As-Cを含む。炭化物・焼土粒を若干、白色軽石を少量含む。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 As-B、にふい黄褐色洪水層を少量含む。Hr-FA・As-Cを若干含む。
 - 3 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA・As-Cを含む。黄褐色洪水ブロックを少量含む。
 - 4 黄褐色土10YR5/6 Hr-FA・As-Cを若干含む。黒褐色土をブロック状に含む。
- D
- 1 暗褐色土10YR3/2 炭化物粒を少量、焼土を若干含む。炭化材を少量含む。

カマド



カマド掘り方



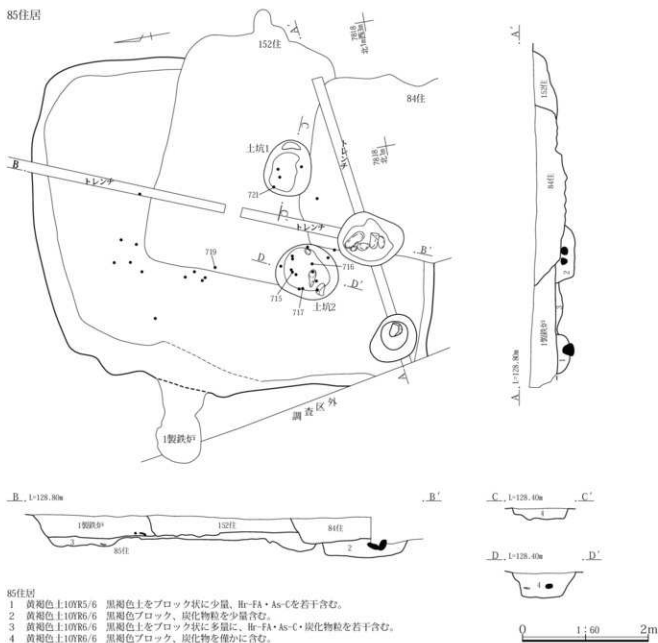
カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物粒・焼土粒を若干含む。
- 2 褐色土10YR4/4 Hr-FA・As-Cを若干、炭化物粒・焼土粒を少量、焼土ブロックを多量に含む。
- 3 4弱+褐色土 Hr-FA・As-Cを含む混土。
- 4 明赤褐色土5YR5/8 明赤褐色焼土主体。炭化物粒を若干含む。
- 5 にふい黄褐色土10YR5/4 炭化物を多量に、焼土・Hr-FA・As-Cを若干含む。
- 6 黒褐色土10YR2/2 炭化物・焼土粒・Hr-FA・As-Cを若干含む。

第190図 4区2面84住居

第4章 検出された遺構と遺物

85住居

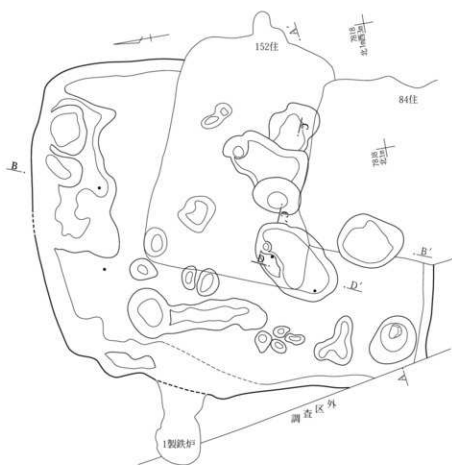


85住居

- 1 黄褐色土10YR5/6 黒褐色土をブロック状に少量、Hr-FA・As-Cを若干含む。
- 2 黄褐色土10YR6/6 黒褐色ブロック、炭化物粒を少量含む。
- 3 黄褐色土10YR6/6 黒褐色土をブロック状に多量に、Hr-FA・As-C・炭化物粒を若干含む。
- 4 黄褐色土10YR6/6 黒褐色ブロック、炭化物を僅かに含む。

第191図 4区2面85住居1

85住居掘り方

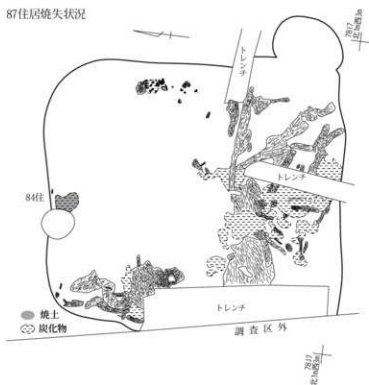


0 1:60 2m

第192図 4区2面85住居2

第4章 検出された遺構と遺物

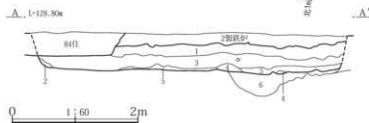
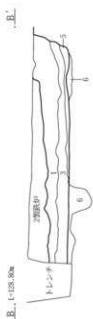
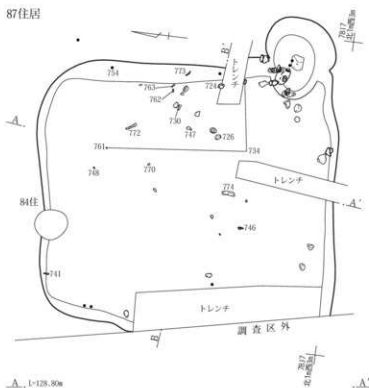
87住居焼失状況



87住居

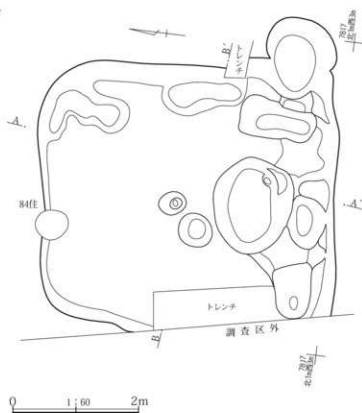
- 1 暗灰黄色土2.5YR5/2 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物・炭化材を多量に、黄褐色洪水層をブロック状に若干含む。
- 2 黒褐色土2.5YR3/2 灰黄褐色土主体。黄褐色洪水層を極多量に含む。
- 3 灰黄褐色土2.5YR6/2 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物・炭化材を極多量に、黄褐色洪水層を多量に含む。
- 4 炭化物ブロック層。
- 5 黒褐色土2.5YR3/2 炭化材・灰層を多量に含む。炭化物主体の層。灰黄褐色土(3層)を多量に含む。
- 6 深い黄色土2.5YR6/4 Hr-FA・As-Cを若干、黒褐色土を少量含む。

87住居

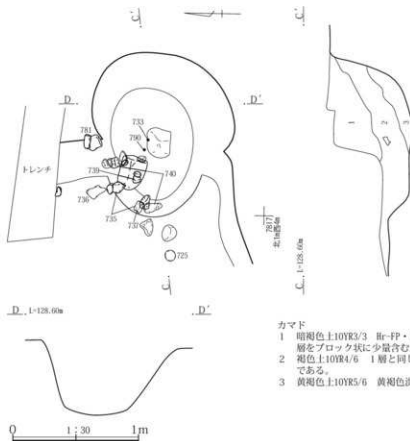


第193図 4区2面87住居1

87住居掘り方



カマド



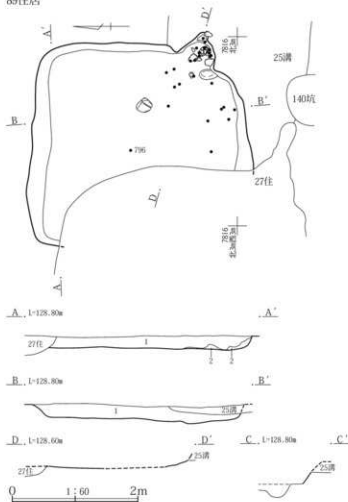
カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 珪-PP・As-C、炭化材を若干、黄褐色洪水層をブロック状に少量含む。
- 2 褐色土10YR4/6 1層と同じで黄褐色洪水層ブロックが多量である。
- 3 黄褐色土10YR5/6 黄褐色洪水層主体、1層を少量含む。

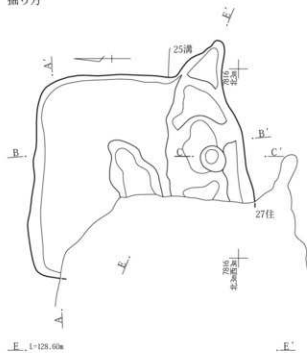
第194図 4区2面87住居2

第4章 検出された遺構と遺物

89住居



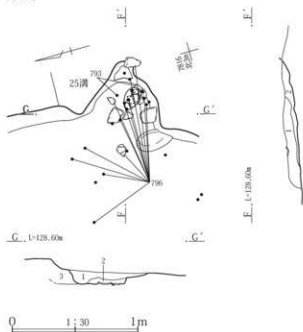
掘り方



89住居

- 1 褐色土10YR4/4 As・C・Hr・FAを多く含む。
- 2 におい、黄褐色土10YR5/4 As・C・Hr・FAを若干含む。黄褐色土を多量に含む。

カマド



カマド掘り方

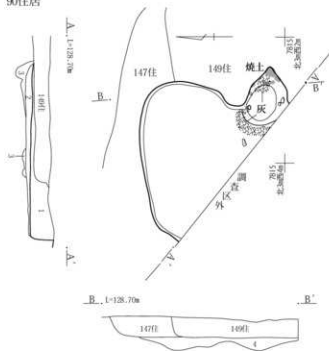


カマド

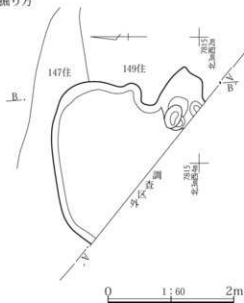
- 1 暗褐色土10YR3/4 As・C・Hr・FAを多く、炭化物粒を若干含む。
- 2 黒褐色土10YR2/3 As・C・Hr・FA・焼土粒を若干、炭化物・灰を多量に含む。
- 3 褐色土10YR4/4 As・C・Hr・FAを若干、黄褐色土をブロック状に多量に含む。

第195図 4区2面89住居

90住居



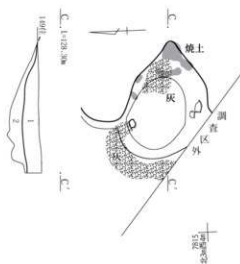
掘り方



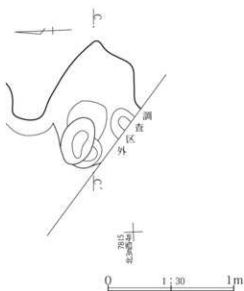
90住居

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。黄褐色シルトブロックと白色鉱物を少量含む。軟質土。
- 2 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。やや暗褐色シルトブロックが混入する。
- 3 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。焼土ブロック・炭化物を含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。炭化物をわずかに含む。

カマド



カマド掘り方

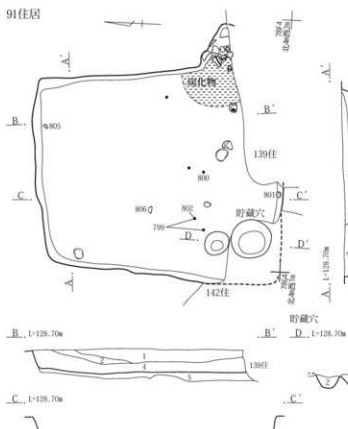


カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒や焼土粒・焼土小ブロックをわずかに含む。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。黄褐色シルト土を含む湿土。
- 2 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。炭化物粒を含む。部分的に焼土が少量入る。軟質土。

第4章 検出された遺構と遺物

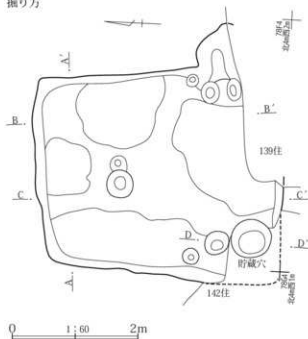
91住居



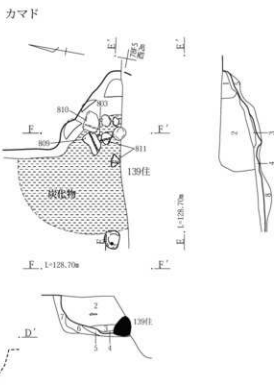
91住居

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。明褐色シルトブロックとHr-PPを少量含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。炭化物と灰、白色鉱物粒とHr-PPを少量含む。
- 3 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。わずかに白色鉱物粒を含む。
- 4 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。明褐色シルトブロック、Hr-PP、炭化物、黄褐色ブロック土を少量含む。
- 5 黒褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PPを含む。やや黒っぽい。

掘り方



カマド



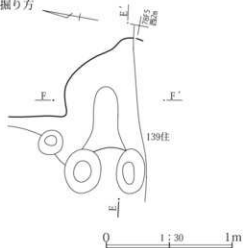
貯蔵穴

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに含む。
- 2 褐色シルト質土7.5YR4/4 軟質土。

カマド

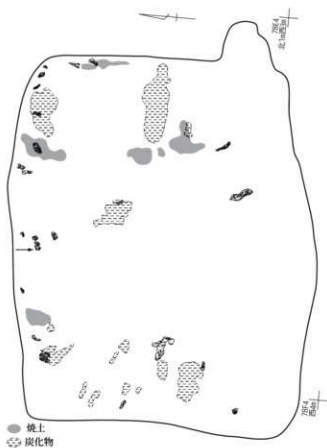
- 1 褐色土7.5YR シルト質土。赤褐色焼土ブロックを多く含む。煙道付近の天井、壁の崩れた上の再堆積土か。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP・焼土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。1層と同じであるが赤褐色焼土ブロックが多い。
- 4 暗褐色土10YR3/4 シルト質土。暗褐色シルト質土に灰層。炭化物と焼土ブロックを少量含む。
- 5 赤褐色土2.5YR4/8 焼土ブロックを少量含む明褐色シルト質土。
- 6 赤褐色土2.5YR4/8 焼土ブロック主体。
- 7 明褐色土7.5YR5/8 明褐色土が焼けて赤褐色に変化した地山。
- 8 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。暗褐色シルト質土にHr-PPと白色鉱物粒を含む。

カマド掘り方



第197図 4区2面91住居

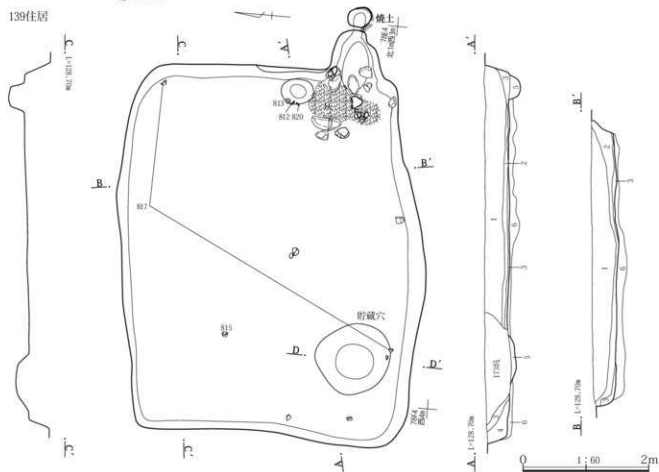
139住居焼失状況



139住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。軟質土。Br-FP。暗褐色シルトブロックを含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。軟質土。白色鉱物粒と焼土ブロック、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。軟質土。焼土。炭化物多量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。壁の崩落土。
- 5 黒色土7.5YR2/1 炭化物粒が多く、円礫と焼土ブロック、白色鉱物を含む。
- 6 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。炭化物、Br-FPを含む。

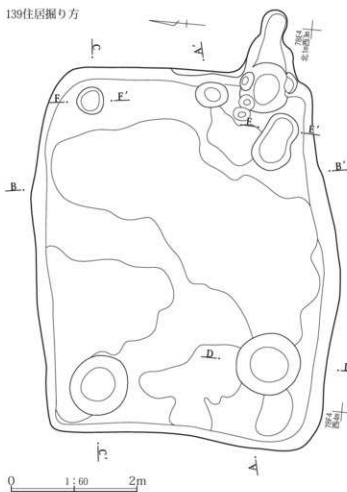
139住居



第198図 4区2面139住居1

第4章 検出された遺構と遺物

139住居掘り方



E
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。白色粘土と炭化物を含む。



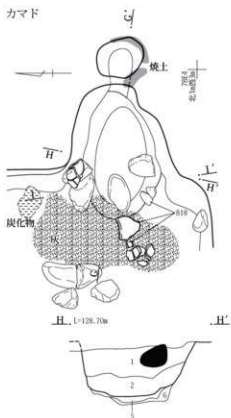
F
1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。焼土塊多量、炭化物少量含む。

カマド

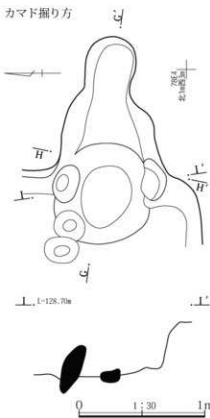
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-Fe少量含む。カマドの崩落土。焼土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物、焼土ブロック含む。白色鉱物粒少量含む。
- 3 赤褐色土2.5YR4/6 焼土ブロック層。
- 4 褐色土7.5YR4/4 焼土小ブロック、焼土粒子少量含む。
- 5 黒褐色土10YR2/3 灰層。粘性弱い。締り弱い。焼土ブロック、焼土粒子、炭化物中量含む。
- 6 暗褐色土7.5YR3/4 細砂質。粘性弱い。締り弱い。焼土小ブロック少量含む。



カマド

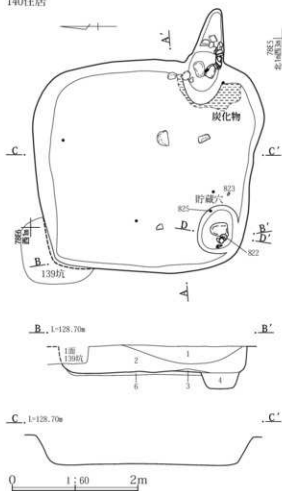


カマド掘り方

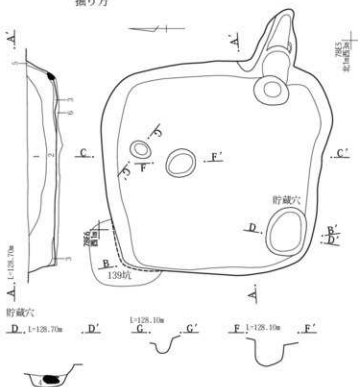


第199図 4区2面139住居2

140住居



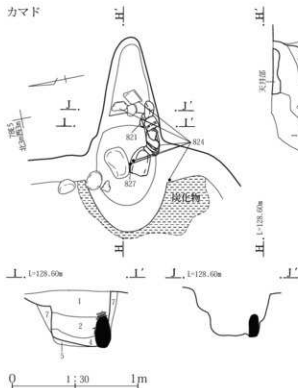
掘り方



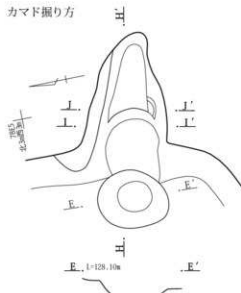
140住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FPを少量、炭化物をわずかに含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。軟質土。白色鉱物粒と黄褐色シルトブロックが入る。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物とHr-FP少量含む。
- 5 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。住居壁崩落土。
- 6 黒褐色土7.5YR2/2 粘土。締りがある。黄褐色シルトブロック、Hr-FPを含む。炭化物を少量含む。

カマド



カマド掘り方



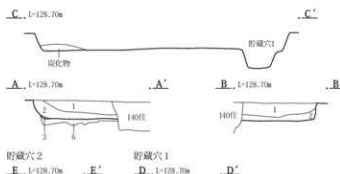
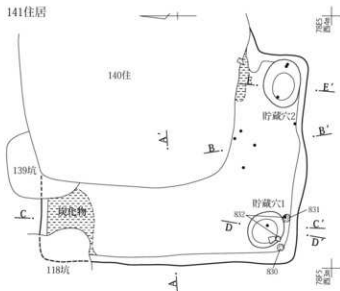
カマド

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。焼土粒子、炭化物粒少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。焼土ブロック及び白色鉱物、Hr-FPを少量含む。
- 3 明赤褐色土2.5YR5/8 焼土ブロック多量含む。天井崩落土か。
- 4 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 炭化物と灰層を持つ。燃焼部奥は焼土粒多く含む。
- 6 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。黄褐色ブロック含む。
- 7 褐色土7.5YR4/6 地山との混土。

第200図 4区2面140住居

第4章 検出された遺構と遺物

141住居



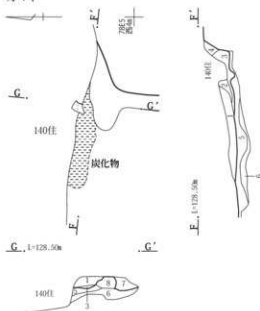
貯蔵穴2
貯蔵穴1



カマド

- 1 黒色土7.5YR2/1 軟質土。炭化物を多量含む。
- 2 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。焼土ブロック。炭化物を含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒。炭化物を含む。
- 4 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。

カマド

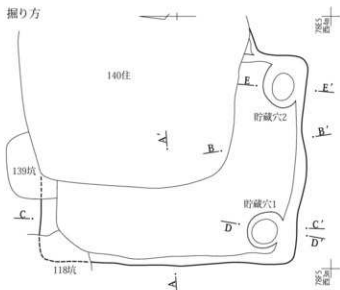


141住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP、黄褐色シルトブロック。炭化物をわずかに含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物、焼土粒を多量含む。白色鉱物粒、Hr-FPを少量含む。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。壁崩落上。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物、Hr-FP少量含む。
- 5 極暗褐色土7.5YR2/3 やや粘性あり。Hr-FPと炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FPわずかに含む。

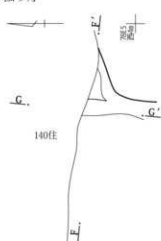
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FPを含む。炭化物を少量含む。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。白色鉱物粒を少量含む。
- 7 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。炭化物を含む。
- 8 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。カマドの右袖。

掘り方



0 1:60 2m

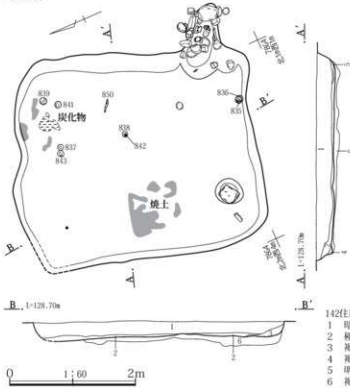
カマド掘り方



0 1:30 1m

第201図 4区2面141住居

142住居



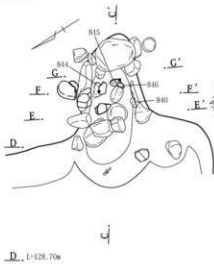
掘り方



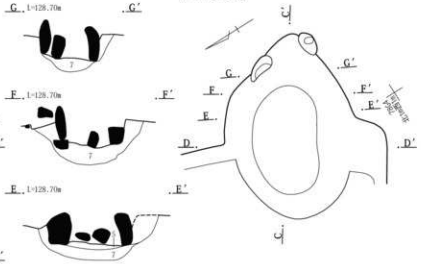
142住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。H-FPを含む。炭化物を少量含む。
- 2 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質上。主として炭化物。焼土ブロックが散在。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。僅かに白色炭物を含む。壁は褐色シルト質。
- 4 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。
- 5 明褐色土7.5YR6/8 シルト質上。ブロック状。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。白色炭物粒、炭化物粒、焼土粒を少量含む。

カマド



カマド掘り方

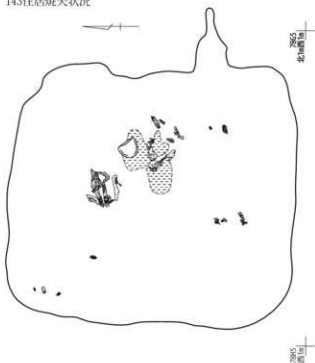


カマド

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質上。僅かに焼土ブロック含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 炭化物粒と焼土ブロック含む。
- 3 明赤褐色土2.5YR5/8 焼土。天井崩落上か。
- 4 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層に灰が混じる。使用面か。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。炭化物、焼土粒を微量含む。
- 6 褐色土7.5YR6/8 シルト質上。地山か。
- 7 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。白色炭物粒を含む。
- 8 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。白色炭物粒多量含む。袖部。

第202図 4区2面142住居

143住居焼失状況



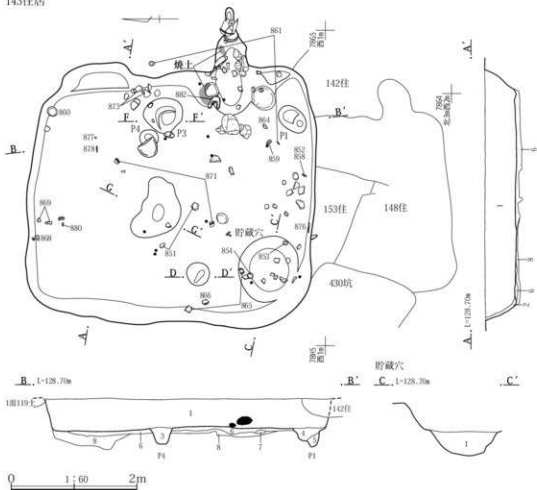
143住居

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。軟質土。Br-PPと炭化材微量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。白色鉱物微量含む。
- 3 暗褐色土10YR3/4 粘性やや弱い。締りやや弱い。白色軽石、炭化物微量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 粘性やや弱い。締りやや弱い。炭化物多量含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 粘性やや弱い。締りやや弱い。白色軽石中量含む。
- 6 黒褐色土10YR2/3 微砂質土。粘性弱い。締り強い。炭化物少量含む。粘床。
- 7 暗褐色土10YR3/3 シルト質土。粘性弱い。締りやや強い。炭化物少量含む。
- 8 暗褐色土10YR3/4 微砂質土。粘性弱い。締り強い。黒褐色土小ブロック少量含む。粘床。

貯蔵穴

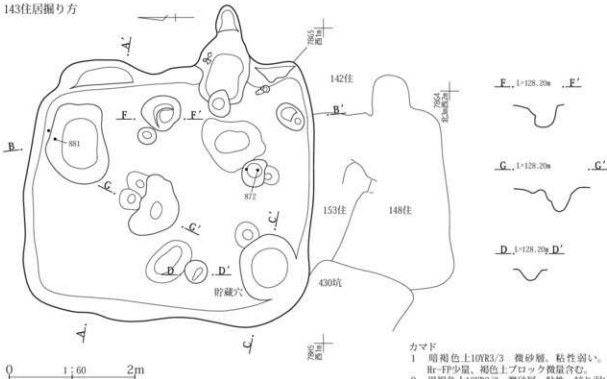
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。軟質土。黄褐色シルトブロックと白色鉱物少量含む。

143住居

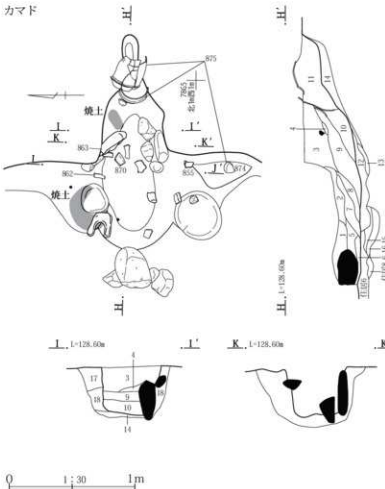


第203図 4区2面143住居1

143住居掘り方



カマド



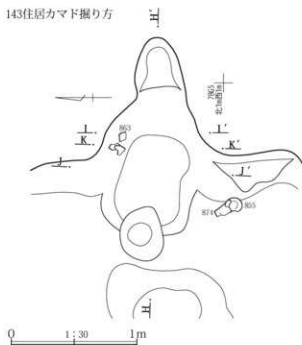
カマド

- 1 暗褐色土10YR3/3 微砂層。粘性弱い。締り強い。Hr-FP少量。褐色土ブロック微量含む。
- 2 黒褐色土10YR2/3 微砂層。粘性。締り弱い。炭化物、焼土ブロック少量含む。
- 3 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性。締り弱い。褐色土ブロック、Hr-FP少量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/4 シルト質層。粘性。締り弱い。褐色土ブロック多量含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 微砂層。粘性。締り弱い。Hr-FP少量。褐色土ブロック微量含む。
- 6 黒褐色土10YR2/2 粘性。締り弱い。灰少量含む。
- 7 褐色土7.5YR4/6 粘性。締り弱い。焼土と暗褐色土の混土。
- 8 黒褐色土10YR2/2 微砂層。粘性。締り弱い。炭化粒。焼土粒微量含む。
- 9 暗褐色土10YR3/3 微砂層。粘性。締り弱い。焼土粒。炭化粒微量含む。
- 10 暗褐色土10YR3/4 シルト質層。粘性。締り強い。褐色土粘質土ブロック含む。
- 11 暗褐色土7.5YR3/4 微砂質層。粘性。締り弱い。焼土細粒多量。炭化物含む。
- 12 暗褐色土10YR3/3 灰層。粘性。締り弱い。灰多量含む。焼土ブロック。炭化物少量含む。
- 13 褐色土10YR4/6 焼土層。粘性弱い。締り強い。
- 14 暗褐色土10YR3/3 微砂層。粘性。締り弱い。炭化粒。焼土粒。極微量含む。
- 15 黒褐色土10YR2/2 シルト質層。粘性。締り弱い。焼土粒少量含む。
- 16 黒褐色土10YR3/1 シルト質層。粘性強い。締り弱い。炭化物層と互層。
- 17 暗褐色土10YR3/3 粘性。締り弱い。炭化粒。白色軽石粒微量含む。
- 18 暗褐色土10YR3/4 粘性。締り弱い。褐色土ブロック多量。焼土粒少量含む。

第204図 4区2面143住居2

第4章 検出された遺構と遺物

143住居カマド掘り方

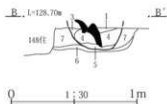
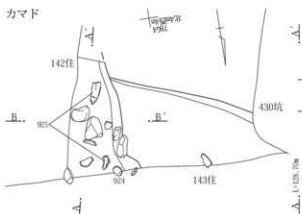


第205図 4区2面143住居3

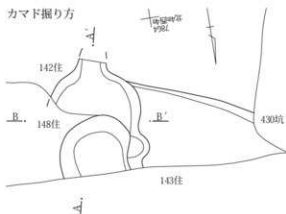
153住居



カマド



カマド掘り方

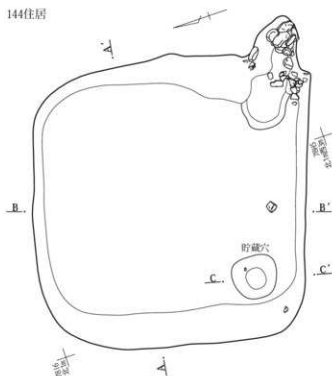


カマド

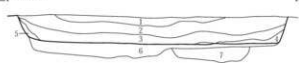
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。軟質土。白色鉱物粒を少量含む。
- 2 明赤褐色土2.5YR5/8 焼土。
- 3 明赤褐色土2.5YR5/6 焼土。灰褐色土を含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。焼土ブロックと炭化物、Hr-PPを含む。
- 5 暗褐色土10YR3/4 シルト質土。白色鉱物を含む。
- 6 暗褐色土10YR3/4 シルト質土。焼土を僅か含む。
- 7 黒褐色土10YR3/1 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。

第206図 4区2面153住居

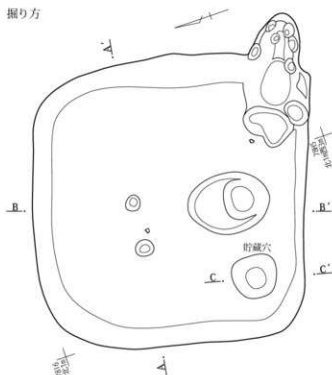
144住居



B, L=128.70m



掘り方



貯蔵穴

C, L=128.70m



144住居

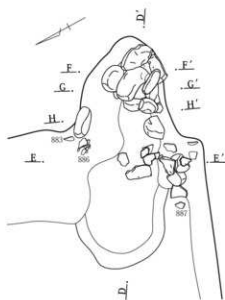
- 1 にぶい褐色土7.5YR5/3 シルト質土。白色鉱物粒とHr-PPを少量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-PP、炭化物、黄褐色シルト粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。にぶい褐色シルト質土を塊状に含む。Hr-PPを少量含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。
- 5 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山が流れ込んだ。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-PPと炭化物少量含む。
- 7 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。軟質。Hr-PPを少量、炭化物微量含む。

貯蔵穴

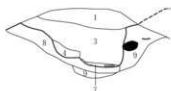
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。軟質上。黄褐色シルトブロック微量含む。
- 2 褐色土7.5YR5/8 シルト質土。軟質。地山が。

第207図 4区2面144住居1

144住居カマド



E., l=128.60m



F., l=128.60m



G., l=128.60m



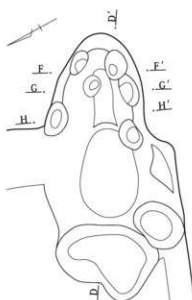
H., l=128.60m



カマド掘り方



D., l=128.60m

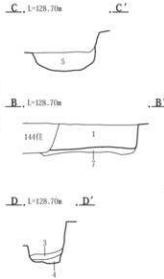
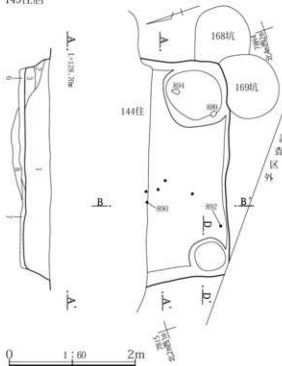


E., l=128.60m

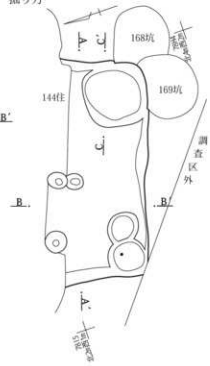
144住居カマド

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒を微量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒微量含む。やや焼けている。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。白色鉱物粒やや多量に含む。小礫を含む。炭化物と焼土微量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 砂質土。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。炭化物を含む。
- 6 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。炭化物層。
- 7 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土が焼土化して赤褐色化している。
- 8 黒色土7.5YR2/1 炭化物粒層。灰が混入している。カマド床上。
- 9 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。焼土化している。地山が焼けている。

145住居



掘り方



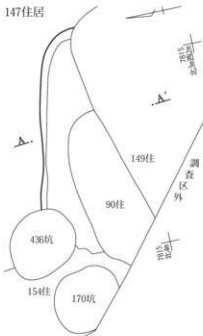
145住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 軟質土。白色鉱物粒とHr-PP。炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。炭化物多量含む。白色鉱物微量含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。白色鉱物微量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。軟質土。
- 5 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。多くの黒褐色シルトブロックが混入。

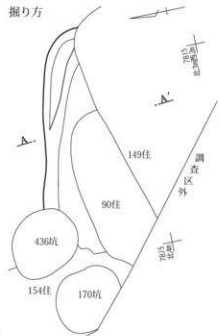
- 6 Hr-PPと黄褐色シルトブロック少量含む。
- 7 褐色土7.5YR7/6 火山灰泥流ブロックとHr-PPを含む。シルト質土と炭化物が互層。
- 8 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-PPを微量含む。

第209図 4区2面145住居

147住居



掘り方



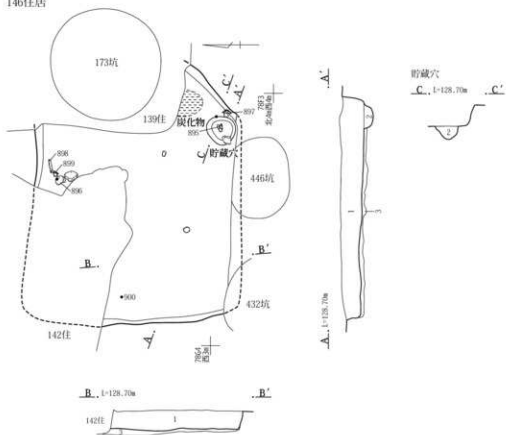
147住居

- 1 褐色シルト質土7.5YR4/4 炭化物を含む。軟質土。
- 2 褐色シルト質土7.5YR4/4 褐色シルト質土と黒褐色シルト質土。炭化物が混入する。軟質土。

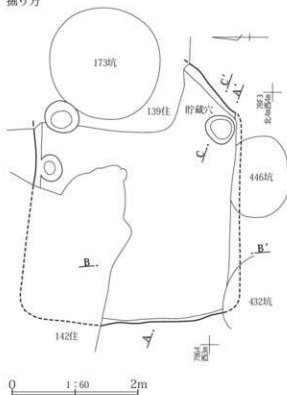


第210図 4区2面147住居

146住居



掘り方

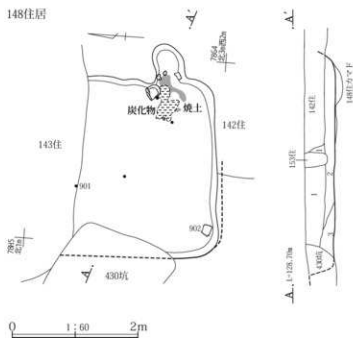


146住居

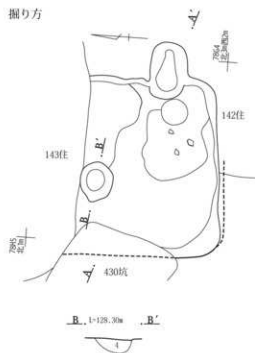
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土、軟質土。Hr-PPを含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。炭化物、焼土粒微量含む。
- 3 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土、白色鉱物微量含む。

第211図 4区2面146住居

148住居



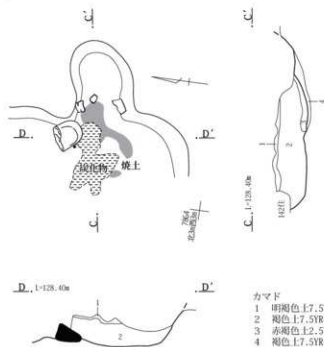
掘り方



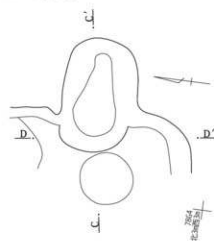
148住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。粘質土。白色鉱物粒と小礫を少量含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。やや締まりあり。白色鉱物粒とHr-PPを含む。
- 3 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。褐色シルトブロックとHr-PPを少量含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。軟質。Hr-PPを少量含む。炭化物を極微量含む。

カマド



カマド掘り方



カマド

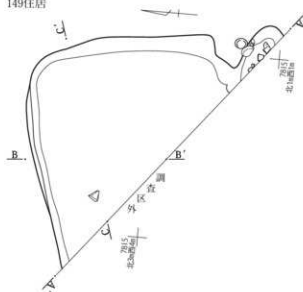
- 1 明褐色土7.5YR5/8 焼土層。炭化物を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。軟質土。Hr-PPと白色鉱物を含む。
- 3 赤褐色土2.5YR4/8 シルト質土。焼土ブロック層。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。白色鉱物粒を含む。



第212図 4区2面148住居

第4章 検出された遺構と遺物

149住居

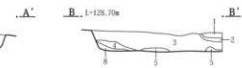
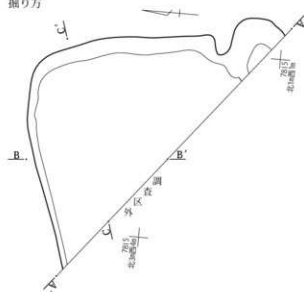


C, l=128.70m C'



0 1:60 2m

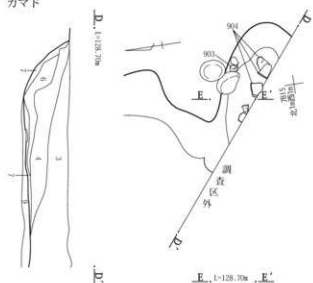
掘り方



149住居・カマド

- 1 褐色土7.5YR4/3 軟質土。白色鉱物粒、わずかに炭化物を含む。
- 2 褐色土7.5YR4/1 シルト質土。わずかに炭化物を含む。レンズ状堆積土。
- 3 褐色土17.5YR4/4 白色鉱物粒を少量含む。軟質土。
- 4 褐色土17.5YR4/4 灰一層。炭化物を少量含む。軟質土。
- 5 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。
- 6 赤褐色土2.5YR4/8 シルトブロック層。カマド壁崩落上。
- 7 に近い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。炭化物を含む。
- 8 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。
- 9 褐色土7.5YR6/8 褐色シルト質土。地山が破けてやや赤褐色化。

カマド



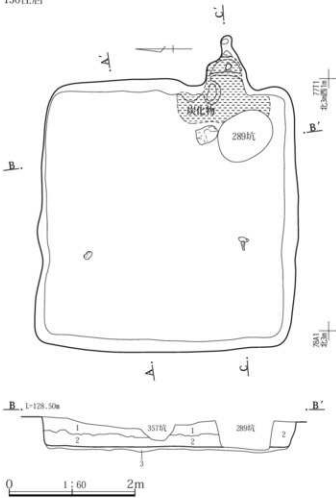
0 1:30 1m

カマド掘り方



第213図 4区2面149住居

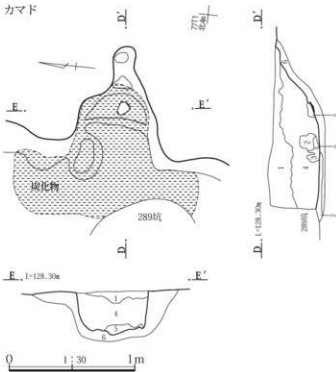
150住居



150住居

- 1 暗褐色土10VR3/3 Hr-FA, As-C, 黄褐色土をブロック状に多量含む。
- 2 暗褐色土10VR3/4 Hr-FA, As-C, 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10VR5/4 黄褐色土ブロックを多量、Hr-FA, As-Cを微量含む。

カマド



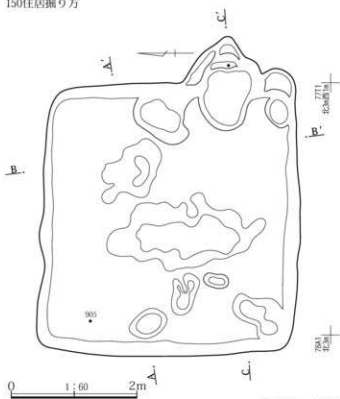
カマド

- 1 暗褐色土10VR3/3 砂質、Hr-FA, As-Cを多量含む。
- 2 褐色土10VR4/6 粘質。
- 3 黒色土10VR2/1 炭化物、灰のブロック上、黄褐色砂質土を少量含む。
- 4 黄褐色土10VR5/6 砂質、Hr-FA, As-Cを多量、明黄褐色洪水層を少量含む。
- 5 赤色土10R4/8 焼土ブロック主体、下層が灰層。
- 6 黒色土10VR2/1 炭化物、灰主体、黄褐色砂質土を少量含む。
- 7 黄褐色土10VR5/6 明黄褐色洪水層を多量に、Hr-FA, As-Cを少量含む。

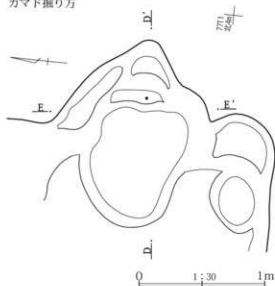
第214図 4区2面150住居1

第4章 検出された遺構と遺物

150住居掘り方

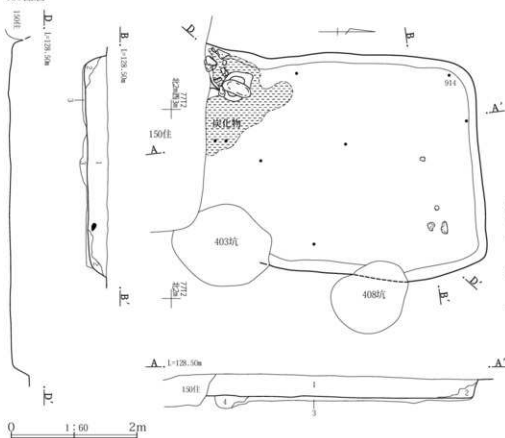


カマド掘り方



第215図 4区2面150住居2

151住居

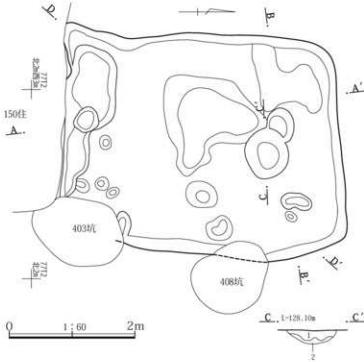


151住居

- 1 黒褐色土10YR3/2 Hr-FA, As-Cを多量に含む。
- 2 褐色土10YR4/4 Hr-FA, As-Cを多量、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10Y5/4 黄褐色土ブロックを多量、Hr-FA, As-Cを微量含む。
- 4 褐色土10YR4/4 黄褐色土ブロックを多量、Hr-FA, As-Cを微量含む。

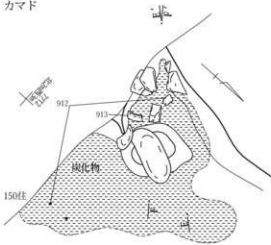
第216図 4区2面151住居1

151住居掘り方



- C
 1 暗褐色土10YR3/4 砂質土。As-C、Hr-FA含む。
 2 褐色土10YR4/4 砂質土。As-C、Hr-FA含む。

カマド



E, 1:128.40m

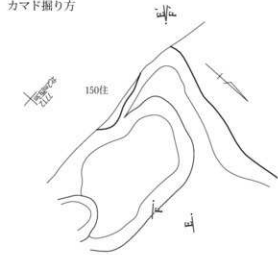


F, 1:128.40m



0 1:30 1m

カマド掘り方



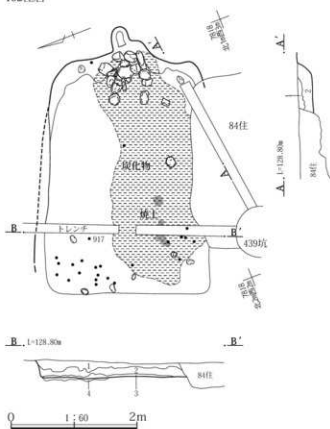
カマド

- 1 住居のフク土1層。
- 2 黒褐色土10YR3/2 焼土ブロック多量、Hr-FA、As-Cを微量含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 焼土ブロックを少量、Hr-FA、As-Cを微量含む。
- 4 黒褐色土10YR3/1 灰層。炭化物主体。
- 5 黒褐色土10YR3/2 焼土粒、炭化物を多量に、焼土ブロック、Hr-FA、As-Cを微量含む。
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 炭化物を少量、焼土粒、Hr-FA、As-Cを微量含む。
- 7 褐色土10YR4/4 焼土ブロック主体。炭化物、灰層を微量含む。
- 8 にぶい黄褐色土10YR4/3 黄褐色砂質土少量、Hr-FA、As-C微量含む。

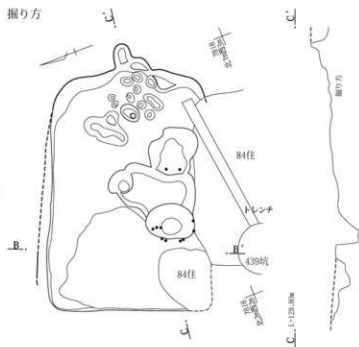
第217図 4区2面151住居2

第4章 検出された遺構と遺物

152住居



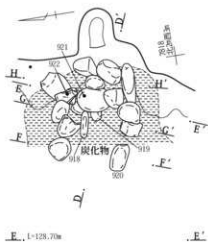
掘り方



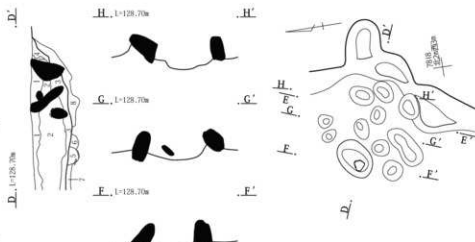
152住居

- 1 黒褐色土10YR2/2 As-B・Hr-FA・As-C・炭化物・焼土粒を少量含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 As-B. に多い黄褐色土を若干含む。
- 3 黒褐色土10YR2/1 炭化物層。焼土を多量に含む。
- 4 黄褐色土10YR6/6 黒褐色ブロック・炭化物を少量含む。

カマド



カマド掘り方

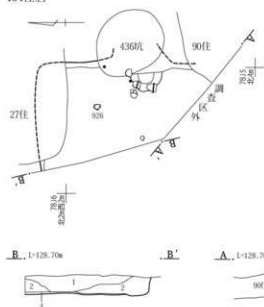


カマド

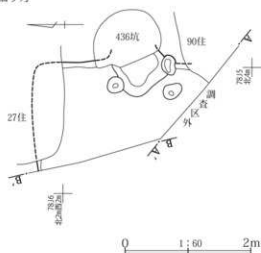
- 1 住居フク土。
- 2 住居フク土。
- 3 黒褐色土10YR3/2 炭化物、焼土を多量、黄褐色洪水層を少量含む。下層に薄い灰層。
- 4 暗褐色土10YR3/3 黄褐色洪水層ブロックを多量、炭化物、焼土、焼土層を含む。
- 5 赤・黄褐色土10YR5/3 焼土粒を多量、炭化物、黄褐色洪水層を少量含む。Hr-FA、As-Cを微量含む。
- 6 黄褐色土10YR5/6 炭化物を少量、Hr-FA・As-Cを微量含む。
- 7 黒色土10YR2/1 炭化物層。灰層を多量に含む。
- 8 黄褐色土10YR5/6 暗褐色土を少量、炭化物・Hr-FA・As-Cを微量含む。

第218図 4区2面152住居

154住居



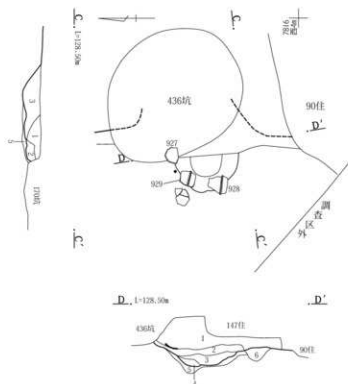
掘り方



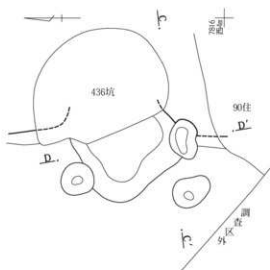
154住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒を含む。軟質土。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-PPを少量含む。軟質土。
- 3 極暗褐色土7.5YR2/3 炭化物と黄褐色シルト質ブロックを多く含む。
- 4 に深い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-PPを含む。軟質土。

カマド



カマド掘り方

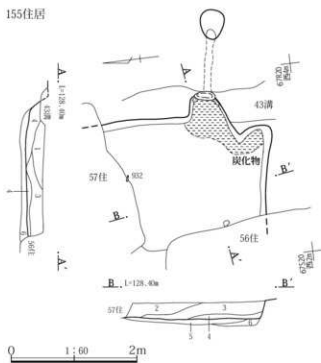


カマド

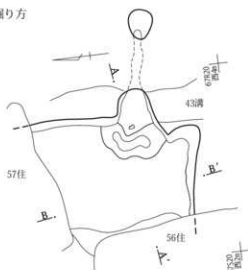
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒を含む。
- 2 黒色土7.5YR2/1 炭化物粒主体で赤褐色焼土ブロックを含む。
- 3 明赤褐色土2.5YR5/8 焼土層。下位に灰層。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄白色シルト質土ブロックを含む。
- 5 カマド右袖石が外れた後に焼上。灰。炭化物が入っている。
- 6 褐色土7.5YR5/6 シルト質土。

第219図 4区2面154住居

155住居



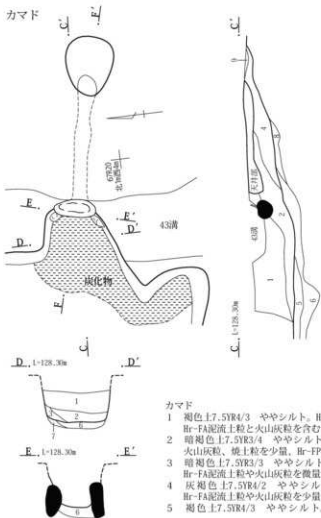
掘り方



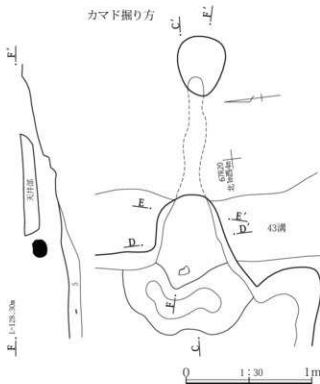
155住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FA泥流土粒の火山灰粒、Hr-FP軽石粒を微量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FA泥流土粒の火山灰粒を多量、Hr-FP軽石粒、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 ややシルト。Hr-FA泥流土粒を多量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。Hr-FA泥流土粒を少量、Hr-FP軽石粒と炭化物粒を微量含む。
- 5 褐色土7.5YR4/3 締りあり。Hr-FP軽石粒を少量、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を含む混土。
- 6 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。Hr-FA泥流土を多量に含む混土。

カマド



カマド掘り方



カマド

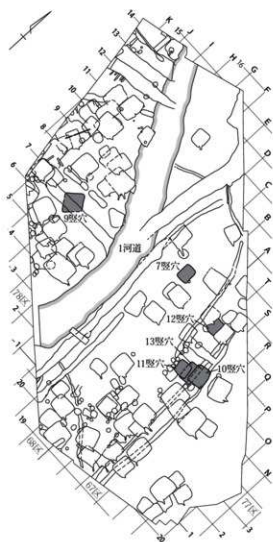
- 1 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒を微量、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を含む混土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FA泥流土粒、火山灰粒、焼土粒を少量、Hr-FP軽石粒を微量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。焼土粒を少量、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を微量含む。地山崩落土。
- 4 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量、焼土粒微量含む。
- 5 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。やや締りあり。

Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量、Hr-FP軽石粒を微量含む。

- 6 ぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FA泥流土を多量に含む混土。
- 7 褐色土7.5YR3/6 ややシルト。ややねばりあり。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を微量含む。
- 8 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量、Hr-FP軽石粒、炭化物粒微量含む。
- 9 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒、焼土粒を少量、Hr-FP軽石粒微量含む。

第220図 4区2面155住居

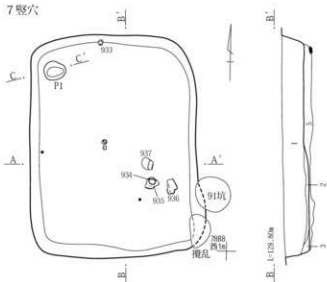
第5節 4区の遺構と遺物



第221圖 4区2面整穴分布図

第4章 検出された遺構と遺物

7 竪穴



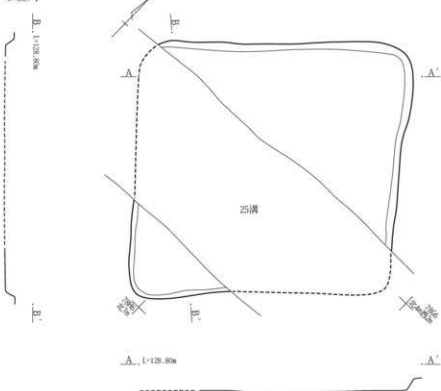
掘り方



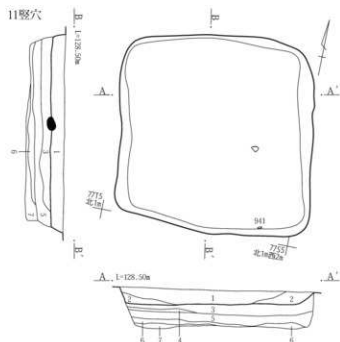
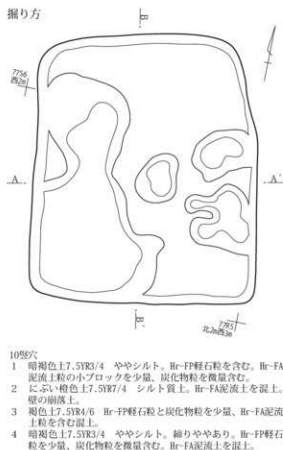
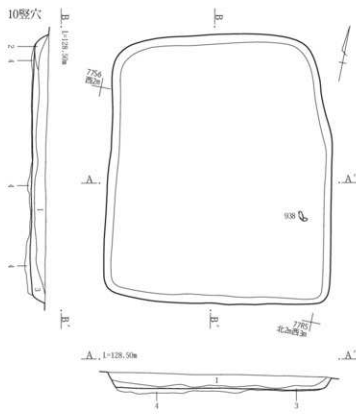
7 竪穴

- 1 暗褐色土7.5YR4/3 ややシルト質。Hr-FP軽石粒とHr-FA泥流土と火山灰粒含む混土。
- 2 褐色土7.5YR4/6 ややシルト。Hr-FP軽石粒少量、Hr-FA泥流土多く含む混土。壁の前落土。
- 3 黄褐色土7.5YR8/7 ややシルト質。Hr-FA泥流崩落土。褐色土少量含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/4 Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質。やや締まる。Hr-FP軽石粒少量含む、地山黄褐色シルト質土多い混土。

9 竪穴

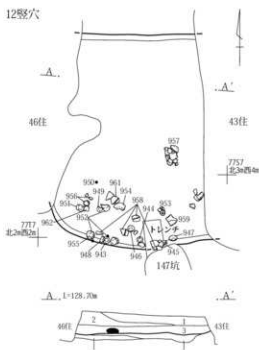


第222図 4区2面7・9竪穴



第4章 検出された遺構と遺物

12竪穴



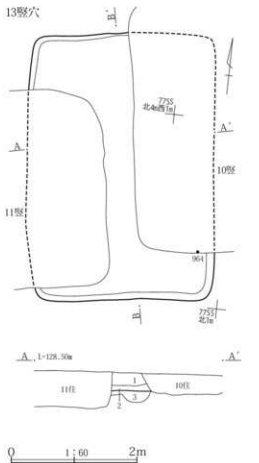
掘り方



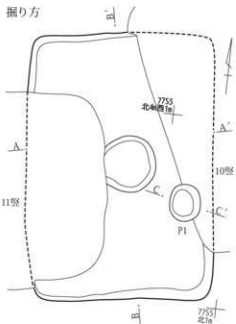
12竪穴

- 1 褐色土7.5YR4/6 ややしルト、Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土を粒状・小ブロック状に少量含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 ややしルト。炭化物粒をわずか、Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 しまっている。炭化物粒をわずか、Hr-FP軽石粒・Hr-FA泥流土を少量含む。
- 4 黒褐色土1.7.5YR3/1 黒色の灰主体の灰層。
- 5 明褐色土1.10YR6/6 Hr-FA泥流土と黄褐色シルト上の混上。炭化物粒をわずかに含む。

13竪穴



掘り方



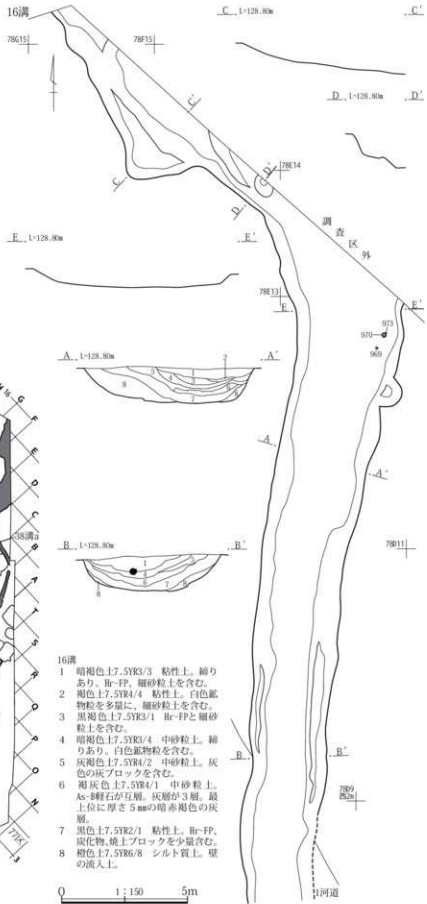
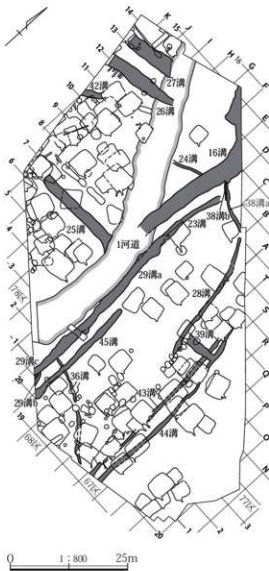
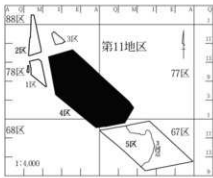
P1



13竪穴

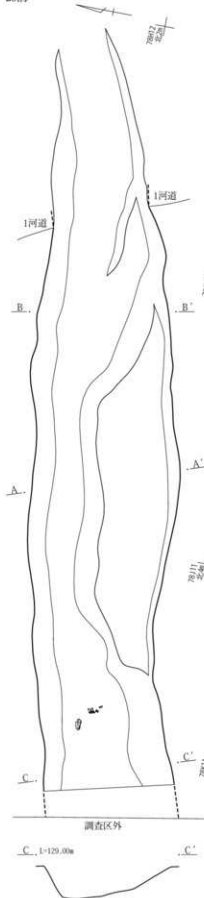
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 ややしルト、Hr-FP軽石粒を含む。炭化物粒・Hr-FA泥流土を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 ややしルト。炭化物粒と炭化物粒を少量、Hr-FA泥流土を多く含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒・Hr-FA泥流土粒を微量に含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。Hr-FA泥流土を多量、黄褐色シルト土を含む。
- 5 黒色土1.7.5YR2/1 灰層。炭化物粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒、黄褐色シルト土粒を少量含む。

第224図 4区2面12・13竪穴



第225図 4区2面溝分布図、16溝

26溝

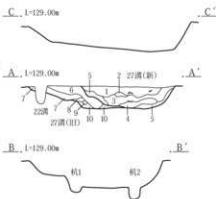


- 26溝
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-PPを少量含む。軟質土。
 - 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-PP、明褐色シルトブロックを下位に含む。軟質土。
 - 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-PPを少量含む。軟質土。

27溝



- 27溝
- 1 暗褐色土10YR3/4 Hr-PP、As-Cを多量に含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 Hr-PP、As-Cを少量含む。
 - 3 黒褐色土10YR2/3 Hr-PP、As-Cを少量含む。
 - 4 黒褐色土10YR2/3 Hr-PP、As-C、黄褐色洪水層土をブロック状に少量含む。
 - 5 黒褐色土10YR2/3 黄褐色洪水層土をブロック状に多量、Hr-PP・As-Cを微量含む。
 - 6 褐色土10YR4/4 Hr-PP、As-Cを多量に含む。
 - 7 褐色土10YR4/4 Hr-PP、As-Cを少量含む。
 - 8 暗褐色土10YR3/3 Hr-PP、As-Cを少量含む。
 - 9 暗褐色土10YR3/3 Hr-PP、As-C、黄褐色洪水層土をブロック状に少量含む。
 - 10 暗褐色土10YR3/3 黄褐色洪水層土をブロック状に多量に、Hr-PP・As-Cを微量含む。

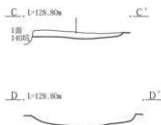


0 1:80 2m

第226図 4区2面26・27溝

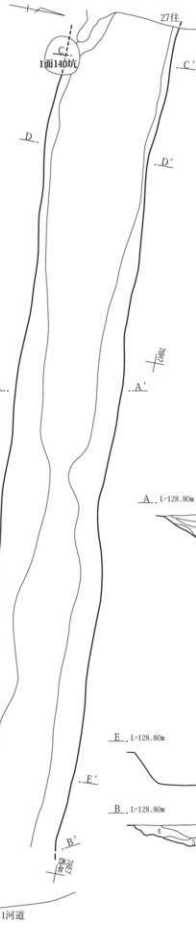
第5節 4区の道構と遺物

25溝

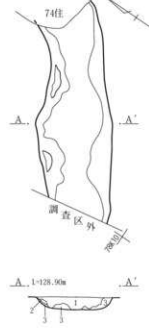


25溝A

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FPを少量含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FPを少量、黄褐色シルトブロックを縦に含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FPを微量、炭化物を含む。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。壁からの流れ込み土。



42溝



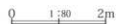
42溝

- 1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA, As-Cを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR5/4 洪水層ブロック上。Hr-FA, As-Cを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR5/4 洪水層ブロック上+暗褐色土。



25溝B

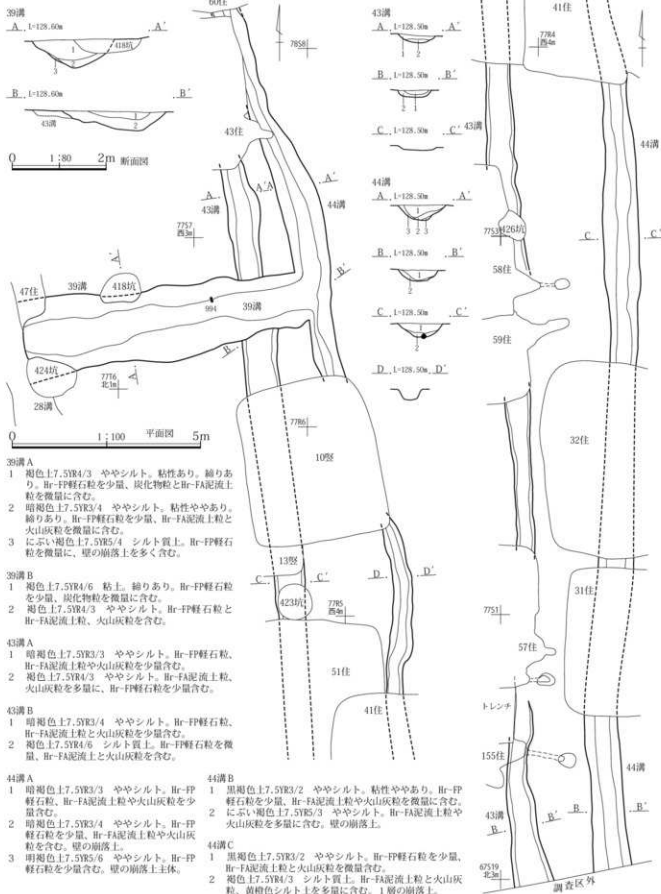
- 1 暗褐色土10YR3/4 As-C, Hr-FA, 黄褐色洪水層土を多量に含む。
- 2 褐色土10YR4/4 砂層上体。As-C, Hr-FA, にぶい黄褐色砂層を多量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土10YR5/4 砂層。
- 4 暗褐色土10YR3/3 黄褐色洪水層土を多量に、As-C, Hr-FAを少量含む。
- 5 褐色土10YR4/6 黄褐色洪水層土を多量に含む。As-C, Hr-FAを少量含む。



第227図 4区2面25・42溝

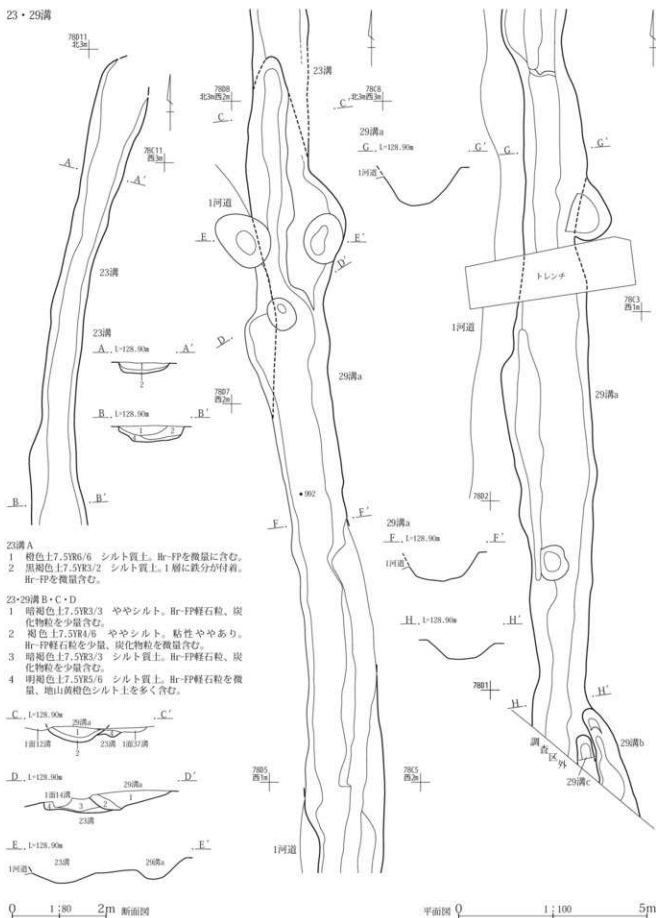
第4章 検出された遺構と遺物

39・43・44溝



第228図 4区2面39・43・44溝

23・29溝

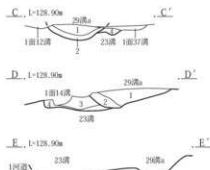


23溝 A

- 1 褐色土7.5VR6/6 シルト質土。Hr-FPを微量に含む。
- 2 黒褐色土7.5VR3/2 シルト質土。1層に鉄分が付着。Hr-FPを微量含む。

23・29溝 B・C・D

- 1 暗褐色土7.5VR3/3 ややシルト。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。
- 2 褐色土7.5VR4/6 ややシルト。粘性ややあり。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土7.5VR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒、炭化物粒を少量含む。
- 4 明褐色土7.5VR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を微量、地山黄褐色シルト土を多く含む。

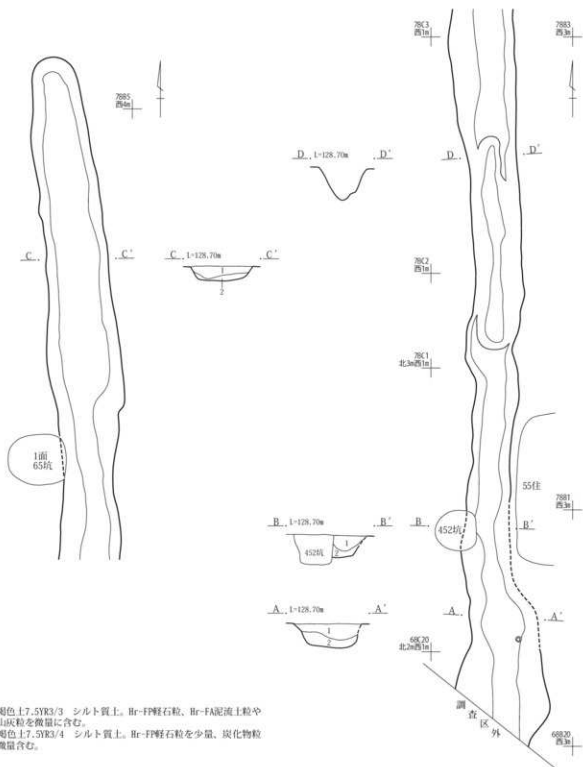


0 1:80 2m 断面図

平面図 0 1:100 5m

第229図 4区2面23・29溝

45溝



45溝 A

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を微量に含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒を微量含む。

45溝 B

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量、Hr-FP軽石粒を微量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を微量、黄褐色シルト土を含む。

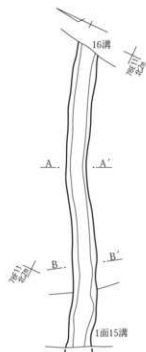
45溝 C

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 ややシルト。Hr-FP軽石粒を少量、炭化物粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を微量含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。Hr-FP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。

0 1:80 2m

第230図 4区2面45溝

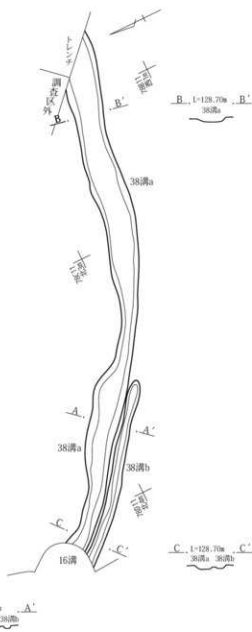
24溝



24溝

- 1 帯灰色土7.5YR4/1 細砂粒土とシルト質土の互層。
 - 2 黒色土7.5YR2/1 細砂粒土、軟膏土。
 - 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山の流れ込み土。
- ※この溝は水が流れた状況の堆積土。

38溝 a・b

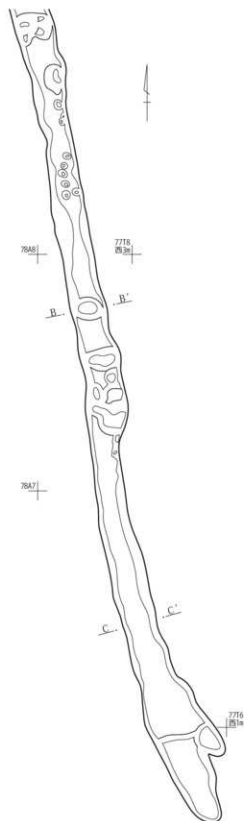
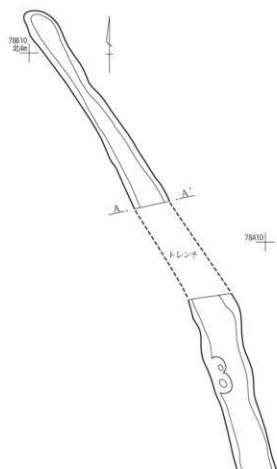


0 1:80 2m

第231図 4区2面24・38溝a・b

第4章 検出された遺構と遺物

28溝



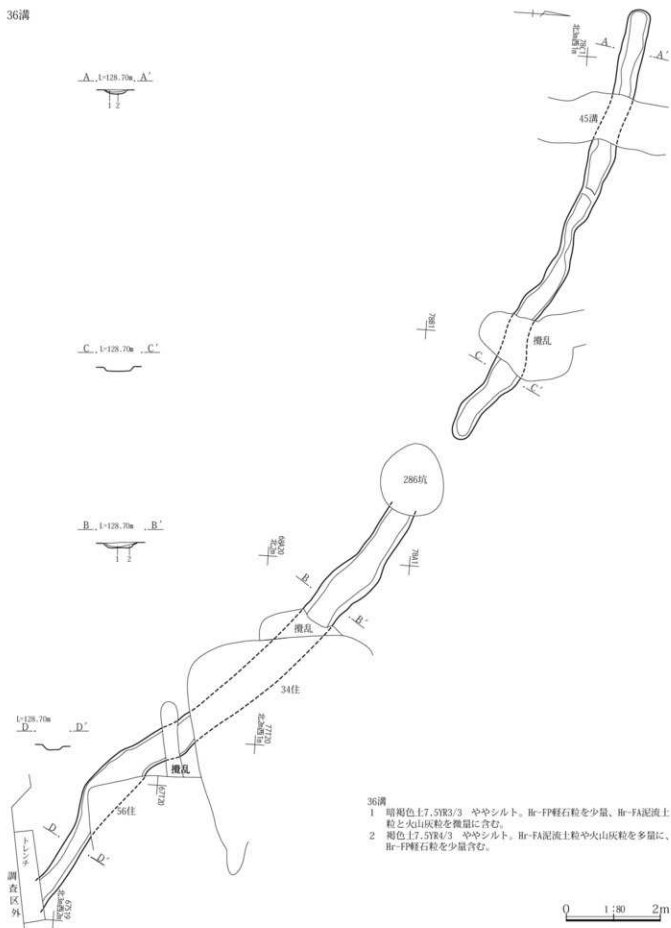
28溝

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FA泥流土ブロックを微量に含む混土。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を微量に含む。地上の崩落土。

0 1:80 2m

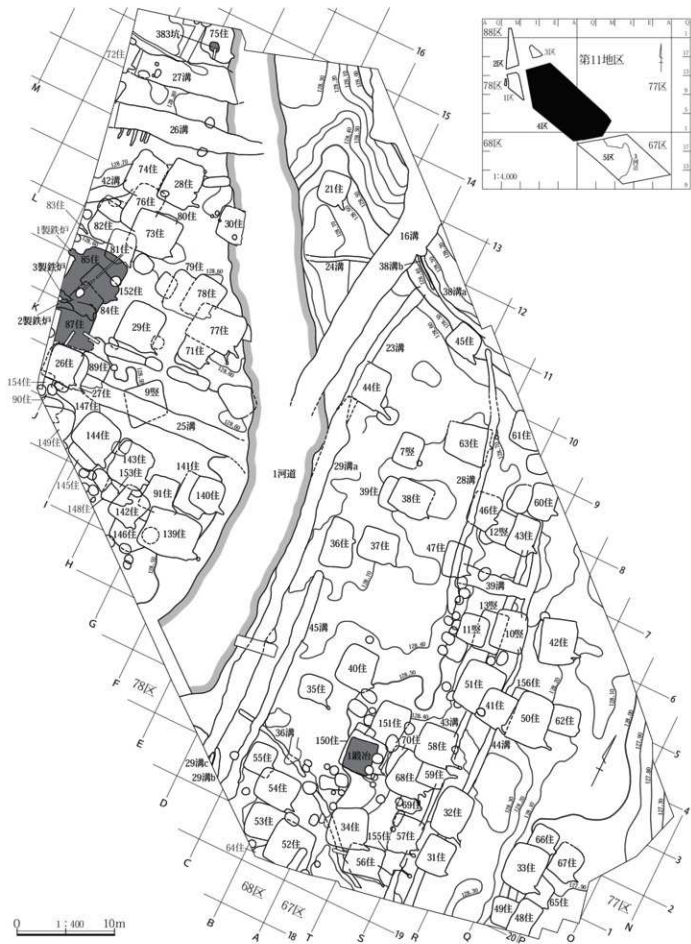
第232図 4区2面28溝

36溝

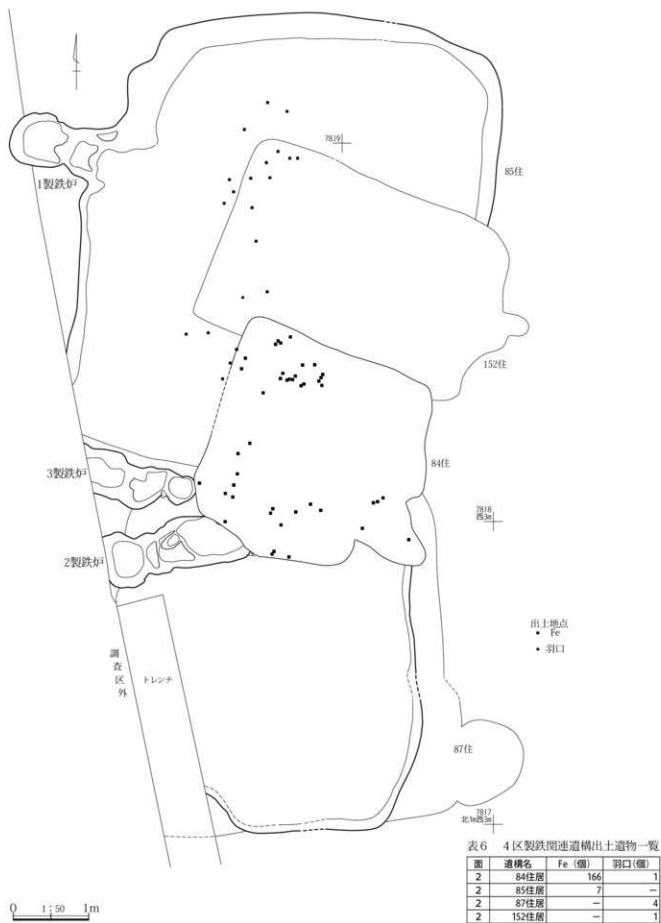


第233図 4区2面36溝

第4章 検出された遺構と遺物



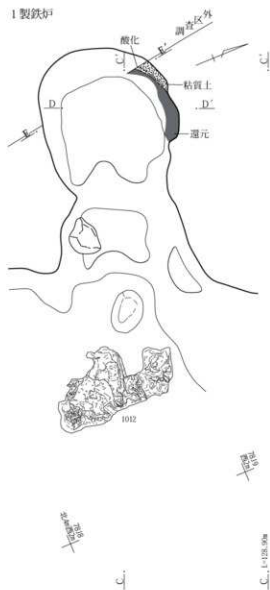
第234図 4区2面製鉄関連遺構分布図



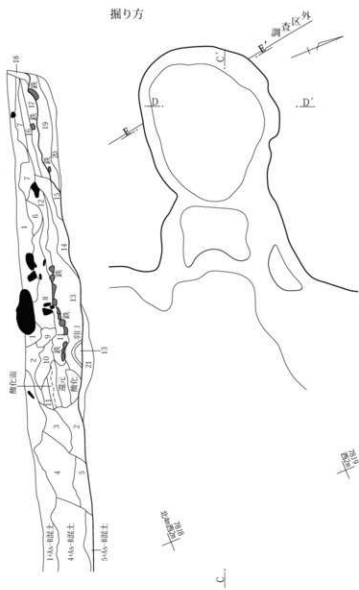
第235図 4区2面1～3製鉄がと重複する遺構

第4章 検出された遺構と遺物

1 製鉄炉



掘り方



D, 1:128.90m

D'

E, 1:128.90m

E'

0 1:20 50m



C・D

- 1 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FA, 鉄滓を少量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 焼土粒を多量に、As-C, Hr-FA, 鉄滓を少量含む。
- 3 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FA, 鉄滓, 炭化物を少量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FA, 鉄滓, 炭化物を少量, 黄褐色洪水層を微量含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FA, 鉄滓, 黄褐色洪水層を少量含む。
- 6 暗褐色土10YR3/3 As-C, Hr-FA, 炭化物粒, 焼土を少量, 鉄滓を微量含む。
- 7 灰黄褐色土10YR4/2 焼土ブロック, 炭化物, 光沢のある青灰色粒を多量に, 鉄滓を少量含む。
- 8 褐色土5YR6/8 にふい黄色土の混上。砂の残骸+炭化物を多量に含む。
- 9 にふい黄色土が主体の砂の残骸。
- 10 褐色土5YR6/8主体の砂の残骸, 炭化物を少量含む。
- 11 褐色土5YR6/8主体の砂の残骸。

E

- 1 黒色土X2/ 粘質土。光沢のある青白色の粒子を少量含む。粘土床構築土。光沢のある青白色の粒子は、粘土床が強く還元した箇所か。
- 2 褐色土10YR4/6 粘質土。木目細かく不純物がほとんどない。
- 3 青灰色土10BG6/1 黄褐色砂質土が還元した土層。地山。
- 4 明赤褐色土2.5YR5/8 黄褐色砂質土が酸化した土層。
- 5 1, 3, 4層の混上。地山の粗丸。
- 6 暗褐色土10YR3/3 熱変色。地山。

- 12 褐色土5YR6/8 11と同色。鉄滓を少量含む。11+鉄滓を少量含む。
- 13 褐色土5YR6/8主体 青灰色還元土, 鉄滓(流動層主体)を多量に含む。
- 14 青灰色5B5/1 還元土主体。鉄滓を多量に含む。
- 15 19層+多量の鉄滓+14層
- 16 暗青灰色10BG4/1 光沢のある青灰色粒(砂塚の還元部の崩れ, 鉄滓)を多量に含む。
- 17 青黒色土10BG2/1~黒色土N1.5/ 粘質土。光沢のある青灰色粒(粘土床が強く還元した箇所か)を多量に含む。主体となる黒色~青黒色粘質土は黄床土。(砂塚部は一部強く還元しているものか=光沢ある青灰色粒)下層が砂の掘り方。
- 18 黒色土N1.5/ 粘質土。
- 19 青灰色土10BG5/1 地山。明黄褐色洪水層の還元層。鉄滓含む。
- 20 地山の焼土。
- 21 暗褐色土10YR3/3 粘土粒, 炭化物粒, 黄褐色洪水層を少量, Hr-FA, Hr-PPを含む。

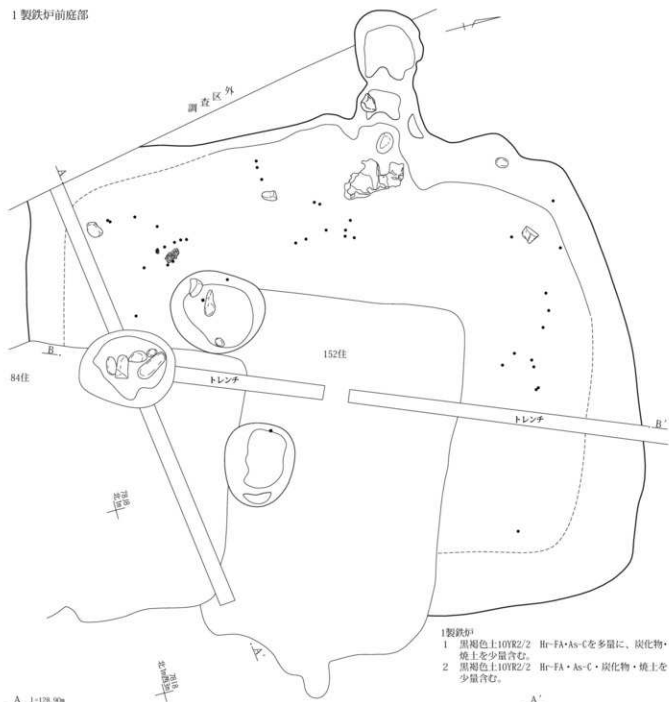
第236図 4区2面1製鉄炉1

1 製鉄炉遺物出土状況



第237図 4区2面1製鉄炉2

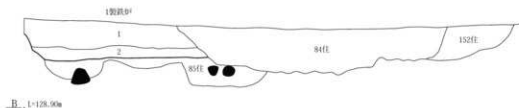
1製鉄炉前底部



1製鉄炉
 1 黒褐色土10YR2/2 Hr-FA・As-Cを多量に、炭化物・焼土を少量含む。
 2 黒褐色土10YR2/2 Hr-FA・As-C・炭化物・焼土を少量含む。

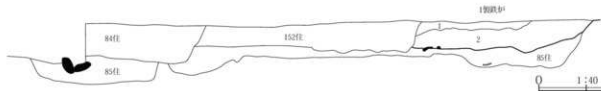
A, L=128.90m

A'



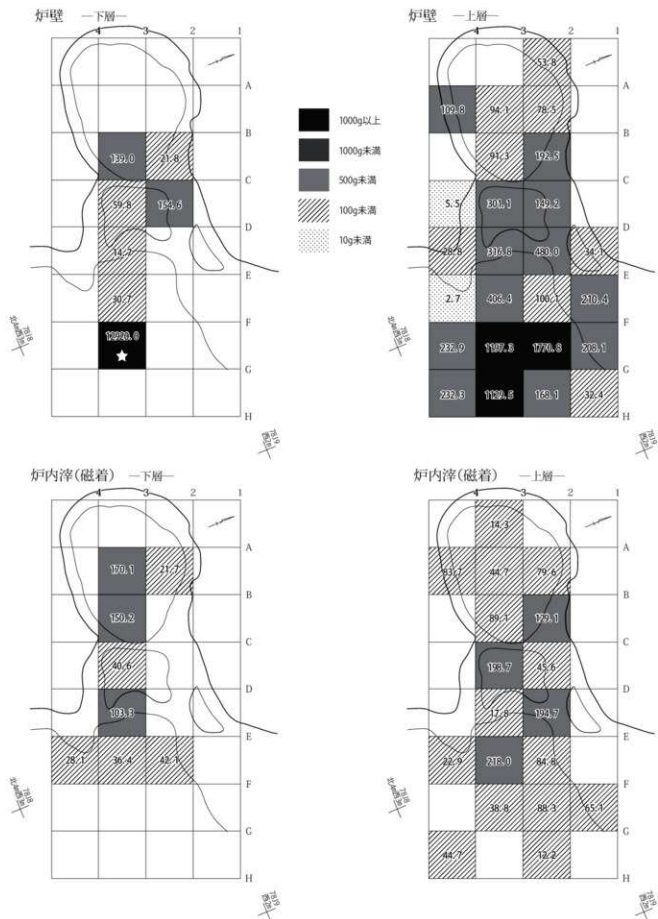
B, L=128.90m

B'



0 1:40 1m

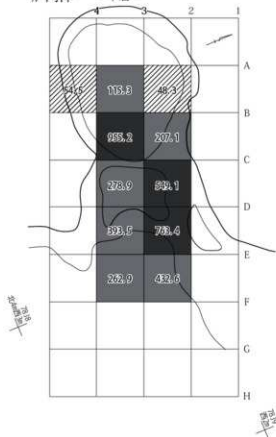
第238図 4区2面1製鉄炉3



第239図 4区2面1製鉄炉出土遺物重量分布図1

第4章 検出された遺構と遺物

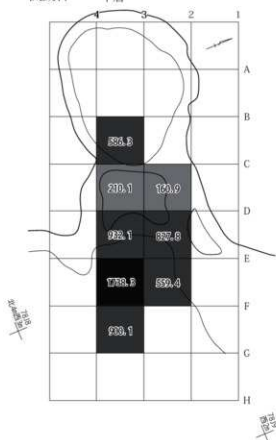
炉内滓 一下層一



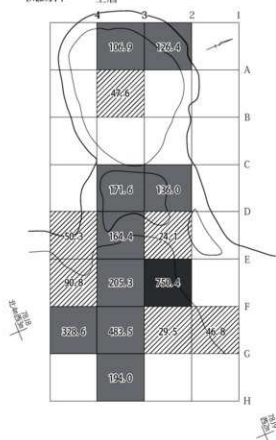
炉内滓 一上層一



流動滓 一下層一



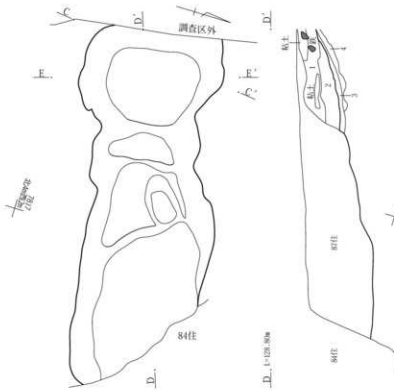
流動滓 一上層一



第240図 4区2面1製鉄炉出土遺物重量分布図2

0 1:20 50cm

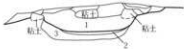
2製鉄炉



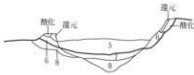
掘り方



C., 1-128.80m



E., 1-128.80m

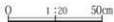


2製鉄炉C・D

- 1 暗褐色土10YR3/3 焼土粒・炭化物・炭化物粒・鉄滓を多量に、黄褐色洪水層を微量含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 鉄滓を多量に、焼土粒・炭化物・炭化物粒、砂の屑を少量含む。黄褐色洪水層を微量、灰オリーブ粘質土を含む。
- 3 黒色土10YR2/1 炭化物主体。光沢のある青白色の粒子を多量に含む。

2製鉄炉E

- 4 黒色土10YR2/1 炭化物粒、鉄滓(鈍化した含鉄鉄滓、粘土質溶解物主体の滓)を多量に含む。光沢のある青白色の粒子を多量に含む。炉床土が強く還元した箇所か。
- 5 黒色土X2/ 粘質土。光沢のある青白色の粒子を少量含む。炉床土が強く還元した箇所か。2層は粘土床構築土。炉床土の残存部。
- 6 5層に粒子を含まないもの。
- 7 青灰色土10BG6/1 還元した地山。黄褐色砂質土が還元した上層。下面には酸化した赤色の地山が見られる。
- 8 酸化した地山 黄褐色砂質土が酸化した上層。



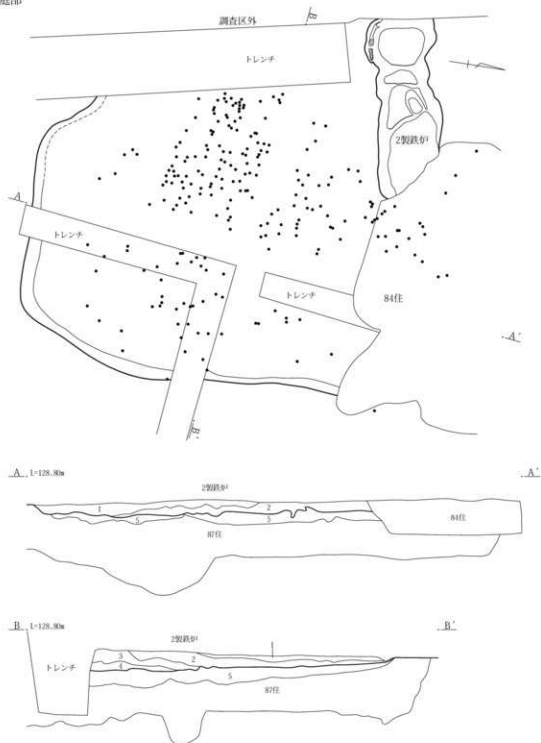
第241図 4区2面2製鉄炉1

2 製鉄炉遺物出土状況



第24図 4区2面2製鉄炉2

2製鉄炉前庭部



2製鉄炉

1 暗褐色土10YR3/3 Hr-FA・As-Cを多く含む。炭化物・鉄滓を若干含む。

2 褐色土10YR4/1 灰層主体。炭化物を若干、鉄滓を少量含む。

3 灰黄褐色土10YR5/2 鉄滓を多量に含む。2製鉄炉前庭部フク上であがった鉄滓はほぼこの層中。Hr-FA・As-Cを多く、黄褐色洪水層・灰・炭化物を少量含む。

4 褐色土10YR4/1 Hr-FA・As-Cを少量、鉄滓・黄褐色洪水層を若干、灰・炭化物を多量に含む。

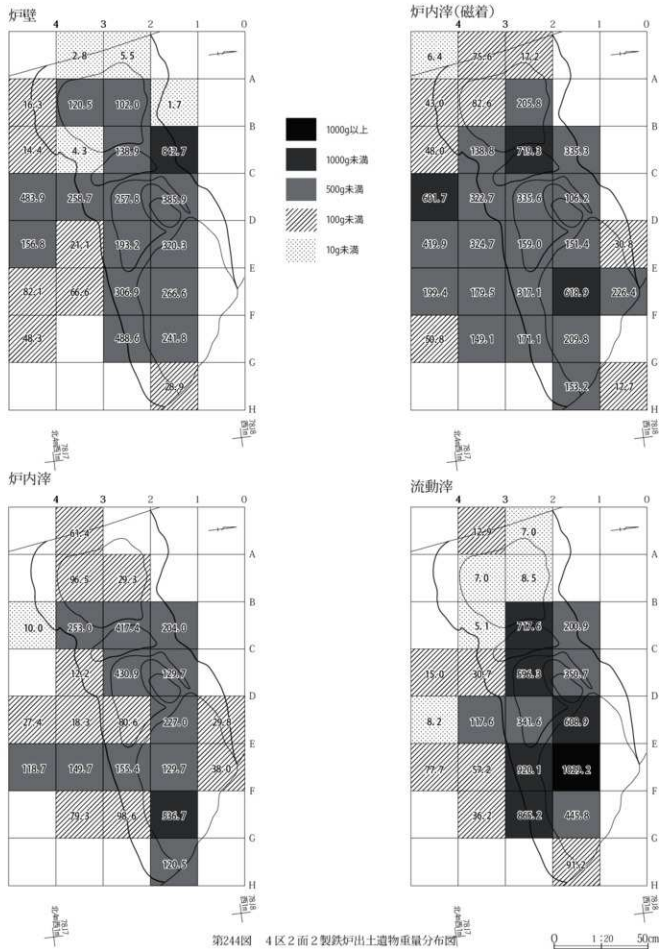
5 にふい黄色土2.5YR6/3 Hr-FA・As-Cを少量、炭化物を若干含む。4層を含む。極少量鉄滓を含む。

※ 4層下面が使用面。5層はしまりがあり作業中に踏み固められた上層。

第243図 4区2面2製鉄炉3

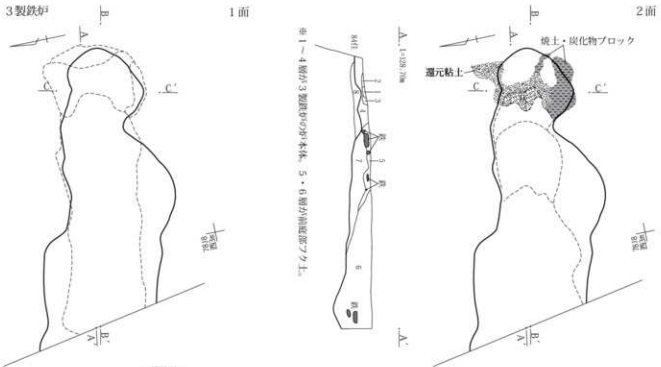
0 1:40 1m

第4章 検出された遺構と遺物



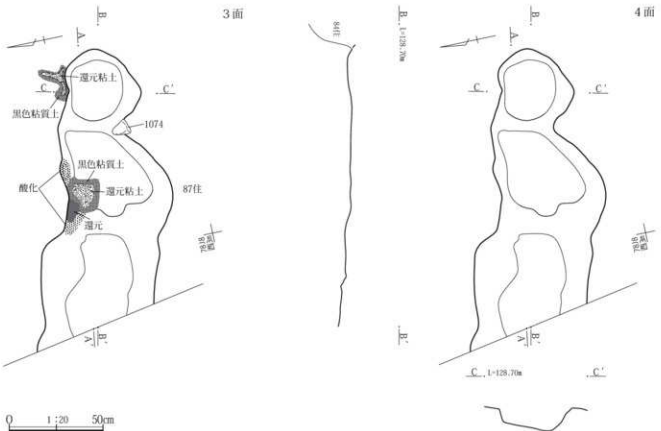
第244図 4区2面2製鉄炉出土遺物重量分布図

0 1:20 50cm



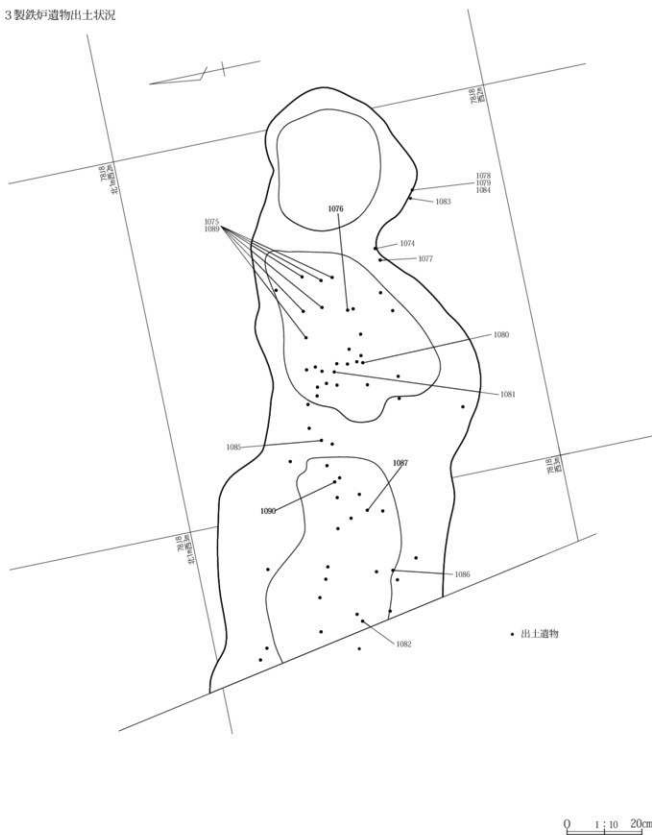
3製鉄炉

- 1 オリーブ黄色5Y6/3 還元した粘土上体炭化物、灰層を少量含む、Hr-FA、As-Cを含む暗褐色土をブロック状に微量含む。
- 2 にふい黄褐色土10YR5/4 1層と暗褐色土を多量に含む。
- 3 灰色土5Y4/1 灰、黒色還元砂質土(今の地下構造の覆土)の混土。
- 4 黒色土10YR2/1 木目細かい黒色還元砂質土。今の地下構造の覆土。
- 5 褐色土10YR4/4 光沢ある青灰色粉、流動層、含鉄鉄滓、炭化物粒を多量に、Hr-FA、As-Cを微量に含む。
- 6 黄褐色土2.5Y5/3 明黄褐色洪水層、炭化物粒、鉄滓(含鉄鉄滓、流動滓)を多量に含む。
- 7 5層と同じ。鉄滓少量。
- 8 地山(明黄褐色洪水層)の還元層。8層下層は酸化色。



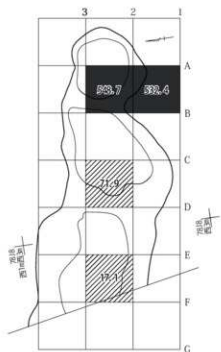
第245図 4区2面3製鉄炉1

3 製鉄炉遺物出土状況

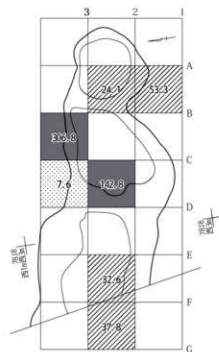


第246図 4区2面3製鉄炉2

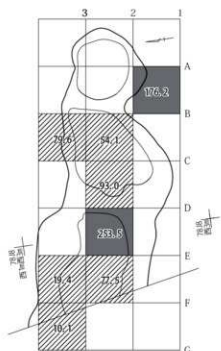
炉壁



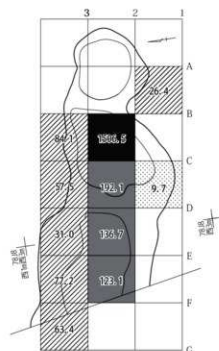
炉内滓(磁着)



炉内滓



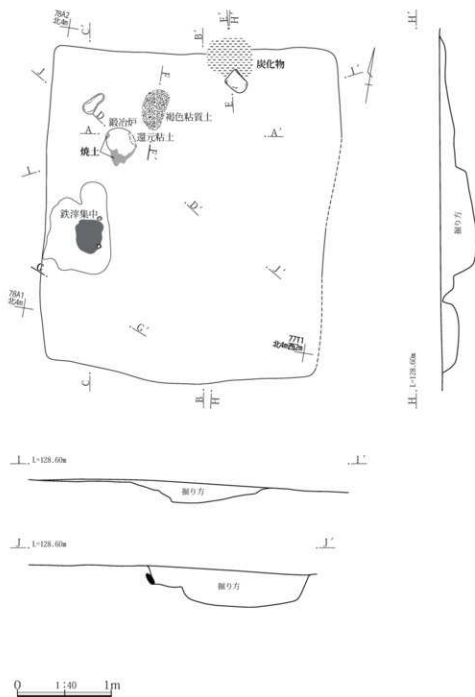
流動滓



0 1:20 50cm

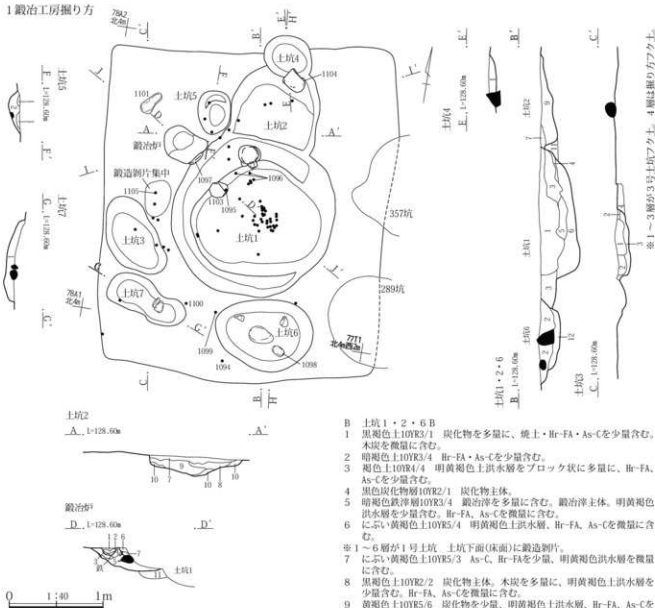
第247図 4区2面3製鉄炉出土遺物重量分布図

1 鍛冶工房



第248図 4区2面1 鍛冶工房1

1 鍛冶工房掘り方



- A・D
- 1 暗褐色土10YR3/3 鉄滓(小型, 鈍化, 含鉄鉄滓)を多量に、Hr-FA・As-Cを少量、炭化物・焼土粒を微量に含む。
 - 2 灰黄色土2.5Y7/2～灰オリーブ色土5Y6/2 焼土、Hr-FA、As-Cを微量に含む。路床の還元上。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 炭化物を少量、焼土粒・Hr-FA・As-Cを微量に含む。
 - 4 黒褐色土10YR3/2 炭化物・焼土粒・Hr-FA・As-C・暗灰黄色土を微量に含む。
 - 5 黒褐色土2.5Y3/2 暗灰黄色土を少量、Hr-FA・As-Cを微量に含む。
 - 6 橙色土5YR7/8 焼土ブロックを多量に含む。1層をブロック状に含む。炉の上部が1号土坑側に崩れたか。
 - 7 黒色土10YR2/1 炭化物主体。Hr-FA、As-C、焼土を微量に含む。炉内の炭化物の土坑側に崩れたか。
 - 11 暗褐色土10YR3/4 B断面の11層。

- B 土坑1・2・6 B
- 1 黒褐色土10YR3/1 炭化物を多量に、焼土・Hr-FA・As-Cを少量含む。木炭を微量に含む。
 - 2 暗褐色土10YR3/4 Hr-FA・As-Cを少量含む。
 - 3 褐色土10YR4/4 明黄褐色土洪水層をブロック状に多量に、Hr-FA、As-Cを少量含む。
 - 4 黒色炭化物層10YR2/1 炭化物主体。
 - 5 暗褐色鉄滓層10YR3/4 鍛冶炉を多量に含む。鍛冶炉主体。明黄褐色洪水層を少量含む。Hr-FA、As-Cを微量に含む。
 - 6 にぶい黄褐色土10YR5/4 明黄褐色土洪水層。Hr-FA、As-Cを微量に含む。
- ※1～6層が1号土坑 土坑下面(床面)に鍛造割片。
 7 にぶい黄褐色土10YR5/3 As-C、Hr-FAを少量、明黄褐色洪水層を微量に含む。
 8 黒褐色土10YR2/2 炭化物主体。木炭を多量に、明黄褐色土洪水層を少量含む。Hr-FA、As-Cを微量に含む。
 9 黄褐色土10YR5/6 炭化物を少量、明黄褐色土洪水層、Hr-FA、As-Cを微量に含む。
 10 灰黄褐色土10YR4/2 明黄褐色土洪水層、Hr-FA、As-Cを微量に含む。
 ※7～10層が2号土坑。
 11 暗褐色土10YR3/4 明黄褐色土洪水層、Hr-FA、As-Cを微量に含む。
 ※11層は鍛冶工房掘り方フク上。
 12 暗褐色土10YR3/4 Hr-FA、As-Cを微量に含む。

- C 土坑3
- 1 暗褐色土10YR3/4 鉄滓、鍛造割片を多量に、炭化物・焼土粒・Hr-FA・As-Cを微量に含む。
 - 2 暗褐色土10YR3/4 鍛造割片、明黄褐色土を少量、鉄滓・炭化物・焼土粒・Hr-FA・As-Cを微量に含む。
 - 3 暗褐色土10YR3/4 明黄褐色土を少量、炭化物・焼土粒・Hr-FA・As-Cを微量に含む。
 - 4 黄褐色土10YR5/6 明黄褐色土を少量、Hr-FA・As-Cを微量に含む。

- E 土坑4
- 1 黒色土10YR2/1 明黄褐色土洪水層を少量、Hr-FA・As-Cを微量に含む。炭化物主体の層。

- F 土坑5
- 1 灰黄褐色土10YR6/2 粘質土。Hr-FA、As-C、炭化物を微量に含む。粘質土が主体である。
 - 2 1層+明黄褐色洪水層上。
- ※炭化物や明黄褐色洪水層上が粒状に下層に混入。

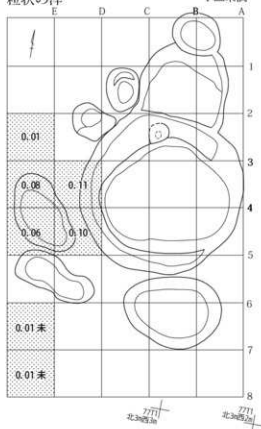
- G 土坑7
- 1 暗褐色土10YR3/3 明黄褐色洪水層、Hr-FA、As-Cを少量含む。

第249図 4区2面1 鍛冶工房2

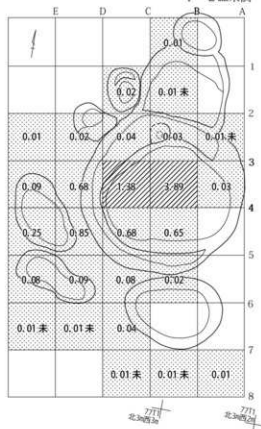
第4章 検出された遺構と遺物

粒状の滓

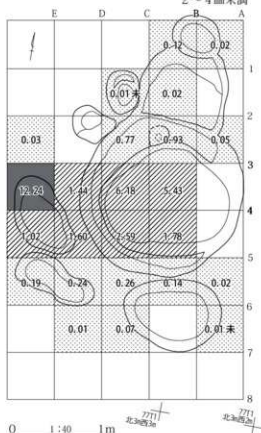
1mm未満



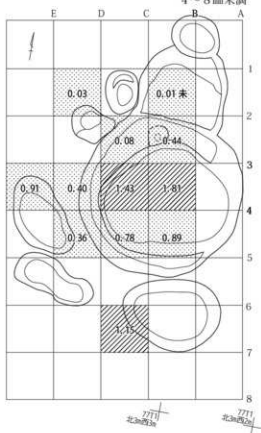
1～2mm未満



2～4mm未満



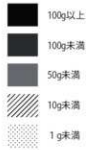
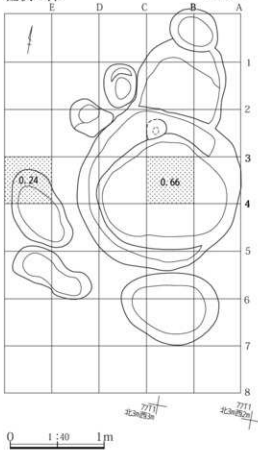
4～8mm未満



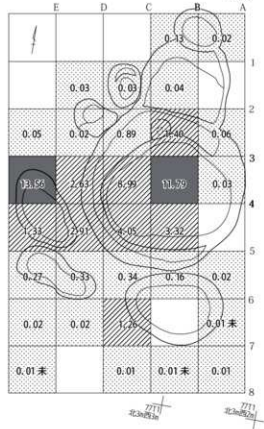
第250図 4区2面1観治工房出土遺物重量分布図(粒状の滓) 1

粒状の滓

8mm以上



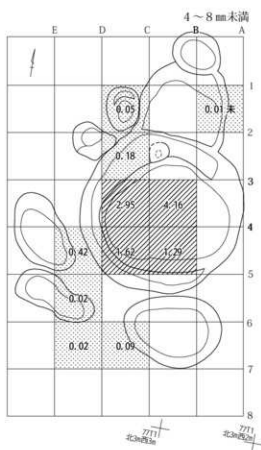
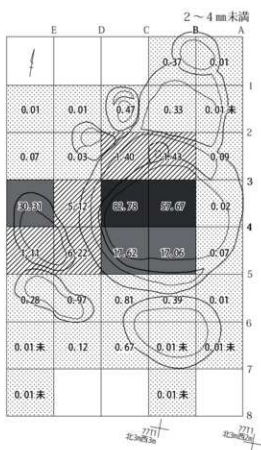
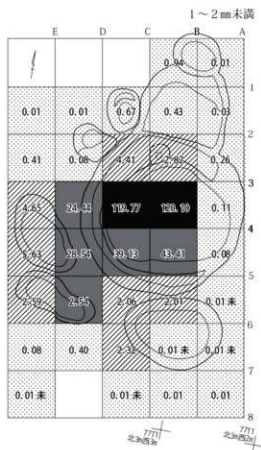
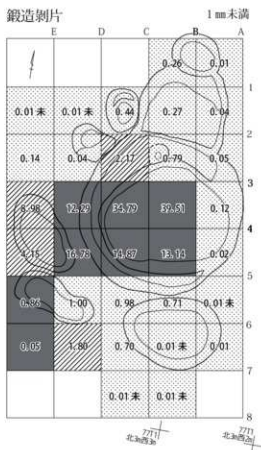
総数



第251図 4区2面1鍛冶工房出土遺物重量分布図(粒状の滓) 2

第4章 検出された遺構と遺物

鍛造剥片

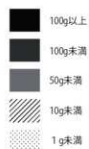
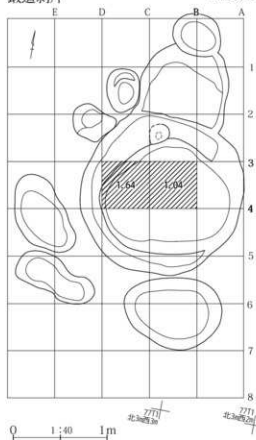


0 1:40 1m

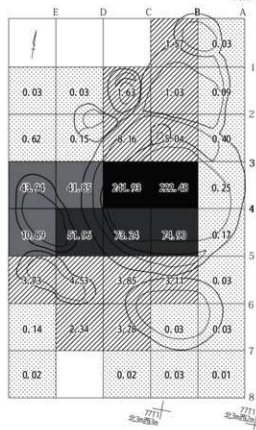
第252図 4区2面1鍛冶工房出土遺物重量分布図(鍛造剥片) 1

鍛造剥片

8mm以上

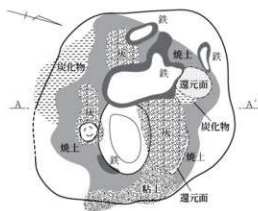


総数

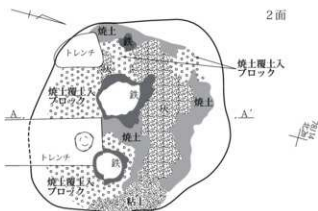


第253図 4区2面1 鍛冶工房出土遺物重量分布図(鍛造剥片) 2

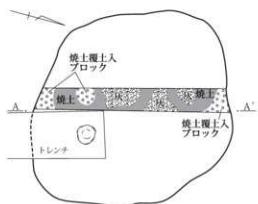
第4章 検出された遺構と遺物



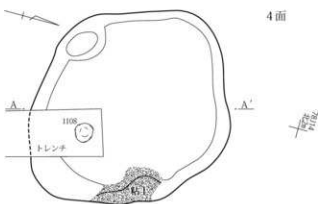
1面



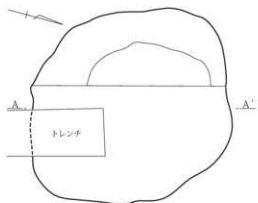
2面



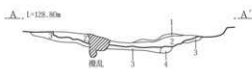
3面



4面



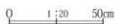
5面



383土坑

- 1 灰白色土N8/ 灰層。
- 2 橙色土5YR7/8 焼土。
- 3 赤褐色土5YR4/6 砂質。75住のフク土が被熱したもの。
- 4 2層+3層の混土。

※3層上面が中の下面。粘土の貼りや下部構造はなく、75住フク土上面を中の下面としている。2層の焼土が厚く、被熱により赤褐色に変色した3層が検出されており、中として機能したと考えられる。



第254図 4区2面縦割関連遺構383土坑

遺構名	4区 152住居(3製鉄炉に近い住居)						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	2	5	4	3	2	1	17

遺構名	4区 165土坑						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	-	-	2	-	-	1	3

遺構名	4区 170土坑						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	2	2	2	-	-	-	6

遺構名	4区 397土坑						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	-	-	4(鉄塊系遺物?)	-	-	-	4

遺構名	4区 401土坑						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	-	-	1	-	-	-	1

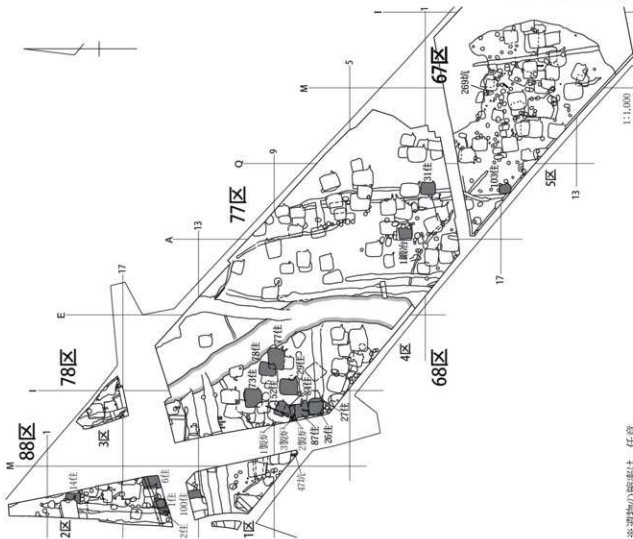
遺構名	4区 24溝						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	-	-	1	-	-	-	1

遺構名	4区 25溝						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	-	-	3	3	-	-	6

遺構名	4区 42溝						
種別	炉壁	炉内滓	炉内滓(磁着)	流動滓	流動滓(粗)	椀形鍛冶滓	合計
個数	-	-	3	-	-	-	3



第255図 4区2面製鉄関連遺物出土遺構一覽、分布図

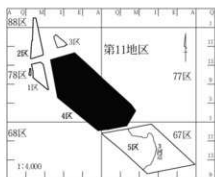


※遺物の縮率は、任意。

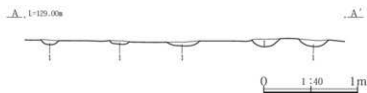
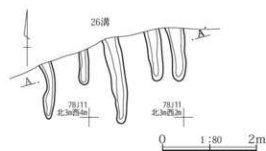
第25図 4区2面製鉄関連遺構構成図2、分布図

4区 製鉄炉周辺製炉工房		4区 1期炉工跡周辺		2区	
罌口	物形製鉄炉	石	罌口	罌口	罌口
73E 631	2製鉄炉 1051	76E 663	31E 371	14E 226	
87E 739	2製鉄炉 1049	77E 652	31E 372	6E 172	
27E 327	分炉4	26E 319		1E 129	
84E 669	2製鉄炉 1050	石	1製炉 1100	2E 133	
2製鉄炉 1042	2製鉄炉 1052		1製炉 1066	5区 罌口	
26E 321			1製炉 1066	269E 1467	
			1製炉 1066	100E 1252	

第4章 検出された遺構と遺物



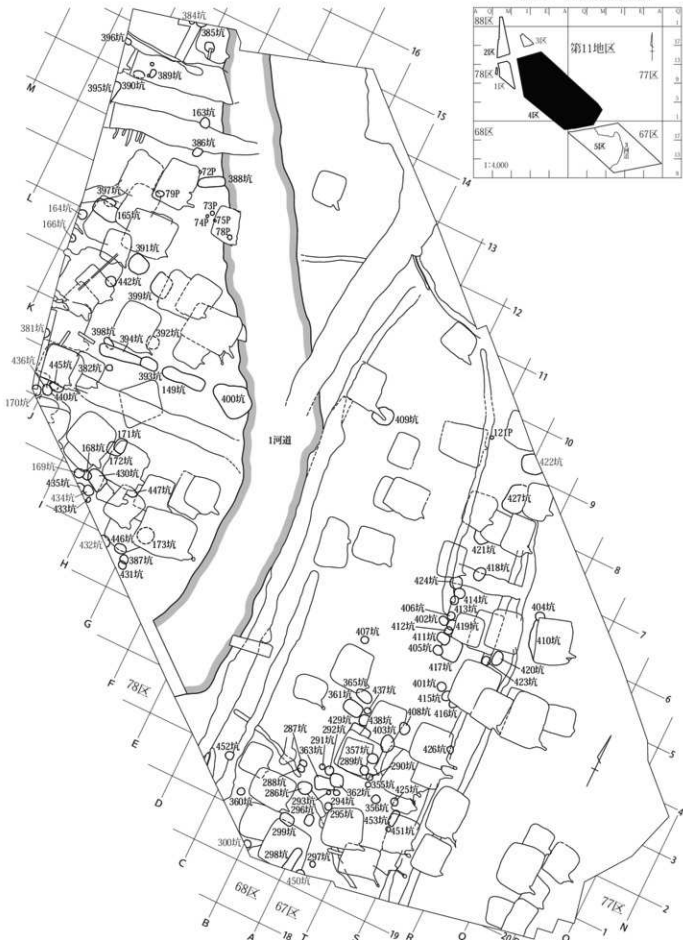
18畝



18畝
1 にぶい・黄褐色土10YR5/4 Hr-FA, As-Cを微量含む。

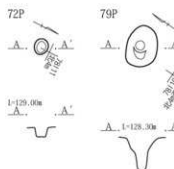
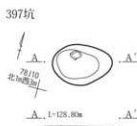
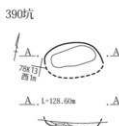
第258図 4区2面畝分布図、18畝

第5節 4区の道構と遺物



第259図 4区2面土坑・ピット分布図

第4章 検出された遺構と遺物

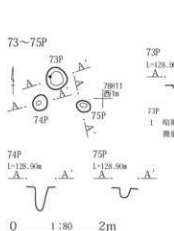
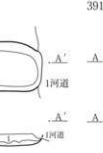
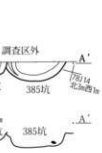
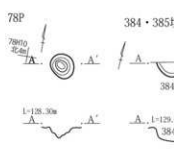


- 163坑
- 1 褐色土10YR3/3 As-C, Br-FAを多量, 黄褐色土を少量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 黄褐色土を多量に, As-C, Br-FAを微量含む。
- 396坑
- 1 原褐色土10YR2/2 As-C, Br-FAを多量, 黄褐色洪水層を少量含む。
 - 2 褐色土10YR3/3 黄褐色洪水層を多量, As-C・Br-FAを少量含む。
 - 3 黄褐色土10YR5/6 黄褐色洪水層を多量, 原褐色土を少量, As-C・Br-FAを微量含む。

- 390坑
- 1 原褐色土10YR3/3 Br-PP, 黄褐色洪水ブロックを少量含む。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 洪水ブロック, Br-PPを含む。
- 395坑
- 1 原褐色土10YR3/3 As-C, Br-PPを少量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 As-CとBr-PP, 黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 386坑
- 1 原褐色土10YR3/3 黄褐色洪水ブロックを少量, As-C, Br-FAを微量含む。

- 397坑
- 1 原褐色土10YR3/3 As-C, Br-PPを少量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 As-CとBr-PP, 黄褐色洪水ブロックを少量含む。
- 398坑
- 1 原褐色土10YR3/3 Br-FA・As-C・炭化物を多量, 黄褐色土をブロック状に少量含む。

- 399坑
- 1 褐色土10YR3/3 As-C, Br-FAを多量, 黄褐色洪水層を少量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 As-CとBr-FAを少量含む。
 - 3 褐色土10YR5/6 黄褐色洪水層を多量, As-C・Br-FAを少量含む。
 - 4 黄褐色土10YR6/6 洪水層主体, As-C, Br-FAを微量含む。



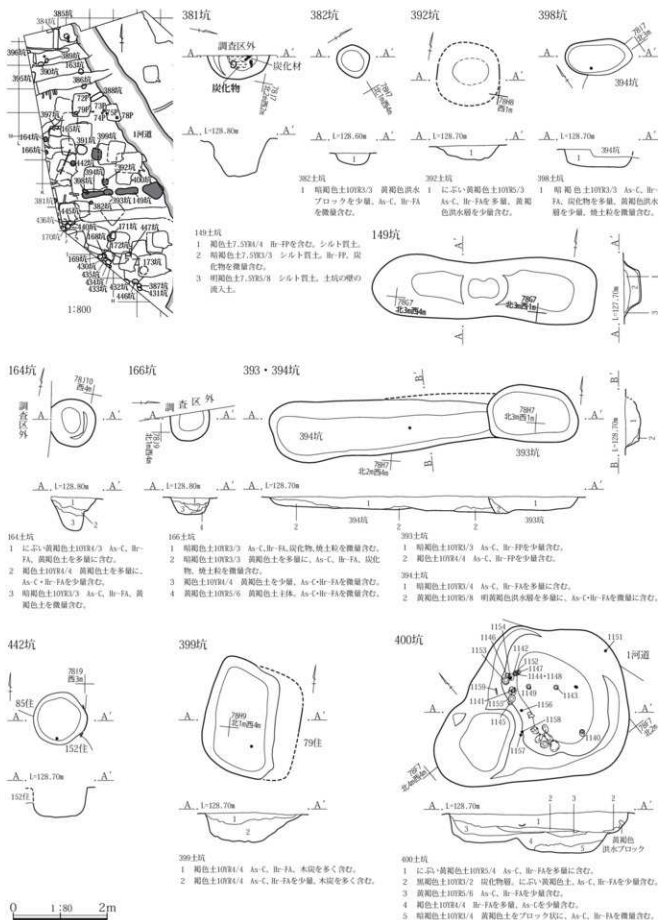
- 384坑
- 1 原褐色土10YR3/3 As-C, Br-FAを微量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 黄褐色洪水ブロックを多量, As-C・Br-FAを微量含む。
- 385坑
- 1 原褐色土10YR3/3 As-C, Br-FAを多量, 黄褐色洪水層を少量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 黄褐色洪水層を多量, As-C・Br-FAを少量含む。

- 388坑
- 1 原褐色土10YR3/3 黄褐色洪水ブロックを少量, As-C・Br-FAを微量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 黄褐色洪水ブロックを多量, As-C・Br-FAを微量含む。
- 389坑
-

- 391坑
- 1 濃い黄褐色土10YR5/3 As-C, Br-FAを多量に, 黄褐色洪水層を少量含む。
 - 2 濃い黄褐色土10YR5/4 黄褐色洪水層を多量, As-C・Br-FAを少量含む。
 - 3 濃い黄褐色土10YR6/4 黄褐色洪水層を多量, As-C・Br-FAを少量含む。
 - 4 黄褐色土10YR6/6 洪水層主体, As-C, Br-FAを微量含む。
- 392坑
- 1 原褐色土10YR3/3 Br-PP, 黄褐色洪水ブロックを少量含む。
 - 2 黄褐色土10YR5/6 洪水ブロック, Br-PPを含む。
 - 3 原褐色土10YR2/2 Br-PP, 黄褐色洪水ブロックを多量に含む。

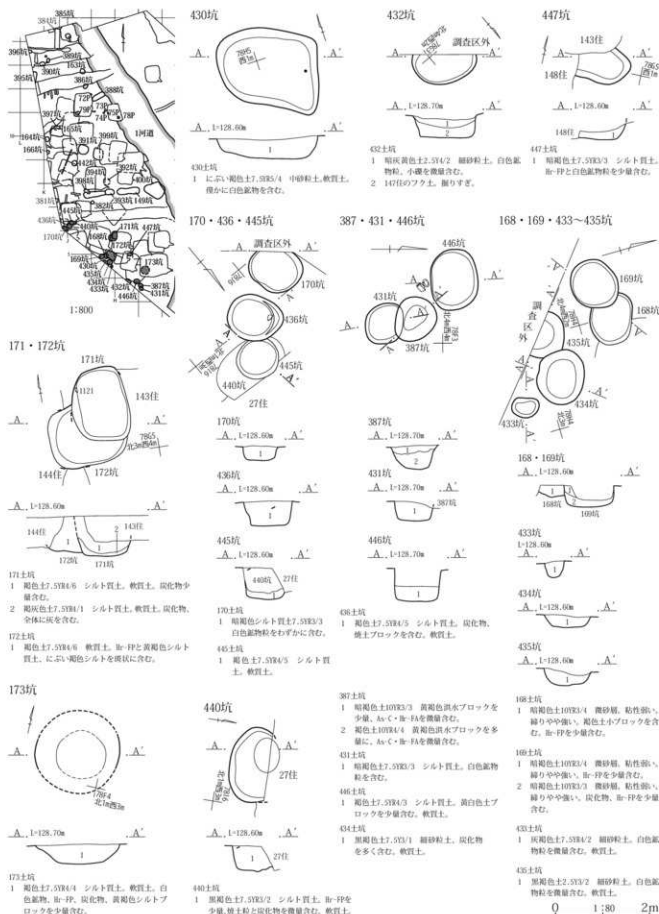
- 393坑
- 1 原褐色土10YR3/3 As-C, Br-FAを多量, 黄褐色洪水層を少量含む。
 - 2 褐色土10YR4/4 As-CとBr-FAを少量含む。
 - 3 褐色土10YR5/6 黄褐色洪水層を多量, As-C・Br-FAを少量含む。
 - 4 黄褐色土10YR6/6 洪水層主体, As-C, Br-FAを微量含む。

第260図 4区2面土坑・ピット1

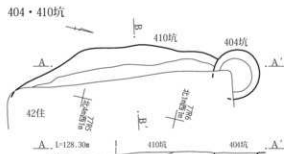
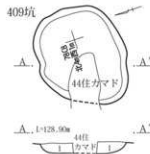
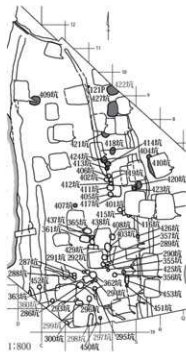


第261図 4区2面土坑2

第4章 検出された遺構と遺物



第262図 4区2面土坑3

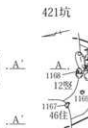
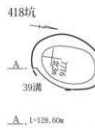


600土坑
1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。H-F輝石粒を少量、炭化物粒を微量含む。

400土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。H-F輝石粒とH-F炭泥粒を少量、炭化物を微量含む。
2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量、炭化物を微量。H-F炭泥土粒を少量含む。
3 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。H-F輝石粒を微量、炭化物粒と黒色の灰を含む。灰が層状に堆積。
4 濃い褐色土7.5YR5/3 シルト質土。H-F輝石粒と炭化物粒を微量含む。地山土とH-F炭泥土粒が混上。
5 濃い褐色土7.5YR6/4 シルト質土。炭化物粒を微量含む。地山土が主体。

604土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量、炭化物粒を微量。H-F炭泥土粒を含む。
2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒。H-F炭泥土粒を少量含む。

400土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒と炭化物粒を微量含む。地山土が主体。
2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量、炭化物粒を微量。H-F炭泥土粒を少量含む。
3 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。H-F輝石粒を微量、炭化物粒と黒色の灰を含む。灰が層状に堆積。
4 濃い褐色土7.5YR5/3 シルト質土。H-F輝石粒と炭化物粒を微量含む。地山土とH-F炭泥土粒が混上。
5 濃い褐色土7.5YR6/4 シルト質土。炭化物粒を微量含む。地山土が主体。

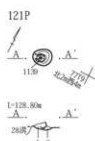


418土坑
1 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。H-F輝石粒。H-F炭泥土粒を少量、炭化物粒を微量に含む。
2 黒褐色土7.5YR2/2 粘性ややあり。細りややあり。H-F輝石粒を少量。炭化物粒。H-F炭泥土粒を微量に含む。

421土坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。H-F輝石粒と炭化物粒を微量含む。
2 暗褐色土7.5YR3/4 ややシルト。H-F輝石粒を微量。H-F炭泥土粒を含む。炭化物粒や黒色の灰を含む。

422土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量。炭化物粒を微量。H-F炭泥土粒を含む。
2 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量。炭化物粒を微量。H-F炭泥土粒を含む。

427土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒とH-F炭泥土粒を少量。炭化物粒を微量含む。
2 明黄褐色土10YR6/3 シルト質土。H-F炭泥土粒を多量含む。
3 褐色土7.5YR4/3 ややシルト。H-F炭泥土粒を少量含む。
4 濃い褐色土7.5YR5/3 ややシルト。H-F炭泥土粒を少量。H-F輝石粒を微量含む。



121P
1 暗褐色土7.5YR3/4 H-F輝石粒。As-Bを少量含む。
2 褐色土7.5YR4/4 As-Bを少量。H-F炭泥土粒を大山灰粒を微量含む。

607土坑
1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。H-F輝石粒と炭化物粒を少量含む。

420土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量含む。
2 暗褐色土7.5YR3/4 炭化物粒を少量。H-F輝石粒。H-F炭泥土粒を少量含む。
3 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒と炭化物粒を微量含む。H-F炭泥土粒を少量含む。

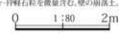
413・414・424土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。H-F輝石粒。H-F炭泥土粒や大山灰粒を少量含む。
2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。H-F炭泥土粒を多量に。H-F輝石粒を微量含む。壁の崩壊上。

417土坑
1 褐色土7.5YR4/3 H-F輝石粒と炭化物粒を微量。H-F炭泥土粒を含む。
2 濃い褐色土7.5YR5/3 1層に包む。H-F炭泥土粒を多く含む。

423土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 ややシルト。H-F輝石粒を少量含む。

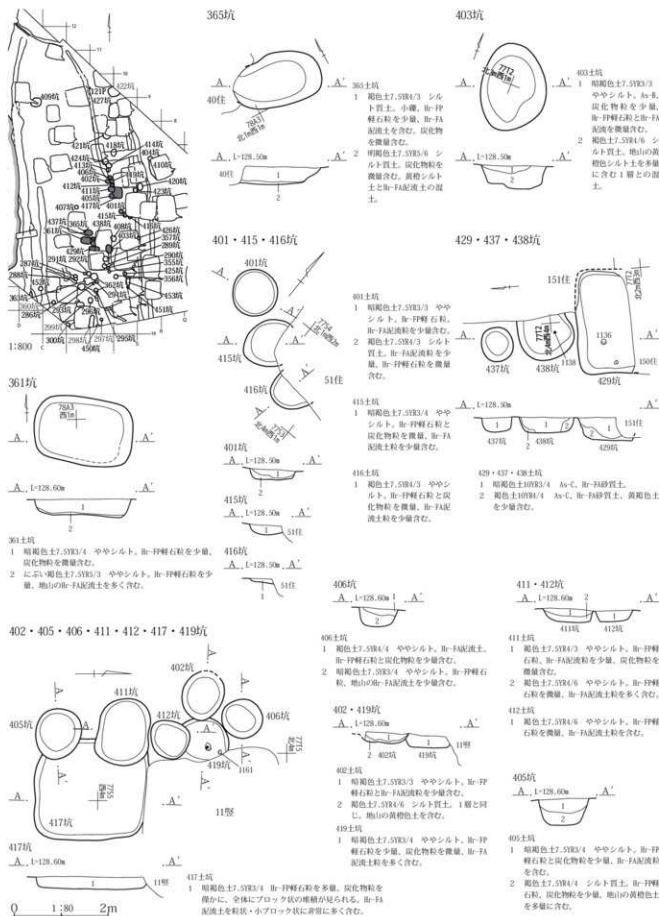
413土坑
1 暗褐色土7.5YR3/3 H-F輝石粒と炭化物粒。H-F炭泥土粒を少量含む。
2 暗褐色土7.5YR3/4 炭化物粒を少量。H-F輝石粒を微量含む。H-F炭泥土粒を少量含む。
3 暗褐色土7.5YR5/5 黄褐色シルト土とH-F炭泥土の混上。壁の崩壊上。

424土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 ややシルト。H-F輝石粒。H-F炭泥土粒や大山灰粒を少量含む。
2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。H-F炭泥土粒を多量に。H-F輝石粒を微量含む。壁の崩壊上。

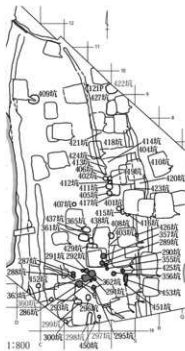


第263図 4区2面土坑4、ピット2

第4章 検出された遺構と遺物



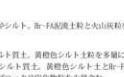
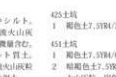
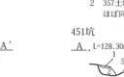
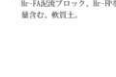
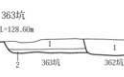
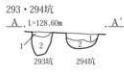
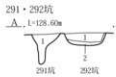
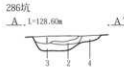
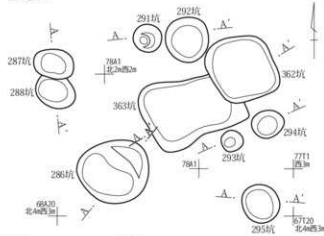
第264図 4区2面土坑5



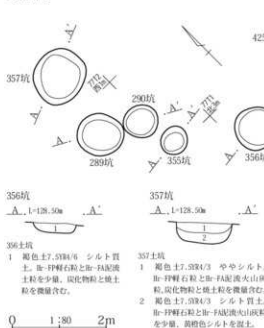
1:800

- 287土坑**
 1 にぶい褐色土7.5YR6/4 シルト質土。B-FAC配流層。黄褐色火山灰層を覆う堆積物にB-FPを少量含む。
 2 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土と細粒砂土の混土層。
- 288土坑**
 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色シルト。B-FPを少量含む。
 2 287土坑1層と同じ。
 3 暗褐色土7.5YR3/4 細粒砂土に白色炭粉。黄褐色土を含む軟質土。
 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。B-FAC配流火山灰を含む。
- 291土坑**
 1 295土坑1層と同じ。
- 292土坑**
 1 暗褐色土7.5YR3/2 シルト質土。B-FAC配流ブロックを少量。B-FPを含む。
 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。B-FPを少量含む。軟質土。

土坑群1

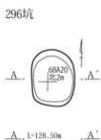
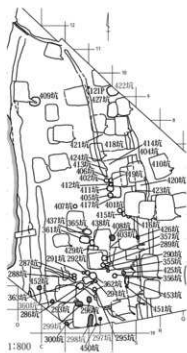


土坑群2

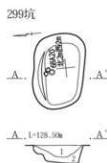


0 1:80 2m

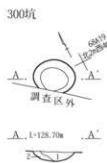
第265図 4区2面土坑6



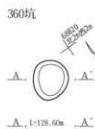
296土坑
1 褐色土7.5SR4/6 シルト質土。細りあり。Hr-FA泥流ブロックを多量に、黄褐色火山灰とHr-PPを少量含む。



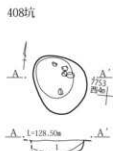
299土坑
1 灰褐色土7.5SR4/2 シルト質土。細りあり。Hr-PP、黄褐色Hr-FA泥流ブロック、炭化物を少量含む。
2 灰褐色土7.5SR3/4 シルト質土。黄褐色シルトブロックを含む。Hr-PPをわずかに含む。軟質土。



300土坑
1 褐色土7.5SR4/4 シルト質土。黄褐色シルトブロックを含む。軟質土。
2 褐色土7.5SR4/2 シルト質土。に赤い黄褐色シルト質土の地山を含んだ軟質土。



360土坑
1 褐色土7.5SR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石、Hr-FA泥流土を少量含む。



408土坑
1 褐色土7.5SR4/3 シルト質土。Hr-PP軽石を少量。炭化物粒とHr-FA泥流粒を微量含む。
2 褐色土7.5SR3/3 ややシルト。炭化物粒を少量。Hr-PP軽石とHr-FA泥流粒を微量含む。

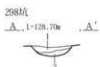
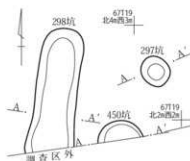


426土坑
1 褐色土7.5SR3/4 ややシルト。Hr-PP軽石粒、Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量含む。
2 褐色土7.5SR4/3 ややシルト。Hr-FA泥流土粒と火山灰粒を少量。Hr-PP軽石粒を微量含む。



452土坑
1 褐色土7.5SR3/4 シルト質土。黄褐色シルト土を多量に。Hr-FA泥流土粒を少量。Hr-PP軽石粒を微量含む。
2 褐色土7.5SR4/4 シルト質土。黄褐色シルト土を多量に。Hr-FA泥流土粒を少量。Hr-PP軽石粒を微量含む。

297・298・450坑



297土坑
1 黒褐色土7.5SR3/1 シルト質土。黄褐色ブロック土とHr-PPを少量含んだ締った土。
2 褐色土7.5SR3/4 シルト質土。Hr-FA泥流黄褐色ブロックとHr-PP軽石を少量含む。軟質土。

298土坑
1 黒褐色土7.5SR3/1 中砂粒土。As-Bを含む。
2 灰褐色土7.5SR4/2 シルト質土。Hr-PPを少量含む。軟質土。

450土坑
1 褐色土7.5SR3/4 ややシルト。Hr-PP軽石粒を少量。炭化物粒・Hr-FA泥流土粒・火山灰粒を微量含む。
2 褐色土7.5SR3/3 ややシルト。1層と同じ。Hr-FA泥流土粒や火山灰粒を少量含む。
3 黒褐色土7.5SR3/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒や炭化物粒を微量。地山のHr-FA泥流土粒を少量含む。

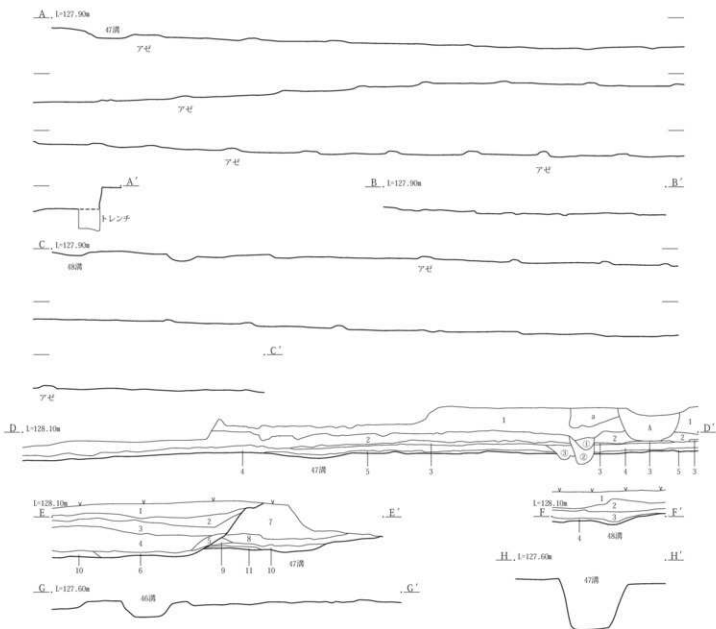
第266図 4区2面土坑7

第5節 4区の遺構と遺物



第267図 4区3面全体図

第4章 検出された遺構と遺物



水田 D

- 1 褐色土10YR4/6 微砂層。粘性弱い。締りやや強い。Hr-FPを微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土10YR4/3 細砂層。粘性弱い。締りやや弱い。
- 3 暗褐色土10YR3/3 シルト質層。粘性・締りやや弱い。
- 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 シルト質層。粘性・締りやや強い。灰黄褐色土が上層に乗る。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 粘質土層。粘性・締りやや強い。
- ① にぶい黄褐色土10YR4/3 微砂層。粘性・締りやや弱い。細砂を層状に含む。ピット埋土。
- ② 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性・締りやや弱い。細砂を層状に含む。ピット埋土。
- ③ にぶい黄褐色土10YR4/3 微砂層。粘性・締りやや弱い。暗褐色土ブロック中量含む。①②とは別遺構埋土。
- A 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性弱い。締りやや強い。黒褐色土中ブロックを中量。Hr-FPを少量含む。2面遺構埋土。
- a 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性弱い。締りやや強い。黒褐色土大ブロックを中量含む。2面遺構埋土。

水田 F

- 1 暗褐色土10YR3/4 微砂〜シルト質層。粘性・締りやや強い。Hr-FA配流、洪水層。
- 2 暗褐色土10YR3/3 微砂層。粘性弱い。締りやや強い。Hr-FA配流、洪水層。
- 3 暗褐色土10YR3/3 シルト質層。粘性弱い。締りやや強い。Hr-FA配流、洪水層。
- 4 にぶい黄褐色土10YR4/3 微砂層。粘性弱い。締りやや強い。Hr-FA配流、洪水層。

水田 E

- 1 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性弱い。締りやや強い。Hr-FPを中量含む。下層にHr-FP純層に近い層あり。
- 2 黒褐色土10YR2/3 シルト質層。粘性・締りやや強い。褐色土中ブロックを中量。Hr-FPを微量含む。
- 3 褐色土10YR4/4 微砂層。粘性・締りやや弱い。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 粘性・締り強い。Hr-FP、礫、粗砂、細砂を層状に含む。細砂はラミナ状に堆積。
- 5 にぶい黄褐色土10YR4/3 微砂層。粘性弱い。締りやや弱い。小礫を微量含む。
- 6 にぶい黄褐色土10YR4/3 細砂層。粘性・締り弱い。黒褐色土小ブロック少量含む。
- 7 褐色土10YR4/4 微砂層。粘性・締りやや強い。灰黄褐色土小ブロック中量含む。
- 8 にぶい黄褐色土10YR4/3 細砂層。粘性・締り弱い。
- 9 暗褐色土10YR3/3 微砂層。粘性やや弱い。締りやや強い。Hr-FPを多量に含む。
- 10 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・締り弱い。黒褐色土小ブロック少量含む。
- 11 灰黄褐色土10YR4/2 粘質土層。粘性やや強い。締りやや強い。

0 1:80 2m

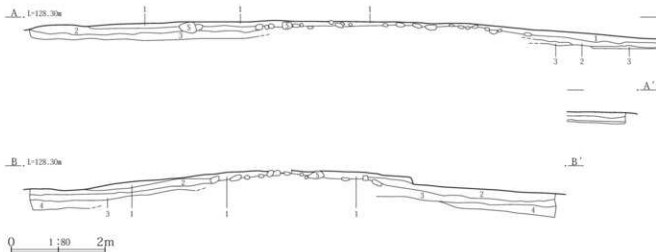
第268図 4区3面46〜48溝・水田1



第270図 4区3面1集石1

第4章 検出された遺構と遺物

1集石



1集石

- 1 黒褐色土10YR2/2 粘質土層。粘性・締り強い。As-C(Gr-Fa)多量含む。
- 2 黒褐色土10YR3/2 粘質土層。粘性・締り強い。As-C(Gr-Fa)多量含む。部分的に極多量含む。
- 3 黒褐色土10YR3/2 粘質土層。粘性強い。締りやや強い。小～大礫中量含む。
- 4 暗褐色土10YR3/3 シルト質土層。粘性・締りやや強い。小礫中量含む。

第271図 4区3面1集石2

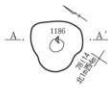
443坑



443土坑

- 1 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性・締りやや弱い。黒褐色As-C混土ブロック層状に含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 微砂層。粘性・締りやや弱い。黒褐色As-C混土小ブロック状に微量含む。

444坑



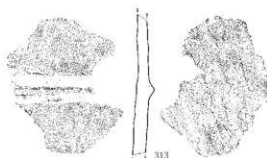
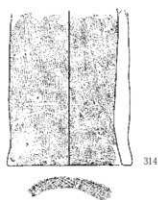
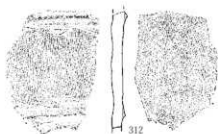
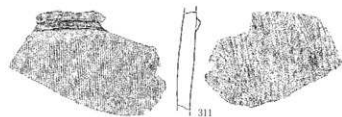
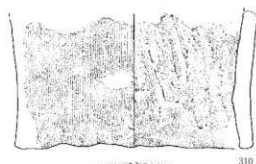
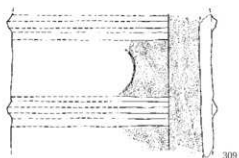
444土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 シルト質層。粘性・締りやや弱い。黒褐色As-C混土ブロック、褐色土小ブロック中量含む。

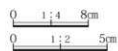
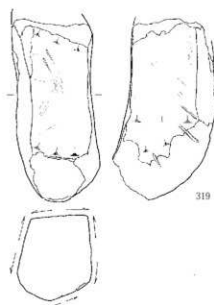
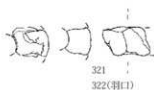
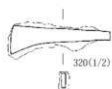
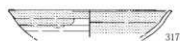
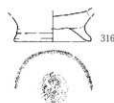


第272図 4区3面443・444土坑

21住居



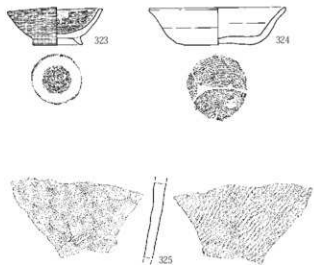
26住居



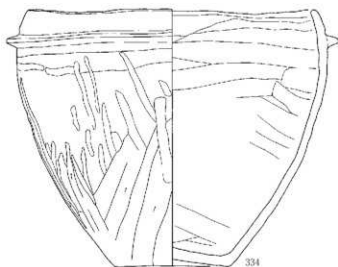
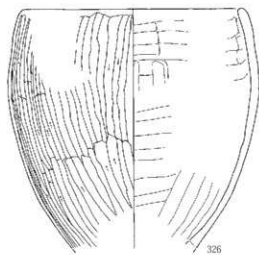
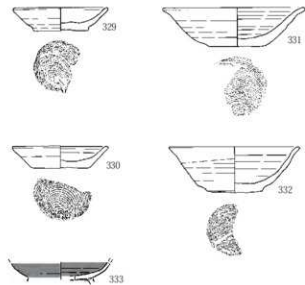
第273図 4区2面21・26住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

27住居



28住居



327
328(割口)

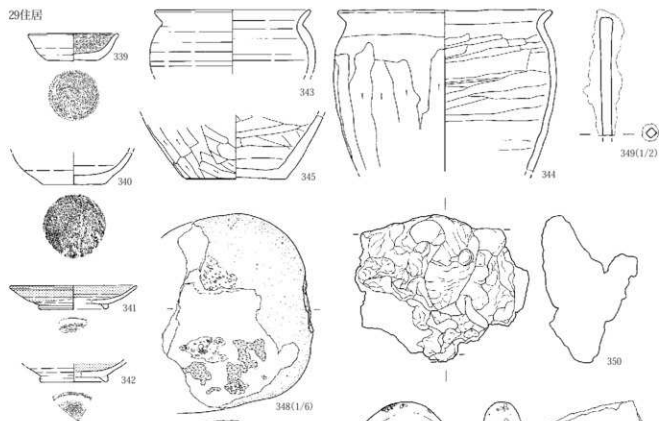


337(1/2)
338(割口)



第274図 4区2面27・28住居出土遺物

29住居



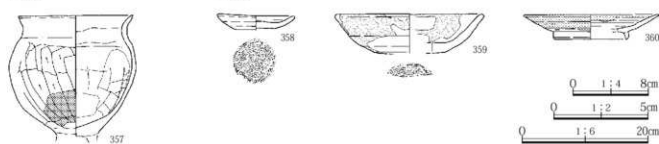
30住居



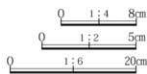
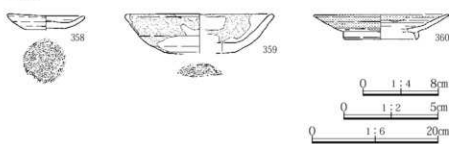
32住居



33住居



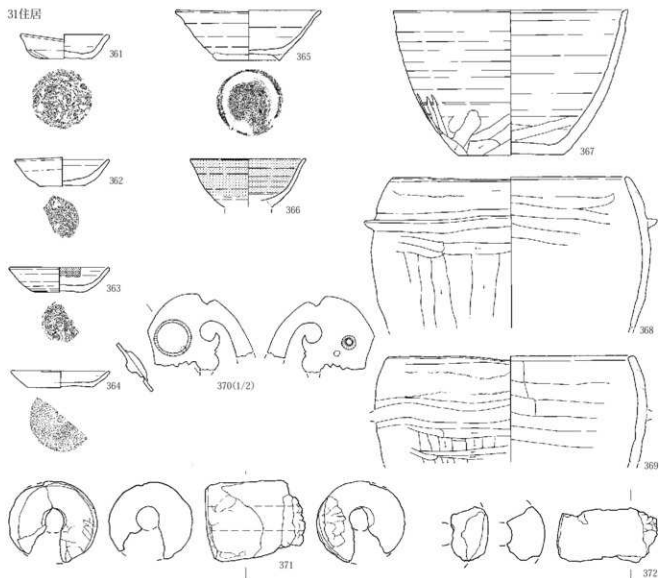
34住居



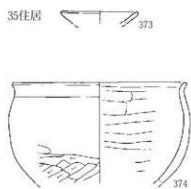
第275図 4区2面29・30・32～34住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

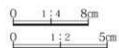
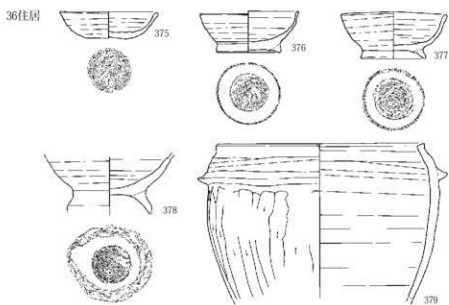
31住居



35住居

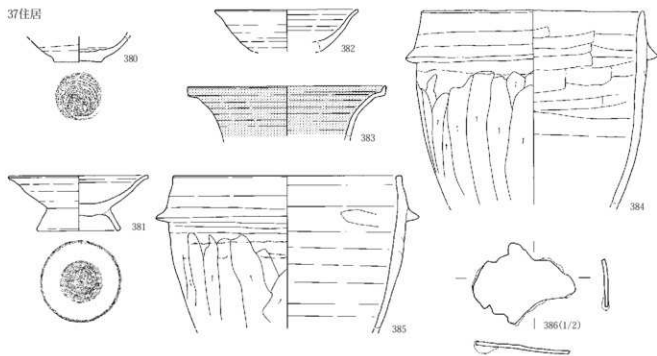


36住居

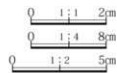
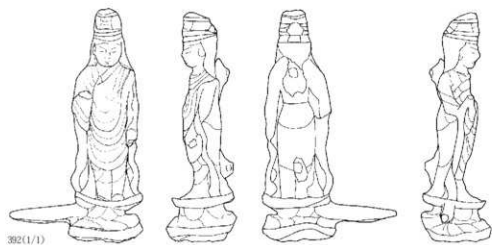
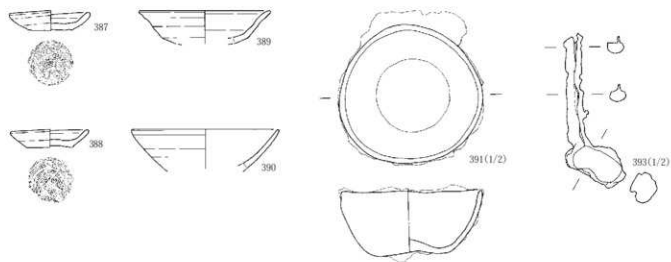


第276図 4区2面31・35・36住居出土遺物

37住居



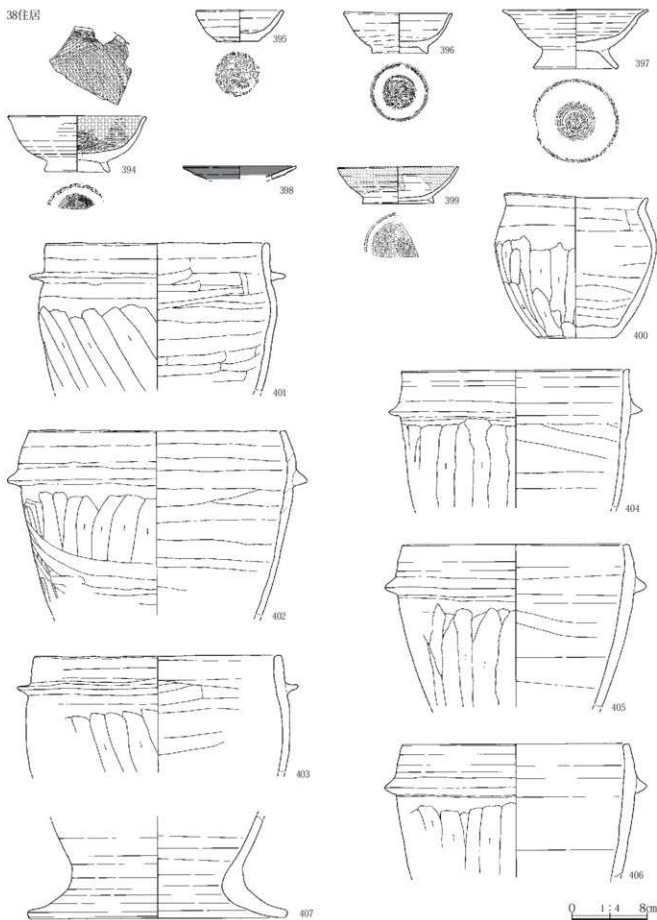
40住居



第277図 4区2面37・40住居出土遺物

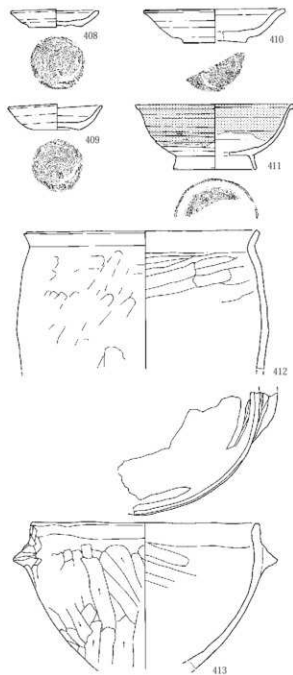
第4章 検出された遺構と遺物

38住居

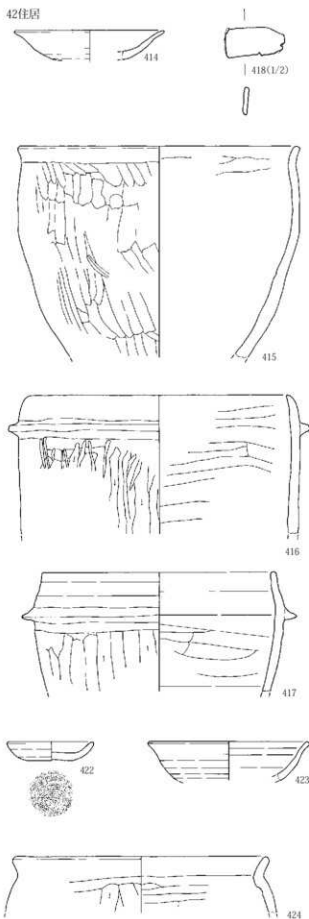


第278図 4区2面38住居出土遺物

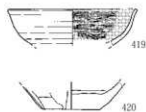
41住居



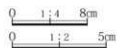
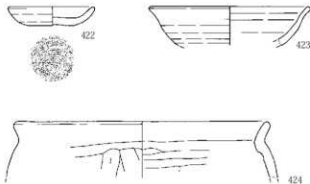
42住居



43住居



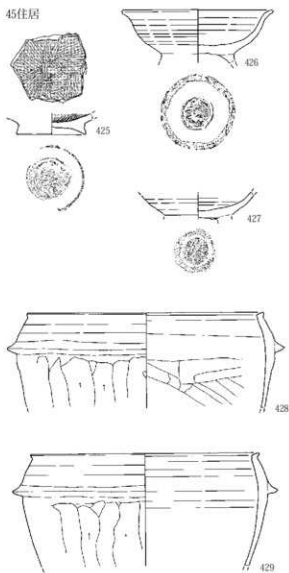
44住居



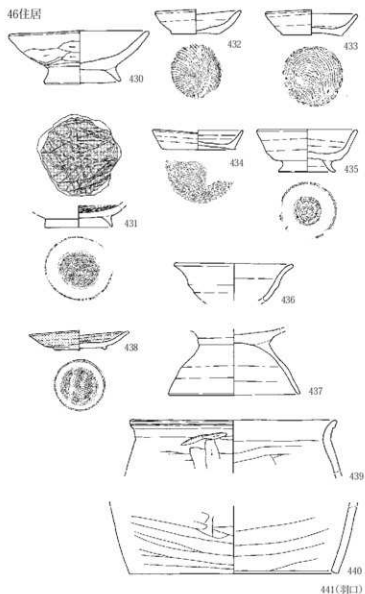
第279図 4区2面41～44住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

45住居

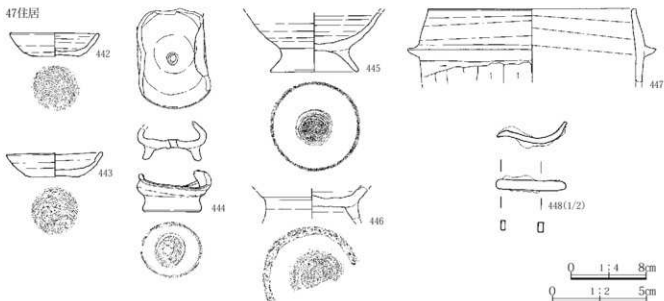


46住居

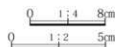


441(朝口)

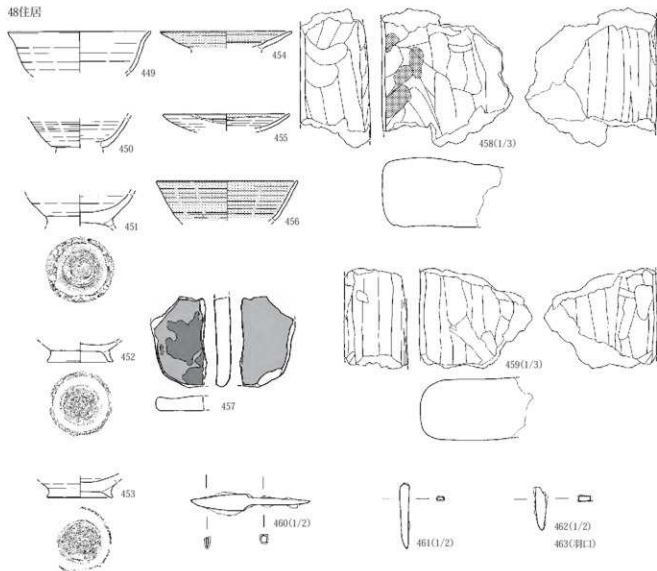
47住居



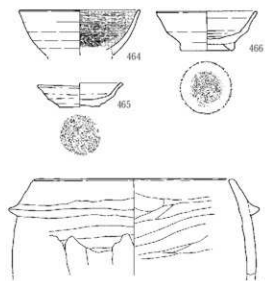
第280図 4区2面45～47住居出土遺物



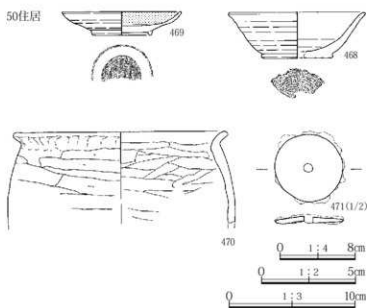
48住居



49住居



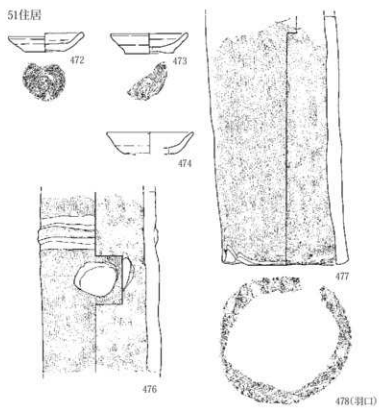
50住居



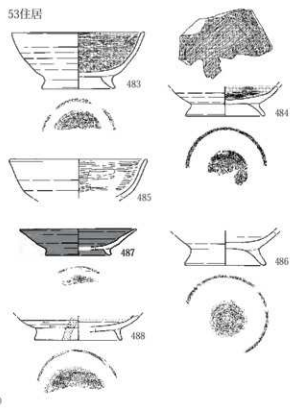
第281図 4区2面48～50住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

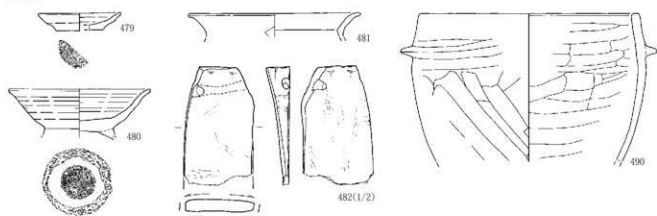
51住居



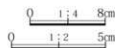
53住居



52住居

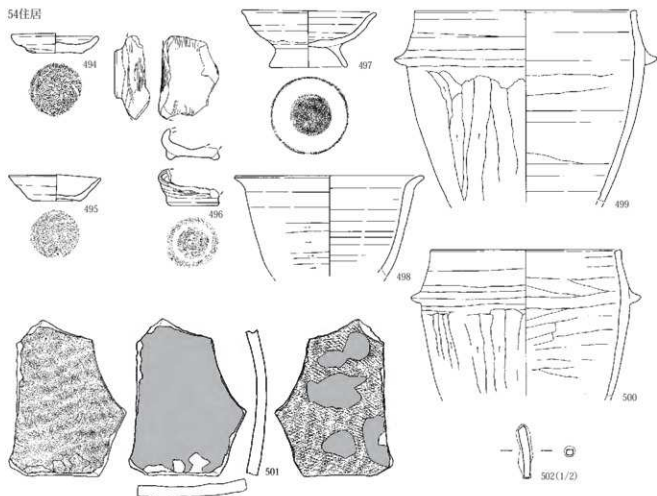


56住居

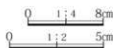
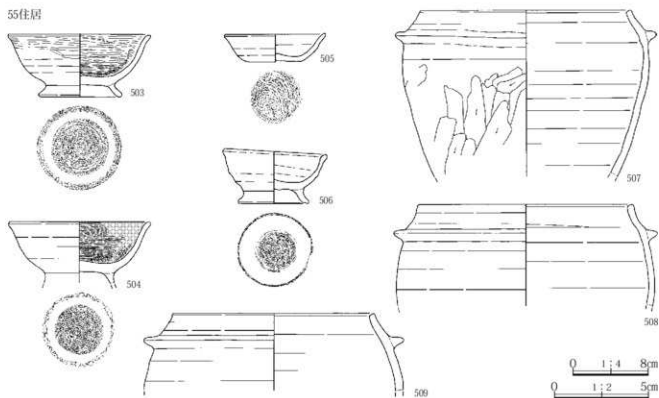


第282図 4区2面51～53・56住居出土遺物

54住居



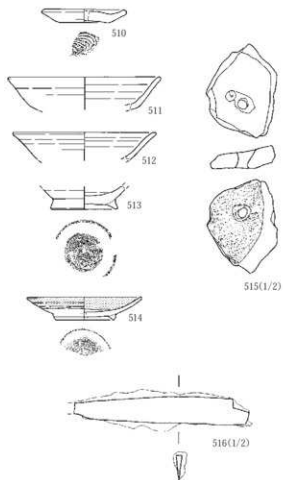
55住居



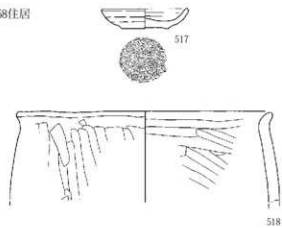
第283図 4区2面54・55住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

57住居



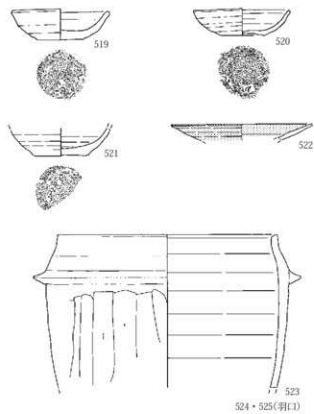
58住居



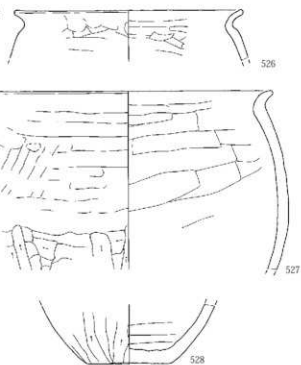
69住居



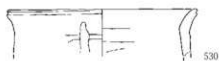
59住居



68住居

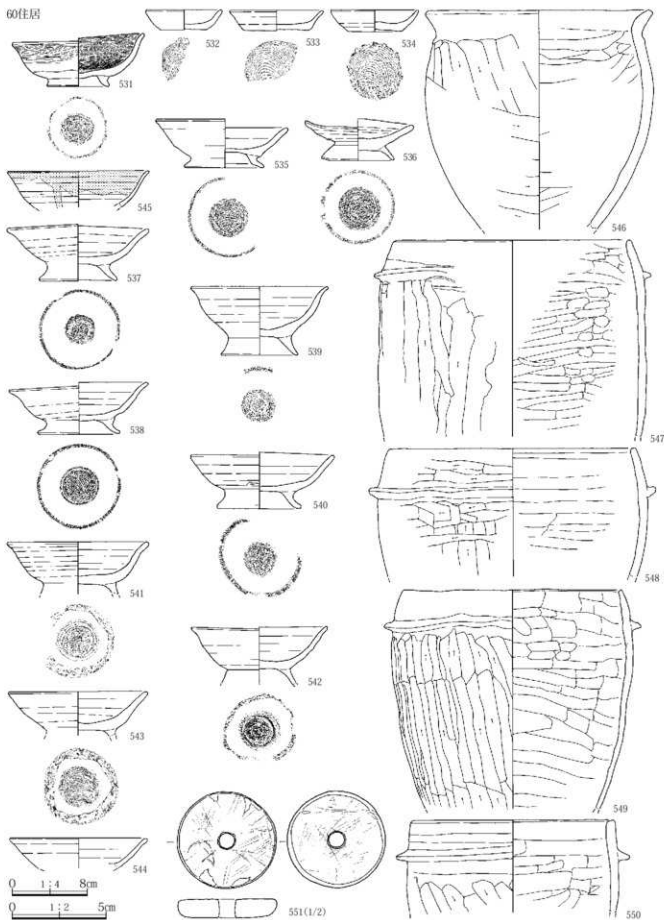


70住居



第284図 4区2面57～59・68～70住居出土遺物

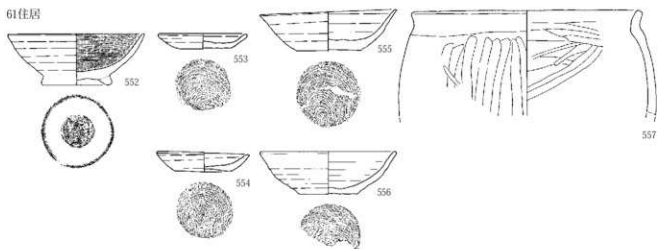
60住居



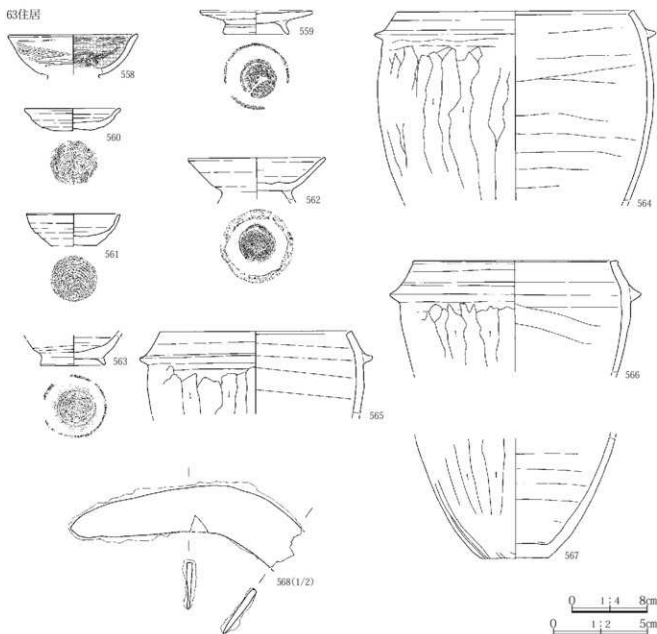
第285図 4区2面60住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

61住居

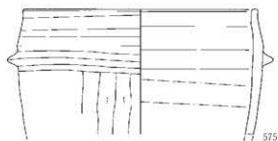
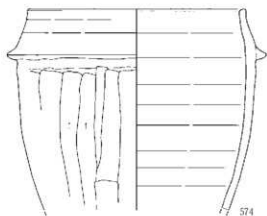
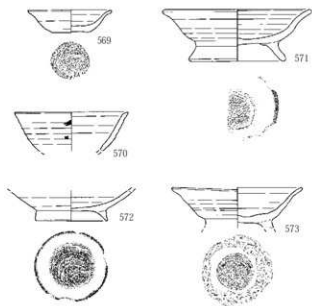


63住居

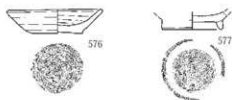


第286図 4区2面61・63住居出土遺物

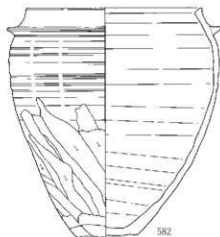
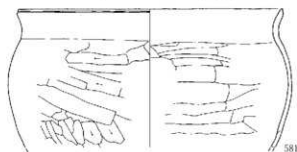
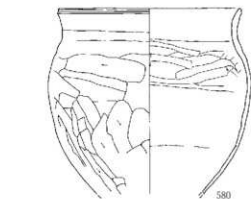
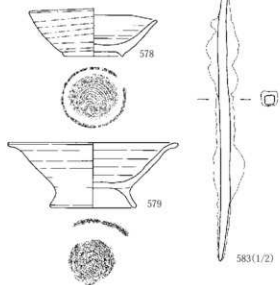
62住居



64住居



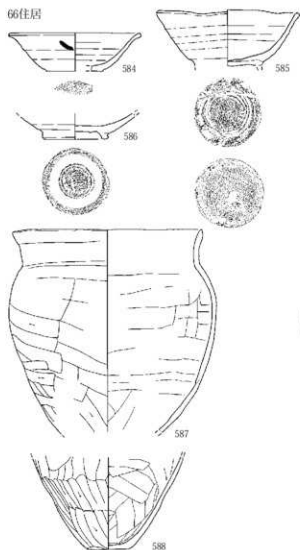
65住居



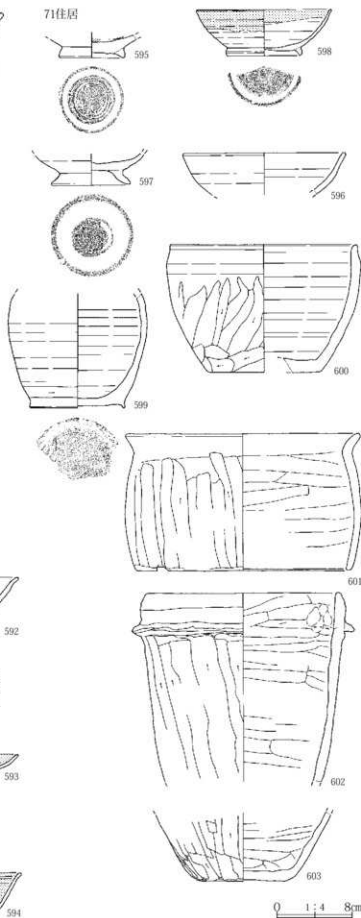
第287図 4区2面62・64・65住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

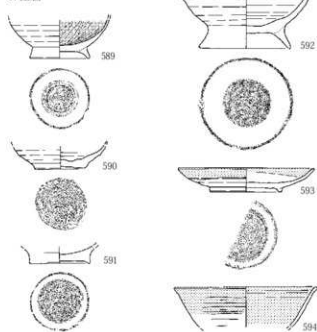
66住居



71住居



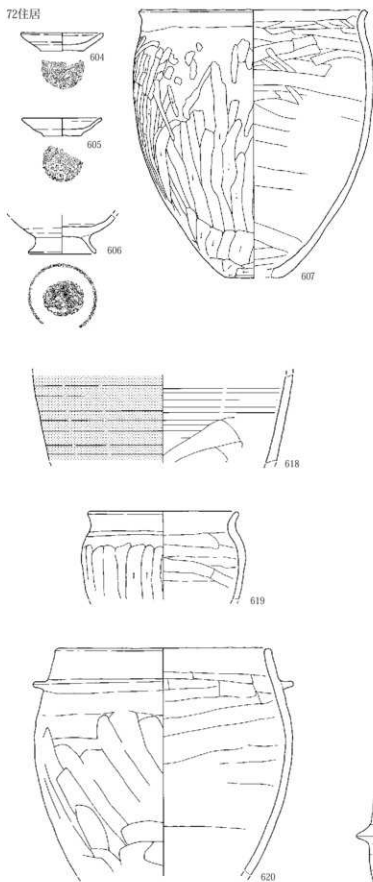
67住居



第288図 4区2面66・67・71住居出土遺物

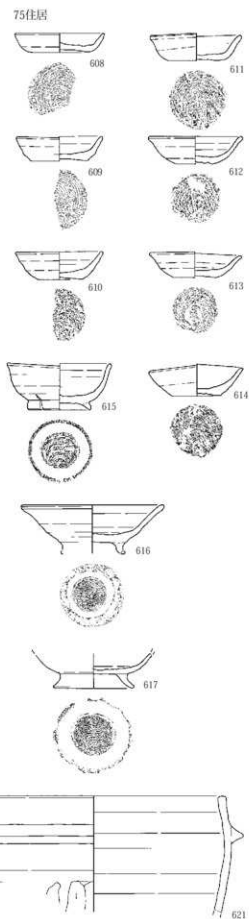
0 1:4 8cm

72住居



0 1:4 8cm

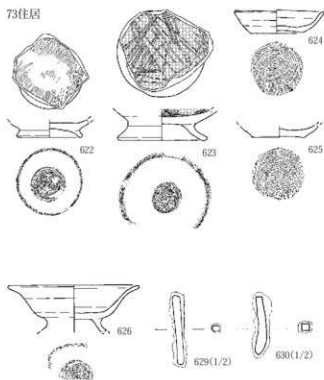
75住居



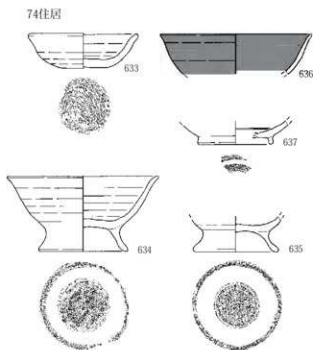
第289図 4区2面72・75住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

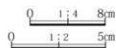
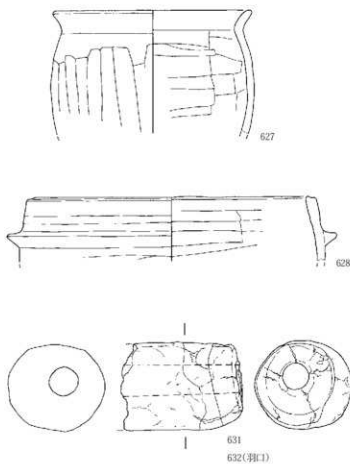
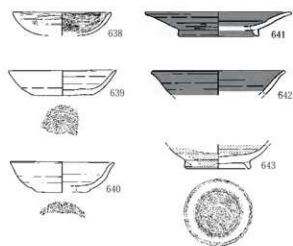
73住居



74住居

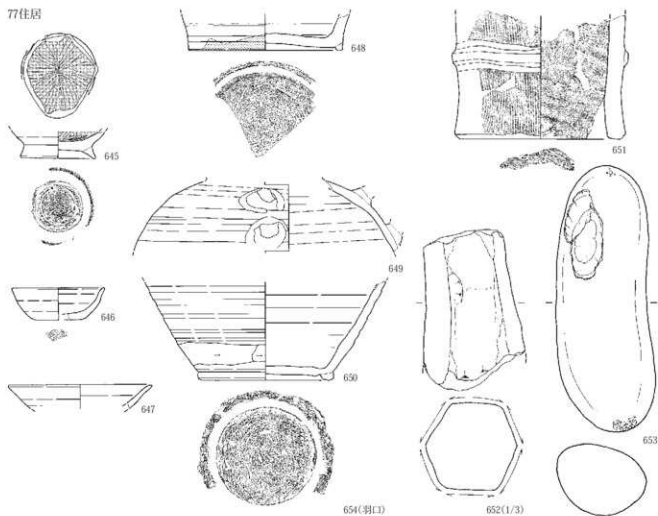


76住居

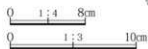
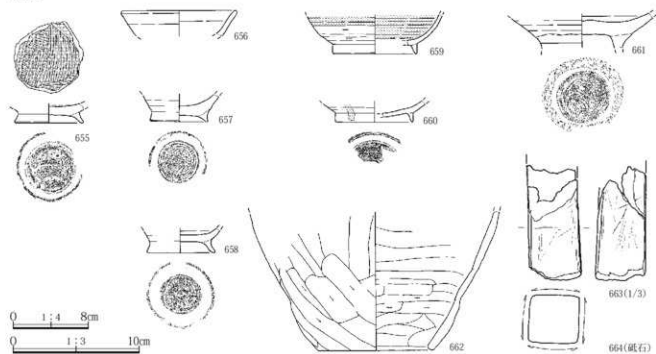


第290図 4区2面73・74・76住居出土遺物

77住居



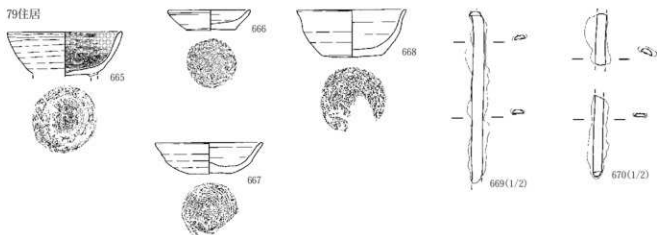
78住居



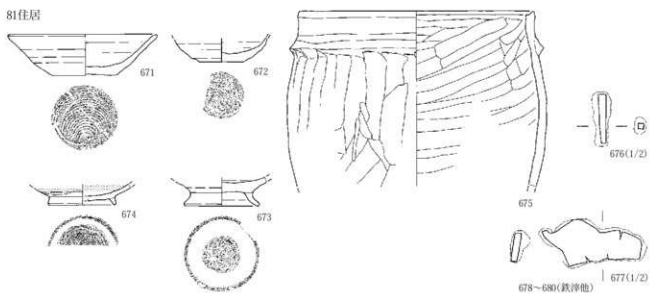
第291圖 4区2面77・78住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

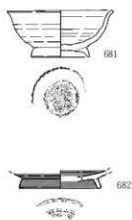
79住居



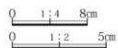
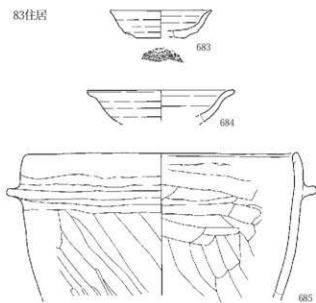
81住居



82住居

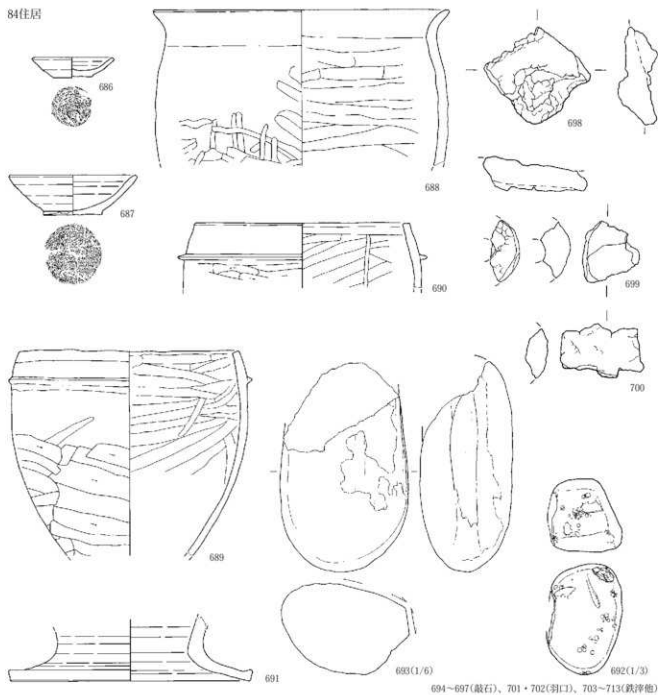


83住居



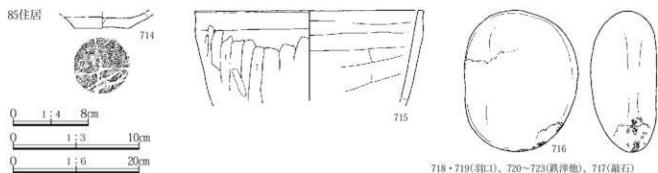
第292図 4区2面79・81～83住居出土遺物

84住居

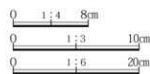


694~697(敲石)、701・702(割石)、703~713(鉄押他)

85住居



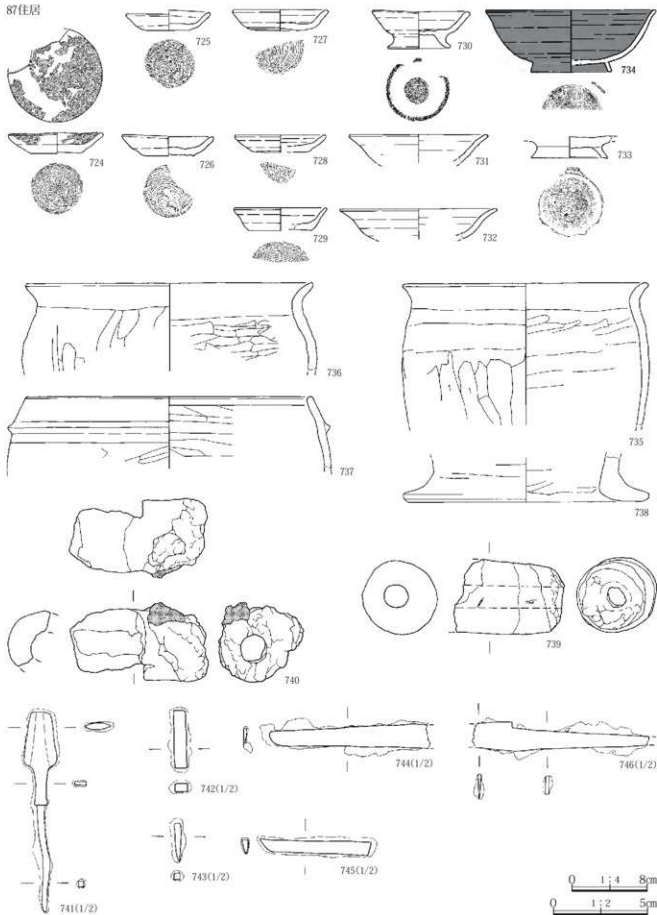
716・719(割石)、720~723(鉄押他)、717(敲石)



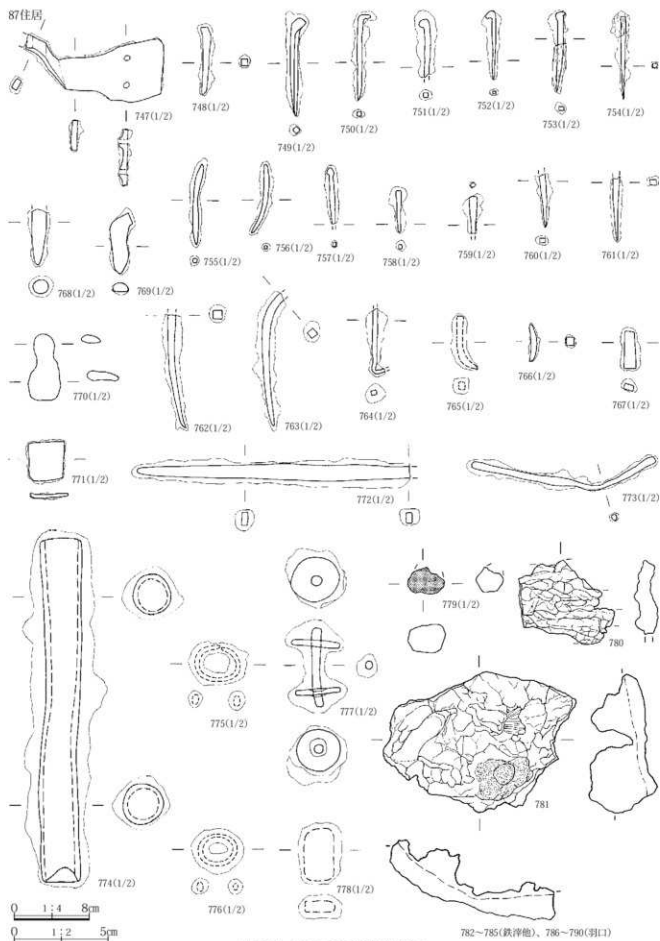
第293図 4区2面84・85住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

87住居



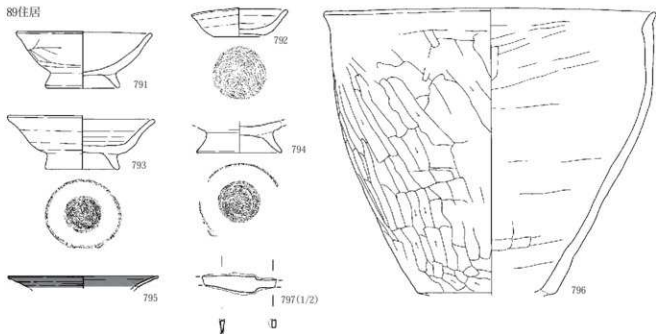
第294図 4区2面87住居出土遺物1



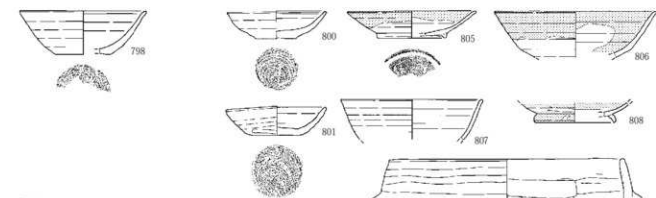
第295図 4区2面87住居出土遺物2

第4章 検出された遺構と遺物

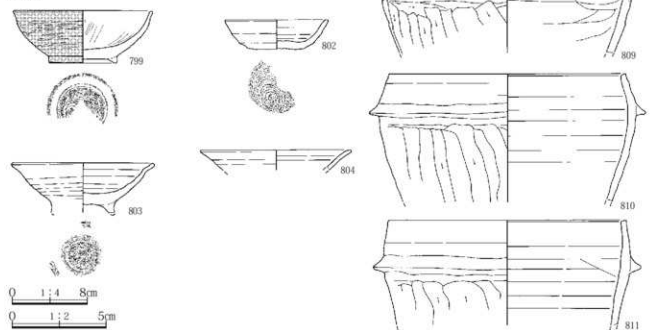
89住居



90住居

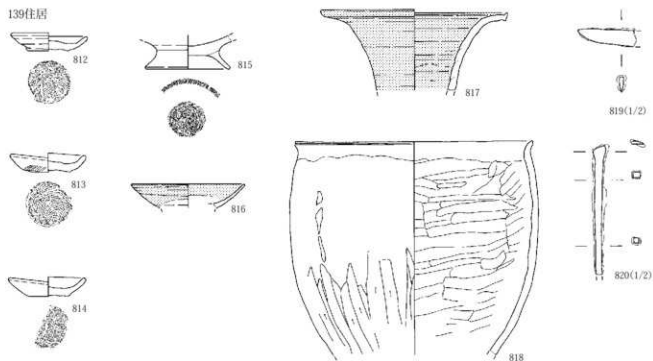


91住居

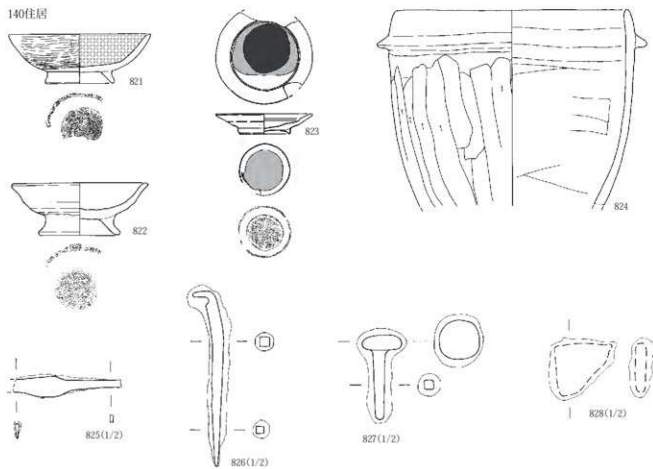


第296図 4区2面89～91住居出土遺物

139住居



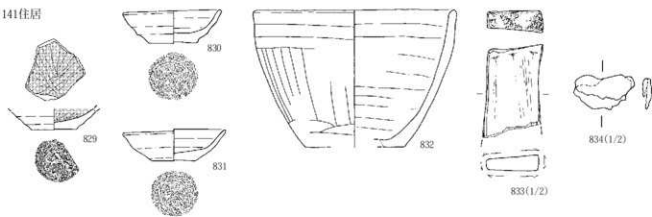
140住居



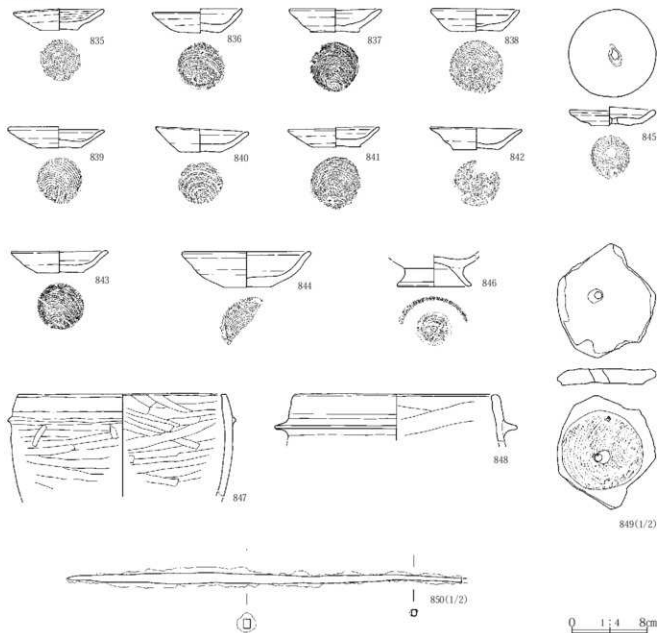
第297図 4区2面139・140住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

141住居

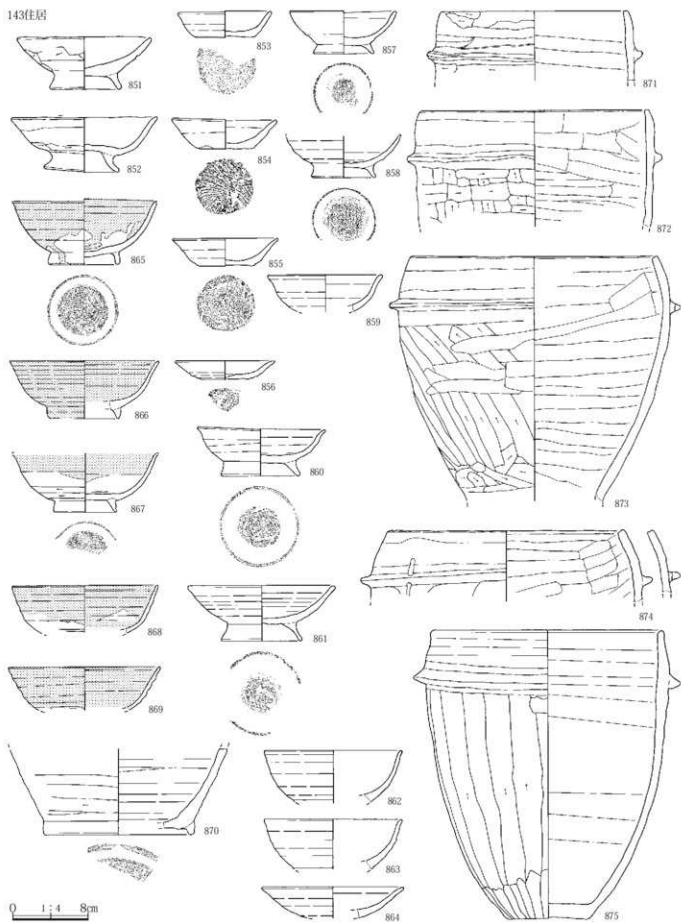


142住居



第298図 4区2面141・142住居出土遺物

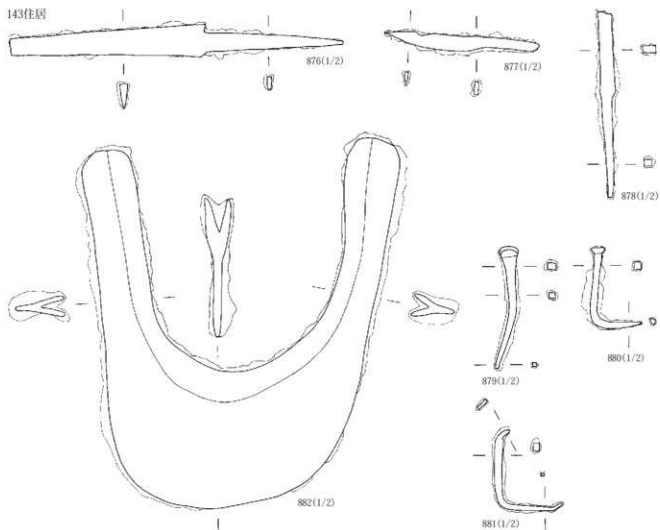
143住居



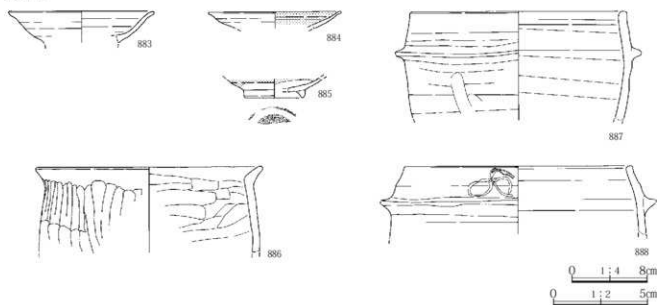
第299図 4区2面143住居出土遺物1

第4章 検出された遺構と遺物

143住居

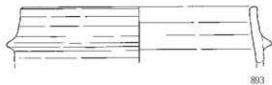
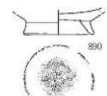


144住居

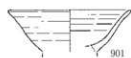


第300図 4区2面143住居出土遺物2、144住居出土遺物

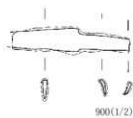
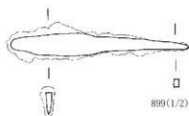
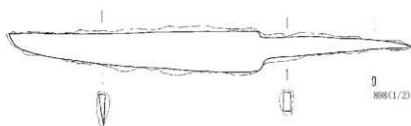
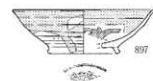
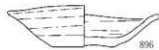
145住居



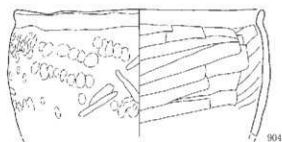
148住居



146住居



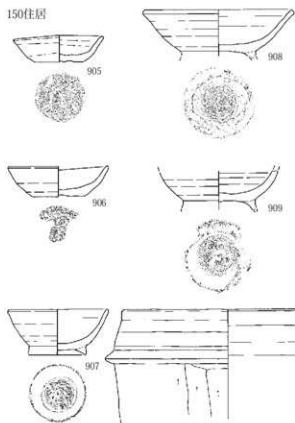
149住居



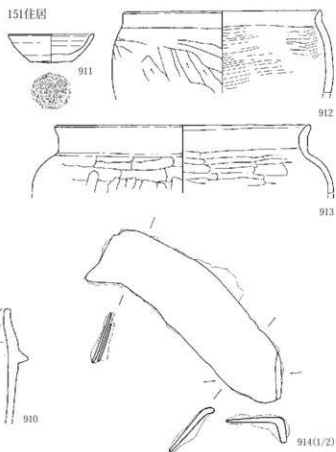
第301図 4区2面145・146・148・149住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

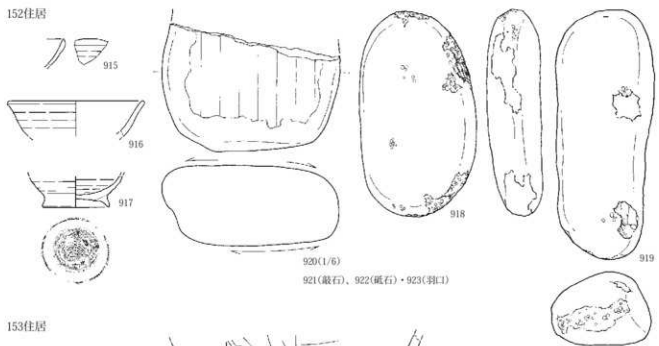
150住居



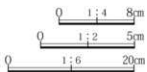
151住居



152住居

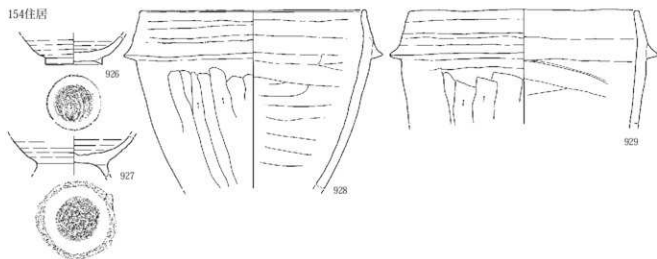


153住居

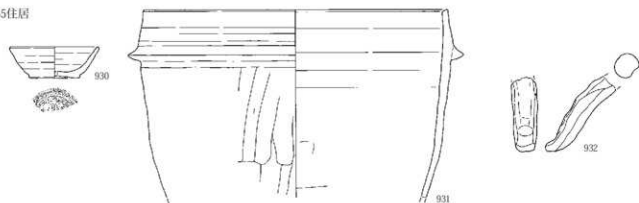


第302図 4区2面150～153住居出土遺物

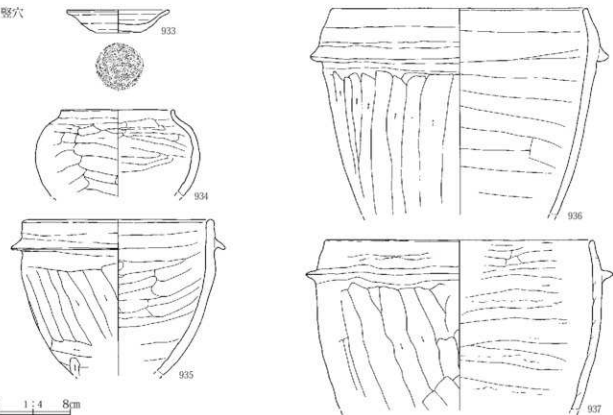
154住居



155住居



7竪穴

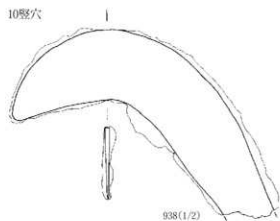


0 1:4 8cm

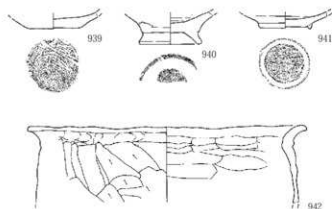
第303図 4区2面154・155住居、7竪穴出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

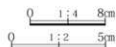
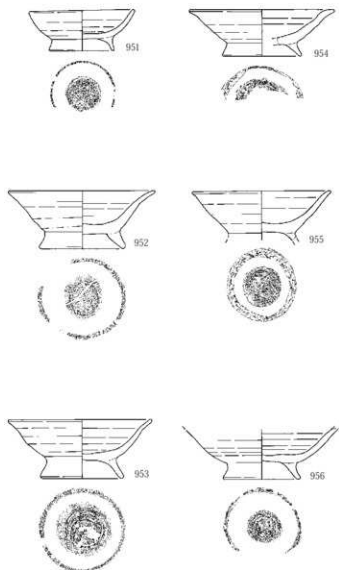
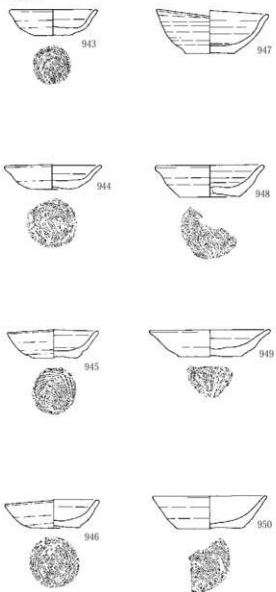
10竪穴



11竪穴

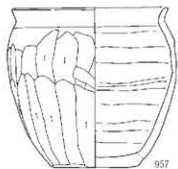


12竪穴



第304図 4区2面10・11竪穴出土遺物、12竪穴出土遺物1

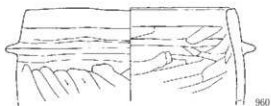
12竪穴



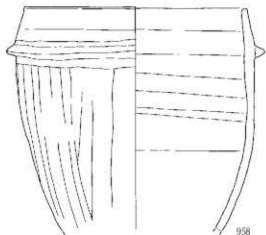
957



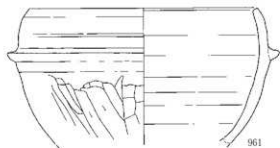
959



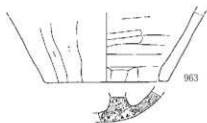
960



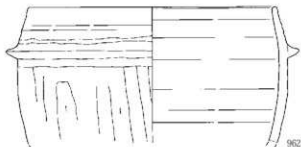
958



961



963



962

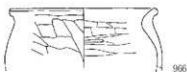
13竪穴



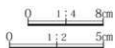
964



965



966



第305図 4区2面12竪穴出土遺物2、13竪穴出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

14溝

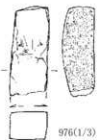


968(1/1)

21溝



975



976(1/3)



977(1/1)

16溝



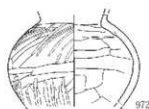
969



970



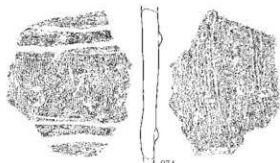
973



972



971

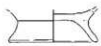


974

23溝



978



979



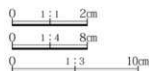
26溝



980



981



第306図 4区1面14・21溝、2面16・23・26溝出土遺物

27溝



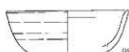
983



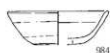
985



987



988



984



986



989



990



991



29溝



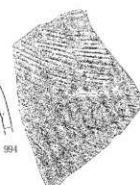
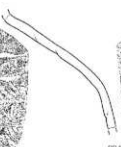
992



39溝



993



994

42溝



995(1/2)



45溝



997(1/2)



997(1/2)



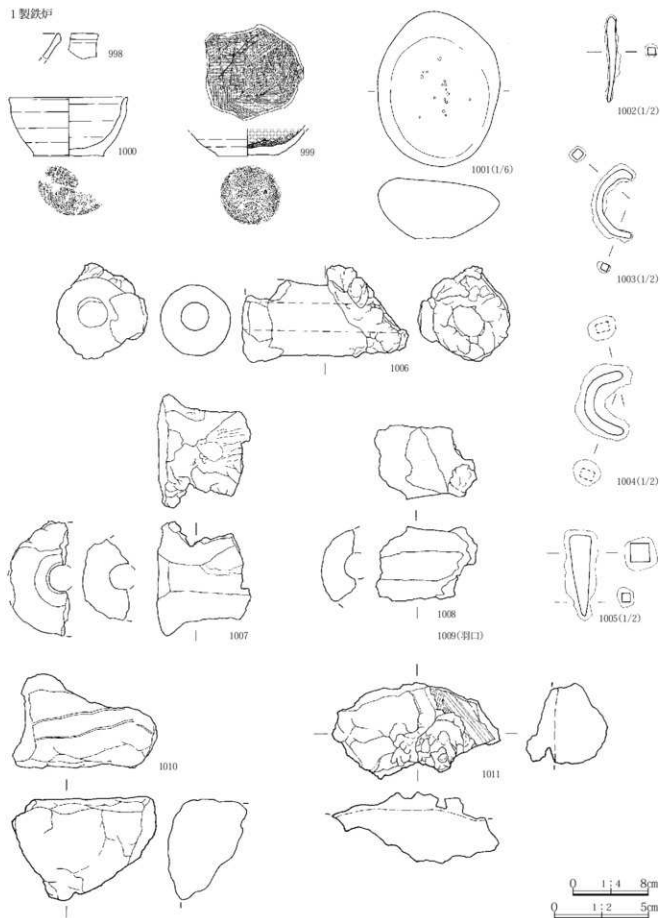
996



第307図 4区2面27・29・39・42・45溝出土遺物

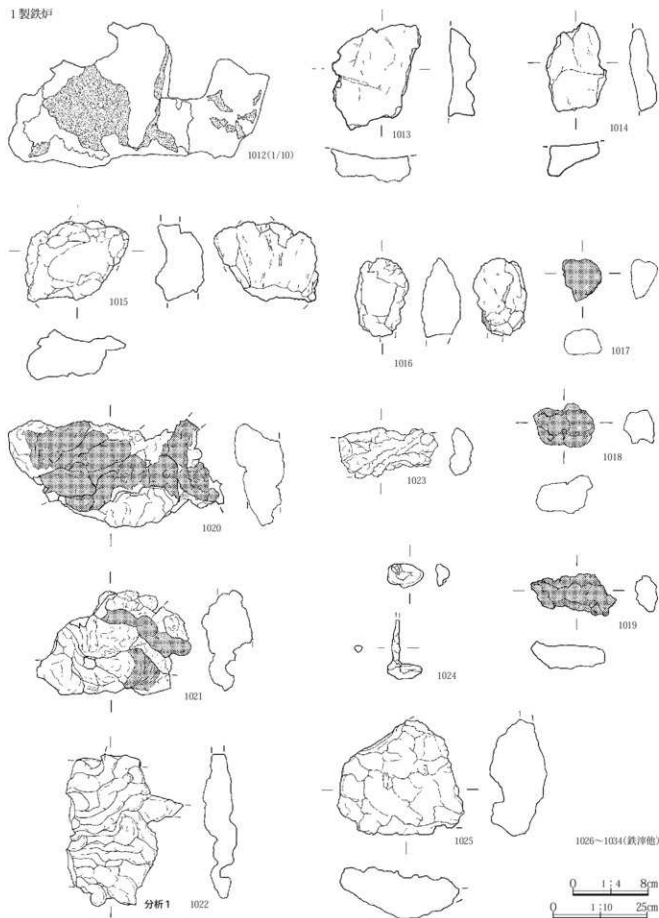
第4章 検出された遺構と遺物

1 製鉄炉



第308図 4区2面1製鉄炉出土遺物1

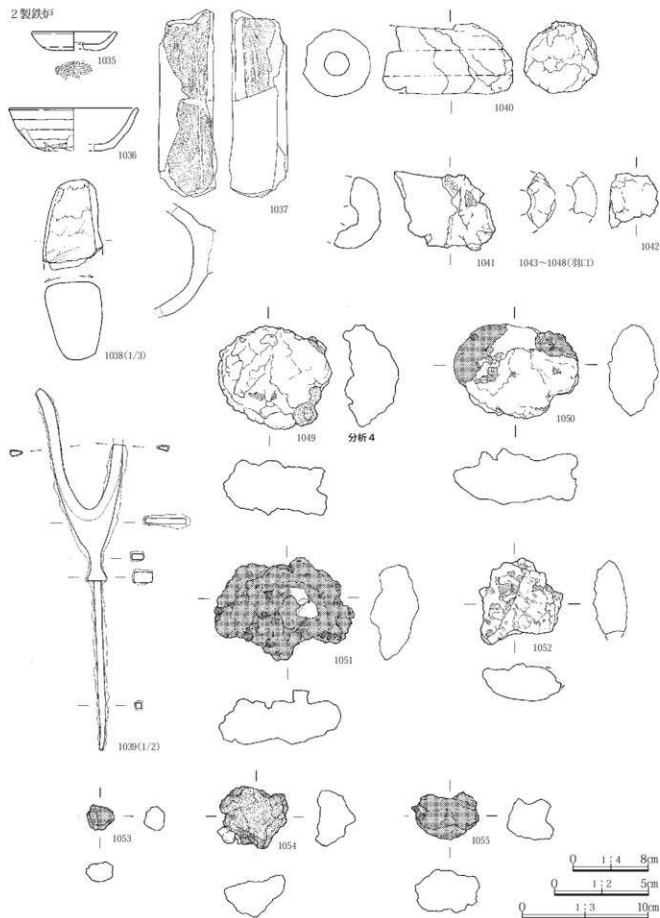
1製鉄炉



第309図 4区2面1製鉄炉出土遺物2

第4章 検出された遺構と遺物

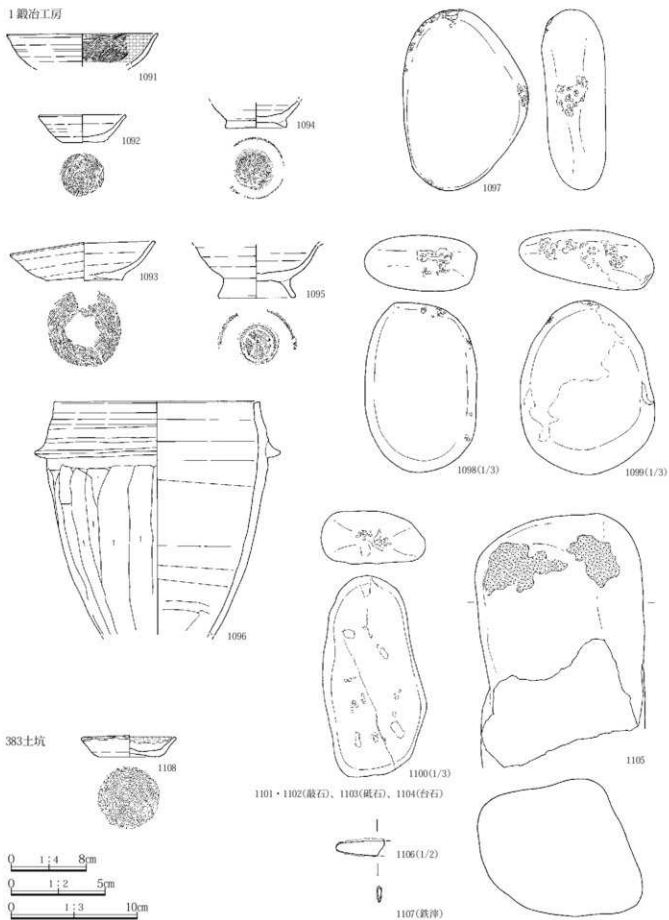
2製鉄炉



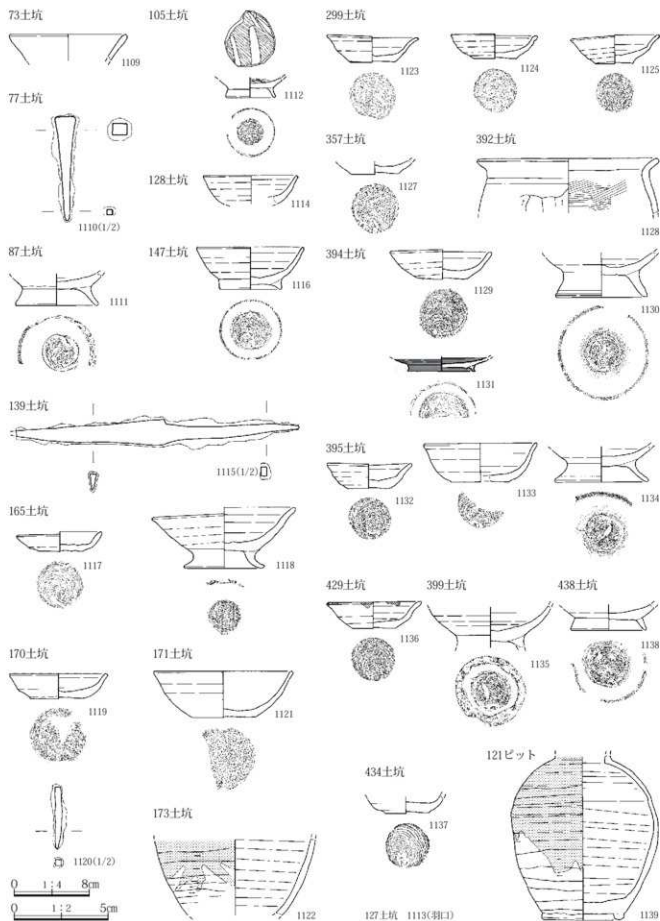
第310図 4区2面2製鉄炉出土遺物1

第4章 検出された遺構と遺物

1 鍛冶工房



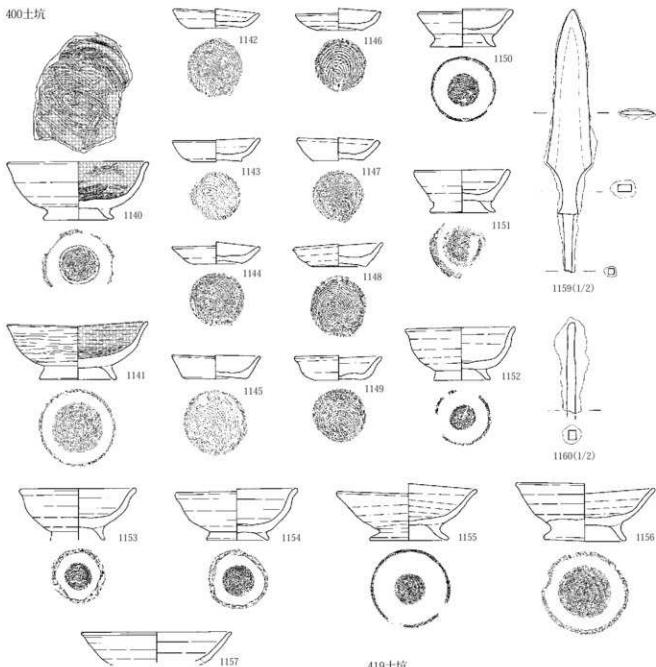
第312図 4区2面1 鍛冶工房出土遺物、鍛冶関連遺構(383土坑)出土遺物



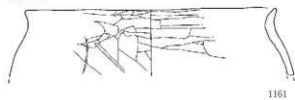
第313図 4区1・2面土坑・ピット出土遺物1

第4章 検出された遺構と遺物

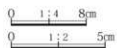
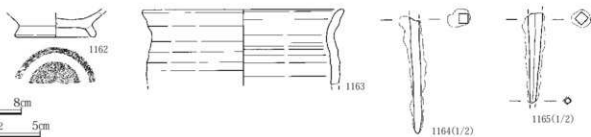
400土坑



419土坑

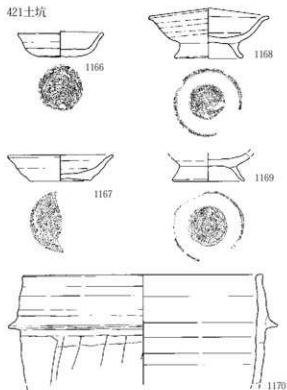


422土坑

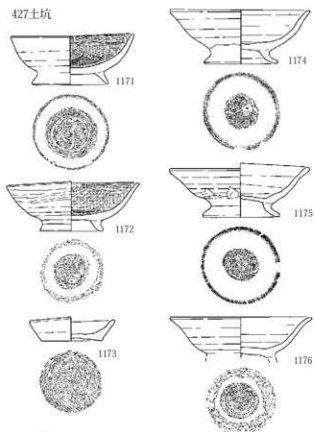


第314図 4区2面土坑出土遺物2

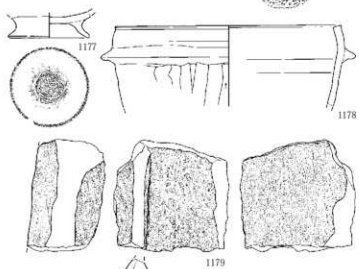
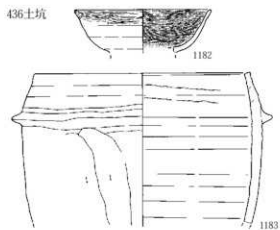
421土坑



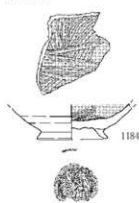
427土坑



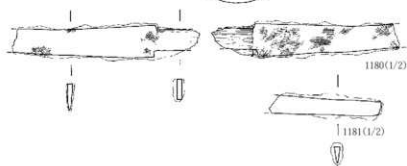
436土坑



445土坑



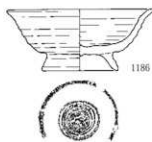
451土坑



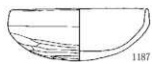
第315図 4区2面土坑出土遺物3

第4章 検出された遺構と遺物

444土坑

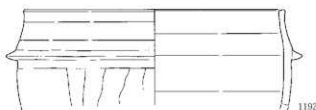
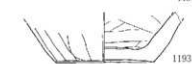
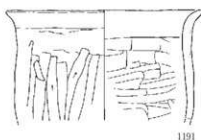
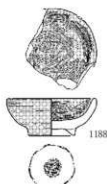


1水田

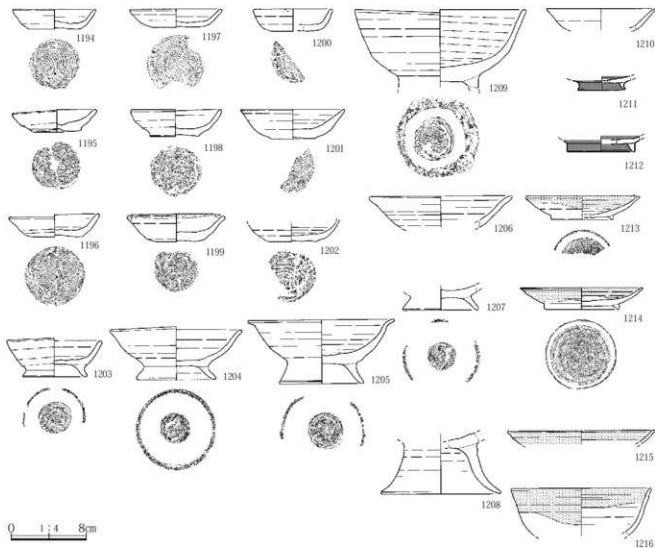


0 1:4 8cm

1河道

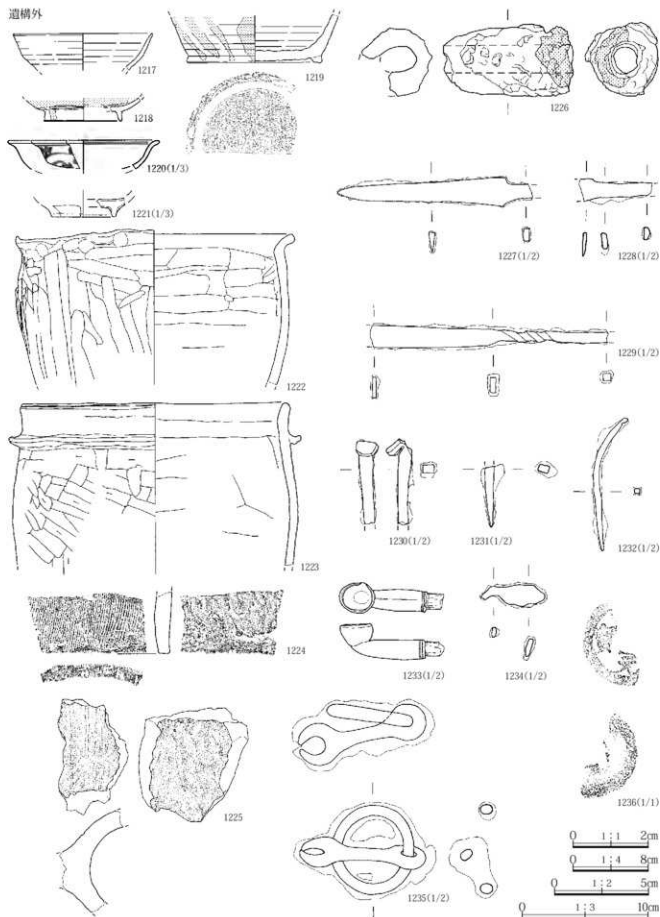


遺構外



第316図 4区3面444土坑・1河道・水田、遺構外出土遺物1

道構外



第317図 4区道構外出土遺物2

第6節 5区の遺構と遺物

1 5区の概要

(第318・329・398図、PL.109・112～114・146・149～153)

5区ではAs-B軽石混土層の下位で第1面、Hr-FA泥流層の上面で第2面、Hr-FA泥流層の下位で第3面を検出した。第1面は平安時代から近代までの遺構、第2面は主として平安時代の遺構、第3面は古墳時代の水田・溝等を検出した。

1面

1面では溝3条、畠4箇所、土坑16基、ピット2基のほか、耕具痕、河道を検出した。

調査対象区域の東半部は3河道であり、不整形の窪みに砂礫が堆積し、河川堆積層であった。西半部は小高い区域となっており、ここに溝や高、土坑等が認められた。

31溝と32溝は方位や幅に共通性が認められることから、同時代の所産と考えられる。8畠は概ね東西方向の畝間のサクが検出され、9畠はほぼこれに直交する方向である。10畠のサクは8畠の方位に近い。11畠のサクは曲っており、地形に従ったように見える。耕具痕は集中して検出された区域が4箇所認められた。土坑・ピットは遺構の検出された範囲の東半部に分布し、西半部にはなかった。

2面

2面では住居40軒、竪穴1基、溝3条、畠5箇所、土坑120基、ピット18基を検出した。

住居は調査区域中央部に集中しており、重複が著しいが、北西部ではややまばらになる。東端部の95住居や、中央部北寄りの110・115住居のように、3河道によって削られて半分が遺存していた状態の住居の存在を勘案すると、5区東半部にも住居が存在していたと推定する。中央部で複雑に重複していると考えられた92・96・120・121住居は、記録を精査したところ、92住居カマドが121住居のカマドの一部と考えられ、さらに96住居カマドとした掘り込みが121住居貯蔵穴とすると、全体に整合性のあることが判明した。

溝は北側の4区から続く溝を36溝a、南端の溝を36溝bとした。36溝bの内部には耕具痕が認められ、1面に下る可能性がある。

竪穴は8竪穴1基のみで、底面に大小の礫が認められ、礫の間隙から土器片が出土した。

13～17畠はそれぞれ1本の溝状を呈し、複数が平行して並ぶ状態ではなかった。1面の畠の調査漏れの場合も考えられたが、確認面の水準では第2面に相当する。

土坑・ピットはほぼ全面に分布するが、やはり中央部に集中しているように見える。中央部やや東寄りで見出した313土坑は、底部に灰層があり、礫や土器を出土した特異な土坑である。

3面

3面の西半部では溝4条のほか、谷地1、不明落ち込み1、水田の一部を検出し、東半部では広く水田を検出した。

46溝では、両岸に幅40～60・高さ10cmほどの高まりがあり、水田に沿っていることから、水田と同時期に利用された水路と考えられる。47溝西岸の高まりは46溝の場合と同様に、南西部の水田に沿っていることから、これも水田と同時期に利用された水路と考えられる。

2本の溝に挟まれた浅い谷地形の南西部谷地は、南東部で東側に突出した張り出し部をもち、張り出し部底面が特別深くなっていることから、46・47溝の流水を落とした可能性がある。ただし、張り出し部は水田アゼの一部を切った状態で検出されており、この張り出し部は崩落した可能性もある。

北部落ち込みとした掘り込みは、南西部谷地北端の東岸を切り込んでおり、南西部谷地と同じ時期に存在したとみられるが、用途・機能は不明である。

3面で検出した遺構は、同時期に存在した可能性が高く、複数回のHr-FA泥流によって埋没したと考えられる。すなわち、3面の水田はHr-FAの噴出・降下以前の状態を示していると考えられる。

2 1面の遺構と遺物

溝

1面で検出したのは31・32・33溝である。土坑や畝と重複していたが、溝の方が新しい。

31溝(第319図、PL.109)

検出位置 67区J11～K18グリッドで検出した。5区の東寄りを概ね南北に走行する。

重複関係 北端近くで195土坑と重複する。31溝の方が新しい。

覆土 褐色～暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 壁は斜めに直線的に立ち上がる。長さ33.7mを検出したが、北端の3.5m分は壁の上位を失っている。上面幅103～134cm、底面幅30～62cm、深さは61～73cmである。走行方位は直線的で、N8°Wである。

底面 北半部では比較的平坦だが、南半部では底面に一段と低い部分がある。北寄りの平坦部の標高は127.43m、南寄りの平坦部の標高は127.47mで、殆ど標高差がなく、検出範囲では水流の方向は判定できない。

その他 直線的かつ幅がほぼ一定している特徴があり、32溝と似ている。

遺物 少量の土師器・須恵器片が出土したが、掲載すべき遺物はなかった。

時代・時期 直線的に延びる形状から、近世以降の所産と推定する。

32溝(第320図、PL.109)

検出位置 67区R16～18グリッドで検出した。5区の北西隅を概ね南北に走行する。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積土が1層のみなので不確定だが、自然埋没と推定する。

壁 壁は斜めに直線的に立ち上がる。調査区内で長さ10.1mを検出した。上面幅117～132cm、底面幅32～70cm、深さは14～27cmである。走行方位は直線的で、N3°Wである。

底面 南半部では比較的平坦だが、北半部では北東～南西方向の細い溝状を呈する掘り込みが認められた。北端の

底面標高は128.26m、南端の底面標高は128.21mで数cmの差しかなく、検出範囲では流水方向は判定できない。

その他 直線的かつ幅がほぼ一定している特徴があり、31溝と類似する。32溝の方が浅い。

遺物 なし。

時代・時期 直線的に延びる形状から、近世以降の所産と推定する。

33溝(第320図、PL.110)

検出位置 67区N14～O17グリッドで検出した。5区の中央部を概ね南北に走行する。

重複関係 8畝の掘り込みと重複し、8畝→33溝の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積の状態から、自然埋没と推定する。

壁 壁は緩く斜めに立ち上がる。上端は凹凸があり、不整形である。調査区内で長さ16.5mを検出した。全体に緩いZ字状に蛇行する。上面幅25～49cm、底面幅12～34cm、深さは1～8cmと浅い。走行方位は蛇行する北端～南端を結ぶ線で、N15°Wである。

底面 確認上端と同様に、凹凸がある。北端の底面標高は128.21m、南端の底面標高は128.14mで、概ね南半部の標高が低いことから、通水されていた可能性があれば、南方への流れが推定される。ただし、その差はわずかなので、不確定である。

その他 蛇行し、確認上端に凹凸があり、31・32溝とは形状が異なる。また、底面・壁に耕具痕が認められた。

遺物 僅かな須恵器細片が出土した程度である。

時代・時期 耕具痕があることと形状から、近世以降の所産と推定する。

畝

5区1面では4箇所の畝を検出した。8畝は略東西走行の畝間のサクが残り、この方位は10畝もほぼ同じである。9畝はこれとほぼ直交する方位にサクが走る。11畝のサクは地山高まりの先端部のためか、地形に沿う形に看取される。

8畝(第322図、PL.110)

検出位置 67区N14～P18グリッドで検出した。5区の

ほぼ中央部に位置する。

重複関係 33溝と一部が重複し、8 畝間のサク→33溝の順に新しい。

覆土 灰褐色～黒褐色系の土で溝が埋没する。また、サクの外側の確認面の土は暗褐色砂質土7.5YR3/4で、As-B軽石粒や径2～20mmのHr-PP軽石粒を多く含み、所々に火山灰ブロックが珪に混じる。サク中の堆積土は、畝から流入した土の一部と推定される。

壁 最長で東西約10mほどのサクが遺存する。サク間の距離は一定ではなく、6～68cmの幅がある。平均で20～30cmが推測される。溝の上端輪郭は凹凸があり不整形で、複数回の耕作によって連結したサクが発生したとみられる。深さは2～9cmである。⑧のサクの方位は、N77°Eである。

底面 サク底面も上端輪郭と同じく、幅が一定ではない。

その他 サクの内外に耕具痕が認められた。向きは一定ではないが、概ねサクの内部にみられる。

遺物 緑釉陶器皿(1454)と須置系・灰釉陶器片が僅かに出土した。

時代・時期 サクを埋没させた土にAs-B軽石粒を含むことから、平安時代～中世の所産と推定する。

9 畝(第323図、PL.110)

検出位置 67区Q16グリッドで検出した。5区の北西部に位置する。

重複関係 8畝のごく一部と重複し、9畝→8畝の順に新しいが、全体的に重複していないので、不確定である。

覆土 黒褐色～暗褐色系の土でサクが埋没する。また、サクの外側の確認面の土は8畝と同じである。

壁 最長で南北約1mほどのサクが遺存する。サク間の距離は一定ではなく、計測可能なものは18cmまたは45cmである。サクの上端輪郭はやや凹凸があり、深さは1～7cm、幅8～20cmである。最長サクの方位は、N6°Wである。

底面 サク底面も上端輪郭と同じく、幅が一定ではない。

その他 9畝の痕跡と考えられるサクは9本であった。8畝の状況に似ており、方位は概ね直交する。

遺物 なし。

時代・時期 サクを埋没させた土にAs-B軽石粒を含むことから、平安時代～中世の所産と推定する。

10畝(第323図、PL.110)

検出位置 67区M17グリッドで検出した。5区の中央部北端にあり、3河道の南側に近接する。

重複関係 なし。

覆土 暗褐色系の土でサクが埋没する。また、サクの外側の確認面の土は明褐色土7.5YR3/4中砂粒土で、2～10mmのHr-PP軽石粒を多く含む。部分的にAs-B軽石粒が混じる。自然埋没と推定されるが、浅いため不確定である。

壁 最長で東西2.28mのサクが遺存する。サク間の距離は一定ではなく、計測可能なものは22cmまたは26cmである。サクの上端輪郭はやや凹凸があり、深さは1～5cm、幅9～19cmである。最長サクの方位は、N74°Eである。

底面 サク底面も上端外形と同じく、幅が一定ではない。

その他 8畝の畝間のサクとほぼ同じ方位で、周囲に耕具痕があり、また、サク中にも耕具痕が認められた。10畝の痕跡と考えられるサクは4本であった。10畝の北東端は3河道に近接しており、3河道によって削られた(流された)可能性がある。

遺物 なし。

時代・時期 溝を埋没させた土にAs-B軽石粒を含むことから、平安時代～中世の所産と推定する。

11畝(第323図、PL.110)

検出位置 67区J17～K18グリッドで検出した。5区の北東端にあり、3河道に向けて突出するような緩斜面にある。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で溝が埋没する。また、サクの外側の確認面の土A土層西端では明褐色土7.5YR5/6シルト質土であるが、東寄りではHr-FA泥炭層である。部分的にAs-B軽石粒が混じる。自然埋没と推定されるが、浅いため不確定である。

壁 A断面の②は逆「く」の字形に曲っていて、長さは1.06+1.38m=2.43mである。サク間の距離は一定ではなく、計測可能なものは8～46cmである。サクの上端外形は凹凸があり、深さは1～11cm、幅9～21cmである。A断面の①サクの方位は、N24°Eである。

底面 サク底面も上端外形と同じく、幅が一定ではない。

その他 11畠は3河道に向けて北向きに突出する岬状の地形の突端付近にあり、西側は「く」の字状に、東側は逆「く」の字状に曲っている。東側に低い地形なので、等高線に沿っているようにも見える。また、3河道との距離はわずか30～40cm程度しかなく、北端部は3河道に削られた可能性がある。サク中には耕具痕が認められた。

遺物 なし。

時代・時期 サクを埋没させた土にAs-B軽石粒を含むことから、平安時代～中世の所産と推定する。

耕具痕(第324・325図, PL.110・111)

5区1面では東半部をのぞき、ほぼ全面に耕具痕が検出された。ここでは、いくつかの区域に分けて記述する。比較的まばらに分布する区域と、集中する区域とが存在する。

1 北西部

検出位置 67区S17～18グリッドで検出した。32溝の西側に位置する。南北4×東西3mほどの範囲に二十数個の耕具痕が認められた。

壁 平面形は半月形である。一方に耕具を打ち込み、そのまま手前に直線的に引き出したような断面形状を示す。

その他 打ち込んだ方向は一定ではない。

遺物 なし。

時代・時期 As-Bテフラ混土層から掘り下げられており、As-Bテフラ降下後に、復旧や開墾などが行われたと考えられることから、12世紀以降の所産と推定する。

2 中央部北

検出位置 67区L16～N17グリッドで検出した。8畠の東側・10畠の南側に位置する。まばらに分布するが、M16グリッドの南東部には東西1.5×南北1mほどの集中する区域がある。壁等の所見は北西部と同じである。

3 中央部西

検出位置 67区N14～O14グリッドで検出した。33溝の西側・8畠の南側に位置する。調査区の壁近くに東西2×南北2mほどの集中する区域がある。壁等の所見は北西部と同じである。

4 中央部南

検出位置 67区L12～M14グリッドで検出した。31溝の西側・33溝の南側に位置する。とくにM13グリッドは東西2×南北2mほどの範囲で集中して検出され、直線的に並んだように見える部分もある。壁等の所見は北西部と同じである。

土坑・ピット

5区1面では土坑16基とピット2基を検出した。東半部に多く、西半部にはない。特徴ある土坑、遺物を出土した遺構を中心に記述する。個別の土坑・ピットの計測値等は表にまとめた。

土坑(第326・327図, PL.111・112)

182～185土坑はL17グリッド付近で南北に並ぶ土坑である。182土坑は196土坑に切れ、183土坑は195土坑に切られていた。これらの重複関係は、182土坑→196土坑→195土坑、183土坑→195土坑の順に新しい。整形の掘り込みで、31溝に切られていた。

185土坑はその内部東側に101ピットがあり、185土坑→101ピットの順に新しい。

5区中央部に位置する186～188土坑は他の土坑に比較してやや深く、60cm前後の深さがあり、187土坑は中位で壁の傾斜が垂直に近くなる。

183土坑から土師器片、184土坑から須恵器・灰釉陶器片、185土坑からは土師器・須恵器片、186・188・195土坑から須恵器片が、それぞれ僅かな量が出土し、187土坑からは少量の須恵器と僅かな量の土師器が出土した程度である。

また、いずれの土坑も性格等の想定は不明である。

ピット(第326・327図, PL.112)

101ピットは185土坑の上から掘り込まれていた。102ピットは調査区南端付近にあり、径25cm前後・深さ16cmの小規模な掘り込みである。

遺物の出土はなかった。

3河道(第328図、PL.112・184)

5区では調査対象区域の東半部で、表土直下から砂礫が認められ、谷地形となっていることが予想されたため、調査区東壁際から砂礫層を除去したところ、西半部に不整形の盛り上がり認められ、東半部の大半は砂礫で埋没した谷地形であったことが判明した。この谷地形は細ヶ沢川の河道と推定され3河道とした。

東半部ではAs-B軽石混土層よりも上位まで砂礫層が堆積していることから、中世以降近代まで河川の氾濫原であったと考えられる。西半部の遺構の検出できる面はシルト質土で、下位にはHr-FA泥流の堆積とみられる土層もあり、この付近は近代まで細ヶ沢川が氾濫した区域であったと推定される。第2面以下の地山もシルト質土であり、平安時代以降、何度も河川の氾濫によって流失・埋没を繰り返したことが推測される。

4区の南東隅付近も河道の範囲に納まるとみられ、5区では写真を中心とした記録を掲げる。

尚、黒色土器椀(1469)や五輪塔地輪(1470)が出土した他、少量の土師器・須恵器片が出土した。

3 2面の遺構と遺物

住居(第330図)

住居は40軒が発見されている。これらの住居は、旧河川の西側、蛇行流路の右岸に当る。当該部は、隣接4区と水路を隔てる調査区であるが、4区と同一遺構面である。

5区の遺構面の面積は、旧河川部の面積を除く約1,235㎡であり、この狭い遺構面において40軒の住居が発見されている。

発見された住居の時期は10世紀～11世紀前半であり、4区で発見されている住居の時期と齟齬は無い。

93住居(第331・404図、PL.115・180)

検出位置 67区J14～J15グリッドで検出した。5区の中央部の東端に位置する。

重複関係 95・124住居、262土坑と重複し、93住居→95・124住居、93住居→262土坑の順に新しい。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北東隅と南東隅を検出した。西半部は124住居によ

って破壊され、北の一部は95住居と262土坑によって破壊されていた。南壁は南東隅から西へ約1mのところまで内側に曲る状態であった。東壁2.73m、南壁1.57mを検出し、北壁は2.2mほどの直線的な壁が推定される。全体としては長方形が推定できるが、南壁の曲り方が不明である。東寄りで南北2.98m、東西は2.23m以上である。深さは北東隅付近で1cmほど、東壁～南壁で6～18cmである。

床面 カマド前に凹凸が認められたが、西寄りの床面は概ね平坦であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 燃焼部の半分が壁ラインの外側にあり、焚口側は浅い半円形の窪みを呈する。カマド前から燃焼部にかけて、厚く炭化物層が堆積し、その上位から割れた状態の礫や土器片が出土した。礫はカマドの構築材と考えられる。カマド中軸線の方はN79°Wである。

貯蔵穴 不明。

掘り方 少量北東隅から東壁に沿って、長さ170・幅57・深さ7cmの細長い掘り込みが認められた。カマド内中央部に幅15cm前後の細い溝状の掘り込みがあり、焚口側で広くなる。カマド前とカマド左脇に不整形の浅い掘り込みがある。

その他 南壁の変形は、2区2面の4住居のように曲る可能性がある。

遺物 須恵器椀(1237)等少量の須恵器・土師器が出土した。1237はカマド前、カマドから約1m西側が、いずれも床面からやや浮いた状態で出土した。カマド内出土の土器は破片である。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

94住居(第332図、PL.115)

検出位置 67区J15グリッドで検出した。5区中央部の東端に位置する。

重複関係 95・124・125住居、262土坑と重複し、94住居→95・124住居、94住居→262土坑の順に新しい。

覆土 灰褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定するが、露呈範囲が一部であったため不確実である。

壁 北壁と南壁の一部を検出したのみである。北壁

1.02m、南壁0.37mを確認し、南北は2.54mである。深さは37cm前後だが、南壁は93住居と重なり、確実ではない。

床面 住居中央付近とみられる底面を検出した。一部に礫がみられる。

柱穴 検出しなかった。

カマド 不明。

貯蔵穴 不明。

掘り方 中央部に112×87cm以上(推定102cm)の長方形の浅い掘り込みが認められた。

その他 95住居と124住居とに挟まれた東西約80cmほどの範囲であり、詳細は不明である。

遺物 土器片が出土したのみである。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

95住居(第333・404図、PL.115)

検出位置 67区115グリッドで検出した。5区の中央部の東端に位置する。東側は3河道によって流失したと考えられる。

重複関係 93・94住居、262土坑と重複し、93・94住居→95住居、95住居→262土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南北3.60m、東西2.25mを検出した。北西隅を検出したが、南西隅は262土坑の掘り込みによって破壊されていた。南壁1.60m、西壁3.03m(推定3.5m)、北壁1.92mを確認した。壁の深さは浅く、7～24cmで、北西隅のみ24cmだが、北壁・南壁とも7～11cmである。やや歪んだ長方形を呈すると考えられる。

床面 検出範囲内では、細かい凹凸はあるが、概ね平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド 流失した東側に設置されていたと推定する。

貯蔵穴 南西隅の掘り込みでも176坑と考えられる。規模は、90×86・深さ48cmである。

掘り方 中央部に182×112・深さ10cmの不整形の掘り込みが認められた。緩やかな斜面で浅く、下端がない。用途不明である。

その他 遺構確認面は3河道に向かって緩やかに低くな

り、3河道の埋没に至る。

遺物 須恵器杯(1238～1240)・椀(1241)、灰軸陶器碗(1242)等少量の須恵器や土師器を出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、11世紀前半と推定する。

97住居(第334・404図、PL.115・116・180)

検出位置 67区L12グリッドで検出した。5区の南端付近中央部に位置する。

重複関係 122・127住居、36溝bと重複し、本住居が最も古い。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。壁際に断面三角形の堆積土が認められ、堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南北3.14m、東西は南壁で2.76mである。北西隅・北東隅は122・127住居によって破壊されていた。南壁2.40m、西壁1.38m以上、北壁0.94m以上の規模を有する。深さは北壁で44cm、南壁で39～49cmである。南北方向に長軸をもつ長方形を呈すると推定され、方位はN9°Eである。

床面 検出範囲内では細かい凹凸があるが、比較的平坦な面をもつ。

柱穴 検出しなかった。

カマド 北半部を127住居によって破壊されていた。燃焼部の半分ほどが住居の壁外にあり、焚口近くの底面に灰と焼土が分布していた。燃焼部とカマド前に7～40cm大の礫が19個散布し、カマド構築材の一部と考えられる。カマド中軸線の推定方位はN78°Wである。南東隅付近の床面から1243が出土した。

貯蔵穴 南西隅の略円形の掘り込みとみられる。規模は63×56・深さ30cmである。

掘り方 細かい凹凸が多数認められたほか、南壁沿いは北寄りよりもやや高い状態であった。

その他 住居の規模がやや小さい。

遺物 須恵器碗(1243)等の僅かな須恵器の他、灰軸陶器転用碗(1244)、不明鉄製品(1245)が出土した。出土した礫の大半は焼けていない状態であった。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半と推定する。

101住居(第335・404図、PL.116)

検出位置 67区S18グリッドで検出した。5区の北西隅付近に位置する。

重複関係 なし。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。上位の6層に、純層に近いAs-B軽石粒が10～15cmほど堆積し、その層の上位には小豆色の火山灰が堆積していた。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南北2.11m以上、東西2.64mで、北半部は調査区外にある。南西隅は丸味を帯びている。南壁2.14m、西壁1.73m以上、東壁1.91m以上の規模で、調査区域内では火処がない。深さは22～36cmである。南北方向に長軸をもつとすれば、方位はN11°Wである。1～3区の竪穴に似た形状である。

床面 検出範囲内では細かい凹凸があるが、比較的平坦な面をもつ。

柱穴 検出しなかった。

カマド 未検出。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面に著しい凹凸が多数認められたほか、中央部に不整形の高まりがあり、壁沿いは溝状に窪む。

その他 住居の規模がやや小さい。

遺物 わずかな土師器片と須恵器杯(1246)が出土した。1246は掘り方から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀後半と推定する。

102住居(第336・404図、PL.116・180)

検出位置 67区Q15グリッドで検出した。5区の西壁沿いの北寄りに位置する。

重複関係 なし。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北東隅を検出したのみで、大半は南東側の調査区外にある。東西0.95m、南北1.25mを確認した。調査区内には火処がない。深さは48～57cmである。

床面 検出範囲内では比較的平坦な面をもつ。

柱穴 検出しなかった。

カマド 未検出。

貯蔵穴 不明。

掘り方 調査部分が非常に狭い範囲のため、詳細は不明である。

その他 住居ではなく、土坑の可能性もある。

遺物 僅かな土師器と須恵器杯(1247)が出土した。1247は壁際で出土したが、床面からやや浮いた状態であった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半と推定する。

103住居(第337・404図、PL.116・117・180)

検出位置 67区R16グリッドで検出した。5区の北西部にあり、西壁際に位置する。

重複関係 225・226・321土坑と重複し、いずれも103住居よりも新しい。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 一部を欠くが、ほぼ全体の形状が判明した。北壁中央部に321土坑、北東隅に225土坑、カマド煙道部に226土坑が重複していた。南北3.09m、東西2.42mで、ほぼ長方形に近いが、南壁は丸味を帯びて突出する。南壁2.12m、西壁2.65m、北壁1.94m(推定2.1m)、東壁2.07m(推定2.5m)である。深さは17～29cmが遺存する。長軸方位はN1°Wである。

床面 カマド付近に凹凸が認められたが、床面は概ね平坦であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りに設置する。左右の袖石が住居壁ライン上にあり、30cmほどで奥壁になる。煙道部は北へやや傾き、溝状を呈し、壁際の焚口基部に礎を据えていた。燃焼部から焚口部にかけて炭化物が分布し、底面直上層中から土器片が出土した。カマド燃焼部中軸線の方位はN88°Wである。

貯蔵穴 不明。

掘り方 西壁中央部に接して、南北103・東西62・深さ6cmの浅い半円形の掘り込みが認められた。また、中央部に30×18・深さ10cmの楕円形を呈するP1があり、内壁が焼けて焼土化していた。

その他 カマドが主要な火処であるので、炉の可能性もある。

遺物 杯(1248)・羽釜(1250・1251)等の須恵器、土師器、灰釉陶器転用碗(1249)、羽口(1252)が出土した。1250・

1251はカマド付近から、1252は掘り方からの出土である。
時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

104住居(第338・405図、PL.117・180)

検出位置 67区O17～P18グリッドで検出した。5区の北西部に位置する。

重複関係 107住居、215・315土坑と重複し、104住居→107住居、104住居→215・315土坑の順に新しい。

覆土 灰褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 北西隅は107住居に切れ、南東隅は215土坑によって破壊されていたが、ほぼ全体の形状が判明した。東壁北寄りで315土坑が重複していた。南北4.05m、東西3.34mの長方形を呈し、南壁2.57m(推定2.8m)、西壁3.27m(推定3.7m)、北壁2.57m(推定3.0m)、東壁3.62m(推定3.8m)でも比較的端正な形状である。深さは17～21cmが遺存する。長軸方位はN0°である。

床面 細かい凹凸はあるが、全体として床面は平坦であった。

柱穴 南西隅にP1を検出した。

カマド 左右の袖石が住居壁ラン上にあり、燃焼部は屋外側にある。焚口部は数cmほどの浅い窪みとなり、炭化物が分布していた。焚口部から焚口天井部の石と考えられる長さ45・幅22cmの細長い扁平な礫が出土した。左袖石は2個、右袖石は3個が粘土で固定されていた。燃焼部中央の左右の壁寄りに長さ15～20cmの細長い礫が2個立てられており、支脚と考えられることから、2個懸けのカマドであったと推定される。支脚と袖石の間を通る線を勘案すると、カマドの中軸線は東壁に直交せず、N72°Wとなる。

貯蔵穴 南東隅の掘り込みが貯蔵穴と考えられる。中央に20cm大の扁平な礫があり、この周囲から土器片が出土した。いずれも底面から遊離しているが、床面と同じ高さであった。規模は63×52・深さ21cmで、楕円形を呈する。

掘り方 底面は細かい凹凸が著しい。南西隅でP1を検出した。中から10cm大の礫とともに、1261の土器が出土し、P1に近接して1259の土器が出土した。規模は66×59・深さ43cmである。

その他 P1は南西隅の貯蔵穴とほぼ同規模であること

から、古い貯蔵穴または第2貯蔵穴であった可能性がある。

遺物 杯(1258～1260)や椀(1261～1264)等の須恵器や、少量の土師器、灰釉陶器椀(1265・1266)の他、酸化焙焼成の羽釜(1267)、鉄釘(1268)、不明鉄製品(1269)も出土した。このうち1258はカマド内、1259は南西隅の床上、1261は南側中央付近の壁よりから、1266は貯蔵穴近くの床上、1260・1262・1264・1265・1267は貯蔵穴からの出土であり、掘り方からの出土もあった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

105住居(第339・404図、PL.117・118)

検出位置 67区N16～N17グリッドで検出した。5区の中央部でやや北寄りに位置する。

重複関係 318・324土坑と重複し、105住居→318・324土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南東隅は324土坑によって破壊され、西壁中央部は318土坑が切っていた。南北3.02m、東西2.73mで北壁が南壁に比較してやや長く、梯形を呈する。東壁南寄りに不整形の突出する部分が認められたが、本住居の一部かどうか、判断としない。南壁1.47m以上、西壁2.97m、北壁2.69m、東壁1.31m以上である。深さは14～20cmが遺存する。長軸方位はN6°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、全体として床面は平坦であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 未検出。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面は凹凸が著しく、大小の地山礫が露出した底面であった。北壁西寄りを中心とした半円形の高まりが認められ、不整形の溝状掘り込みが認められた。北壁中央部近くで露出した30cm大の礫(写真参照)は、床面に露出しており、台石に使われた可能性がある。南西隅付近の土坑1は楕円形を呈し、101×95・深さ19cmの規模である。

その他 東壁南寄りの突出部はカマドの撤去跡または土坑状の掘り込みとみられる。炭化物や焼土粒子の散布は

なかった。1～3区の竪穴の形状に類似する。

遺物 土師器片や杯(1253・1254)を含む須恵器片が少量出土した。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、11世紀代の所産と推定する。

106住居(第340・341・404図、PL.118)

検出位置 67区P19グリッドで検出した。5区の中央部で北端の調査区壁にかかる。

重複関係 107住居と重複し、106住居→107住居→316土坑の順に新しい。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 カマドと西壁の一部を検出した。南東隅と南壁は107住居・316土坑によって破壊されていた。北壁での東西規模は3.71mである。西壁は0.58mを検出したのみである。深さは西壁で16cm、カマド前で36cmが遺存する。形状・長軸方位は不明である。

床面 遺存していた床面は比較的平坦であった。中央部の掘り込みは不整形で、深さ26cmである。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りに設置する。燃焼部が壁ラインの外側にあり、右壁に立て掛けるように30cm大の扁平な礫を据えていた。袖部の遺存は不良であったが、煙道部はトンネル状に良く残り、煙出しのピットを検出した。煙出しは隅丸三角形を呈し、39×38・深さ18cmである。軸方位はN66°Wである。燃焼部から土器片が3点出土し、焚口部周辺に炭化物が分布していた。

貯蔵穴 不明。

掘り方 細かい凹凸が認められたが、全体の状態は不明である。焚口部の掘り込みは46×39以上・深さ10cmである。中から土器片が出土した。

その他 大半は北側の調査区外にあり、南側は107住居に破壊されて詳細は不明である。

遺物 土師器片や杯(1255・1256)等の須恵器片、灰釉陶器片、形象埴輪片(1257)等の僅かな遺物が出土した。これらはカマド燃焼部と掘り方等から出土しているが、1255・1256は貯蔵穴からの出土であるが、1255は一部107住居出土破片との接合による。また、1257は104・107住居出土の破片との接合によるものである。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀前半の所産と推定する。

107住居(第342・343・405図、PL.118・119・180)

検出位置 67区P18～P19グリッドで検出した。5区の中央部で北端に近い位置にある。

重複関係 104・106住居、316・335土坑と重複し、104・106住居→107住居→316・335土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。各隅とも丸味があり、壁長を計測するのは困難である。隅丸長方形か。東西3.94m、南北4.51mで、長軸方位はN2°Wである。深さは29～60cmが遺存し、南半部が深い。

床面 焚口部カマド前の中央部、南東隅付近に不整形の浅い窪みが認められた。また、北半部に長さ97・幅15cmの細長い溝状の窪みを検出した。細かい凹凸はあるが、住居中央部は概ね平坦であった。

柱穴 南壁沿いでP1及びP2の小ピットが並んで検出された。規模はP1:28×24・深さ28cm、P2:28×24・深さ27cmである。

カマド 2カマドは西壁南西隅部寄りに設置する。西にカマドを設置する例は、本遺跡では少ない。燃焼部は壁ラインに半分ほどかかり、住居内側に左右の袖部粘土の痕跡を確認した。粘土は掘り込みの外側にも幅20cm前後の帯状に囲み、奥壁天井部につながる構造と考えられる。左袖部相当の位置から25×40cm大の扁平な礫が出土し、左袖石が燃焼部に倒れたと推定される。燃焼部中央部から長さ15・径10cmの礫が立てた状態で出土した。カマド支脚と考えられる。右壁の奥には壁に沿って礫が出土し、壁の補強材と推定される。煙道部はトンネル状に長さ30cmほどが遺存し、煙出しの径20cmの孔を検出した。燃焼部内と焚口部から小礫が出土し、カマド構築材の一部と考えられる。焚口部には炭化物が分布し、燃焼部には焼土の混じる灰層が認められた。焚口部から鉄製品釘(1273)が、燃焼部から土器片が出土した。軸方位はN53°Eで、西壁に直角の方位ではない。また1カマドは、もと108住居で東壁の南寄りに位置する。

貯蔵穴 不明。

掘り方 中央部から北半部にかけて細かい凹凸があり、

南半部には不整形の掘り込みがある。北西隅に土坑2、南東部に土坑3、カマド寄りで土坑1が検出されたほか、床面水準でカマド前の窪みを検出した位置で、58×48・深さ11cmの掘り込みを検出した。カマド掘り方では7個の小ピットを検出し、磔を据える掘り方と推定される。

その他 土坑3・4は床面下で検出したが、貯蔵穴の可能性もある。また、南壁沿いで検出したP1・2は、出入口施設の一部であった可能性がある。

遺物 出土遺物は多くなかったが、杯(1270)や鉢と見られるもの(1271)を含む須恵器、甕と見られるもの(1272)を含む土師器、灰軸陶器片、埴輪片、鉄釘(1273)、鉄鎌(1274)が、カマド前で鉄器が出土したほか、燃焼部から土器片が出土した。1271・1273はカマド、1273はカマド前の床上から、1270は掘り方の土坑1からの出土である。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

109住居(第344・345・406図、PL.119・120・180)

検出位置 67区O16～P16グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 北西隅で224土坑と接するが、重複していない。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 全体の形状を検出した。東西3.88m、南北4.11mで、南北がやや長い長方形を呈する。南壁3.43m、西壁3.88m、北壁3.76m、東壁3.77mで、南壁がやや短い。南東隅に1カマド、その北側に接して2カマドを検出した。深さは27～42cmが遺存し、北東部がやや深い。長軸方位はN8°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。カマド前付近の出土遺物は床面水準または床面直上であるが、住居中央部付近の土器・磔は埋没土内で出土した。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅付近に1カマド、その北側に接して2カマドを設置する。両者の前には炭化物が分布する。1カマドは左右の袖部が検出できず、中央部付近の底面には焼土が分布し、燃焼部相当の底面から土器片が出土した。奥壁から約50cmの長さで煙道が遺存し、煙出し付近は良く焼けて焼土化していた。2カマドの燃焼部の大半は屋

外側にあり、左袖石1個と右袖石1個のほか、燃焼部壁に貼り付けるように扁平な磔が立てた状態で出土した。左袖石の奥には壁に沿った位置で扁平な磔が立てた状態で出土した。右側では右袖石を含め、3個が接するように並んでおり、もとの位置を保っていると考えられる。奥壁から約70cmの長さで煙道が遺存し、煙出しの小ピットは32×24・深さ20cmである。2カマドの右袖石とこれに接する磔の右側にシルト質土が立ち上り、その一部は焼けた状態で割れて燃焼部側に落ちていた。住居中央部にかけて出土した10～25cm大の磔は、カマド構築材と考えられる。1カマドと2カマドは同時に使用されていた可能性もあるが、1カマドのC断面③層が暗褐色土と橙色土との互層であること、④層がブロック状を呈することなどから、1カマドが意図的に埋められ、2カマドを新しく設置したと推定される。1・2カマドとも東壁に直交する方位ではない。1カマドの煙道を基準とする方位はN66°W、2カマドの煙道と袖石中央を通る長軸方位はN75°Wである。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面に著しい凹凸があるほか、北西隅・北東隅・南半部に不整形の掘り込みが認められた。また、土坑1～4を検出し、その規模は次の通りである。土坑1：73×70・深さ23cm、土坑2：69×63・深さ26cm、土坑3：71×58・深さ36cm、土坑4：57×48・深さ31cm。カマド掘り方では小ピットを検出し、磔を据える掘り方と推定される。

その他 住居中央部から出土した磔はカマド構築材の一部と考えられ、カマドの意図的な破壊の可能性もある。また、北東隅の土坑1、南西隅の土坑3は貯蔵穴であった可能性がある。

遺物 1カマド及び2カマドの燃焼部から比較的多くの土器片が出土したほか、住居中央部の床面から浮いた状態で土器片や比較的多くの磔が出土した。出土した遺物にはミニチュア土器(1283)や、その可能性を有するものも含む小型甕(1291・1992)・甕(1293・1294)・羽釜(1295)を含む土師器、黒色土器(1279～1282)、杯(1285～1289)・椀(1290)を含む須恵器の他、少量の皿(1284)を含む灰軸陶器が出土した。1289・1294・1293は1カマドから、1291は2カマドからの出土で、1280は1・2カマド出土片の接合であり、1290と1294は住居中央からの

出土であるが、このうち1294は3区2面出土土器との接合であり、焚口部で出土した1295は191住居出土破片との接合であり、1288は住居東壁中央沿いから、1282は覆土からの出土であるが136住居掘り方出土遺物との接合である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

110住居(第346・405図、PL.120・181)

検出位置 67区M17～M18グリッドで検出した。5区の中央部北端で、3河道が南へ湾曲する位置にある。

重複関係 なし。

覆土 暗褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南東隅と南西隅を検出した。北壁は3河道によって削られており、南北の規模は不明である。土層断面の掘り方覆土6層の立上り方を勘案すると、西壁北端は北西隅に近いと推定される。南壁2.59m、西壁2.24m、東壁1.30mで、東西は2.77mである。深さは南壁沿いで37～42cmが遺存していたが、北へ向かって斜めに低くなり、南壁がもっとも高く、3河道の南岸に相当する位置にある。東西の軸方位はN88°Eである。

床面 床面は掘り方を埋め戻し、平坦に造られている。南壁の壁際から土器が出土した。

柱穴 検出しなかった。

カマド 北壁と北東隅を3河道によって破壊され、火処を確認できなかった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 南西隅に浅い掘り込みが認められた。東半部は礫層が露出する。

その他 火処を検出していないので不確実であるが、規模が小さく、略方形を呈することから、竪穴の可能性はある。

遺物 須恵器椀(1275・1276)、灰軸陶器椀(1277・1278)が出土した。このうち、南壁沿いで出土した土器は、1276が壁上位にかかる位置から、1278が壁直下の床面水準から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

111住居(第347・348・406図、PL.120・121・181)

検出位置 67区N15～O16グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 112住居、229土坑と重複し、112住居→111住居→229土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。壁際に三角形の堆積があることから、自然埋没と推定する。

壁 全体の形状を検出した。住居中央部で東西3.78m、南北3.66mであり、東西にやや長い。西壁が短く、東に向かって開く台形を呈する。南壁2.96m、西壁2.80m、北壁3.37m、東壁3.01mである。カマド燃焼部奥の焼土なしの中央部を基点とすると、南壁は3.29m、東壁は3.45mとなる。カマド左袖部外の掘り込みと南西隅とを結ぶ線は、ほぼ北壁に平行となり、東西約3.5m×南北約3mの長方形となる。カマドを南東隅に設置したことによって、歪んだと考えられる。深さは19～37cmが遺存し、東壁沿いがやや深い。東西の長軸方位はN80°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。住居中央部で1.0×0.7mの範囲で炭化物が分布し、焚口部からカマド前面にも炭化物が分布していた。1296は中央部炭化物の範囲から出土し、1299は東壁の壁際床面から出土した。焚口部の礫2個は炭化物直上であるが、北東部の礫は床面からやや浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅に設置する。10～20cm大の礫を二～三段積み上げて粘質土で固定し、燃焼部と煙道部との境には20×20cmの扁平な四角形を呈する礫を架けていた。左袖の基部の礫は元の位置にあると考えられる。燃焼部は南壁・東壁の延長線の内側にある。左右の袖部は粘質土で礫の間を充填し、外側も粘質土で覆っていた。積み上げた礫の大半は、元の位置にあると推定される。燃焼部底面は灰・炭化物と焼土が混じっていた。カマドの軸方位はN65°Wで、ほぼ対角線方位である。

貯蔵穴 南壁中央部に近い楕円形の掘り込みと考えられる。規模は72×67・深さ39cmである。遺物は出土しなかった。

掘り方 調査段階の土層断面観察では、床面下に平坦で浅い状態で認められたが、住居の南側半分には112住居が重複するため、平面露呈が困難であったことから詳細

は不明である。

その他 カマドの遺存状態が良好なのに対して、遺物の出土量が少ない。

遺物 ミニチュア土器(1296)等の少量の土師器、杯(1297～1300)等の須恵器と灰釉陶器1片が出土した。これらは、1296は住居中央やや南寄りの炭化物分布範囲から、1297は西壁中央部付近から、1299はカマド右側の東壁壁南寄りから、1300はカマドと掘り方から、1298は掘り方から出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

112住居(第349・350・407図、PL.121・122・181)

検出位置 67区O15グリッドで検出した。5区の中央部西寄りに位置する。

重複関係 111住居、305土坑と重複し、112住居→111住居、112住居→305土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。北西隅と北壁の大半は111住居によって上半部が失われている。南西隅は305土坑がかかる。東西4.68m、南北推定5.8mで、南北に長い長方形を呈する。南壁3.78m(推定3.9m)、西壁4.56m(推定5.4m)、北壁4.35m、東壁5.52mである。深さは14～32cmが遺存し、カマド付近が最も深い。長軸の方位はN0°である。

床面 遺存していた床面は細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。カマド前の南壁寄りから35cm大の礫が出土し、南壁にかかった状態で土器1305が出土した。

柱穴 住居中央部の掘り方で検出したP1は、楕円形を呈し、二段に掘り込まれていた。柱穴の可能性はある。規模は57×45・深さ56cmである。

カマド 東壁南端に設置する。屋外側にあり、焚口付近から35cm大と40cm大の礫が出土した。また、奥壁付近からも40cm大の扁平な礫が出土した。左右の袖には角閃石安山岩の一部を面取加工した礫が据えられ、粘質土で固定されており、元の位置にあると考えられる。燃焼部左右の壁際にも礫が据えられていた。焚口と奥壁に細長い礫を架け、両者の間に煮沸用土器を据えたと推定される。燃焼部と袖部から須恵器杯(1304・1307～1309)・椀

(1310)等10片の土器片が出土した。小形品は完形に近いものが多い。カマドの中軸線方位はN76°Wで、東壁に直交しない。

貯蔵穴 南西隅付近に土坑1を検出し、貯蔵穴の可能性はある。規模は82×77・深さ48cmである。

掘り方 111住居掘り方調査で、112住居北壁を検出した。カマド前には不整形の掘り込みが認められ、P1と土坑1との間で不整形の土坑2を確認した。規模は89×76・深さ47cmである。カマドの燃焼部では、径80cm前後・深さ3cmほどの浅く大きな窪みが認められた。小穴は礫を据えた掘り方と考えられる。

その他 カマド内からの土器の出土が多い。

遺物 少量の土師器の他、杯(1301～1309)・椀(1310)・甕(1313)等の須恵器、皿と見られるもの(1311)や椀(1312)等の灰釉陶器が出土した他、鉄製刀子(1314)の出土も見られた。また1304・1307～1310はカマド内から出土したほか、南壁にかかって1305、東壁中央部付近の床面近くから1303が出土し、1302はカマド掘り方から、1306・1311は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

113住居(第351・352・407図、PL.122・181)

検出位置 67区O13～O14グリッドで検出した。5区の中央部で西側の調査区壁にかかる。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南西隅は西側の調査区外にある。東西4.03m、南北は南壁西端と北壁との距離で4.50mで、南北に長い長方形を呈する。南壁0.87m(推定3.5m)、西壁2.29m(推定4m)、北壁3.78m、東壁4.18mである。東壁の南端近くにカマドを設置するが、南東隅は確認できた。深さは18～41cmが遺存し、東壁沿いが深い。長軸方位はN10°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、検出範囲はほぼ平坦である。カマド前付近の土器や礫は、床面から浮いた状態で出土したが、北東隅近くで出土した礫は床面からの出土である。北西隅付近から出土した土器片は床面から浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁の南端近くに設置する。燃焼部は半分ほどが屋外側にあり、奥壁の15cmほど手前に3個の礫で組んだ鳥居状の奥壁天井部が検出された。左右の礫は35cm大で、底面に小穴を掘り込んで立てた状態で据え、その上に35cm大の細長い礫を両者の上に架けていた。燃焼部の左右の壁は良く焼けて焼土化し、底面には厚く炭化物層(焼土粒子を含む)が堆積していた。炭化物はカマド前にも分布する。焚口の右袖部相当の位置から、須恵器破片が出土した。中軸線の方位はN77°Wで、東壁にほぼ直交する。住居中央部南寄りと北東部から出土した礫は20~40cm大で、カマド構築材の一部と考えられる。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面に著しい凹凸があるほか、壁際に沿って不整形の掘り込みが認められた。中央部が盛り上がった状態に見えるほか、北西隅の一角のみが掘り方底面も平坦な状態である。

遺物 出土遺物は多くなかったが、羽釜(1319)・甕(1320)等の土師器、杯(1315・1316)等の須恵器、椀(1317・1318)等少量の灰軸陶器が出土した。これらのうち1317・1318は北壁西寄り、1319がカマドから出土した。他から前述の土器片等のほか、カマド掘り方から土器の出土もあった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

114住居(第353・407図、PL.122・123・181)

検出位置 67区L17グリッドで検出した。5区の中央部で北寄りにあり、3河道の流路が南に向かって湾曲する位置にある。

重複関係 115住居、326土坑と重複し、115住居→114住居→326土坑の順に新しい。

覆土 暗赤褐色系の土で埋没する。酸化鉄分を含み、赤みがある。堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南壁中央部が326土坑によって破壊されていたが、ほぼ全体の形状を確認した。東西2.86m、南北3.02mでわずかに南北方向が長い長方形を呈する。北西隅が丸味を帯びていて、南壁がやや短い。南壁2.26m、西壁2.86m、北壁2.63m、東壁2.87mである。東壁にカマドを設置する。深さは36~47cmが遺存し、東壁がやや浅い。

長軸方位はN9°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。南壁寄りには、地山の礫が少し露出する。焚口部に炭化物が分布し、右袖部脇から23×18cmの楕円形を呈する扁平な礫が、床面直上から出土した。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁の南寄りに設置する。燃焼部は半分ほどが住居壁ラインの外側にあり、細長い形状である。燃焼部から幅を減じて煙道に続く。煙道底面は焼けていた。焚口の袖石は内側に傾いて出土した。脇から出土した扁平な礫は、焚口天井部に架けられたと考えられる。中軸線の方位はN75°Wで、東壁にほぼ直交する。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面中央部に小穴や細かい凹凸があり、壁際の掘り込みがやや深い。

遺物 甕(1321・1322)と、甕と思われるもの(1323)を含む土師器と少量の須恵器片が出土した。1323はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

115住居(第354図、PL.123)

検出位置 67区L17グリッドで検出した。5区の中央部で北寄りにあり、3河道の流路が南に向かって湾曲する位置にある。

重複関係 114住居と重複し、115住居→114住居の順に新しい。輪郭確認時には、すでに床面以下に達していたため、以下は掘り方調査で確認した内容である。

覆土 掘り方覆土は灰褐色系の土で、酸化鉄分を多く含む。自然埋没かどうか、判定できない。

壁 南西隅を114住居によって破壊され、北寄りは3河道によって削られていたため、全体の形状は不明である。掘り方水準で東西3.35m、南北は3.3m以上と推定される。検出した範囲では、南壁1.22m、西壁1.26m、東壁1.96mである。長軸方位は判定困難である。

床面 確認時に床面水準以下に削られていたと考えられ、不明である。

柱穴 検出しなかった。

カマド 不明。本遺跡の通例では東壁に設置するが、検出範囲の東壁沿いではカマド痕跡が認められなかった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面は小穴や細かい凹凸が認められた。

その他 重複により火処が見当たらないことから、他の調査区で検出した竪穴と呼ぶのが適切かもしれないが、ここでは現地での呼称を継承しておく。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 本住居の時期は確認はできないが、重複関係から、10世紀後半の所産と推定する。

116住居(第355・407図、PL.123・181)

検出位置 67区T18グリッドで検出した。5区の北西端に位置し、西壁にかかる。

重複関係 なし。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 長方形の形状ならば、北東隅付近を検出したのみで、大半は調査区西壁の外側にある。隅部とみられる遺構は丸味があり、住居であるか判然としにくい。北側の立上りが直線的で、深さは22~30cmが遺存する。壁長は計測困難である。

床面 西壁際の底面は平坦である。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出しなかった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面は比較的平坦だが、調査範囲が狭く、全体の形状は不明である。

その他 調査範囲が狭いため、詳細は不明である。

遺物 須恵器杯(1324)片が出土したのみである。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴からではあるが、本住居は11世紀初頭の所産と推定する。

117住居(第356図、PL.123)

検出位置 67区S17グリッドで検出した。5区の北西部に位置し、西壁にかかる。

重複関係 なし。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 長方形の形状ならば、北東隅付近を検出したのみで、大半は調査区西壁の外側にある。北壁1.85m、東壁2.41mを検出したが、カマドは不明である。西壁にかか

る断面両端の立上りが直線的である。深さは南寄りで30cm、その他の壁は48~55cmが遺存する。

床面 西壁土層断面の底面は平坦で、住居または竪穴の底面の可能性がある。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出しなかった。

貯蔵穴 不明。

掘り方 不明。

その他 調査範囲が狭いため、詳細は不明である。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 調査面や土層から推して大凡平安時代の所産と推測されるが、時期は特定できなかった。

118住居(第357・358・408図、PL.123・181)

検出位置 67区M15~M16グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 119住居と重複し、119住居→118住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。西壁側は119住居と重複し、119住居の覆土を使う。東西4.75m、南北4.83mで、わずかに南北に長い長方形を呈し、各隅に丸味をもつ。南壁3.39m、西壁4.07m、北壁3.86m、東壁4.40mである。深さは33~38cmが遺存する。長軸の方位はN5°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。カマド前面が残る窪み、南西隅で土坑1を検出した。床面中央の南東寄りで25~30cm大の礫が4個出土し、西半部からは土器片が出土した。いずれも床面から浮いた状態であった。また、北壁寄りの底面から鉄製品刀子が出土した。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南東隅部寄りに設置する。燃焼部は住居壁の内側にあり、浅い掘り込みの右手奥壁際から礫が出土した。浅い掘り込みの西端からも25cm大の薄く割れた礫が出土した。住居中央部南東寄りから出土した礫は、カマド構築材の一部と考えられる。奥壁の位置は住居壁ラインに一致する。カマド内出土土器は破片のみである。中軸線の方位はN90°で、東壁にほぼ直交する。

貯蔵穴 南西隅で検出した土坑1が貯蔵穴と考えられ

第4章 検出された遺構と遺物

る。規模は55×50・深さ50cmである。

掘り方 細かい凹凸が著しい。中央部北東寄りの底面に浅い土坑2を検出した。北半部は93×66・深さ15cm、南半部は62×56・深さ11cmで、南半部から土器片が出土した。土坑2の用途は不明である。

その他 北東隅の丸味が強い。

遺物 住居、住居掘り方、カマド、カマド掘り方から土師器、須恵器と少量の灰軸陶器が出土した。この中には須恵器杯(1325)・椀(1326・1327)、灰軸陶器椀(1328)、土師器甕(1329)、酸化焰焼成(1330)と還元焰焼成(1331・1332)の羽釜、そして鉄製刀子(1333)が出土した。このうち1325・1329はカマドから、1332は掘り方から、1327・1328は住居西壁中央際からの出土である。また1330はカマド北西側に4点の礫がまとまって出土しているその北端から、1331は住居南西隅の壁付近から、1333は北壁より中央付近からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

119住居(第359・408図、PL.124・181)

検出位置 67区N15～N16グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 118住居、118・233・337土坑と重複し、119住居→118住居、119住居→118・233・337土坑の順に新しい。

覆土 灰褐色系の土で埋没する。範囲が狭いので判然としないが、堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 東半部を118住居によって破壊され、南西隅は233土坑によって破壊されていた。掘り方調査の段階で、118住居の下位から炭化物和焼土の分布を確認し、この付近にカマドが設置されていたと推定できたことから、東西推定約3.3m、南北3.64mの長方形と推定される。南壁1.20m(推定3.0m)、西壁3.16m(推定3.3m)、北壁1.91m(掘り方2.91m)、東壁推定3.77mの規模が推定できる。深さは29～37cmが遺存する。長軸方位はN7°Wである。

床面 検出範囲では、ほぼ平坦である。住居内で若干の土器片が出土したが、いずれも床面から浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 掘り方調査で東壁南寄りに、炭化物和焼土の分布が認められたことから、この付近がカマドであったと考えられる。重複する118住居の掘り込みが深く、本住居カマドの上部構造は破壊されてしまい、詳細は不明である。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面に凹凸が著しい。南壁沿い、北東部寄りで不整形な浅い掘り込みが認められた。

その他 掘り方調査で北東隅を検出した。

遺物 遺物の出土は少なかったが、土師器、須恵器、少量の灰軸陶器などが出土した。この中には土師器椀(1334)・甕(1337)・羽釜(1338酸化焰焼成)、須恵器杯(1335)、須恵器椀(1336)、砥石(1339)の出土を見た。1334は住居南西隅部、1336は住居中西部、1338は西壁沿い、1335は掘り方からの出土である。

時代・時期 本住居は、出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

120住居(第360・408図、PL.124・181)

検出位置 67区N14グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 調査所見では(96)・121住居、174・306土坑と重複し、174土坑→(96住居)→120住居→121住居、120住居→306土坑の順に新しいとされたが、(96住居)は121住居の一部と考えられることから、174土坑→120住居→121住居、120住居→306土坑の順に新しいと推定される。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 北半部は121住居によって破壊されており、南西隅は306土坑によって破壊されていた。南壁3.76m(推定3.9m)、西壁2.97m(3.3m以上)、東壁1.9m以上で、東西4.14m、南北3.2m以上の長方形または方形を呈する。カマドは東壁南端から対角線の方に煙道が延びる。深さは16～21cmが遺存する。長軸方向の判定は困難である。

床面 細かい凹凸があり、壁際がやや低い。焚口部及び燃焼部からは灰の層や焼土を含む層を検出していない。カマド前の窪みの北側床面直上から、須恵器椀(1340～1342)が出土した。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅に設置しているが、明確な灰層や焼土の

分布がなく、浅く細長い窪みを検出したのみである。窪みの深さは8～17cmで、中軸線の方位はN52°Wである。カマド中軸線の方位は、東壁に直交しない。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面に著しい凹凸が認められた。

その他 120住居カマドとされた細長い掘り込みでは明確な灰層や焼土の分布はないものの、わずかながら炭化物を含む埋没土が認められた。積極的な根拠ではないが、カマド痕跡との想定が可能である。ただし、カマドの構築材は不明で、上部の構造を推定させる痕跡がない。また、重複する121・(96)住居の南壁と120住居の南壁がほぼ平行していることから、120住居の範囲は121住居の一部(拡張部や張出部など)であった可能性もある。120住居の床面は121住居の床面よりも下位に床面が認められており、これを重視して別の住居と推定した。

遺物 少量の土師器や椀(1340～1342)を含む須恵器を出土した他、不明鉄製品(1343)が出土した。上述のように1340～1342はカマド前から出土した、1343は掘り方から出土している。尚、出土遺物は121住居(=96住居)と混在した可能性が残る。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

121住居(第361～363・409・410図、Pl.124・125・182)

検出位置 67区M14～N15グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 調査所見では(92)・(96)・120住居、344・304・342土坑と重複し、(92住居)→121住居、(96住居)→120住居→121住居→344・304・342土坑の順に新しいとされたが、前述の通り(473頁、重複状態の項)、(92住居)カマドは当住居カマドの一部、(96住居)カマドは当住居の貯蔵穴の可能性が高いことから、当住居で扱う。344土坑は121住居カマドを破壊していた。

覆土 暗褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 東壁は304・342土坑によって一部が破壊されていた。住居中央部で東西5.10m、南北6.7m前後であり、南北にやや長い長方形が推定される。南壁推定5.2m、西壁4.54m(推定6.2m)、北壁4.91m、東壁4.77m(カマド左袖基部まで)である。南北に長い長方形を呈すると考え

られる。深さは22～38cmが遺存し、北壁沿いがやや深い。南北の長軸方位はN0°である。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。もと96住居の範囲も同様であるが、床面よりも下位に相当する可能性がある。カマド前面を中心とした南東部の床面が硬く締まっていた。住居南東部から土器片が散在して出土し、中央部からも出土した。これらの土器片は床面から浮いた状態であったが、北壁沿いから出土した土器は、床面から出土した。炭化物はカマド燃焼部に分布する。もと96住居カマドの位置から礫と土器が出土した。

柱穴 P1・2を検出した。P1:28×25・深さ32cm、P2:二段45×41・深さ28cmで、両者の芯々距離は243cmである。

カマド (92住居)カマドと121住居カマドの記録を精査した結果、もと92住居カマドは121住居カマドの煙道部の可能性が高いと判断する。煙道部両脇に平坦な面があり、南東端が住居の南東隅と考えられる。溝状を呈する煙道部の底面で灰層を検出した。煙道部先端には略楕円形の扁平な礫を立て掛け、さらに外側に礫を4個設置して補強していた。カマド燃焼部から3片の土器が、左脇から1347・1355・1365の土器片が出土した。燃焼部奥は住居東壁の延長線上にあり、左袖部の痕跡が遺存していたが、燃焼部上位は破壊されていた。住居中央部やもと96住居カマド付近に分布する礫は、カマド構築材とみられる。また、新しい344土坑によって破壊されているため、燃焼部の構造の詳細は不明である。燃焼部付近から土器片が4点出土し、1357は略完形の須恵器椀である。カマド中軸線の方位はN88°Wで、ほぼ東壁に直交する。

貯蔵穴 もと96住居カマドとした位置の掘り込みが貯蔵穴とみられる。95×58・深さ15cmである。周辺を含めて4点の土器が出土し、30cm大の礫4個も出土した。

掘り方 北東隅・北西隅を中心に不整形の窪みがあり、底面は凹凸が著しく、中央部が盛り上がった状態であった。柱穴とみられる掘り込みP1・2を検出した。中央部底面から羽釜の破片等が出土した。南半部の床面より下位は、もと96住居の掘り込みになり、凹凸はより激しくなる。

遺物 土師器と多くの須恵器を出土したが、この中には、須恵器杯(1344～1355)・椀(1356～1366)・台付盃(1372)、土師器羽釜(1367)・甕(1368・1369・1371)、鉄釘(1373)、凝灰岩製の加工された石製のカマド構築材(1374)が出土

した。このうち1351・1345・1353は住居中央から、1350は中北部から、1374は中央やや南東から、1363は北壁寄りから出土し、1362は中南部から出土しているが、床面に半分ほど埋没した状態で出土している。1365はカマド前からの出土であり、1344・1347・1357・1367はカマドから、1346・1368は掘り方から出土し、1355は南西部からの出土遺物の接合遺物である。また1368と1367は96住居出土遺物との接合である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

122住居(第364・365・411図、PL.126・127・183)

検出位置 67区L12～M13グリッドで検出した。5区の中央部南寄りに位置する。

重複関係 97住居と重複し、97住居→122住居の順に新しい。また123住居のカマドは住居本体部分が確認できず、122住居カマド据え替えの可能性がある。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。中央部で東西4.42m、南北5.04mで、南北にやや長い長方形を呈する。南西隅の丸味が強い。南東隅のカマド範囲を除外すると南壁2.95m、西壁4.35m、北壁3.86m、東壁3.84mで、南壁がやや短い。深さは29～42cmが遺存し、東壁がやや深い。南北の長軸方位はN1°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。カマド焚口部に炭化物が分布する。壁際に近い位置から土器片が出土したが、床面から浮いた状態で出土した。住居中央部床面から30cm大の細長い礫が、北東隅近くから50cm大と20cm大の礫が、北壁際から30cm大の礫がそれぞれ出土した。カマド構築材の一部と考えられる。

柱穴 P1・2・3を検出した。P2は比較的に深く、掘り込みは斜めに傾いていた。P1:29×24・深さ30cm、P2:33×29・深さ70cm、P3:32×29・深さ16cmで、芯々距離はP1-P3:276cm、P3-P2:170cmである。

カマド 床面で確認されたカマド2とカマド1がある。

カマド2は住居廃絶時に使用されたもので、南東隅に設置する。焚口付近は壊れていたが、燃焼部両脇の礫と奥壁天井部の礫は、元の位置で出土したとみられる。燃焼部右側で2個、左側で3個の礫が壁際に立て掛けられ、

奥壁天井部には40cm大の扁平な楕円形の礫が架けられていた。煙道壁際にも礫が立てられる。焚口と見られる位置から左右それぞれ20cm大の礫が1個出土した。左側の最も手前の礫は良く焼けており、左袖石であった可能性がある。カマド燃焼部から土器片が1個出土し、左袖部脇から椀1点が伏せた状態で出土した。カマド中軸線の方位はN54°Wで、東壁に直交しない。

カマド1は掘り方で確認されたもので、本住居は据え替えがあり、据え替え前に使用していたものと推定する。カマド1はカマド2の左側(北側)に接して位置する。焚口付近は壊れていたが、燃焼部両脇の奥側から煙道にかけて残る。カマド中軸線の方位はN66°Wで、東壁に直交しない。

貯蔵穴 南西隅で楕円形の掘り込みを検出し、貯蔵穴と考えられる。内部は二段に掘り込まれ、北東側は深さ26cmであった。規模は88×65・深さ40cmである。

掘り方 中央部は著しい凹凸があり、東壁沿いの幅30～80cmの帯状に平坦面が残る。北東隅付近で土坑2、東壁壁際で土坑3、中央部で土坑1・4・5を検出した。規模は土坑1:68×60・深さ22cm、土坑2:62×60・深さ23cm、土坑3:72×69・深さ38cm、土坑4:61×58・深さ4cm、土坑5:84×54・深さ8cmである。

その他 破片ではあるが、比較的遺物の量が多い。

遺物 本住居からは黒色土器と見られる椀(1380・1381)、椀(1379・1383・1384)・耳皿(1382)等の須恵器、灰釉陶器転用硯(1385・1386)、甕(1387)・釜(1388・1389)を含む土師器、器材埴輪片(1390)、円筒埴輪片(1391)、鉄製刀子(1392・1393)、鉄釘(1394)が出土した。1381は東壁際中央、1391は南壁際中央から出土している。また西壁際の南寄りからは1384、中央付近の床面直上から1380、北寄り床面直上から1393が出土し、北壁寄り中央付近から1392、南東部から1382が出土している。北西部とカマド出土の破片を接合したものが1390、カマド付近では、左袖付近から1383・1385、燃焼部付近からは略完形の1387が出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

124住居(第366・367・412図、PL.127・128)

検出位置 67区J14～J15グリッドで検出した。5区の中央部東寄りに位置する。

重複関係 93・94・125・135・138住居と重複し、いずれの住居よりも新しい。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。中央部で東西3.87m、南北4.34mで、南北にやや長い長方形を呈する。南東隅のカマド範囲を除外すると南壁3.29m、西壁4.00m、北壁3.59m、東壁3.48mである。深さは31～57cmが遺存し、西壁がやや深い。南北の長軸方位はN6°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。カマド前に炭化物が分布する。南西隅から土器片が床面から出土したほかは、床面から浮いた状態であった。中央部から北半部にかけて15～20cm大の礫が4点出土し、カマド構築材の一部と考えられる。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅に設置する。焚口部及び燃焼部に炭化物が分布し、25cm大の細長い礫が出土した。燃焼部は浅い掘り込みとなり、奥壁は住居ラインの外側にある。奥壁近くから出土した2個の礫は元の位置から動いているとみられる。東壁に貼付のように出土した扁平な礫は、左袖部の礫と推定され、これは元の位置にあると考えられる。カマド中軸線の方位はN69°Wで、東壁に直交しない。

貯蔵穴 南西隅で不整形の掘り込みを検出し、貯蔵穴と考えられる。規模は56×48・深さ42cmである。

掘り方 底面は著しい凹凸があり、北東隅から北西隅ー南西隅にかけて、不整形にやや深く掘り下げられていた。中央部は盛り上がった状態で高い。中央部で土坑2、南壁寄り土坑1を検出した。いずれも略楕円形を呈し、規模は土坑1：60×55・深さ23cm、土坑2：70×61・深さ29cmである。

その他 全体の形状を確認できたが、カマドの遺存は不良で、出土遺物が少ない。

遺物 本住居からは杯(1397)・羽釜(1399)を含む土師器、椀(1398)を含む須恵器が出土した。これらのうち、1397はカマドと掘り方から出土した破片を接合したもので、1399は120・129住居出土の破片との接合である。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、11世紀前半

の所産と推定する。

125住居(368・412図、PL.128・183)

検出位置 67区J15グリッドで検出した。5区の中央部東寄りに位置する。

重複関係 93・94・124住居、180土坑と重複し、93・94住居→125住居→124住居、125住居→180土坑の順に新しい。135住居とは接した状態で、新旧関係の判定は困難であった。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。調査範囲は狭いが、堆積状態から自然埋没と推定する。

壁 南東部の大半を124住居によって破壊されており、南西隅は180土坑によって失っていた。カマドの一部は124住居の東壁の外側で検出した。遺存していた範囲では、東西4.79m、南北3.43mで東西に長い長方形を呈する。南壁0.67m、西壁1.94m、北壁4.17m、東壁0.98mである。深さは15～42cmが遺存し、西壁沿いがやや深い。東西の長軸方位はN88°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた範囲では、ほぼ平坦である。北東隅付近は壁に向かって斜めに浅くなる。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅に設置する。検出した範囲は、燃焼部の約半分ほどと煙道の一部と考えられ、124住居東壁寄りの底面に灰が分布し、両側の壁面は良く焼けていた。20～25cm大の礫が出土し、25cm大の礫は断面径15cm前後でやや大きめである。左壁の礫は元の位置からの出土とみられるが、その他の礫は動いているようである。灰の分布範囲から土器片が3点出土した。遺存していた範囲では、カマド中軸線の方位はN65°Wで、推定される東壁に直交しない方向であり、住居の対角線の方位に近い。

貯蔵穴 南西隅で略楕円形の掘り込みを検出し、貯蔵穴と考えられる。規模は67×57・深さ26cmである。

掘り方 遺存していた範囲では、比較的平坦であり、重複する124住居の掘り方底面とは異なる。

遺物 出土遺物は多くなかったが、杯(1400・1401)等の須恵器や羽釜(1402)等の土師器の他、土鍾(1403)や鉄製紡錘車(1404)等が出土した。このうち1400は住居南西隅付近から、1401・1402・1404はカマドからの出土である。尚、1400は略完形の遺物であるが、124住居出土の破片

との接合である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

126住居(第369・412図、PL.128・129・183)

検出位置 67区J16グリッドで検出した。5区の中央部東寄りに位置する。

重複関係 126住居カマド煙道部が341土坑と重複し、126住居→341土坑の順に新しい。341土坑はAs-B混土で埋没する。

覆土 暗褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。中央部で東西3.65m(推定3.39m)、南北3.62mで、南北にやや長い長方形となる。南壁2.86m、西壁3.34m、北壁3.23m、東壁3.51mで、南壁がやや短く、東壁が長い。深さは17～44cmが遺存し、東壁が鋭い。長軸方位を南北方向にとると、N6°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。明確な炭化物の分布はなく、東壁南東隅部寄りにカマド痕跡を検出した。中央部の土器小片は床面直上から出土したが、その他の土器は床面から浮いた状態であった。中央部南寄りで20cm大の礫が出土し、カマド構築材の一部と考えられる。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りに設置する。燃焼部は住居壁ラインに半分ほどかかり、右軸部の痕跡が遺存していた。煙道部相当の位置に341土坑が確認され、煙道部を破壊していた。燃焼部奥壁から341土坑にかけて、15～20cm大の礫が3個出土した。礫は元の位置から動いているとみられる。また、燃焼部から土器片(1407)が1点出土した。カマド中軸線の推定方位はN68°Wで、東壁に直交しない。

貯蔵穴 南東隅で掘り込みを検出し、貯蔵穴と考えられる。規模は62×42・深さ24cmである。

掘り方 須恵器北西部は比較的平坦だが、東半部から南西隅にかけての底面は凹凸が著しい。

遺物 杯(1405・1406)等の須恵器や壘(1407)等の土師器が出土した。1405・1406は床下の土坑1の中と周辺から出土したものであり、1407はカマドからの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

127住居(第370・411図、PL.129・130)

検出位置 67区K12～L13グリッドで検出した。5区の南端部に位置する。

重複関係 97住居、314土坑と重複し、97住居→127住居→314土坑の順に新しい。

覆土 灰褐色系の土で埋没する。床面直上に黒褐色土が薄く堆積する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出した。中央部で北西-南東4.18m、北東-南西3.46mで東西方向に長い長方形を呈する。南西壁3.45m、北西壁3.17m、北東壁3.78m、南東壁3.04mで、北西壁がやや曲り、北東壁が直線的である。深さは16～34cmで、北東壁沿いが深い。長軸方位はN64°Wである。

床面 中央部がやや高く、壁際が低い。東壁南東隅寄りにカマド痕跡を検出した。カマド前北側の土器片は床面直上から出土したが、南側の土器は床面から浮いた状態であった。北東隅から2点(30cm大+15cm大)、南西壁際から20cm大の礫1点が床面近くから出土した。カマド構築材の一部と考えられる。

柱穴 掘り方調査でP1を検出した。検出位置を勘案すると、柱穴とは断定できない。規模はP1:40×35・深さ16cmである。

カマド 南東壁南寄りに設置する。燃焼部は住居屋外側に備える。焚口側の径60cmほどの浅い窪みの上位で灰層を検出した。従って、主要な燃焼部はこの浅い窪みの位置にあったと推定される。燃焼部奥壁近くのやや左壁(北壁)寄りの位置から、立てた状態の細長い礫(長22cm・7cm角)が出土した。礫は明らかに据えられた状態であり、支脚として利用されたと考えられる。この礫の位置は燃焼部奥壁端近くにあり、主要燃焼部よりも煙道部寄りである。カマド中軸線の方位はN63°Wで東壁に直交する方向であり、住居の長軸方位とほぼ同じである。

貯蔵穴 不明。

掘り方 底面は全体的に凹凸が著しい。中央部と南西隅付近が不整形に掘り込まれていた。北西隅近くに土坑1、南壁寄りに土坑2を検出した。規模は土坑1:96×81・深さ36cm、土坑2:112×75以上・深さ15cmである。

遺物 出土遺物は多くなかったが、土師器片や、椀(1395)、杯と思われるもの(1396)を含む須恵器の出土があった。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

128住居(第371・372・412図、PL.130・183)

検出位置 67区K13～K14グリッドで検出した。5区の南東部に位置する。

重複関係 129住居・135住居、348土坑、31溝と重複し、129・135住居→128住居→348土坑→31溝の順に新しい。

覆土 黒褐色～灰褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出したが、南壁の東寄りには348土坑と31溝によって破壊されていた。西壁は二段に掘り込まれ、南寄りでやや張出しており、南西隅が丸味を帯びる。中央部で東西4.23m、南北4.45mで、南北にやや長い長方形を呈する。南壁3.23m、西壁4.14m、北壁3.49m、東壁3.26mである。深さは34～55cmが遺存し、東壁が浅い。長軸方位はN4°Wである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。南東隅に炭化物が分布し、カマドは斜めに煙道が延びる。北壁中央部壁際の土器は床面から出土したが、北東隅付近の土器は床面から浮いた状態で出土した。中央部北西寄りの床面から出土した礫は、カマドの構築材の可能性が高い。

柱穴 掘り方調査で円形のP1を検出した。検出位置を勘案すると、柱穴とは断定できない。規模はP1:48×45・深さ37cmである。

カマド 南東隅に設置する。燃焼部奥壁の住居外の形状が角張り、東壁の延長線と南壁の延長線とが交差する点で、燃焼部のほぼ中央部南端に相当する。角張った外形の内側に25cm大の礫を立てた状態で据えて、奥壁天井部の基礎としていと考えられる。カマド中軸線の方位はN62°Wで、東壁とは直交しない。

貯蔵穴 南東隅で検出した不整形の掘り込みが貯蔵穴と考えられる。規模は47×39・深さ45cmである。

掘り方 底面は全体的に凹凸が著しい。北東隅付近と南壁沿いが不整形に掘り込まれていた。P1は中央部やや北西寄りである。カマド燃焼部と焚口部の小穴は、袖石等の掘り方と考えられる。

その他 カマド構築材に使用されたと推定できる礫は1個出土したのみであり、改築し持ち出されたか、住居外に投棄された可能性がある。

遺物 杯(1408・1409)・椀(1410)を含む須恵器、甕(1411)を含む少量の灰陶陶器、酸化焰焼成の羽釜を含む土師器、そして不明鉄製品が出土した。このうち1408は西壁際中央から、1410・1411・1412・1413はカマドからの出土遺物である。カマド内の奥壁近くから出土した、羽釜片(1412・1413)は、煙道入り口の付近のカマド構築材として利用された可能性が高い。尚、1409は135住居出土遺物と、1411は119住居出土遺物との接合品である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

129住居(第373・413図、PL.130・131・183)

検出位置 67区K13～L14グリッドで検出した。5区の南東部に位置する。

重複関係 128住居・130住居・132住居と重複し、130・132住居→129住居→128住居の順に新しい。

覆土 黒褐色～暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 ほぼ全体の形状を検出したが、東壁は128住居によって破壊されており、カマドは南寄りで痕跡を検出したのみである。遺存していた北寄りで東西4.08m、中央部の南北3.62mで、東西にやや長い長方形を呈する。南壁3.27m(推定3.6m)、西壁3.41m、北壁3.12m、東壁1.45m(推定3.4m)である。深さは29～34cmが遺存する。長軸方位はN90°である。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。東壁南寄り相当の位置で、礫士の分布を確認した。丁度128住居の西壁がかかる地点で、カマド痕跡を検出したと考えられる。周辺から20cm大の礫が3個出土したが、床面からやや浮いた状態であり、元の位置から動いていると推定する。西壁寄りから出土した羽釜(1420)は床面直上から出土したが、その他の土器は床面から浮いた状態であった。その他の礫は、ほぼ床面出土である。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りで検出した焼土分布が、カマド底面の痕跡とみられる。上位は128住居西壁によって破壊され、袖部・煙道部等の構造は遺存していなかった。3個

第4章 検出された遺構と遺物

の礫は元の位置から動いているとみられる。

貯蔵穴 南壁中央壁際で略円形の土坑1を検出した。貯蔵穴の可能性が高い。規模は67×62・深さ19cmである。中から礫3個が出土した。

掘り方 底面は比較的平坦だが、全体的に小穴が多い。

その他 床面を形成する土が薄い。地山を掘り込んで、少しの整形で床面としたと推定される。

遺物 杯(1418・1419)・羽釜(1420)を含む須恵器や、少量の土師器が出土した。このうち1419は住居北東部から、1420は西壁沿い南寄りから出土している。尚、1420は130住居出土破片との接合である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

130住居(第374・413図、PL.131・183)

検出位置 67区L14～M14グリッドで検出した。5区の中央部南寄りに位置する。

重複関係 129・131・132住居、175・179・188土坑と重複し、131・132住居→130住居→129住居、130住居→175・188土坑の順に新しい。179土坑との関係は判定できない。

覆土 暗褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 南東隅・東壁南半部は129住居によって破壊され、不明である。カマドも同様に破壊され、焼土・灰の小さな分布を確認したのみである。また、北西隅に丸味を帯び、全体として不整形を呈する。遺存していた北寄りで東西2.44m、中央部の南北3.74mで、南北に長い。南壁2.00m(推定2.7m以上)、西壁3.13m(推定3.4m)、北壁2.15m、東壁1.08mである。東壁全長の推定は困難である。深さは26～47cmが遺存し、南壁沿いが深い。長軸方位はN15°Eである。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。東壁南寄り相当の位置で、焼土・灰の狭い分布を確認した。129住居の西壁がかかる地点で、カマド痕跡を検出したと考えられる。礫の出土はなかった。カマド前相当の位置から土器片と金属製品が出土した。いずれも床面から浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りで検出した焼土・灰の分布が、カマド底面の痕跡とみられる。上位は129住居西壁によって

破壊され、袖部・煙道部等の構造は遺存していなかった。燃焼部を想定させる範囲を検出したのみで、礫は出土しなかった。

貯蔵穴 検出しなかった。

掘り方 底面の凹凸が著しく、全体的に小穴が多い。北西隅近くに焼土が分布していた。また、南西隅では不整形の掘り込みを検出した。175土坑または188土坑の影響で掘り下げってしまった可能性もある。カマド燃焼部相当の位置で不整形の掘り込みが認められた。

その他 住居の外形が不整形であるが、概ね南北に長く、平行四辺形のようにやや歪んだ形状が推定できる。

遺物 本住居からは僅かな量の土師器片と杯(1422)・椀(1423)・甕(1424)を含む須恵器、鉄製の紡錘車(1425)や刀子(1426)、金属製容器(1427)が出土した。このうち、1425・1427はカマド前から、1421はカマドから、1423はカマド掘り方からの出土である。尚、1427は銅製の可能性がある銅製品で、床面からやや浮いた状態で、土器の下から出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

131住居(第375・413図、PL.131)

検出位置 67区L14～M15グリッドで検出した。5区の中央部南寄りに位置する。

重複関係 130・132住居、179・310土坑と重複し、132住居→131住居→130住居、131住居→179・310土坑の順に新しい。

覆土 褐色～黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 南東隅を130住居により破壊され、北壁東寄り310土坑によって破壊されていた。中央部北東寄りには新しい179土坑が入る。北寄りの東西3.53m、西寄りの南北3.71mで南北にやや長い。南西隅が鈍角をなして開いているため、全体の形状は歪んでいたと推定される。南壁1.10m以上、西壁3.10m、北壁3.1m、東壁1.72mである。西壁に平行な南北の長軸方位はN2°Eである。深さは21～35cmが遺存していた。

床面 遺存していた範囲では、ほぼ平坦である。カマドは東壁から南東隅のどこかに設置されたと推定するが、

130住居によって破壊されていた。130住居掘り方調査で検出した焼土分布範囲は、131住居のカマドの想定位置とは合わない。

柱穴 検出しなかった。

カマド 不明。

貯蔵穴 検出しなかった。

掘り方 中央部は比較的平坦で、壁寄り底面の凹凸が著しい。中央部で土坑1を検出した。規模は55×45・深さ20cmである。

その他 壁の遺存は比較的良好だが、遺物は少ない。

遺物 灰軸陶器碗(1428・1429)の他、羽釜(1430)等少量の須恵器が出土した。130住居との境界付近で1428が、掘り方調査で北西隅から1429がそれぞれ出土した。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

132住居(第376・413図、Pl.132)

検出位置 67区L14～L15グリッドで検出した。5区の中央部南寄りに位置する。

重複関係 130・131・133住居、187・349土坑と重複し、132住居→131住居→130住居、132住居→133住居、133住居→187・349土坑の順に新しい。

覆土 褐色～暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 南西隅を130住居に破壊され、西壁の大半は131住居で破壊されていた。また、北東部は133住居によって破壊されていた。南壁は129住居の北壁と接するように平行し、新旧関係は確認していないが、132住居のカマドの位置を勘案すると、同時に存在するのは困難とみられる。カマド前から燃焼部にかけて新しい187土坑があり、カマドの大半を失っていた。東西は2.6m以上、南北は推定3.7mで、北西隅の形状から推定すると、南北に長い不整形な長方形を呈する。南壁1.96m以上、西壁0.83m以上、北壁推定2.1m、東壁1.57m(推定3.2m)である。深さは31～34cmが遺存していた。長軸方位は、N0°である。

床面 遺存していた範囲では、ほぼ平坦である。カマドは南東隅に設置され、187土坑によって大半を失っていた。南西隅近くと、東壁中央部の壁際から20cm大の礫が出土したが、いずれも床面から浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅に設置する。187土坑で破壊されていたが、燃焼部奥壁が遺存していた。中から土器片が出土した。中軸線の方位は遺存していた範囲で推定するとN87°Wで、東壁にほぼ直交する方位となる。

貯蔵穴 南西隅相当の位置で検出した。規模は59×54・深さ38cmである。

掘り方 底面に小穴が多く、凹凸が著しい。西半部は不整形に掘り込まれていた。

その他 壁の遺存は比較的良好だが、形状が不整形で、遺物が少ない。

遺物 甕(1431)・甕(1432)等の土師器や須恵器が少量出土した。このうち1432はカマドからの出土であるが、カマド内から出土した土器のほかは、小片である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

133住居(第377・413図、Pl.132・183)

検出位置 67区K15～L15グリッドで検出した。5区の中央部やや東寄りに位置する。

重複関係 132・134住居、349・350土坑と重複し、132住居・134住居→133住居→349土坑、350土坑→133住居の順に新しい。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 重複する132・134住居よりも新しいが、火処が見当たらない。北東隅に丸柱があり、東西4.45m、南北3.65mで、東西に長い長方形を呈する。南北にやや潰れたような長方形である。南壁4.28m、西壁3.21m、北壁4.11m、東壁3.40mである。長軸方位はN89°Eである。深さは28～40cmが遺存し、東側がわずかに深い。

床面 細かい凹凸はあるが、ほぼ平坦である。東壁南寄りの壁から北西に向かって礫層が堆積し、床面と壁の一部に露出した状態であった。東壁南寄りの壁際から須恵器杯(1433)が出土し、南壁東寄りの床面から浮いた状態で須恵器杯(1434)他1片が出土した。

柱穴 検出しなかった。

カマド 不明。本遺跡で通例の東壁沿いでは、カマド痕跡を検出できなかった。南壁西寄りの349土坑の位置にあった可能性も残るが、痕跡がまったく残らないとは考え

られないので、本遺構には火処がなかった可能性が高い。

貯蔵穴 南壁沿いの東寄りで略円形の土坑1を検出した。規模は62×57・深さ34cmである。貯蔵穴の可能性が高い。

掘り方 底面に小穴が多く、凹凸が著しい。西壁から約20cmほど離れた位置に、壁と平行な細い溝を検出した。長さ134cmで、上面幅22～26cm、底面幅9～10cm、深さ11～16cmである。

その他 掘り方調査で検出した西壁沿いの溝は、いわゆる「根太」痕跡の可能性が高い。火処の見当たらない住居は、本遺跡では類例が少なく、「竪穴」と呼ぶべきかもしれない。

遺物 出土遺物は少なかったが、土師器片や、杯(1433～1435)等の須恵器が出土した。このうち東壁南寄りの壁際から出土した1433は完形に復元できる。また1434は住居南東部から、1435は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、11世紀前半の所産と推定する。

134住居(第378・410図、PL.133)

検出位置 67区L15～L16グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 133住居→248・334・346・347・350土坑と重複し、134住居→350土坑→133住居、133住居→248・334・346・347土坑の順に新しい。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。殆ど1層なので自然・人為の判定は困難である。

壁 南東壁南寄り相当の位置で、133住居掘り方調査時に炭化物の分布範囲を確認した。カマド痕跡と考えられる。南隅を133住居に、東隅を334土坑によって破壊されていた。南東壁中央部付近は350土坑が重複する。北東—南西4.81m、南東—北西3.88mで、北東—南西方向に長い長方形を呈する。北東壁に比べて西壁が短いので、やや歪んでいる。南西壁2.26m(推定3.2m)、北西壁4.61m、北東壁3.76m(推定3.8m)、南東壁1.02m(推定4.7m)である。長軸方位はN29°Eである。深さは21～39cmが遺存していた。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面はほぼ平坦である。カマド痕跡近くは、わずかに高い。

柱穴 検出しなかった。

カマド 133住居掘り方調査で、40×45cmほどの範囲で炭化物分布を検出し、カマド痕跡とみられる。カマド底面の焼けた土を検出していないので、炭化物分布範囲はカマド前に相当すると考えられ、カマド本体の位置はやや東寄りになると推定される。

貯蔵穴 検出しなかった。

掘り方 底面に小穴があり、細かい凹凸が認められた。底面は硬く締まった地山である。

その他 カマド本体の位置がやや東に寄ると、南隅の位置も東に寄った位置に推定され、南西壁の長さが北東壁に近くなる。

遺物 本住居の出土遺物は少なかった。少量の土師器片や杯(1375)・碗(1376・1377)等の須恵器、そして段皿(1378)等僅かな灰陶器片が出土した。

時代・時期 重複する遺構との新旧関係と、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

135住居(第379・380・412図、PL.133・184)

検出位置 67区J14～K15グリッドで検出した。5区の中央部やや西寄りに位置する。

重複関係 124・125・128住居、263・313土坑、31溝と重複し、135住居→124・128住居→31溝、135住居→263・313土坑の順に新しい。125住居とは北壁が接する状態であり、138住居は135住居カマド煙道部先端に接する状態になる。135住居と125・138住居とは、同時に存在するのは困難と考えられる。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 北東隅を124住居に切られ、南西部を128住居によって破壊されていた。31溝が略南北に走行する。中央部で東西4.10m、東寄りで南北5.01mで、南北に長い長方形を呈する。南壁0.78m(推定3.7m)、西壁2.96m(推定4.2m)、北壁3.54m(推定3.8m)、東壁3.37m(カマドを含み推定4.8m)である。深さは4～35cmが遺存し、重複の少ない西壁が深い。長軸方位はN0°である。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面はほぼ平坦である。カマド前には炭化物が分布し、わずかに高い。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りに設置する。燃焼部の半分ほどが住居の屋外側にあり、屋内の内側に広く炭化物が分布する。

奥壁相当部分が良く焼けて変色していた。これに似た変色が南側に接する範囲にも認められ、炭化物はその西側にも分布する。周辺から10～35cm大の礫5個が出土したが、散乱状態から、元の位置ではないと考えられる。掘り方調査の状態を参考にすると、中軸線の方位はN75°Wとなり、東壁に直交しない。

貯蔵穴 検出しなかった。

掘り方 遺存していた底面は凹凸が著しい。カマド前は径約1mほどの浅い掘り込みとなり、奥壁とは別に、住居壁ラインと同じ位置に段が認められた。

その他 カマド奥壁相当の位置が焼土化していたほか、その南側に接する位置でも焼土化範囲が認められたことから、古いカマドを造り変えた可能性がある。

遺物 少量の土師器片や杯(1415・1416)等の須恵器や、土製円板(1417)が出土した。このうち1416は掘り方からの出土である。カマド内から土器片が出土したほか、中央部西寄りの床面からやや浮いた状態で土器片が出土した。

時代・時期 重複する遺構との新旧関係と、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

136住居(第381・382・414図、PL.133・134・183)

検出位置 67区P15～Q15グリッドで検出した。5区の中央部西端に位置し、南西壁にかかる。

重複関係 137住居、338・339・340土坑と重複し、137住居→136住居、136住居→338・339・340土坑の順に新しい。102住居との新旧関係は調査区内では判定できなかったが、同時存在は困難と推定する。また、8壁穴との新旧関係も判定できなかった。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 南西部は調査区外にある。北西隅を338土坑によって破壊されていた。カマドは調査区南西壁にかかり、全体の2/3ほどを調査した。北壁寄りでは東西3.48m、東壁寄りでは南北3.47m以上である。西壁0.41m、北壁2.02m(推定2.6m)、カマドを除く東壁3.46mが遺存し、深さは13～33cmが残っていた。長軸方位は計測困難である。

床面 細かい凹凸はあるが、遺存していた床面はほぼ平坦である。焚口部には炭化物が分布する。東壁寄りから出土した礫4個は床面直上から出土したが、中央部北寄

りの出土の礫は床面から浮いた状態で出土した。1436も浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 東壁南寄りに設置する。焚口付近の礫はなく、燃焼部の両脇～奥の壁石が遺存していた。燃焼部奥が住居壁ラインにかかり、奥壁に近い位置の両脇には、扁平な礫が壁に立てかけた状態で出土した。南西壁で2個、北東壁も2個が元の位置にあると推定される。燃焼部の南西側の礫の上に粘土があり、北東側ではもっとも焚口に近い礫に粘土が認められた。燃焼部奥の両脇から煙道部は斜めに立上り、長さ55cmのトンネルとなって煙出しに至る。燃焼部の奥寄りでは、長さ20cm前後の細長い礫が立てた状態で据えてあり、支脚に利用したと考えられる。炭化物は焚口側に多く分布していた。住居内から礫が出土しており、カマド構築材の一部と考えられる。中軸線の方位はN71°Wで、東壁に直交しない。

貯蔵穴 検出しなかった。

掘り方 底面には小穴が多数認められ、北東隅と北西隅付近は不整形に掘り込まれていた。カマド左脇に浅い掘り込みが認められた。

その他 カマド燃焼部両脇の壁石の遺存が良好であるのに対し、焚口付近は破損していた。

遺物 灰(1438～1440)・羽釜(1441酸化焙焼成)等の土師器や、杯(1436・1437)等少量の須恵器、そして不明鉄製品(1442)が出土した。出土遺物はカマド内から土器片が比較的多く出土したが、1436は住居東部中央、1437は西壁北寄り、1438～1441はカマド燃焼部付近から、1442は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

137住居(第383・414図、PL.135・184)

検出位置 67区P14～P15グリッドで検出した。5区の中央部西端に位置し、南西壁にかかる。

重複関係 136住居、178・343土坑と重複し、137住居→136住居、137住居→178・343土坑の順に新しい。

覆土 褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 南西部は調査区外にある。北壁の調査区壁際には136住居カマドによって破壊されていた。東壁南端にはカマ

第4章 検出された遺構と遺物

ドが設置されていたが、南側は調査区外にある。北壁1.58m(推定2.5m以上)、カマドを除く東壁2.34m(推定3.1m)である。深さは25~33cmが遺存していた。長軸方位は計測困難である。

床面 凹凸があり、不安定であった。焚口部には炭化物が分布し、礫が出土した。東壁の壁際から1444の土器が出土し、その脇から扁平な礫が立てた状態で出土した。掘り方底面に達する深さに埋没していることから、人為的に壁に沿って埋めた礫と考えられる。

柱穴 検出しなかった。

カマド 検出した東壁の南端にある。焚口付近の礫は動いており、燃焼部奥の二つの礫は元の位置にあると考えられる。この二つの礫は壁際を掘り込んで据えたような状態であった。カマド前に炭化物が分布し、奥壁手前の底面に焼土が分布していた。中軸線の方位は測定困難だが、元の位置と考えられる礫の位置を重視すれば、概ね東西方向と推定される。

貯蔵穴 検出しなかった。

掘り方 北東隅から東壁にかけて、不整形なやや深い掘り込みが認められた。深さは15~35cmである。中から土器と不明鉄製品(1448)が出土した。

その他 掘り方調査で焚口部に小穴を3箇所検出した。掘り方調査で検出した不整形掘り込みは、陥没痕跡の可能性がある。

遺物 少量の土師器片と、黒色土器(1443)、杯(1444・1445)・椀(1446)・鉢と見られるもの(1447)を含む須恵器、不明鉄製品(1448)が出土した。遺物は住居の床面と掘り方、カマドとカマド掘り方から出土しているが、1445~1447はカマドから、1443北東寄り、1444東壁際、1448は掘り方からの出土である。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

138住居(第384・414図、Pl.135・136・184)

検出位置 67区J13~J14グリッドで検出した。5区の南東部寄りに位置し、3河道の西岸にある。

重複関係 124住居と重複し、138住居→124住居の順に新しい。135住居のカマド煙道部は138住居西壁と接する位置にあり、両者が同時に存在することは困難である。

覆土 暗褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋

没と推定する。

壁 北壁は124住居によって破壊され、不明であるが、北西端は隅に近い位置にあると推定する。南東隅にカマドが設置される。中央部で東西3.42m、南北3.88m以上であり、略南北に長い長方形を呈する。やや歪んでいる。カマドを除くと南壁2.63m、西壁4.06m(推定4.2m)、北壁推定3.1m、東壁3.54m(推定3.8m)である。深さは10~25cmが遺存し、西壁側が深い。長軸方位はN10°Wである。

床面 緩やかな凹凸がある。焚口部に炭化物が分布し、西壁際から土器片が出土したが、床面から浮いた状態であった。

柱穴 検出しなかった。

カマド 南東隅に設置する。燃焼部は屋内側にあり、炭化物が分布していた。燃焼部は深さ10cm前後の浅い掘り込みとなり、いくつかの礫が出土したが、いずれも元の位置から動いているとみられる。燃焼部奥壁相当の位置から、長さ20cm大の礫が出土した。この礫も動いている可能性が高い。中軸線方位はN53°Wで、東壁とは直交しない。

貯蔵穴 南西隅で略楕円形の掘り込みを検出し、貯蔵穴とみられる。底部の南寄り住居壁の南側に広がる。規模は72×61・深さ30cmである。

掘り方 カマド焚口相当の位置に、径30~40cmの掘り込みを3箇所検出した。袖石を据えた掘り方か。底面は床面と同様に緩やかな凹凸があり、小礫が露出する。

その他 東半部の掘り込みが浅く、カマドも遺存不良である。

遺物 土師器甕(1449)と還元焰焼成の羽釜(1450)、須恵器甕の破片を転用したとみられる硯(1451)等少量の須恵器が出土した。このうち1450・1451は住居西壁の中程からの出土である。また、カマドの底面と西壁際から土器片が出土している。

時代・時期 出土遺物の特徴から、10世紀後半の所産と推定する。

竪穴

5区で検出した竪穴は、2面検出の8竪穴のみである。火処がなく、底面水準で多数の礫を出土した。

8竪穴(第385・414図、PL.136・184)

検出位置 67区P15グリッドで検出した。5区の中央部西寄りにあり、調査区の南西壁に近い。

重複関係 南西隅付近は136住居に接するか、切られた状態だが、判然としない。

覆土 黒褐色系の土で埋没する。底面には5～30cm大の礫が多数分布する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 北西隅と北東隅を検出したが、南西隅から南壁は確認できなかった。西壁1.25m、北壁2.37m、東壁2.56mで、東壁には張出し部がある。張出し部は97×31cmの大きさで、東端部の長さは63cmである。深さは8～18cmが遺存し、北西部がやや深い。底面近くから土器片が出土した。東西軸の方位はN89°Wで、ほぼ東西に近い。

底面 礫層上面が露出したような状態だが、東壁沿いの底面には、礫が見当たらない。南半部の礫の間から土器片(1452・1453等)が出土した。

掘り方 不明。

その他 隣接する136住居では、8竪穴よりも下位の面まで掘り下げており、調査区南西壁の136住居付近には礫の堆積はみられない。局所的に礫層が堆積した場合、礫を竪穴内に集めた場合と考えられる。礫を集めた用途は不明である。

遺物 多量の礫と共に、椀(1452)を含む少量の須恵器と、羽釜(1453酸化焰焼成)を含む僅かな土師器片、緑軸陶器皿(1454)が出土した。1452は中央部南寄り、1453は南壁東寄りから出土している。

時代・時期 わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半頃と推定する。

溝

5区2面では34・36溝a・36溝bの3条を検出した。36溝aと36溝bは、調査中に同じ番号を付けてしまったため、aとbで区別した。位置的にも離れており、溝の様相も違っていることから、異なる溝と考えられる。

34溝(第386図、PL.136)

検出位置 67区R17～R18グリッドで検出した。5区の北西部にあり、調査区北壁にかかる。

重複関係 36溝aと重複し、36溝a→34溝の順に新しい。34溝は1面の32溝に切られているため、36溝a→34溝→32溝の順に新しいことになる。

覆土 灰褐色～褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 斜めに立ち上がる。長さ約7.8mを検出した。南端でやや湾曲し、その南東部で32溝に切られて確認困難となる。上面幅72～96cm、底面幅28～75cmで、深さは確認面から26～35cmである。直線部の走行方位はN21°Eである。

底面 南寄りにやや平坦な面が広がる。底面標高は南端128.13m、北端128.06mで、その差は7cmしかなく、最大値でも12cmであるので、水流の向きは判定困難である。

その他 34溝の走行を4区で追うと、4区2面の44溝に連なるようにみえるが、4区43溝につながる可能性もある。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 4区43溝または44溝につながるとすると、4区の31・32・57住居等に切られていることと、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半～11世紀の所産と推定する。

36溝a(第386図、PL.136・137)

検出位置 67区Q17～R18グリッドで検出した。5区の北西部にあり、調査区北壁にかかる。

重複関係 34溝と重複し、36溝a→34溝の順に新しい。34溝は1面の32溝に切られているため、36溝a→34溝→32溝の順に新しい。

覆土 上位にAs-B軽石粒を含む灰褐色土がほぼ水平に堆積し、直下の2層を覆っており、これらは36溝a覆土とみられる3層の上位にある。褐色系の土で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 斜めに立ち上がる。長さ約9.3mを検出した。ほぼ直線的に延びる溝で、5区での走行方位はN48°Wである。調査区北壁の直近で34溝と交差し、34溝に切られていた。南東端は細くなって確認困難となる。上面幅48～85cm、底面幅23～63cmで、深さは確認面から1～23cmで

ある。

底面 中央部から南東寄りに、やや平坦な面がある。底面標高は南東端で127.98m、北西部で128.08mであり、その差は10cmしかなく、5区の範囲では通水方向は判定困難である。

その他 36溝aの走行を4区で追うと、4区2面の36溝に連なるようにみえる。幅にわずかな広狭があり、36溝aの走行延長につながるごと、形状が似ていること等から、4区36溝と5区36溝aは同一の溝と考えられる。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 4区36溝につながるとすると、4区の56・34住居に切られていることと、As-B軽石粒混土の下位で検出していること、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半～11世紀の所産と推定する。

36溝 b (第386図、PL.137)

検出位置 67区L11～L12グリッドで検出した。5区の南端に位置する。

重複関係 97・122住居と重複し、97住居→36溝b→122住居の順に新しい。

覆土 暗褐色系の上で埋没する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 浅く斜めに立ち上がる。長さ約5.6mを検出した。西側にわずかに突出する弧を描く溝で、北端中央と南端を結ぶ線の方位はN21°Wである。北端は122住居によって切られていた。南端は細くなって確認困難となる。上面幅68～97cm、底面幅30～47cmで、深さは確認面から2～40cmである。

底面 西岸には中段があり、南半部の形状は不整形となる。全体の2/3には大小の耕具痕が認められたが、住居との新旧関係を勘案すると、この耕具痕は後世の耕作が深く及んだもので、溝内部のみに遺存していたと考えられ、溝に伴う痕跡ではないと推定する。底面標高は北端で127.61m、南端付近で127.93～127.96mであり、通水があれば北へ向かっていたと推定される。

その他 36溝bは北端で122住居に切られて途切れ、122住居の北側では確認できなかった。用途は不明である。

遺物 出土遺物は無かった。

時代・時期 住居との新旧関係と、わずかな出土遺物の特徴から、10世紀後半～11世紀の所産と推定する。

畠

5区2面では5箇所の畠を検出した。それぞれ単独の溝状を呈し、畠間のサクとみられる。底面に耕具痕が検出される溝がある。

13畠(第387図、PL.137)

検出位置 67区N15グリッドで検出した。5区のほぼ中央部に位置する。

重複関係 121住居、303土坑と重複し、121住居→13畠→303土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の上でサクが埋没する。

壁 南北2.47mを検出した。幅17～25cm、深さは3～13cmである。サクの方位はN5°Wである。

底面 底面幅は6～13cmである。

その他 底面の一部に耕具痕が遺存する。1面33溝の確認面から約30cmほど下位にあり、33溝の調査漏れではないと考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 重複する遺構との新旧関係から、平安時代の所産と推定する。

14畠(第387図、PL.137)

検出位置 67区O18グリッドで検出した。5区の中央部北寄りに位置する。

重複関係 323土坑と接する状態であり、新旧関係は判定できなかった。

覆土 灰褐色系の上でサクが埋没する。

壁 略東西方向に延びる溝状を呈し、長さ2.53mを検出した。幅17～31cm、深さは2～6cmである。平面形状に広狭があり、不整形である。サクの方位はN75°Eである。

底面 底面幅は5～18cmである。

その他 底面に耕具痕が遺存する。1面8畠北端のサク底面標高は128.20m、14畠底面の標高は127.90～127.97mで、その標高差は23～30cmあり、1面8畠の掘り残しとは考えにくい。しかし、1面畠と重ねた図をみると、方位が良く似ているので、8畠の調査漏れか、下層の遺構か断定困難であるが、現地所見を尊重して、ここでは2面の14畠と呼び、別の畠としておく。

遺物 なし。

時代・時期 検出面の層位から、平安時代の所産と推定

する。

15畠(第387図、PL.137)

検出位置 67区N16グリッドで検出した。5区の中央部に位置する。

重複関係 232土坑と重複し、15畠→232土坑の順に新しい。

覆土 黒褐色系の土でサクが埋没する。

壁 略南北方向に延びる溝状を呈し、長さ1.72mを検出した。幅19～24cm、深さは8～12cmである。サクの方位はN11°Wである。

底面 底面幅は5～13cmである。

その他 1面8畠の畝間サクの方位とはほぼ直交する。8畠のサクが33溝に接する地点の底面標高は128.22m、そこに近い15畠サク底面の標高は127.82mで、標高差は40cmである。従って8畠の調査漏れとは考えにくく、2面の遺構とみられる。

遺物 なし。

時代・時期 検出面の層位と土坑との新旧関係から、平安時代の所産と推定する。

16畠(第387図、PL.137)

検出位置 67区K14～K15グリッドで検出した。5区の中央部やや東寄りに位置する。

重複関係 133住居と接した状態で、新旧関係は判定できなかった。

覆土 橙色系の土でサクが埋没する。

壁 略南北方向に延びる溝状を呈し、長さ1.67mを検出した。幅15～27cm、深さは1～8cmである。底面に耕具痕がある。サクの方位はN2°Wである。

底面 底面幅は6～16cmである。

その他 1面の31溝と187土坑との間に位置し、周囲には1面の畠を検出していない区域である。底面に耕具痕を検出していることから、1面の可能性がある。しかし、この付近の1面確認面の標高は128.10m、D土層を記録した付近の標高が127.96mであり標高差は14cmであること、埋没土が橙色土(第2面地山に近い)であること、1面耕具痕と比較して大きめの形状で鋭い掘削ではないことから、2面の遺構と考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 検出面の層位と埋没土から、平安時代の所産と推定する。

17畠(第387図、PL.137)

検出位置 67区L16グリッドで検出した。5区の中央部やや北寄りに位置する。

重複関係 なし。

覆土 黒褐色系の土でサクが埋没する。

壁 北東-南西方向に延びる溝状を呈し、長さ1.69mを検出した。幅22～28cm、深さは3～9cmである。底面に耕具痕がある。サクの方位はN44°Eである。

底面 底面幅は9～18cmである。

その他 北西約5mの位置に1面の10畠、南西2mの位置に1面耕具痕が分布するが、10畠とは方位がやや異なる。また、10畠付近の遺構確認面標高は128.20m、17畠の土層を記録した地点の標高は128.01mで標高差は19cmであること、1面の耕具痕と比較して不整形で鋭い掘削ではないことから、2面の遺構と考えられる。

遺物 なし。

時代・時期 検出面の層位と、1面畠と方位が異なることから、平安時代の所産と推定する。

土坑・ピット(第388図)

5区2面では土坑120基とピット18基を検出した。中央部に比較的集中し、東端寄り・西端寄りでは密集しない傾向がある。以下、特徴ある土坑や遺物を出土した遺構を中心に記述する。個別遺構図は、番号順に掲載すると重複が生じて煩雑かつ紙数が増加するため、ここでは概ね北西部から南東部にかけて「Z」の字状に範囲を区切って掲載する。従って、番号順の掲載にはならない。土坑番号は174・175・177～180：6基、197～200：4基、211～270：60基、301～350：50基、ピットは103～120：18基である。個別の土坑・ピットの計測値等は表にまとめた。

土坑(第389～397・415図、PL.138～146・184)

197土坑(第389図)は322土坑と重複し、322土坑→197土坑の順に新しい。不整形だが、円形に近い形状である。少量の須恵器片と底部近くから不明鉄製品(1457)が出土した。

211土坑(第390図、PL.138・184)は中央部北寄りに位置し、不整形の形状で、中から須恵器杯(1458)と不明鉄製品(1459)が出土した。

319土坑(第390図)は3河道の岸辺に位置し、一辺200cmを超える略長方形の土坑で、320土坑より新しい。僅かな須恵器片が出土した。

226土坑(第389図)は北西部に位置し、103住居カマドを切って造られている。

北東部に分布する255・256・257・258・259・260・261土坑(第391・394図)は、何も無い空間を取り巻くように円形に分布する。

223・220土坑(第392図)は隅丸長方形を呈し、平行して並んでいるように見える。220土坑の方が約10cmほど深い。孰れの土坑からも僅かな土師器・須恵器片が出土した。

341土坑(第394図)は126住居のカマドを切って造られている。外周は長方形に近く、内部に円形の掘り込みがある。

339土坑(第395図)は136住居と重複し、136住居→339土坑の順に新しい。完掘状態の図では、略長方形の340土坑内部の土坑に見えるが、339土坑は340土坑を切って造られており、339土坑は別の新しい遺構である。

313土坑(第396図)は135住居より新しく、不整形である。中から礫や炭化物、土器等が出土し、底面には灰層が認められた。住居外への可能性はある。僅かな土師器・須恵器片が出土した。

174・175土坑(第397図)は住居の重複の著しい中央部南寄りの区域にあり、130住居→175土坑の順に新しい。174土坑からは須恵器杯(1455)、175土坑からは黒色土器椀(1456)が出土した他、共に僅かな量の174土坑は土師器片、175土坑は須恵器片が出土した。

348土坑(第397図)は南端部に位置し、128住居と重複する。128住居→348土坑の順に新しく、確認面から88cmの深さがある。尚、僅かな出土遺物に拠るが、174土坑は10世紀後葉、175土坑は10世紀中葉の所産と推定する。

350土坑(第396図)は133住居にかかり、350土坑→133住居の順に新しい。

上記以外の土坑からも出土遺物量は少なかったが、212土坑からは灰軸陶器段皿(1460)と少量の須恵器片、237土坑から磨石と思われる礫石器(1461)、239土坑から須恵器羽釜(1462)と鉄製刀子(1463)、246土坑からは杯と見られる緑釉陶器片(1464)と僅かな土師器・須恵器片、258土坑から羽釜と見られる土師器片(1465)、263土坑からは土師器甕(1466)、269土坑からは羽口(1467)、344土坑からは須恵器杯(1468)が出土した他、179・187土坑からは僅かな土師器片と少量の須恵器片、183・216・218・224・229・234・241・242・309・318・323・327土坑からは僅かな土師器片、184土坑からは僅かな須恵器・灰軸陶器片、185・214・215・217・222・233・349土坑からは僅かな土師器・須恵器片、186・195土坑からは僅かな須恵器片、188・225・308・319・322・324・347土坑からは僅かな須恵器片、197・262土坑からは少量の須恵器片、232土坑からは灰軸陶器1片が出土している。

ピット(第390～392・394～397図、PL.146)

107・108ピット(第390図)はほぼ同じ大きさで、両者の距離は約0.7mである。108ピットは深さ49cmで深い。

105ピット(第395図)は327・328・328土坑と複雑に重複し、328・329土坑→327土坑→105Pの順に新しい。

土坑を含めて分布状況を精査したが、掘立柱建物として組み合う掘り込みは認められなかった。

これらのピットからの出土遺物はなかった。

4 3面の遺構と遺物

溝・谷地・落ち込み(第398・403図)

5区3面では46・47溝a・b・cの4条を検出したほか、谷地形の南西部谷地と、調査区北壁にかかる北部落ち込みを検出した。

46溝は南寄りで南西部谷地に接する。47溝は北西部の47溝a、南西部の47溝bとこれに合流する47溝cがある。北部落ち込みは南西部谷地の北端で南西部谷地の東岸に重なる。

なお、記録で「FP」と記載してある軽石粒は、いわゆるHr-FP軽石粒ではなく、Hr-FAと同時に噴出・降下した軽石粒の意味ととらえ、一般的表記ではないが、ここでは仮に「FA軽石粒」と表記する。

46溝(第399図、PL.147)

検出位置 67区P19～L13グリッドで検出した。5区の南東部から北西部にあり、調査区北壁にかかる。

重複関係 平面図では、46溝→南西部谷地の順に新しいとみられるが、それ以外の可能性もあることが判った。

(1) 46溝→南西部谷地 谷地の土層断面の上位に、46溝の断面が見られないことから、南西部谷地が新しいと推定される。

(2) 南西部谷地→46溝 谷地の土層断面5層上面の幅が160cmで、北端で記録した46溝上面の幅が166cmであり、埋没土も黒色土層を含む等、様相が似ていることから、5層=46溝の場合は、南西部谷地が1/3ほど埋没した時点で46溝が設置され、底面近くに46溝の埋没状態が遺存したと推定される。46溝の直上にはFA軽石粒を含む層がなく、40cm以上上位にFA軽石粒を含む層が想定されることも、この推定と矛盾しない。ただし、46溝は谷地に合流した地点の底面標高と、谷地土層5層底面との比高は85cmもあり、この点は(2)の推定に不自然さが残る。

覆土 黄褐色系の土で埋没する。微砂～細砂層で埋没し、2層では黒褐色土のラミナ状堆積を多く含んでいたことから、流水があったと考えられる。堆積状態から、自然埋没と判断される。

壁 浅く斜めに立ち上がる。長さ約36.5mを検出した。西に向かってやや凸に湾曲する。上面幅1.1～1.5m、底面幅0.4～0.8mで、深さは確認面から7～30cmである。

南北両端を結ぶ走行方位はN38°Wである。

底面 南寄りがやや広い。底面標高は南端126.82m、北端126.64mで、その差は18cmであり、南側が高く北側が低い。中間のN16グリッド付近では126.37mで、北端よりも低い。周辺の微地形は、北西から南東に向かって低くなる傾斜があり、46溝底面標高の勾配と矛盾するが、ここでは微地形の傾斜が優先すると考えたい。

その他 溝の東岸は10cm前後の高まりとなって水田の耕作面につながり、かつ水田アゼの走行と直交・平行していることから、水田と同時期に利用されたと推定される。46溝西岸にも46溝と平行して北端から約9.6mの長さで高まりが続いていた。

遺物 出土遺物はなかった。

時代・時期 検出層位と埋没土の特徴、及び4区の確認状況と同様、凡そ6世紀の所産と推定する。

47溝(第399図、PL.148)

検出位置 47溝a：Q16～S18グリッド、47溝b：K12～N13グリッド、47溝c：K11グリッドで検出した。5区の西寄りにあり、47溝aと47溝bとの間は、調査区南西部の外側に西に凸の状態につながると推定される。

重複関係 47溝bの東端部が南西部谷地の土層断面を記録場所と接しており、明確な重複関係を捉えていない。47溝aの土層では、埋没土6層の直上にFA軽石粒を含む層が存在しているのに対し、南西部谷地の土層では底面から50cm以上上位にFA軽石粒を含む2層が認められ、FA軽石粒を含む層が覆うまでに時間差があると考えられる。このことから、直上にFA軽石粒を含む47溝aの方が、南西部谷地よりも新しいと推定される。

覆土 47溝aの断面を観察した断面では、6層が埋没土であり、灰黄褐色系の土で埋没する。6層には黒色土ブロックを多量に含み、46溝の埋没土に黒褐色土を含んでいることと似ている。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 極く浅く、斜めに立ち上がる。47溝aは長さ14.5m、47溝bは約16m、47溝cは4.7mを検出した。47溝aは上面幅58～91cm、底面幅31～63cm、深さ5～7cmである。47溝bは上面幅49～89cm、底面幅25～54cm、深さ12～15cmである。47溝cは上面幅63～74cm、底面幅39～46cm、深さ8～10cmである。47溝aの両端を結ぶ走行方

位はN31°W、47溝bの南東端を除外した走行方位はN67°W、47溝cの走行方位はN52°Wである。

底面 47溝aの底面標高は、北西端で127.29m、南東端で127.26mであり、殆ど同じである。したがって、この部分で通水方向の判定は困難である。47溝bでは北西端の底面標高は127.07m、南東端付近で126.96m、中間付近は127.01～127.03mほどであるため、概ね南東側が低い。47溝aと47溝bを併せると、a部からb部に向かって低くなり、標高差は31cmとなる。通水があったとすれば、47溝a-bは北西から南東に向かって流れたと考えられる。47溝cの底面標高は北西端で127.03m、南東端で127.01mであり、殆ど差がなく、通水方向の判定は困難である。ただし、47溝bと接する部分では、47溝cの底面が8cm高くなっていた。

その他 47溝aの東岸は幅50～90cmほどの高まりとなっており、46溝の場合と酷似する。また、47溝bでは西岸側に幅35～90cmの高まり認められ、この高まりは5区南西部で検出した水田のアゼにつながり、アゼと直交する。これらのことから、47溝a・bとも、46溝と同じく、水田と同時期に利用されたと考えられる。

遺物 出土遺物はなかった。

時代・時期 検出層位と埋没土の特徴、及び4区の確認状況と同様、凡そ6世紀の所産と推定する。

南西部谷地(第399図、PL.149)

検出位置 67区J12～P19グリッドで検出した。5区のほぼ中央部で、46溝と47溝との中間を北西から南東に横切る。

重複関係 明確な重複は確認できなかった。平面図上では、46・47溝を切っているようにみえる。46・47溝の項で詳述した。

覆土 にぶい黄褐色系の土で埋没する。上位では黒色土を薄い層で含み、下位では酸化鉄分を多く含む砂層が堆積する。堆積状態から、自然埋没と推定する。

壁 南東部では深さ約1mで、斜めに立ち上がる。調査区北壁の西寄りから約10mは南へ走行し、その後42mほどは南東へ延びる。南東端近くで46・47溝が接し、この部分で東岸が突出して弧出し、深くなる。上面幅は北端近くで3.93m、中央部で1.96～2.66m、突出部で4.79m、南東端で2.90mである。底面幅は北端近くで

2.11m、中央部で0.47～0.77m、突出部で1.81m、南東端で2.03mである。深さは北端近くで22cm、中央部で20cm前後、突出部で92cm、南東端は52cmである。南東へ延びる部分の走行方位は、N54°Wである。

底面 南東部の突出部は底面標高126.10～126.20mで特に深いので除外すると、南東端付近で126.39m、46溝と接する付近では126.67mで126.70m前後、中央部は126.50m前後でやや窪む状態、北部の南北走行部分は126.80m前後でやや高い。全体として北端近くが126.84m、南東端近くが126.39m、標高差45cmであり、底面標高からみて、通水があれば北西から南東に向かって流れていたと考えられる。

その他 南西部谷地は北端部と突出部を除いて幅に大きな変化がなく、46・47溝が接する部分のみ突出する状態であり、46溝のように水田に関連する溝とほぼ平行して走行するなど、自然に形成された谷地形とするよりも、人工的に開削された水路と考えた方が、微地形や周囲の遺構とマッチする。このことは、後述する北部落ち込みとの関係からも推定できる。また、南東部の突出部は46・47溝の通水がされていた可能性があり、何らかの原因で東側の水田やアゼを形成していた土が崩落したことが推定される。すなわち、46・47溝・南西部谷地及び水田は、多少の時間差はあっても、ほぼ同じ時期に利用された可能性がある。

遺物 出土遺物はなかった。

時代・時期 ほぼ同時期に利用されたと考えられる46・47溝、南西部谷地・北部落ち込み等から出土した遺物と、埋没土層の観察結果から、5世紀後半から6世紀初め頃の所産と推定される。4区水田の所見に照らせば6世紀の所産の可能性を有する。

北部落ち込み(第399図、PL.147)

検出位置 67区Q18グリッドで検出した。5区の調査区北壁にかかり、46溝北西端の西側に位置する。

重複関係 明確な重複は確認できなかったが、南西部谷地の東岸にかかり、底面は南西部谷地よりも深い。

覆土 にぶい黄褐色系の土で埋没する。土層断面では9～12層が北部落ち込みの埋没土で、いずれも黒褐色土のブロックや薄い層を含み、酸化鉄分を含む層がある。9層の直上にはFA軽石粒を含む7層が堆積する。堆積状態

から、自然埋没と推定する。

壁 深さ0.5mほどで、斜めに立ち上がる。検出範囲では、上面で東西2.5m、南北1.21mの不整形な井戸状の掘り込みである。確認面からの深さは59cmで、南西部谷地北端の底面より40cmほど深い。

その他 北部落ち込みは不整形の掘り込みで、南西部谷地の東岸を破壊するように重なっていた。井戸状を呈する掘り込みであることから、この掘り込みは湧水点であった可能性がある。自然陥没した穴にしては、埋没状態に乱れがなく、一度土坑状の空間ができてから埋没した様相であり、やはり人為的な掘り込みと考えられるが、用途・機能は不明である。

遺物 出土遺物はなかった。

時代・時期 ほぼ同時期に利用されたと考えられる46・47溝、南西部谷地・北部落ち込み等から出土した遺物と、埋没土層の観察結果から、5世紀後半から6世紀初め頃の所産と推定される。4区水田の所見に照らせば6世紀の所産の可能性を有する。

水田(第400～402図、Pl.149～153)

5区3面では1面103枚の水田を検出した。便宜上、一枚一枚の水田に番号を付してある。調査区南西部では001～006の6枚を検出し、47溝—南西部谷地—46溝を挟んで北東側で007～103の97枚を検出した。以下、水田の特徴をいくつか挙げる。

(1) 水田全体は複数回のHr-FA泥流?に覆われている。水田はHr-FAが噴出・降下する以前に営まれた水田と推定される。

(2) 46・47溝、南西部谷地・北部落ち込みは、46・47溝では水田に平行する高まりの存在等や、南西部谷地・北部落ち込みは溝との関係、また、埋没土の観察等から、水田とほぼ同時期に利用されたとみられる。

(3) 南西部の水田はアゼが閉じた状態で検出していないので、1枚の水田面積は計算・計測しにくい。

(4) 北東部の水田は、北西から南東に低くなる微地形上に設置されている。

(5) アゼは北西—南東方向にまず設置され(「縦アゼ」と仮称する)、その中を小さな面積に区画する北東—南西方向の短いアゼ(「横アゼ」と仮称する)を設置したと考えられる。これは微地形の傾斜に直交するように(等高

線沿いに)縦アゼを設置したのち、横アゼを設置したとみられることになる。

(6) 横アゼは縦アゼの南西側に設置するものが多い(表21)。検出できた横アゼ97=94(縦アゼに接続する)+3(縦アゼの中間にある)のうち、約71%の69本が縦アゼの南西側に設置されていた。この傾向からみて、横アゼを設置する方向は、微地形を考慮した水流の制御と関連する可能性がある。

(7) 縦アゼ1～4の北西端はT字状を呈し、これ以外のアゼと異なる状態であること、T字部分がほぼ一直線に並ぶこと、縦アゼを横切る水口が見当たらないことから、T字部の北西寄りに北東部の水田全体に給水する施設の存在が推定される。また基本的に、縦アゼを乗り越える給水方法を取らない。

(8) 唯一の例外は、縦アゼ6と8との間に、067水田の南側に縦アゼ7の北西端があり、南東部で分岐する縦アゼ7の北西端となる。この地点は擾乱によって破壊されていたため、第400図のように3方向のアゼの間に水口が存在したように推定した。ただし、068水田の北東隅が閉じていても、水の分岐は可能である。

(9) 四方にアゼが存在する「閉じた」水田79枚を、長×短の長さで単純に計算した面積と、プランメータで計測した面積との両者を、表22に掲載した。短辺の長さは概ね縦アゼ間の距離に相当し、2.0m未満である。また、単純な計算面積の平均値は、面積=4.59m²、短辺=1.44m、長辺=3.20mであった。

遺物 なし。

時代・時期 ほぼ同時期に利用されたと考えられる46・47溝、南西部谷地・北部落ち込み等から出土した遺物と、埋没土層の観察結果から、5世紀後半から6世紀初め頃の所産と推定される。4区水田の所見に照らせば6世紀の所産の可能性を有する。

5 遺構外の出土遺物(第415図、PL.184)

5区に於ける遺構外の出土遺物は、殆どが2面からの遺物の出土であったが、土師器5.5kg、須恵器2.4kg、灰釉陶器0.16kg、埴輪0.69kg以上の破片を含む出土遺物を得た。

この中には須恵器杯(1471)、土師器釜(1472)の他、土錘(1473)、砥石(1474・1475)、鉄製刀子(1476)、不明鉄製品(1477)、耳環(1478)や、羽口(1480～1482)といった製鉄関連遺物の出土も見られた。

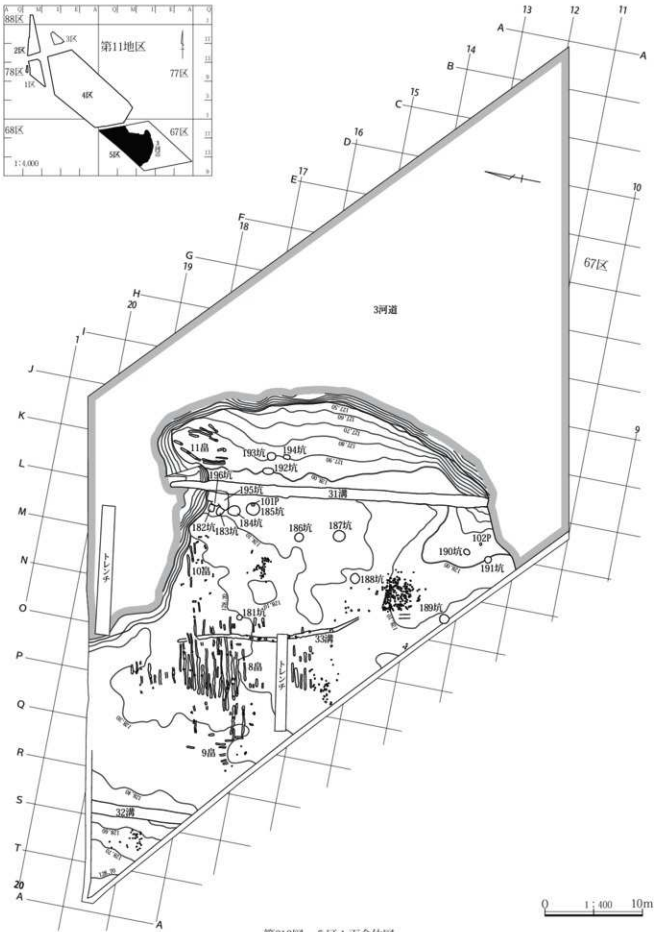
第7節 縄文時代の遺物

縄文時代の出土遺物(第416図、PL.184)

2～5区に縄文時代の遺物の出土が見られた。これらは剝片石器(1483・1487)、刃部磨製の磨製石斧(1484)、石皿(1485)、打製石斧(1486)である。

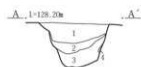
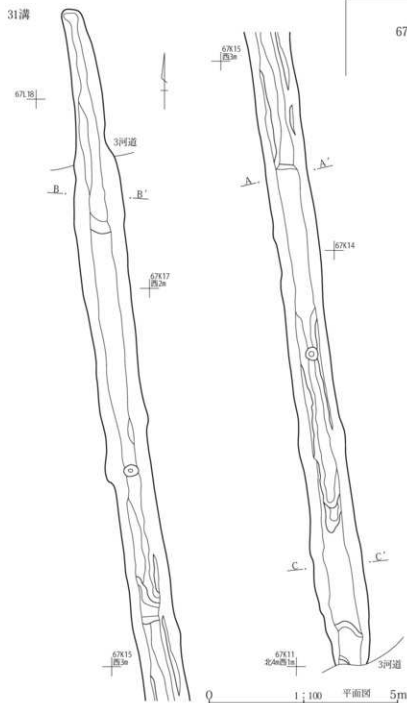
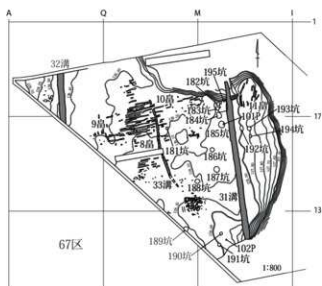
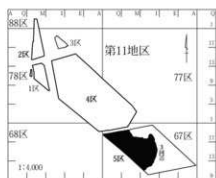
このうち1483は2区9住居、1486は3区、1484は4区29住居、1487は5区からの出土である。

尚、本遺跡は沖積地であるため、これらの遺物は流入によるものと思慮される。

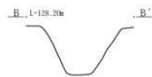


第318図 5区1面全体図

第4章 検出された遺構と遺物



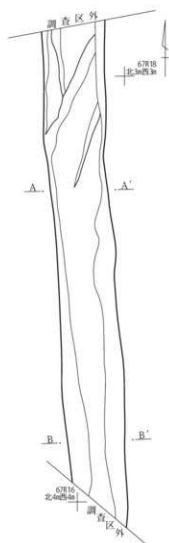
- 31溝
- 1 におい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-FP泥流ブロック・褐色シルトブロック・Hr-FP軽石粒を多量に含む。硬く締まっている。
 - 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。褐色土ブロック・Hr-FP軽石粒・内隙を少量含む。
 - 3 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。締まりあり。
 - 4 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。別ピットの流入土。



0 1:60 断面図 2m

第319図 5区1面溝分布図、31溝

32溝

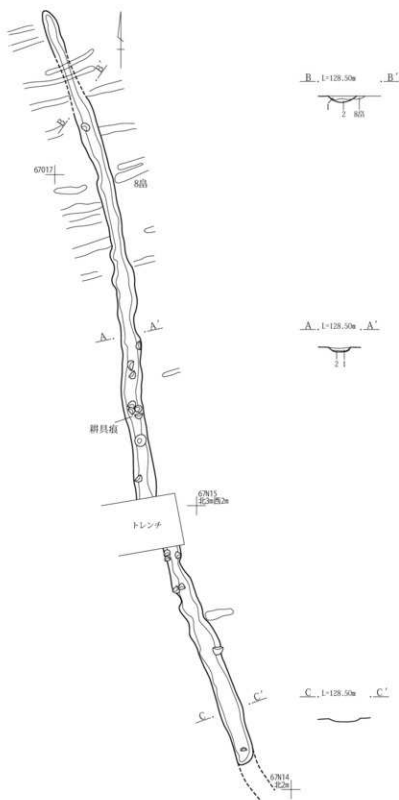


32溝

1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒が全体にまばらに散じる。底面はHr-FA泥流堆積層。



33溝

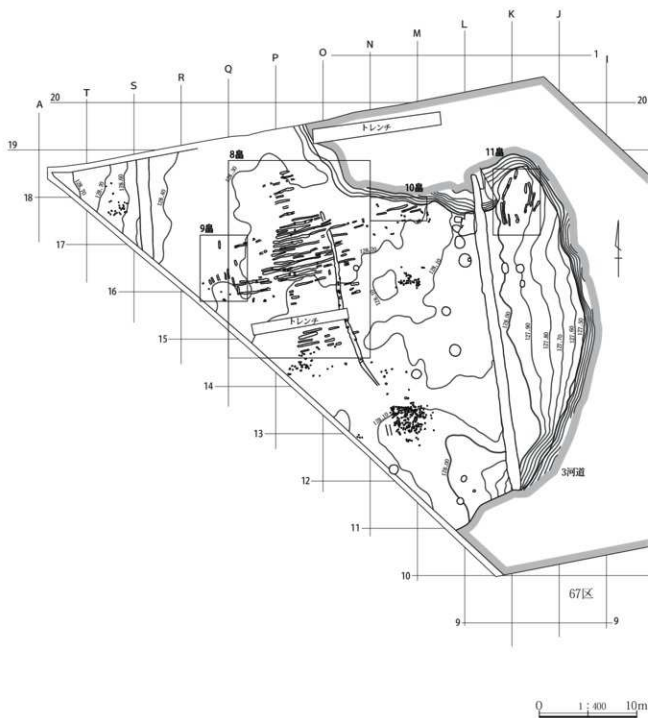
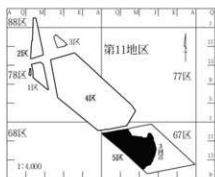


33溝

1 黒褐色土7.5YR3/1 中砂粒土。As-B軽石粒をわずかに含む。白色鉱物・Hr-PP軽石粒が散じる。全体に酸化鉄分が入る。
2 1層に下層の粘質土が散じる。

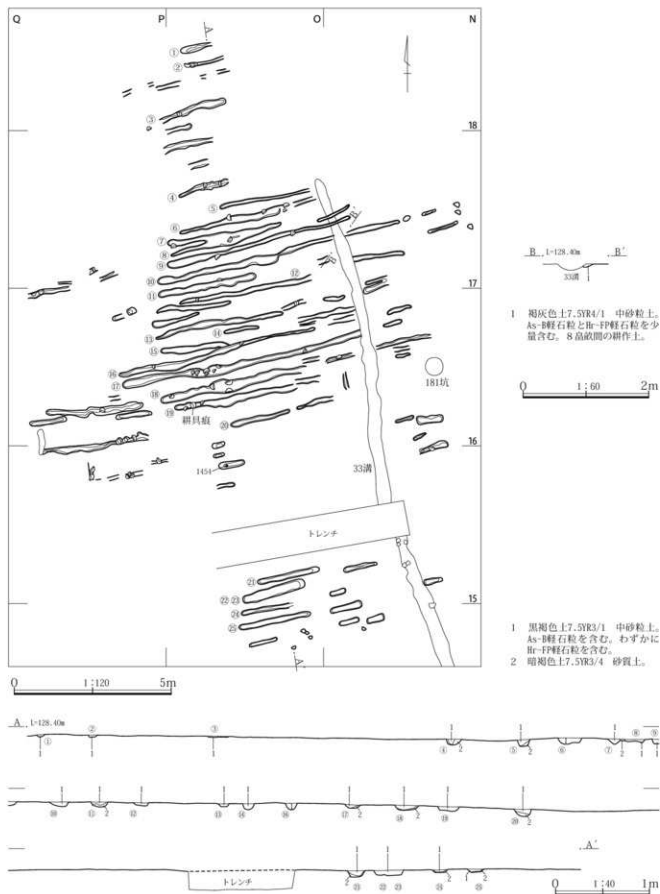
第320図 5区1面32・33溝

第4章 検出された遺構と遺物



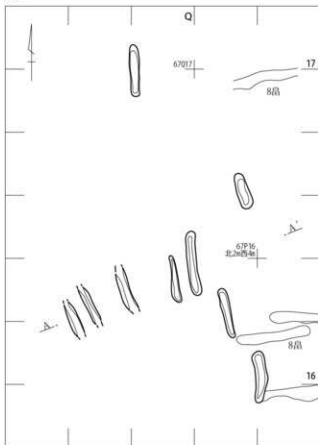
第321図 5区1面高分布図

8畝

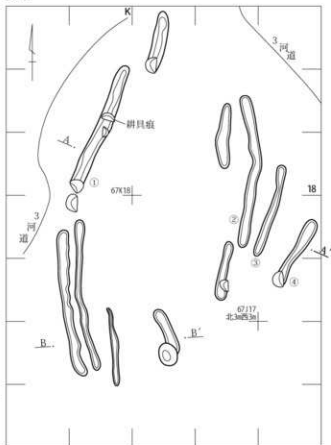


第322図 5区1面8畝

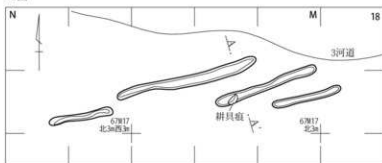
9 畝



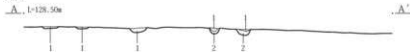
11畝



10畝



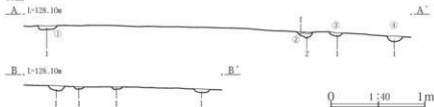
9 畝



10畝



11畝



9 畝

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 中砂粒土。As-B軽石粒を含む。わずかにHr-FP軽石粒を含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 砂質土。

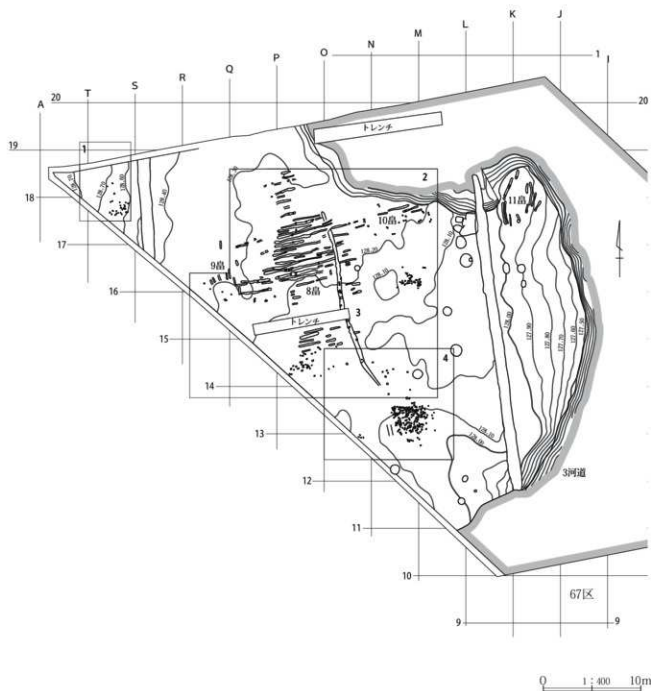
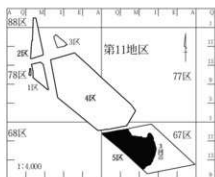
10畝

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 中砂粒土。As-B軽石粒・Hr-FP軽石粒を少量含む。締まっている。

11畝

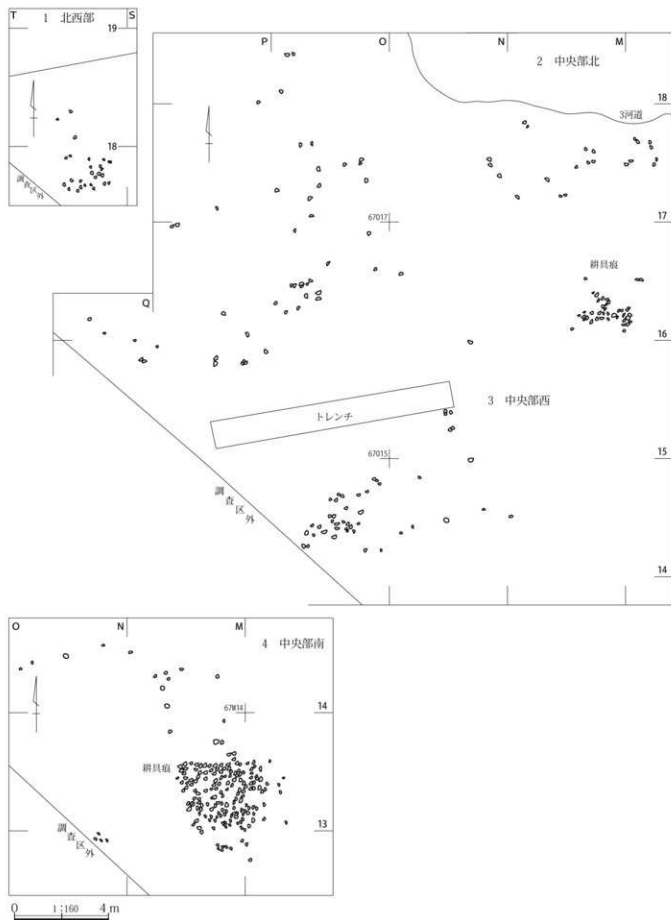
- 1 黒褐色土7.5YR3/1 砂質土。As-B軽石粒を少量含む。Hr-FP軽石粒を含む。
- 2 1層に暗褐色シルト質土のブロックを少量含む。

第323図 5区1面9～11畝

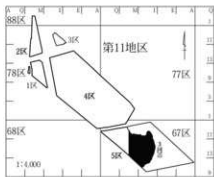


第324図 5区1面耕具痕分布図

第4章 検出された遺構と遺物



第325図 5区1面耕具痕



181坑



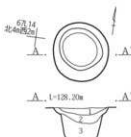
181土坑
1 褐色土7.538/4 シルト質土。B-F層
石粒を全体に少量含む。跡まっている。壁
際に赤褐色の礫化鉄分を多く含む。

186坑



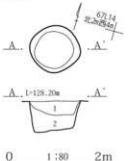
186土坑
1 褐色土7.538/4 細砂粒土。明褐色土ブ
ロックを含む。As-B層石粒をわずかに含む。
2 黒褐色土7.532/2 中砂粒土。二次堆積
のAs-B層石粒を多く含む。
3 褐色土7.538/4 シルト質土とAs-B層石
粒を含む。砂質土。B-F層石粒が混じる。

187坑



187土坑
1 褐色土7.538/4 細砂粒土。
明褐色土ブロックを含む。
As-B層石粒をわずかに含む。
2 黒褐色土7.532/2 中砂粒
土。二次堆積のAs-B層石粒を
多く含む。
3 褐色土7.538/4 シルト質
土とAs-B層石粒を含む。

188坑



188土坑
1 褐色土7.532/2 中砂粒
土。As-B層石粒をわずかに、
B-F層石粒・黄褐色シル
トブロックを含む。
2 褐色土7.538/4 シルト質
土。明褐色土ブロックを少
量含む。

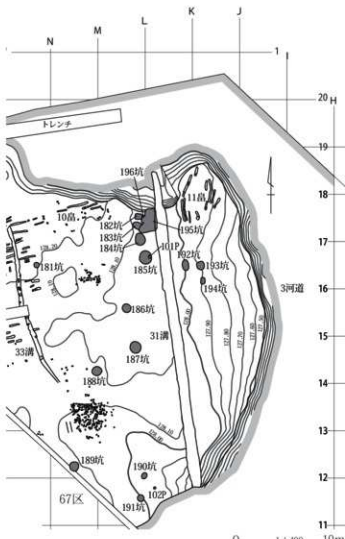
185土坑



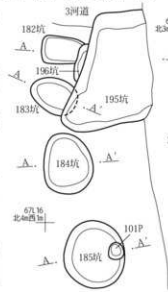
185土坑
1 黒褐色土7.538/3 黄褐色シル
ト・円礫を含む。
2 近い褐色土7.538/4 シルト
質土。

185土坑
1 黒褐色土7.538/3 シルト質
土。全体に赤褐色の鉄分を含む。
下層にB-F層石粒をわずかに、
底面付近に板状の礫化鉄分を多
く含む。
2 明褐色土7.538/6 シルト質
土。礫化鉄分を多く含む。

185土坑
1 黒褐色土7.538/2 シルト質土。



182~185・195・196坑・101P



182・195・196坑

182坑 195坑 196坑
1 褐色土7.538/4 シルト質土。B-F層石粒を全体に少量含む。跡まっている。壁際に赤褐色の礫化鉄分を多く含む。

183坑

183土坑
1 近い褐色土7.538/4 シルト質土。黄白色シルトブロックと白色黒物粒をわずかに含む。

184坑

184土坑
1 近い褐色土7.538/4 シルト質土。B-F層石粒と赤褐色土小ブロック・黄褐色土を含む。
2 灰褐色土7.538/2 シルト質土。B-F層石粒と黄白色シルト質土・赤褐色土ブロックを含む。

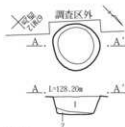
185坑・101P

185土坑
1 黒褐色土7.538/2 シルト質土。白色黒物・黄褐色シルト質土小ブロック・黄褐色土を含む。
101P
1 灰褐色土7.538/2 B-F層石粒と赤褐色土・黄白色土ブロックを含む。

第326図 5区1面土坑・ピット1

第4章 検出された遺構と遺物

189坑



189土坑

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。B-FF輝石粒・B-FAC泥炭ブロックを含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 黄白色シルトブロックを多く含む。

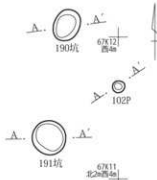
190坑



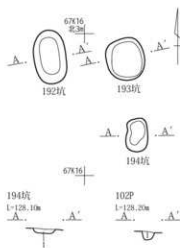
191坑



190・191坑、102P



192～194坑



190土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色炭粉粒・赤褐色土ブロック・炭化物粒・B-FF輝石粒を含む。締まりなし。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。円礫を含む。

191土坑

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。B-FAC泥炭ブロックを含む。B-FF輝石粒を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。焼土・炭化物を含む。締まりなし。

192土坑

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。B-FF輝石粒とB-FAC泥炭ブロックを含む。
- 2 濃い褐色土7.5YR3/4 シルト質土。B-FF輝石粒をわずかに含む。

193土坑

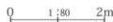
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。B-FAC泥炭ブロックと炭化物を少量含む。
- 2 濃い褐色土7.5YR3/3 シルト質土。B-FF輝石粒をわずかに含む。締まりなし。

194土坑

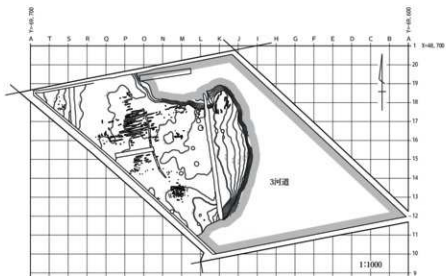
- 1 褐色土7.5YR4/2 シルト質土。B-FF輝石粒と浅黄褐色土ブロックを少量含む。締まっている。

102P

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。B-FF輝石粒を少量含む。



第327図 5区1面土坑・ピット2

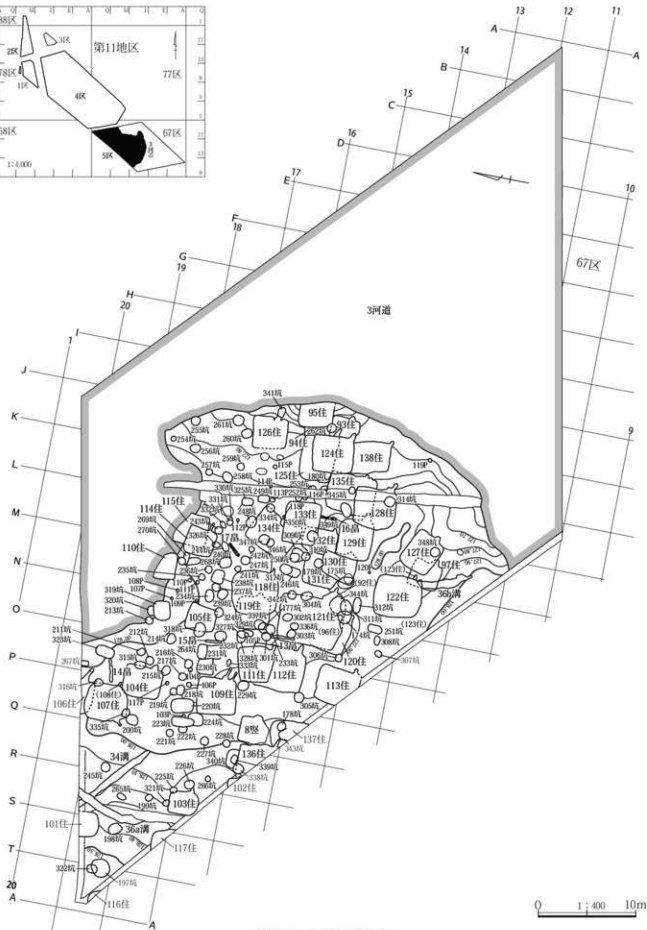
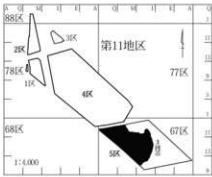


▲5区1面3河道 南から



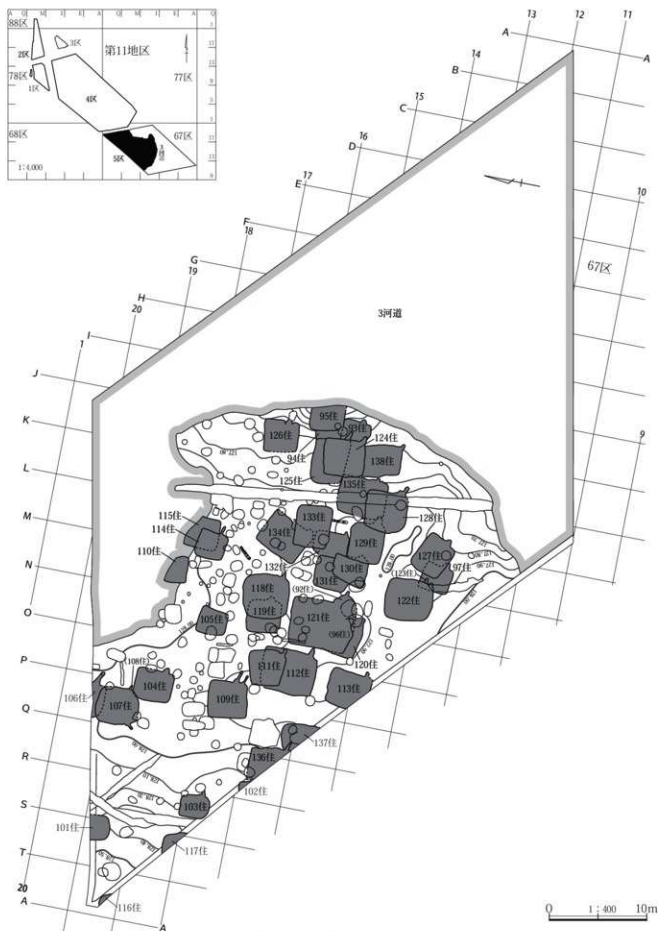
▲5区1面3河道の埋没状態 南東から

第328図 5区1面3河道



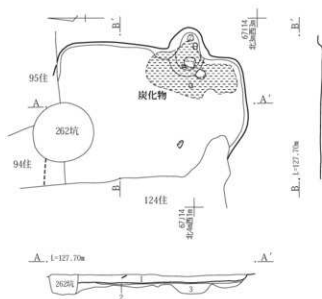
第329図 5区2面全体図

第4章 検出された遺構と遺物

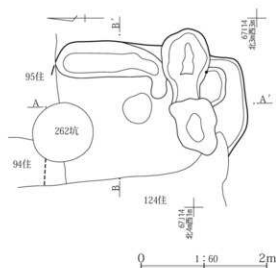


第330図 5区2面住居分布図

93住居



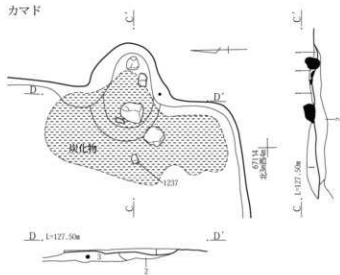
掘り方



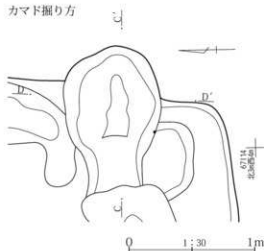
93住居

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・酸化鉄分を含む。
- 2 褐色土7.5YR4/1 Hr-FP軽石粒を含む。床面を形成する上。
- 3 濃い褐色土7.5YR5/4 Hr-FP軽石粒がわずかに入る。

カマド



カマド掘り方

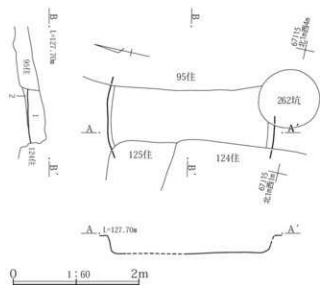


カマド

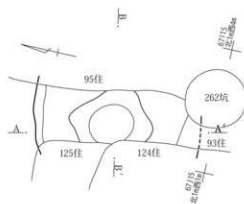
- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。わずかに焼土粒と炭化物を含む。1層下部は炭化物を含む灰層。
- 2 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層。
- 3 褐色土7.5YR4/5 シルト質土。黄白色シルトブロックを少量含む。

第4章 検出された遺構と遺物

94住居



掘り方

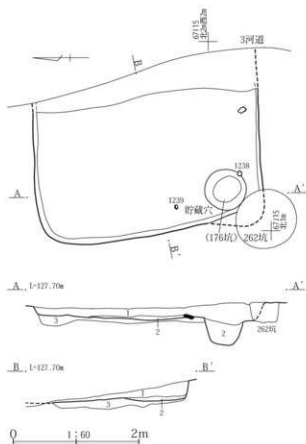


94住居

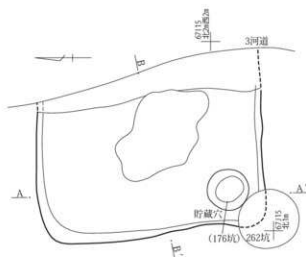
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。白色鉱物粒とHr-PP軽石粒を含む。黄褐色シルトブロックを斑に含む。酸化鉄分を多く含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量含む。床面を形成する上。

第332図 5区2面94住居

95住居



掘り方

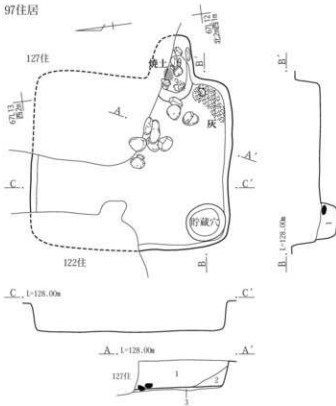


95住居

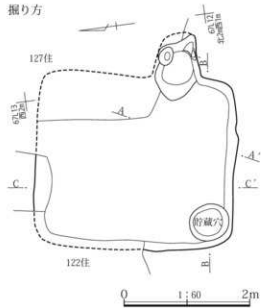
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質。Hr-PPを含む。酸化鉄分を多く含む。
- 2 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。Hr-PP軽石粒を含む。炭化物を少量含む。細砂粒土が混じる。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量含む。床面を形成する上。

第333図 5区2面95住居

97住居



掘り方



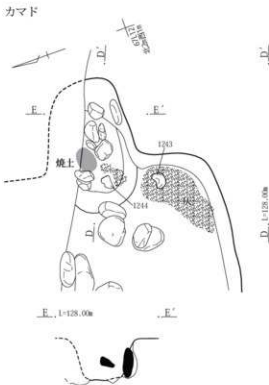
97住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色シルトブロックをわずかに、Hr-PP軽石粒と円礫を含む。
- 2 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。明褐色シルトブロックとHr-PP軽石粒を少量含む。軟質。
- 3 極暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。地山に含まれる円礫多い。床面を形成する上。

貯蔵穴

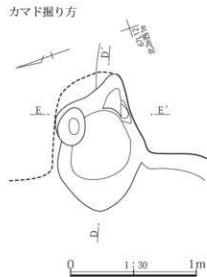
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。軟質。

カマド



地山が崩れた可成りがある
明褐色シルト質土

カマド掘り方

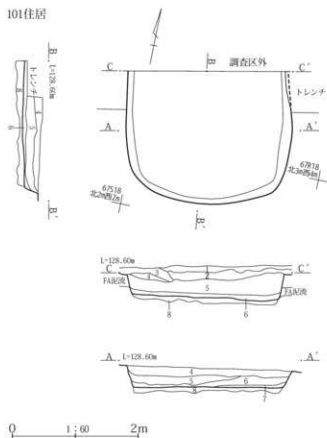


カマド

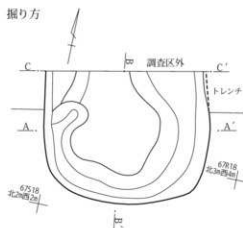
- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。黄褐色シルトブロックと白色鉱物粒を含む。軟質。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。黄褐色シルトブロックを含む。ブロックはカマド構築材の崩れたものか。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。2層の上が凝じる。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒を含む。炭化物をわずかに含む。

第4章 検出された遺構と遺物

101住居



掘り方

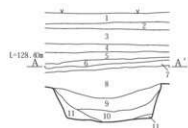
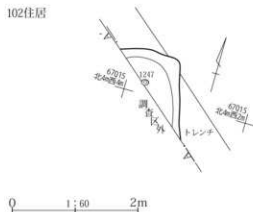


101住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 中砂粒土。As-B軽石粒の一部が混入する。上からの耕作土か。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 中砂粒のAs-B軽石層。上位には小豆色の火山灰層が堆積する。わずかに湿り気のある堆積土。
- 3 褐色土7.5YR4/3 細砂粒土。As-B軽石粒とHr-FP軽石粒をわずかに含む。As-B混土層。
- 4 褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒と黄褐色シルトが混入する。締まっている。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒が全体に含まれる。黄褐色シルトブロックと炭化物を少量含む。締まっている。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。黄褐色シルトブロック・白色鉱物粒・明褐色ブロックを少量含む。締まっている。
- 7 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。明褐色シルト質土が混じる。壁の流入土。
- 8 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-FP流黄褐色ブロック土を含む。締まりなし。床面を形成する土。

第335図 5区2面101住居

102住居

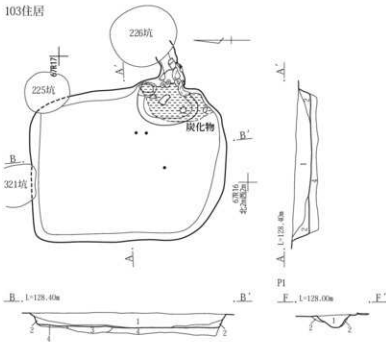


102住居

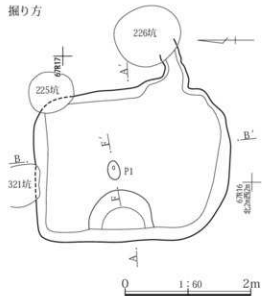
- 1 表土。
- 2~4 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐色土上のHr-FP軽石粒が少量混入。
- 5 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐色土上のHr-FP軽石粒が少量混入。As-B軽石粒をわずかに含む。
- 6 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐色土上のHr-FP軽石粒を少量含む。As-B軽石粒混土層。As-B軽石粒の混入率が高い。灰褐色中砂粒土主体。
- 7 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐色土上のHr-FP軽石粒を少量含む。As-B軽石粒混土層。
- 8 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。
- 9 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。白色鉱物粒を少量含む。軟質。
- 10 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。細砂粒土を含む。
- 11 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。

第336図 5区2面102住居

103住居



掘り方



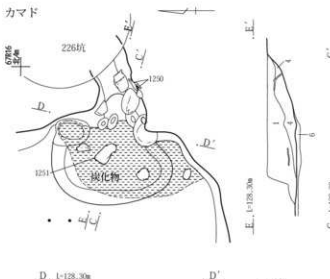
103住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、褐色シルトブロックを斑状に含む。軟質。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。褐色シルトブロックを含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FAを含む。床面を形成する土。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物を含む。

P1

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。炭化物粒を含む。軟質。
- 2 赤褐色土2.5YR4/8 シルト質土。焼土化している。軟質。

カマド



カマド掘り方

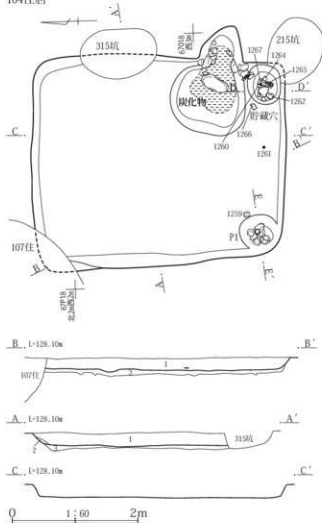


カマド

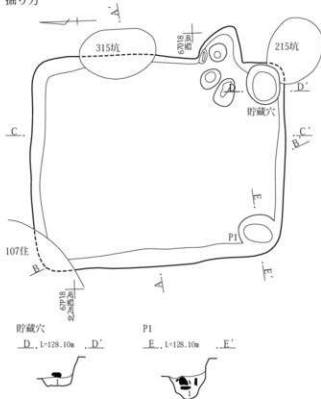
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量、褐色シルトブロックを斑に含む。軟質。
- 2 1層に似るがわずかに黄色を帯びる。カマドの抽石のずれにより周辺の土が動いたか。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FPを層境に少量含む。
- 4 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。炭化物・焼土ブロックを含む。
- 5 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。炭化物・焼土ブロックを少量、Hr-FP軽石粒を含む。
- 6 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに、炭化物を少量含む。やや焼けている。
- 7 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。3層と7層はカマド付近の地山と同じ。カマド直近の崩れか。

第337図 5区2面103住居

104住居



掘り方



104住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。明褐色シルト質ブロックを多く、Hr-FP軽石粒と黄褐色シルトブロックを少量含む。締まっている。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。ブロック状。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土一部に明褐色シルトブロックを含む。床面を形成する上。

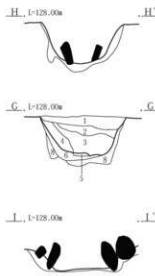
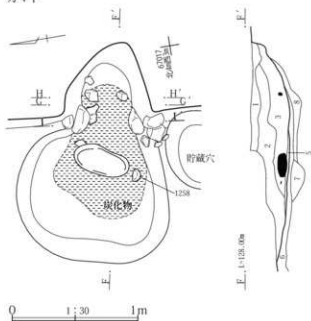
貯蔵穴

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。焼土粒・炭化物粒を含む。軟質。

PI

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。軟質。

カマド

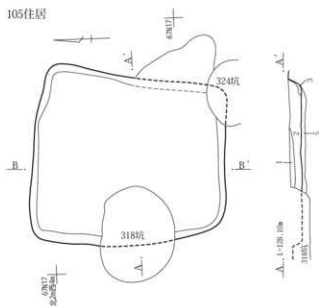


カマド

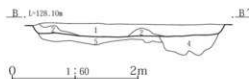
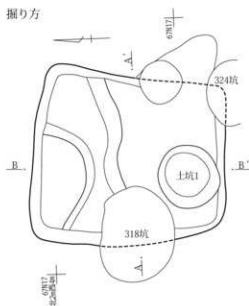
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。小円礫とHr-FAを少量含む。焼土粒がわずかにみられる。
- 2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。明褐色シルトブロックを多量に、Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物・焼土ブロックをわずかに含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。炭化物・焼土ブロックを多く含む。軟質。
- 5 黒色土7.5YR7/1 炭化物層。灰を含む。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。灰層が主体で炭化物がわずかに入る。
- 7 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山の上と炭化物粒、Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 8 熱を受けて焼土化した地山。

第338図 5区2面104住居

105住居



掘り方



105住居

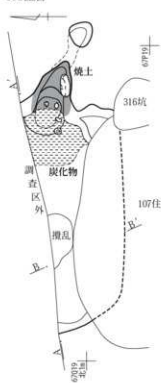
- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒・褐色シルトブロックを少量含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。黄褐色シルトブロックが環状に凝結する。
- 3 褐色土7.5YR7/6 壁からの流入土。

- 4 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-Fa泥流上の黄褐色火山灰ブロック・Hr-FP軽石粒を含む。床面を形成する土。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

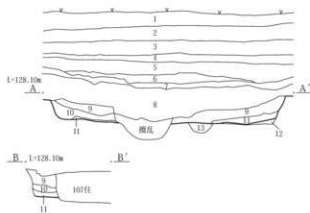
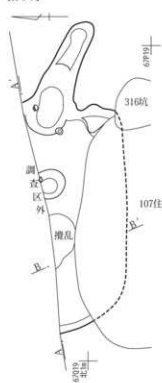
106住居

第339図 5区2面105住居

106住居



掘り方

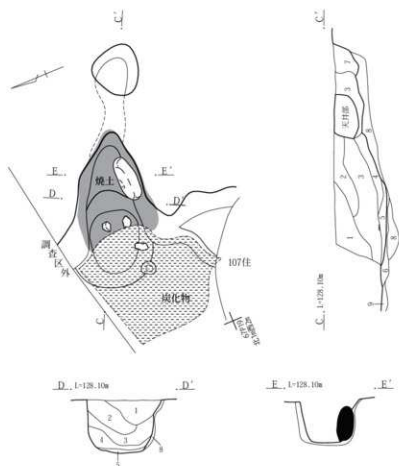


1 表土

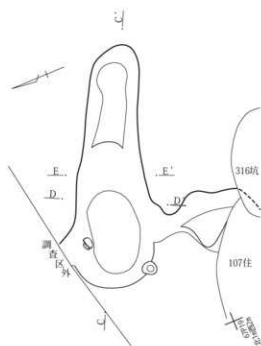
- 2-4 水田土壌 各層下部に厚さ3mmの酸化鉄分を含む黄褐色土層と褐色の水田耕作土の互層。
- 5 黒褐色土10YR3/1 中砂粒土。As-B軽石粒混土にHr-FP軽石粒を含む。
- 6 褐色土7.5YR4/1 中砂粒土。As-B軽石粒混土層。
- 7 褐色土10YR4/1 中砂粒土。As-B軽石粒混土に円礫を含む。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 8 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・円礫を多く含む。
- 9 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒小粒・円礫を含む。一部層間は砂利層が集中堆積。
- 10 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。土流堆積物。均一な粒子の小礫。
- 11 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。
- 12 黒色土7.5YR2/1 炭化物層。かき出した炭か。
- 13 明黄褐色土10YR6/6 シルト質土。

0 1; 60 2m

第340図 5区2面106住居1



カマド掘り方

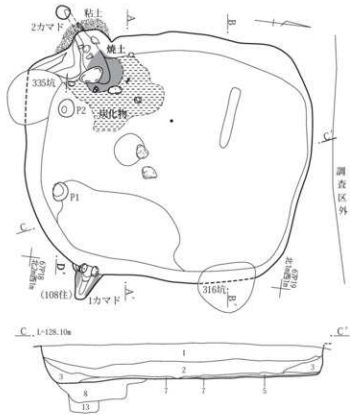
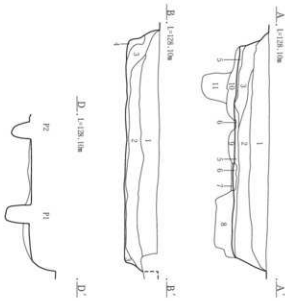


カマド

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Br-Fr軽石粒を含む。円礫を少量含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。天井部に貼り付けたシルト質土。カマド内に落ち込んだ最上位堆積層。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルトブロック。焼土ブロックを多量に含む。軟質。カマド天井の崩落土か。
- 4 明赤褐色土5.5YR5/8 シルト質土。焼けている。炭化物を含む。軟質。崩れ落ちた壁か。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。炭化物・灰・焼土粒を多く含む。
- 6 褐灰色土7.5YR4/1 炭化物を含む灰層。
- 7 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。地山の褐色ブロック・白色鉱物粒を含む。煙道の崩落土か。
- 8 明赤褐色土2.5YR5/8 シルト質土。掘り方で熱を受けたシルト質土。
- 9 黒褐色土7.5YR3/1 炭化物・焼土粒を多く含む。灰のかき出しか。

第341図 5区2面106住居2

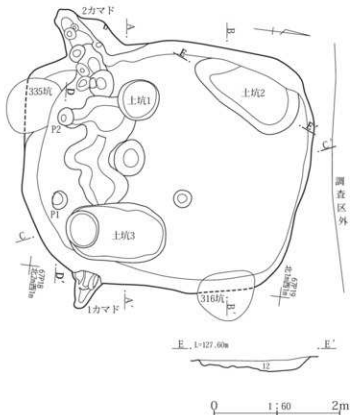
107住居



107住居

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。円礫をまばらに、白色炭物粒・黄褐色シルト粒を少量含む。締まっている。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。明褐色シルト質土ブロック・炭化物・焼土粒を含む。締まっている。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。明褐色シルトブロック(地山の崩落土)が混じる。
- 5 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。炭化物粒を多く含む。軟質。
- 6 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山。締まりなし。
- 7 橙色土7.5YR6/6 シルト質土。地山。締まりなし。軟質。
- 8 橙色土7.5YR6/6 シルト質土。上位は暗褐色のシルト質土。黄褐色火山灰ブロックをわずかに含む。軟質。
- 9 黒褐色土7.5YR2/2 Hr-FP軽石粒・炭化物・焼土粒を少量含む。締まりなし。箇所が軟。
- 10 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。暗褐色シルトブロックの混土。
- 11 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。明褐色シルト質ブロックをわずかに含む。
- 12 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。暗褐色シルト質土に褐色シルト質土が塊状に混じる。
- 13 焼灰色土7.5YR4/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

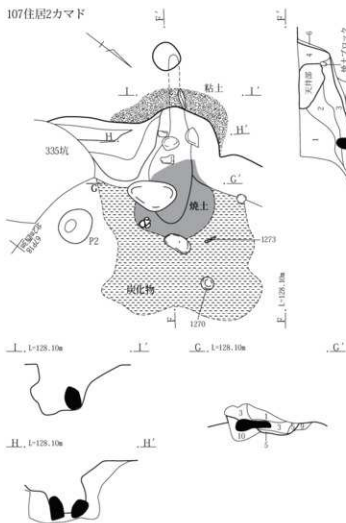
掘り方



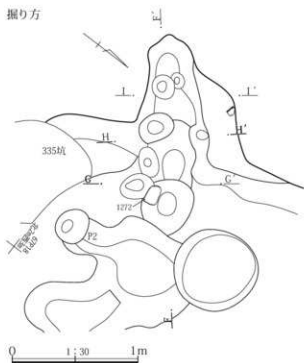
第342図 5区2面107住居1

第4章 検出された遺構と遺物

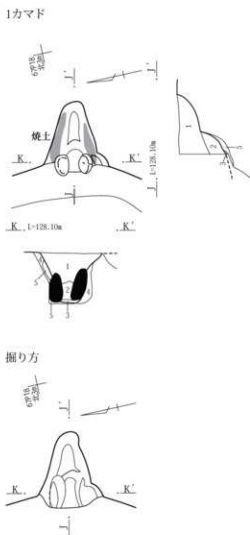
107住居2カマド



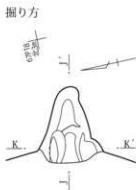
掘り方



1カマド



掘り方



1カマド

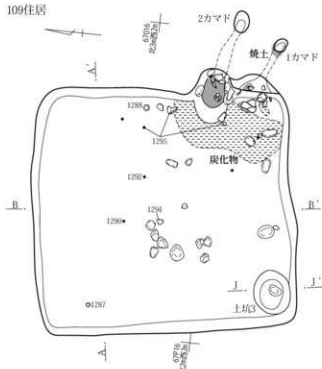
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。白色鉱物粒と黄褐色シルトブロックが珎に入る。珎際にわずかに焼土ブロックが混じる。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。H-PP軽石粒を少量、焼土ブロックを含む。
- 3 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質上。炭化物粒と灰を多く、焼土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土7.5YR6/8 シルト質上。黒褐色シルト質土を含む。
- 5 褐色土2.5YR6/6 シルト質上。4層に似る。熱を受けている。

2カマド

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。黄褐色シルトブロックを多く含む。軟質。わずかに被熱を受けたブロックを含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。1層に似る。わずかに焼土粒を含む。
- 3 褐色土7.5YR6/6 シルト質上。焼土粒を多く含む。カマドの壁か、埴壇内に流れ込んだ土。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。わずかに焼土粒を含む。軟質。埴壇内に流れ込んだ土。
- 5 黒褐色土7.5YR3/1 灰層。炭化物を含む。埴土粒をわずかに含む。
- 6 褐色土7.5YR6/6 シルト質上。地山層が熱を受け赤褐色に変化。
- 7 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。炭化物粒を含む。
- 8 褐色土7.5YR6/6 シルト質上。地山層。
- 9 赤褐色土2.5YR4/8 シルト質上。カマド壁が焼けている。
- 10 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。袖石の裏込め土。

第343図 5区2面107住居2

109住居



109住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒を含む。Hr-FP軽石粒・明褐色シルトブロックを多く、炭化物を少量含む。軟質。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずか。黄褐色シルト質土ブロックをまばらに含む。軟質。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。軟質。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色砂粒土を含む。
- 5 にぶい褐色土7.5YR6/4 Hr-FP(Hr-FAか)泥流を主体の黒褐色シルト質土を含む。



土坑3

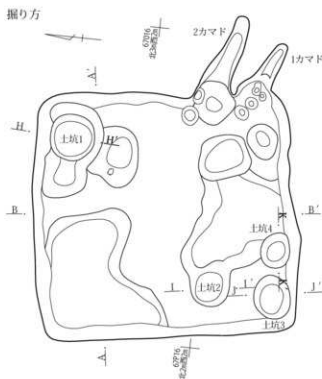
J, 1-128.00m



土坑3

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FA泥流を含む。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。黄褐色Hr-FA泥流火山灰ブロックを多量に含む。

掘り方



0 1:60 2m

土坑1

H, 1-128.00m



土坑1

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色砂粒土を含む。炭化物・焼土ブロックがラミナ状に連続する。
- 2 にぶい褐色土7.5YR6/4 Hr-FP(Hr-FAか)泥流主体の黒褐色シルト質土を含む。

土坑4

K, 1-127.60m



土坑2

I, 1-127.60m



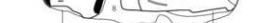
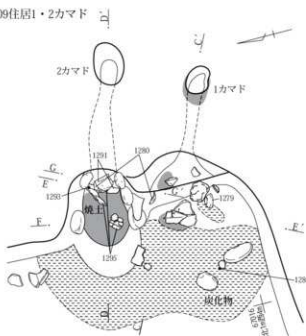
土坑2

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FA泥流を含む。
- 2 褐色土7.5YR6/8 シルト。Hr-FA泥流ブロックを少量含む。

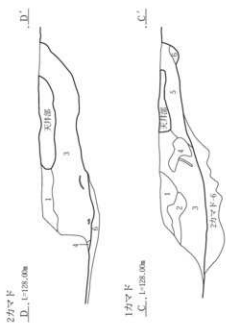
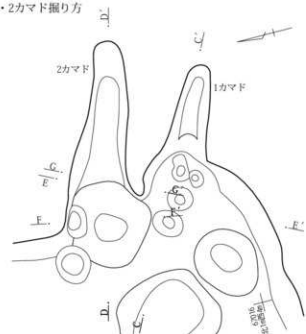
第344図 5区2面109住居1

第4章 検出された遺構と遺物

109住居1・2カマド



1・2カマド掘り方



1カマド

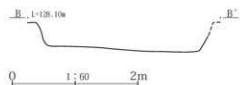
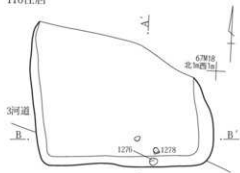
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒を含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒が1層より少ない。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。褐色シルト質上と互層に堆積。軟質。
- 4 にぶい褐色土7.5YR5/4 ブロック。Hr-FP軽石粒を含む。
- 5 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。にぶい褐色シルトブロックを含む。煙道部堆積上。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。黄褐色Hr-FA泥流火山灰ブロックを含む。煙道部堆積上。

2カマド

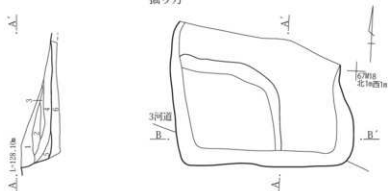
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロック(Hr-FA泥流)を多量に含む。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質上。炭化物粒・焼土粒を少量、Hr-FP軽石粒。3層の小ブロックを含む。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質上。Hr-FP軽石粒を多量に、焼土粒・炭化物を少量。カマド構築粘土を含む。
- 4 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層。
- 5 2層に似るが焼土粒・炭化物を含まない。
- 6 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層。焼土粒子を含む。
- 7 にぶい褐色土7.5YR5/4 Hr-FA泥流・Hr-FP軽石粒・シルト質上の混土。
- 8 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒を少量含む。2カマドの右袖部。
- 9 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。焼土化している。

第345図 5区2面109住居2

110住居



掘り方

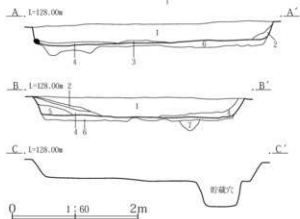
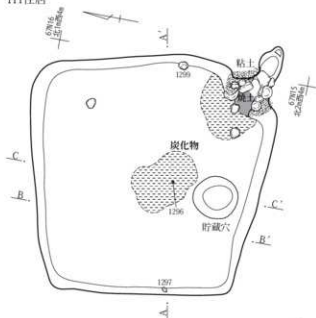


110住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。白色鉱物粒・黄褐色シルト質土(Hr-FA泥流ブロック)を多く、Hr-FP軽石粒・円礫を含む。
- 2 褐色土7.5YR7/6 Hr-FA泥流ブロックを多く、Hr-FP軽石粒を含む。締まっている。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。褐色シルトブロックを底に含む。締まっている。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FA・Hr-FAN泥流ブロックを含む。
- 5 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。
- 6 暗褐色土7.5YR5/8 シルト質土。酸化鉄分を多く含む。硬く締まっている。床面を形成する上。

第346図 5区2面110住居

111住居



掘り方



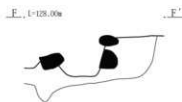
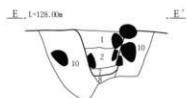
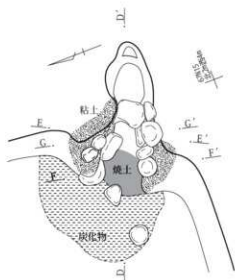
111住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。黄褐色シルト質土ブロックが底に入る。
- 2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 3 黒色土7.5YR2/1 炭化物を多く、Hr-FP軽石粒を含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。1層に比べて少ない。
- 5 暗褐色土7.5YR5/8 ブロック状のHr-FA泥流。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色砂粒土を含む。床面を形成する上。
- 7 黒褐色土7.5YR2/2 Hr-FA泥流を含む土。

第347図 5区2面111住居1

第4章 検出された遺構と遺物

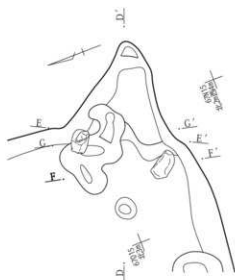
111住居カマド



カマド

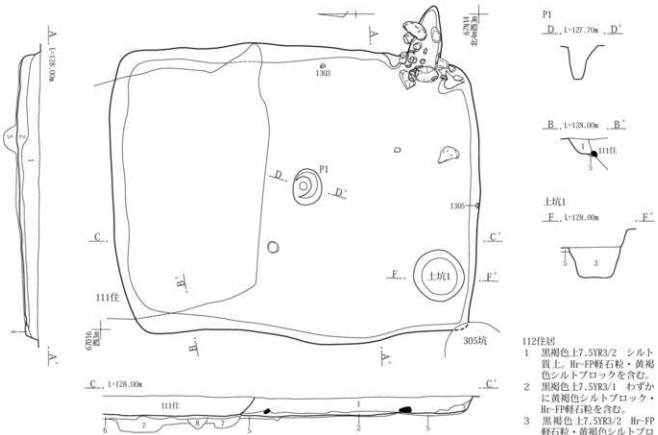
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。下位は熱を受けてやや赤褐色化しているが質である。崩れたものか。右の石は内部へ動いている。
- 2 暗赤色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。熱を受けた天井の崩れた土。
- 3 暗赤褐色土5YR3/2 焼上粒・炭化物を含む混土層。軟質でやや粘性がある。
- 4 暗赤褐色土5YR3/6 底面の炭化物・灰と天井の焼上が崩れ混ざった土。軟質でやや粘性がある。天井部。
- 5 赤褐色土2.5YR4/8 焼上を主としたブロック増殖土。カマド底面の熱を受けた土層。
- 6 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。地山。やや熱を受けている。
- 7 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。焼けて赤褐色を呈する。天井石はしっかりと残った状態で出しており、そのまわりをかためたシルト質土。
- 8 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。焼上粒・Hr-FP軽石粒・黄褐色ブロック土の混土。煙道部に落ち込んだ土。
- 9 黒褐色土1.7.5YR3/2 焼上ブロックをわずかに含む。
- 10 暗褐色土1.7.5YR3/3 黄白色火山灰ブロック主体のHr-FA泥流ブロック混土。
- 11 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒と黄褐色砂粒を含む。床面を形成する土。

カマド掘り方

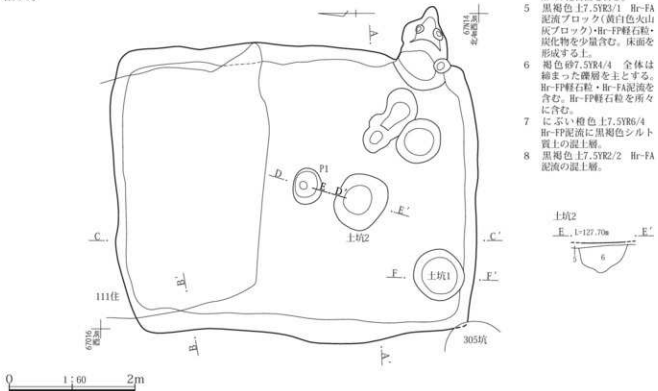


第348図 5区2面111住居2

112住居



掘り方



P1
D., 1-127.70m, D'



B., 1-128.00m, B'



土坑1

E., 1-128.00m



112住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 わずかに黄褐色シルトブロック・Hr-FP軽石粒を含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。
- 4 褐色土7.5YR5/1 砂層。中砂粒上に円礫を含む。Hr-FP軽石粒を含む。
- 5 黒褐色土7.5YR3/1 Hr-FA泥炭ブロック(黄白色火山灰ブロック)・Hr-FP軽石粒・炭化物を少量含む。床面を形成する上。
- 6 褐色砂7.5YR4/4 全体は締まった礫層を主とする。Hr-FP軽石粒・Hr-FA泥炭を含む。Hr-FP軽石粒を所々に含む。
- 7 にぶい橙色土7.5YR6/4 Hr-FP泥炭に黒褐色シルト質土の泥土層。
- 8 黒褐色土7.5YR2/2 Hr-FA泥炭の泥土層。

土坑2

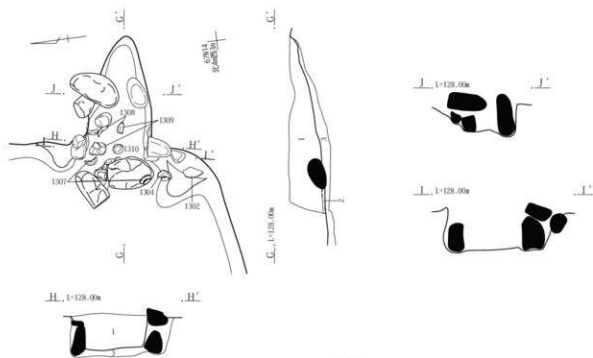
E., 1-127.70m



第349図 5区2面112住居1

第4章 検出された遺構と遺物

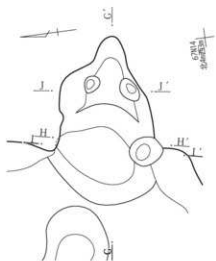
112住居カマド



カマド

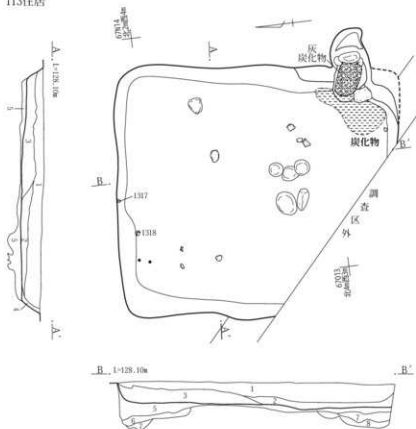
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒とHr-Fe軽石粒を少量。黄褐色シルト質ブロック土・中砂粒を含む。わずかに焼土粒を含む。
- 2 黒色土7.5YR2/1 炭化物層。焼土ブロックをわずかに含む。やや粘着あり。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。炭化物を多く含む。焼土粒をわずかに含む。最上部に薄い灰層。

カマド掘り方



0 1:30 1m

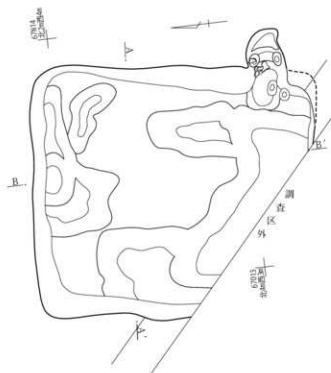
113住居



113住居

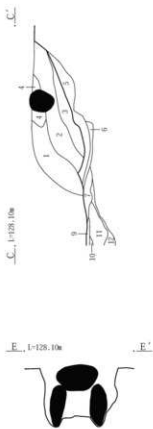
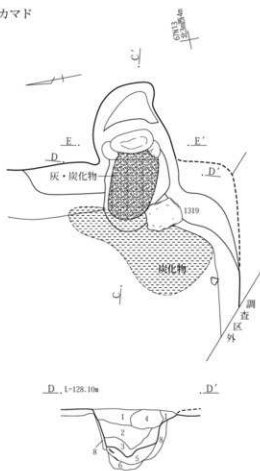
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒を含む。黄褐色シルトブロックを少量含む。硬く締まっている。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。軟質で締まりなし。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FA泥流ブロック(黄褐色土ブロックとHr-FP軽石粒を含む)を多く含む。
- 4 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。地山の流れ込み上。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色シルトブロック・Hr-FP軽石粒を含む。床面を形成する上。
- 6 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。壁際は褐色シルト質土に変化する。
- 7 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。黒褐色土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

掘り方



第351図 5区2面113住居1

113住居カマド



カマド掘り方

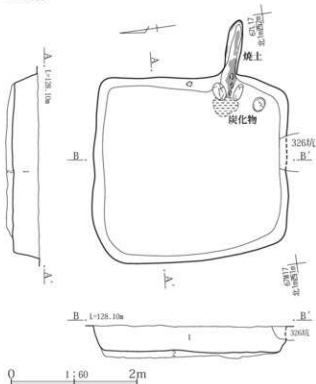


カマド

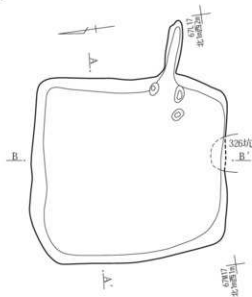
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。黄褐色シルトブロックを斑状に含む。軟質。
- 2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。やや軟質。天井部上位の崩落上。
- 3 赤褐色土2.5YR4/6 シルト質土。天井部の崩落上。
- 4 赤褐色土2.5YR4/6 天井部。
- 5 暗赤灰色土2.5YR3/1 シルト質土。灰を多く、焼土ブロックを少量含む。
- 6 赤褐色土2.5YR4/6 灰を含み焼けている。
- 7 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層。わずかに焼土粒・灰が入る。
- 8 赤褐色土2.5YR4/6 シルト質土。カマド壁が熱を受けて焼土化。
- 9 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。炭化物を含む。
- 10 黄褐色土7.5YR5/6 シルト質土。カマド前の床面を形成する上。
- 11 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。黄褐色シルトブロック・白色鉱物粒をわずかに含む。カマド前の凹みに充填したか。
- 12 赤褐色土7.5YR4/6 シルト質土。黄褐色シルトブロック・白色鉱物粒をわずかに含む。カマド前の凹みに充填したか。

0 1:30 1m

114住居



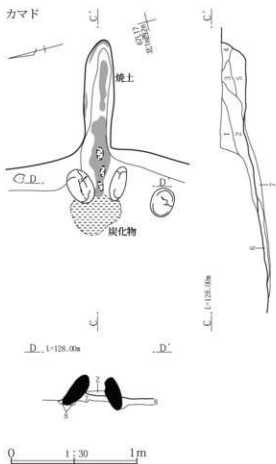
掘り方



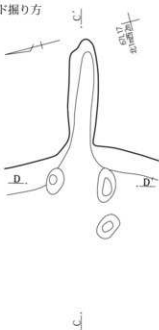
114住居

- 1 暗赤褐色土5.YR3/4 シルト質土。白色炭物、Br-FP軽石粒を含む。Br-FA泥流ブロックが嵌りこみ、締まっている。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。黄褐色火山灰ブロック(Br-FA泥流層)とBr-FP軽石粒を少量、円礫を所々に含む。床面を形成する土。床面・覆土に酸化鉄分を含んだ赤褐色の土壌が広く分布し、硬く締まっている。

カマド



カマド掘り方



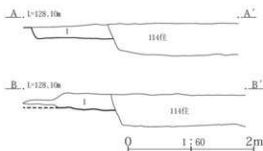
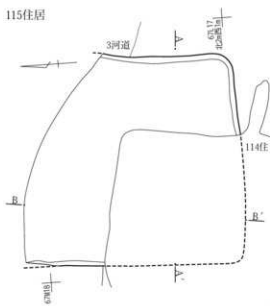
カマド

- 1 褐色土7.5YR4/5 シルト質土。焼上ブロックを含む。天井部上位の崩落土。
- 2 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。焼けて焼土化している。カマド天井部崩落土の一部か。
- 3 暗褐色土2.5YR3/6 シルト質土。焼けて締まっている。カマド天井部。
- 4 明赤褐色シルト質土2.5YR5/6 焼上ブロックを含む。天井部の崩落土。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。わずかに焼土を含む。煙道部から土砂が流入したか。
- 6 黒色土7.5YR2/1 炭化物・灰を多く含む。
- 7 赤褐色土2.5YR4/8 焼上ブロックと炭化物・灰を含む。
- 8 濃い褐色土7.5YR5/4 シルト質土。一部にBr-FP軽石粒を含む。酸化鉄分によって赤褐色を呈する。石の掘り方に充填したか。

第353図 5区2面114住居

第4章 検出された遺構と遺物

115住居

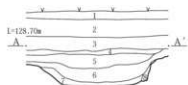
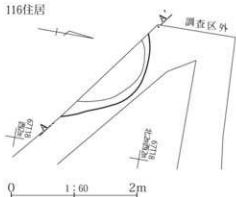


115住居

1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-F軽石粒を含む。黄白色土ブロック(Hr-F肥溜火山灰ブロック)を少量含む。締まっている。酸化鉄分を多く含む。

第354図 5区2面115住居

116住居

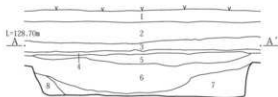
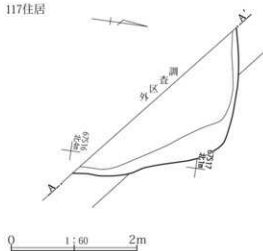


116住居

- 1 表土。
- 2 褐色土 砂質土。水田耕作土に伴うと思われる酸化鉄層が三枚ある。
- 3 灰褐色土 砂質土。白色鉱物粒を多量に、軽石粒をわずかに含む。締まっている。
- 4 明赤褐色土5YR5/8 細砂粒土。Hr-F軽石粒をごく少量含む。水田の床土か。
- 5 褐色土7.5YR4/4 Hr-F軽石粒を少量、黄褐色土ブロックを含む。締まっている。
- 6 濃い褐色土7.5YR5/3 シルト質土。Hr-F軽石粒を含む。締まっている。
- 7 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Hr-F軽石粒をごく少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土7.5YR6/4 シルト質土。一部に細砂粒土が混じる。

第355図 5区2面116住居

117住居

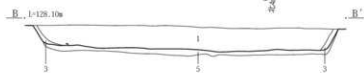
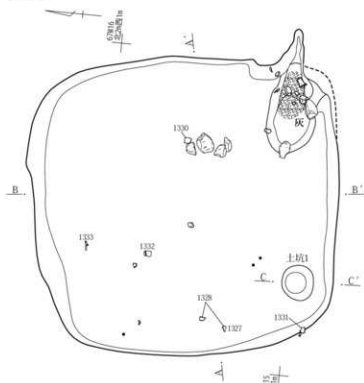


117住居

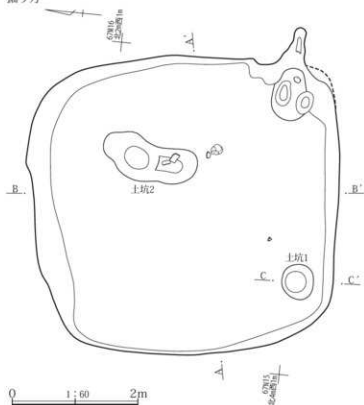
116住居1～8と同じ。

第356図 5区2面117住居

118住居



掘り方



土坑1

C, 1.128.10m



土坑1

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。茶褐色シルト質土を含む。軟質。
- 2 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。わずかに白色鉱物粒を含む。軟質。

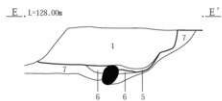
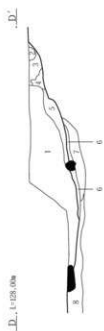
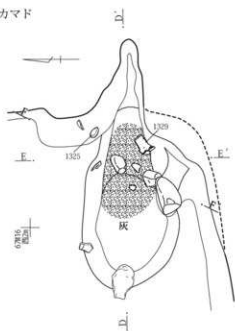
118住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。茶褐色シルトブロックを固に含む。軟質。
- 2 にぶい褐色土7.5YR5/3 細砂粒土。Hr-FP軽石粒を含む。
- 3 にぶい褐色土7.5YR5/3 シルト質土。地山のシルト質土の流込土。軟質。
- 4 黄褐色土7.5YR7/8 シルト質土。細砂粒土が混じる。床面を形成する土。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。2～3単位の水平層あり。床面を形成する土。

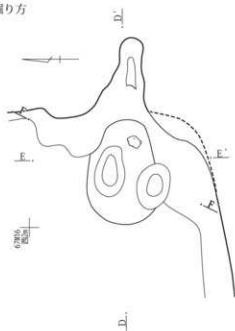
第357図 5区2面118住居1

第4章 検出された遺構と遺物

118住居カマド



カマド掘り方

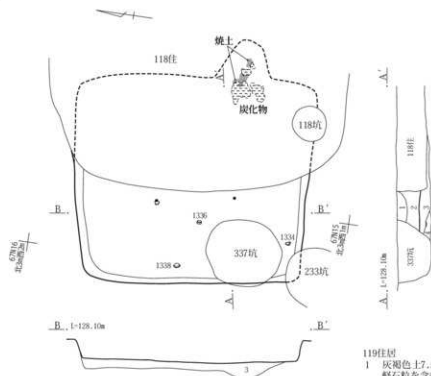


カマド

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。締まっている。
- 2 黒褐色土7.5YR2/2 焼土粒をわずかに含む。シルトと細砂粒上の混土。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。わずかに焼けている。
- 4 褐灰色土7.5YR5/1 細砂粒上。
- 5 暗褐色土7.5YR3/3 6に似る。焼土ブロック・炭化物粒を含む。軟質。
- 6 褐灰色土7.5YR5/1 粘性土。灰層。わずかに焼土ブロックを含む。
- 7 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。熱を受けて赤褐色を呈する。
- 8 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。焼けていない。掘り方覆土。

0 1:30 1m

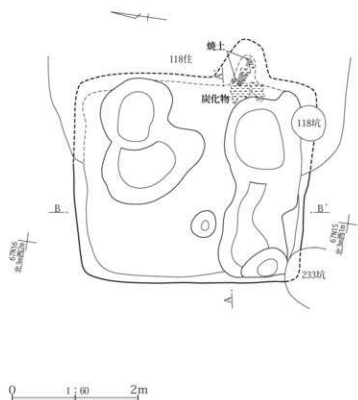
119住居



119住居

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒を含む。軟質。
- 2 にぶい褐色土7.5YR5/3 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒を含む。黄褐色シルトブロックを固に含む。軟質。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。褐色シルトブロック・Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

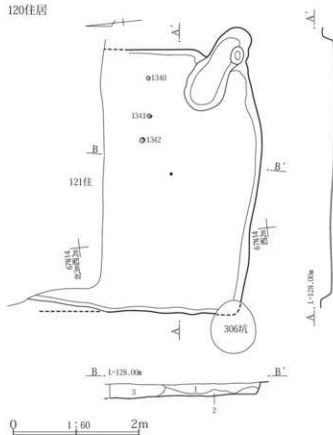
掘り方



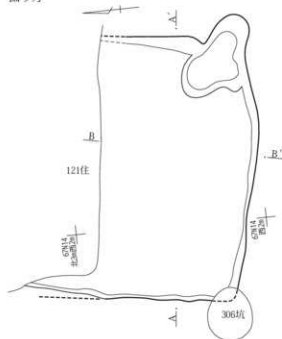
第359図 5区2面119住居

第4章 検出された遺構と遺物

120住居



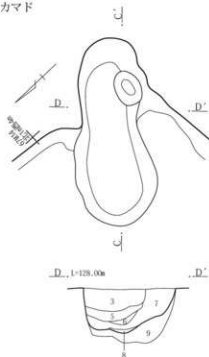
掘り方



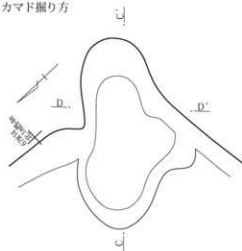
120住居

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。Hr-FA泥流の一部が再堆積している。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質上。少量の炭化物・Hr-FP軽石粒、礫を含む。

カマド



カマド掘り方

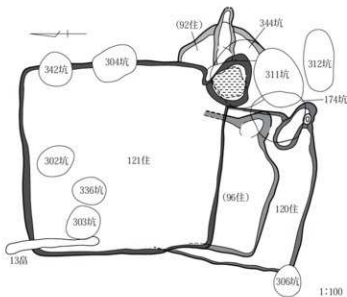
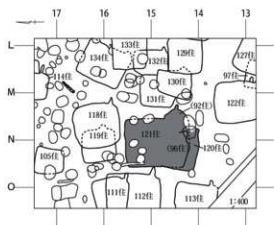


カマド

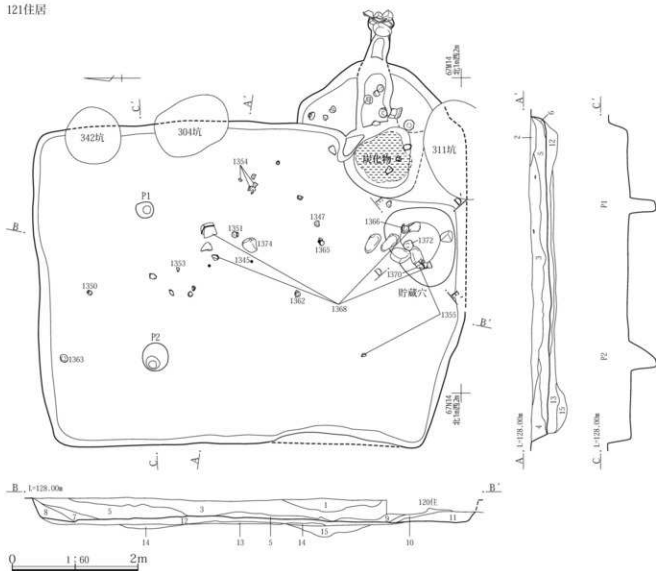
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。Hr-FP軽石粒・明褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。白色鉱物粒をわずかに含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質上。白色鉱物粒・炭化物を少量含む。締まっている。
- 4 黒褐色土7.5YR2/1 シルト質上。炭化物をまばらに含む。白色鉱物粒・Hr-FPをわずかに含む。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 Hr-FP軽石粒と明褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 6 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。黄白色(Hr-FA泥流)ブロック・白色鉱物粒を少量含む。
- 7 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。黄白色ブロックを含む。軟質。
- 8 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。
- 9 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質上。黄白色火山灰(Hr-FA泥流)ブロック・Hr-FP軽石粒を所々に含む。下位は新田川の堆積土上。

第360図 5区2面120住居

120・121(92・96)住居の重複状態



121住居



第361図 5区2面121住居1

第4章 検出された遺構と遺物

貯蔵穴



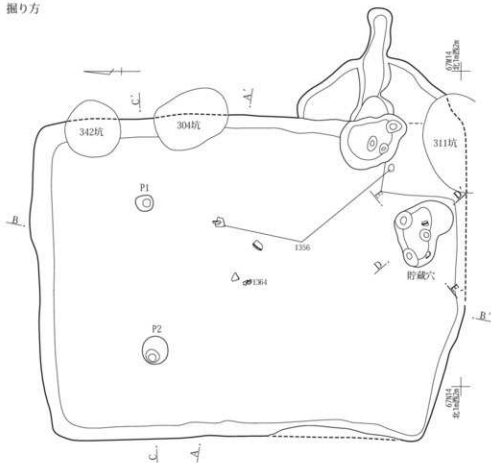
貯蔵穴

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。坡土ブロック・炭化物を含む。
- 2 明褐色土7.5YR6/6 褐色シルト質上ブロックを含む。

121住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質上。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒・炭化物を含む。黄褐色シルト粒を少量含む。締まっている。
- 2 褐色土7.5YR4/6 細砂粒上。Hr-FP軽石粒・黄褐色ブロックを含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。白色鉱物粒・黄褐色シルト粒をわずかに、Hr-FP軽石粒・炭化物粒を含む。全体は黒っぽく見える。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 Hr-FA泥流層。黄褐色土・Hr-FP軽石粒のブロックが多く混入。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。Hr-FP軽石粒がわずかに入る。白色鉱物粒・黄褐色ブロックを含む。やや砂質に近い土が部分的に入る。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルト質上。壁からの流入土。
- 7 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。
- 8 明褐色土7.5YR5/8 シルト質上。
- 9 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質上。白色鉱物粒を少量含む。
- 10 黄褐色土7.5YR7/8 火山灰ブロック。Hr-FP軽石粒を含む。Hr-FA泥流ブロックが混じる。
- 11 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質上。黄褐色シルトブロックをわずかに、Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 12 黒褐色土7.5YR2/2 白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒・褐色シルトブロックを含む。床面を形成する上。
- 13 極暗褐色土7.5YR2/3 Hr-FA泥流が混入する。
- 14 褐灰色土7.5YR4/1 細砂粒上。
- 15 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質上。Hr-FA泥流黄白色火山灰ブロック・Hr-FP軽石粒を少量含む。

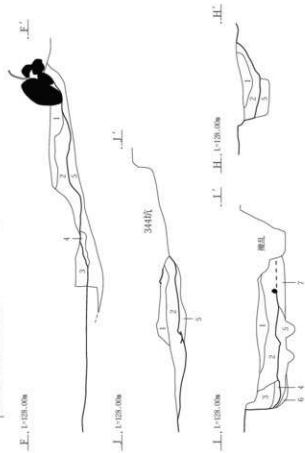
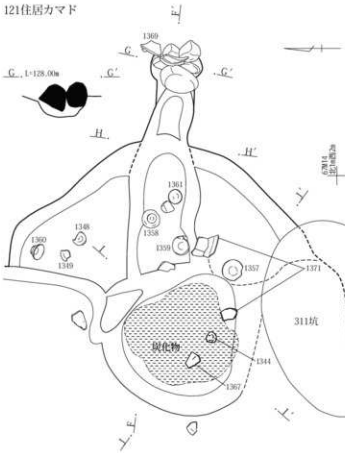
掘り方



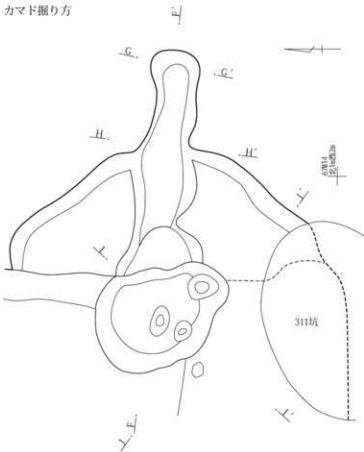
0 1:60 2m

第362図 5区2面121住居2

121住居カマド



カマド掘り方



カマドF・H

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒を含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。焼土粒をわずかに含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄白色粘土ブロック・焼土ブロックを含む。カマドの崩れた断片が混入する。
- 4 褐灰色土10YR4/1 灰層。焼土ブロック・炭化物を含む。
- 5 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。燃焼部は被熱を受けて明赤褐色化している。

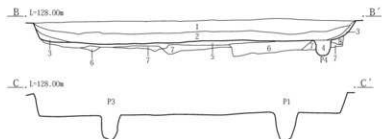
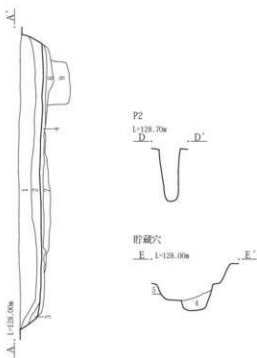
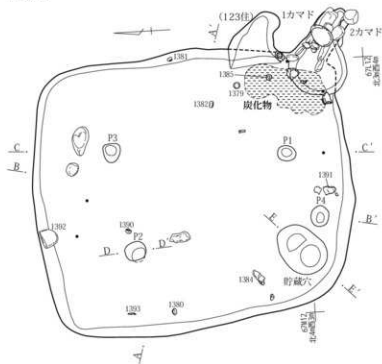
カマドI・J

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。焼土粒と炭化物わずかに含む。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FA肥溜ブロック・Hr-PP軽石粒を含む。
- 3 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒を少量含む。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。黄白色粘質土を多く含む。
- 5 黒色土7.5YR1.7/1 炭化物層。
- 6 明赤褐色土5YR5/8 シルト質土。地山。熱を受けている。
- 7 2層に似る。

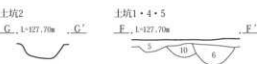
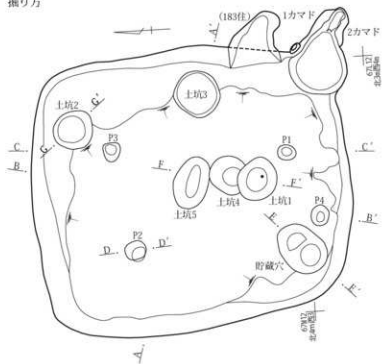


第363図 5区2面121住居3

122住居

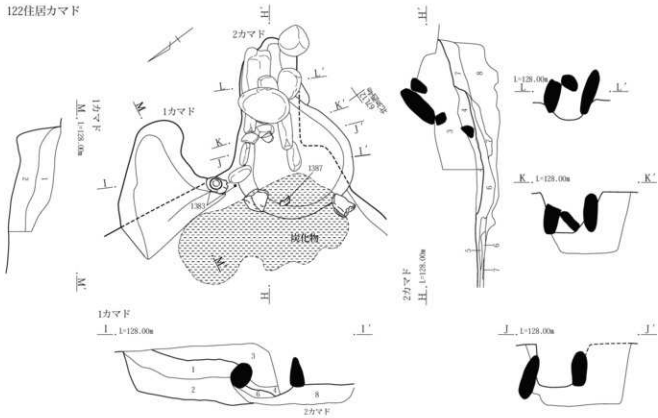


掘り方

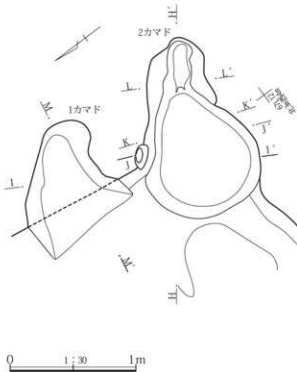


第364図 5区2面122住居1

122住居カマド



カマド掘り方

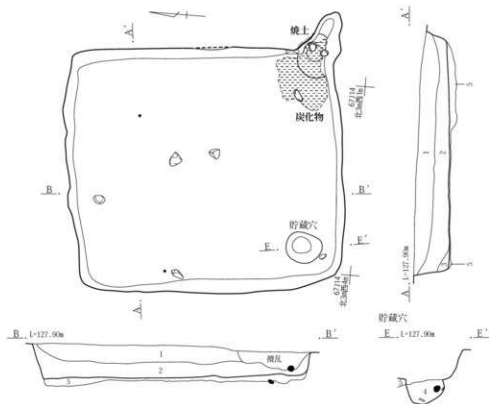


1・2カマド

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒を含む。122住居カマド左袖部付近は黄褐色シルトブロックが多い。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 Hr-FP軽石粒・白色鉱物粒・黄褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。硬く締まっている。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。焼土ブロックを多く含む。軟質。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。Hr-FA泥炭ブロックを含む。5・6層が互層。灰の掻き出しか。
- 6 褐灰色土7.5YR4/1 灰層。炭化物・焼土粒子を含む。軟質。
- 7 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。明褐色シルトブロックを少量含む。
- 8 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質上。炭化物を少量、焼土ブロックを含む。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒を含む。

第365図 5区2面122住居2

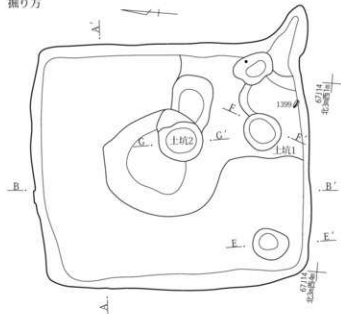
124住居



124住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。中央下位は酸化鉄分を多く含む硬い。
- 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色火山灰(Hr-FA泥流)ブロックを多く、Hr-FP軽石粒を含む。締まっている。
- 4 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 5 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。明褐色シルトブロック・Hr-FP軽石粒を少量含む。床面を形成する上。

掘り方

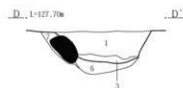
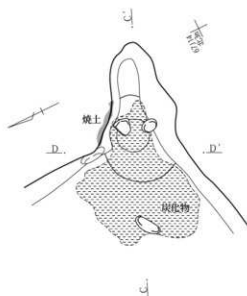


土坑1 土坑2
E, l=127.70m F, G, l=127.70m G,



土坑1
1 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

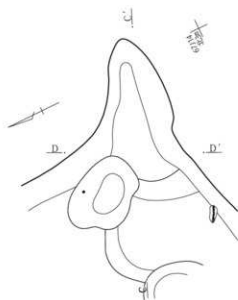
124住居カマド



124住居カマド

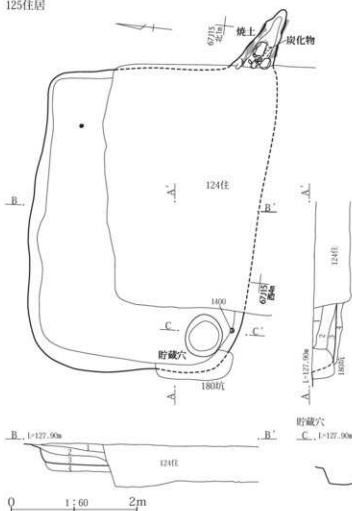
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。明褐色シルトブロック・Hr-FP 軽石粒を含む。炭化物・焼土粒子をわずかに含む。
- 2 褐灰色土7.5YR5/1 灰・焼土ブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質上。焼土ブロックを含む。軟質。
- 4 褐灰色土7.5YR4/1 炭化物をわずかに含む。
- 5 褐灰色土7.5YR4/1 炭化物粒子・灰・焼土ブロックを含む。軟質。
- 6 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質上。明褐色シルトブロックを含む。Hr-軽石粒を少量含む。底面を形成する上。
- 7 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。カマド左挿石の裏込め上。Hr-FP 軽石粒を含む。

カマド掘り方

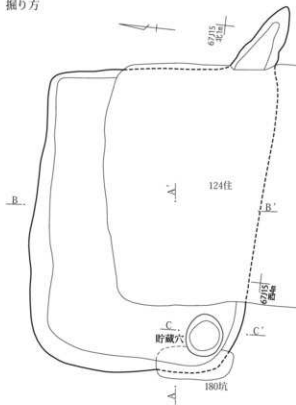


第367図 5区2面124住居2

125住居



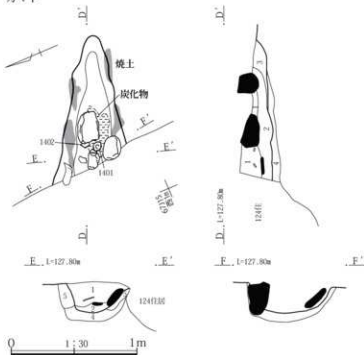
掘り方



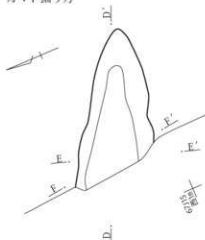
125住居

- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色火山灰(Hr-FA凝灰)ブロックを多く、Hr-FP軽石粒を含む。締まっている。
- 3 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。黄褐色火山灰ブロック・Hr-FP軽石粒を含む。締まっている。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒を少量含む。

カマド



カマド掘り方

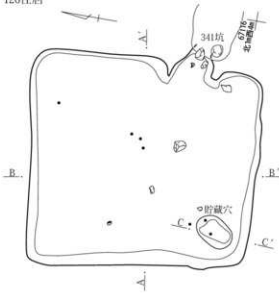


カマド

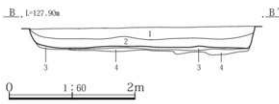
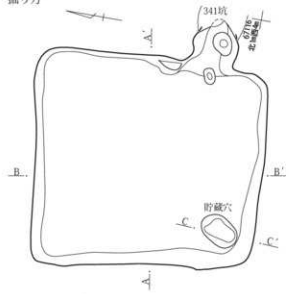
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石・焼土ブロック・炭化物を少量含む。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。上位に灰を含む。下位には焼けた層が輪状に広がる。下位はカマド底面。
- 3 2層に似るが色調が異なる。焼土粒子をわずかに含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。掘り方覆土。焼土・炭化物をわずかに含む。
- 5 明赤褐色土2.5YR5/8 シルト質土。熱を受けて焼土の層となっている。Hr-FP軽石粒を多量に含む。

第368図 5区2面125住居

126住居



掘り方



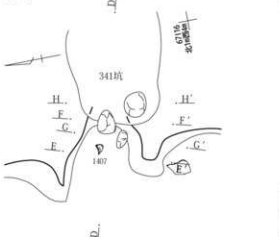
貯蔵穴



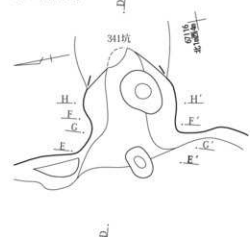
126住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土、細砂土との混土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒・黄褐色土ブロックを含む。黄褐色火山灰(Hr-FA泥流)ブロックを少量含む。軟質。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。黄褐色火山灰(Hr-FA泥流)ブロック・Hr-FP軽石粒を含む。軟質。
- 3 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土、白色鉱物粒を含む。酸化鉄分を多く含む。軟質。
- 4 にふい褐色土7.5YR5/6 シルト質土。わずかにHr-FP軽石粒を含む。地山に近い。床面を形成する上。

カマド



カマド掘り方



F., l=127.70m

H., l=127.70m

F., l=127.70m 341土坑

G., l=127.70m

カマド

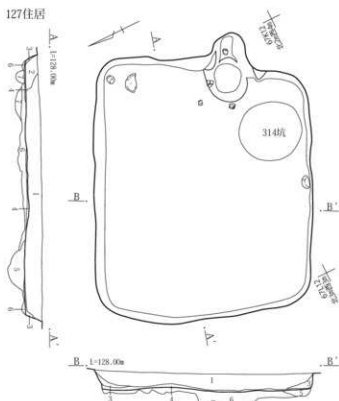
- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・焼土粒子・炭化物粒子をわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに、焼土粒子を含む。灰を少量含む。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。黄褐色シルトブロック・Hr-FP軽石粒を含む。縮まっている。カマド底部を形成する上。
- 4 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。Hr-FP軽石粒と黒色シルトブロックを少量含む。酸化鉄分を含む。



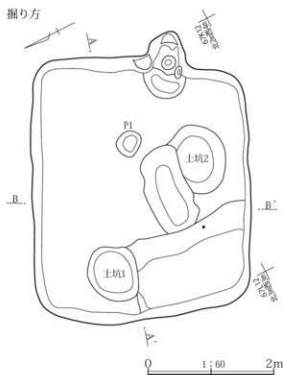
第369図 5区2面126住居

第4章 検出された遺構と遺物

127住居



掘り方

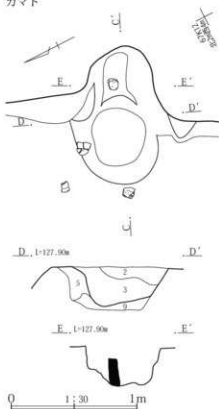


127住居

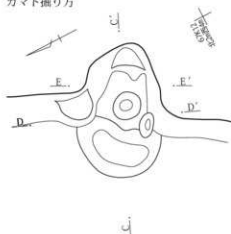
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。黄褐色火山灰(Hr-FA泥流)ブロックとHr-FP軽石粒を含む。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒・円礫を含む。硬く締まっている。
- 3 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。黄褐色シルトブロックを含む。地山の流入。

- 4 黒褐色土7.5YR4/3 シルト質土。明褐色シルトブロックを含む。床面直上の上。
- 5 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色火山灰(Hr-FA泥流)ブロックをわずかに含む。上坑覆土。
- 6 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。明褐色シルト質土・Hr-FA泥流ブロックを含む。締まっている。床面を形成する上。
- 7 褐色土7.5YR6/8 シルトブロック。

カマド



カマド掘り方

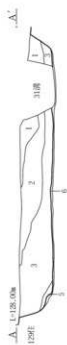
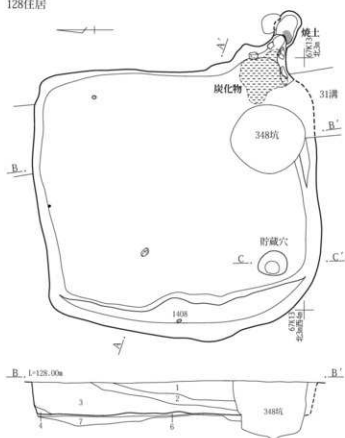


カマド

- 1 黒褐色土7.5YR3/1 Hr-FP軽石粒を少量、黄褐色シルトブロック・焼土粒子を含む。
- 2 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒・明褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルトブロック。黒色シルトブロックを含む。最下位に炭化物・焼土ブロックを含む。軟質。天井部または壁の崩落土か。
- 4 赤褐色土2.5YR4/8 シルト質土。地山が残った状態。
- 5 褐色土7.5YR4/6 シルトブロック。カマドの一部か。
- 6 褐色土7.5YR4/6 シルトブロック。白色炭化物粒をわずかに含む。
- 7 黒色土7.5YR2/1 灰層。焼土粒子をわずかに含む。
- 8 黒褐色土7.5YR3/2 黄褐色シルトブロック・焼土粒子をわずかに、白色炭化物粒を少量含む。
- 9 褐色シルト質土・黒色シルト質土・黄褐色火山灰(Hr-FA泥流)ブロックの混土。炭化物を含む。

第370図 5区2面127住居

128住居



掘り方



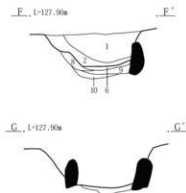
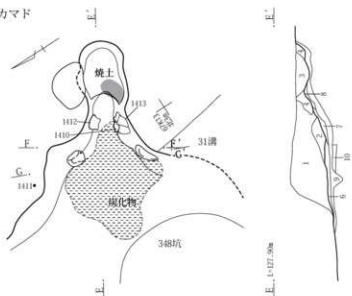
128住居

- 1 にぶい褐色土7.5YR5/3 シルト質土。白色鉱物粒を含む。Hr-FF軽石粒をわずかに、炭化物・黄褐色土シルトブロックを少量含む。締まっている。
- 2 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。多量の炭化物粒を含む。焼土ブロック・Hr-FF軽石粒を少量、白色鉱物粒を含む。硬く締まっている。
- 3 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FF軽石粒を含む。黄褐色土ブロックをわずかに含む。
- 4 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。135住居覆土の流入土。
- 5 4層に似る。焼土ブロックを含む。129住居カマ下の埋没土か。
- 6 にぶい褐色土7.5YR5/4 地山と3層の混土。床面を形成する土。
- 7 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに含む。

第371図 5区2面128住居1

第4章 検出された遺構と遺物

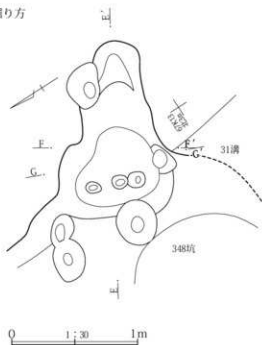
128住居カマド



128住居カマド

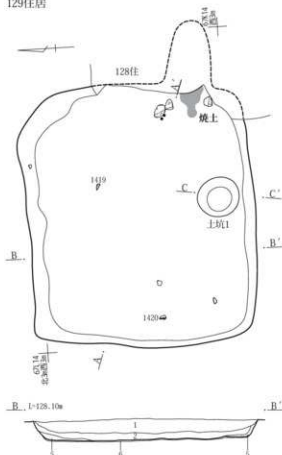
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質上。Hr-PP軽石粒を含む。
- 2 にぶい褐色土7.5YR6/4 シルト質上。炭化物・焼土ブロックを多く含む。締まっている。
- 3 黒色土7.5YR2/1 白色鉱物粒とHr-PP軽石粒を少量、焼土粒子を含む。天井部。
- 4 褐色土7.5YR4/4 シルト質上が焼土化。とくに焼けている部分は赤褐色を呈する。Hr-PP軽石粒を少量含む。
- 5 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。炭化物・焼土ブロック・黄褐色シルト質上ブロックの混上。
- 6 褐灰色土7.5YR4/1 灰層。炭化物粒子を含む。やや粘質。
- 7 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質上。焼土ブロックを少量含む。
- 8 褐色土7.5YR4/4 シルト質上。焼けている。
- 9 褐色土7.5YR4/3 シルト質上。炭化物粒子・焼土粒子を含む。
- 10 明褐色土7.5YR5/6 シルト質上。焼けている。

カマド掘り方

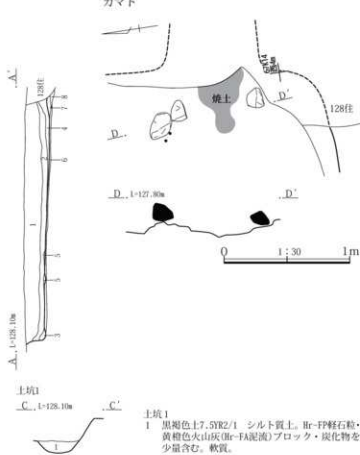


第372図 5区2面128住居2

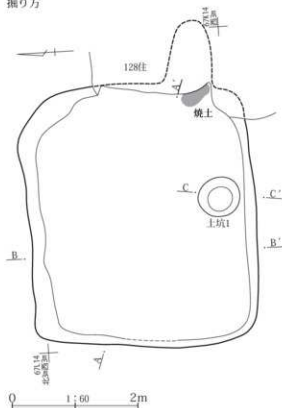
129住居



カマド



掘り方



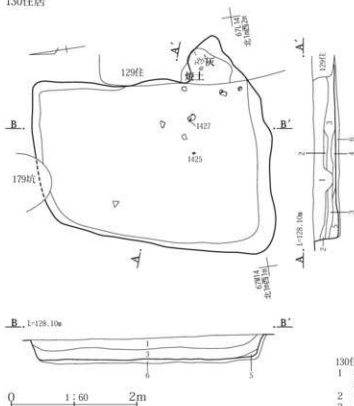
129住居

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒子・酸化鉄分粒を両に含む。軟質。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。軟質。
- 3 暗褐色土7.5YR3/4 130住居覆土の流入土。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒をごく少量、焼土粒子を含む。
- 5 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。軟質。
- 6 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山に近い。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 7 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色シルト質土をわずかに含む。
- 8 黄褐色土7.5YR7/9 シルト質土。黒褐色シルト質土を含む。一部に焼土粒子を含む。

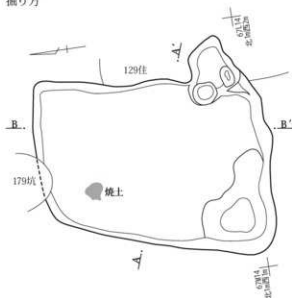
第373図 5区2面129住居

第4章 検出された遺構と遺物

130住居



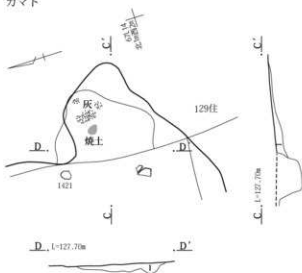
掘り方



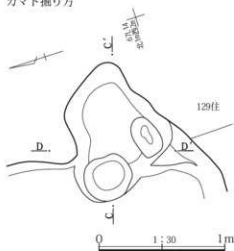
130住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。白色鉱物粒・黄褐色土粒・炭化物粒子・Hr-FP軽石粒をわずかに含む。軟質。
- 2 橙色土7.5YR7/8 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。灰・炭化物・焼土粒子・Hr-FP軽石粒を含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。褐色シルト質土がやや多い。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。白色鉱物粒を含む。軟質。
- 6 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山に近い。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。

カマド



カマド掘り方

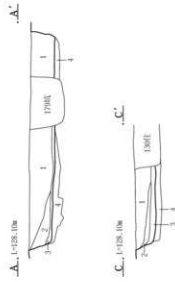
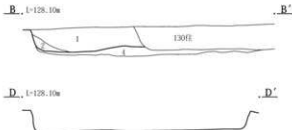
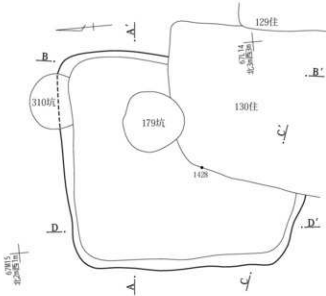


カマド

- 1 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。灰・焼土粒子を含む。

第374図 5区2面130住居

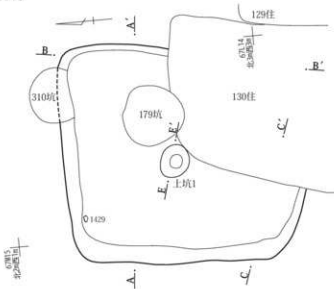
131住居



131住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒をわずかに、黄褐色土ブロック・炭化物粒子を少量含む。軟質。
- 2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。明褐色シルトブロックを頂に、白色鉱物粒をわずかに含む。軟質。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒を含む。軟質。
- 4 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。地山に近い。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。

掘り方



土坑1

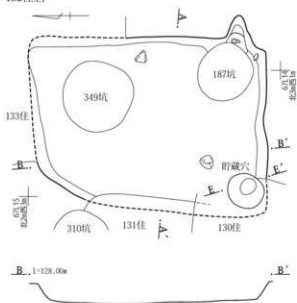
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒・炭化物粒子をわずかに含む。軟質。



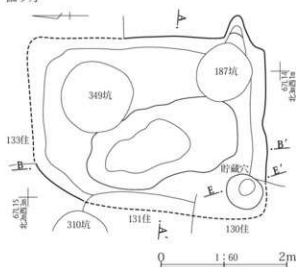
第375図 5区2面131住居

第4章 検出された遺構と遺物

132住居



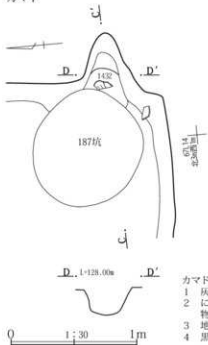
掘り方



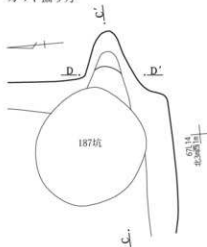
132住居

- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロック・炭化物を含む。軟質。
- 2 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒・焼土ブロックを含む。軟質。
- 3 暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。白色鉱物粒・炭化物・焼土を含む。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒・炭化物・明褐色シルトブロックを少量含む。軟質。
- 5 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。床面を形成する上。

カマド



カマド掘り方

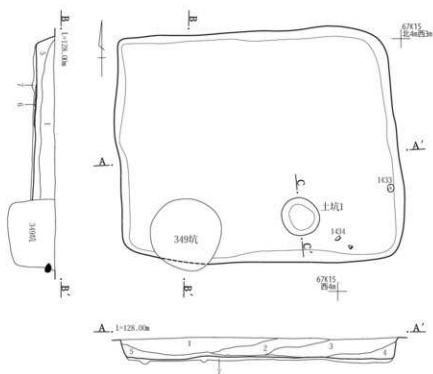


カマド

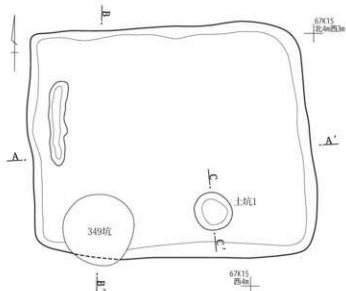
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 に示し褐色土7.5YR5/4 黄褐色土ブロック・焼土ブロック・炭化物を含む。下位に圧層。
- 3 地山。熱を受けて赤褐色を呈する。
- 4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに含む。

第376図 5区2面132住居

133住居



掘り方

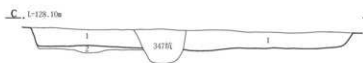
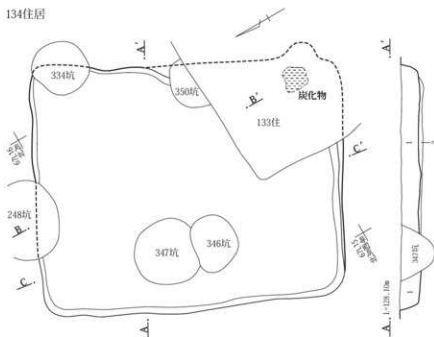


133住居

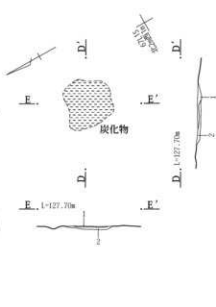
- 1 にふい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。黄褐色土ブロックを少量、Hr-FP軽石粒・円礫を含む。軟質。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。円礫を少量、Hr-FP軽石粒をわずかに、白色鉱物粒をまばらに含む。部分的に炭化物をわずかに含む。軟質。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。円礫・Hr-FP軽石粒を含む。褐色シルトブロックを斑に含む。軟質。
- 4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。中砂粒上に円礫を含む土が、崖地山の砂利層から流入する。軟質。
- 5 にふい褐色土7.5YR5/3 中砂粒土を含む。壁際は砂を多く含む。住居中央部に向かって砂が少なくなり、褐色シルト質土に褐色シルトブロックを斑に含む。軟質。
- 6 灰褐色土7.5YR4/1 灰層。134住居カマド痕跡分。
- 7 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒・白色鉱物粒を少量含む。床面を形成する土。

第377図 5区2面133住居

134住居



カマド



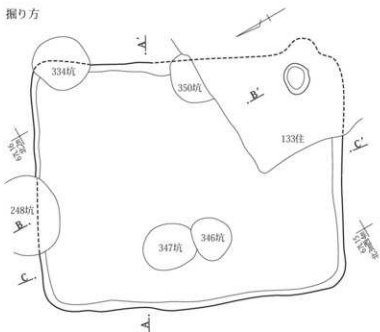
134住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。黄褐色火山灰(Br-Fa泥流)ブロック・Hr-籽粒石殻を含む。絡まっている。
- 2 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒を少量含む。

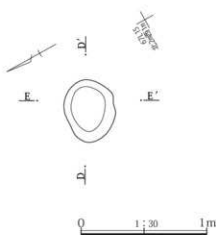
カマド

- 1 黒色土7.5YR1.7 シルト質土。炭化物・焼土粒子・灰を含む。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。炭化物をわずかに含む。地山に近い。

掘り方

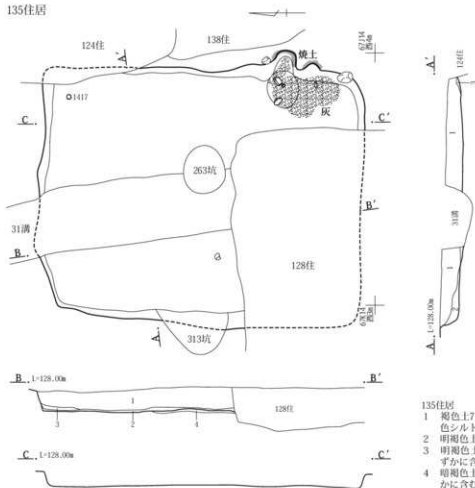


カマド掘り方



第378図 5区2面134住居

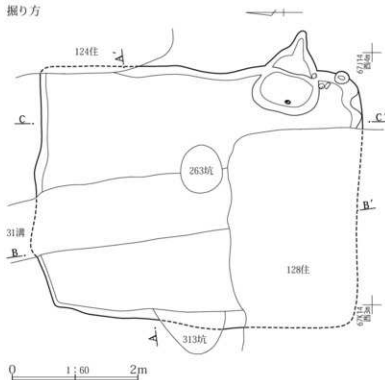
135住居



135住居

- 1 褐色土7.5YR4/3 白色鉱物粒・Hr-FP軽石粒・黄褐色シルトブロックを含む。締まっている。
- 2 明褐色土7.5YR5/6 シルトブロックと1層の混上。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒をわずかに含む。

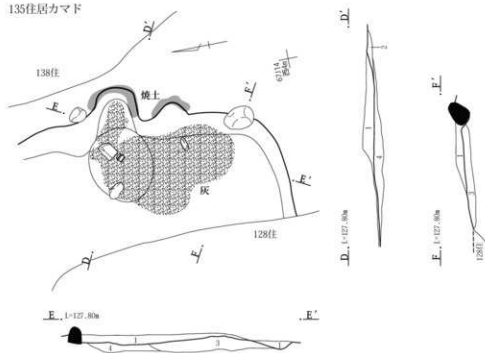
掘り方



第379図 5区2面135住居1

第4章 検出された遺構と遺物

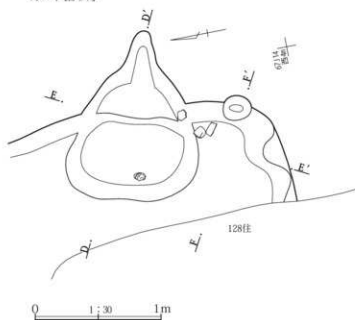
135住居カマド



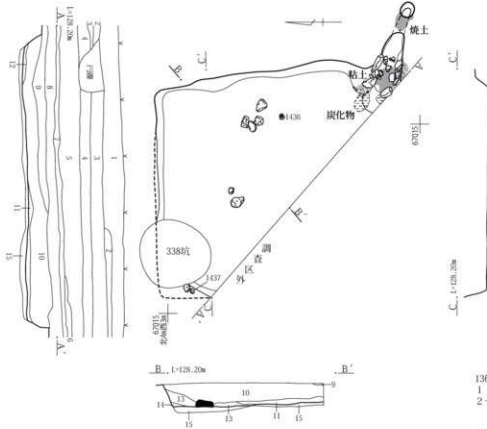
カマド

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。橙色シルトブロック・焼土粒子・炭化物・Hr-F軽石粒を少量含む。
- 2 明褐色土7.5YR5/3 シルト質土。地山ブロック。
- 3 黒色土7.5YR2/1 炭化物層。
- 4 暗褐色土7.5YR2/3 明褐色シルト質土・炭化物を含む。

カマド掘り方



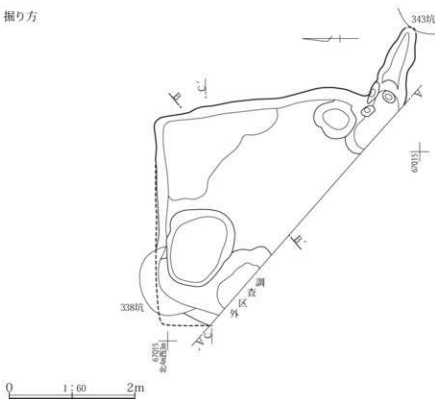
136住居



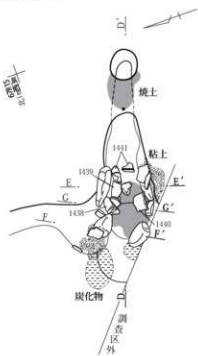
136住居

- 1 表土
- 2~4 赤褐色土。酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色上のHr-FP軽石粒が少量混入。
- 5 赤褐色土。酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色上のHr-FP軽石粒を少量。As-B軽石粒をわずかに含む。
- 6 赤褐色土。酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色上のHr-FP軽石粒を少量。As-B軽石粒を多く含む。灰褐色中砂粘土が主体。
- 7 赤褐色土。酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色上のHr-FP軽石粒を少量。As-B軽石粒を多く含む。
- 8 褐色土1.7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。
- 9 褐色土1.7.5YR4/3 シルト質土。炭化物をわずかに。Hr-FP軽石粒を含む。
- 10 黒褐色土1.7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに含む。軟質。
- 11 黒褐色土1.7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FP軽石粒をわずかに。炭化物を少量含む。軟質。
- 12 黒色土1.7.5YR7/1 シルト質土。炭化物粒を多く含む。136住居カマド底面。
- 13 褐色土1.7.5YR4/4 シルト質土。黄褐色シルトがラミナ状に堆積する。Hr-FP軽石粒を少量含む。軟質。
- 14 褐色土1.7.5YR6/8 シルト質土。ブロック状の地山。
- 15 褐色土1.7.5YR6/6 シルト。中砂粘土が混じる。床面を形成する土。

掘り方



第381図 5区2面136住居1



E., l=128.10m E'



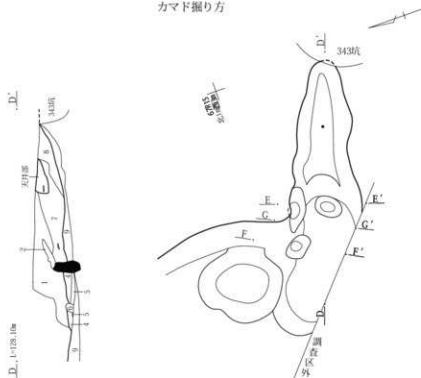
G., l=128.10m G'



E., l=128.10m E'



0 1:30 1m

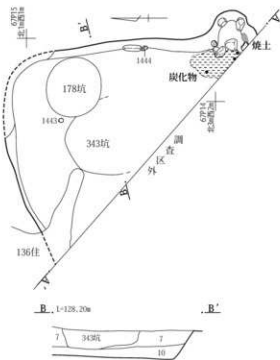


カマド

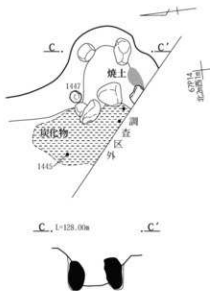
- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。白色炭化物をわずかに含む。
- 2 灰白色土7.5YR8/2 粘質土。ブロック状。キメの細かい土。カマド構築材か。
- 3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。焼けて赤褐色を呈する。わずかに白色炭化物を含む。
- 4 黒褐色土7.5YR1/3 炭化物を含む。灰層。
- 5 赤褐色土2.5YR4/6 焼土層。
- 6 明褐色土7.5YR5/6 シルトブロック。
- 7 明赤褐色土2.5YR5/8 シルト質土。カマド天井部。
- 8 赤褐色土2.5YR4/8 シルト質土。天井部・壁の崩落土。
- 9 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。

第382図 5区2面136住居2

137住居



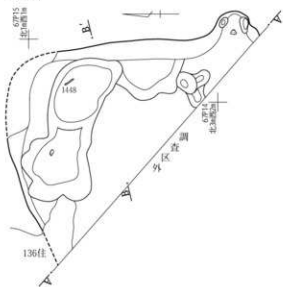
カマド



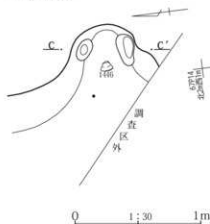
137住居

- 1 表土
- 2~4 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色土のHr-FF軽石粒が少量混入。
- 5 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色土のHr-FF軽石粒が少量混入。As-B軽石粒をわずかに含む。
- 6 赤褐色土 酸化鉄分を含んだ水田土壌。上位に褐灰色土のHr-FF軽石粒を少量、As-B軽石粒を多く含む。
- 7 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-FF軽石粒を含む。
- 8 褐色土7.5YR5/6 カマド周辺の地山層が流れ込んだ可能性のある土。
- 9 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。黄褐色シルトブロック・白色炭物粒を含む。軟質。
- 10 に近い褐色土7.5YR5/3 Hr-FF軽石粒と黄褐色シルトブロックを含む。136住居のカマドの壁がわずかに残っている。
- 11 褐色土7.5YR6/6 シルト。中砂粒が混じる。床面を形成する土。
- 12 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。炭化物・灰を含む。焼上ブロックをわずかに含む。灰を掻き出した痕跡か。
- 13 褐色土7.5YR6/6 シルト。11層に焼上をわずかに含む。

掘り方



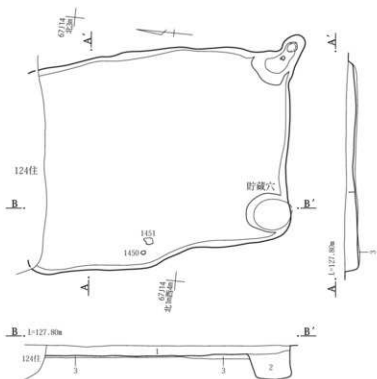
カマド掘り方



第383図 5区2面137住居

第4章 検出された遺構と遺物

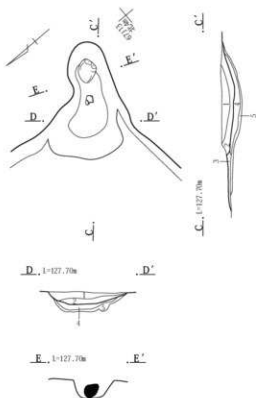
138住居



138住居

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 シルト質土。白色鉱物粒・H-FP軽石粒を含む。円礫を少量含む。締まっている。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。
- 3 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。H-FP軽石粒をわずかに含む。締まっている。

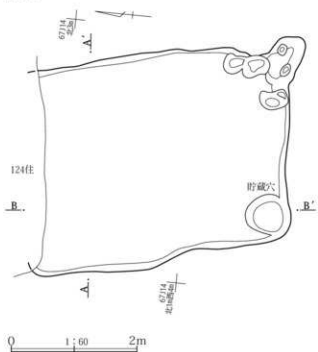
カマド



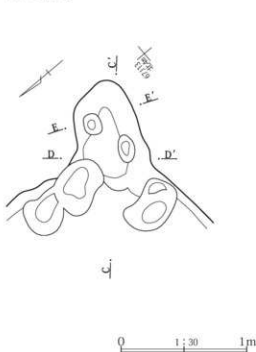
カマド

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色鉱物粒・焼土ブロックをわずかに含む。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。白色鉱物粒を含む。
- 3 灰褐色土7.5YR4/1 灰層。
- 4 黒褐色土7.5YR3/1 炭化物・焼土ブロック・灰をわずかに含む。
- 5 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。炭化物をわずかに含む。

掘り方

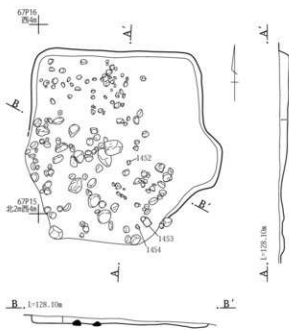
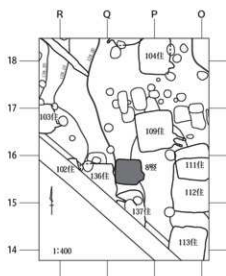
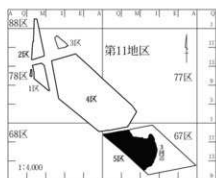


カマド掘り方



第384図 5区2面138住居

第6節 5区の遺構と遺物



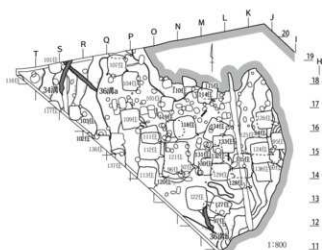
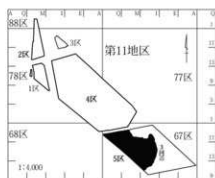
8 壑穴

1 黒褐色土7.5YR3/2 細砂粒土。締りあり、Hr-FPを含む。床面の礫は、円礫と角の取れた円礫化したHr-FP。礫中には土器片の出土がある。

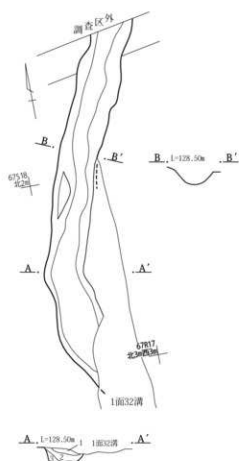


第385図 5区2面8壑穴

第4章 検出された遺構と遺物



34溝

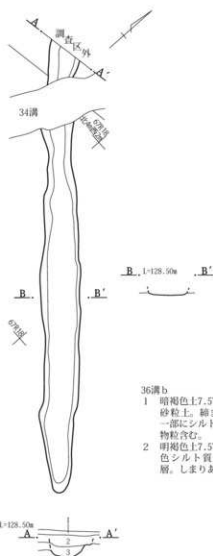


34溝

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。Hr-PP軽石粒を少量含む。
- 2 灰褐色土7.5YR4/4 ややシルト質。しっかりしている。Hr-PP軽石粒少量、Hr-FA泥流土ブロック・浅黄橙土部分的に含む。
- 3 灰褐色土7.5YR5/4 シルト質土。



36溝a



36溝a

- 1 灰褐色土7.5YR4/2 As-Bと一部に筋状に酸化鉄含む赤褐色土の混土。
- 2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Hr-PP軽石粒含む。
- 3 明褐色土7.5YR5/4 シルト質土。Hr-PP軽石粒・Hr-FA泥流層ブロック混入。

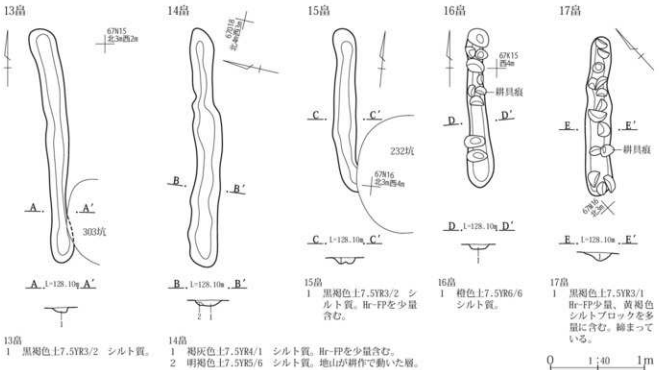
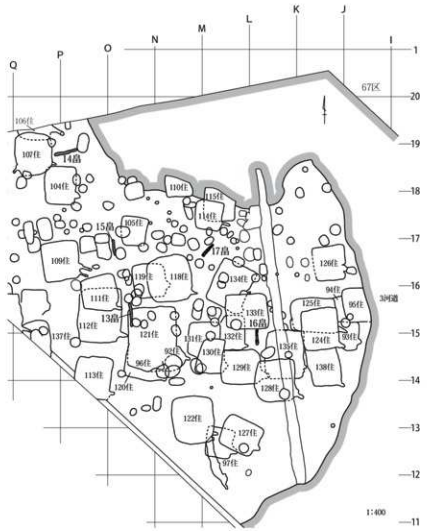
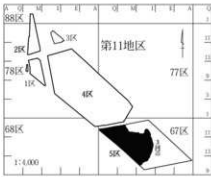
36溝b



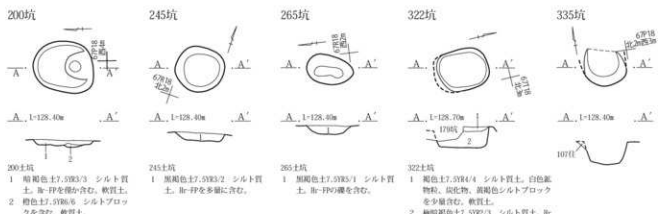
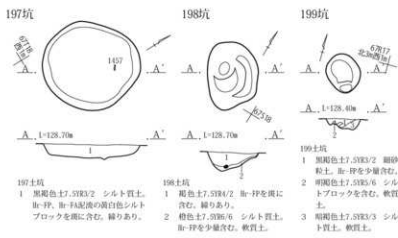
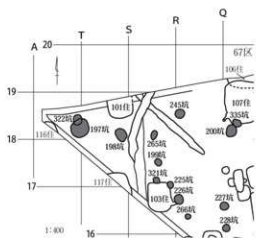
36溝b

- 1 暗褐色土7.5YR3/4 細砂粒土。締まりあり。一部にシルトと白色鉱物粒含む。
- 2 明褐色土7.5YR4/4 橙色シルト質土との互層。しまりあり。

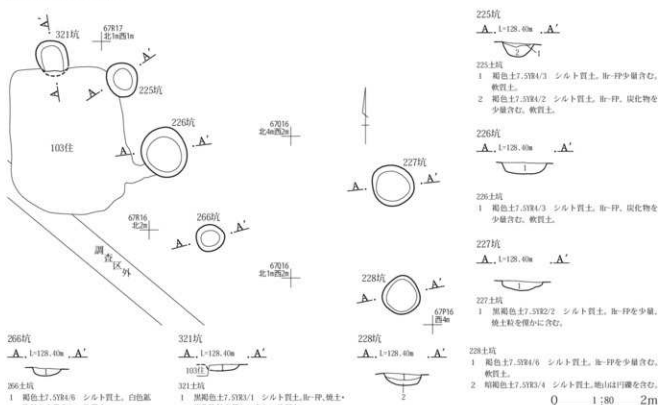
第386図 5区2面34溝、36溝a・b



第387図 5区2面13~17号

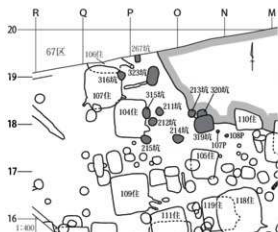


225~228・266・321坑



第389図 5区2面土坑1

第4章 検出された遺構と遺物



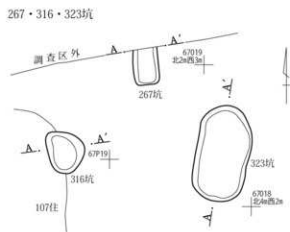
- 267土坑
- 1 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。R-PP、地山のシルトブロックを含む。軟質土。
 - 2 明褐色土7.5YR5/6 硬直入土。軟質。



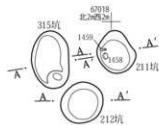
- 316土坑
- 1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。R-PP、炭土・炭化物を少量含む。
 - 2 明褐色土7.5YR3/4 シルト質土。炭土粒、シルトブロックを硬かに含む。
 - 3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色炭粉粒を硬かに含む。



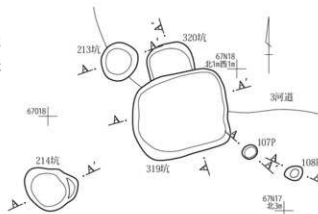
- 323土坑
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。R-PP、F-PP、白色炭粉粒を含む。地山はF-PP層10cm。



211~215・315・319・320坑、107・108P



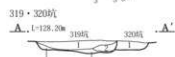
- 315土坑
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。R-PP、R-Fa配炭の黒白色シルトブロックを全面に含む。
 - 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。硬の直れ込み。



- 211土坑
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。R-PP、炭土・炭化物を少量含む。
 - 2 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。



- 212土坑
- 1 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。R-PPを少量含む。



- 319土坑
- 1 黒褐色土7.5YR3/2 R-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。
 - 2 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。両隣坑のR-PP、白色炭粉粒、黄褐色シルトブロックを面に含む。
 - 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。F-PP、R-PPを少量含む。
 - 4 黒褐色土7.5YR3/1 シルト質土。硬直れ込み、320土坑。
- 320土坑
- 1 明褐色土7.5YR3/3 R-PP、F-PP、黄褐色シルトブロックを含む。締まっている。



- 213土坑
- 1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。R-PP、黄褐色シルトブロックを含む。締りあり。
 - 2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。R-PPを少量含む。締りあり。
 - 3 明褐色土7.5YR3/4 シルト質土。



- 214土坑
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。R-PPを含む。



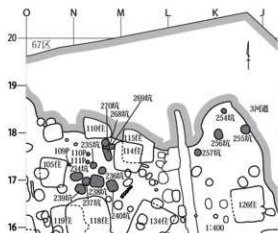
- 215土坑
- 1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。R-PP、焼土を少量含む。



- 107・108P
- 1 明褐色土7.5YR3/3 シルト質土。R-PP、白色炭粉粒、R-Fa配炭の黄褐色シルトブロックを少量含む。締まっている。
 - 2 褐色土7.5YR4/4 R-PP、R-Fa配炭の黄褐色シルトブロックを含む。



第390図 5区2面土坑2、ピット1

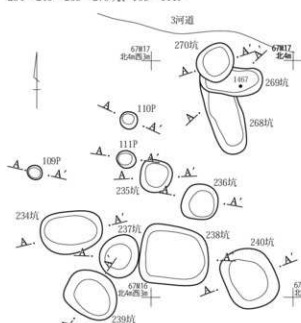


254土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。シルトブロックを僅かに含む。軟質土。



255土坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Rr-Fr, Rr-FA配流の黄白色シルトブロックを全面に含む。

234~240・268~270坑、109~111P



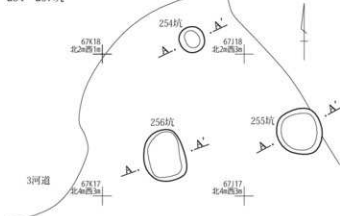
109P
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Rr-Fr, 白色炭化物, Rr-FA配流の黄褐色シルトブロック。炭化物を少量含む。軟質土。



109~111P
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Rr-Fr, 白色炭化物, Rr-FA配流の黄褐色シルトブロック。炭化物を少量含む。軟質土。



254~257坑



256土坑
1 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。硬土ブロック。炭化物を多く、Rr-Frを少量含む。
2 にごり褐色土7.5YR4/4 シルト質土。無炭酸分、Rr-Frを少量含む。締まっている。



257土坑
1 にごり褐色土7.5YR4/4 シルト質土。白色炭化物を僅かに含む。軟質土。



268・269坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Rr-Fr, Rr-FA配流の黄褐色シルトブロックを多量に含む。



270土坑
1 暗褐色土7.5YR2/3 Rr-Frを少量含む。締まっている。
2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。Rr-FA配流の黄褐色シルトブロックを多量に含む。締まっている。
3 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。黄褐色シルトブロックを少量含む。
4 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色シルトブロックを少量含む。締まっている。



235・236土坑
1 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。Rr-Fr, 黄褐色シルトブロックを全面に含む。軟質土。



240土坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Rr-Fr, Rr-FA配流の黄白色シルトブロックを全面に含む。

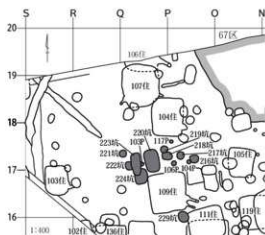


237・238土坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。Rr-Fr, Rr-FA配流の黄白色シルトブロックを全面に含む。

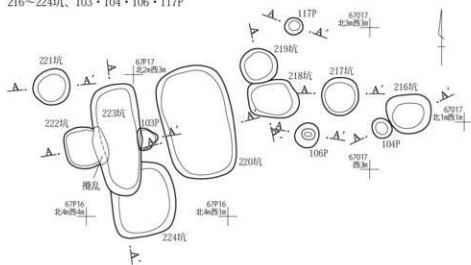
239土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Rr-Fr, 硬土粒を僅かに含む。軟質土。
2 にごり褐色土7.5YR4/3 シルト質土。硬塊が込み土。
3 暗褐色土7.5YR4/1 シルト質土。炭化物, 炭を含む。軟質土。

第391図 5区2面土坑3、ピット2

第4章 検出された遺構と遺物



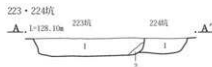
216~224坑、103・104・106・117P



217土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 褐色シルトブロックを含む。
2 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。褐色シルトブロックを含む。



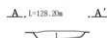
220土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Br-PP、黄土流、黄褐色シルトブロックを含む。
2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。Br-PPを僅か含む。



223・224坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Br-PP、黄褐色シルトブロックを多量に含む。
2 黒褐色土。5YR3/2 シルト質土。
224土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Br-PP、黄褐色シルトブロックを含む。



229土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Br-PPを多量に含む。



229土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Br-PPを多量に含む。



106P
1 褐色土7.5YR3/3 シルト質土。Br-PP、Br-F&A配達の黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。



117P
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Br-PP、白色泥物粒、Br-F&A配達の黄褐色シルトブロック、円礫を少量含む。締まっている。円礫を僅かに含む。締まっている。



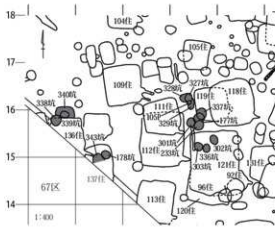
216坑・104P
216土坑
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。円礫、Br-PP、Br-F&A配達のブロックを含む。締りあり。
104P
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。



222・223坑・103P
222土坑
1 褐色土7.5YR5/1 中砂粒土に円礫を含む。
2 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。Br-PPを少量含む。
223土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。黄褐色シルトブロックを多量に含む。
103P
1 黒褐色土7.5YR3/2 Br-PPを少量含む。軟質土。

第392図 5区2面土坑4、ピット3

177・223・301~303・327~329・336・337坑、105P



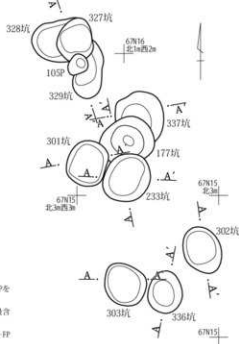
- 327土坑
1 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。B-PPを少量含む。細砂粒土。軟質土。
- 328土坑
1 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。B-PPを僅かに含む。
- 329土坑
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。B-PP、粘土・炭化物粒を少量含む。白色炭化物を含む。軟質土。
- 105P
1 黒褐色土7.5YR3/2 B-PP。黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。



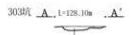
- 177土坑
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。B-PPを少量含む。軟質土。
- 2 褐色土7.5YR4/5 B-PP。円礫を少量含む。軟質土。
- 3 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。B-PP僅かに含む。軟質土。



- 301土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。



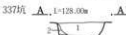
- 302土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。



- 303土坑
1 黒色土7.5YR2/1 シルト質土。炭化物、B-PPを少量含む。軟質土。



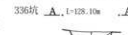
- 233土坑
1 褐色土7.5YR4/1 シルト質土。炭化物、灰を含む。軟質土。
- 2 明褐色土7.5YR3/4 シルト質土。B-PPを少量含む。



- 337土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。
- 2 褐色土7.5YR6/8 シルト質土。自然卵礫土。軟質土。
- 3 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。

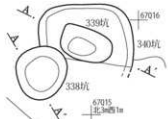


- 337土坑
1 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロック、白色炭化物を両面に含む。軟質土。
- 2 褐色土7.5YR6/8 シルト質土。自然卵礫土。軟質土。
- 3 黒褐色土7.5YR2/2 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。



- 336土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 B-PP、炭化物粒を僅かに含む。軟質土。
- 2 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。白色炭化物、黄褐色シルトブロックを両面に含む。軟質土。

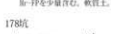
178・338~340・343坑



- 338土坑
1 明褐色土7.5YR3/4 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。結まっている。



- 339・340土坑
1 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。
- 2 暗褐色土7.5YR3/4 シルト質土。B-PP、黄褐色シルトブロックを僅かに含む。軟質土。



- 340土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。B-PPを少量含む。軟質土。
- 2 暗褐色土7.5YR2/3 中砂粒土。黄褐色シルトブロック、黒色土を含む。軟質土。
- 3 明褐色土7.5YR5/6 シルト質土。軟質土。

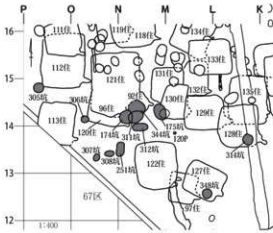


- 178土坑
1 黒褐色土10YR3/1 シルト質土。白色炭化物、黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。
- 2 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。3層に近接。B-PPを含む。



- 343土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。白色炭化物、B-PP、黄褐色シルトブロックを僅かに含む。

第395図 5区2面土坑7、ピット5

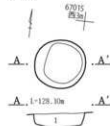


314坑



314土坑
1 黒褐色土7.5YR4/3 シルト質土。H-PPを含む。
2 黒褐色土7.5YR3/2 白色炭粉粒。シルトブロックを少量含む。締まっている。

305坑



305土坑
1 黒褐色土7.5YR3/3 H-PPを僅かに含む。軟質土。

306坑



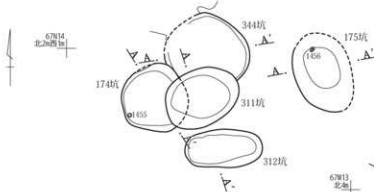
306土坑
1 黒褐色土7.5YR3/1 中砂粒土。H-PP。Aa-Bの炭土層。軟質土。
2 黒褐色土7.5YR3/2 薄。砂質ブロックを少量含む。軟質土。
3 黒褐色土7.5YR3/3 砂質土。
4 輪暗褐色土7.5YR2/3 細砂粒土。

348坑

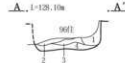


348土坑
1 にぶい褐色土7.5YR5/4 シルト質土。H-PP。黄白色シルトブロックを僅かに含む。
2 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。白色炭粉粒。H-PPを僅かに含む。締まっている。
3 灰褐色土7.5YR4/2 シルト質土。H-PP。円礫。黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。

174・175・251・307・308・311・312・344坑、120P



174坑

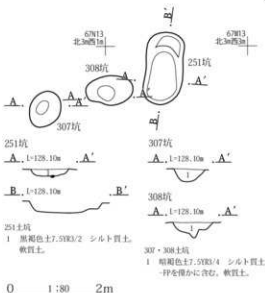


174土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。H-PP。黄褐色シルトブロックを含む。砂質土。
2 輪暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。白色炭粉粒を僅か含む。
3 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。H-PP。H-FAN部の黄白色シルトブロックを含む。
4 褐色土7.5YR4/6 シルト質土。3層に近似。

175坑



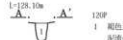
175土坑
1 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。H-PP。黄白色ブロック。炭粉粒を少量含む。軟質土。
2 褐色土7.5YR6/6 シルト質土。僅かにH-PPを含む。軟質土。



344坑



120P



344土坑
1 輪暗褐色土7.5YR2/3 シルト質土。H-PP。白色炭粉粒・黄褐色シルトブロックを面に、粘土・炭粉粒を僅かに含む。

120P
1 褐色土7.5YR4/4 シルト質土。H-PP。白色炭粉粒。H-FAN部流の黄褐色シルトブロックを少量含む。軟質土。

311・312坑

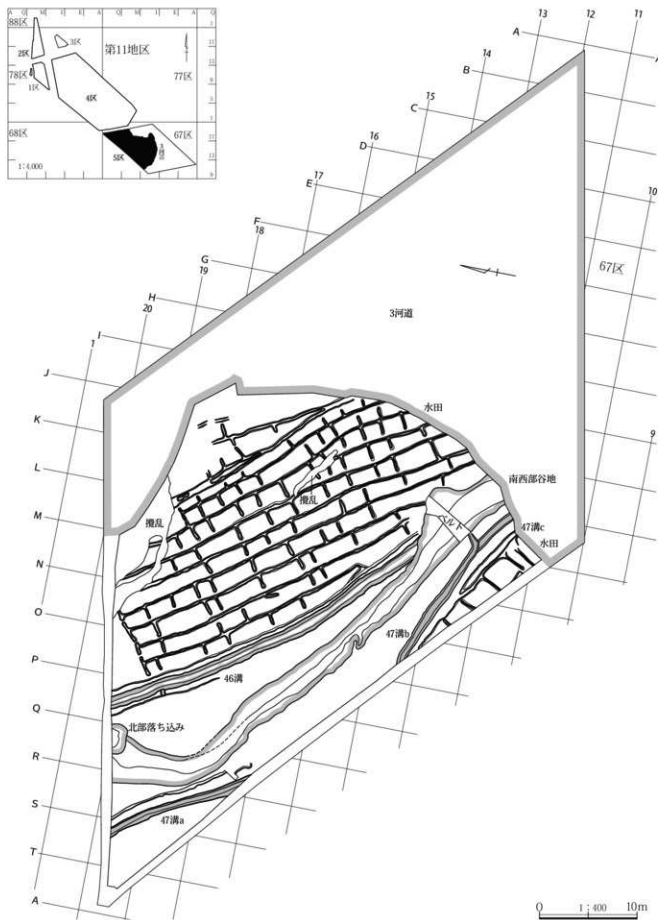


311土坑
1 褐色土7.5YR4/3 シルト質土。H-PP。H-FAN部流の黄白色シルトブロックを全面に含む。

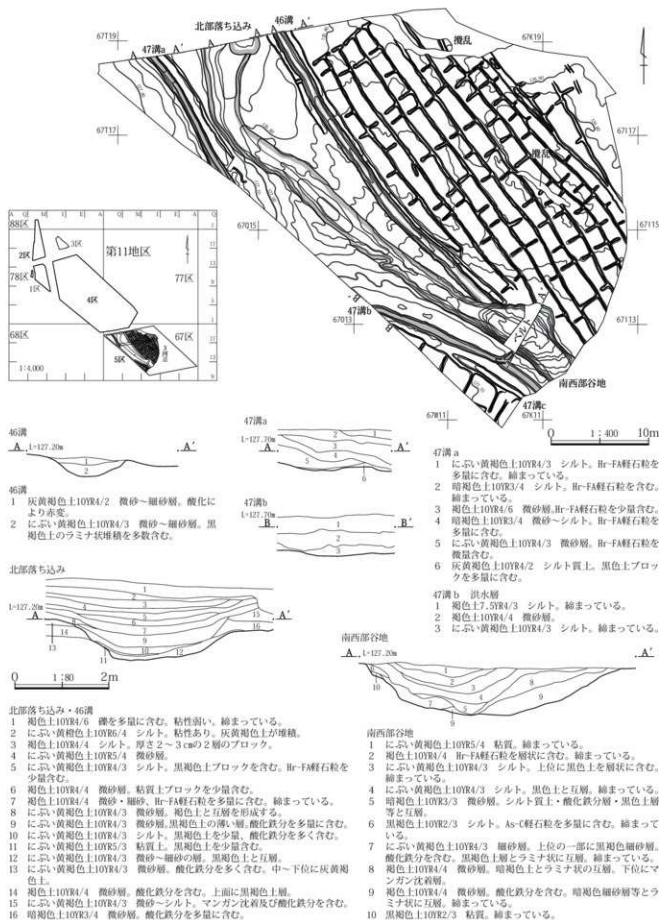
312土坑
1 黒褐色土7.5YR3/4 シルト質土。H-PP。H-FAN部流の黄褐色シルトブロックを少量含む。

第397図 5区2面土坑9、ピット7

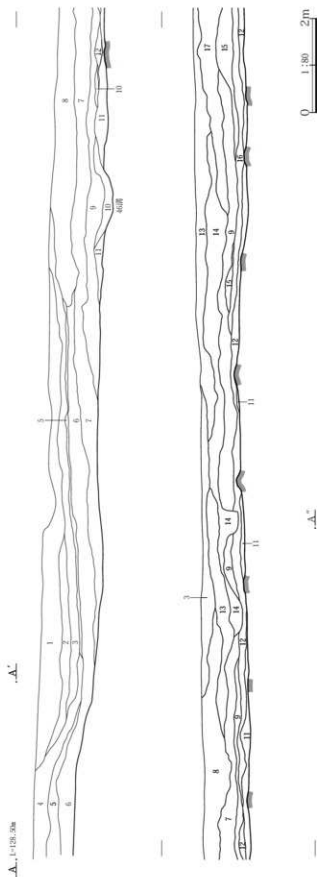
第4章 検出された遺構と遺物



第398図 5区3面全体図



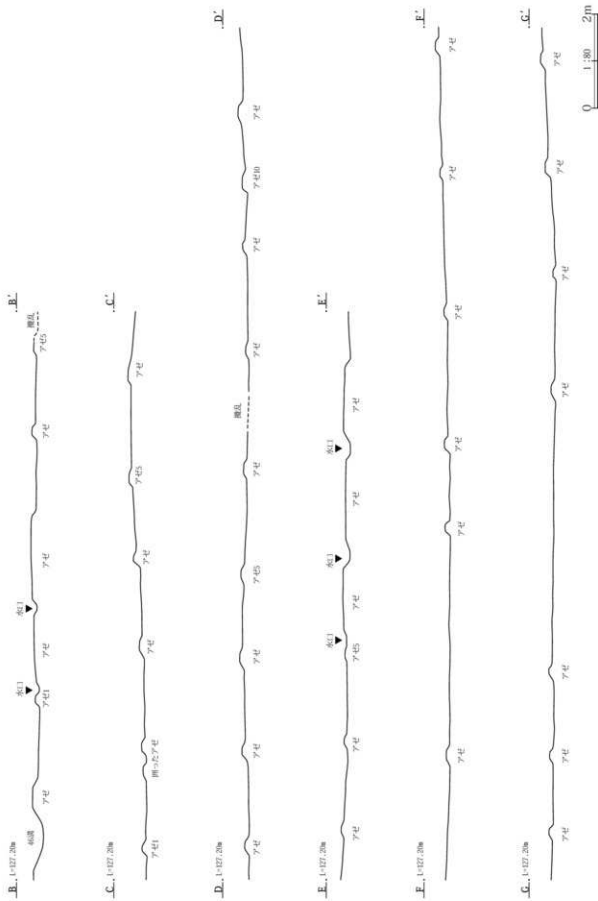
第399図 5区3面溝、南西部谷地、北部落ち込み



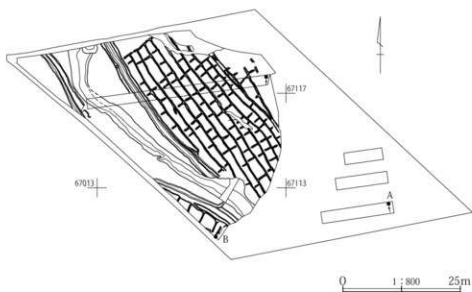
水田

- 1 暗褐色土10YR3/3 細砂層、礫(向四石安山岩主体)層・細砂・粗砂が互層、締まっている。
- 2 にぶい、黄褐色土10BR4/3 微砂層、一部に明褐色シルトと質土を層状に含む。
- 3 褐色土10BR4/4 微砂層、明黄褐色シルトブロックを少量含む。
- 4 褐色土10BR4/4 微砂層、明黄褐色シルトブロック・0.1-1mm粒石層を少量含む。
- 5 にぶい、黄褐色土10BR4/3 微砂層、明黄褐色シルト層を多量に含む、締まっている。
- 6 褐色土10BR4/4 微砂層、黄褐色土ブロック層を多量に含む、締まっている。
- 7 褐色土10BR4/4 微砂層、黄褐色土ブロック層を多量に含む、締まっている。
- 8 にぶい、黄褐色土10BR4/3 細砂層、礫を含む、締まっている。
- 9 暗褐色土10YR3/4 細砂層、一部に礫が層状に露出、礫は鉄分混入層とクミンナ状に互層、締まっている。上面にマンガン、赤化鉄分沈着層あり。
- 10 にぶい、黄褐色土10BR4/3 微砂層、灰褐色土・黒褐色土がクミンナ状に互層。
- 11 暗褐色土10YR3/4 一部にシルト層と褐色微砂層を含む。
- 12 暗褐色土10YR3/4 シルト、黒褐色土・灰褐色土がクミンナ状に互層。
- 13 褐色土10BR4/4 微砂層・シルト、礫を多量に含む、礫は鉄分層をクミンナ状に含む、締まっている。
- 14 にぶい、黄褐色土10BR4/3 礫を多量に含む、礫は鉄分層をクミンナ状に含む、締まっている。
- 15 暗褐色土10YR3/4 細砂層、黒色粒子を少量含む、締まっている。
- 16 暗褐色土10YR3/4 シルト、黄褐色土・黒褐色土がクミンナ状に含む、締まっている。
- 17 にぶい、黄褐色土10BR4/2 微砂層、黄褐色土・黒褐色土がクミンナ状に含む、締まっている。
- 18 灰黄褐色土10BR4/2 微砂層、一部に細砂層を含む、締まっている。

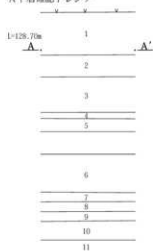
第401図 5区3面水田2



第402図 5区3面水田3

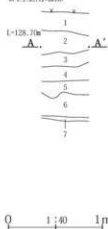


A 下層確認トレンチ



- 1 表土
- 2 灰褐色土7.5YR4/2 円礫を含む。
- 3 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。酸化鉄分を含む。
- 4 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。酸化鉄分を多く含む。
- 5 褐灰色土7.5YR4/1 シルト質土。Hr-FP軽石粒を含む。
- 6 黄褐色土7.5YR3/2 黄白色軽石シルト質ブロックを多く、Hr-FA軽石粒を多量に含む。Hr-FA泥流。
- 7 黒褐色土7.5YR3/2 シルト質土。Hr-FA軽石粒を含む。
- 8 黄褐色土7.5YR7/8 シルト質土。Hr-FA軽石粒を含む。Hr-FA泥流。
- 9 褐灰色土7.5YR4/1 中砂粒土。わずかにHr-FA軽石粒を含む。
- 10 明褐色土7.5YR5/6 中砂粒土。酸化鉄分を含む。

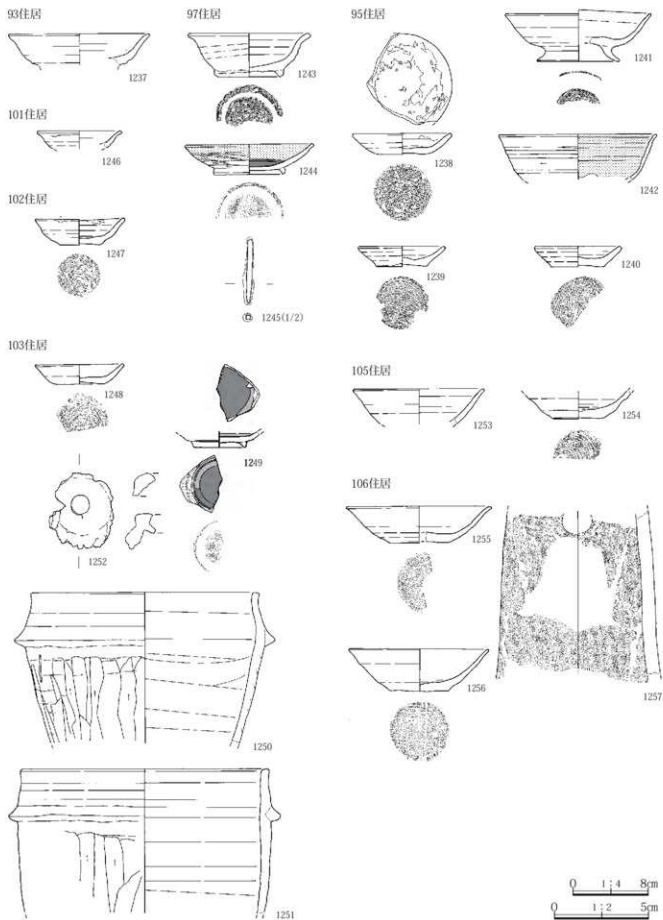
B 西壁南端部



- 11 黒褐色土7.5YR3/1 細砂粒土。
- 1 表土
- 2 褐灰色土 水田耕作土。Hr-FP軽石粒を含む。
- 3 赤褐色土 水田床土。酸化鉄分を含む。
- 4 褐色土 As-B軽石粒・Hr-FP軽石粒を少量含む。
- 5 にぶい褐色土 As-B軽石粒を多く、黄白色火山灰ブロック(Hr-FA泥流)を含む。
- 6 Hr-FA泥流層。
- 7 明褐色土7.5YR5/8 シルト質土。

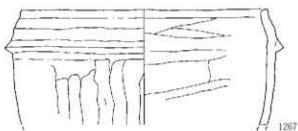
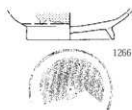
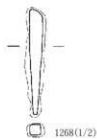
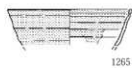
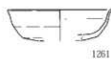
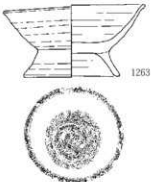
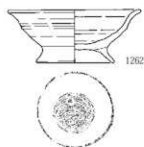
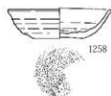
第403図 5区3面基本土層

第4章 検出された遺構と遺物

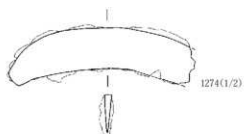
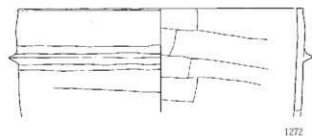
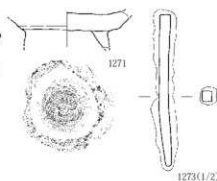


第404図 5区2面93・95・97・101～103・105・106住居出土遺物

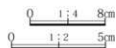
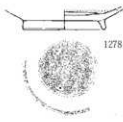
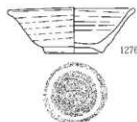
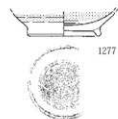
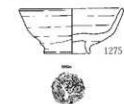
104住居



107住居



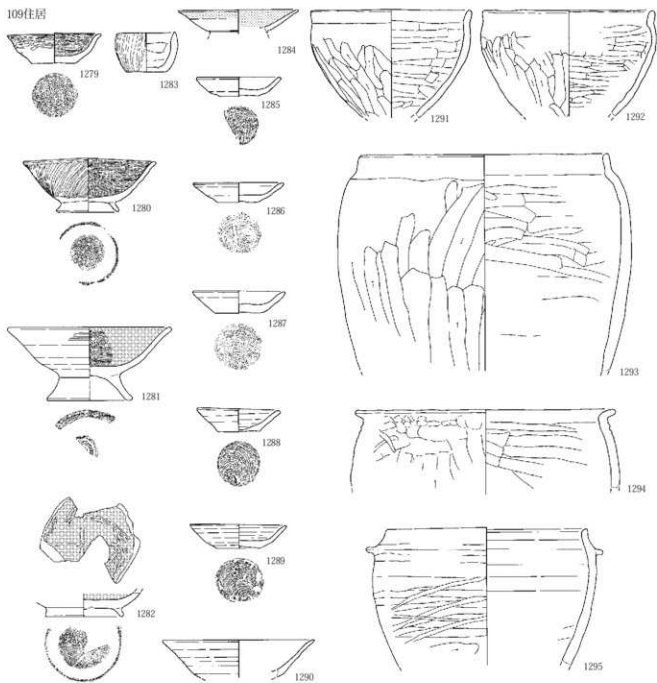
110住居



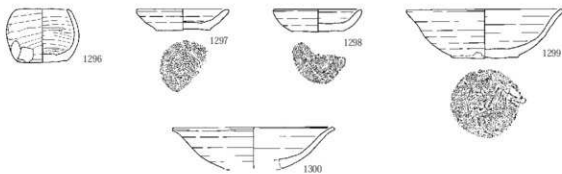
第405図 5区2面104・107・110住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

109住居



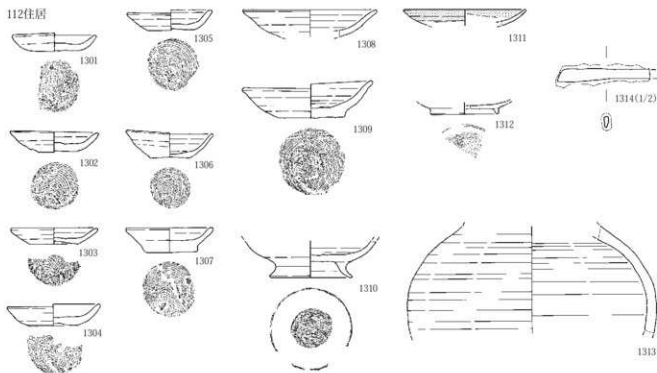
111住居



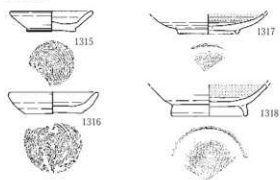
0 1:4 8cm

第406図 5区2面109・111住居出土遺物

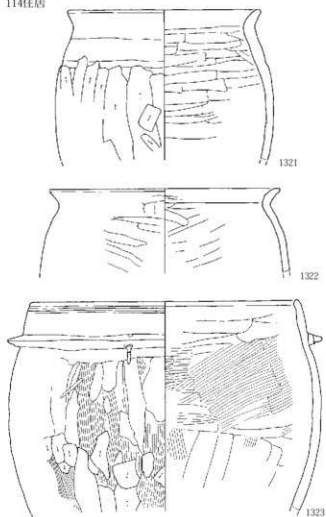
112住居



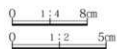
113住居



114住居



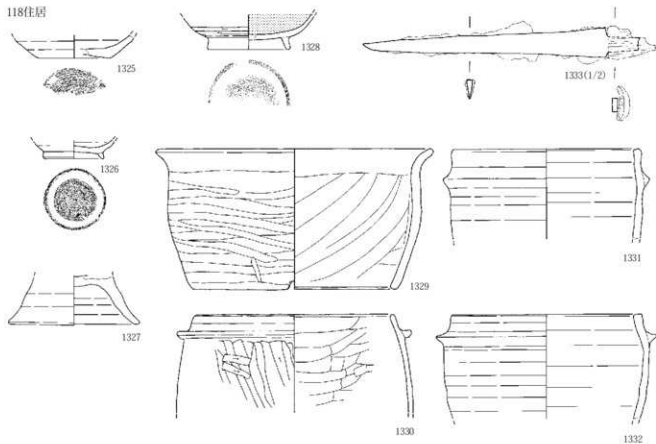
116住居



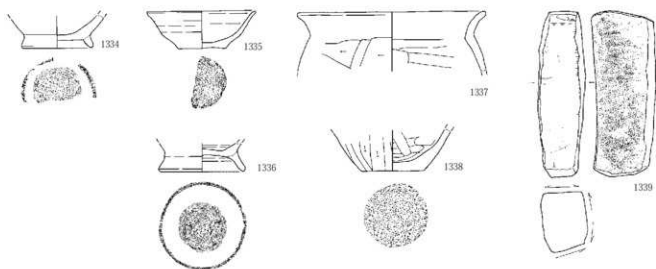
第407図 5区2面112～114・116住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

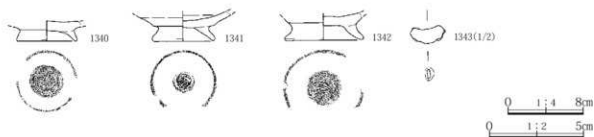
118住居



119住居

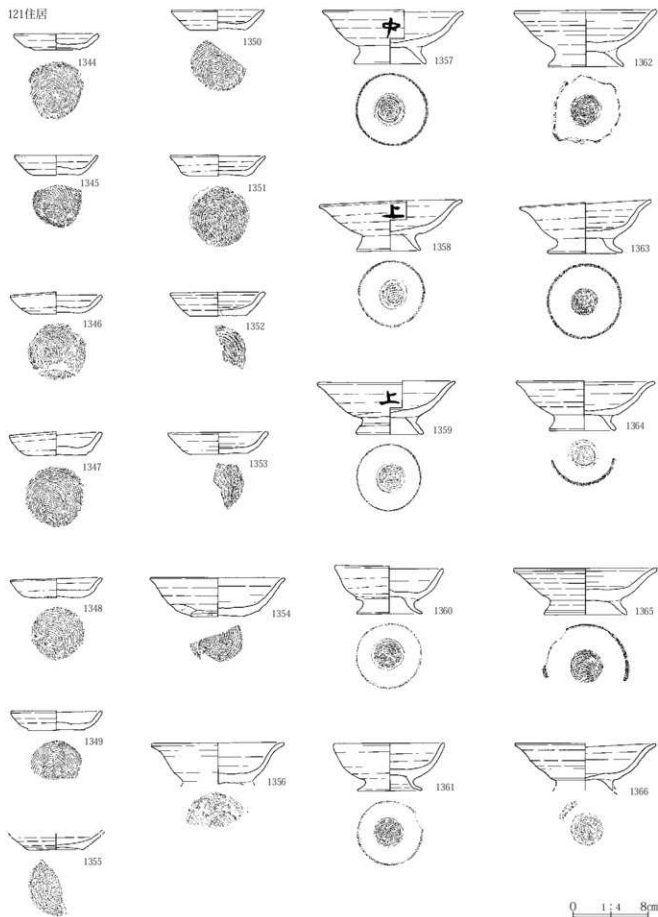


120住居



第408図 5区2面118～120住居出土遺物

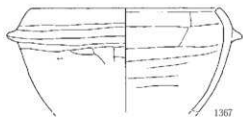
121住居



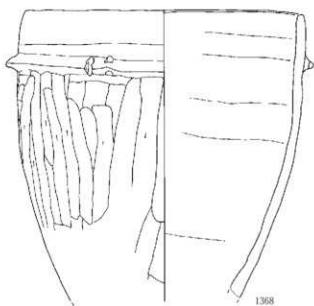
第409図 5区2面121住居出土遺物1

第4章 検出された遺構と遺物

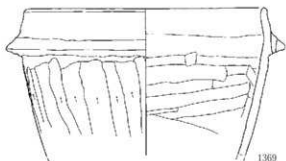
121住居



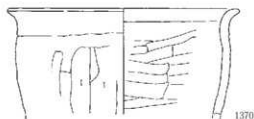
1367



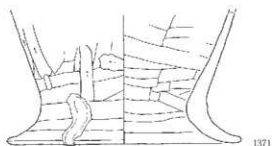
1368



1369



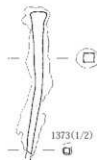
1370



1371



1372



1373(1/2)

1374(カマド石か)

134住居



1375



1376



1377

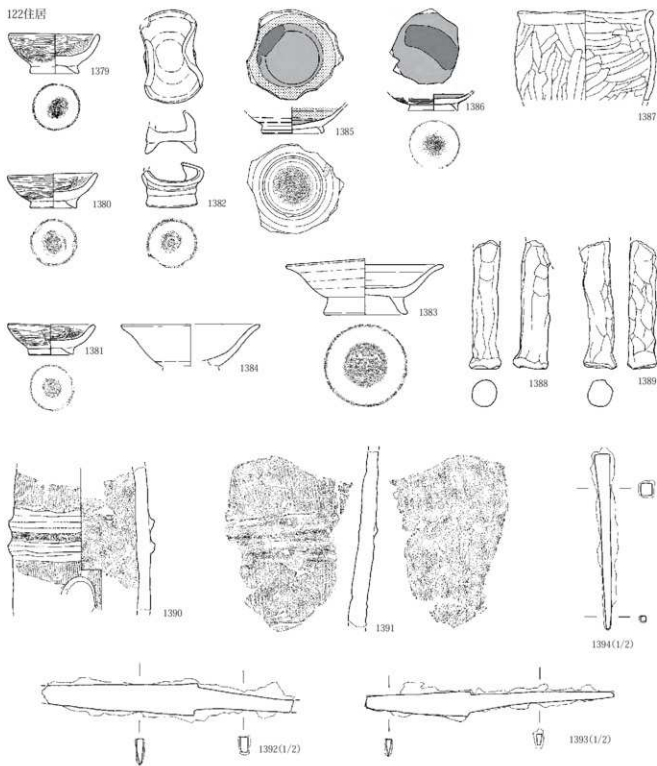


1378

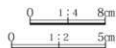


第410図 5区2面121住居出土遺物2、134住居出土遺物

122住居



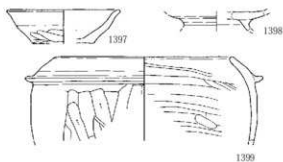
127住居



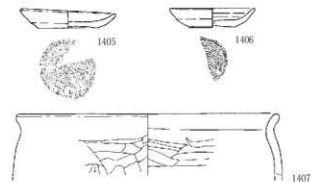
第411図 5区2面122・127住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

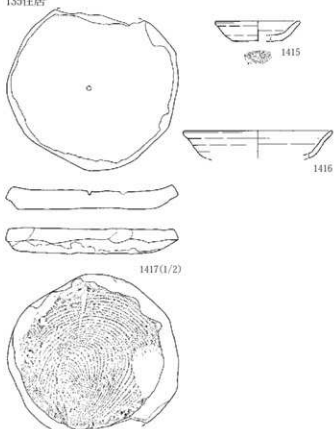
124住居



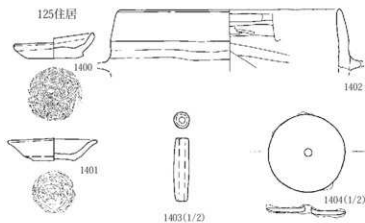
126住居



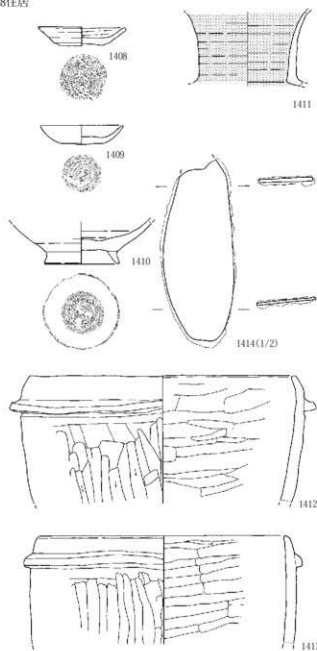
135住居



125住居

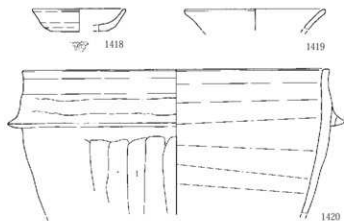


128住居

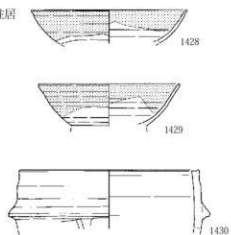


第412図 5区2面124・126・128・135住居出土遺物

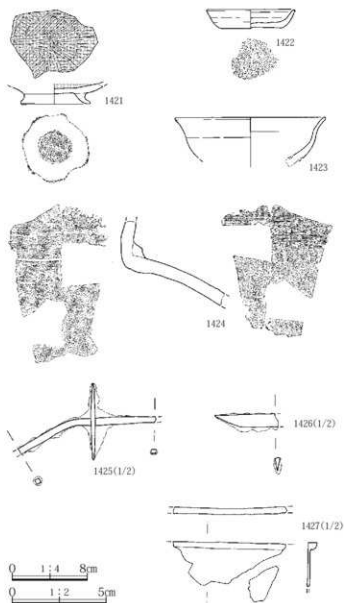
129住居



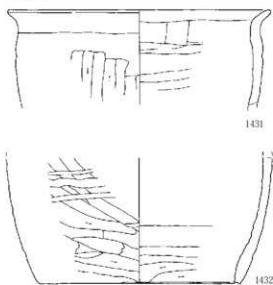
131住居



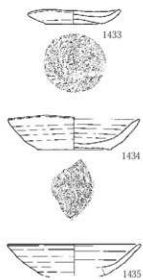
130住居



132住居



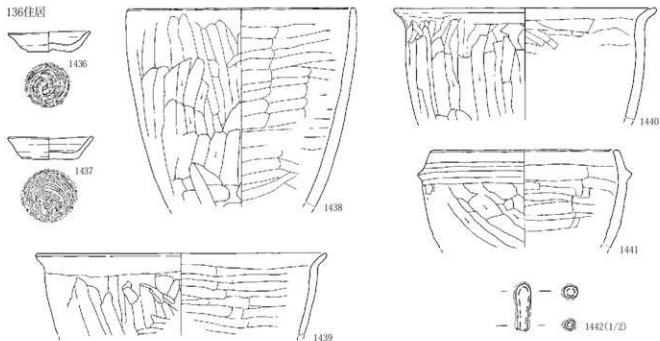
133住居



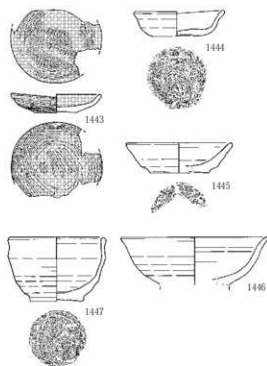
第413図 5区2面129～133住居出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

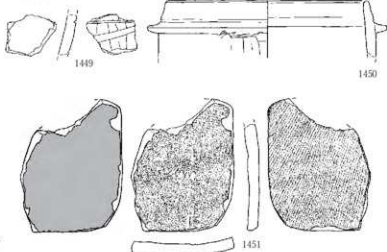
136住居



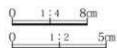
137住居



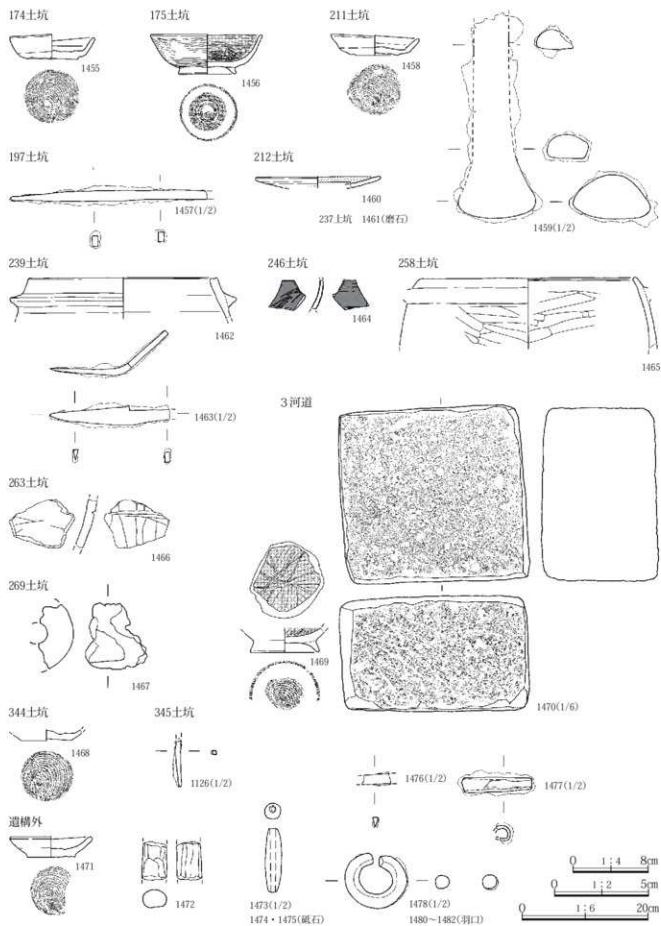
138住居



8 竪穴



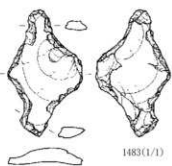
第414図 5区2面136～138住居、8竪穴出土遺物



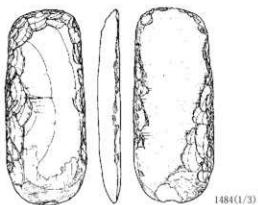
第415図 5区1面8畝・3河道、2面土坑、遺構外出土遺物

第4章 検出された遺構と遺物

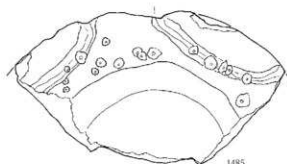
縄文時代



1483(1/1)



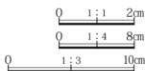
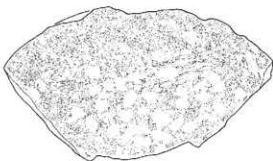
1484(1/3)



1485

1486(打製石斧)

1487(加工痕ある剥片)



第416図 遺構外出土遺物(縄文時代)

第5章 自然科学分析

第1節 出土炭化材の樹種同定

1 炭化材樹種同定の目的

4区に於いては61・78・87・139・142・143・152住居が所謂焼失家屋として認識、調査されている。その樹種等を把握することは、建物構造の検討に資すると共に、周辺環境の把握に資することになる。

そこで、出土炭化材の状態と予算とを勘案して、78・139住居出土炭化材について、同定を委託することとした。

尚、61・143住居出土の炭化材は、41・73住居1・2号製鉄炉、26溝出土炭化材と併せて当事業団で簡易な同定を行ったが、その結果は表7に記した通りである。

2 同定成果

(1)はじめに

関根細ヶ沢遺跡は、桃ノ木川と支流の細ヶ沢川の合流点下流側左岸の微高地上に位置する。発掘調査により、古代を中心とした100軒以上の住居、溝、土坑、製鉄炉等が検出されている。

本報告では、焼失住居と考えられる竪穴住居から出土した炭化材を対象として、建築部材の木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

(2)試料

試料は、竪穴住居78住居と139住居から出土した炭化材である。78住居は、住居のほぼ全面から良好な状態で炭化材が出土しており、取上済みの炭化材から出土位置・形状・保存状態等を考慮して21点を選択した。139住居は、現地で出土状況を観察した上で9点を選択した。2軒の住居から出土した炭化材、合計30点について樹種同定を実施する。

(3)分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柀目(放射

断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実顕微鏡および走査電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)や Wheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

(4)結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹3分類群(ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クスギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節)とイネ科タケ亜科、イネ科に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ヤナギ属(*Salix*) ヤナギ科

試料はいずれも現生植物の根などによる破壊を受けており、乾燥させた際に年輪界で1年単位に分離した。散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在する。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節(*Quercus subgen. Quercus sect. Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、道管は孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、道管は孔圏外で急激に径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

樹種同定結果

地区	面	道標	番号	木取り	直径	樹種	備考
4区	2面	78住居	炭1	芯持丸木	5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭2	芯持丸木	5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭3	芯持丸木	5.5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭4	芯持丸木	4cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭5	芯持丸木	5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭6	半截状	5cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	元は芯持丸木
			炭7	芯持丸木	2cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	炭4に直交
			炭8	芯持丸木	4cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭9	芯持丸木	5cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	端部二股状
			炭10	芯持丸木	6cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭14	削出材?		コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
			炭15	半截状	4.5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭16	芯持丸木	3.5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭18	芯持丸木	4.5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
			炭19	芯持丸木	5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節	(2-1)
			炭20	ミカン割	半径4cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
			炭21	削出丸木状	4cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
			炭24	不明		ヤナギ属	
			炭25	ミカン割	半径6.5cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
			炭26	ミカン割	半径6.5cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
炭29	丸木状	1.5cm	イネ科タケ亜科				
4区	139住居	炭1	芯持丸木	5cm	コナラ属コナラ亜属コナラ節		
		炭2	芯持丸木	4cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節		
		炭3	カヤ		イネ科		
		炭4	不明		コナラ属コナラ亜属クヌギ節		
		炭5	分割状?		コナラ属コナラ亜属コナラ節		
		炭6	ミカン割	半径5cm	ヤナギ属		
		炭7	半截状	3cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節		
		炭8	芯持丸木	4cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節		
		炭9	ミカン割	半径3cm	コナラ属コナラ亜属クヌギ節		

・イネ科タケ亜科(Gramineae subfam. Bambusoideae)

原生木部の小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成するが、繊維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い菱形となる。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

78住居の炭29は、大きさ等からタケ類の可能性があるが、節の保存状態が悪く、特徴を観察できなかったため、タケ亜科としている。また、139住居は、直径1cm未満で、78住居の炭29よりも薄く脆弱であることから、イネ科とした。

(5) 考察

炭化材には、合計5種類が認められた。各種類の材質等を見ると、クヌギ節とコナラ節は、二次林等を構成する落葉高木であるが、クヌギ節の方がより湿った環境を好み、エノキ属などと共に後背湿地に生育することもあられる。なお、現在の関東平野では、クヌギ節はクヌギ、コナラ節はコナラが一般的である。いずれも木材は重硬で

強度が高い。ヤナギ属は、属としては様々な環境に生育する。木材は軽軟で強度・保存性は低い。タケ亜科は、タケ類あるいはササ類であり、比較的強度・靱性が高い。イネ科は、イネ、ムギ等の栽培植物やススキなどの可能性がある。

炭化材の保存状態が良好な78住居では、住居のほぼ全面から炭化材が出土している。炭化材は、住居の中央部から外側に向かって放射状に配列しているものや、それに直交しているものがある。比較的よく残っている炭4をみると、床面直前に直径1cm前後のイネ科の稈が隣間無く並び、その上に放射状に炭4が乗り、炭4の上に直交するように炭7が乗っている。炭4と炭7の間にはイネ科などが挟まれている様子はみられない。炭7の上から、全てを覆うようにイネ科の塊が乗っている。こうした状況から、炭4が垂木、炭7が横木の可能性があり、イネ科の塊は屋根を葺いた萱材の束と考えられる。床面上に見られたイネ科の配列は、敷物あるいは、垂木の内側に貼られた可能性がある。各部位が接する部分に蔓などの結束材があるか確認したが、結束材は認められなかった。なお、床面上に見られたイネ科は、萱材と考えら

れるイネ科よりも径が太いことから、ヨシ属や小径のササ類に由来する可能性がある。垂木や横木と考えられる炭化材は、クヌギ節とコナラ節を中心としており、ヤナギ属が1点混じる結果であった。径が分かる試料をみると、垂木の可能性がある炭化材では、直径5cm前後の芯持丸木が多い。一方、横木の可能性がある炭7は直径2cmであった。クヌギ節やコナラ節は、本地域の二次林の主体をなす種類であり、身近に生育して入手が容易な樹木の中から、強度の高い木材を利用したことが推定される。ヤナギ属については、強度・保存性が低いことから、強度を必要としない部位に利用された可能性がある。炭29のタケ亜科は、壁際近くで、壁に平行に出土していることから、横木や萱材を支える部材等に利用された可能性がある。

139住居は、78住居に比べると炭化材の遺存状況は悪く、住居の北側の壁際を中心に僅かに炭化材が残っている状況である。壁に寄りかかるように出土している試料などがあることから、垂木が主体と考えられる。クヌギ節・コナラ節を主体として、ヤナギ属が混じる結果は、

78住居ともよく似ており、同様の木材利用が推定される。ヤナギ属については、少ないながらも各住居から認められており、特定の部位・用途にヤナギ属が利用されていた可能性もある。今後、2軒の住居でヤナギ属の出土位置・状況等を比較する必要がある。

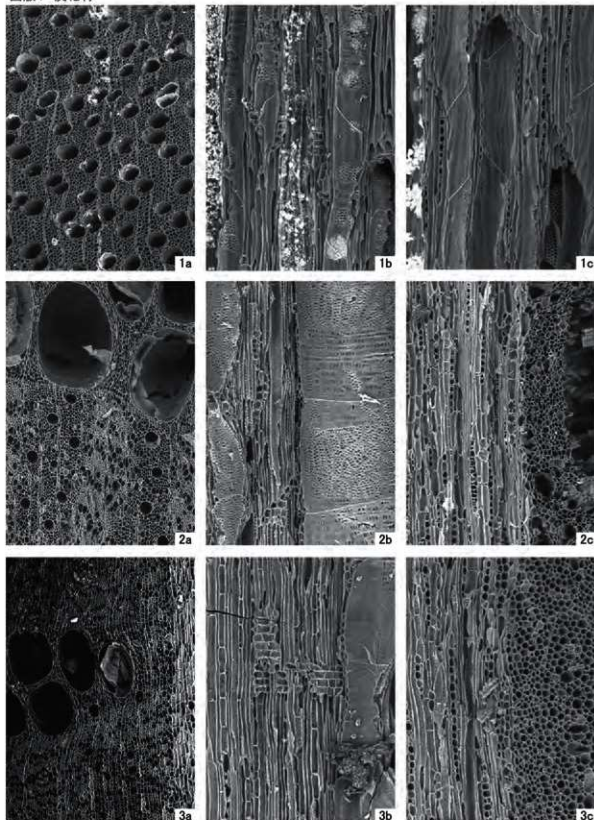
引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。
伊東 隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。
伊東 隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。
伊東 隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。
伊東 隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。
伊東 隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。
島地 謙・伊東 隆夫, 1982, 国産木材組織・地球誌, 176p。
Wheeler E.A., Bass P., and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAAIによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p。 [Wheeler E.A., Bass P., and Gasson P.E. (1989) IAAI List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

表7 炭化材同定表(同定委託以外)

遺構	No	樹種	備考
4区61住 炭	No 1	散孔材	直径3cmの丸木。
4区61住 炭	No 2	環孔材	直径2cmの皮付丸木。
4区61住 炭	No 3	クヌギ節	直径5cmの木材破片。
4区61住 炭	No 4	クヌギ節	直径4cmの丸木。
4区61住 炭	No 5	クヌギ節	直径5cmの丸木。
4区61住 炭	No 6	クヌギ節	直径3~4cm丸木。
4区61住 炭	No 7	クヌギ節	直径4cm丸木。
4区61住 炭	No 8	環孔材と環孔材	直径2.5cm環孔材丸木と直径4cm散孔材丸木、他に丸木圧痕の有るカヤ材。No 8と9は一括取り上げで区別できない。
4区61住 炭	No 9	環孔材と環孔材	直径2.5cm環孔材丸木と直径4cm散孔材丸木、他に丸木圧痕の有るカヤ材。No 8と9は一括取り上げで区別できない。
4区61住 炭	No 10	環孔材	直径1.5cm丸木。
1区1製鉄炉前庭部	No 41	クヌギ節	小破片。
4区26溝上層 炭		クヌギ節	小破片。
4区26溝上層 炭		散孔材	小径木破片。
4区西2製鉄炉南壁トレンチ炭		クヌギ節	大径木破片。
4区西2製鉄炉北側覆土炭		クヌギ節	直径1.5cmと4cm丸木。
20溝 一括炭		針葉樹	丸木の1/4割れ。
4区西3製鉄炉前庭部覆土炭		クヌギ節	大径木破片。
4区西7住居 炭	No 10	クヌギ節	直径6cm 1/2割れ。
4区143住居覆土 炭		クヌギ節	大径木破片。
4区西1製鉄炉 6面下層 炭 F-2		クヌギ節	大径木破片。
4区西1製鉄炉 1面 E-2 一括		クヌギ節	大径木小破片。
4区41住居 一括炭		針葉樹	大径木破片。
4区西2製鉄炉 5面 E-2 覆土		クヌギ節	大径木破片。

図版1 炭化材



1.コナラ属コナラ垂属コナラ節(SJ78;炭1)

2.コナラ属コナラ垂属クヌギ節(SJ78;炭6)

3.ヤナギ属(SJ78;炭24)

a:木口,b:柱目,c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

第2節 獣歯骨鑑定

1 獣歯骨鑑定の目的

関根細ヶ沢遺跡に於いては、1区27溝、2区18土坑、4区26溝、同84住居から獣歯骨が出土した。

これらについては獣種、部位、性別、年齢、形質的特徴を知り、可能であれば病変、疾病歴、刀傷等の外傷の有無、死因等を推定する資料を得ることを目的とし、本遺跡における動物の活動、利用の状況を把握したいとして、宮崎重雄氏に鑑定を依頼した。

2 鑑定結果

I 1区27溝

馬の左下顎骨と臼歯が4本残存する。現状では第1後臼歯と第2後臼歯が下顎に植立しているが、他の2本は乾燥により崩壊分裂している。

第4前臼歯は咬耗がわずかに開始したところで、第3後臼歯は最近心部で咬耗がわずかにみられる。他の咬頭にはまだ咬耗が及んでいない。このような咬耗の状況や、歯冠高を用いる西中川・松元(1991)の年齢推定法によって、年齢を推定すると、3歳に至らない幼齢馬であることわかる。

歯の大きさは日本在来の中型馬相当の馬格を思わせる。



1区27溝 馬左下顎骨と臼歯(No.1488)

II 2区18土坑

きわめて保存不良の微細骨片10数片で、種の同定は不可能である。(1489)

III 4区26溝

1. No.4:馬歯

左下顎の第3前臼歯から第3後臼歯までの歯がほぼ完存し、左第2前臼歯は破片の一部だけが確認される。

第3前臼歯から第3後臼歯までの咬合面での歯列長は136.5mmを計測し、日本在来馬の小型馬相当の馬格が推定される。

西中川・松元(1991)の歯冠高による年齢推定法を用いると、8歳前後の牡馬であることがわかる。

2. No.5:馬歯

数10片の歯に分離し、破片化している。いずれも下顎の歯である。この中で歯種が判定できるのは3本で、右第3前臼歯、右第1後臼歯、右第3後臼歯である。他に下顎骨片もわずかに残存する。

歯冠高を用いた西中川・松元(1991)の年齢推定法によれば、馬齢は7~9歳と推定される。

3. No.6:馬歯

ほぼ完存する右下顎の第4前臼歯1本である。西中川・松元(1991)の歯冠高を用いる年齢推定法によれば、7~8歳の牡馬である。

上記のNo.4の馬歯とは推定年齢が近く、また出土位置も近いことにより、No.4、No.5、No.6は同一個体で、No.5とNo.6は、No.4の左下顎に対応する右下顎の歯であるとみてほぼ間違いない。

26溝では、下顎の歯だけの出土で、上顎の歯は1本も検出されていない。前述の27溝でも下顎の臼歯だけが埋存していた。このことから、当該遺跡の溝には当初から馬の下顎だけが持ち込まれていた可能性が考えられる。



4区26溝 No.4馬歯(No.1490)



4区26溝 No. 5馬歯(No.1491)



4区26溝 No. 6馬歯(No.1492)

IV 4区84住居

住居内に設けられたカマドからニホンシカの焼骨が出土している。

部位は指骨の一部である中節骨で、近位関節面はほぼ完存するが、他の部分は細かく分裂・崩壊している。

骨は焼かれると収縮し、本来の大きさを正確には知りえないが、それを考慮しても、小さめなのでメスの可能性が考えられる。



4区84住居 ニホンシカの焼骨(No.1493)

3 暫定的考察

上記の鑑定結果から考えられることは、次の通りである。

- 1 土坑出土の骨片は、埋葬された可能性があり、2区18土坑は墓坑と解釈される。
- 2 4区26溝出土の馬歯は下顎のみを出土しており、この選別を重視すれば、馬の下顎馬歯を埋葬する儀礼の存在を窺わせる。または単純に、下顎のみが遺存し、調査区域内で出土したとも考えられる。
- 3 4区26溝から馬の骨等が出土する例を調べる必要がある。降雨を祈るなどの儀礼にかかわる出土なのか、単純に埋没過程にある溝の窪みに馬を投棄したのか、類型調査を必要とする。
- 4 4区84住居出土のニホンシカの焼骨は、単純に考えれば食糧としたシカの骨の一部が遺存していたと推定される。ただし、関根細ヶ沢遺跡は沖積地に立地しており、シカの生息する環境とは想定できない場所であることから、より標高の高い赤城山麓等で捕獲したシカを持ち込んだ可能性が高い。食用となる部分を含まない中節骨がなぜ焼骨となってカマドから出土するのか興味の持たれるところである。

引用文献

- 西中川 駿・松元光春(1991)「遺跡出土骨同定のための基礎研究一特に在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、164-188。

馬歯計測値 1

	1区27溝				4区26溝			
					No 5		No 6	
	第4前臼歯 左	第1後臼歯 左	第2後臼歯 左	第3後臼歯 左	第3前臼歯 右	第1後臼歯 右	第3後臼歯 右	第4前臼歯 右
歯冠近遠心径		26.4	27.4		19.0+			26.6
歯冠頬舌径		13.4	12.1		10.0+			15.4
歯冠高頰側	55.9+	81.8	78.9					46.9
歯冠高舌側	56.7+	82.8+	75.6+	38.2+	45.3	43.9	37.0+	47.8
下後錘谷長		8.8	9.0					8.9
下内錘谷長		9.2	9.4		14.3	9.2		12.5
doubleknot長	15.9	14.8	14.2					15.8
咬合面の傾斜		105°	113°		82°		128°	93°
下内錘幅		4.9	4.1		7.1	6.9		6.4

単位：cm

馬歯計測値 2

	4区26溝No 4					
	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
	左	左	左	左	左	左
歯冠近遠心径		29.4	27.4	25.2	24.7	31.8
歯冠頬舌径		16.8	15.8	12.9	14.2	13.0
歯冠高舌側	22.4+	51.5	61.0	42.0	52.0	51.0
下後錘谷長		9.3	9.1	8.0	8.0	8.1
下内錘谷長		13.3	12.5	7.4	8.4	10.4
doubleknot長		17.3	16.1	14.0	12.9	12.5
下内錘幅		7.2	6.1	5.0	4.5	6.9

単位：cm

第3節 出土製鉄・鍛冶関連遺物の分析調査

1 分析調査の目的

本調査委託は、出土鉄生産関連遺物の科学分析を通して、1～3製鉄炉の原料砂鉄の性質や操業の様子を推測する資料とし、製鉄が周辺鍛冶場の操業の様子を推測する資料を得ることを目的として実施した。

調査委託資料は遺構の性質と予算に鑑みて、次の4点。

- 1 製鉄炉出土流動滓(委託番号KOM-1、遺物番号1022)、
- 2 製鉄炉出土流動滓(委託番号KOM-2、遺物番号1059)、
- 3 製鉄炉出土流動滓(委託番号KOM-3、遺物番号1082)、
- 2 製鉄炉出土椀形鉄滓(委託番号KOM-4、遺物番号1049)を選定した。

分析資料は出土遺物観察表(表23)及びPL.175～177を参照のこと。また分析内容、分析箇所等は出土遺物観察表に記した。

尚、分析目的は以下の通り。

KOM-1は、1製鉄炉を代表する流動滓。原料砂鉄の性質や操業の様子を推測する資料としたい。

KOM-2は、2製鉄炉を代表する流動滓。原料砂鉄の性質や操業の様子を推測する資料としたい。

KOM-3は、3製鉄炉を代表する流動滓。原料砂鉄の性質や操業の様子を推測する資料としたい。

KOM-4は、4区製鉄炉周辺鍛冶工房を代表する椀形鍛冶滓。周辺からは鍛冶羽口、椀形鍛冶滓、砥石などが出土していることから、1～3号製鉄炉周辺で行われたことが想定される。製鉄以外鍛冶操業を確認するための資料としたい。

2 分析調査

1. 経緯

関根細ヶ沢遺跡は群馬県前橋市関根町地内に所在する。発掘調査地区では10～11世紀代と推定される製鉄が3基が検出され、鉄滓等の製鉄～鍛冶関連遺物も多数出土している。なお近接する田口上田尻遺跡^(註1)では、ほぼ同時期の鍛冶工房が検出されている。地域周辺での鉄生産の実態を検討する目的から分析調査を実施する運びとなった。

2. 調査方法

調査項目

(1)肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

(2)マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は顕微鏡検査よりも、広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどが観察できる利点がある。

(3)顕微鏡組織

鉛滓の鉛組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の $3\mu\text{m}$ と $1\mu\text{m}$ で鏡面研磨した。

また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

(4)EPMA化学組成分析

出土遺物の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO)：容量法。

炭素(C)、硫黄(S)：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素(SiO₂)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K₂O)、酸化ナトリウム(Na₂O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO₂)、酸化クロム(Cr₂O₃)、五酸化磷(P₂O₅)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO₂)：ICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

3. 調査結果

KOM-1：流動滓(1製鉄炉前庭部出土)第 図1022

(1)肉眼観察：多数の細い流動状の滓が溶着した、不定形で大形の製錬滓の破片(921.9g)である。上下面と側面の一部は破面である。破面の気孔は少なく緻密で、重量感がある。下面には比較的大形の木炭痕が点在する。また全面に微細な砂粒や、炉材の小破片が付着する。

(2)マクロ組織: Photo. 1 ①に示す。左側の円弧状の白色部は流動滓の接合面である。表層に沿ってウスタイト(Wustite: FeO)、またはマグネタイト(Magnetite: Fe₃O₄)が晶出する。下面表層には、部分的に薄く局部に被熱粘土(黒灰色部)が付着する。

(3)顕微鏡組織: Photo. 1 ②③に示す淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル(Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)、白色樹枝状結晶ウスタイト(Wustite: FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト(Fayalite: 2FeO・SiO₂)が晶出する。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。

(4)ピッカース断面硬度: Photo. 1 ③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は469Hvであった。ウスタイトの文献硬度値(450~500Hv)の範囲内であり、ウスタイトと推定される。また淡茶褐色多角形結晶の硬度値は681Hv、689Hvであった。硬度値からウルボスピネルに同定される^(註2)。

(5)化学組成分析: Table 2に示す。全鉄分(Total Fe)は49.21%であった。製錬滓としては高めである。金属鉄(Metallic Fe)は0.09%、酸化第1鉄(FeO)52.51%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)は11.87%の割合である。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)は24.23%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は6.45%と高値傾向を示す。砂鉄(含チタン鉄鉱^(註3))の二酸化チタン(TiO₂)は9.02%、バナジウム(V)も0.34%と高めであった。また酸化マンガン(MnO)は0.57%、銅(Cu)は0.01%と低値である。

当鉄滓はチタン(TiO₂)および塩基性成分(CaO、MgO)の割合が高く、火山岩起源の砂鉄を原料とした製錬滓に分類される。

KOM-2: 流動滓(2製鉄炉出土)第 図1059

(1)肉眼観察: 流動滓の破片(264.8g)である。上面は本来の表面で、筋状の流動滓が複数溶着した状況が確認される。側面から下面は全面破面である。破面の気孔は少なく非常に緻密な滓である。

(2)マクロ組織: Photo. 1 ④に示す。厚手(49mm)で緻密な流動滓である。観察面には流動滓の接合面は見られなかった。

(3)顕微鏡組織: Photo. 1 ⑤⑥に示す。滓中に多数散在する微細な明白色粒は金属鉄である。さらに淡茶褐色

多角形結晶ウルボスピネル、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

(4)ピッカース断面硬度: Photo. 1 ⑤の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は454Hvであった。ウスタイトの文献硬度値の範囲内であり、ウスタイトに同定される。また淡茶褐色多角形結晶の硬度値は641Hvであった。硬度値からウルボスピネルに同定される。

(5)化学組成分析: Table 2に示す。全鉄分(Total Fe)46.85%であった。製錬滓としてはやや高めである。金属鉄(Metallic Fe)は0.54%、酸化第1鉄(FeO)が50.52%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)は10.07%の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)27.26%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は7.68%と高値傾向を示す。砂鉄(含チタン鉄鉱)の二酸化チタン(TiO₂)は9.55%、バナジウム(V)が0.31%と高値であった。酸化マンガン(MnO)は0.62%、銅(Cu)は0.01%である。

当鉄滓は前述流動滓(KOM-1)とよく似た鉱物・化学組成であった。同じく火山岩起源の砂鉄を原料とした製錬滓に分類される。

KOM-3: 流動滓(3製鉄炉出土)第 図1082

(1)肉眼観察: 流動滓の破片(123.2g)である。上下面は本来の表面で、筋状の滓が複数溶着している。短軸両端は破面である。破面の気孔は少なく緻密な滓である。

(2)マクロ組織: Photo. 2 ①に示す。観察面では流動滓が4条溶着している。接合面の表層に沿ってウスタイト、またはマグネタイトが晶出する。下面表層には、部分的に薄く被熱粘土(黒灰色部)が付着する。

(3)顕微鏡組織: Photo. 2 ②③に示す。滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。黒色ガラス質滓中に淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また③の灰褐色粒は滓中の被熱砂鉄(0.2mm径)である。砂鉄粒子の断面には格子状の離層組織が観察され、含チタン鉄鉱と判断される。

(4)ピッカース断面硬度: Photo. 2 ②の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は804Hv、819Hvであった。ウルボスピネル(Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)としては硬質であり、ウルボスピネル(Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)とヘルシナイト(Hercynite: FeO・Al₂O₃)を主な端成分

とした固溶体⁽¹⁴⁾の可能性が高いと考えられる。また淡灰色柱状結晶の硬度値は654Hvであった。ファヤライトの文献硬度値(600~700Hv)の範囲内であり、ファヤライトと同定される。

(5) 化学組成分析: Table 2 に示す。全鉄分(Total Fe)は45.17%であった。製錬滓としてはやや高めである。金属鉄(Metallic Fe)は0.50%、酸化第1鉄(FeO)49.15%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)9.24%の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)は30.44%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は6.98%と高め傾向を示す。砂鉄(含チタン鉄鉱)の二酸化チタン(TiO₂)は8.60%、バナジウム(V)が0.36%と高値であった。酸化マンガン(MnO)は0.56%、銅(Cu)は0.01%である。

当鉄滓も流動滓(KOM-1, 2)とよく似た鉱物、化学組成であり、火山岩起源の砂鉄を原料とした製錬滓に分類される。

KOM-4: 梶形鍛冶滓(2製鉄炉出土)第 図1049

(1) 肉眼観察: ほぼ完形の梶形鍛冶滓(722.1g)である。表面には黄~茶褐色の土砂や鉄屑が付着する。上面は最大長さ2cm程の木炭痕が散在するが、比較的平坦である。下面は深い梶形を呈しており、細かい木炭痕による凹凸が著しい。

(2) マクロ組織: Photo. 2④に示す。表面(写真左上)には、微細な木炭破片が付着する。また流動滓(KOM-1~3)とは異なり、内部に不定形の微細な気孔が多数分布する。

(3) 顕微鏡組織: Photo. 2⑤⑥に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄、不定形明白色部は錆化鉄である。

(4) ビッカース断面硬度: Photo. 2⑥の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は844Hv、861Hvであった。ウルボスピネル(Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)としては硬質であり、ウルボスピネル(Ulvöspinel: 2FeO・TiO₂)とヘルシナイト(Hercynite: FeO・Al₂O₃)を主な端成分とした固溶体の可能性が高いと考えられる。また淡灰色柱状結晶の硬度値は623Hvであった。ファヤライトの文献硬度値(600~700Hv)の範囲内であり、ファヤライトと同定される。

(5) 化学組成分析: Table 2 に示す。全鉄分(Total Fe)45.89%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.21%、酸化第1鉄(FeO)38.17%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)22.89%の割合であった。造滓成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)は27.93%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は4.32%であった。砂鉄(含チタン鉄鉱)の二酸化チタン(TiO₂)は4.20%で、当遺跡出土製錬滓と比較すると低めであった。バナジウム(V)は0.36%である。また酸化マンガン(MnO)は0.21%、銅(Cu)0.01%であった。

当鉄滓は製錬滓(KOM-1)と比較すると、チタン(TiO₂)および塩基性成分(CaO, MgO)の割合が低減しており、精錬鍛冶滓と推定される。

4. まとめ

間根細ヶ沢遺跡から出土した、10~11世紀代と推定される製鉄~鍛冶関連遺物を調査した結果、当遺跡では砂鉄製錬と精錬鍛冶作業が行われていたことが明らかとなった。詳細は以下の通りである。

<1> 1~3号製鉄炉に伴って出土した流動滓(KOM-1~3)は、いずれもチタン(TiO₂)および塩基性成分(CaO, MgO)の割合が高く、火山岩起源の砂鉄を原料とした製錬滓に分類される。

群馬県下の出土製錬滓と化学組成を比較すると、ほぼ同程度チタン(TiO₂)を含む事例は多く、地域周辺に分布する砂鉄を採取して製鉄原料としていた可能性が高いと考えられる。また今回調査を実施した流動滓は、3点とも鉄分(FeO)の割合が高め傾向を示している[Fig. 1(注5)]。この特徴から、当遺跡での砂鉄製錬時の炉内温度は比較的低温で、還元雰囲気も弱く、やや少留りの悪い操業であったと推察される。従って全体に炭素含有率は低めで、製錬滓との分離が悪い状態の鉄塊が多く生産されたと考えられる。

<2> 梶形鍛冶滓(KOM-4)は、製錬滓(KOM-1~3)と比較するとチタン含有率が低減しており(TiO₂: 4.20%)、精錬鍛冶滓に分類される。製錬生成鉄(炭素含有率は低めで、製錬滓との分離が悪い鉄塊)の不純物除去(精錬鍛冶)作業が行われたことも確認された。

地域で鉄生産が開始される7世紀後半以降、未加工の製錬生成鉄(鉄塊)が広く鍛冶原料として流通している。ただし、近接する田口上田尻遺跡の鍛冶工房(10世紀後

半)から出土した鍛冶滓は、分析調査した5点すべてチタン含有率が低い(TiO_2 : 1%以下)ことが明らかとなっている。時代が10~11世紀まで下ると、製鉄遺跡のなかである程度鍛打成形した鉄素材が流通するようになったことを示唆するものか、鉄素材の流通のあり方の変化を示すものであれば非常に興味深い。現時点では調査事例が少ないため判断は難しいが、今後検討していく必要がある。

(注)

(1)『山口上田尻遺跡・下田尻遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012

(2)日刊工業新聞社『焼結組織写真および識別法』1968

ウスタイトは450~500Hv、マグネタイトは500~600Hv、ファヤライトは600~700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、チタン(TiO_2)を固溶するため、同じスピネル類のマグネタイトよりも硬質である。通常600Hv以上であればウルボスピネルと同定している。鉄(FeO)とアルミナ(Al_2O_3)からなるヘルシナイトはさらに硬質で1000Hv前後に達する場合も多い。

(3)木下亀城・小川留太郎『岩石鉱物』保育社 1995

チタン鉄鉱は赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。(中略)チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には、チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし、全体が完全に均質なものと、チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい縞状構造を示すものがある。

チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり、これにも均質なものと、縞状のものがある。(中略)このようなチ

タン鉄鉱と赤鉄鉱、または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱Titaniferous iron oreという。

(4)黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と造岩鉱物』[第2版]共立出版株式会社 1983

第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類(Spinel Group)の記載に加筆

尖晶石類の化学組成の一般式は XY_2O_4 と表記できる。Xは2価の金属イオン、Yは3価の金属イオンである。その組み合わせでいろいろの種類のものがある。(略)

(5) Fig. 1は以下の発掘調査報告書に掲載された化学分析をもとに作成した。

①『西野原遺跡(5)(7)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010

②『峯山遺跡Ⅱ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010

③『金井製鉄遺跡発掘調査報告書』渋川市教育委員会 1975

④『有馬条里遺跡』渋川市教育委員会 1983

⑤『津久田上安城遺跡』渋川市教育委員会 2009

⑥『元屋敷遺跡・下田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007

⑦『南原間遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007

⑧『G1藤岡市下日野金井窪趾群 G4金山下遺跡・金山下古墳群 G3平井詰城』新沢遺跡調査会 2005

⑨『滝前C遺跡・稲荷屋敷遺跡』藤岡市教育委員会 1996

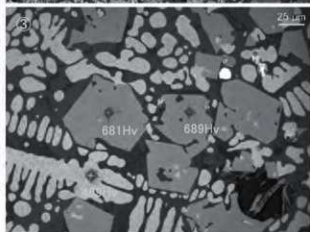
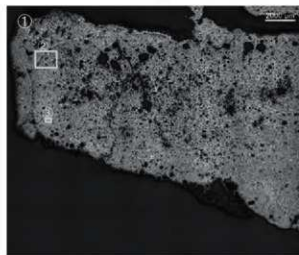
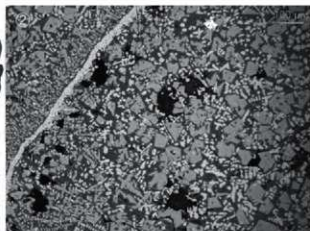
⑩『芳ヶ入遺跡』桐生市教育委員会 2013

⑪『大境遺跡』栃木県教育委員会 1993

KOM-1 流動滓

- ①マクロ組織、
- ②③滓部:ウルホスピネ
ル・ウスタイト・フェライト、微
小明白色粒:金属鉄
- ④硬度:50gfで測定

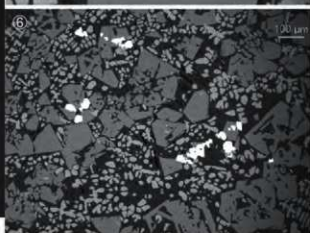
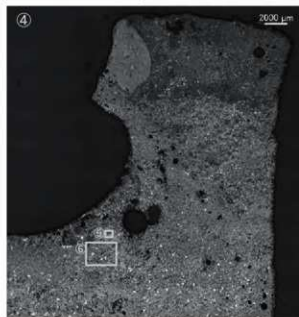
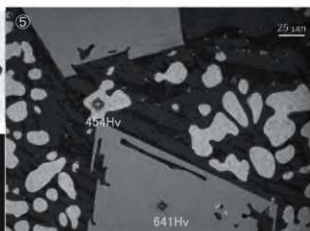
掲載No. 1022



KOM-2 流動滓

- ④マクロ組織、
- ⑤⑥滓部:ウルホスピネ
ル・ウスタイト・フェライト、微
小明白色粒:金属鉄
- ⑤硬度:50gfで測定

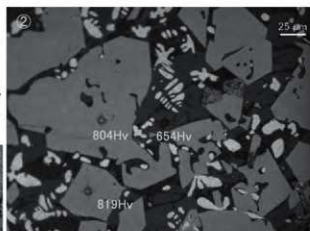
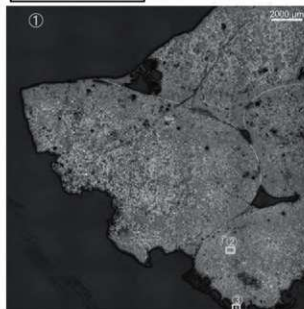
掲載No. 1059



KOM-3 流動滓

- ①マクロ組織
②③滓部:カルネスピネ
ル・ウスタイト・ファヤライト、微
小明白色粒:金属鉄
②硬度:50gfで測定、
③砂鉄(含チタン鉄鉱)

掲載No. 1082

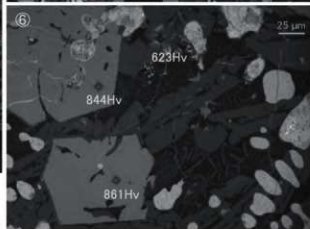
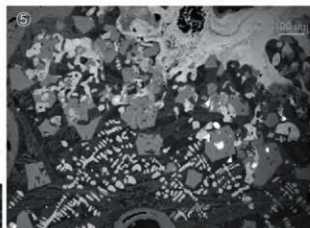
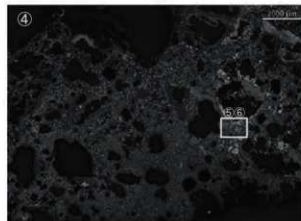


KOM-4

梔形鍛冶滓

- ④マクロ組織
⑤⑥滓部:カルネスピネ
ル・ウスタイト・ファヤライト、微
小明白色粒:金属鉄、
青灰色部:錆化鉄
⑥硬度:50gfで測定

掲載No. 1049



顕微鏡写真2

第6章 終章

1 概要

関根細ヶ沢遺跡は広瀬川低地帯の上部の一画である沖積地上に立地し、利根川支流の一つである細ヶ沢川の左岸に位置している。この細ヶ沢川は河川改修も施工され、調査区内にもその古い流路と想定される河道などが確認されるなど、その流れが一定でなかったことが窺われる。細ヶ沢川の流量はさして多いものではなかったが、時に洪水もあり、最近では昭和22年(1947年)9月のカスリーン台風によって、堤防が決壊し、田畑や家屋も被災しており、その被害は隣接する勢多郡南橋村川端(現前橋市川端町)では進駐軍払い下げのブルドーザー2台を購入して耕地復興を行わざるを得なかったほどであった。この災害復旧に伴い掘削された、天地返しに伴う幅2m程の復旧溝が、3区で確認されている。また、2・3面間では、古くは6世紀初頭の榛名山の噴火以降に発生した泥流層が厚く堆積するなど、洪水被害の痕跡が遺されていたのである。

しかし、このような災害を蒙りながらも、本遺跡では3面に亘る遺構が確認、調査された。この調査によって、1・2・3面合せて竪穴住居149軒、竪穴遺構13基、溝65条、河道4条、製鉄炉3基、鍛冶遺構1基、その他の製鉄関連遺構1箇所、墓坑1基、水田2面、畠10面、耕具痕4面、土坑420基、ピット94基、列石1列、谷地1箇所などの遺構が、比較的密度の濃い状態で現れて来たのである。そして、これらの遺構等、特に竪穴住居や製鉄炉などから、少なくとも量の当該期の遺物が出土してきたのである。

こうした遺構の調査成果を細かくは繰り返さないが、大凡次のようにまとめることができる。最も古い遺構は3面で確認され、それが何時まで遡るかは不明であるが、古墳時代から7世紀以前の時期には水田が営まれていたことが確認された。その後本遺跡は、泥流被害によって土地利用が放棄されるものの、10世紀から11世紀初頭にかけて製鉄関連の生業も営まれた集落が形成され(2面)、その後12世紀初頭には畑作が行われ、以降も農地

として利用され、或いは恐らく細ヶ沢川の変流に伴う河道の形成なども見られたのである(1面)。

2 10世紀後半を中心とする集落

上述のように、集落が営まれた時期は10世紀後半から11世紀前葉であった。

一般国道17号のバイパスである上武道路と前洗バイパス路線のうち、利根川左岸流域の低地部では東から関根細ヶ沢遺跡、関根赤城遺跡、田口下田尻遺跡、田口上田尻遺跡が、断続的ではあるが、連なって位置している。これらの遺跡のうち、後二者は4世紀にも集落が営まれ、7世紀以降の集落も営まれていたが、全ての遺跡で平安時代の集落が営まれている。このうち本遺跡の集落は9世紀第4四半期から11世紀前葉の所産と判断され、このうち74%は10世紀中葉から後葉にかけての所産と推定されるものである。関根赤城遺跡では10世紀後半から11世紀前葉の所産と判断される竪穴住居が調査されているが、これらの住居の45%は10世紀後半期のものである。

また、田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡の平安時代の集落は前時代からの引き継ぎとして9世紀から11世紀初めまでの住居が確認されるが、そのピークは10世紀後半期とされている(桜岡2012)。このように、沖積地に所在する国道17号バイパス建設予定地内所在の遺跡群に於いては10世紀後半期を中心とした時期の集落が営まれていたのであるが、同一集落として把握されるものと思慮される。

11世紀に入って集落(竪穴住居)が減少している。9～11世紀は比較的温暖な時期であり、3世紀から10世紀に竪穴住居軒数が温暖期には増え、寒冷期には減る傾向であって、本来であれば竪穴住居軒数が増える時期である筈であるのに対し、11世紀に入って竪穴住居軒数が減少している。こうした傾向は、県下に広く見られる現象である(石守2006)。その原因として、当時の集落に於ける建物が竪穴住居、掘立柱建物或いは平地式建物が併用されていたものが、竪穴住居の使用を減少させたためとも考えられるが、本遺跡や西接する関根赤城遺跡では、掘

立柱建物やそれを窺わせる遺構は確認されておらず、集落そのものの消滅が想定されるのである。

一方、11世紀は、峰岸純夫が「おそらく自然災害による不作に加えて、役夫工米の過酷な徴収が「亡弊の原因」とした、中央では関東を「亡弊の国」と称していた時期でもある(峰岸1989)ので、これに符合するようと思われる。しかし、峰岸はその原因の一つとして自然災害を挙げているが、上述のように11世紀は温暖期であるので、その原因は寧ろ人災によるものと思慮される。その可能性を考慮したい。

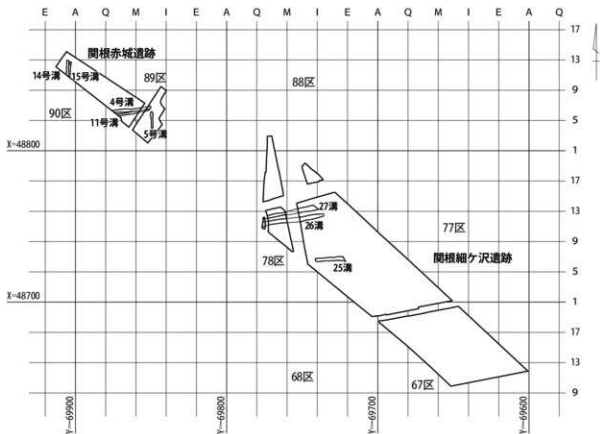
また低地帯の4遺跡の10世紀後半期を頂点とする集落は、製鉄炉や鍛冶といった製鉄関連遺構が確認されているのも共通した特徴である。このうち、10世紀後半期の製鉄炉は西浦北型の堅型製鉄炉であり、本遺跡のものには埋没途中の竪穴住居を前庭として、住居内部に炉体を設置したものが見られた。また、本遺跡では鍛冶遺構が確認されたが、西接する関根赤城遺跡では鍛冶炉の存在が窺われている。従って、本遺跡を含む低地帯の集落では製鉄から鉄製品の生産までを行っていたことが確認さ

れる。

3 大型の溝(第417図)

本遺跡では堀と呼んでも良いような溝が3条程確認されている。1・4区に在る26溝は、上幅3m程を測る、8~13°程反時計回りに傾く略東西走行を為す溝で、その位置は78区の13ライン(9系X=48760m)のやや南に位置している。26溝の北側5m程、13ラインのやや北側には、反時計回り10°程傾く略東西走行で26溝と同規模の27溝が掘削され、南側27m程の6・7ラインの中間(9系X=48728m)には上幅2m強程とやや規模の小さく、12°程反時計回りに傾く略東西方向に走行する25溝が在る。

一方、西接する関根赤城遺跡に在る4号溝は26溝より60mほど北側の、88・89区5ライン(9系X=48820m)に付近に、反時計回りに10°程傾く略東西走行を呈する溝である。上幅2mとその規模は25溝と同規模である。この4溝の南に沿って11号溝が掘削されているが、11号溝は上幅2.2mで、13°程反時計回りに傾いている。



第417図 関根細ヶ沢遺跡・関根赤城遺跡大型溝配置図

本遺跡に於いて25・26・27溝に対応する南北走行の溝は確認されていないが、関根赤城遺跡に於いては調査区東端近くの89区Kライン(9系Y=-69850m)に5号溝、西の90区Bライン(9系Y=-69905m)に14号溝が略南北方向に走行している。このうち5号溝は上幅1.3m程と小型の溝であるが、2°程反時計回りに傾いている。14号溝は南北に走行し、上幅は1.6m程を測る。また14号溝の東には15号溝が接して在るが、15号溝は上幅1.3m程で1°だけ反時計回りに傾いている。

これらの略東西・南北に走行する堀と呼べるような溝のうち、略東西走行の本遺跡の25溝と26・27溝は約30～35mの距離で掘削されていて、条里方眼には依拠していないと判断されるもの、関根赤城遺跡の南北、略南北走行の5号溝と14号溝の距離は50.5m程を測り、ほぼ半町程の距離である。また本遺跡の27溝と関根赤城遺跡の4号溝の走行ラインの位置は60m程の距離であり、半町に近い長さである。従って、これらの堀と呼べる規模の溝は必ずしも条里方眼上に掘削されたものではないものの、少なくともその方向に倣って掘削され、一部は条里方眼に乗って掘削された可能性も遺される。従ってこれらの溝群は、少なくとも条里方眼に依拠して区画を圍繞或いは分割する溝として掘削されたものと思慮される。

仮に区画を圍繞するものであるならば、その圍繞された区画は武士等の屋敷、或いは、本遺跡に於いて瓦の出土は見られなかったが、40住居から阿弥陀三尊の左脇侍の聖観音と類推される銅製観音菩薩小像が出土していることから、寺院であった可能性も考慮されるのである。

【参考文献】

【第1章】

首都圏整備委員会(1958)『首都圏整備 首都圏整備委員会報告 1 1956-1957』

首都圏整備委員会(1962)『首都圏整備』

首都圏整備委員会(1969)『首都圏整備委員会告示第1号』

首都圏整備委員会事務局監修(1969)『首都圏整備の長期展望』、165

【第3章】

〔第1節〕

群馬県地質図作成委員会(1995)『群馬県10万分の1地質図』

〔第2節〕

群馬県文化事業振興会(1977)『上野国郡村誌 1 勢多部(1)』

群馬県文化事業振興会(1981)『上野国郡村誌 6 群馬郡(3)』

勢多部南橋村役場(1955)『南橋村誌』

北橋村役場(1975)『北橋村誌』

萩原 進(1959)『群馬県史 明治時代』、高城書店出版部

前橋市(1973)『前橋市史 第2巻』、前橋市史編さん委員会編

前橋市(1975)『前橋市史 第3巻』、前橋市史編さん委員会編

山崎 一(1971)『群馬県古城址の研究 上巻』、群馬県文化事業振興会

【第6章】

石守 晃(2001)『復元住居を用いた竣工実験再び』『研究紀要』19、95-104、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

石守 晃(2006)『気候変動と型穴住居の増減について』『研究紀要』24、63-70、

カスリーン台風写真集刊行委員会(1997)『報道写真集 昭和22年関東大水没から50年 カスリーン台風』、pp.4・5・32～39・54・55・80、茨城新聞社・さいたま新聞社・上毛新聞社・下野新聞社・千葉日報社・共同通信社共同編集

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2002)『中内村前遺跡(1)』、320-321

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2012)『田口上田尻遺跡 下田尻遺跡』

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2014)『関根赤城遺跡』

板垣正信(2012)『第2節 第1項 古墳時代前期～平安時代の集落について』『田口上田尻遺跡 下田尻遺跡』、988-993、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

笹澤泰史(2007)『群馬県における古代製鉄遺跡の出現と展開』『研究紀要』25、61-80、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

高崎市教育委員会社会教育課文化財保護係(1979)『まごめ』『大八木水田遺跡』、52-54、高崎市教育委員会

前橋市川端町(1947頃)『(キャスト)台風写真アルバム』

峰岸純夫(1989)『中世の東国 地域と権力』、東京大学出版会

報告書抄録

書名ふりがな	せきねこまがさわいせき
書名	関根細ヶ沢遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	601
編著者名	関 晴彦・石守 晃
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20150313
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	せきねこまがさわいせき
遺跡名	関根細ヶ沢遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししせきねまち
遺跡所在地	群馬県前橋市関根町
市町村コード	10201
遺跡番号	前橋市 0903
北緯(世界測地系)	362612
東経(世界測地系)	1390320
調査期間	20120801-20130331
調査面積	9,303.03㎡
調査原因	道路建設
種別	生産/集落
主な時代	古墳時代/平安/中世
遺跡概要	集落-平安-竪穴住居149+竪穴13+溝36+製鉄炉3+鍛冶1+その他製鉄関連遺構1+墓坑1+土坑286+ピット37-土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土製品(含羽口)・石製品・鉄製品・製鉄炉壁・鉄滓/集落-古墳-土坑2/集落-中世以降-溝22+土坑132+ピット57+列石1/生産-古墳-溝7+水田2/生産-中世以降-サケ群8+耕具痕4/その他-河道4
特記事項	鉄生産も行われた9世紀末から11世紀前葉にかけての集落址。
要約	本遺跡は利根川左岸の沖積地上に立地し、6世紀の水田址、10世紀を中心とする9世紀末から11世紀初頭の集落、中世以降の耕具痕等が調査された。このうち平安時代の集落では生産や加工等製鉄関連の生業も行われていた。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第601集

関根細ヶ沢遺跡 ー第1分冊ー

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財調査(その3)報告書

平成27(2015)年3月3日 印刷

平成27(2015)年3月13日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社
